

HIROME  
弘人屋敷跡

新資料館整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2014.3

高 知 県

(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



# 弘人屋敷跡

新資料館整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014.3

高 知 県

(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



## 序

山内家資料の保存・継承とその意義を県民や全国に向けて発信することを目的に、高知県により新資料館整備事業が計画されました。事業開始にともない事前の弘人屋敷跡の発掘調査が行われました。弘人屋敷跡をふくむ周囲一帯は、山内家により城下町が整備される以前には人が住むには適さない環境にあったと考えられてきましたが、発掘調査により、この土地には1000年を超える歴史があったという事実が明らかとなりました。

弘人屋敷跡における人々の暮らしは平安時代に始まり、鎌倉時代・室町時代・戦国時代・江戸時代を経て、近代・現代にまで連綿と続いています。発見された遺構のなかで殊に大きな意義をもつのは室町時代に繰り返し掘られた区画溝です。区画溝は南北方向・東西方向に一直線に伸びていますが、これらは現在の道路と同じ方向を示しています。現在の街区は江戸時代の城下町にもとづいていますが、その起源は室町時代の区画にまでさかのぼるものと考えられます。

また、遺跡からは40,000点を超える遺物が出土しました。とりわけ江戸時代以降のものが多く、陶磁器・土器をはじめとする生活雑器や漆器・木製品などの出土資料が当時の暮らしぶりを伝えてくれます。明治時代以後には文字資料もあり、より具体的に往事の様子を窺うことができます。

弘人屋敷跡は記録保存というかたちで後世に伝えられますが、本書がひろく活用されることを願うとともに、新資料館が1000年の歴史の上に新たな歴史を積み重ね、私たちの郷土の歴史解明に大きな役割を果たしていくことを願ってやみません。

最後になりましたが発掘調査と報告書の刊行にご協力いただいた、高知県・高知県教育委員会・高知市教育委員会をはじめとする関係諸機関および関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成26年3月

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター  
所長 森田 尚宏



## 例言

1. 本書は、高知県高知市追手筋2丁目・帯屋町2丁目に位置する弘人屋敷跡に対して平成23年11月24日～平成24年3月9日、平成24年5月21日～平成25年1月31日の期間に実施した発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査および整理作業は高知県の委託を受け、公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 発掘調査・整理作業の体制は以下の通りである。

平成23年度

総括 財団法人高知県埋蔵文化財センター所長：森田尚宏

総務 同次長：嶋崎るり子，同総務課長：里見敦典

調査総括 同調査課長：廣田佳久

調査担当 同調査第3班調査員：宮里修・畠中宏文 測量補助員：松井喬行

平成24年度

総括 公益財団法人高知県埋蔵文化財センター所長：森田尚宏

総務 同次長：嶋崎るり子，同総務課長：里見敦典

調査総括 同調査課長：廣田佳久

調査担当 同調査第1班調査員：宮里修・畠中宏文 技術補助員：大原直美 測量補助員：松井喬行

事務補助員 奥宮千恵子

平成25年度

総括 公益財団法人高知県埋蔵文化財センター所長：森田尚宏

総務 同次長：宮田謙輔，同総務課長：野田美智子

調査総括 同調査課長：廣田佳久

調査担当 同調査第3班主任調査員：宮里修 調査補助員：松井喬行

事務補助員 奥宮千恵子

4. 整理作業には以下の諸氏が従事した。  
小倉真紀，加来安由美，門田美知子，黒石和加，高橋加奈，土居初子，橋本香織，藤原ゆみ，山中美代子
5. 本書の執筆・編集は宮里修が担当した。
6. 本書に掲載した写真は宮里修・畠中宏文が撮影した。
7. 調査にあたっては高知県，高知県教育委員会，高知市教育委員会の協力と指導・助言があった。また，地元住民の方々からは遺跡に対するご理解・ご援助をいただいた。
8. 近世陶磁器については浜田恵子氏，瓦については金子智氏，人骨については清家章氏，動物遺体については植月学氏，土壌については辻康男氏からご教示を賜った。
9. 発掘調査及び報告書作成において下記の方々からご協力を賜った。記して感謝申し上げたい(敬称略)。  
石岡ひとみ，岡崎千枝，岡本桂典，川添明美，久家朋子，曾我満子，永森亜紀，成田涼子，松田美香，  
横山めぐみ，吉本由佳，若江紗映，四国中世考古学談話会諸氏，高知県教育委員会文化財課，  
としま遺跡調査会，高知県埋蔵文化財センター諸氏
10. 放射性炭素年代測定・珪藻分析・花粉分析・人骨炭素・窒素同位体分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に，木製品保存処理を(公財)大阪市博物館協会大阪文化財研究所に，動物遺体の鑑定を山梨県立博物館・植月学氏に，人骨の鑑定を高知大学・清家章教授に委託し実施した。
11. 出土遺物には「11 - 6KY」「12 - 4KY」と注記し，高知県埋蔵文化財センターで保管している。

## 凡例

### 【構成】

1. 「調査の経緯・経過(第Ⅰ章)」「調査内容(第Ⅱ章)」「弘人屋敷跡の位置づけ(第Ⅲ章)」の順に発掘調査の内容を報告し、末尾に「参考・引用文献」を付した。
2. 委託により実施した自然科学分析等の結果は「付編」(4編)として本報告の後に掲載した。
3. 「遺物観察表」は本文の後に掲載した。
4. 「写真図版」は巻末に掲載した。

### 【記述】

1. 現地調査で設定した4m間隔のグリッドを位置表示の基準にした。グリッドは南北方向にアルファベット、東西方向に算用数字を割り当て、北西角の交差点をグリッド名(例:A1グリッド)とした。
2. 遺構が複数のグリッドにまたがる場合は「・」を挟んで前に南北グリッド(アルファベット)、後ろに東西グリッド(数字)を記載して位置を示した(例:AB・1~2グリッド, C~F・2グリッド)。
3. グリッドは現在の街区に沿う方向で設定しており、南北ラインが座標北より12°44'13"西に振れている。本書に図示した方位は世界測地系に基づく座標北(G.N.)であるが、文中ではグリッド軸を東西南北に見立てて大まかな方位を記した。
4. 文中では写真図版を「Pl.~」と指示した。
5. 文中の下付き「」数字は該当項目の掲載ページを示す。「観」数字は観察表の該当ページを示す。
6. 本文中で掲載遺物に言及する際は数字を太字で示すか、( )内に遺物番号を記した。

### 【遺構】

1. 遺構をSR(流路)、SD(溝)、SE(井戸)、SX(不詳大型土坑)、SK(土坑)、P(ピット)と区分した。埋葬遺構の遺構名はSKであるが別途項目を設けた。ピットにはグリッドごとの通し番号を付けた(例:A1-P1)。
2. 精査の対象外とした新しい時期の土坑はKGとしてグリッド別に通し番号を付けた(例:A1-KG1)。
3. 遺構平面図は原則として上を(グリッドの)北とした。異なる場合は方位を図示した。
4. 〈位置・調査経過〉には遺構が位置するグリッド、確認面、発見・調査の経緯、重複関係を記した。
5. 重複関係を示す「切る」「切られる」の用語は、新しい遺構が古い遺構を壊す場合は、新しい遺構が古い遺構を「切る」となり、古い遺構が新しい遺構に「切られる」となる。
6. 遺構の重複関係が複雑であるためピットとの重複関係は記述を省略した。必要な場合は適宜記した。
7. 〈形状・規模〉には遺構の平面形、掘方の形状、長さ・幅・深さ(cm)を記した。「掘方」は<sup>あな</sup>坑の形状を示す語で、「筒形」「箱形」「ボウル形」などと表現した。掘方の断面形態を指す場合は「台形」「<sup>ゆみなり</sup>弓形」などと表現した。「台形」は上に開く台形の意で使用した。底から立ちあがりにかけての箇所が丸味をもつ場合には「隅丸台形」とした。「弓形」は丸みのある底から屈折なく立ちあがる形態を指す。
8. 〈覆土〉には遺構に埋まった土の堆積状況を記した。覆土の色調はMunsell方式による『新版標準土色帖』に基づき記述した。可能な場合は大別層位を記した。
9. 〈出土遺物〉には遺構出土遺物の点数や器種別の内訳、掲載遺物の概要などを記した。個々の遺物の詳細は〈遺物観察表<sup>[297]</sup>〉に記した。
10. 〈時期〉には原則として遺構の廃絶時期を記した。また時期判断の根拠を併せて記した。
11. 遺構の時期を判定する際に用いる「混入」は、過去のある時点で掘り起こされた古い遺物がより新しい時期に再び埋まり、新しい時期の製品と一緒に発見された場合を指す。

12. 〈性格〉には推測される遺構の機能・用途を記した。

13. 遺構図に使用した線種や各種トーンの指示する内容は凡例図の通りである。また平面図上の溝(SD)とコンクリート基礎をグレーで示した。

14. 遺構図の縮尺は原則40分の1とし、各図面にスケールを示した。異なる場合は適宜記した。

### 【遺物】

1. 出土遺物は全体に通し番号を付した。包含層出土遺物には別途数字の前に「h」を付した。

2. 遺物は、素材や製法の違いから次のように分類した。[青磁] [クロム青磁] [白磁] [青花] [染付] [青磁染付] [磁器] [陶器] [緑釉陶器] [統制陶器] [陶胎染付] [炆器] [須恵器] [瓦器] [土器] [弥生土器] [黒色土器] [白色土器] [白塗土器] [施釉土器] [土製品] [瓦] [石製品] [石造物] [漆器] [木製品] [銭貨] [銅・真鍮製品] [鉛製品] [鉄器] [鉄滓] [鉄塊] [ガラス製品] [骨角器] [動物遺体]。

3. 出土遺物は縮尺を原則4分の1とし各図面にスケールを示した。異なる場合は $\frac{3}{4}$ ,  $\frac{1}{3}$ 等の数字のみを適宜記した。

4. 反転復原した図面には図の中心に▼を印した。

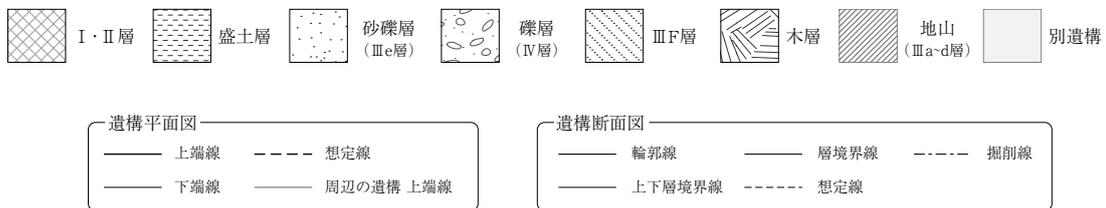
5. 須恵器は断面を黒塗りとし、瓦器は断面をグレーで塗りつぶした(凡例図)。

6. 施釉の範囲を片羽矢印で示した(凡例図)。

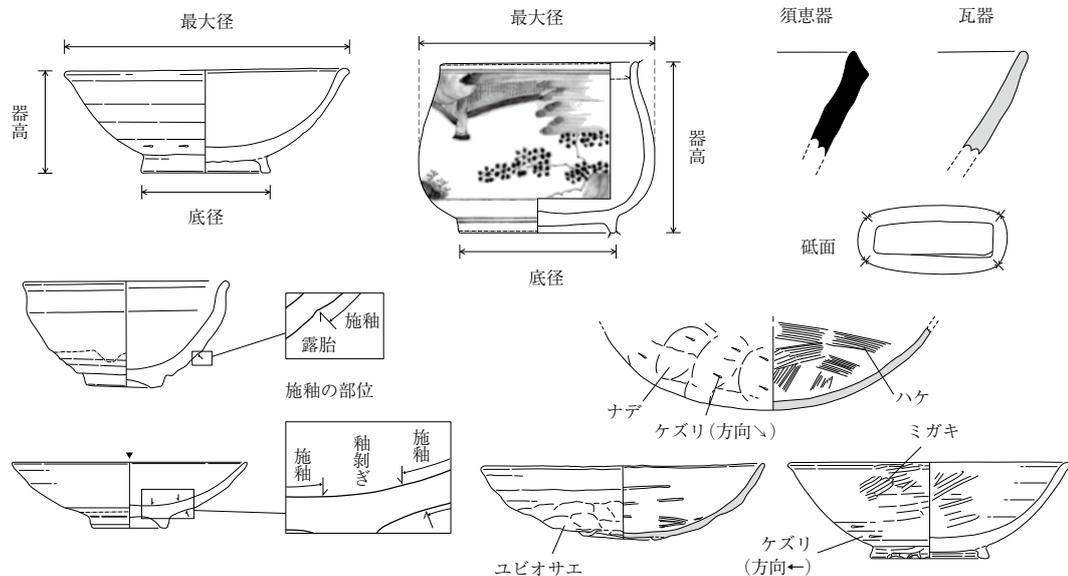
7. 土器・陶磁器の部位は「外〜」「内〜」と指示した。口縁の内面が「内口縁」、胴部の内面が「内胴」など。

## 凡例図

### 【遺構】



### 【遺物】



## 掲載遺構一覧

<u>〈水路・流路〉</u>	SE3	72	SK34	132	SK106	160	SK173	194	SK265	213	
SR1・2・3	24	SE4	73	SK37	132	SK108	160	SK175	196	SK266	213
SR4	30	SE5	75	SK39	134	SK114	161	SK178	199	SK268	213
<u>〈溝〉</u>		SE7	77	SK44	135	SK116	162	SK182	199	SK269	214
SD1	32	SE8	79	SK45	135	SK120	164	SK184	199	SK270	214
SD2	32	SE10	80	SK48	137	SK127	164	SK185	200	SK273	215
SD3	36	SE12	82	SK49	137	SK128	166	SK187	200	SK275	215
SD5	37	SE13	84	SK50	138	SK129	166	SK188	201	SK276	215
SD6	37	SE14	85	SK51	139	SK131	168	SK191	201	SK277	215
SD7	37	SE15	86	SK54	140	SK133	169	SK192	201	SK278	216
SD8	38	SE16	86	SK55	141	SK135	171	SK202	202	SK280	216
SD9	44	<u>〈不詳(大型)遺構〉</u>		SK56	142	SK136	172	SK206	202	SK281	216
SD10	45	SX1・2	88	SK58	142	SK137	172	SK210	202	SK283	217
SD11	45	SX3	96	SK59	144	SK138	172	SK212	203	SK285	217
SD12	45	SX4	108	SK63	146	SK139	173	SK217	203	SK286	218
SD13	46	SX5	108	SK64	147	SK140	175	SK221	204	SK287	219
SD14	49	SX6	111	SK65	147	SK141	175	SK232	205	SK288	220
SD15	50	SX8	112	SK66	148	SK142	177	SK235	205	SK289	222
SD16	50	SX9	113	SK69	148	SK143	178	SK240	205	<u>〈ピット〉</u>	
SD17	50	SX10	115	SK70	149	SK148	179	SK241	207	D10-P1	223
SD18	52	SX11	115	SK75	151	SK149	179	SK243	207	D10-P26	223
SD19	53	SX12	115	SK78	151	SK150	180	SK244	207	F3-P1	224
SD22	53	<u>〈土坑〉</u>		SK79	152	SK151	182	SK245	207	F3-P3	224
SD23	54	SK1	123	SK80	152	SK154	182	SK246	208	F4-P14	224
SD24	55	SK4	124	SK81	152	SK157	184	SK247	208	F4-P17	225
SD25	55	SK5	124	SK82	154	SK158	186	SK251	208	F5-P23	226
<u>〈埋葬遺構〉</u>		SK6	125	SK83	154	SK159	188	SK253	209	G5-P1	226
SK153	56	SK7	125	SK88	155	SK161	189	SK255	209	G6-P3	226
SK155	60	SK11	127	SK94	155	SK162	189	SK256	209	G10-P1	226
SK183	62	SK21	127	SK95	156	SK165	190	SK257	210	H8-P10	227
SK234	63	SK23	128	SK96	156	SK166	191	SK258	210	H8-P16	227
SK237	64	SK25	129	SK98	156	SK167	192	SK259	211	I6-P9	227
SK282	67	SK28	129	SK100	157	SK168	192	SK260	212	I9-P4	227
<u>〈井戸〉</u>		SK30	130	SK101	159	SK169	192	SK262	212	I10-P7	228
SE1	70	SK31	130	SK102	159	SK171	193	SK263	212	K9-P1	228
SE2	71	SK32	132	SK105	159	SK172	194	SK264	213	L10-P1	228

# 本文目次

第 I 章 調査の経緯・経過	1
第 1 節 遺跡の概要	1
第 2 節 調査の経緯と経過	3
(1)平成23年度の調査	3
(2)平成24年度の調査	7
(3)自然科学分析他	8
第 II 章 調査内容	9
第 1 節 土層の堆積と包含遺物	9
(1)遺跡における土層の堆積	9
(2)遺跡の微地形	11
(3)包含層出土遺物	12
第 2 節 検出遺構と遺物	24
(1)SR〈水路・流路〉	24
(2)SD〈区画溝および溝〉	31
(3)埋葬遺構	56
(4)SE〈井戸〉	69
(5)SX〈不詳(大型)遺構〉	88
(6)SK〈土坑〉	118
(7)Pit〈柱穴等〉	223
第 3 節 出土遺物の概要	235
(1)概要	235
(2)各遺物の内容	235
①青磁 235 ②白磁 236 ③青花 236 ④染付 236 ⑤陶器 237 ⑥陶胎染付 238 ⑦須恵器 239 ⑧緑釉陶器 239	
⑨黒色土器 240 ⑩瓦器 240 ⑪炆器 241 ⑫煮炊具 241 ⑬播鉢 243 ⑭弥生土器 244 ⑮土器壘・坏・坏皿 245	
⑯輪羽口 247 ⑰銭貨 247 ⑱近世土佐の焼物・土器 247 ⑲瓦 248 ⑳戦争遺物 249 ㉑文字資料 249	
第 III 章 弘人屋敷跡の位置づけ	251
第 1 節 遺構の変遷	251
第 2 節 土佐史のなかの弘人屋敷跡	256
参考・引用文献	258
付編 1 弘人屋敷跡の自然科学分析	259
付編 2 弘人屋敷跡出土動物遺体について	275
付編 3 弘人屋敷跡出土人骨について	291
付編 4 弘人屋敷跡出土骨の自然科学分析	293
遺物観察表	297
写真図版	345

(表紙カットはSK153出土の備前大甕。帯状の布による補修があり、埋葬棺に用いられた。)

## 挿図目次

第1図 弘人屋敷跡の位置..... 1	第29図 SD17出土遺物..... 51
第2図 遺構配置図..... 2	第30図 SD18出土遺物..... 52
第3図 弘人屋敷跡と周辺の遺跡..... 4	第31図 SD22・SD23・SD25出土遺物..... 54
第4図 調査区位置図..... 5	第32図 SK153・SE3平面図・断面図, SK183平面図..... 57
第5図 グリッド配置図..... 6	第33図 SK153人骨出土状況..... 58
第6図 基本層序(調査区東壁)..... 10	第34図 SK153出土遺物..... 59
第7図 基本層序(調査区西壁)..... 11	第35図 SK155平面図・断面図..... 60
第8図 包含層出土遺物..... 18	第36図 SK155出土遺物..... 61
第9図 包含層出土遺物..... 19	第37図 SK183平面図・断面図..... 62
第10図 包含層出土遺物..... 20	第38図 SK234平面図・断面図..... 63
第11図 包含層出土遺物..... 21	第39図 SK234・SK237・SK282出土遺物..... 64
第12図 包含層出土遺物..... 22	第40図 SK237平面図・断面図..... 65
第13図 包含層出土遺物..... 23	第41図 SK234・SK264・SK269・SK282平面図・断面図, SK166・SK237平面図..... 66
第14図 SR1・2・3平面図・断面図..... 26	第42図 SK282平面図・断面図..... 68
第15図 SR1・2・3出土遺物..... 27	第43図 SE1平面図・断面図・出土遺物..... 70
第16図 SR1・2・3出土遺物..... 28	第44図 SE2・SK131・SK221平面図・断面図, SE2・SK131出土遺物..... 71
第17図 SD1出土遺物..... 32	第45図 SE3出土遺物..... 72
第18図 SD1・SD2・SD3・SD6・SD7・SD8・SD9・SD12・SD13平面図..... 33	第46図 SE4平面図・断面図, SE10平面図..... 73
第19図 SD1・SD2・SD3・SD6・SD7・SD8・SD9・SD12・SD13覆土断面図..... 34	第47図 SE4出土遺物..... 74
第20図 SD2出土遺物..... 35	第48図 SE5・SE14・SK154平面図・断面図, SE14出土遺物..... 76
第21図 SD3出土遺物..... 36	第49図 SE5出土遺物..... 77
第22図 SR4・SD6・SD7・SD8・SD9・SD14・SD15・SD16・SD17・SD18・SD19・SD22・SD23・SD24・SD25平面図..... 40	第50図 SE7・SE8平面図・断面図..... 78
第23図 SD17(上)・SD8・SD9(中)・SD22・SD23・SD24・SD25(下)平面図..... 41	第51図 SE7・SE8出土遺物..... 79
第24図 SR4・SD6・SD7・SD8・SD9・SD14・SD15・SD16・SD17・SD18・SD22・SD23・SD24・SD25断面図, SR4・SD7出土遺物..... 42	第52図 SE10断面図..... 80
第25図 SD8・SD9出土遺物..... 43	第53図 SE10出土遺物..... 81
第26図 SD10出土遺物..... 45	第54図 SE12・SE13・SK49・SK50平面図・断面図..... 83
第27図 SD12・SD13出土遺物..... 47	第55図 SE12・SE13出土遺物..... 85
第28図 SD14出土遺物..... 49	第56図 SE16平面図・断面模式図・出土遺物, SE15出土遺物..... 87

第57 図	SX1·SX2·SK11 平面図・断面図.....	89	第89 図	SK30·SK31·SK32 平面図・断面図・出土遺物.....	131
第58 図	SX1·SX2 出土遺物(青磁・白磁・青花・染付・磁器).....	90	第90 図	SK34·SK39 平面図・断面図・出土遺物.....	133
第59 図	SX1·SX2 出土遺物(陶器).....	91	第91 図	SK37·SK94 平面図・断面図・出土遺物.....	134
第60 図	SX1·SX2 出土遺物(炆器・須恵器).....	92	第92 図	SK44 平面図・断面図・出土遺物.....	135
第61 図	SX1·SX2 出土遺物(土器・瓦).....	93	第93 図	SK45 平面図・断面図・出土遺物.....	136
第62 図	SX1·SX2 出土遺物(漆器・木製品).....	94	第94 図	SK48 平面図・断面図・出土遺物.....	137
第63 図	SX1·SX2 出土遺物(木製品).....	95	第95 図	SK49·SK50 出土遺物.....	138
第64 図	SX3 平面図・断面図.....	97	第96 図	SK51 平面図・断面図・出土遺物.....	139
第65 図	SX3 出土遺物(青磁・白磁・染付).....	99	第97 図	SK54·SK96 平面図・断面図, SK54 出土遺物.....	140
第66 図	SX3 出土遺物(染付・陶胎染付・陶器).....	100	第98 図	SK55 平面図・断面図.....	141
第67 図	SX3 出土遺物(陶器).....	101	第99 図	SK56 平面図・断面図.....	142
第68 図	SX3 出土遺物(炆器).....	102	第100 図	SK58·SK63·SK64·SK65·SK120 平面図・断面図.....	143
第69 図	SX3 出土遺物(瓦器).....	103	第101 図	SK58 出土遺物.....	144
第70 図	SX3 出土遺物(土器).....	104	第102 図	SK59·SK66·SD13 平面図・断面図, SK59 出土遺物.....	145
第71 図	SX3 出土遺物(瓦).....	105	第103 図	SK63 出土遺物.....	146
第72 図	SX3 出土遺物(漆器・木製品).....	106	第104 図	SK64 出土遺物.....	147
第73 図	SX3 出土遺物(木製品・銅銭).....	107	第105 図	SK65·SK66·SK69 出土遺物.....	147
第74 図	SX4·SX5·SD10·SD11·SK78 平面図・断面図.....	109	第106 図	SK69·SD5 平面図・断面図.....	149
第75 図	SX4·SX5 出土遺物.....	110	第107 図	SK70·SK108 平面図・断面図, SK70 出土遺物.....	150
第76 図	SX6·SX9 平面図・断面図.....	111	第108 図	SK75·SK88 平面図・断面図, SK75 出土遺物.....	151
第77 図	SX6·SX8 出土遺物.....	112	第109 図	SK78 出土遺物.....	152
第78 図	SX8·SK243 平面図・断面図, SK243 出土遺物.....	113	第110 図	SK79·SK81·SK101 平面図・断面図・出土遺物, SK83 平面図, SK80 平面図・断面図.....	153
第79 図	SX9·SX12 出土遺物.....	114	第111 図	SK82 平面図・断面図・出土遺物.....	154
第80 図	SX10·SX12·SK138 平面図・断面図.....	116	第112 図	SK83 出土遺物.....	155
第81 図	SX11·SK178 平面図・断面図.....	117	第113 図	SK88 出土遺物.....	155
第82 図	SK1·SK7 平面図・断面図.....	124	第114 図	SK98 平面図・断面図・出土遺物.....	157
第83 図	SK4·SK5·SK6 平面図・断面図.....	125			
第84 図	SK1·SK4·SK5·SK6·SK7 出土遺物.....	125			
第85 図	SK11·SK21·SK23·SK25 出土遺物.....	126			
第86 図	SK21·SK22 平面図・断面図.....	127			
第87 図	SK23·SK25·SK27·SK28·SK95 平面図・断面図.....	128			
第88 図	SK28 出土遺物.....	130			

第 115 图	SK100 出土遺物.....	157	第 139 图	SK157·SK165·SK167·SK253 平面図· 断面図, SK165·SK167 出土遺物.....	185
第 116 图	SK100·SK102·SK105·SK106 平面図· 断面図.....	158	第 140 图	SK158·SK162 平面図·断面図.....	186
第 117 图	SK102 出土遺物.....	159	第 141 图	SK159·SK202·SK286 平面図·断面図, SK202 出土遺物.....	187
第 118 图	SK105·SK106 出土遺物.....	160	第 142 图	SK159 出土遺物.....	188
第 119 图	SK108 出土遺物.....	161	第 143 图	SK161 平面図·断面図.....	189
第 120 图	SK114 平面図·断面図·出土遺物 .....	162	第 144 图	SK162 出土遺物.....	190
第 121 图	SK116·SK139 平面図·断面図, SK116 出土遺物.....	163	第 145 图	SK166 平面図·断面図.....	191
第 122 图	SK120 出土遺物.....	164	第 146 图	SK168·SK169·SK251·SK273·SK277· SK280 平面図·断面図, SK168 出土遺物 .....	193
第 123 图	SK127·SK151 平面図·断面図, SK127 出土遺物.....	165	第 147 图	SK171·SK173·SK175 平面図·断面図 .....	195
第 124 图	SK128 出土遺物.....	166	第 148 图	SK171·SK172·SK173 出土遺物.....	196
第 125 图	SK128·SK184·SK187·SK210·SK246 平 面図·断面図, D10-P26 平面図, SK187 出土遺物.....	167	第 149 图	SK172·SK247·SK281 平面図·断面図, SK276 平面図.....	197
第 126 图	SK129·SK289 平面図·断面図.....	168	第 150 图	SK175 出土遺物.....	198
第 127 图	SK129 出土遺物.....	169	第 151 图	SK185·SK188 平面図·断面図.....	200
第 128 图	SK133·SK135·SK136·SK137·SK182 平面図·断面図, SK155 平面図, SK133·SK182 出土遺物.....	170	第 152 图	SK206·SK217·SK235·SK283 平面図· 断面図, SK217·SK235 出土遺物.....	203
第 129 图	SK135·SK136·SK137·SK138 出土遺物 .....	171	第 153 图	SK212·SK244·SK245·SK275 平面図· 断面図.....	204
第 130 图	SK139 出土遺物.....	174	第 154 图	SK240·SK241·SK265·SK266·SK268· SK270 平面図·断面図, SK240 出土遺物 206	
第 131 图	SK139 出土遺物.....	175	第 155 图	SK255·SK259·SK260·SK262·SK263 平 面図·断面図.....	210
第 132 图	SK140·SK142·SK143·SK191·SK192· SK232 平面図·断面図, SK140·SK191· SK192 出土遺物.....	176	第 156 图	SK256·SK257·SK285 平面図·断面図, SK257 出土遺物.....	211
第 133 图	SK141·SK148·SK258·SK278·SK288 平 面図·断面図, SK258 出土遺物.....	177	第 157 图	SK268 出土遺物.....	214
第 134 图	SK141·SK142·SK143·SK148 出土遺物 .....	178	第 158 图	SK285 出土遺物.....	218
第 135 图	SK149·SK150 平面図·断面図.....	180	第 159 图	SK286 出土遺物.....	219
第 136 图	SK149·SK150·SK151 出土遺物.....	181	第 160 图	SK287 平面図·断面図, 出土遺物.....	220
第 137 图	SK154 出土遺物.....	183	第 161 图	SK288 出土遺物.....	221
第 138 图	SK157·SK158 出土遺物.....	184	第 162 图	SK289 出土遺物.....	222
			第 163 图	D10-P26 平面図·断面図.....	223

第164図	F4-P14平面図・断面図	225	第169図	ピット配置図(東区域)	234
第165図	ピット出土遺物	229	第170図	刻印・銘一覧	250
第166図	ピット配置図(北西区域)	231	第171図	追手筋面と周辺の地形	251
第167図	ピット配置図(北東区域)	232	第172図	遺構変遷模式図	252
第168図	ピット配置図(西区域)	233	付図	弘人屋敷跡遺構配置図	巻末封筒

## 表目次

第1表	包含層出土遺物観察表	13
第2表	水路・流路遺構(SR)一覧	24
第3表	溝(SD)一覧	31
第4表	埋葬遺構一覧	56
第5表	井戸(SE)一覧	69
第6表	不詳(大型)遺構(SX)一覧	88
第7表	土坑(SK)一覧	118
	遺物観察表	297

## 写真図版目次

写真図版1	遺跡遠景	347	写真図版18	SD3・SD5・SD6・SD7	364
写真図版2	作業風景	348	写真図版19	SD6・SD7・SD8・SD9	365
写真図版3	A区・B区・C区全景	349	写真図版20	SD8・SD9・SD23	366
写真図版4	C区・D区全景	350	写真図版21	SD8・SD9	367
写真図版5	E区全景	351	写真図版22	SD10・SD11・SD12, SK83	368
写真図版6	F区全景	352	写真図版23	SD12・SD13	369
写真図版7	F区北東部遠景	353	写真図版24	SD13・SD14	370
写真図版8	基本層序(調査区東壁)	354	写真図版25	SD14・SD15・SD16・SD17・SD18	371
写真図版9	基本層序(調査区東壁)	355			
写真図版10	基本層序(調査区東壁)	356	写真図版26	SD17	372
写真図版11	基本層序(調査区西壁)	357	写真図版27	SD18・SD19・SD22	373
写真図版12	SR1・2・3	358	写真図版28	SD23	374
写真図版13	SR1・2・3	359	写真図版29	SD8・SD23・SD24・SD25, SX8	375
写真図版14	SR1・2・3	360	写真図版30	SK153	376
写真図版15	SR1・2・3	361	写真図版31	SK153	377
写真図版16	SR4, SD1	362	写真図版32	SK153	378
写真図版17	SD2	363	写真図版33	SK153	379

写真図版 34	SK155.....	380	写真図版 69	SK139·SK140·SK141·SK142.....	415
写真図版 35	SK155.....	381	写真図版 70	SK143·SK148·SK149·SK150· SK160.....	416
写真図版 36	SK183.....	382	写真図版 71	SK151·SK154·SK157·SK158.....	417
写真図版 37	SK234.....	383	写真図版 72	SK159·SK161·SK162·SK165.....	418
写真図版 38	SK237.....	384	写真図版 73	SK166·SK167.....	419
写真図版 39	SK282.....	385	写真図版 74	SK168·SK169·SK171·SK172·SK173 .....	420
写真図版 40	SK282.....	386	写真図版 75	SK175·SK178.....	421
写真図版 41	SE1·SE2·SE3.....	387	写真図版 76	SK182·SK184·SK185·SK187.....	422
写真図版 42	SE4·SE10·SE15, SX9.....	388	写真図版 77	SK188·SK191·SK192·SK202.....	423
写真図版 43	SE5·SE6·SE7·SE8.....	389	写真図版 78	SK206·SK210·SK212·SK217.....	424
写真図版 44	SE10.....	390	写真図版 79	SK221·SK232·SK235·SK240.....	425
写真図版 45	SE12·SE13·SE14·SE15·SE16.....	391	写真図版 80	SK241·SK243·SK244·SK245.....	426
写真図版 46	SX1·2.....	392	写真図版 81	SK246·SK247·SK251·SK253.....	427
写真図版 47	SX1·2.....	393	写真図版 82	SK255·SK256·SK257·SK258.....	428
写真図版 48	SX3.....	394	写真図版 83	SK259·SK260·SK262·SK263.....	429
写真図版 49	SX4·SX5.....	395	写真図版 84	SK264·SK265·SK266·SK268.....	430
写真図版 50	SX4·SX5·SX6·SX8·SX9.....	396	写真図版 85	SK269·SK270·SK273·SK275.....	431
写真図版 51	SX10·SX11·SX12.....	397	写真図版 86	SK276·SK277·SK278·SK280.....	432
写真図版 52	SK1·SK4·SK5·SK6·SK7·SK11 .....	398	写真図版 87	SK281·SK283·SK285·SK286.....	433
写真図版 53	SK11·SK21·SK23·SK25·SK27 .....	399	写真図版 88	SK287·SK288·SK289, D10-P26 .....	434
写真図版 54	SK28·SK30·SK31.....	400	写真図版 89	F4-P14.....	435
写真図版 55	SK32·SK34·SK37·SK39.....	401	写真図版 90	ピット.....	436
写真図版 56	SK44·SK45·SK48·SK49.....	402	写真図版 91	遺物:1~33.....	437
写真図版 57	SK50·SK51·SK54·SK55.....	403	写真図版 92	遺物:34~53.....	438
写真図版 58	SK56·SK58·SK59.....	404	写真図版 93	遺物:54~78.....	439
写真図版 59	SK63·SK64·SK65.....	405	写真図版 94	遺物:79~103.....	440
写真図版 60	SK66·SK69·SK70.....	406	写真図版 95	遺物:104~125.....	441
写真図版 61	SK75·SK78·SK79·SK80.....	407	写真図版 96	遺物:126~149.....	442
写真図版 62	SK81·SK82·SK88·SK94.....	408	写真図版 97	遺物:150~173.....	443
写真図版 63	SK95·SK96·SK98·SK100.....	409	写真図版 98	遺物:174~191.....	444
写真図版 64	SK101·SK102·SK105·SK106.....	410	写真図版 99	遺物:192~210.....	445
写真図版 65	SK108·SK114.....	411	写真図版 100	遺物:211~234.....	446
写真図版 66	SK116·SK120·SK127·SK128.....	412	写真図版 101	遺物:235~248.....	447
写真図版 67	SK129·SK131·SK133.....	413	写真図版 102	遺物:249~261.....	448
写真図版 68	SK135·SK136·SK137·SK138.....	414			

写真図版 103	遺物:262～279.....	449	写真図版 135	遺物:830～861.....	481
写真図版 104	遺物:280～300.....	450	写真図版 136	遺物:862～887.....	482
写真図版 105	遺物:301～315.....	451	写真図版 137	遺物:888～919.....	483
写真図版 106	遺物:316～341.....	452	写真図版 138	遺物:920～943.....	484
写真図版 107	遺物:342～366.....	453	写真図版 139	遺物:944～971.....	485
写真図版 108	遺物:367～387.....	454	写真図版 140	遺物:972～999.....	486
写真図版 109	遺物:388～413.....	455	写真図版 141	遺物:1000～1030.....	487
写真図版 110	遺物:414～441.....	456	写真図版 142	遺物:1031～1060.....	488
写真図版 111	遺物:442～462.....	457	写真図版 143	遺物:1061～1083.....	489
写真図版 112	遺物:463～479.....	458	写真図版 144	遺物:1084～1102.....	490
写真図版 113	遺物:480～493.....	459	写真図版 145	遺物:1103～1124.....	491
写真図版 114	遺物:494～508.....	460	写真図版 146	遺物:1125～1146.....	492
写真図版 115	遺物:509～522.....	461	写真図版 147	遺物:1147～1174.....	493
写真図版 116	遺物:523～541.....	462	写真図版 148	遺物:1175～1198.....	494
写真図版 117	遺物:542～550.....	463	写真図版 149	遺物:1199～1223.....	495
写真図版 118	遺物:551～563.....	464	写真図版 150	遺物:1224～1248.....	496
写真図版 119	遺物:564～578.....	465	写真図版 151	遺物:1249～1270.....	497
写真図版 120	遺物:579～596.....	466	写真図版 152	遺物:1271～1293.....	498
写真図版 121	遺物:597～616.....	467	写真図版 153	遺物:1294～1323.....	499
写真図版 122	遺物:617～629.....	468	写真図版 154	遺物:1324～1341.....	500
写真図版 123	遺物:630～643.....	469	写真図版 155	遺物:1342～1359.....	501
写真図版 124	遺物:644～651.....	470	写真図版 156	遺物:1360～1369.....	502
写真図版 125	遺物:652～663.....	471	写真図版 157	遺物:1370～1388.....	503
写真図版 126	遺物:664～672.....	472	写真図版 158	遺物:1389～1410.....	504
写真図版 127	遺物:673～690.....	473	写真図版 159	遺物:h1～h25.....	505
写真図版 128	遺物:691～705.....	474	写真図版 160	遺物:h26～h49.....	506
写真図版 129	遺物:706～712.....	475	写真図版 161	遺物:h50～h75.....	507
写真図版 130	遺物:713～728.....	476	写真図版 162	遺物:h76～h89.....	508
写真図版 131	遺物:729～757.....	477	写真図版 163	遺物:h90～h103.....	509
写真図版 132	遺物:758～788.....	478	写真図版 164	遺物:h104～h124.....	510
写真図版 133	遺物:789～809.....	479	写真図版 165	遺物:h125～h140.....	511
写真図版 134	遺物:810～829.....	480			



# 第 I 章 調査の経緯・経過

## 第 1 節 遺跡の概要

弘人屋敷跡は高知県高知市追手筋 2 丁目 24 番地・帯屋町 2 丁目 124・126 番地に所在する。高知県が計画する新資料館整備事業の事前調査として発掘調査が実施された。遺跡名の由来である土佐藩家老・深尾弘人<sup>ひろめしげあき</sup>蕃頭<sup>ばんとう</sup>の屋敷は同じ区画の東半分を占めたもので、当遺跡は同区画内の弘人屋敷に隣接した区域となる。将来的には遺跡名が変更される可能性もある。調査面積は敷地 3,983 m<sup>2</sup>に対する 2,910 m<sup>2</sup>であるが、箇所により複数の遺構構築面があったため延べ調査面積は 7,833 m<sup>2</sup>となった。

発掘調査によって明らかとなったのは、「遺跡地に古代から現代に至るまでの 1000 年を超える歴史があった」という新しい事実である。これは、近世城下町が整備される以前には周囲一帯が人の住める環境になかったという通念を大きく変える成果であった。

発見された遺構には水路・流路、区画溝、墓、井戸、大小の土坑、ピットなど 1,342 基がある。遺跡は大高坂山から東に延びる突堤状の地形の南縁辺に位置し往事には河川の強い影響を受けた。平安時代になると徐々に水勢が弱まって土地の土壌化が進み、遺跡地が居住適地が変わっていった。土地が安定してくると本格的な人間活動が始まり、土地を溝で区画し利用するようになる。瓦の存在は平安時代に寺院が存在した可能性を示唆する。13～14 世紀の人間活動はやや低調であるが、15 世紀に入ると俄に活発<sup>にわか</sup>となり、掘削と廃絶を繰り返す区画溝が土地利用の目まぐるしい変化をよく伝えてくれる。15 世紀以降の区画溝は追手筋などの道筋と方向が同じであり、現在の土地区画の起源が 15 世紀代に遡ることを強く示唆する。この頃には墓地や水路も営まれたが、花粉分析が松林の卓越を示したように周辺環境は盛んに開発されていた。その後、16 世紀末には遺跡地の全体が洪水に見舞われ、人間活動が一旦途絶える。

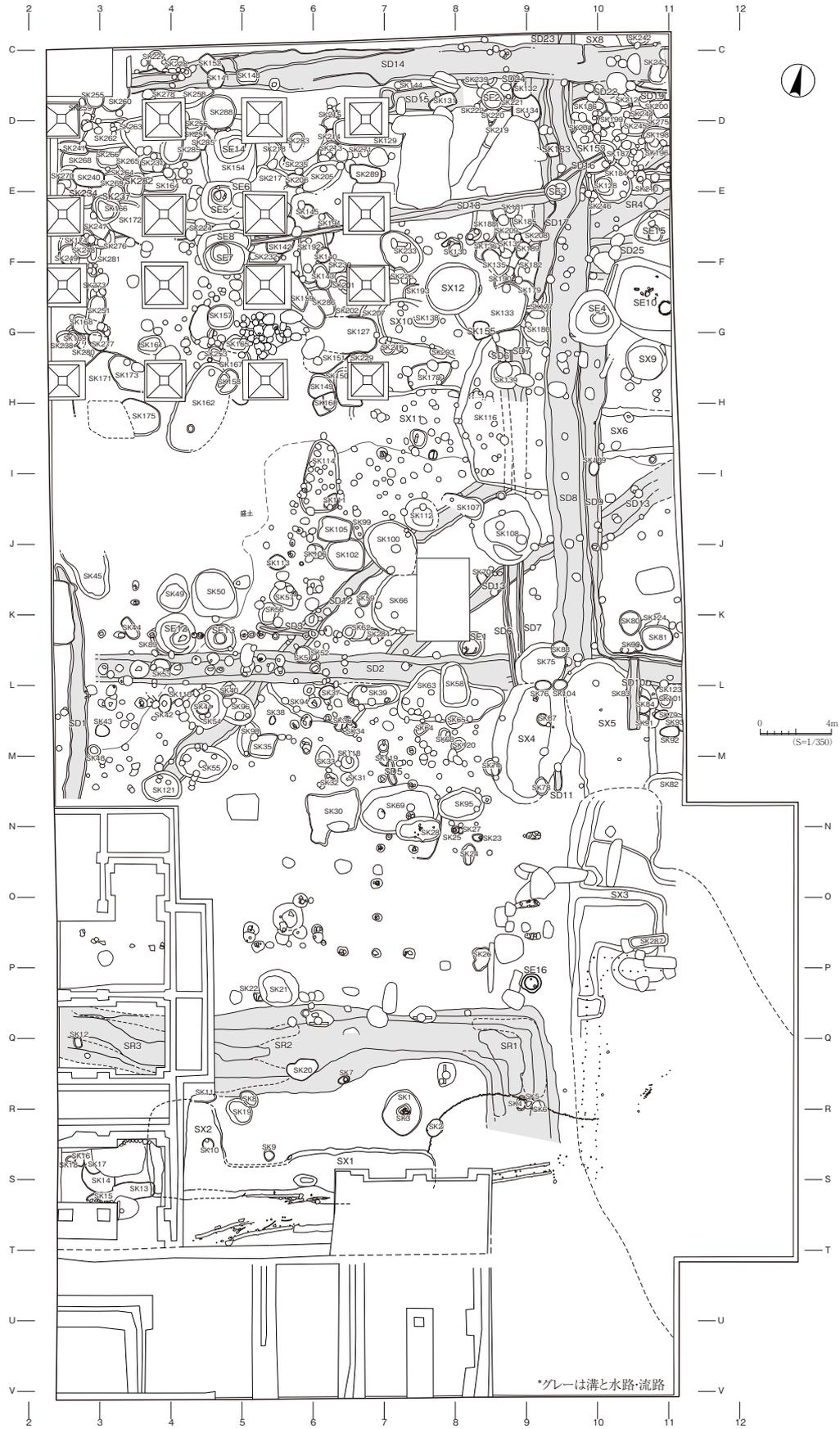
近世に入ると盛土で整地をおこない屋敷地を造営する。遺構には溝・井戸・集水槽や大小の土坑、粗朶による整地遺構や廃棄坑などがあるが、近世層は近代以降の造成で大きく削平されたため、建物配置などが復元できず、屋敷の構成は明らかでない。出土遺物には陶磁器や土器・瓦器等の生活雑器をはじめ、様々な漆器や木製品があり江戸時代の暮らしぶりを窺わせる。

近代以降は出土文字資料から多くを知ることができる。創建当初の高知大神宮にまつわる遺構もあり、大量の生活道具とともに「明治十五年十月」「神風講社」などの墨書がある木札が出土した。

20 世紀の資料は空襲の痕跡や生活用具の管理生産、国威発揚の雰囲気など戦中の様子をよく伝えてくれる。



第 1 図 弘人屋敷跡の位置



第2図 遺構配置図

## 第2節 調査の経緯と経過

周知の埋蔵文化財包蔵地であった弘人屋敷跡のうち、高知県高知市追手筋2丁目24番地および帯屋町2丁目124・126番地にあたる区域が、高知県が計画する新資料館整備事業の対象地となった。これを受け、県教育委員会文化財課が試掘調査を実施し遺跡の遺存状況を確認した。試掘調査は平成23年3月8～10日の期間に実施された。調査対象範囲の北西部分にあたる高知財務事務所敷地内の2箇所<sup>[61]</sup>に3×3mの試掘坑が設置された(第5図<sup>[61]</sup>)。試掘坑では近現代層の下部に2つの遺構面が確認された。上層は19世紀代の遺物を含み、下層からは16世紀末～17世紀初の遺物が出土した。他に須恵器の破片等も収拾された。限られた面積の試掘調査ではあったが、遺構・遺物の良好な遺存が確認された。遺跡が工事の影響を受けることは必至であるため、遺跡の内容を記録保存し地域の歴史の復原に役立てるための調査が計画された。平成23年9月30日、高知県と財団法人高知県文化財団の間で契約が交わされ、平成23年10月1日～平成26年3月31日の期間に高知県埋蔵文化財センターが「新資料館整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査委託業務」を実施することになった。

現地調査は平成23年度(平成23年11月24日～平成24年3月9日)・平成24年度(平成24年5月21日～平成25年1月31日)の2年次にわたり実施した。整理作業は現地調査と併行しておこない、平成25年度は発掘調査報告書の作成期間にあてた。

発掘調査の対象となったのは敷地面積3,983㎡のうちの2,910㎡である。箇所により複数の遺構面が確認されたため、調査を実施した延べ面積は7,833㎡となった。

以下、平成23年度・24年度に実施された現地調査の内容について報告する。

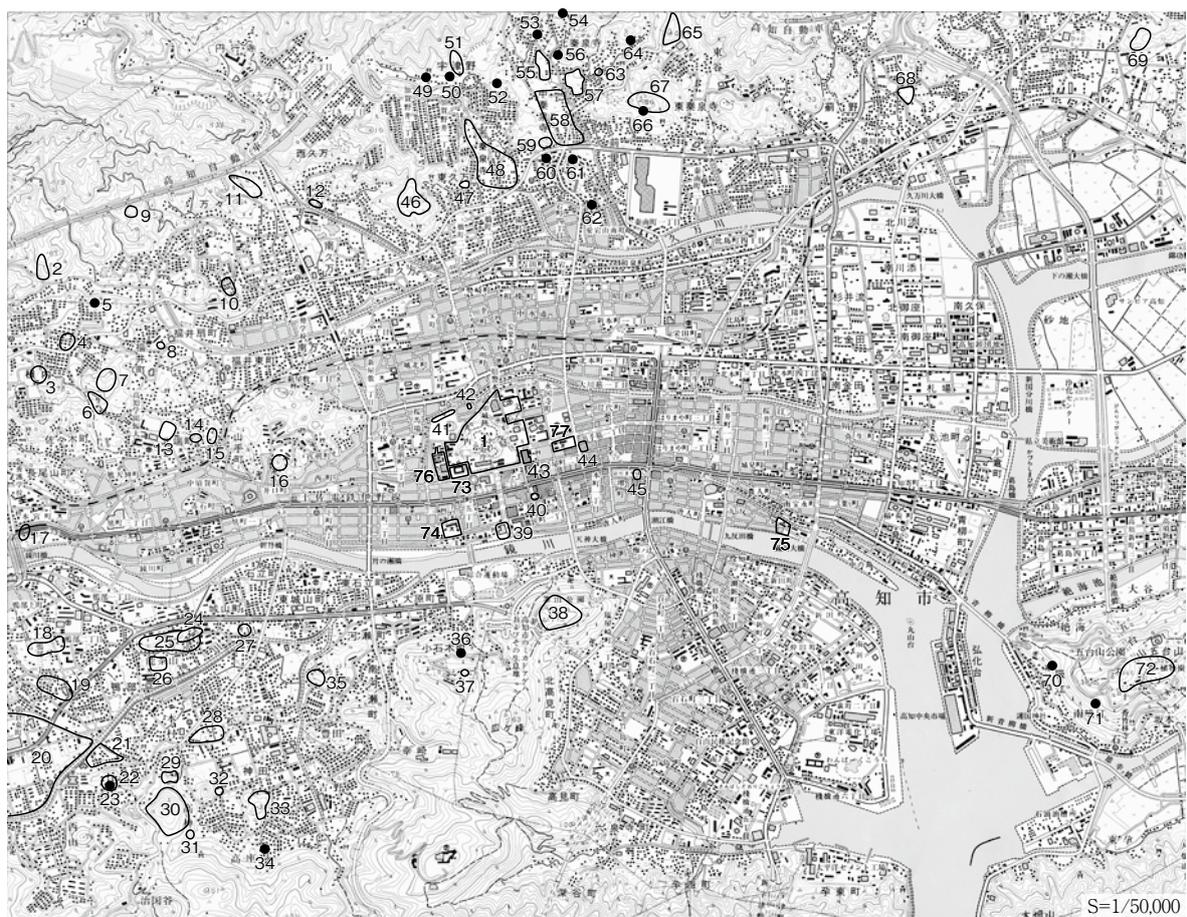
### (1)平成23年度の調査

平成23年度の調査は平成23年11月24日～平成24年3月9日の期間に実施した。調査面積は1,138㎡、調査延べ面積2,517㎡である。

測量は『史跡高知城丸ノ内緑地』<sup>[62]</sup>(高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第96集、2006年)の基準点No.3・No.3-1をもとに調査区内に設定した、4箇所の4級基準点(世界測地系)により行った。調査区の全体には街区の方向に沿った4m単位のグリッドを設定した。グリッドラインには南北方向にアルファベット(A,B,C,...)、東西方向に算用数字(1,2,3,...)を付し、北西角の交差点をグリッド名称とした(例:A1グリッド)。

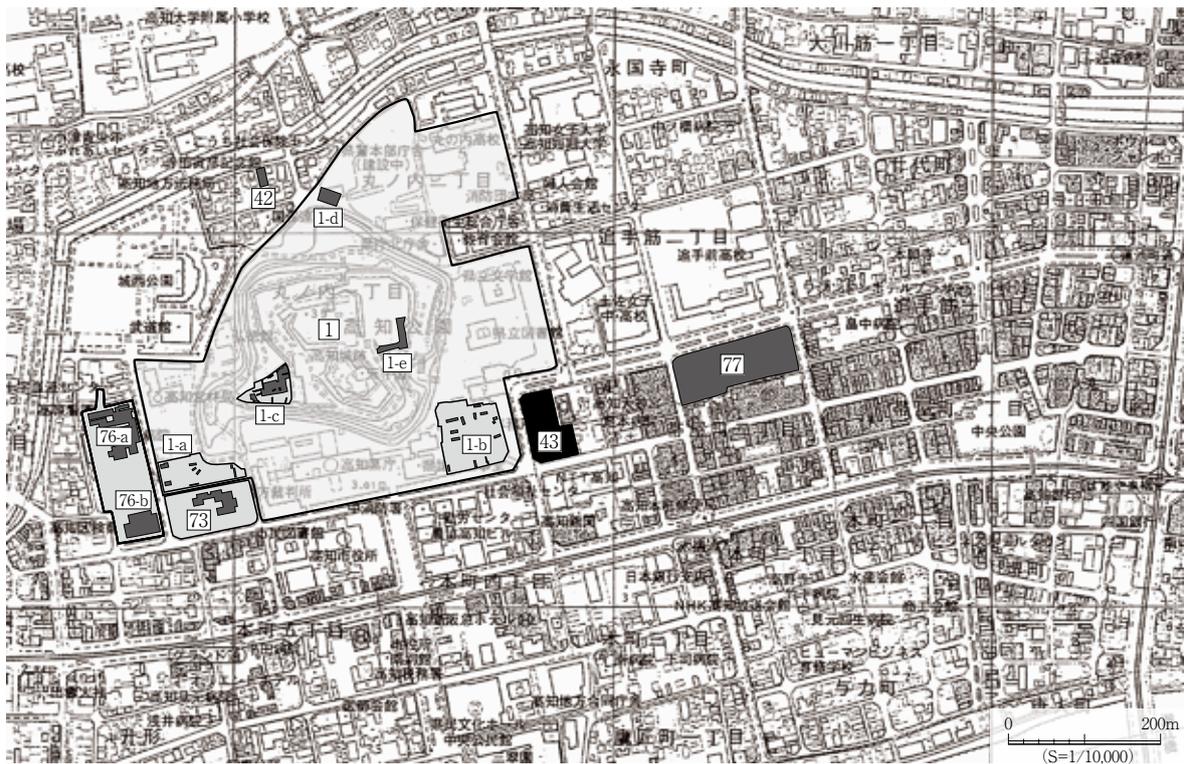
平成23年度は、新資料館用地取得の関係上、まず南側区域を調査の対象とした。発掘調査に先立って調査区を取り囲むフェンスが設置されたが、その支えとして打ち込まれた単管により当初予定していた東縁部分の掘削が困難となり、また新資料館の設計変更とも相俟って、東側部分を縮小、南側部分を拡張した調査区を改めて設定した。また、アスファルトおよび砕石を除去する過程でコンクリート基礎が相当量遺存することが分かり、排土処理の問題から広い範囲を同時に開放しての発掘調査は困難であると判断したため、調査区を4つに区分し逐次調査を進めることにした。带状の4つの調査区は、東縁に南北に長いA区(26.0×6.5m)、東西に長い他の調査区は南から順にB区(7.8×35.0m)、C区(13.0×35.0m)、D区(13.0×35.0m)とし、A・B区→C区→D区の順で調査を進めた(第5図<sup>[61]</sup>)。

A区は近代以降の造成が深く及んでおり、江戸時代を含むそれ以前の文化層はほとんど残っていなかった。近代層の下で確認した木材等を大量に含む層(後にSX3<sup>[96]</sup>と命名)とその下部の礫層を観察した結果、遺跡地は南に向かって低く傾斜する地形であることが分かった。



No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	高知城跡(大高坂城跡)	中世～近世	27	石立城跡	中世	53	吉弘古墳	古墳
2	中の谷遺跡	弥生	28	神田ムク入道遺跡	弥生～中世	54	秦泉寺仁井田神社裏古墳	古墳
3	横内遺跡	弥生	29	シルタニ遺跡	弥生・中世	55	吉弘遺跡	古代
4	福井別城跡	中世	30	神田南遺跡	中世	56	日の岡古墳	古墳
5	福井古墳	古墳	31	ケジカ端遺跡	弥生	57	松葉谷遺跡	古代～中世
6	高知学園裏遺跡	中世	32	高神遺跡	古墳・古代	58	秦泉寺廃寺跡	古代
7	かろーと口遺跡	中世	33	神田遺跡	弥生～中世	59	秦泉寺別城跡	中世
8	鹿持雅澄邸跡	近世	34	高座古墳	古墳	60	秦小学校校庭古墳	古墳
9	福井遺跡	縄文～中世	35	久寿崎ノ丸遺跡	弥生～中世	61	愛宕神社裏古墳	古墳
10	嘉式保宇城跡	中世	36	小石木山古墳	古墳	62	愛宕不動堂前古墳	古墳
11	万々城跡	中世	37	小石木町遺跡	弥生	63	北秦泉寺遺跡	弥生
12	初月遺跡	弥生	38	潮江城跡	中世	64	淋谷古墳	古墳
13	福井西城跡	中世	39	南御屋敷跡	近世	65	秦泉寺城跡	中世
14	福井中城跡	中世	40	中島町遺跡	古墳	66	土居の前古墳	古墳
15	福井元尾城跡	中世	41	尾戸遺跡	弥生	67	前里城跡	中世
16	井口城跡	中世	42	尾戸窯跡	近世	68	薊野遺跡	古代
17	杓田遺跡	弥生	43	<b>弘人屋敷跡</b>	近世	69	一宮城跡	中世
18	加治屋敷跡	古代～中世	44	帯屋町遺跡	古墳	70	吸江庵跡	中世～近世
19	鴨部城跡	中世	45	国沢城跡	中世	71	五台山法華経塔	中世
20	柳田遺跡	縄文～古墳	46	安楽寺山城跡	中世	72	竹林寺	古代
21	鷺泊橋付近遺跡	弥生・中世	47	東久万池田遺跡	古代～中世	73	高知城伝下屋敷跡	古墳～近世
22	船岡山遺跡	弥生	48	西秦泉寺遺跡	古代	74	金子橋遺跡	近世
23	船岡山古墳	古墳	49	宇津野2号古墳	古墳	75	開成館跡	近世～近代
24	能茶山窯跡	近世	50	宇津野1号古墳	古墳	76	西弘小路遺跡	近世
25	神田旧城跡	中世	51	宇津野遺跡	縄文	77	追手筋遺跡	近世
26	鴨部遺跡	縄文～近世	52	秦泉寺新屋敷古墳	古墳			

第3図 弘人屋敷跡と周辺の遺跡



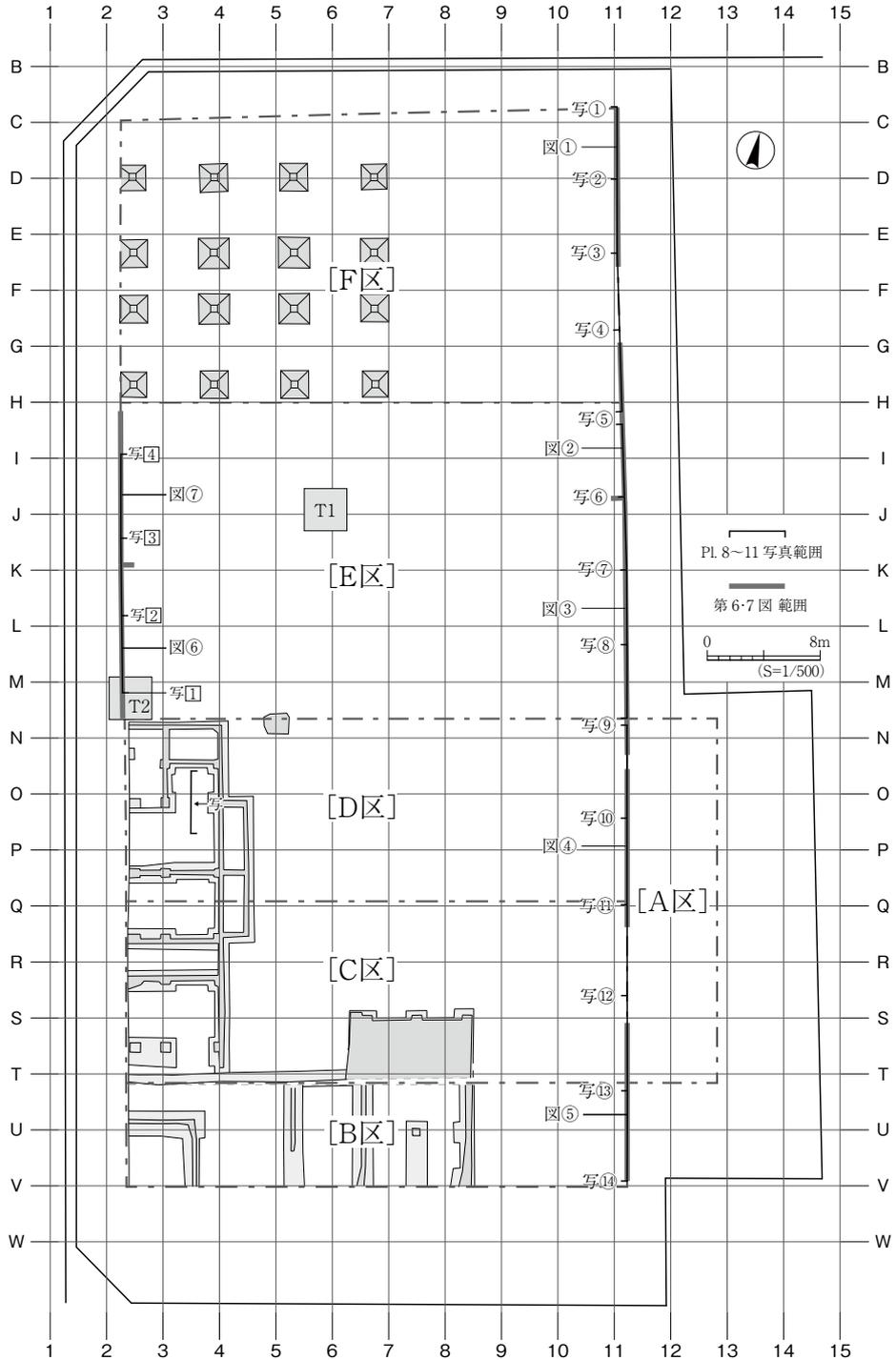
第4図 調査区位置図

- |  |                             |
|--|-----------------------------|
| 1-a. 『高知城跡：西堀地区』高知市第33集(2009)                                  | 42. 『尾戸窯跡』高知市第30集(2007)     |
| 1-b. 『史跡高知城跡：丸ノ内緑地』埋文第96集(2006)                                | 43. 『弘人屋敷跡』埋文第140集(本書)      |
| 1-c. 『史跡高知城跡：御台所屋敷跡』埋文第37集(1994)<br>『高知城跡：伝御台所屋敷跡』埋文第21集(1995) | 73. 『高知城伝下屋敷跡』埋文第75集(2002)  |
| 1-d. 『史跡高知城跡：北曲輪地区』高知市第35集(2011)                               | 76-a. 『西弘小路遺跡』高知市第34集(2010) |
| 1-e. 『史跡高知城跡：三ノ丸石垣』埋文第114集(2010)                               | 76-b. 『西弘小路遺跡』埋文第123集(2012) |
|  | 77. 『追手筋遺跡』                 |

B区は西側の大部分にコンクリート基礎が遺存し、また基礎の及ばない東側部分も近代層が礫層にまで達しており、江戸時代を含むそれ以前の文化層は残っていなかった。ただし、寛永通寶を始めとする江戸時代の遺物を少量収拾することができた。礫層の傾斜から地形をみると、調査区の南端がやや高く、C区の地形境界部分とあわせてみると平成23年度調査区の南寄り部分には幅20m程度の窪地ないし谷地形が埋没している可能性が考慮された。

C区は南中央から西側にかけての区域に多くのコンクリート基礎が遺存していた。基礎のない区域においても、特に南半部では近代以降の造成が深くにまで達していた。C区の北半部では近世層と認識していた暗褐色～灰褐色土層が遺存しており、南側の低地から地形が高まっていく境界部分を把握することができた。また、この地形の転換点に沿うようにして蛇行しながら東西に延びる杭列も確認した。コンクリート基礎が遺存する部分でも局所的に内部を調査することができ、うち西側の基礎内では江戸時代の遺構を確認した。南中央から西側にかけてのコンクリート基礎直下には削平を免れた近世遺構が遺存していた。個別に調査を進めた2つの遺構は範囲確認を繰り返した結果、一連の長大な土坑であることが明らかとなった。このSX1・SX2とした整地遺構は礫層ないし砂層の地山を掘削した土坑の底に木の枝を厚く敷き詰めた後、粘土と木の枝を交互に充填したものであった。

C区北壁を深掘りし、近世層としていた土層(Ⅲ層)の下部堆積状況を確認する過程で、礫層レベルから有機質を含んだ砂質土層を検出した。同様の土層は東西2箇所にも認められ、東側の深部からは動物骨(ウマ)を、西側では杭列の先端を発見した。その後、出土遺物から中世の遺構であることが明らかとなり、拡張を繰り返しつつ調査をすすめた結果、護岸工事を施した中世の水路(SR1・SR2)であることが明らかとなった。中世流路の全体を調査するためC区の埋め戻しは南半部のみとした。



第5図 グリッド配置図

D区着手時には、着工の遅れによる調査期間短縮の影響で、当初予定した範囲全てについての調査完遂が困難な状況となっていた。またC区で発見した中世水路の重要性から現地説明会の開催を決定したため、D区については東側の南北13m・東西15mの範囲と中世水路の拡張部分である南北4m・東西11.5mを開放するにとどめた。D区の東側部分ではA・C区からつづく木質層を精査し、木の皮や木材を利用した幕末から近代(19世紀後半)にかけての整地遺構であることを確認した(SX3)。SX3の西側では他箇所では見られなかった近世の土坑やピット群を発見した。護岸工事を施した中世の水路については、拡張して範囲を確認した結果、東西2箇所の水路(東のSR1、西のSR2)が高低差をもちながら連結するひと続きの遺構であると分かった。

3月1日の記者発表後、3月3日に現地説明会を開催した。現地説明会には120名の見学者が訪れた。現地説明会終了後、図面・写真等の記録作業を終え、3月9日に埋め戻しを完了した。

## (2) 平成24年度の調査

平成24年の調査は平成24年5月21日～平成25年1月31日の期間に実施した。調査面積は1,772㎡で、調査延べ面積は5,316㎡となった。

平成23年度調査では調査対象範囲をA・B・C・D区と区分したが、平成24年度調査では対象範囲を南北に大きく二分し、南側をE区、北側をF区とした(第5図)。

平成24年度調査は5月21日より開始した。D区の西半分とE区の南側区域より調査を開始し、順次北方向に範囲を拡げた。D区は平成23年度未掘の西側部分(214㎡)に、遺構の繋がりを確認するための既掘範囲(63㎡)を加えて開放した。E区は、排土置き場の関係上まずグリッドのJラインまでを開放し(504㎡)、これをEs区とした。残りのHグリッドまでのE区はEn区とした。新たに開放したD区のうち西側には現代建物基礎が遺存していた。基礎の内部には攪乱を受けない文化層が残っており、基礎内をDw区、基礎のない東側をDe区と区分した。

平成23年度調査におけるD区堆積層の知見に基づき、近世下層(その後Ⅲb層に変更)を遺構検出面に設定した。重機による掘削は2段階で行い、まず「近代層」(Ⅱ層)を除去し「近世上層上面」(Ⅲa層上面)で遺構の遺存状況を確認した後、「近世下層」(Ⅲb層)を露出させ遺構の検出を行った。

De区は遺構の密度が疎らで近代・近世の土坑・柱穴を少数検出した。Dw区のうち北側基礎内は近代以降の削平により遺構の遺存状況が不良であった。南側の基礎内では中世の水路であるSR2の延長を検出した。やはり小枝・粘土・木杭を用いた護岸工事を施していた。水流は東方向に向かっていたと考えられるが、やや北側から曲流してSR2に繋がるプランであった。

E区では北西部の広い範囲が、近代以降の造成で礫層に達する深さまで削平されていたが、その他の区域では文化層がよく残っており、近世の盛土層や溝、土坑などとともに、中世の区画溝や井戸、性格不詳の大型土坑などが検出できた。地形の転換点に設けられた中世の境界施設であるSD2<sub>[32]</sub>は調査区を東西に貫き、軸方向が追手筋に一致している。SD2に直交する溝も高知城下町を継承する現在の街区に沿っており、城下町の起源が中世の土地利用にあることを示唆していた。さらにE区で検出した遺構のなかには古代(11～12世紀)の遺物を含むものがあり、高知城周辺の歴史が中世よりもさらに遡ることが明らかとなった。

これら古代・中世資料の重要性から、E区の調査終了を区切りに記者発表(2012年10月11日)および現地説明会(10月13日)を開催した。現地説明会には112名が訪れた。

現地説明会に先だつて高所作業車を用いたE区全景写真の撮影を行い、現地説明会終了後にはE区の未調査遺構および中世土坑(SK100)の底面に露出した溝状プランを調査した。結果、溝は古代に構築されたもので2条の溝が並行することが分かった。

E区までの調査により、弘人屋敷跡の遺構は大きく3つの時期に分かれることが明らかとなった。層位で区別すると、盛土層を掘り込んだ近世遺構、Ⅲb層を掘り込んだ中世遺構、Ⅲc層を掘り込んだ古代遺構となる。10月下旬より開始したF区の調査ではこれら3面で遺構検出をおこなった。

F区は西側の18×17m範囲に方形の独立基礎が16基遺存し遺構を破壊していたが、基礎間には文化層が遺存しており遺構検出が可能であった。E区の調査で確認した基本層序にもとづき、まず近世盛土層まで掘り下げ遺構の検出を行った。近代以降の造成により削平された箇所もあるが、溝・井戸・土坑・ピットや埋葬遺構が確認でき、これらを調査した。12月中旬には近世盛土層における調査を終え、高所作業車を用いて全景写真を撮影した。その後、近世盛土層を除去し中世層(Ⅲb層)において遺構を確認した。F区の中世層もE区に匹敵する遺構密度であることが分かり、当初予定の12月末までの調査を終えるのが困難な状況となった。文化・国際課と協議した結果、2013年1月末までの調査期間延長が決まった。F区の中世層ではE区からの延長分を含む溝や土坑、埋葬遺構などが検出でき、これらを調査した。1月中旬には部分的に中世層を掘り下げ、古代層である下層の遺構を検出・調査した。1月25日に高所作業車を用いて中世・古代層の全体写真を撮影した後、埋め戻しと並行しながら未掘遺構等の調査を継続した。1月31日には埋め戻しを完了し、事務所等の設備・機材を撤収して現地調査を終えた。

### (3) 自然科学分析他

平成23年度には放射性炭素年代測定・珪藻分析・花粉分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し実施した。放射性炭素年代測定はSR1出土動物骨および杭、SX1・2出土の粗朶木材の4点について行った。木材については樹種同定を併せて行った。珪藻分析・花粉分析はSR1・SR2から採取した10点の土壌サンプルについて実施した。分析結果を付編1<sup>[259]</sup>に掲載した。

平成23・24年度の調査で出土した動物遺体について、鑑定と分析を山梨県立博物館・植月学氏に依頼した。結果を付編2<sup>[275]</sup>に掲載した。

出土人骨の鑑定を高知大学・清家章教授に依頼した。結果を付編3<sup>[291]</sup>に掲載した。

平成25年度には人骨の炭素窒素同位体分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し実施した。6基の埋葬遺構から試料を採取し分析を行った。分析結果は付編4<sup>[293]</sup>に掲載した。

漆器・木製品20点の保存処理を(公財)大阪市博物館協会大阪文化財研究所に委託し実施した。漆器はSX1の1点、SX2の3点、SX3の1点、木製品はSX1出土の4点、SX3の4点、SR1・2の6点、包含層の1点である。SR1・2の杭以外は出土遺物として図示した。

平成24年度の現地調査において土層剥ぎ取りを実施し、枠付け等の処理を委託により実施した。剥ぎ取り箇所は第6図<sup>[10]</sup>2段目の右端に相当する80cm幅の箇所である。

## 第Ⅱ章 調査内容

発掘調査によって明らかとなった遺跡の内容を報告する。第1節では土層の堆積について、第2節<sup>[24]</sup>では発見された遺構と遺物について、第3節<sup>[235]</sup>では出土遺物の特徴について述べる。

### 第1節 土層の堆積と包含遺物

#### (1) 遺跡における土層の堆積 (第6・7図<sup>[10-11]</sup>, Pl.8・9・10・11<sup>[354-357]</sup>)

遺跡内に堆積した土層を上から順に「Ⅰ層」「Ⅱ層」「盛土層」「Ⅲ層」「Ⅳ層」と区分した。

遺跡地は河川に運ばれた粗礫層(Ⅳ層)を基盤層とし、その上に水勢の弱まった河川に運ばれた砂礫層が堆積する(Ⅲe層)。その後は土壌化が進み、砂層からシルト層に遷移しつつ地盤が安定すると(Ⅲd層,Ⅲc層),人間生活に適した環境に変わる。Ⅲc層を掘削し構築された平安時代後期(11～12世紀)の遺構を皮切りに土地の利用は活発となり、中世(Ⅲb層)・近世(盛土層)・近代(Ⅱ層)・現代(Ⅰ層)と様々な生活痕跡を残し、現在に至る。

Ⅳ層は磨耗した弥生土器や須恵器を含んでおり、また初期の生活痕跡がⅢc層を掘削し構築された平安時代後期(11～12世紀)の遺構であるから、地盤が安定し生活適地となったのが平安時代の頃と判断できる。とくに人間活動が盛んであったのは室町時代にあたるⅢb層で、中でも15世紀代の遺構が多い。Ⅲ層の上部は灰色砂混り粘土層(ⅢF層)に広く覆われる。ⅢF層は洪水の痕跡と考えられるため、江戸時代になって屋敷地を整備する以前に一度洪水の被害を被ったとみられる。盛土層とⅡ層の間には江戸時代の生活層があってしかるべきで、西側の盛土上部に一部該当しそうな土層(Pl.11①<sup>[357]</sup>)がみられるが、全体としては近代・現代の造成により多くが削平されたようである。

各層の詳細は以下の通りである。

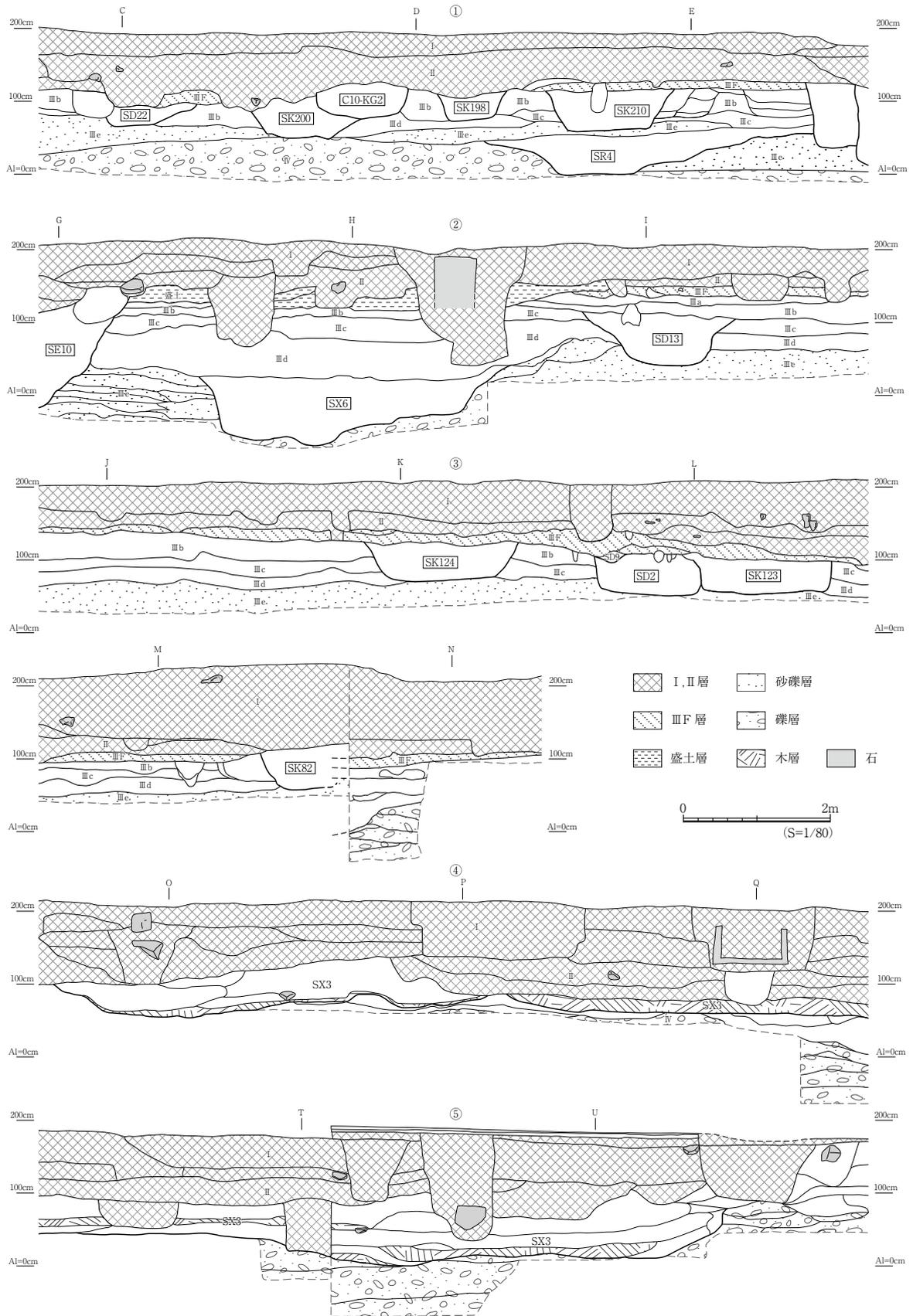
「Ⅰ層」は現代層である。20世紀中頃～後半の遺物を含む。表土にあたるアスファルトと碎石層、その下部の礫やコンクリート基礎を含む黒褐色土層、整地のための客土である橙色の山土層からなる。焼土層がひろがる箇所もある。厚みは南北で大きく異なり、北側が50cm程度であるのに対して南側では100cm近い箇所もある。これは微地形の高低差に由来する。

「Ⅱ層」は近代層である。19世紀後半～20世紀前半の遺物を含む。厚さ30～50cm程度の暗褐色土層である。大小の礫を多量に含み、遺物の包含量も多い。下部に黄橙色の山土を貼った整地面が確認される箇所もある。

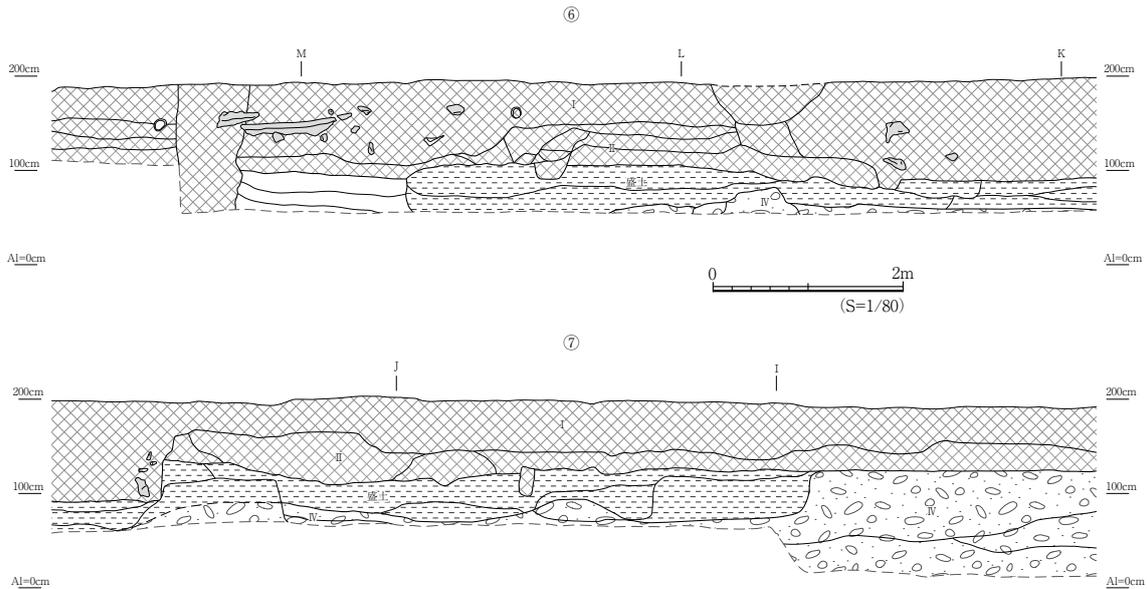
「盛土層」は近世の整地層である。様々な時期の遺物が混入するが、江戸時代の遺物が最も新しいので近世以降に造成された整地層とみてよい。遺構配置図(第2図<sup>[2]</sup>・付図)に示した様に、盛土層の分布は遺跡北半の広い範囲にわたる。上部は近代層(Ⅱ層)に削平されるが部分的には30～50cm程度の厚みがある。遺跡南部のSR一帯でも一部確認した。盛土層は黄味を帯びた黒褐色土層で黄灰色土粒や山土粒が顕著に混ざり、炭化物・焼土などを少量含む。締まりはあるが粘性は弱い。

「Ⅲ層」は中世層である。最上部を灰色砂質泥土層が覆い、以下に暗褐色～灰褐色のシルト質土層が堆積する。最上層をⅢF層とし、以下は土質の違いによりⅢa～e層の5層に区分した。下層ほど砂が多く混和する。

ⅢF層は洪水の痕跡とも考えられる灰色砂質泥土層である。少量の炭化物・焼土・小石を含む。肌理の細かい泥土でありながら砂の混和により粘性は弱い。ⅢF層は調査区の全域に広く堆積する。



第6図 基本層序(調査区東壁)



第7図 基本層序(調査区西壁)

SR2の調査時にはⅢF層中から16世紀代末の天目茶碗(34<sub>[27]</sub>)が出土したが、17世紀代の遺物も少量収拾している。SR1・2・3ではⅢF層上に近世層があり遺物収拾時の両者の弁別は万全ではなかったが、SR1・2・3のⅢF層には16世紀代の遺物が目立つ。下部のⅢb層、上部の近世盛土層を掘削した遺構の時期と併せてみると、ⅢF層が堆積した時期は16世紀末とみられる。

Ⅲa層はよく締まった暗褐色土層で山土粒や少量のマンガン粒、焼土・炭・小礫などを含む。H～Jグリッドにかけては比較的厚く堆積し、遺構の密集するC～Gグリッドでは部分的に10cm程度が堆積するのみである。Pグリッド以南の区域では小石を多量に含むⅢa層が堆積した。南区域の状況によればⅢa層はⅢF層を挟んで中世～近世にかけて堆積したとみられる。

Ⅲb層はⅢa層よりも明るい暗褐色シルト質土層でマンガン粒の集積が顕著である。植物根に起源するとみられる斑状灰色土も多く含まれる。緻密で締まりがあるが粘性は弱い。包含する遺物の量が多く、15世紀代を中心とする遺構はⅢb層を掘削し構築された。

Ⅲc・d層は灰褐色砂質土層で下層ほど砂質の程度が大きい。Ⅲe層は砂礫層である。

Ⅲc層は下部の層よりも明るく、よりシルト質である。炭化物や山土粒をわずかに含む。Ⅲb層よりも緻密で粘性も強い。11～12世紀代の遺構はⅢc層を掘削し構築された。

Ⅲd層はⅢc層よりも暗く、より砂質である。炭化物をわずかに含む。緻密で締まるが粘性は弱い。

Ⅲe層は砂礫層である。箇所により河川に運ばれた砂・砂礫が互層をなす。Hグリッド(SX6<sub>[111]</sub>)やDグリッド(SR4<sub>[30]</sub>)ではⅢe層で流路の痕跡が認められる。土壌として安定する以前の層である。

Ⅳ層は礫層である。河川の氾濫により形成された。弥生土器や須恵器を含むが摩耗したものが多。箇所により異なるが地表下220cmほどで水が湧く。

## (2) 遺跡の微地形

第3図<sub>[4]</sub>が示すように、遺跡は江ノ口川と鏡川に挟まれた地溝帯のなかの沖積地に位置している。大高坂山の東側は、汀線が現在より内陸にあった往事には海に突き出す突堤状の地理的環境にあった。遺跡の微地形は北側が高く南側が低い、これは突堤状の地形の南縁辺に位置したことによる。

前述の基本層序Ⅳ層・Ⅲe層が堆積した当時の、地盤が安定する以前の段階には流路がめまぐるしく変化したようで、SR4(Pl.8<sup>[354]</sup>)・SX6(第76図<sup>[111]</sup>)・N3・O3グリッド(Pl.11②<sup>[357]</sup>)の堆積・礫層の高さからは、自然堤防状の高まりを形成しながら開析と埋没を繰り返した様子が窺える。

地盤が安定した後の堆積をみると、遺跡地内を東西に貫くSD2(区画溝)の辺りを境界にしてⅢb層が南側に低く傾斜している(第6図③<sup>[10]</sup>)。調査開始時の南北の高低差はわずか30cmほどであったが、これはSD2の南側を相当規模で造成した結果であり、とくにⅠ層の厚みは著しい。ただし遺跡地の南西隅ではⅢa層・Ⅲb層の堆積による土地の高まりを確認しており、遺跡地から鏡川の間には自然堤防状の起伏がつづくものとみられる。遺跡内の南区域には高知城の南堀に連なるような谷状の窪地があった可能性もある。

### (3) 包含層出土遺物

包含層から出土した遺物は全出土点数42,928点のうちの17,137点で、うち140点を掲載した。

包含層出土遺物の収拾単位には、グリッド別、グリッドに層位の別を加えたもの、層位別などがある。この他に「攪乱」や「KG」など人為的な掘り込みの覆土から出土した遺物についても、検出した層位がⅠ・Ⅱ層であれば包含層出土遺物に加えて整理した。

前項で記したように、遺跡の基本層序の時期は、検出した遺構と出土遺物に基づいて、Ⅲc層が11～12世紀、Ⅲb層が15世紀、盛土層が近世、Ⅱ層が19世紀後半～20世紀、Ⅰ層が20世紀中頃～現代と判断している。しかし、各層から出土する遺物には混入が多く土層が堆積した時期に使用された遺物の様相を必ずしも反映しない。そのため包含層出土遺物については、既知の分類にもとづいて時代ごとに排列し掲載した。

なお包含層出土遺物は頭に「h」字を付して遺構出土遺物と区分した。包含層出土遺物の区分はh1～h7が弥生時代～古代(9世紀頃まで)、h8～h20・h35・h36が中世(12～16世紀)、h21～h34・h37・h68が近世(17～18世紀)、h69～h136が近世後期～近代(19世紀)、h138～h140が近代(20世紀)である。

弥生土器には中期後葉から終末期の土器がある。h1は弥生時代中期後葉～後期前半の高坏脚部だが形状はやや特異である。h2～h4は弥生時代終末期の甕形土器であり、太筋タタキ痕が残る。h5は弥生時代終末期の庄内式土器である。河内からの搬入品とみられる。磨耗が著しい。須恵器はh6が6世紀中頃の蓋坏である。

9世紀～12世紀にかけての資料は、SD12・SD13などの遺構からまとまった数の遺物が出土しているが包含層からは、図示できない細片を収拾したに留まる。

中世は15世紀代の製品が多い。13～14世紀、16世紀は遺物は少量出土するが遺構は極めて少ない。

貿易陶磁は、青磁(h8)が15世紀代の龍泉窯産、青花(h9～h11)が16世紀代の景德鎮産である。全体に15～16世紀の製品が目立つ。中世の炆器は備前産が多い。h12は備前産の播鉢である。瓦器・埴の2点(h14・h15)は12～13世紀の和泉型である。遺構の少ない時期ではあるが、同類の瓦器・埴は一定度出土している。土器には16世紀の製品とみられる径11cm程度の浅い坏皿(h16・h17・h35・h36)の他に、喇叭形に開く16世紀の坏(h18)がある。銅銭には洪武通寶(h19)、永楽通寶(h20)がある。

近世では17世紀と19世紀の製品が多く18世紀代が少ない。遺構の傾向も同様である。17～18世紀の製品には唐津・肥前系が多く、青磁(h21)・白磁(h22)や初期伊万里(h23・h25)の他に天目茶碗(h28)や陶器皿(h30)がある。炆器には「備前」銘の小皿(h32)や口縁が縁帯となる備前産の播鉢(h33)がある。

焼塩壺蓋のうちh39には「塩壺」銘がある。h41は御厩系の焙烙である。その他、漆器蓋(h46)や下駄(h47・h48)も出土している。銅銭には元祐通寶の模鑄銭(h50), 古寛永通寶(h51～h56), 新寛永通寶(h57～h65), 新寛永文銭(h66・h67)がある。

19世紀以降、とくに幕末～近世初(19世紀後半)は遺物量がもっとも多い。磁器には端反碗(h70・h71), 広東碗(h72・h73)や型紙摺絵の碗(h74・h75), 口銹に山水文の染付皿(h79), 能茶山焼の蕎麦猪口(h76), 銅版転写の皿(h80～h83)・ティーポット(h88・89), 瀬戸製磁器(h90)などがある。

陶器には端反碗(h91), 墨書の皿(h92), 卸し皿(h99・h100), 急須(h96), 「MARUZENINK」銘のインキ瓶(h97), 播鉢(h101), 植木鉢(h105)の他, 窯道具である陶製のハマ(h106・h107)も出土している。

第1表 包含層出土遺物観察表

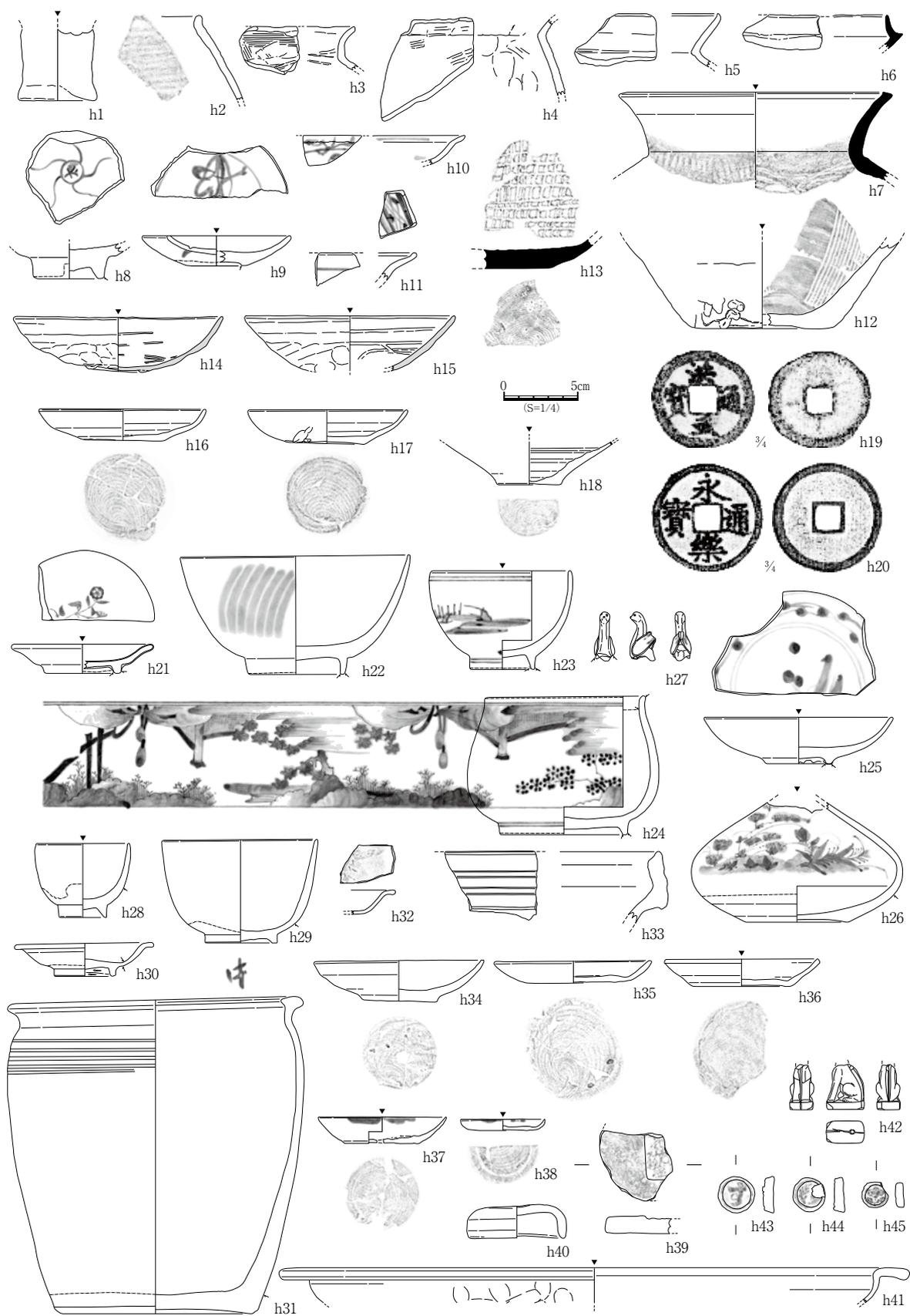
No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[18] h1	Q7grid	弥生土器 高坏:脚部	(4.8)	—	5.3▼	①橙.②角岩,細砂粒.④筒形で中実.外はナデ.稍上底.	弥生後期カ.
h2	Q5grid	弥生土器 甕:口~胴	(5.8)	—	—	①鈍橙.②角岩粗粒.④外胴に太筋タタキ.	ヒビノキⅡ式. 弥生終末期.
h3	J3grid 盛土層	弥生土器 甕:口縁	(3.0)	—	—	①鈍橙.②角岩粒.④口唇丸い.口縁外折.内面に稜.外口縁ハケ後部分ナデ.外 胴はタタキをナデ消し.内面ナデ.部分ハケ小口.	ヒビノキⅡ式. 弥生終末期.
h4	B3grid Ⅲ層	弥生土器 甕:胴	(5.3)	—	—	①橙.②角岩粒.④口縁外折くの字.外面タタキ.内面ナデ.	ヒビノキⅡ式. 弥生終末期.
h5	O2grid Ⅲc層	庄内式土器 甕:口縁	(3.7)	—	—	①灰黄橙.②角閃石,角岩,長石粒.④口唇摘み上げ.口縁外折.⑤全面磨滅.	河内庄内式. 弥生終末期.
h6	Q7grid	須恵器 蓋坏:口~胴	(2.3)	11.8▼	—	①灰~灰赤.②長石粒.	6c中.
h7	S3grid	須恵器 甕:口縁	(7.1)	17.6▼	—	①灰.②石英,長石微粒.④口唇ハケ面取.内口縁端に弱い凹帯.外胴に平行 タタキ.内胴に青海波.	古代カ. 龍泉窯. 15c.
h8	F2grid Ⅱ層	青磁 碗:底	(2.4)	—	4.8	①畳付・高台内無釉.③内底は陰刻で放射状捻文,中央に「太」字.	景德鎮. 16c.
h9	M2grid Ⅲb層	青花 皿:口~底	2.1	10.0▼	3.5	①底周りに無釉.露胎部は橙.③外胴に文様.内底は一圏線に文様.④碁笥底.	景德鎮. 16c.
h10	Q6grid	青花 皿:口縁	(2.0)	9.0▼	—	③外胴に唐草.内口縁に帯線.④口縁肥厚,端反.	景德鎮. 16c.
h11	Q7grid 磔層	青花カ 鏝縁皿:口縁	(2.2)	—	—	③外面に帯線.内口縁に斜格子文カ.④口唇は内に肥厚,端反.	景德鎮. 16cカ.
h12	接合	炆器 播鉢:胴~底	(6.0)	—	9.0▼	①暗赤褐色化粧土.②緻密.長石,石英,鈍黄橙粘土.④見込端から11歯摺目.⑤ 内面磨滅.⑥C区サレキ層+SR2砂磔層.	備前. 15~16c.
h13	D区 Ⅲb層	須恵器 不明:底	(2.0)	—	—	①明褐灰.外胴に自然釉.②長石,石英微粒.④内底に格子目沈線.回転糸切.	古代カ.
h14	C9grid	瓦器 碗:口~底	3.7	14.2▼	4.3	①灰.②長石微粒.③内面にジグザグ暗文.④口唇丸い.外口縁回転ナデ.外 胴ナデオサエ.高台退化.内面精ナデ.	和泉型. 13c.
h15	G9grid Ⅲ層	瓦器 碗:口~胴	(3.8)	14.2▼	—	①灰.②長石粒.③内面に暗文,不鮮明.④口唇丸い.外口縁横ナデ.外胴ナ デオサエ.内面ナデ.	和泉型. 12c~13c.
h16	D区 Ⅲa層	土器 坏皿:完	2.3	11.0	5.3	①浅黄橙.②角岩,岩滓微粒.④薄手.轆轤後ナデ,やや歪.内底縁ナデ凹帯.回 転糸切.	在地. 16c.
h17	D区 Ⅲa層	土器 坏皿:完	2.5	10.5	5.1	①浅黄橙.②角岩,岩滓微粒.④薄手.轆轤後ナデ.内底縁ナデ凹帯.回転糸切.	在地. 16c.
h18	K9grid Ⅲb層	土器 坏:胴~底	(2.9)	—	4.4	①浅黄橙.②角岩微粒.④外胴は回転ナデ.内面は轆轤目ナデ.回転糸切.	在地. 16c.
h19	F区 Ⅱ層	銅銭 洪武通寶	径 23.0 <sup>s</sup> , 厚さ 1.3 <sup>s</sup> , 重さ 2.5 <sup>g</sup>	—	—	③「洪武通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> .	明. 1368年~.
h20	D区 Ⅲa層	銅銭 永楽通寶	径 25.0 <sup>s</sup> , 厚さ 1.2 <sup>s</sup> , 重さ 2.7 <sup>g</sup>	—	—	③「永楽通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> .	明. 1408年~.
h21	C区 Ⅱ層	青磁 皿:口~底	2.0	9.6▼	5.2▼	①碧緑釉.畳付釉剥.③見込に花卉文.④端反口.	肥前.
h22	D8-KG1	白磁 大碗:略完形	8.2	15.6	6.4	①畳付釉剥.③外胴は篋彫りで縦縞状に暗文.④高台内は縮緬.	肥前カ. 近世.

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[18] h23	II層	染付 碗:口~底	6.8	9.4▼	4.3	①畳付釉剥.③外口縁に二圏線.外胴是水辺に舟・草文.外高台に二圏線.	初期伊万里. 17c前.
h24	D8-KG1	染付 蓋物:完形	9.6	13.0	8.7	①口唇・内口縁・畳付釉剥.③外胴は上二界線,下界線間に建物,幔幕,茂み,樹木,雲気文様.外高台に二圏線.	肥前. 近世.
h25	C区 II層	染付 皿:口~底	3.3	12.8▼	4.4	①釉は灰味.畳付釉剥.②灰土.③内面は上界線に略唐草文.見込は二圏線に水辺・草花文.④碁笥底気味.高台に目砂.	初期伊万里. 17c前.
h26	C区 II層	染付 瓶:胴~底	(8.3)	14.4▼	6.8	①胴下半露胎.内も施釉.③外面に撫子・草花文.④碁笥底.	肥前.
h27	R9grid	磁器 人形:鳥	(3.3)	幅 1.3	奥行 (1.7)	①灰釉.外底無釉.③眼,翼に鉄釉装飾.④手握ね.	
h28	F4grid II層	陶器 天目茶碗:口~底	5.1	6.3▼	3.2	①褐釉.高台周りに無釉.④口唇弱面取.削高台,縮緬.	唐津. 17c.
h29	O5-KG10	陶器 碗:略完形	7.1	10.5	5.0	①浅黄釉.高台周りに無釉.③高台内に「中カ」墨書.④御室碗様.削高台.	肥前. 近世.
h30	Q8grid	陶器 端反皿:口~底	2.3	9.1	4.2	①白釉,発色不良カ.内底,高台周りに無釉.④内底兜巾状.削出高台,内は縮緬兜巾状.	唐津. 17c前.
h31	接合	陶器 甕:口~底	21.9	20.2	13.0	①暗赤褐釉.底周りに露胎.③外胴上位に沈線4条.④外底端を斜面取.⑥O8-KG1+O8-KG7+D区III a層.	近世
h32	M2grid II層	炆器 小皿カ:口~底	(1.7)	—	—	①赤褐.③内底に型押しで松文,「備前」銘.	備前. 近世.
h33	Q5grid	炆器 播鉢:口縁	(4.7)	29.0▼	—	①橙.②緻密.黒粒,角岩粒.④幅広緑帯に凹線2条.内口縁に段丸み.	備前. 16c末~17c初.
h34	F3grid II層	土器 坏皿:略完形	2.9	11.6	5.1	①鈍橙.②微砂粒,岩滓.④口唇弱面取.外胴は回転ナデ.内面精ナデ.円盤高台.回転糸切.	在地. 近世.
h35	G6grid II層	土器 坏皿:口~底	1.5	10.6	6.6	①浅黄橙.②微砂粒.④外胴・内面精ナデ.内底縁にナデ凹帯.回転糸切後ナデ.	在地. 16c.
h36	G6grid II層	土器 坏皿:口~底	1.9	10.4▼	6.6▼	①鈍黄橙.②微砂粒.硬質.④外胴は回転ナデ.中位にナデ凹帯.内面精ナデ.内底縁にナデ凹帯.回転糸切.⑤外胴と内底に煤付着.	在地. 16c.
h37	F4grid II層	土器 小皿:口~底	1.8	8.7▼	5.0	①橙.②微砂粒.④内外胴回転ナデ.内底轆轤目ナデ.回転糸切.内外口縁に煤,タール.	在地. 近世.
h38	D区 I・II層	土器 小皿:口~底	0.7	5.7▼	4.5	①黄橙.②微砂粒.④内外面回転ナデ.回転糸切.⑤口唇に煤2箇所.	在地. 近世.
h39	G5-KG1	土器 焼塩壺蓋	長さ (4.9)	幅 (5.0)	厚さ 1.2	①鈍黄橙.②長石細粒.③型押で「…□焼塩」銘.④外面ナデ.	
h40	C10grid III b層	土器 焼塩壺蓋:完形	2.3	6.8	—	①鈍橙.②角岩粒.④天井はナデオサエ.側面は横ナデ.内面ナデ.	在地. 近世.
h41	C7grid 攪乱	土器 焙烙:口~底	(2.4)	42.6▼	—	①鈍黄橙.②長石,石英微粒.④錐縁.口縁は回転ナデ.外胴はナデオサエ.内胴は回転ナデ.⑤錐端からは煤多量に付着.	御厩系. 18c.
h42	C区 II層	土製品 人形:胴体	高さ (3.2)	長さ 2.6	幅 1.6	①鈍黄橙.②水簸土.岩滓粒.④合せ型.底穿孔1cm.	近世.
h43	I10grid 攪乱	土製品 泥面子	径 2.5	厚さ 0.8	重さ 4.5 <sup>g</sup>	①鈍黄橙.②水簸土.③型押で「す」字.	近世.
h44	B10grid II層	土製品 泥面子	径 2.4	厚さ 0.8	重さ 3.9 <sup>g</sup>	①橙.②微砂粒.③型押で下り藤文.	近世.
h45	D7-KG1	土製品 泥面子	径 1.7	厚さ 0.6	重さ 2.2 <sup>g</sup>	①鈍褐.②微砂粒.③型押で花卉文.	近世.
[19] h46	D8-KG1	漆器 碗蓋	(1.8)	—	5.1	①外に黒漆.内に赤漆.③外面に灰色で葉,露草文カ.	
h47	D8-KG1	木製品 下駄	長さ (8.7)	幅 3.8	厚さ 3.7	②柁目材.④平面長方形.差歯.断面舟形.	
h48	A区 II層	木製品 ぼっくり下駄	長さ 20.8	幅 8.6	高さ 6.1	②柁目材.④平面小判形.鼻緒位置釘痕.	近世.
h49	B区 IV層	木製品 加工木材	長さ 19.7	幅 6.7	厚さ 1.7	②板目材.④長方板で一端は隅切.他端は先細り.一方の面に浅い箱形の凹み.	
h50	D区 III a層	銅銭 元祐通寶	径 23.5 <sup>s</sup>	厚さ 0.9 <sup>s</sup>	重さ 1.9 <sup>g</sup>	模鑄銭.③「元祐通寶」.④孔7.0 <sup>s</sup> .	中世末~近世初.
h51	C区 II層	銅銭 寛永通寶	径 24.0 <sup>s</sup>	厚さ 1.5 <sup>s</sup>	重さ 4.1 <sup>g</sup>	古寛永.③「寛永通寶」.④孔6.0 <sup>s</sup> .	1636~59年.
h52	G2grid	銅銭 寛永通寶	径 25.0 <sup>s</sup>	厚さ 1.4 <sup>s</sup>	重さ 3.7 <sup>g</sup>	古寛永.③「寛永通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> .	1636~59年.

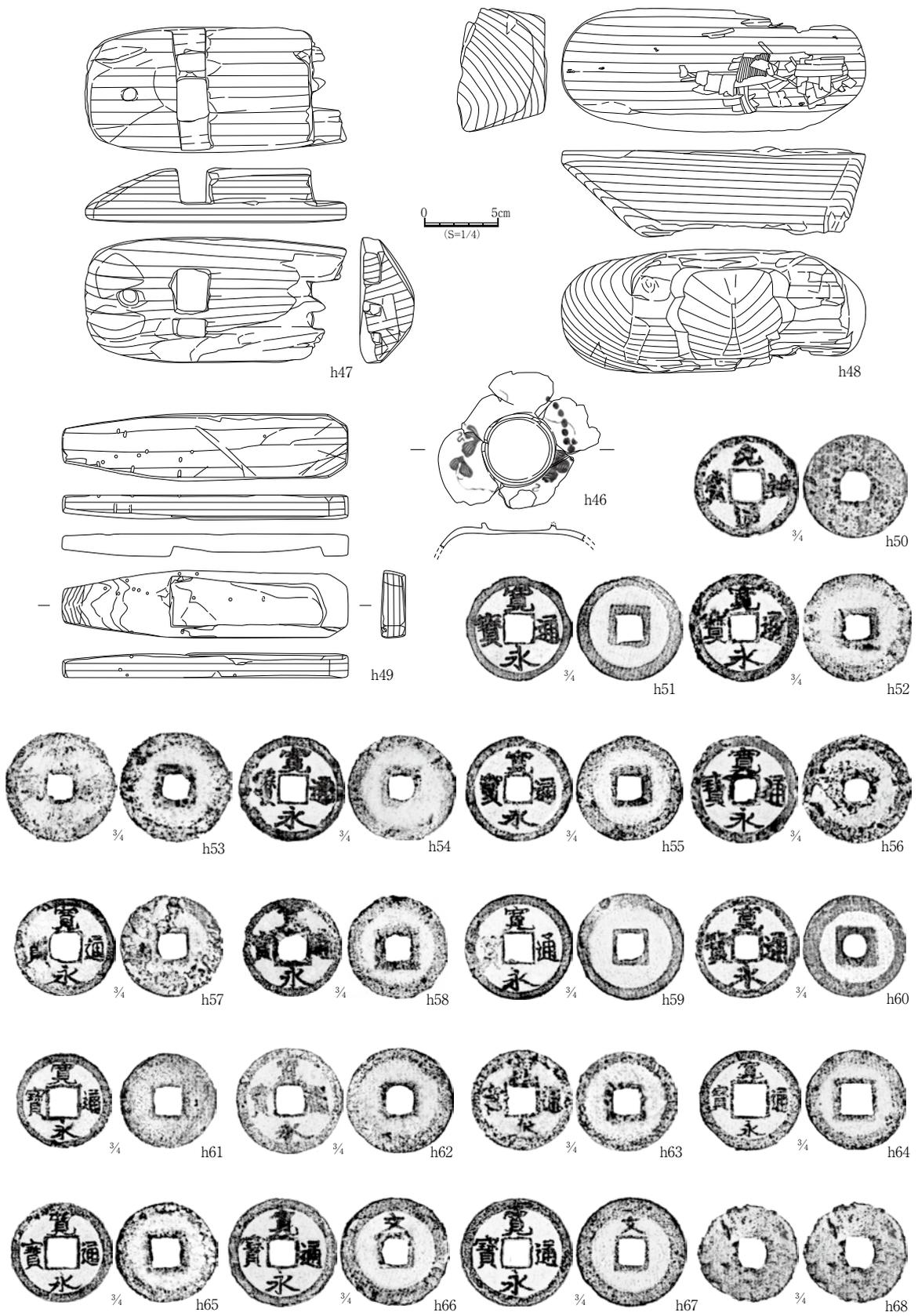
No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[19] h53	C7-KG5	銅銭 寛永通寶	径 25.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.4 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 3.2 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	古寛永.③「寛永通寶」.④腐食.孔5.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1636~59年.
h54	D7-KG1	銅銭 寛永通寶	径 24.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.3 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 3.6 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	古寛永.③「寛永通寶」.④孔5.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1636~59年.
h55	E2grid 攪乱	銅銭 寛永通寶	径 24.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.2 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 2.9 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	古寛永.③「寛永通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1636~59年.
h56	C4grid	銅銭 寛永通寶	径 25.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.1 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 3.2 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	古寛永.③「寛永通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1636~59年.
h57	表土	銅銭 寛永通寶	径 23.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 3.5 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔6.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~1862年.
h58	C10-KG1	銅銭 寛永通寶	径 23.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 2.6 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔6.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~1862年.
h59	C5grid 攪乱	銅銭 寛永通寶	径 24.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.3 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 3.3 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔6.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~1862年.
h60	B区 II層	銅銭 寛永通寶	径 23.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.2 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 3.0 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~1862年.
h61	E区	銅銭 寛永通寶	径 22.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.1 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 2.2 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔6.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~1862年.
h62	表土	銅銭 寛永通寶	径 24.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 2.4 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔6.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~1862年.
h63	C5grid 攪乱	銅銭 寛永通寶	径 23.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 2.1 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~1862年.
h64	表土	銅銭 寛永通寶	径 23.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 2.0 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔7.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~1862年.
h65	表土	銅銭 寛永通寶	径 23.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 0.8 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 2.2 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔6.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~1862年.
h66	C7-KG4	銅銭 寛永通寶	径 25.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.4 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 3.5 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永文銭.③「寛永通寶」.背面に「文」.④孔5.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~83年.
h67	O10-KG2	銅銭 寛永通寶	径 25.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.2 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 2.5 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永文銭.③「寛永通寶」.背面に「文」.④孔6.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~83年.
h68	C7 攪乱	銅銭 方孔円銭	径 23.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 1.9 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	④孔7.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	
[20] h69	N10-KG2	白磁 小角皿:口~底	2.4	8.2	4.0	①畳付釉剥.③内胴は区画内に紗綾地.芭蕉.花文.見込に花文.	肥前カ.
h70	C区 II層	染付 端反碗:口~底	5.7	13.0▼	2.4▼	①畳付釉剥.③外胴は縦縞地文で窓に雁文.内面は口に斜格子.胴に一圈線.外高台に帯線.④端反口.見込に目土.	肥前. 近代.
h71	N10-KG2	染付 端反小碗:口~底	4.3	8.6▼	2.8▼	①畳付釉剥.③外胴に「實」字.宝文.	
h72	C6grid II層	染付 広東碗:完形	5.8	10.9	5.8	①畳付釉剥.③外胴に菊・薊・花文.内口縁に二圏線.見込は一圈線に岩・鳥文カ.	肥前. 19c.
h73	接合	染付 広東碗:口~底	7.3	14.0.	8.6	①畳付釉剥.③外胴は上界線に樹木・太古石・唐人文.高台際に二圏線.外高台は下界線にOX文.内口縁は上界線に半樹木.見込は二圏線に樹木・太古石.高台内「福貴長春」.⑥D区I・II層+A区II層.	肥前カ. 19c.
h74	O8-KG7	染付 碗:略完	4.7	11.3	4.1	型紙摺絵.①畳付釉剥.③内縁に環珞.外胴は雲割に宝・隠れ蓑・桜花散し.下端に櫛歯帯.	
h75	接合	染付 碗:口~底	5.8	10.7	4.1	型紙摺絵.①畳付釉剥.③外胴は斑意匠・白抜き唐草文.外高台に帯線.内口縁に環珞.見込は一圈線に環状松竹梅.⑥A区II層+D区II層.	瀬戸カ. 19c.
h76	N10-KG2	染付 蕎麦猪口:略完形	6.0	7.2	6.8▼	①畳付釉剥.③外胴は上下界線に矢羽根文.外高台に二圏線.内口縁に二圏線.見込は一圈線に舟・波紋.高台内に「サ」銘.	能茶山. 19c後.
h77	O8-KG7	染付 蓋物:略完	6.4	8.8	5.6	銅版転写.①口唇~内口縁.畳付釉剥.③外胴に環状意匠散し.松竹梅・草・鳳凰・雲気に鳥文.	
h78	P10-KG1	染付 隅切角皿:略完形	4.2	20.9	11.6	①畳付釉剥.③外胴は水辺に草・露文カ.高台脇に二圏線.見込に文字銘.内胴は縞地.四隅に笹.丸窓に宝笠文.見込は縞地に菊文カ.	肥前カ. 19c.
h79	N10-KG2	染付 輪花皿:口~底	2.4	10.4	6.9	①全釉.③口鏤.外胴は宝文に下界線.外高台に二圏線.高台内は一圈線にΛと渦.見込は山水文.	19c.
h80	N9-KG2	染付 皿:略完	2.1	10.7	5.8	銅版転写.①畳付釉剥.③内縁は下二界線に青海波文帯.見込に観世水・桐・半菊花文.	19c後~20c前.
h81	O8-KG7	染付 皿:口~底	1.9	13.8▼	8.2	銅版転写.①畳付釉剥.③内縁に蓮弁・如意頭交互.見込は環状に花葡萄唐草文.中央に割付線.	19c後~20c前.
h82	O8-KG1	染付 皿:口~底	2.1	13.8▼	8.8	銅版転写.①畳付釉剥.③内縁に菊花・桜花文.見込は竹林に唐人文.高台内は毛彫り二圏線に「大日本都築製」銘.④内底中央浅く窪む.	19c後~20c前.

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[20]	h83	接合 染付 皿:口~底	2.4	13.4	8.3	銅版転写.①全釉.③内縁に菊花・桜花文.見込は竹林に唐人文.高台内に「大日本都築製」銘.④内底中央僅かに窪む.⑥O8-KG1+O8-KG7+D区Ⅲa層.	19c 後~20c 前.
	h84	P10-KG1 染付 皿:口~底	2.8	9.4	4.0	①見込は輪弁.②口縁に五圍線と三圍線間に雁二羽毎.見込に雁三羽.⑥SX3C区木層と接合.	19c.
	h85	C区 Ⅱ層 染付 皿:口~底	2.7	8.8	3.9	①コバルト.見込は輪弁.②灰白土.稍粗い.③呉須口紅.内面は略化の雁・飛沫文を交互.④高台内刳込み.	近代.
	h86	N10-KG2 染付 段重:口~底	4.5	12.0	11.0	①口唇~内口縁釉剥.③外口縁に褐釉帯.外胴に山波庵人物文・成句.④外底縁の接地面に粘土塗布.	
	h87	N9-KG2 染付 鉢子:口~底	16.8	6.8	6.0	①外底・内頸部以下無釉.③頸根に隆帯.外胴は上に略雷文帯.水辺に草文.④平底.	瀬戸. 19c 後~20c 前.
	h88	O8-KG7 染付 ティポット:口~底	12.0	11.4	6.8	銅版転写.①外底周り・内面無釉.③外胴に菊花文.注口に花唐草文.④碁笥底.	瀬戸.
	h89	N10-KG2 染付 ティポット:口~底	13.6	11.0	6.7	銅版転写.①口唇~内口縁無釉.②口縁は蓮弁に麻葉・青海波・菊唐草・枝垂藤.外胴は山水に土坡・菖蒲・着物女性.注口.把手に菊唐草文.	瀬戸. 20c.
	h90	O8-KG7 磁器 猪口:略完	4.3	6.3	2.8	①透明釉.外胴は緑釉.②口縁に墨書.	瀬戸.
[21]	h91	D区 Ⅱ層 陶器 端反碗:略完	6.1	11.6	4.2	①淡黄釉.②ざっくり感.③麦藁手.口縁.内外に呉須と鉄釉で縦縞文.	瀬戸カ. 19c 前.
	h92	表土 陶器 皿:完形	1.7	11.3	7.4	①黄橙.無釉.②水鏡土.③内胴に筋状墨書.外底に「万カ」墨書.④外面は回転ケズリ.内面は回転ナデ.	
	h93	O8-KG7 陶器 台付皿:口~底	4.3	6.4	5.0	①灰白釉.外底周り無釉.④回転糸切.	瀬戸カ.
	h94	O10-KG4 陶器 鉢:口~胴	(8.3)	19.9	—	①灰釉.外面・内口縁無釉.②鈍黄橙土.細砂粒.黒粒.④把手1.外面ナデオサエ.内口縁はユビオサエ.内胴は縦ナデ.⑥SX3と接合.	19c.
	h95	O8-KG7 陶器 脚付大鉢:口~底	11.8	29.0	15.0	①外は黒褐釉.内は淡黄釉.口縁に淡緑釉.外底周り無釉.②石英.微砂粒.④脚付.	
	h96	N9-KG2 陶器 急須:略完	10.0	13.3	8.0	①白釉.口縁.外底周り露胎.内面無釉.③呉須と緑釉.外口縁に縞帯線.外胴に牡丹.篋.	
	h97	表土 陶器 インキ瓶:完形	20.7	9.9	8.8	①赤褐釉.②口縁に墨書.③外胴下部は○の中央に「M」.環状に「MARUZENINK」刻印.外底丸に「M」刻印.④口に注ぎ口.	20c. 常滑.
	h98	B区 Ⅱ層 陶器 壺:口縁	(5.0)	—	—	①灰黄褐.本来は内面に黒褐釉.③肩部に不規則な刺突列点文.	
	h99	O8-KG7 陶器 卸し皿:口~底	3.9	14.6	6.2	①鈍黄橙釉.高台周り露胎.④見込に櫛刺突で卸目.高台内刳込み.	尾戸窯カ.
	h100	A区 Ⅱ層 陶器 卸し皿:口~底	2.0	10.6	4.8	①灰褐釉.高台周り無釉.②明赤褐土.④見込に櫛刺突で卸目.高台内刳込み.	尾戸窯カ.
	h101	N10-KG1 陶器 播鉢:口~底	12.3	30.6	14.4	①黒褐釉.内面・外底周り無釉.②明赤褐土.石英.長石.微砂粒痕.④外口縁に略二凹線.外底端を斜面取.内胴は見込端から10齒摺目密に.上端はナデ消し.見込に10齒摺目をクロス.	能茶山カ. 20c 前.
	h102	F10grid 攪乱 陶器 播鉢:口~胴	(4.1)	—	—	①鈍黄褐.②長石.角岩.黒粒.④口唇丸い.緑帯は外に凹線2.内口縁に幅広凹帯.内胴に9齒摺目疎ら.	
	h103	N10-KG2 陶器 蓋	2.3	8.9	—	①鈍黄釉.内面無釉.②灰黄土.③上面に鉄釉・呉須・白釉で蝶二匹.外側面に篋彫り斜暗文.④内面に細轆轤目.	
	h104	O8-KG7 陶器 行平鍋:口~底	7.1	11.3	5.3	①黒褐釉.口縁内外無釉.外底周り露胎.②微砂粒.③外胴に飛鉋.④把手.	能茶山カ.
	h105	N10-KG2 陶器 植木鉢:口~底	12.6	21.0	13.0	①明灰オリーブ釉.外底周り・内胴下半以下無釉.②橙土.ぬめり感.黒粒.③内底に墨書.④底中央と外縁に焼成前穿孔.⑥SX3と接合.	
	h106	C8grid Ⅱ層 陶製品 ハマ	1.0	5.1	—	①環部は赤褐.脚は鈍黄橙.②角岩微粒.④環形で三脚がつく.回転糸切.	19c.
	h107	F3grid Ⅱ層 陶製品 ハマ	1.5	6.5	—	①環部は暗赤褐.脚部は褐.④環形で五脚がつく.回転糸切.	19c.
	h108	D区 Ⅱ層 炆器 播鉢:口~底	6.7	16.0	9.1	①暗赤灰化粧土.外胴中位以下無釉.②赤褐土.角岩.石英微粒.鈍黄橙土.④二重口縁は丸み.外に沈線2条.内縁の一部に沈線.見込端から9齒摺目密に.上はナデ消し.内底ボウル形.見込は9齒摺目クロス.外底に砂付着.	明石カ. 19c.
	h109	N10-KG2 炆器 植木鉢:胴~底	(7.7)	10.7	6.1	①鈍赤褐.②水鏡土.長石.微砂粒.③外胴に斜沈線.下部に圈線.④焼成前穿孔.切り高台.	
	h110	G6grid Ⅱ層 白色土器 皿:完形	2.0	12.0	7.2	①灰白.②水鏡土.③内底に型押で鶴・亀・松.④内外胴は回転精ナデ.内外底はミガキ.やや厚手.	尾戸窯カ. 近世.
	h111	G6grid Ⅱ層 白色土器 皿:略完形	2.1	12.0	8.5	①白.②水鏡土.③内底に型押で「壽」字.④内外胴は回転精ナデ.内外底はナデ.	尾戸窯. 近世.
	h112	O8-KG7 土器 焜炉:口縁	(6.2)	—	—	①鈍黄橙.②角岩.雲母.微砂粒.③外胴に陽刻で葉文.④内に角状突起.内面ハケ.外面回転ナデ.⑤口唇~内に煤.	

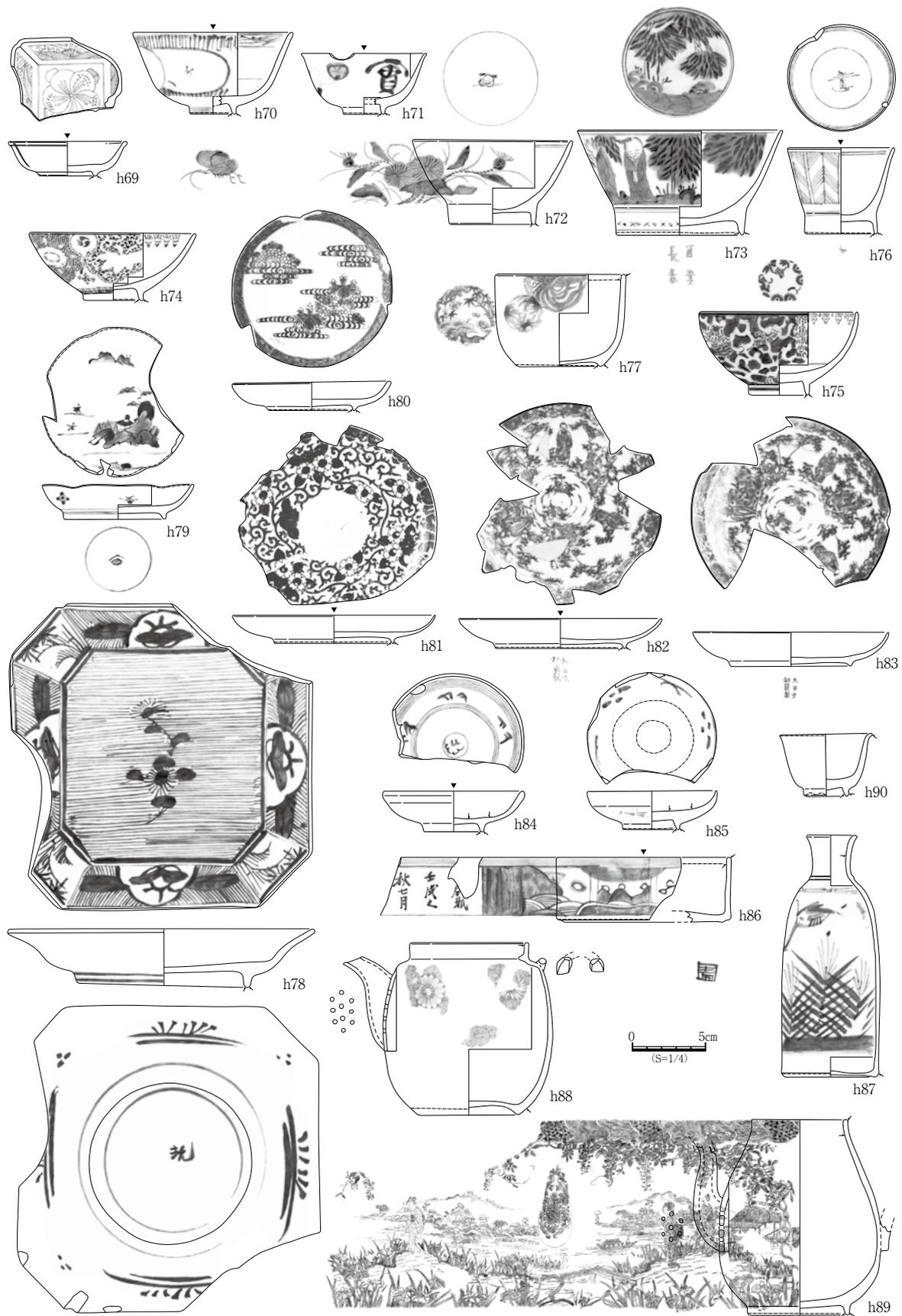




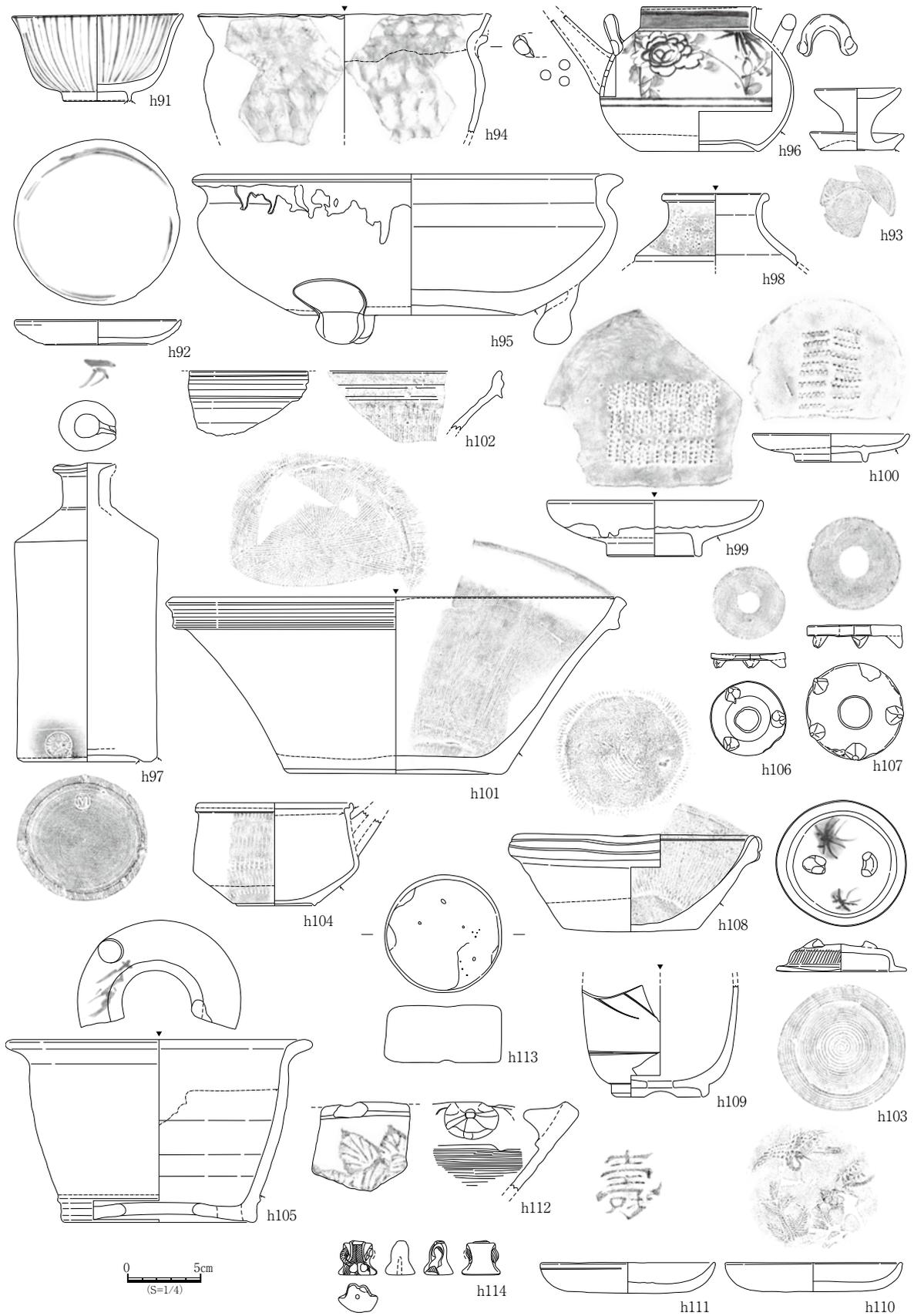
第8図 包含層出土遺物



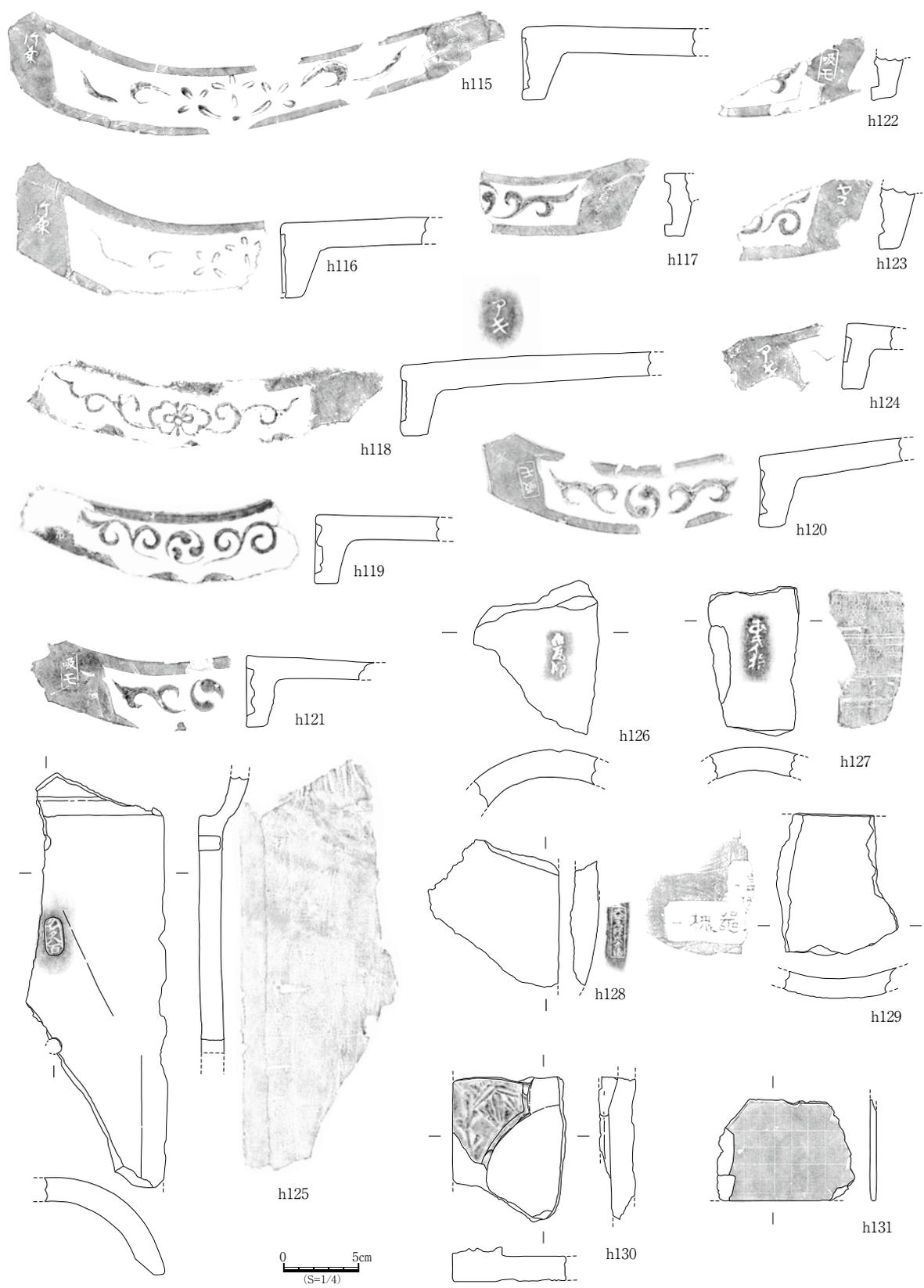
第9図 包含層出土遺物



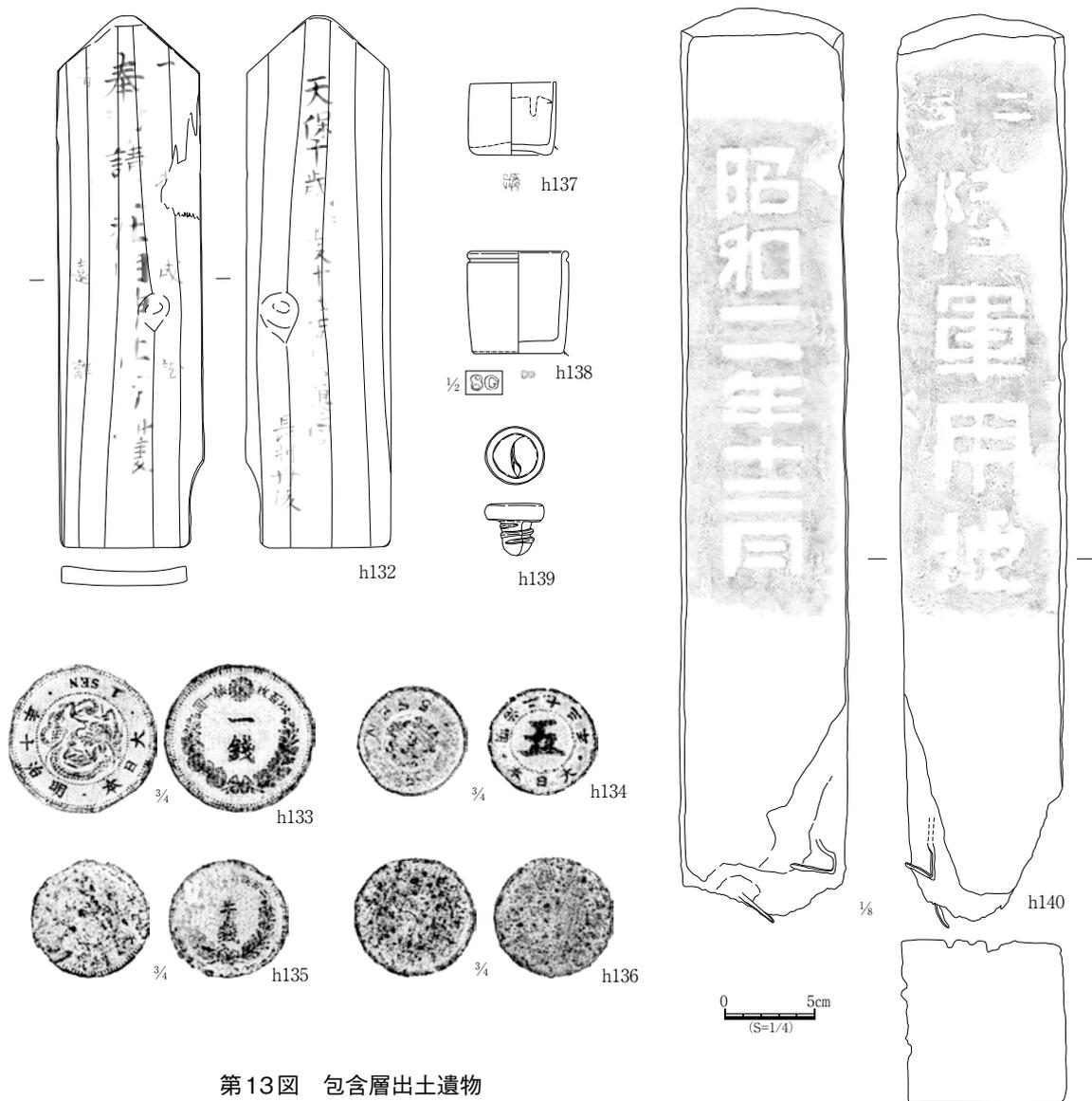
第10図 包含層出土遺物



第11図 包含層出土遺物



第12図 包含層出土遺物



第13図 包含層出土遺物

19世紀以降の炆器には明石産とみられる播鉢(h108)や植木鉢(h109)がある。

土器には尾戸窯の白色土器があり、型押により高砂文(h110)や壽字(h111)が陽出されている。他に土器には焜炉(h112)があり、土製品には用途不明の円筒形製品(h113)がある。

瓦は刻印のあるものを図示した。平瓦には鎌瓦が多く、軒瓦の中央文様には丁字(h115)や三つ巴(h119)・二つ巴(h120・h121)などがある。刻印には「木貞安」(h117),「アキ」(h118・h124),「吸モ」(h120～h122)などがある。丸瓦の刻印には「クレタ八百」(h125),「あキイ□」(h127)などがある。他に「～器械」と陽出された瓦片(h129)もある。出土遺物にみられる刻印については第II章第3節(2)<sup>[235]</sup>に整理した。木製品には「奉□請□社□神社守護／天保十歳～」墨書のある木札(h132)がある。

銅銭は明治10年の一銭銅貨(h133),明治23年の五銭銅貨(h134),半銭銅貨(h135)などがある。

戦前・戦中の資料には統制陶器(h137・h138)やコンクリート碑(h140)がある。統制陶器には「岐449」銘(h137),「8G」銘(h138)がある。コンクリート碑(h140)には「昭和二年十二月／二号 陸軍用地」と刻まれる。

## 第2節 検出遺構と遺物

弘人屋敷跡では1,342基の遺構を検出した。遺構には性格の異なる数種類がある。内訳はSR(水路・流路)2条, SD(区画溝)22条, 埋葬遺構6基, SE(井戸)14基, SX(不詳(大型)土坑)11基, SK(土坑)244基, Pit(柱穴等)909基で, 他にKGとして調査した近代の土坑134基がある。KG出土遺物は包含層出土遺物に含め前節(3)で報告した。

検出した層位と出土遺物によれば弘人屋敷跡の遺構は10世紀～20世紀に亘って構築・廃絶されている。遺構の数は時期によって違いがあるが11～12世紀, 15世紀, 17世紀, 19世紀に構築・廃絶されたものが特に多い。ただし個々の遺構の時期については, 後世の攪乱で異なる時代の遺物が混ざったり, 遺物が出土しないなどして, 正確に把握できない場合が少なくない。そのため以下の報告では, 調査過程で整理した遺構番号にしたがって内容を報告する。

### (1) SR〈水路・流路〉

水路・流路にはSR1～4までがある。SR1・2・3は同一流路の各部なのでSRは全部で2条となる。SR1・2・3は15世紀に構築された水路である。SR4は11世紀頃に埋没したとみられる自然流路である。(5)で報告するSX6<sup>[111]</sup>もSR4よりやや新しい流路とみられる。

第2表 水路・流路遺構(SR)一覧

番号	断面形態	位置	軸方向	長さ(%)	幅(%)	深さ(%)	時期	①遺物数(掲載点数) ②確認面 ③～に切られる ④～を切る ⑤その他
SR1	隅丸台形	PQ・7-9 P-R・8-9	N-15°-W- N-80°-E	(1230)	240~360	35~87	15c後	①188(41). ②Ⅲ層/Ⅳ層. ③SK4上/SK5上/SK6上.
SR2	隅丸台形	PQ・4-7	N-73°-E	1000	240~360	40~62	15c後	①159(37). ②Ⅲ層/Ⅳ層. ③SK7上/SK8上/SK20上.
SR3	隅丸台形	PQ・2-3	N-86°-W	(580)	190~270	35~80	15c後	①93(5). ②Ⅳ層. ③SK12.
SR4	隅丸台形	DE・10	N-38°-E	(530)	(200)	45~65	10c後~11c	①16(2). ②Ⅳ層. ③SD25上/SK128上/SK184上/SK210上/SK246上.

\* ( ) 数字は残存値. \*\* ③④の「～」は③④に列記した遺構番号.

### SR1・2・3〈15世紀後半の水路〉(遺構:第14図<sup>[26]</sup>・PI.12～15<sup>[358-361]</sup>, 遺物:第15・16図<sup>[27-28]</sup>・PI.91～94<sup>[437-440]</sup>)

位置・調査経過 護岸工事を施した水路である。調査区西端からQラインに沿って東方向に約25m延びた後, 9ライン付近で南に向きを変えさらに6mほど延長し痕跡を消す。

C区(第5図<sup>[6]</sup>)調査において北壁沿いの深掘り調査を行った際, 灰色粘土層(ⅢF層)を除去した礫層(Ⅳ層)のレベルで砂混じりの褐灰色土層(SR1・2・3のA層)を確認した。さらに掘削を進めると褐灰色砂混り土層は礫層が露出する約100cmの深さまで下がり, また底付近からは獣骨等も出土した。水流により堆積したと考えられる褐灰色砂混り土層は調査C区北壁の広い範囲で確認され, 他箇所より深く落ち込む東・西の2つの区域をそれぞれSR1・SR2として調査を進めた。その後, 木の杭を打ち込んだ土手がSR1・SR2の各所で確認され, 遺構が人口の水路であることを確認した。拡張を繰り返して範囲を確認した結果, SR1・SR2は連結し, ひとつながりの遺構であることが明らかとなった。平成24年度には西側の延長部分にあたるコンクリート基礎内で水路の続きを確認し, これをSR3とした。

SR1・2・3の土手は礫層上に構築されているが, 水路の両岸では土手の外側覆土(B層)がⅢb層を覆っている。Ⅲb層の時期に遺構は構築され, 埋没後ⅢF層に覆われたと考えられる。SK4・SK5・SK6はSR1の上部, SK7・SK8・SK20はSR2の上部, SK12はSR3の上部の堆積層を掘削し構築された。

**形状・規模** 遺跡内で確認したのは、西側から流れ来て、調査区内で直角に曲がり、調査区南側へ流れ出ていく鉤形の水路である。覆土からは水流の方向を判断しがたく、東向き・南向きの水流方向は付近の河川の流れを根拠に想定した。遺跡内での総延長は約 30m で南側の延長は後世の削平により遺跡内で痕跡を消している。土手の外幅は 240～360cm，土手の内幅は 70～120cm である。水路底のレベルには高低差があり，SR1・SR2 の土手のある箇所が深く，土手のない中間箇所は浅い。SR1 土手箇所の最深部が標高 -40cm，SR2 土手箇所の最深部が標高 -40cm，SR1 南側は標高 -25cm，SR1 と SR2 の中間は標高 10cm，SR3 の底は -10cm である。すなわち西側から遺跡範囲内に流れ来た水路は SR2 地点で 30cm 深く下がってから東側で 50cm 上がり，さらに東側の SR1 地点で 50cm 下がり，南に流れを変えてから再び 15cm 上がる。底のレベル差は水流を滞らせる意図によるものと考えられる。

土手は礫層に木の杭を打込み，底に小枝を敷いた後，有機質を混ぜ込んだ粘土で固めて構築している。樹種鑑定の結果によれば杭はエゴノキ属やクスノキ属の材で，先端は削られて尖る。長いものは 80～116cm，太さは径 4～9cm であった。加工は様々で，先端だけを加工したものや全体を角柱状に削ったものなどがある。杭は隙間なくびっしりと打ち込まれており，所々に板材が横たえられていた。

**覆土** SR1 では南北(第 14 図 E-E')と東西(第 14 図 F-F')の長軸方向 2 箇所，SR2 では短軸方向(第 14 図 B-B')の 1 箇所，SR3 では短軸方向(第 14 図 A-A')の 1 箇所を覆土断面を観察した。SR1・2・3 の覆土は共通しており，土手を構築した粘土層(土手層)，水路を埋没させた土層(A 層)，土手の背後に堆積した土層(B 層)に分かれる。遺構の上部はⅢ F 層(基本層序<sup>[9]</sup>参照)，近世層(Ⅲ a 層)，近世盛土層が堆積する。

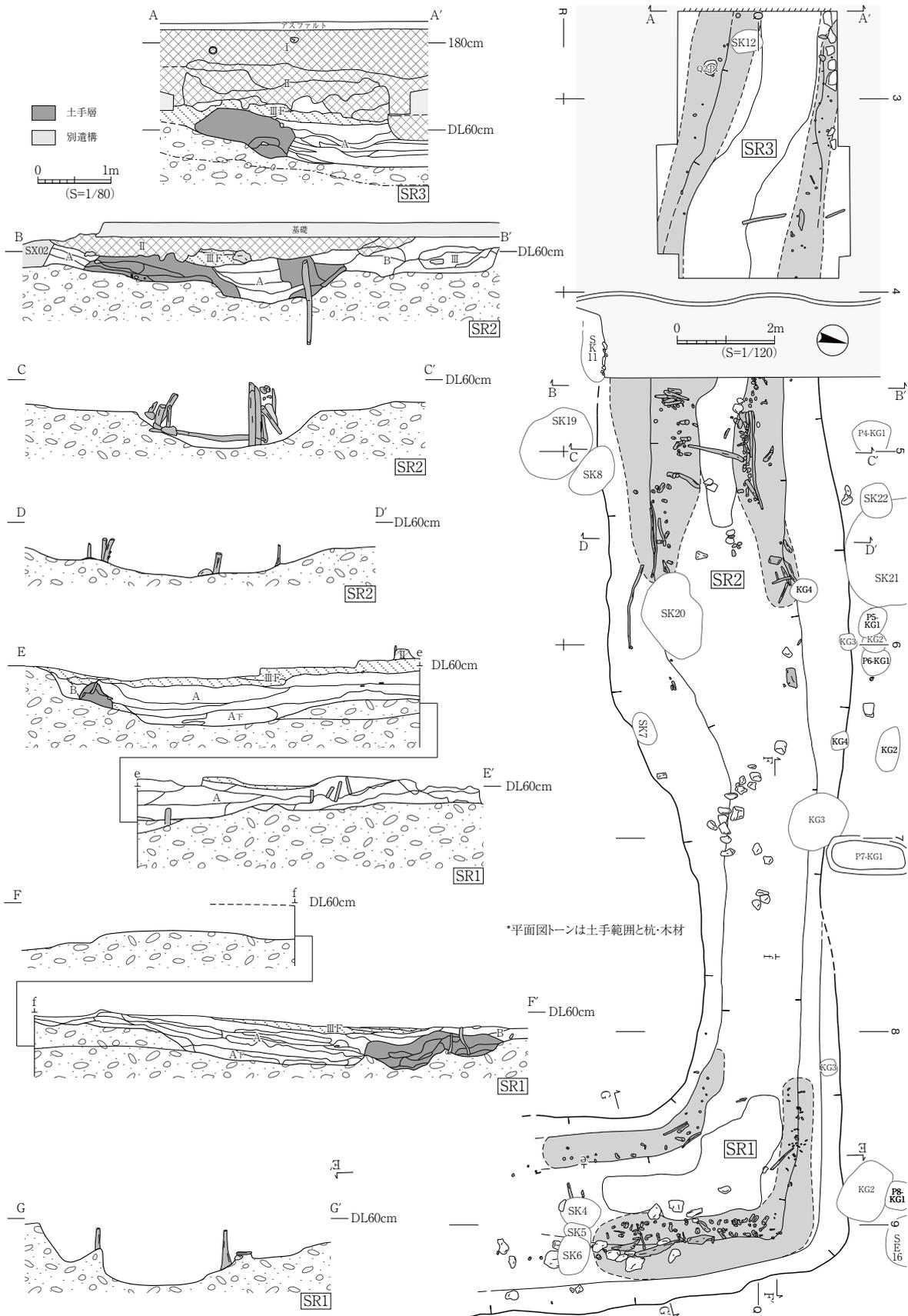
土手層は褐灰色の粘土層である。木杭・小枝と合わさって土手を構築する(Pl.15 ⑤⑥<sup>[361]</sup>)。土層は緻密であるが軟質である。水路側の土層は粘性が強いが，土手の芯部分では小枝などの有機質とともに砂が混じり粘性が弱い。

水路内を埋めた土層を A 層とする。A 層の大部分は灰オリーブ色砂や有機質が混ざる褐灰色土層で砂礫層を間に挟みながら重層的に堆積する。滞水によりグライ化した箇所もある。全体に締まりがあり粘性も強い。土壌分析では水生珪藻が確認されており流水環境で堆積したことが分かる。A 層の最下層には礫を多く含む黒褐色土層が堆積する。SR2 の西端では A 層の下位にハマグリの集中箇所があった。

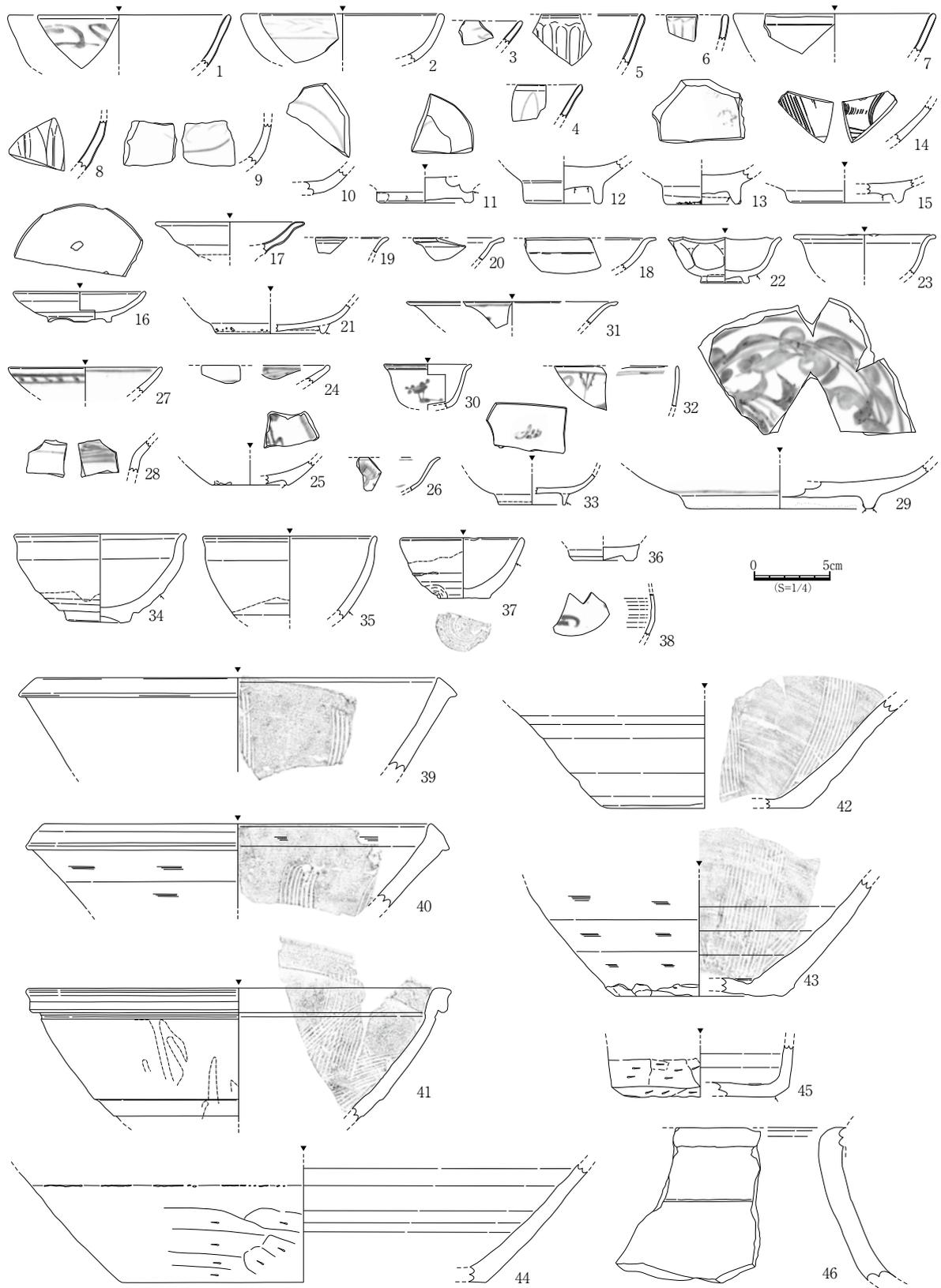
土手の背後に堆積した土層を B 層とする。褐灰色土層で木片や小礫を含む。砂はあまり含まない。グライ化した箇所もある。

**出土遺物** 440 点の遺物が出土した。SR1 が 188 点，SR2 が 159 点，SR3 が 93 点である。出土遺物の内訳は青磁 23 点，白磁 9 点，青花 9 点，染付 5 点，磁器 2 点，陶器 34 点，炆器 68 点，須恵器 33 点，瓦器 22 点，弥生土器 3 点，黒色土器 1 点，白色土器 2 点，土器 191 点，土製品 1 点，瓦 6 点，石製品 6 点，木製品 3 点，銭貨 2 点，鉄器 2 点，動物遺体 16 点，その他 2 点である。遺物の収拾は上部層，Ⅲ F 層，A・B 層，底，土手内に分けて行った。層位別の内訳はⅢ F 層 19 点，土手内 7 点，A・B 層 288 点，A 下層 23 点，底 103 点で，A 層と B 層は明確に区別していないが出土遺物の大部分は A 層から出土した。

図示した 83 点(1～83<sup>[27-28]</sup>)は，1～15 が青磁，16～23 が白磁，24～32 が青花，33 が磁器，34～38 が陶器，39～46 が炆器，47～55 が須恵器，56～60 が瓦器，61 が弥生土器，62～73 が土器，74 が土製品，75 が瓦，76～78 が石製品，79～81 が木製品，82・83 が銅銭である。



第14図 SR1・2・3平面図・断面図



第15図 SR1・2・3出土遺物



第16図 SR1·2·3出土遺物

1～13は龍泉窯の青磁・碗である。1～3は崩れた雷文, 4・5は丸彫り蓮弁文, 6は細蓮弁文, 7は波状口縁に線文, 8は鎬蓮弁, 9・11は篋彫り文様が施文される。12は高台内輪禿で, 13は内高台中位にまで釉が掛かる。1・6は15～16世紀, 2は15世紀後半～16世紀前半, 3・4は14世紀, 5・13は15世紀, 8は13世紀後半, 9は12世紀, 10は15世紀前半, 11は13世紀後半, 12は14～15世紀の製品である。14は同安窯の青磁・皿で13～14世紀の製品である。15は龍泉窯の青磁・皿で15世紀前半の製品である。16は中国の白磁・皿で15世紀の製品である。17～21は中国の白磁・皿で16世紀の製品である。22は中国の白磁・八角坏で15世紀の製品である。23は中国の白磁・小坏で16世紀の製品である。24・25は景德鎮の青花・皿で15世紀後半～16世紀前半の製品である。26は景德鎮の青花・皿で16世紀の製品である。27は漳州窯の青花・皿である。28は漳州窯の青花・皿で16世紀後半の製品である。29は漳州窯の青花・盤で16世紀末の製品である。30は景德鎮の青花・小坏である。31は景德鎮の青花・小坏で16～17世紀の製品である。32は景德鎮の青花・坏で16世紀の製品である。33は肥前の磁器・碗で17世紀の製品である。34は瀬戸の陶器・天目茶碗で16世紀末の製品である。35は唐津の陶器・天目茶碗で17世紀の製品である。36は瀬戸の陶器・天目茶碗で16世紀の製品である。37は唐津の陶器・小碗で17世紀の製品である。38は唐津の陶器・小壺で17世紀の製品である。39は備前の炆器・播鉢で14世紀中頃の製品である。40は備前の炆器・播鉢で14世紀後半～15世紀前半の製品である。41は須佐の炆器・播鉢で17世紀の製品である。42は備前の炆器・播鉢で15世紀後半の製品である。43は備前の炆器・播鉢で16世紀前半の製品である。44は備前の炆器・甕で中世の製品である。45は備前の炆器・水指で近世の製品である。46は常滑の炆器・大甕で14世紀の製品である。47は須恵器・蓋坏身で6世紀末～7世紀初の製品である。48は須恵器・高坏で6世紀の製品である。49は須恵器・蓋で古代の製品である。50は須恵器・皿で古代の製品である。51は須恵器・長頸壺で古代の製品である。52・53は須恵器・壺で古代の製品である。54・55は須恵器・甕で古代の製品である。56は和泉型の瓦器で12世紀後半の製品である。57～59は瓦器・三足鍋で13～14世紀の製品である。60は瓦器・角鉢とみられる。61は弥生土器・甕で弥生終末～古墳初の製品である。62は土器・坏で13世紀の製品とみられる。63は土器・坏で12世紀後半～13世紀前半の製品である。64は土器・坏で12世紀後半の製品である。65は土器・坏で中世の製品である。66は土器・坏皿で15世紀の製品である。67は土器・坏皿で中世の製品である。68は播磨型の土器・羽釜で15世紀前半の製品である。69は播磨型の土器・羽釜で15世紀の製品である。70は土器・鍋で16世紀の製品である。71は河内型の土器・羽釜で15世紀の製品である。72は土器・茶釜で16世紀の製品である。73は御厩系の土器・焙烙で19世紀の製品である。74は土製品・土錘である。75は平瓦で表裏面に縄目痕, 縄席文が残る。76は火成岩製の砥石である。77は砂岩製の砥石である。78はチャート製の小型石製品で2条の擦溝がある。79は木製品・農具とみられる。横楯のようにもみえるが3箇所穿孔がある。80は半円形の木製品で2箇所穿孔がある。81は棒状の木製品で端部近くに穿孔がある。82は銅銭・至和通寶である。83は銅銭・治平元寶である。動物遺体にウマ・ウシ, ヤマトシジミ・ハマグリ・ハイガイ等貝類がある(付編2<sup>[275]</sup>)。

各層の遺物には一定の時期的傾向がある。底・礫層出の遺物には弥生土器(61)や古墳時代～古代の須恵器(47・48・49・50・52・54・55)があり磨耗したものが多い。古代以前の遺物が礫層から出土するのは, 11世紀以前の遺跡地がまだ河川の影響を大きく受けていたことと関係する(第三章第1節<sup>[251]</sup>)。

土手層は水路の築造時期を示すが, 出土したウマ中手骨で測定した放射性炭素年代の15世紀後半が参考値となる(付編1<sup>[259]</sup>)。土手層出土の青磁・碗(13)は15世紀の製品でこの年代を補完する。

溝の覆土(A層)から出土した遺物には様々な時期のものが含まれるが16世紀に下るものはほとんどなく、水路は15世紀のうちに水路が埋没した可能性が高い。

埋没後の水路を覆ったⅢF層は遺跡全体を覆う基本層序のひとつである。SR1・2・3の上部ではⅢF層に帰属する遺物が収拾できた。青磁(2・6)・白磁(23)・青花(26・29・31・32)や炆器・播鉢(43)は製作時期が16世紀に下る資料であり、また瀬戸の陶器・天目茶碗(34)は16世紀末の製品である。その他に磁器・碗(33)や炆器・水指(45)など17世紀以降の製品を若干含んでいるが、ⅢF層が堆積した時期はおおよそ16世紀末と考えてよさそうである。

**時期** 15世紀後半の築造。SR1の土手層から収拾したウマの中手骨に対し放射性炭素年代測定を行った結果、cal AD1438 - cal AD1457の測定値を得た(付編1<sup>[259]</sup>)。土手層出土の青磁・碗(13)は15世紀代の製品である。遺構を覆うⅢF層からは16世紀末の天目茶碗(34)が出土した(Pl.15⑦<sup>[361]</sup>)。

**性格** 水路。

#### **SR4** (10世紀後半～11世紀の自然流路) (遺構:第22<sup>[40]</sup>・24<sup>[42]</sup>図・Pl.8<sup>[354]</sup>・16<sup>[362]</sup>, 遺物:第24図<sup>[42]</sup>・Pl.94<sup>[440]</sup>)

**位置・調査経過** DE・10グリッドに位置する。東西方向に延びるSD25の北壁で露出した覆土断面により遺構の存在を確認した。Ⅳ層で平面プランの検出を試みたが十分に捉えることができず、南北方向にセクション面を設定し、さらに調査区東壁で覆土断面を観察して遺構の立ち上がりを調査した。すると最初に確認した流路は別の流路に切られていることが判明した。しかしながら最初に確認した流路の北側方向への延長は確認できず、またこれを切って東西方向に流れる流路の西側への延長も確認できなかった。遺構の性格を十分に把握できなかったがこれらを合わせてSR4とする。

調査区東壁の覆土断面によればSR4はⅢe層中に形成され、Ⅲe層中で埋没する。砂礫層からなるSR4はⅢe層の一部と捉えることも出来る。

SR4は遺跡内で最古段階の遺構である。SD25に切られ、SK128・SK184・SK210・SK246はSR4の上部堆積層を掘削し構築された。

**形状・規模** 平面プランを明確に捉えることは出来なかったが、東西方向(N-38°-E)と南北方向に軸をもつ2つの流路とみられる。南北方向の流路は断面形が弓形であり、これを切る東西方向の流路の断面形は大きく開く隅丸台形である。遺存部分の幅は200cm、深さ45～65cm、残長は530cmである。

**覆土** SD25の北壁(Pl.16②<sup>[362]</sup>)、南北方向(第24図R4a-R4a')、調査区東壁(第24図R4b-R4b')で覆土断面を観察した。

下位に砂礫層、中位は砂層と砂礫層の互層、上位に褐灰色砂質シルト層が堆積している。南方向から運ばれた土砂によって埋没している。R4a-R4a'では重複関係が現れており、SD25北壁とR4a-R4a'は堆積に時間差があるが層序は酷似している。調査区東壁のR4b-R4b'ではSR4の堆積が基本層序Ⅲe層の内に収まることが分かる。

**出土遺物** 16点の遺物が出土した。出土遺物はすべて土器である。覆土一括で収拾した。

図示した2点(84・85<sup>[42]</sup>)は、84が輪高台の土器・坏で9～10世紀の製品である。85は回転篋切の平高台をもつ土器・坏で10世紀後半～11世紀前半の製品である。  
[観300]

**時期** 10世紀後半～11世紀に埋没。Ⅲe層で埋没する。出土遺物10世紀後半～11世紀の製品を含む。

**性格** 自然流路。

(2) SD〈区画溝および溝〉

溝はSD1～SD27までを調査した。SD4・20・21・26・27は名称の変更等により欠番とし、最終的には22条を溝と認定した。溝の時期を大きく区分すると古代、中世、近世に分かれる。古代の溝はSD12・SD13の2条である。中世の溝はSD2・SD3・SD5・SD6・SD7・SD8・SD9・SD11・SD22・SD23・SD24・SD25の12条、近世の溝はSD1・SD10・SD14・SD15・SD16・SD17・SD18・SD19の8条である。古代のSD12・SD13、中世のSD2・SD6・SD7・SD8・SD9・SD23、近世のSD1・SD14は区画溝であり、各時期で土地の内外の境界となった。軸方向には違いがあり、古代は北東－南西方向、中世・近世は東西方向である。中世の区画溝は追手筋など現在の街区に沿った方向性をもっており、近世城下町に基づく現在の区画の起源が中世にあったことを示唆する。SD8・SD9・SD17・SD23は同じ箇所に繰り返し掘削された区画溝であるが、高知城の東堀のラインに概ね合致しており、城の範囲が中世の土地利用と密接に関連したことを窺わせる。

第3表 溝(SD)一覧

番号	断面形態	位置	軸方向	長さ(㍍)	幅(㍍)	深さ(㍍)	時期	①遺物数(掲載点数) ②確認面 ③～に切られる ④～を切る ⑤その他
SD1	低台形	J-M・2	N-12°-W~ N-28°-W	(1350)	72~116	12~18	近世	①108(6). ②盛土層. ④SD2.
SD2	台形	K・2-11	N-77°-E	(3300)	150~ 162	70~80	15c前	①437(28). ②Ⅲb層. ③SD1/SD6/SD7/SD8/SD9/SD10/SE1/ SX5/SK51/SK52/SK53/SK58/SK63/SK75/SK76/SK104/SK123. ④SD12/SD13/SK39/SK94/SK110.
SD3	台形	K5	N-84°-E	(320)	36~46	19~49	中世	①30(2). ②Ⅲb層. ③K6-P17. ④SD12上.
SD5	箱形	M7	N-16°-W	150	30~45	30~36	中世カ	①1. ②Ⅲb層.
SD6	隅丸台形	G-K・8	N-20°-W~ N-13°-W	(1940)	28~41	17~35	15c	①27. ②Ⅲb層. ③SD7/SX4/SK75/SK108/SK139. ④SD2/SD12/ SD13/SK116.
SD7	弓形	F-K・8	N-14°-W	(1860)	27~110	29~35	15c	①29(2). ②Ⅲb層. ③SK75/SK108/SK139/SK180. ④SD6/SD12/ SD13/SK116.
SD8	隅丸台形	B-K・9	N-13°-W	(3500)	150~ 230	20~50	15c末	①451(28). ②Ⅲb層. ③SE3/SE4/SD9/SD14/SD16/SD17/SX4/ SX5/SK75/SK88/SK183. ④SD2/SD12/SD13/SD22/SD23/SX6/ SX8/SK116/SK180.
SD9	台形	G-K・9-10	N-15°-W~ N-82°-E	(2200)	33~164	24~58	16c	①492(13). ②Ⅲb層. ③SD10/SE4/SX5/SK109. ④SD2/SD8/ SD13/SD23/SX6.
SD10	台形	K10	N-12°-W	407	52~75	27~38	近世	①62(5). ②ⅢF層. ④SD2/SD9/SX5/SK83/SK84/SK91.
SD11	台形	M9	N-13°-W	126	45	21	中世カ	①0. ②Ⅲ層. ③M9-P2. ④SX4.
SD12	隅丸台形	H9~M3	N-32°-E~ N-42°-E	(2900)	35~157	24~40	11~12c	①204(16). ②Ⅲc層. ③SD2/SD3/SK51/SK54/SK55/SK94/ SK96/SK98/SK100/SK107/SK112/SK116/SK121.
SD13	隅丸台形	I10~K7	N-44°-E	(1880)	90~210	30~74	11~12c	①628(26). ②Ⅲc層. ③SD2/SD6/SD7/SD8/SD9/SK66/SK108. ④SK70.
SD14	隅丸台形	C・3-10	N-76°-E	(3000)	98~213	15~40	近世	①233(5). ②盛土層. ③SK141/SK144/SK148/SK152. ④SD8/ SD17/SD22/SD23/SX8/SK197/SK227/SK228/SK239/SK242/ SK243/SK260/SK278.
SD15	台形	C・7-8	N-73°-E	(474)	125~145	20~30	近世	①17. ②Ⅲ層. ③SK131. ④SK144.
SD16	縦長台形	D・9-10	N-47°-E	(310)	33~46	50~60	近世	①10. ②盛土層. ③SE3. ④SD8/SD17/SK153.
SD17	台形	B-F・9	N-3°-E~ N-25°-W	(1300)	75~155	33~55	近世	①105(8). ②盛土層. ③SD14/SD16/SE3. ④SD8/SD22/SD23/ SX8/SK153/SK179/SK182/SK186/SK208/SK246.
SD18	台形	E・5-9	N-67°-E	(1700)	26~95	29~60	近世	①312(17). ②盛土層. ④SK142/SK181/SK185/SK188/SK191/ SK192/SK232.
SD19	弓形	C10	N-81°-E	(210)	19~33	7~14	近世	①1. ②盛土層. ④SD22上.
SD22	弓形	C・9-10	N-56°-E	(590)	122~139	14~41	中世カ	①43(3). ②Ⅲb層. ③SD8/SD14/SD17/SD19/SK186/SK197. ④SX8/SK243.
SD23	弓形	B-H・9	N-20°-W	(2200)	167~ 240	42~80	15c前	①66(6). ②Ⅲb層. ③SD8/SD9/SD14/SD17/SD18/SD24/SE3/ SE4/SK132/SK134/SK182/SK208. ④SD25/SX6/SX8.
SD24	弓形	C8	N-10°-W	(320)	55~88	11~25	中世	①3. ②Ⅳ層. ③SD14/SK132/SK134. ④SD23/SK219/SK221.
SD25	弓形	EF・9-10	N-75°-E	(340)	200	58~68	中世	①15(1). ②Ⅲ層. ③SD8/SE10/SE15. ④SR4.

\* ( ) 数字は残存値. \*\* ③④の「~」は③④に列記した遺構番号.

**SD1** (近世の区画溝) (遺構:第18・19<sup>[34]</sup>図・Pl.16<sup>[362]</sup>, 遺物:第17図・Pl.94<sup>[440]</sup>)

**位置・調査経過** 南北方向にのびる溝である。J～M・2グリッドに位置する。盛土層で確認した。南側の延長は近代コンクリート基礎に切られる。北側の一部を攪乱に削り取られる。SD2を切る。

**形状・規模** 長軸方向はおよそ南北方向(N-12°-W)である。溝の断面形は低平な台形で、幅72～116cm、深さ12～18cm、長さは13.5mまでを確認した。北端には立ち上がりがあり、南側は近代基礎で断絶する。溝は直線ではなく北端が西方向(N-28°-W)に曲がる。

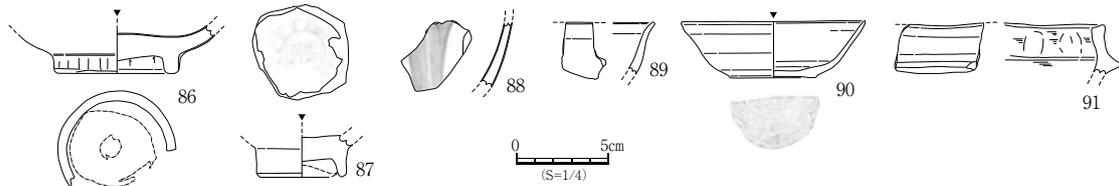
**覆土** K・L・MラインとJグリッドで短軸方向の覆土断面を観察した。図示した1-1' (第19図)によれば埋没は西側からで、下位に暗灰黄色土層(3・4層)、上位に褐灰色土層(1・2層)が堆積する。いずれも微量の炭化物・マンガン粒を含み、やや締まりがない。下層ほど粘性が強い。

**出土遺物** 108点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁4点、染付1点、磁器1点、陶器4点、炆器3点、瓦器3点、土器92点である。遺物はグリッド別に收拾した。グリッド別の出土点数はJグリッド17点、Kグリッド37点、Lグリッド26点、Mグリッド21点であり目立った偏りはない。

図示した6点(86～91)は、86～88が龍泉窯の青磁・碗である。89は中国製の白磁・碗である。90は土器・<sup>[観300-301]</sup>坏皿で15世紀の製品である。91は播磨型の土器・羽釜で15世紀後半の製品である。

**時期** 近世。遺構構築面の盛土層は近世の整地層である。出土遺物には混入がある。

**性格** 屋敷の西境界を区画する溝。ただし整然とした区画ではない。



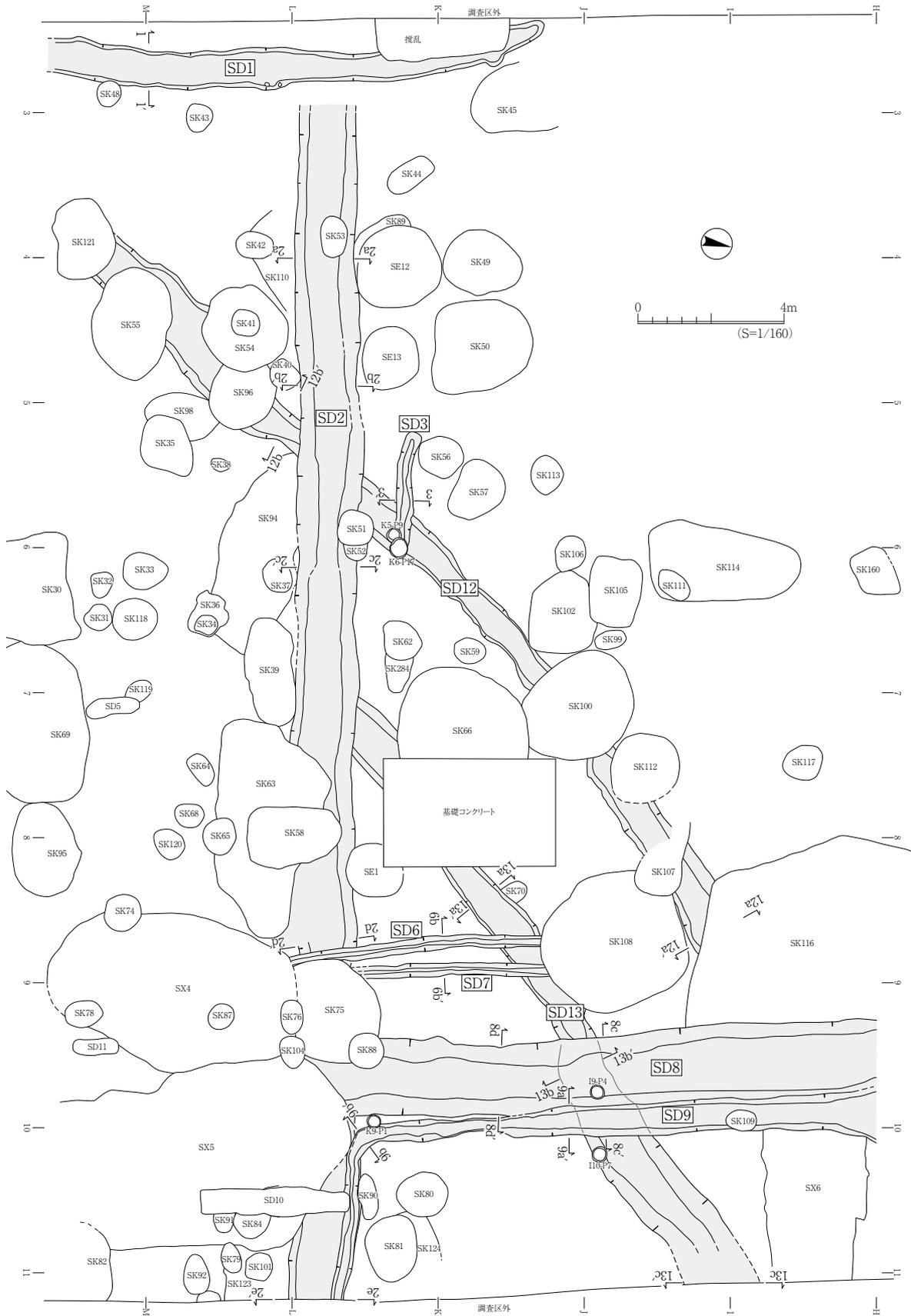
第17図 SD1 出土遺物

**SD2** (15世紀前半の区画溝) (遺構:第18・19図<sup>[33-34]</sup>・Pl.17<sup>[363]</sup>, 遺物:第20図<sup>[35]</sup>・Pl.94・95<sup>[440-441]</sup>)

**位置・調査経過** 東西にのびる溝である。Kグリッド南寄りの位置で調査区内を東西に貫く。Ⅲb層で検出した。帯状のプランは早くから認識していたが、重複関係が複雑な上に、覆土と地山の境界が極めて不明瞭であった。まずK6グリッドで部分的に覆土を掘削し、幅150cm・深さ80cmの規模および台形の断面形態を確認したが、覆土と地山の境界は区分が難しく、当初は正確な掘方を把握できずにいた。一定間隔を置いた遺存状態のよい5つの箇所では覆土断面を観察しながら掘削を進めた。

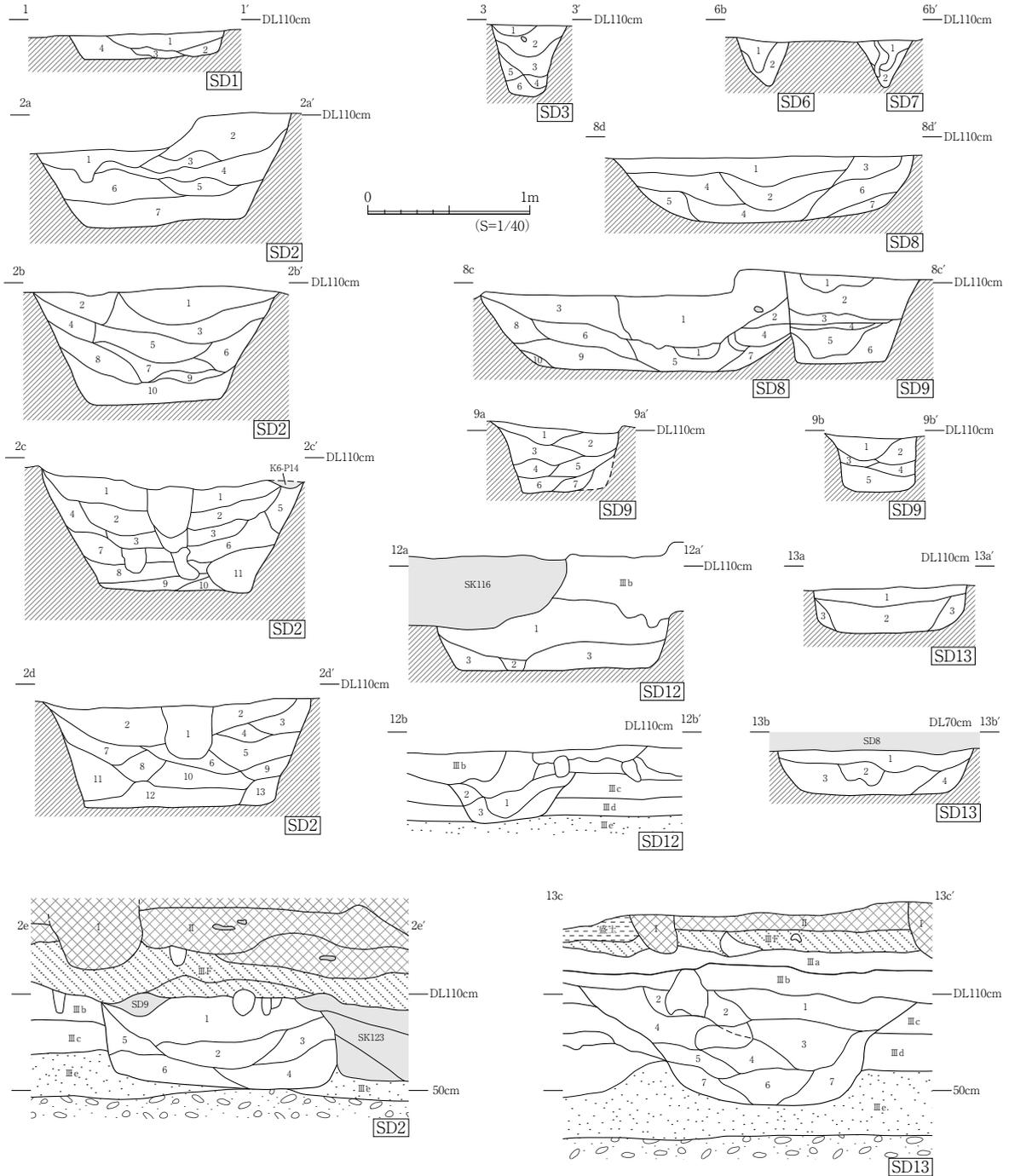
SD2は調査区を東西に貫くため重複関係が複雑である。SD2に切られる遺構はSD12・SD13・SK39・SK94・SK110である。SD2を切る遺構はSD1・SD6・SD7・SD8・SD9・SD10・SE1・SX5・SK51・SK52・SK53・SK58・SK63・SK75・SK76・SK104・SK123である。SD2に切られる遺構は11～12世紀のものでSD2が中世の遺構のなかでは比較的是やい時期のものであることが分かる。

**形状・規模** 長軸はおよそ東西方向(N-77°-E)である。現在の街区に沿って設定した調査区グリッドに沿っている。溝の断面は台形で、上幅が150～162cm、底幅が76～120cm、深さが70～80cmである。東側ほど溝の幅が広くまた深い。長さは33mまでを確認した。調査区東壁では覆土の断面が確認でき東方向にさらに延長する。調査区西壁では盛土層に削平され、また下部土壌がつよくグライ化しており、覆土断面を確認することが出来なかったが、西方向へのさらなる延長が予想される。



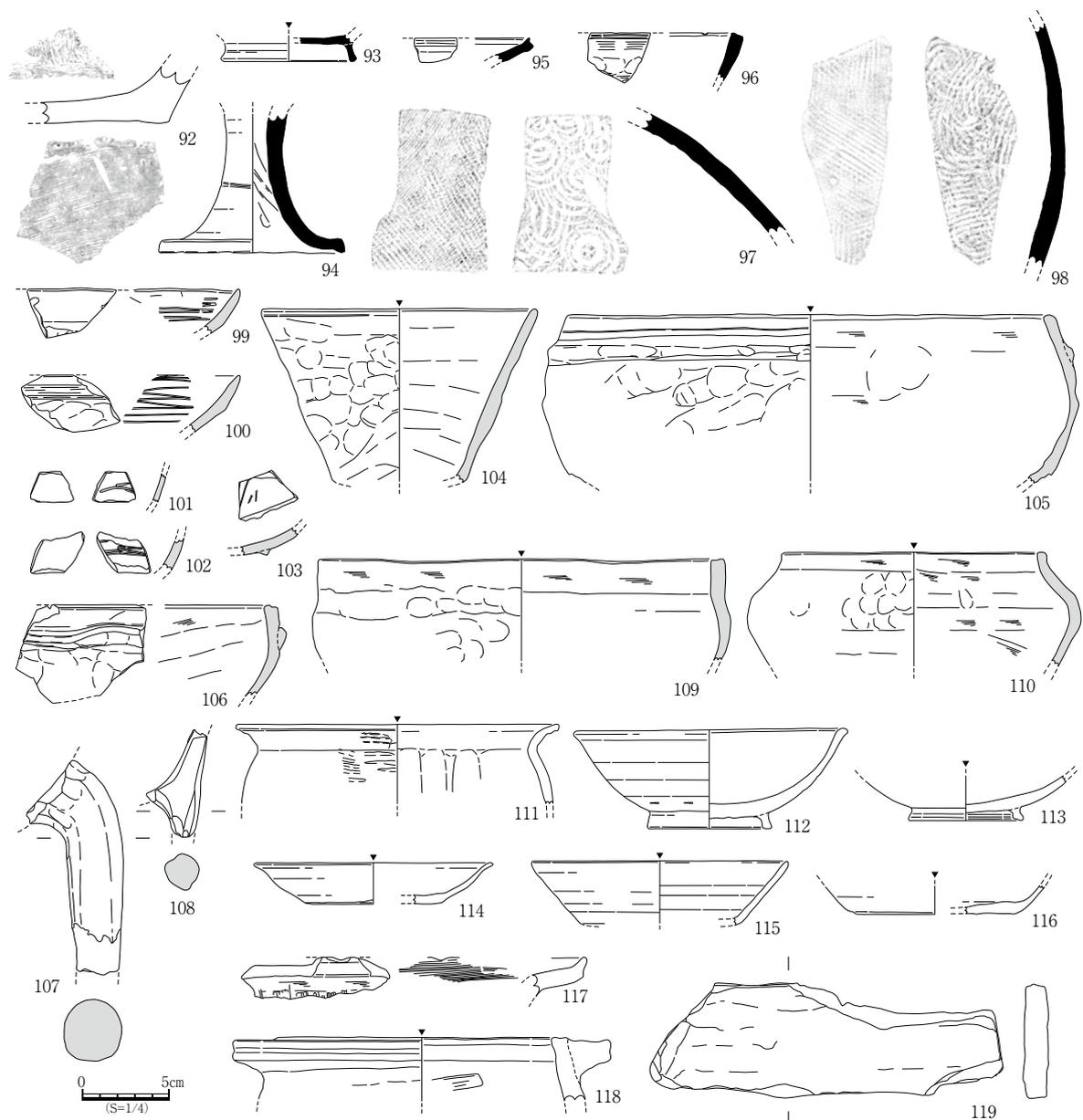
第18図 SD1・SD2・SD3・SD6・SD7・SD8・SD9・SD12・SD13平面図

覆土 1 グリッドに1箇所程度の割合で覆土断面を観察した。図示したのは4ライン(第19図2a-2a'), 5ライン(第19図2b-2b'), 6ライン(第19図2c-2c'), 9ライン付近(第19図2d-2d'), 調査区東壁(第19図2e-2e')の覆土断面図である。いずれも西側からみた断面である。30m範囲の堆積であるため覆土の特徴はそれぞれ異なる。総じて基本層序Ⅲ層に起源する褐灰色シルト層が堆積しており、東側ほど砂質傾向が強い。顕著ではないが埋没は北側から始まったようである。埋没時に水流はなかったものと判断される。



第19図 SD1・SD2・SD3・SD6・SD7・SD8・SD9・SD12・SD13覆土断面図

2a-2a'は上層・下層に分かれる。上層(1~5層)は灰褐色土が中心でマンガン粒が目立つ。下層(6~7層)はより色調が暗く少量の炭化物を含む。2b-2b'は上層・下層に分かれる。上層(1~6層)は褐灰色土が中心で1層には砂が混じる。下層(7~10層)は灰色土が中心で7・8層には焼土が混じる。2c-2c'は上層・下層に分かれる。上層(1~4層)は褐灰色土が中心でマンガン粒や小石が目立つ。下層(5~11層)は褐灰~褐色土が中心で11層には有機物が混じる。2d-2d'は上層・中層・下層に分かれる。上層(1~6層)は灰褐~黄褐色土が中心でマンガン粒が目立つ。中層(7~10層)は褐灰~暗褐色土が中心で下部に鉄分の凝集がみられる。下層(11~13層)は灰黄褐色土が中心で小石が混り鉄分の凝集がみられる。調査区東壁の2e-2e'ではSD2がⅢb層を掘削しⅢF層に覆われたことを確認した。2e-2e'は上層・中層・下層に分かれる。上層(1・2層)は褐灰色土層でマンガン粒や砂を含む。中層(3・4層)は褐灰色土が中心で砂を含む。下層(5・6層)は暗褐色砂質土を中心とする。



第20図 SD2出土遺物

出土遺物 437点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は炆器3点, 須恵器10点, 瓦器42点, 弥生土器1点, 白色土器22点, 土器356点, 石製品2点, 鉄器1点である。遺物の収拾は水平位置ではグリッド別, 垂直位置では深さ40cmを基準に上層・下層に分けて行った。グリッド別の内訳は4グリッド35点, 5グリッド51点, 6グリッド59点, 7グリッド178点, 8グリッド62点, 9グリッド17点である。層位別の内訳は上層34点, 下層15点で, その他に最下層2点, 底2点がある。

図示した28点(92~119<sup>[35]</sup>)は, 92が炆器, 93~98が須恵器, 99~110が瓦器, 111が弥生土器, 112~118が土器, 119が石<sup>[観301]</sup>である。

92は備前焼の炆器・鉢で中世の製品である。93は須恵器・坏である。94は須恵器・高坏で7世紀の製品である。95は須恵器・細頸壺である。96は須恵器・鉢である。97・98は須恵器・甕で古代の製品である。99・100は楠葉型の瓦器・塀で13世紀の製品である。101~103は瓦器・塀で, 103は13世紀の製品である。104は瓦器・鉢である。105~108は瓦器・三足鍋で13~14世紀の製品である。109・110は土佐型の瓦器・鍋で14~15世紀の製品である。111は弥生土器・甕で弥生時代終末期の製品である。112は在地の土器・輪高台塀である。113は京都系の土器・輪高台塀である。114は土器・皿で古代の製品である。115は土器・皿である。116は土器・皿で古代の製品である。117は土器・甕で9~10世紀の製品である。118は摂津の土器・羽釜で10~11世紀の製品である。119は板状の結晶片岩である。

時期 15世紀前半。出土遺物には混入があるが最も新しいのは15世紀の製品である。SD2を切る溝(SD6・SD7・SD8・SD9)は15世紀後半以降に構築・廃絶されている。

性格 区画溝。地形が低くなる境界部分にあたる。現在の追手筋に平行する。

**SD3**〈中世の溝〉(遺構:第18・19図<sup>[33-34]</sup>・Pl.18<sup>[364]</sup>, 遺物:第21図・Pl.95<sup>[441]</sup>)

位置・調査経過 東西にのびる短い溝である。K5グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SD12の上部堆積層を掘削し構築される。東端をK6-P17に切られる。

形状・規模 長軸は東西方向(N-84°-E)である。溝の断面は縦長の台形で幅36~46cm, 深さ19~49cmである。長さは320cmまでを確認した。西端は立ち上がるが東側への延長は認められない。

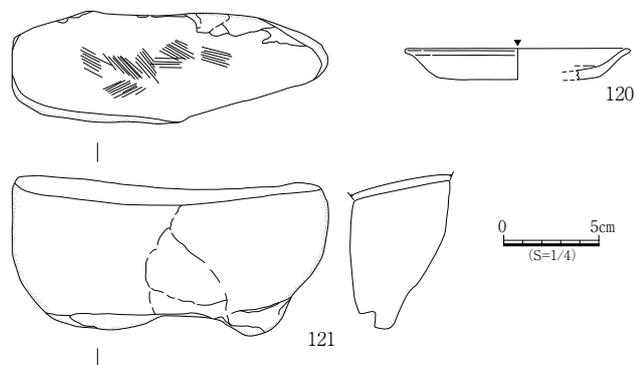
覆土 中間位置の短軸方向で覆土断面を観察した(第19図3'3')。上層・下層に分かれる。上層(1~4層)は灰褐色土層で3~4層では鉄分が凝集する。下層(5~6層)は褐灰色砂質シルト層で鉄分が凝集する。

出土遺物 30点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は陶器1点, 白色土器1点, 土器26点, 石製品1点, 鉄器1点である。覆土と内部のピットに分けて遺物を収拾したが有意な違いは認められない。

図示した2点(120・121)は, 120が土器・皿<sup>[観301-302]</sup>で古代の製品である。121は砂岩製の砥石とみられる。

時期 中世。Ⅲb層で構築された。出土遺物には混入がある。

性格 溝。軸は中世軸である。



第21図 SD3出土遺物

**SD5〈溝〉** (遺構:第106図<sup>[149]</sup>・Pl.18<sup>[364]</sup>)

**位置・調査経過** 南北にのびる短い溝である。M7グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。単独で重複関係はない。

**形状・規模** 長軸は南北方向(N-16°-W)である。溝の断面は箱形で幅30~45cm, 深さ30~36cm, 長さは150cmである。

**覆土** 中間位置で短軸方向の覆土断面を観察した(第106図A-A')。2層に分かれる。1層は灰黄褐色土層, 2層は灰褐色土層でいずれもマンガン粒を含む。

**出土遺物** 覆土から土器片1点が出土した。細片につき図示していない。

**時期** 中世か。遺構構築面がⅢb層で, 軸方向も中世軸である。

**性格** 溝。

**SD6〈15世紀の区画溝〉** (遺構:第18<sup>[33]</sup>・19<sup>[34]</sup>・22<sup>[40]</sup>・24<sup>[42]</sup>図, Pl.18・19<sup>[364-365]</sup>)

**位置・調査経過** 南北にのびる溝である。G~K・8グリッドに位置する。Hラインを境界とする調査E・F区にまたがっており, 南・北を別々に調査した。E区ではⅢb層で確認し, F区では盛土除去後のⅢb層で確認した。SD7と同様, Hグリッドでは連続を確認できなかったが南北で確認した溝は一連のものであると判断する。重複関係が多い。SD6に切られる遺構はSD2・SD12・SD13・SK116で, SD6を切る遺構はSD7・SX4・SK75・SK108・SK139である。

**形状・規模** 長軸は南北方向(N-13~20°-W)である。SD7と同様, 北側は西側に, 南側は東側にやや曲がる。溝の断面は隅丸台形だが南側ではV字形に近い。幅は28~41cm, 深さは17~35cmである。長さは19.4mまでを確認した。北は攪乱, 南はSX4により断絶する。他の南北軸の区画溝と同様に南側の規模が小さく, 上部が削平された可能性がある。

**覆土** 北側では南寄りの箇所(第24図6a-6a')でSD7と共に短軸方向の覆土断面を観察した。南側では中間(第19図6b-6b')と南寄りの2箇所短軸方向の覆土断面を観察した。箇所により溝の規模・形態が大きく異なり覆土にも違いがある。共通して東から埋没したようである。

6a-6a'では上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は山土粒を含む黒褐色土層で1層は粗質で有機質を含み, 2層では鉄分の凝集がみられる。下層(3・4層)のうち3層は暗灰黄色シルト層で山土粒を含み, 4層は黒褐色砂質シルト層で山土粒・有機質を含む。6b-6b'では2層を確認した。いずれもシルト質土層で1層は灰褐色土層, 2層は褐灰色土層で砂が混じる。

**出土遺物** 27点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は炆器1点, 白色土器6点, 土器20点である。遺物はグリッド別に收拾した。グリッド別の内訳はGグリッド2点, Kグリッド11点である。規模の小さな南側に遺物がより多い。

**時期** 15世紀。SD2とSD7・SX4の間に構築・廃絶された。出土遺物には混入がある。

**性格** 区画溝。南北軸の溝のなかでもSD23と軸方向に近い。

**SD7〈15世紀の区画溝〉** (遺構:第18<sup>[33]</sup>・19<sup>[34]</sup>・22<sup>[40]</sup>・24<sup>[42]</sup>図・Pl.18・19<sup>[364-365]</sup>, 遺物:第24図<sup>[42]</sup>・Pl.95<sup>[441]</sup>)

**位置・調査経過** 南北にのびる溝である。F~K・8グリッドに位置する。Hラインを境界とする調査E・F区にまたがっており, 南・北を別々に調査した。E区ではⅢb層で確認し, F区では盛土除去後のⅢb層で確認した。Hグリッドで途切れているが, 南北で確認した溝は一連のものであると判断した。

SD7の重複関係は複雑である。SD7はSD6・SD12・SD13・SK116を切り、SK75・SK108・SK139・SK180に切られる。

**形状・規模** 長軸は南北方向(N-14°-W)である。SD6と同様、北側は西側に、南側は東側にやや曲がる。溝の断面は弓形だが、南側はV字形に近い。幅は27~110cm、深さは29~35cmである。長さは18.6mまでを確認した。北側はSK133、南側はSK75・SX4により断絶する。他の南北軸の溝と同様、南側の規模が小さい。上部が削平された可能性がある。

**覆土** 北側では南寄りの箇所(第24図6a-6a')でSD6と共に短軸方向の覆土断面を観察した。南側では中間(第19図6b-6b')と南寄りの2箇所短軸方向の覆土断面を観察した。箇所により溝の規模・形態が大きく異なり覆土にも違いがある。

6a-6a'では上層・中層・下層に分かれる。上層(1・2層)は黒褐色土層で1層は粗く山土粒や有機質が混じる。2層は炭化物を含み鉄分の凝集がみられる。中層(3・4層)は褐灰色土層で有機質が混じる。下層(5層)は黒褐色シルト層である。6b-6b'では2層を確認した。1層は暗褐色土層、2層は褐灰色土層で砂が混じる。

**出土遺物** 29点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白色土器4点、土器25点である。埴、坏皿、甕の破片が出土した。遺物はグリッド別および覆土一括で収拾した。グリッド別の内訳はGグリッド5点、Jグリッド5点で目立った偏りはない。

図示した2点(122・123<sup>[42]</sup>)は、122が京都系の土器・埴で11~12世紀の製品である。123は土器・皿<sup>[302]</sup>で中世の製品である。123は外底に敷物の痕跡が認められる。

**時期** 15世紀。SD2・SD6とSX4の間に構築・廃絶された。11~12世紀代の遺物は混入と考えられる。  
**性格** 区画溝。南北軸の中でもSD23に軸方向に近い。

### **SD8**〈15世紀末の区画溝〉(遺構:第18<sup>[33]</sup>・19<sup>[34]</sup>・22<sup>[40]</sup>・23<sup>[41]</sup>・24<sup>[42]</sup>図・Pl.20・21<sup>[366-367]</sup>, 遺物:第25図<sup>[43]</sup>・Pl.95~97<sup>[441-443]</sup>)

**位置・調査経過** 南北にのびる溝である。B~K・9グリッドに位置する。Hラインを境界とする調査E・F区にまたがっており南・北を別々に調査した。E区ではⅢb層で確認し、F区では盛土除去後のⅢb層で延長部分を確認した。重複関係が多い。SD8に切られる遺構はSD12・SD13・SD22・SD23・SX6・SX8・SK116・SK180で、SD8を切る遺構はSD9・SD14・SD16・SD17・SE3・SE4・SX4・SX5・SK75・SK88・SK183である。SD2との重複関係には確証がないが出土遺物などから考えるとSD8がSD2を切る可能性が高い。

**形状・規模** 長軸は南北方向(N-13°-W)である。ほぼグリッドラインに沿うが北側がやや西に曲がる。溝の断面形は隅丸台形で、平らな底から丸みをもって立ちあがる。上幅は150~230cm、底幅は100~200cm、深さは20~50cmである。長さは35mまでを確認した。相対的に中央付近の幅が広い。調査区北壁に覆土断面が確認できさらに北側に延長する。南側はSX4・SX5により断絶する。南側へのさらなる延長は確認できない。他の南北軸の溝とは異なり南北の規模差がみられない。

**覆土** 調査区北壁(第24図23a-23a'), Eグリッド(第24図8a-8a'), Gグリッド(第24図8b-8b'), Iグリッド(第19図8c-8c'), Jグリッド(第19図8d-8d')の5箇所短軸方向の覆土断面を観察した。各所で覆土の質は異なるが、総じてⅢ層に起源する土壌である。Hラインを境界に南側では暗褐色~褐灰色シルト質の傾向があり、北側ではグライ化が進み礫混入の割合が多いようである。埋没のパターンは一定でないが、東から埋没が始まる箇所が多い。

23a-23a'では上層・中層・下層に分かれる。遺構上部はⅢF層に覆われる。上層(1層)は黒灰色粘質シルト層で有機質・小石を含む。中層(2~4層)は黒灰色砂質シルト層で礫・山土粒・有機質を含む。下層(5~7層)は褐灰色土層で小石・有機質を含み鉄分の凝集がみられる。

8a-8a'では上層・下層に分かれる。遺構上部は近世盛土層に覆われている。上層(1~3層)は黒褐色土層で、2層は砂礫と互層をなし、3層は砂質シルト層で鉄分の凝集がみられる。下層(4~7層)は褐灰~灰色土層で小石を含む。5・6層は砂質シルト層である。

8b-8b'は上層・下層に分かれる。上層(1~5層)は褐灰色シルト層で炭化物・小石・有機質を含む。下層(6~11層)は灰色粘質シルト層で鉄分の凝集がみられる。

8d-8d'では上層・中層・下層に分かれる。上層(1層)は黄灰色土層で炭化物・焼土・マンガン粒を含む。中層(2~4層)は灰褐色土が中心で2・4層はマンガン粒を含み、3層は山土粒を含む。下層(5~7層)では5層が黄灰色土層でマンガン粒を含み、6層が灰褐色土層で山土粒を含み、7層が褐灰色土層でマンガン粒を含む。

8c-8c'では上層・中層・下層に分かれる。上層(1・2層)は黒褐色土層で炭化物・焼土を含む。中層(3~6層)は灰褐~褐灰色土層で炭化物・マンガン粒・砂を含み、4層では鉄分の凝集がみられる。下層(7~10層)は褐灰色土層で7・9層は砂を含む。

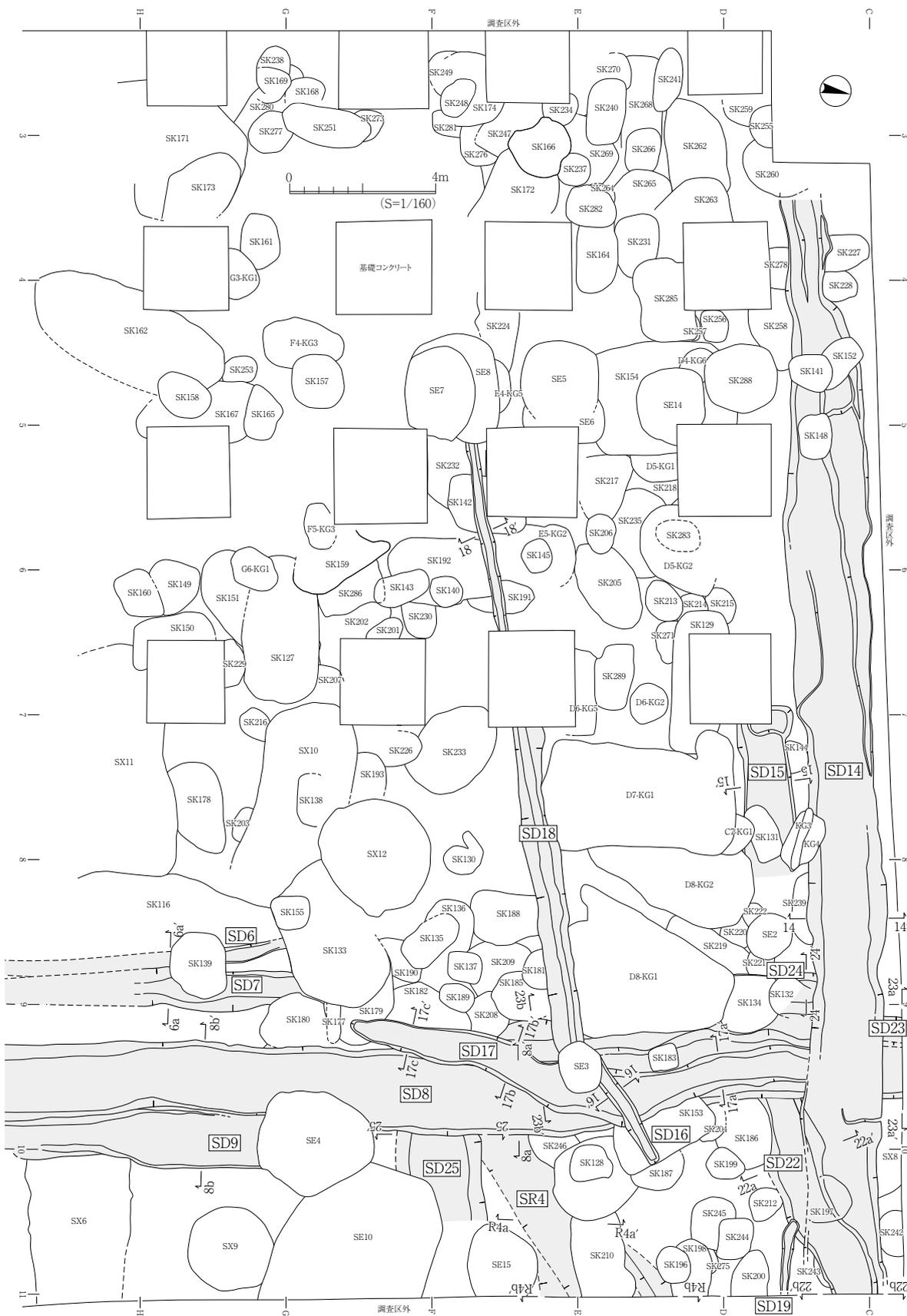
**出土遺物** 451点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁5点、白磁1点、陶器5点、炆器21点、須恵器17点、瓦器36点、瓦5点、白色土器24点、土器331点、土製品1点、石製品1点、銭貨1点、銅製品1点、動物遺体2点である。遺物は、水平位置ではグリッド別に、垂直位置では覆土を上層・下層ないし上層・中層・下層に分けて収拾した。他は覆土一括で収拾した。グリッド別の内訳はC・Dグリッド25点、Eグリッド48点、Fグリッド17点、Gグリッド39点、Hグリッド47点、Iグリッド104点、Jグリッド24点、Kグリッド35点である。層位別の内訳は上層50点、中層1点、下層33点、最下層2点である。

図示した28点(124~151<sup>[43]</sup>)は、124が青磁、125が白磁、126~130が炆器、131~135が須恵器、136~139が瓦器、140~144が土器、145が土製品、146~149が瓦、150が銅銭、151が銅製品である。  
[観302-303]

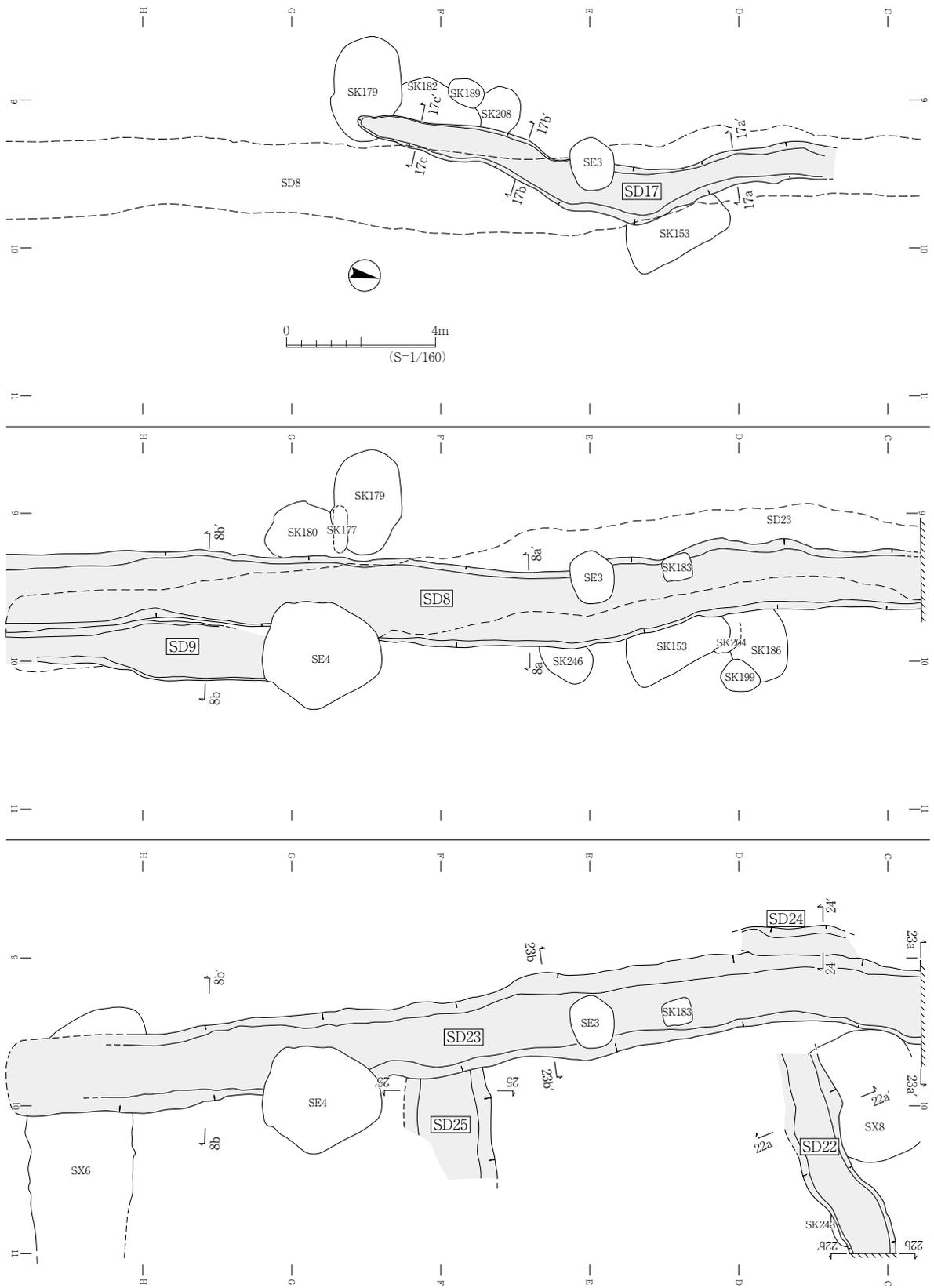
124は龍泉窯の青磁・碗で16世紀の製品である。125は中国の白磁・口禿皿で14世紀の製品である。126は備前の炆器・大鉢である。127~130は備前の炆器・播鉢で、127は14世紀後半~15世紀前半、128は15世紀後半、129は15世紀末の製品である。131は須恵器・坏蓋、132は須恵器・坏、135は須恵器・壺でいずれも古代の製品である。133は東播系の須恵器・鉢で12世紀の製品である。134は東播系の須恵器・捏鉢である。136は和泉型の瓦器・塀で13世紀の製品である。137は瓦器・鉢である。138は土佐型の瓦器・鍋で14~15世紀の製品である。139は瓦器・茶釜で外胴に弧線が描かれる。140は土器・鉢で古墳時代の製品である。141は土器・甕で10世紀頃の製品である。142は播磨型の土器・羽釜で15世紀の製品である。143は土器・羽釜で搬入品とみられる。144は土器・鍋とみられる。145は土製品・土錘である。146は布目痕・縄目痕が残る古代の瓦である。147・148は凹面に細布目が残る平瓦である。149は平瓦である。150は銅銭・方孔円銭である。151は銅製品・金具である。動物遺体にはウマ・ウシがある(付編2<sup>[275]</sup>)。

**時期** 15世紀末。SD2とSD9の間に構築・廃絶された。出土遺物には混入があるが、15世紀末の炆器・播鉢(129)などを含む。

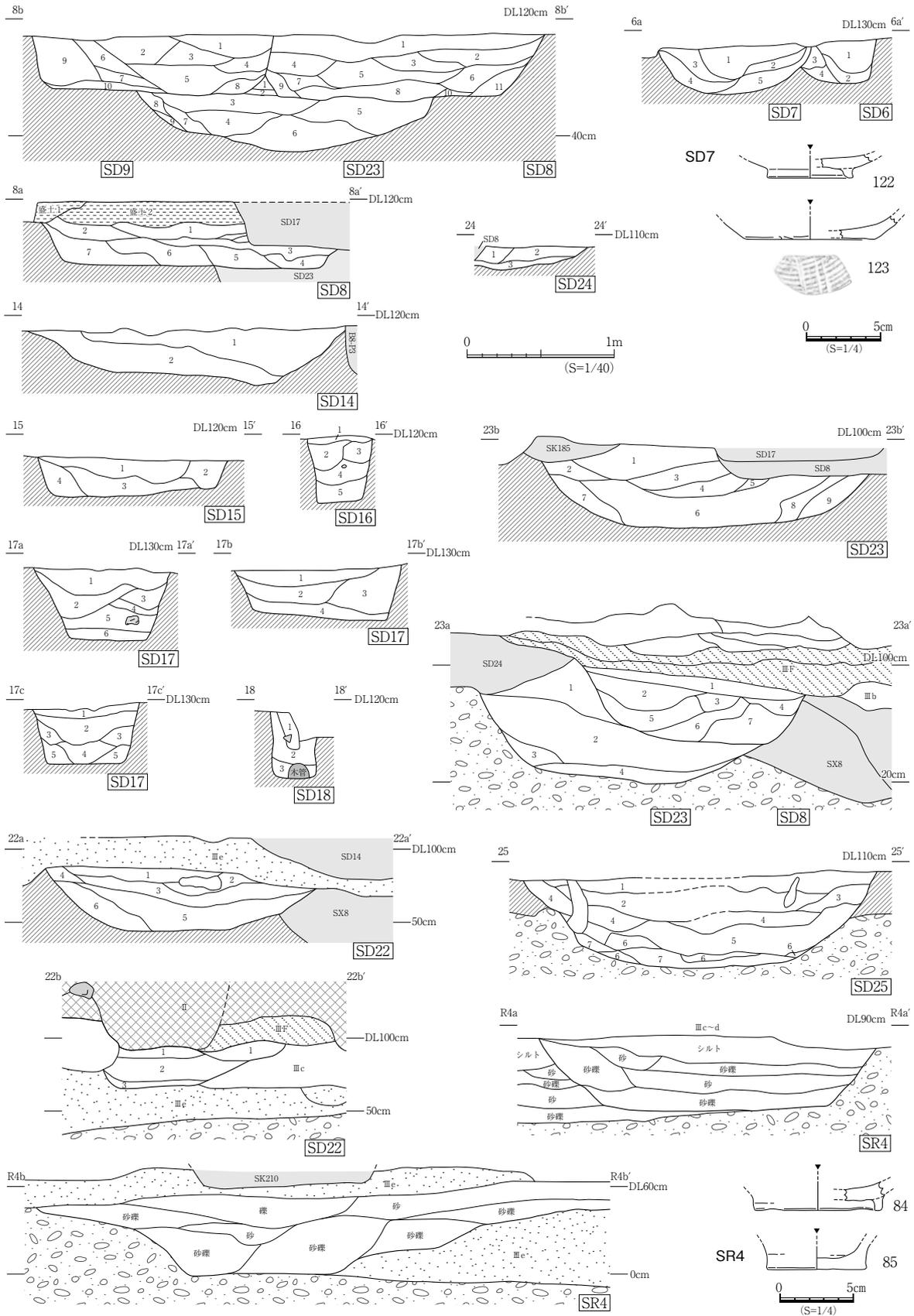
**性格** 区画溝。SD2と並んで規模が大きい。



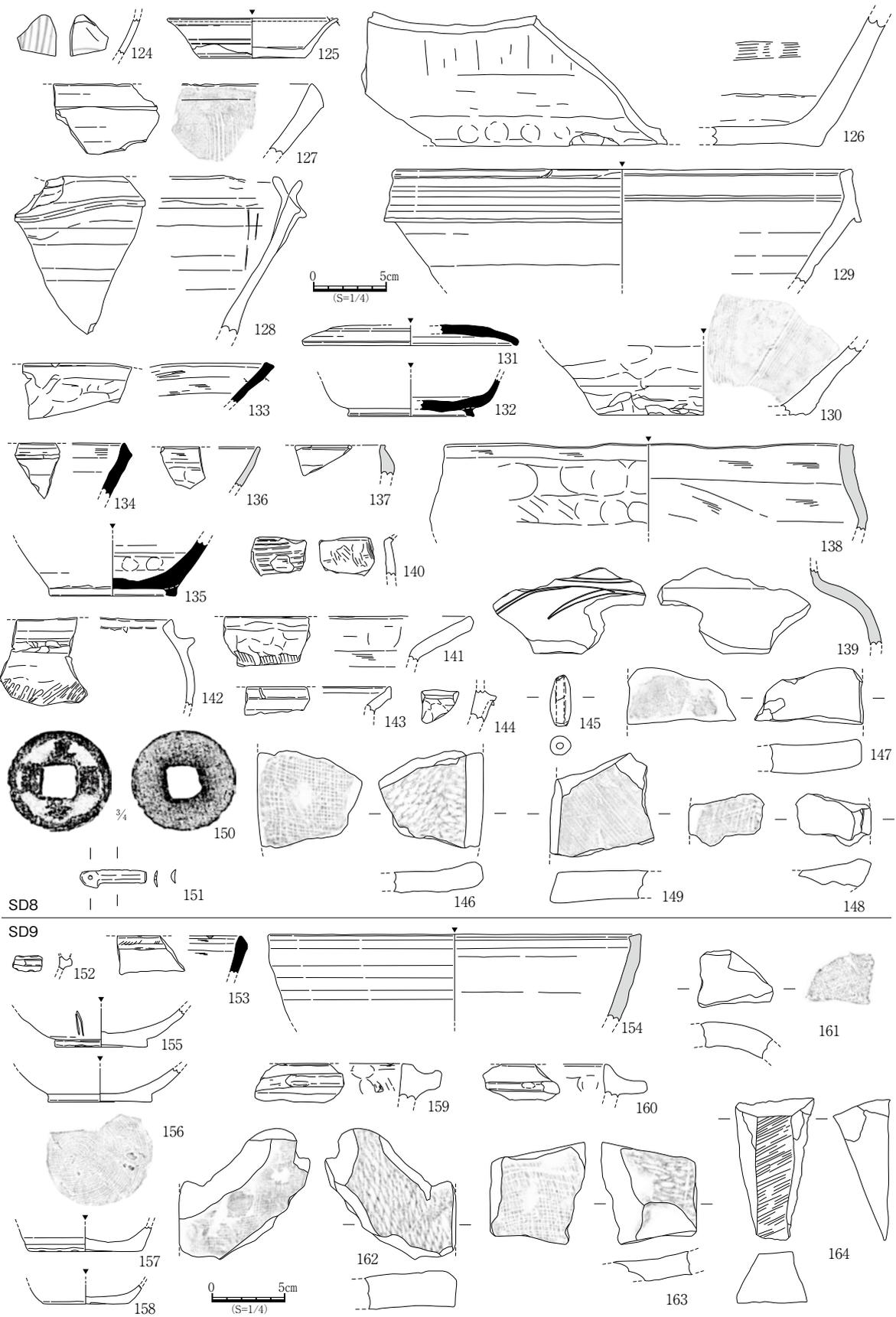
第22図 SR4・SD6・SD7・SD8・SD9・SD14・SD15・SD16・SD17・SD18・SD19・SD22・SD23・SD24・SD25平面図



第23図 SD17(上), SD8・SD9(中), SD22・SD23・SD24・SD25(下)平面図



第24図 SR4・SD6・SD7・SD8・SD9・SD14・SD15・SD16・SD17・SD18・SD22・SD23・SD24・SD25断面図, SR4・SD7出土遺物



第25図 SD8・SD9出土遺物

**SD9**〈16世紀の区画溝〉(遺構:第18<sup>[33]</sup>・19<sup>[34]</sup>・22<sup>[40]</sup>・23<sup>[41]</sup>・24<sup>[42]</sup>図・Pl.20・21<sup>[366-367]</sup>, 遺物:第25図<sup>[43]</sup>・Pl.97<sup>[443]</sup>)

**位置・調査経過** L字形に屈折する区画溝である。G~K・9~10グリッドに位置する。Hラインを境界とする調査E・F区に跨っており、南側(E区)、北側(F区)の順でそれぞれを調査した。E区ではⅢb層で確認し、F区では盛土層除去後のⅢb層でその延長部分を確認した。重複関係は複雑である。SD9はSD2・SD8・SD13・SD23・SX6を切り、SD10・SE4・SX5・SK109に切られる。

**形状・規模** K10グリッドのコーナー部から北方向(N-15°-W)と東方向(N-82°-E)に延びるL字状の溝である。溝の断面形や規模は各所で異なる。規模の違いが顕著で南側ほど細く浅い。溝の断面形は、北側が幅の広い隅丸台形、南側が箱形に近い台形である。コーナーより東側ではV字形に近い。上幅は33~164cm、底幅は8~140cm、深さは24~58cmである。長さは22mまでを確認した。南北が17.5m、東西が4.5mである。北側はSE4により断絶する。北側へのさらなる延長は確認できず、F10グリッドのSE4・SE10箇所東に折れる可能性もある。調査区東壁で覆土断面が確認でき、さらに東方向に延長する。区画内には遺構が少ない。

**覆土** Gグリッド(第24図8b-8b'), Iグリッド(第19図8c-8c'), Jグリッド(第19図9a-9a'), Kグリッドのコーナー部分(第19図9b-9b')の4箇所短軸方向の覆土断面を観察した。各所で覆土の質は異なるが、総じてⅢ層に起源し砂質シルト層が目立つ。南側の幅が狭い区域では明褐色砂層が共通してみられ、層の上下境界には鉄分の凝固がみられる。全体として東側や北側から埋没が始まっている。

8b-8b'では上層・中層・下層に分かれる。上層(1~3層)は灰~オリーブ灰色土層である。中層(4~8層)は褐色砂質シルト層で5・6層に鉄分の凝集がみられる。下層(9・10層)は灰色シルト層で鉄分の凝集がみられる。9a-9a'では上層・下層に分かれる。上層(1~3層)は灰~灰褐色土層でマンガン粒・灰色粘土粒・山土粒を含む。下層(4~7層)は褐色砂質土層で5層は灰色粘土粒・マンガン粒を含む。8c-8c'では上層・下層に分かれる。上層(1~3層)は暗褐色~灰褐色土層で3層には砂が混じる。1層はⅢF層の可能性もある。下層(4~6層)は暗褐色砂質土層である。5層には鉄分の凝集がみられる。9b-9b'では上層・中層・下層に分かれる。上層(1・2層)は暗褐色土層で山土粒・炭化物を含む。中層(3・4層)は褐色~灰色砂質土層である。下層(5層)は灰黄褐色土層である。

**出土遺物** 492点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は緑釉陶器1点、陶器3点、炆器5点、須恵器8点、瓦器16点、白色土器74点、土器368点、瓦11点、石製品3点、鉄器2点、動物遺体1点である。遺物の収拾は、グリッド別、層位別に行った。グリッド別の内訳はGグリッド41点、Hグリッド38点、Iグリッド163点、JFグリッド1点、Jグリッド83点、Kグリッド63点でありIグリッドに多い。砂層を境界とした層位別の内訳は上層17点、下層76点である。他は遺構一括である。

図示した13点(152~164<sup>[43]</sup>)は、152が陶器、153が須恵器、154が瓦器、155~160が土器、161~163が瓦、164が石製品である。動物遺体にウマ臼歯がある(付編2<sup>[275]</sup>)。

152は瀬戸の陶器・鉢である。153は東播系の須恵器・鉢で12世紀末~13世紀初の製品である。154は在地とみられる瓦器・鉢である。155・156は平高台の土器・坏、157・158は外底が回転篋切の土器・坏皿で11世紀頃の製品である。159・160は摂津の土器・羽釜で10~11世紀の製品である。161~163は布目痕・縄目痕が残る瓦片で古代の製品である。164は凝灰岩製の石製品で楔石とみられる。

**時期** 16世紀。15世紀末のSD8を切り、ⅢF層・近世盛土層に覆われる。出土遺物には混入が多い。

**性格** 区画溝。SD2・SD8の軸方向に沿って北東側の区域を囲む。北側に東西方向の延長があれば南北幅18mの囲いとなる。

**SD10**〈近世の溝〉(遺構:第74図<sup>[109]</sup>・Pl.22<sup>[368]</sup>,遺物:第26図・Pl.97<sup>[443]</sup>)

位置・調査経過 南北にのびる短い溝である。K10グリッドに位置する。ⅢF層で確認した。SD10に切られる遺構はSD2・SD9・SX5・SK83・SK84・SK91である。

形状・規模 長軸は南北方向(N-12°-W)である。溝の断面形は台形である。幅は52~75cm,深さは27~38cmである。長さは407cmで南北端が立ち上がり完結している。

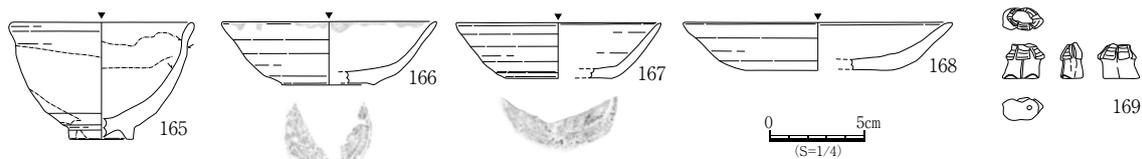
覆土 中間位置の短軸方向で覆土を確認した(第74図D-D')。上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が粗い暗灰黄色土層で炭化物・焼土・山土粒を含む。2層は暗褐色土層で山土粒を含む。3層は黒褐色土層で礫を含み鉄分の凝集がみられる。

出土遺物 62点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点,陶器5点,瓦器1点,土器53点,土製品1点,石製品1点である。遺物は上層・下層に分けて収拾した。層位別の内訳は上層24点,下層1点である。他は遺構一括である。

図示した5点(165~169<sup>[45]</sup>)は,165が唐津の陶器・天目茶碗で17世紀前半の製品である。166・167は土器・坏皿で近世の製品である。168は土器・皿で近世の製品である。169は土製品・鎧装人物である。

時期 近世。出土遺物は近世の製品である。

性格 溝。



第26図 SD10出土遺物

**SD11**〈溝〉(遺構:第74図<sup>[109]</sup>・Pl.22<sup>[368]</sup>)

位置・調査経過 南北にのびる短い溝である。M9グリッドに位置する。Ⅲ層で確認した。SX4を切り、M9-P2に切られる。

形状・規模 長軸は南北方向(N-13°-W)である。溝の断面形は台形で幅は45cm,深さは21cmである。長さは126cmで南北端が立ちあがり完結している。

覆土 中間位置の短軸方向で覆土断面を観察した(第74図E-E')。覆土は3層に分かれる。1層は褐灰色土層,2層は灰色土層で鉄分の凝集がみられる。3層は褐灰色土層である。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 中世か。Ⅲ層を掘削し構築された。SX4を切る。

性格 溝。

**SD12**〈11~12世紀の区画溝〉(遺構:第18・19図<sup>[33-34]</sup>・Pl.22・23<sup>[368-369]</sup>,遺物:第27図<sup>[47]</sup>・Pl.97・98<sup>[443-444]</sup>)

位置・調査経過 北東-南西方向にのびる溝である。H9グリッドからM3グリッドにかけて位置する。SK100(J7グリッド)の調査終了後,その底面と壁面に溝状のプランを認めた。遺構の存在を想定していなかったレベルからの掘り込みであり,J6グリッドの溝延長部分を面的に掘り下げると古代の遺物をふくむ溝状のプランが現れた。E区調査の締め括りで埋め戻しを待つだけの時機であったが,北東方向・南西方向に範囲を拡大し溝に対する調査を進めた。

SD12はⅢc層を掘削して構築され、埋没後はⅢb層に覆われた。SD12は遺跡内で最古段階の遺構である。SD12を切る遺構ないしSD12の上部堆積層を掘削し構築された遺構はSD2・SD3・SK51・SK54・SK55・SK94・SK96・SK98・SK100・SK107・SK112・SK116・SK121である。

**形状・規模** 長軸は北東-南西方向(N-32~42°-E)であるがKライン付近を境にやや屈折する。南側からみるとKライン付近で約10°東に折れる。溝の断面形は隅丸台形である。全体に歪みが大きく幅が一定しない。幅は35~157cm、深さは24~40cmである。長さは29mまでを確認した。北東端はSK116・SD8により断絶し、南西側はSK121・コンクリート基礎により断絶する。

**覆土** Iグリッド(第19図12a-12a')とLグリッド(第19図12b-12b')で短軸方向の覆土断面を観察した。いずれもⅢb層に覆われている。

12a-12a'では上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は灰褐~灰色土層で砂が混じる。下層(3層)は鈍赤褐色土層で砂が混じり鉄分の凝集がみられる。上部はⅢb層に覆われる。

12b-12b'では上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は灰色・暗褐色土層で1層は砂を含み鉄分の凝集がみられる。2層はマンガン粒を含む。下層(3層)はオリーブ灰色シルト層である。Ⅲc層を掘削しⅢb層に覆われている。

**出土遺物** 204点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は須恵器12点、瓦器11点、黒色土器1点、白色土器28点、土器151点、瓦1点である。遺物の収拾は、水平位置ではグリッド別、垂直位置では上層・下層・底に分けて行った。層位別の内訳は上層52点、底2点である。他は遺構一括である。

図示した16点(170~185<sup>[47]</sup>)は、170~173が須恵器、174~176が瓦器、177~185が土器である。  
[観303-304]

170は輪高台の須恵器・壺、171は輪高台の須恵器・坏、172は須恵器・壺、173は須恵器・甕でいずれも古代の製品である。174・175は楠葉型の瓦器・壺で12世紀の製品である。176は在地とみられる瓦器・坏である。177は京都系の土器・輪高台壺で11~12世紀の製品である。178・179は在地の土器・輪高台壺で11~12世紀の製品である。180・181は柱状高台の土器・坏である。182は土器・皿で古代の製品である。183は土器・皿で11~12世紀の製品である。184は回転篋切の土器・皿で11世紀の製品である。185は土器・甕で10~11世紀頃の製品である。

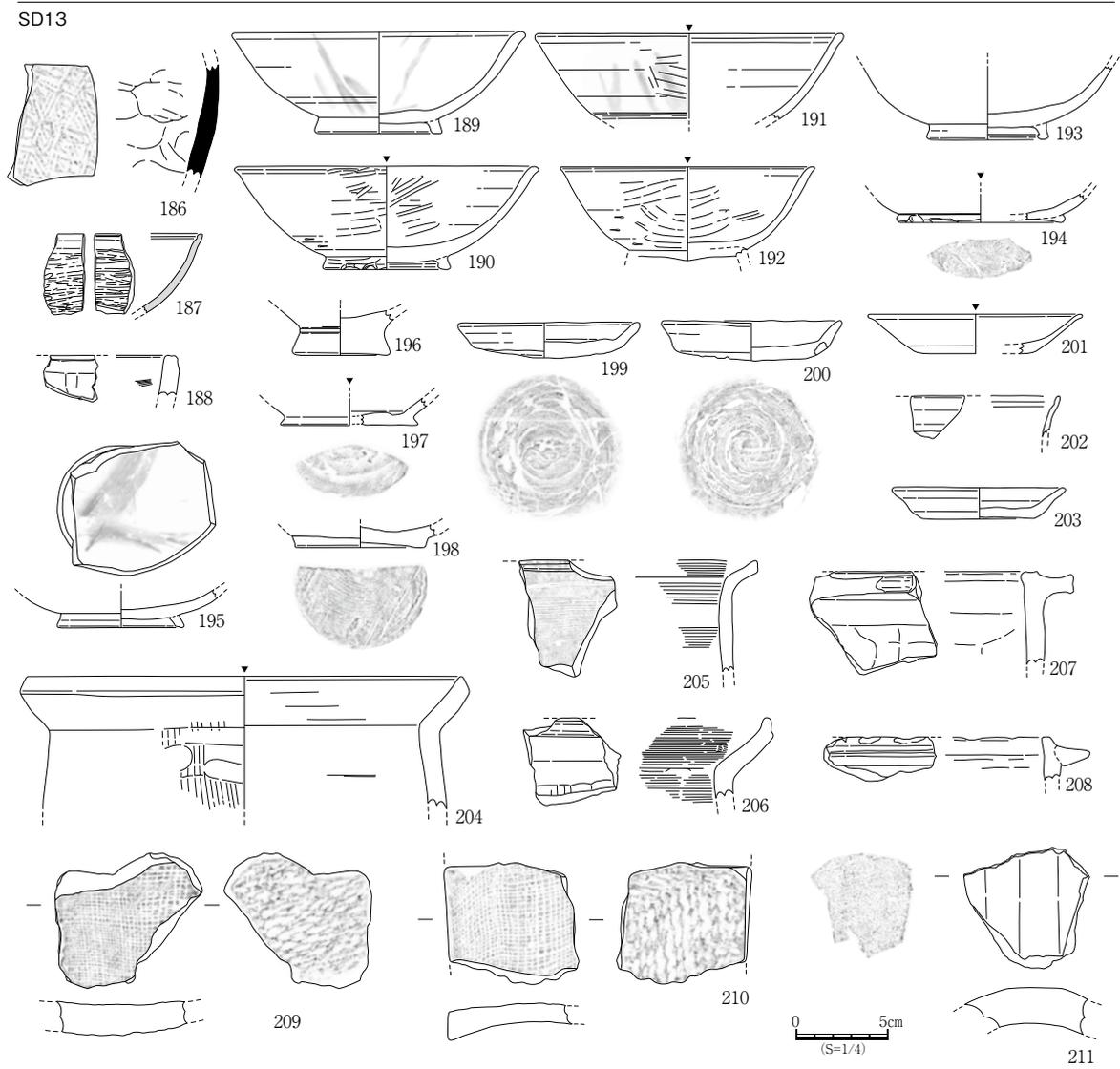
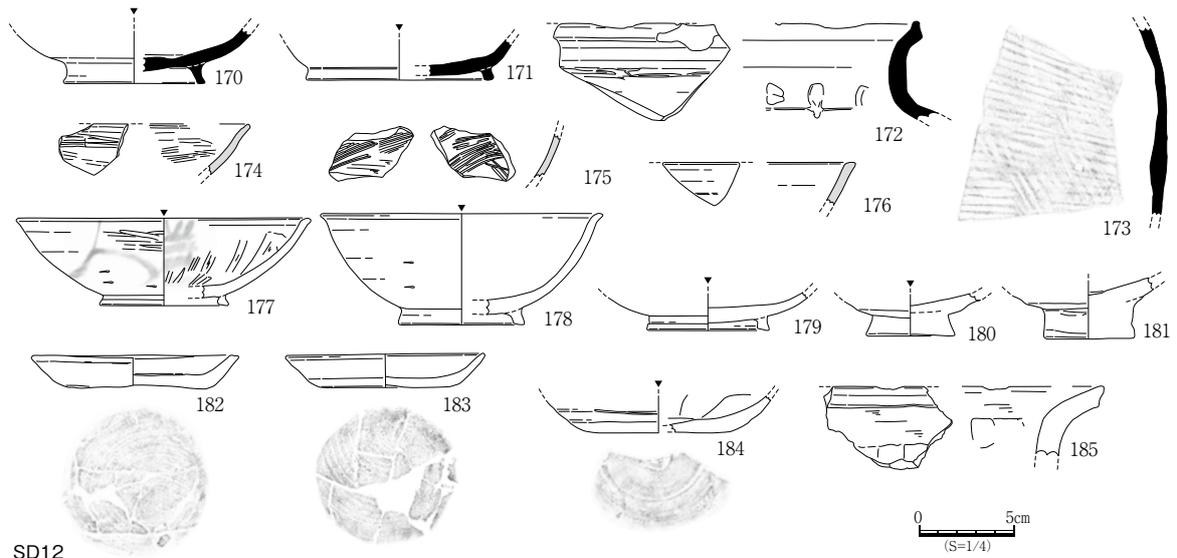
**時期** 11~12世紀。出土遺物は11~12世紀の製品である。

**性格** 区画溝。SD13と対になる二重の区画溝である。中世とは軸方向が大きく異なる。

**SD13**(11~12世紀の区画溝)(遺構:第18<sup>[33]</sup>・19<sup>[34]</sup>・102<sup>[145]</sup>図・PI.23・24<sup>[369-370]</sup>, 遺物:第27図・PI.98~100<sup>[444-446]</sup>)

**位置・調査経過** 北東-南西方向にのびる溝であるI10グリッドからK7グリッドにかけて位置する。調査区東壁を精査する過程で溝の覆土断面を発見した。SD12と同様、想定外のレベルに構築されており、I10グリッドを面的に掘り下げて確認すると南西方向にのびる溝のプランが現れた。覆土の識別が極めて困難な遺構であったが、南西方向の延長部分にあって古代の遺物が出土した遺構を再検討してみると、SK71・SK122・SK60はSD13の各部であると認められた。これによりI10グリッドで発見した部分にSK71・SK122・SK60を加えてSD13とする。またSK39の覆土断面にもSD13に該当する溝の断面が認められるが、出土遺物についてはSK39とSD13を区分することができない。SK39に切られるSK94もSD13に関連した遺構である可能性が認められる。

SD13はⅢc層を掘削して構築され、埋没後はⅢb層に覆われた。SD13は遺跡内の最古段階に属する遺構である。SK70を切り、SD2・SD6・SD7・SD8・SD9・SK66・SK108に切られる。



第27図 SD12・SD13出土遺物

**形状・規模** 長軸は北東－南西方向(N-44°-E)である。溝の断面形は隅丸台形ないし弓形である。幅は90～210cm, 深さは30～74cmである。SD12とは異なり各箇所掘方に大きな違いは認められない。平面形がやや歪であるのは各所で溝の認識を持たないまま調査を進めたことによる。長さは調査区東壁からSK60箇所(SD2に切られる地点)までの18.8mを確認した。南西側はSK39まで延びるがその先は確認できていない。下層に遺存する可能性もあるが, SK39とこれに切られるSK94の位置関係を積極的に評価するとSD13がここで収束する可能性もあるが, 現地調査では確認出来なかった。

**覆土** 8グリッド(第18図13a-13a'), 9グリッド(13b-13b'), 調査区東壁(13c-13c')で短軸方向の覆土断面を観察した。全体に砂質傾向である。

13a-13a'では上層・下層に分かれる。上層(1層)は灰褐色土層で炭化物を含む。下層(2・3層)は灰褐～暗褐色土層で炭化物・焼土を含む。

13b-13b'は上部がSD8に削平されたSD13の底付近にあたる。褐灰色砂質土層で下層ほど色調が暗い。

13c-13c'では上層・中層・下層に分かれる。上層(1～3層)は灰褐～鈍赤褐色シルト層で炭化物・マンガング粒を含む。中層(4層)は黄灰～灰褐色砂質土層で下位に炭化物を含む。下層(5～7層)は灰褐色砂質土層である。

SK60箇所では南北方向(C-C'), 東西方向(B-B')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は黒褐色シルト層で炭化物・山土粒を含む。遺物を多く含む。2層は暗褐色シルト層で炭化物・灰色粘土粒を含む。3層は暗褐色土層で灰色粘土粒を含む。

**出土遺物** 628点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は陶器2点, 須恵器5点, 瓦器2点, 弥生土器1点, 白色土器66点, 土器543点, 瓦8点, 鉄器1点である。SK39出土43点の一部も本来はSD13の遺物である。遺物の收拾は, 水平位置では結果としてSK122箇所・SK71箇所・SK60箇所に分かれ, 垂直位置では上層・下層に分けて行った。水平位置区分の内訳はSK122箇所が11点, SK71箇所が82点, SK60箇所が415点である。層位別ではSK71箇所の上層35点, 下層47点となる。他は遺構一括である。

図示した26点(186～211<sup>[47]</sup>)は, 186が須恵器, 187が瓦器, 188が弥生土器, 189～208が土器, 209～211が瓦である。  
[観304-305]

186は須恵器・甕で外胴に市松文様の格子目叩き痕が残る。187は楠葉型の瓦器・塀で12世紀の製品である。188は弥生土器・高坏で弥生時代中期後葉～後期前半の製品である。189・190・192・194・195は京都系の土器・輪高台塀で11～12世紀の製品である。191・193は在地の土器・輪高台塀で11～12世紀の製品である。196は円盤高台の土器・塀で11～12世紀の製品である。197は平高台の土器・坏で11～12世紀の製品である。198は平高台の土器・坏で11世紀の製品である。199・200は回転篋切の土器・坏皿で11世紀の製品である。201は回転篋切の土器・坏皿で11～12世紀の製品である。202は内口縁に沈線がある土器・坏皿で古代の製品である。203は回転篋切の土器・小皿で11世紀の製品である。204・206は土器・甕で10世紀頃の製品である。205は土器・甕で外胴に横ハケ調整が施される11世紀の製品である。207・208は摂津の土器・羽釜で10～11世紀の製品である。209・210は布目痕・縄目痕が残る平瓦で古代の製品である。211は凹面に布目痕が残る平瓦である。

**時期** 11～12世紀。出土遺物は11～12世紀の製品である。

**性格** 区画溝。SD12と対になる二重の区画溝である。中世とは軸方向が大きく異なる。南端が閉じる可能性もある。

**SD14**〈近世の区画溝〉(遺構:第22<sup>[40]</sup>・24<sup>[42]</sup>図・Pl.24<sup>[370]</sup>, 遺物:第28図・Pl.100<sup>[446]</sup>)

**位置・調査経過** 東西方向にのびる溝である。C・3～10グリッドに位置する。盛土層で確認した箇所もあるが、一帯にはII層が厚く堆積しており広い範囲で盛土層は削平されていた。重複関係が多い。SD14に切られる遺構はSD8・SD17・SD22・SD23・SX8・SK197・SK227・SK228・SK239・SK242・SK243・SK260・SK278で、SD14を切る遺構はSK141・SK144・SK148・SK152である。

**形状・規模** 長軸は東西方向(N-76°-E)である。西端付近では幅が細まりやや蛇行する。溝の断面形は低平な隅丸台形であるが上部は近代の造成により相当部分が削平されたとみられる。幅は98～213cm, 深さは15～40cmである。長さは30mまでを確認した。調査区東壁ではおそらくII層に削平されたことにより覆土断面が残っていないが、近世家老屋敷の北境界に関連すると想定されることから、SD14はさらに東方向に延長したと考えられる。西端は攪乱およびコンクリート基礎により断絶しており延長を確認できなかった。

**覆土** 4グリッド(Pl.24⑦<sup>[370]</sup>), 5グリッド, 8グリッド(第24図14-14')で短軸方向の覆土断面を観察した。全体に埋没は南側から始まったようである。

4グリッドでは上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が暗灰黄色土層, 2層が黒褐色シルト層でいずれも炭化物・小石・山土粒を含む。1層下部には塊石がある。下層(3～5層)は褐灰色粘質シルト層で炭化物・焼土・マンガン粒を含む。

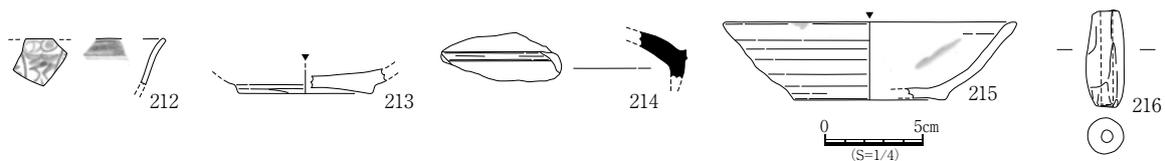
14-14'では2層に分かれる。1層は暗灰黄色土層で炭化物・小石を含む。2層は褐灰色砂質土層で小石を含み鉄分の凝集がみられる。

**出土遺物** 233点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点, 青花1点, 染付10点, 磁器5点, 緑釉陶器1点, 陶器18点, 炆器6点, 須恵器6点, 瓦器12点, 白色土器10点, 土器160点, 土製品1点, 瓦1点, 鉄滓1点である。遺物の収拾は、水平位置ではグリッド別に、垂直位置では上層・下層に分けて行った。グリッド別の内訳は3グリッド15点, 4グリッド85点, 5グリッド41点, 6グリッド20点, 7グリッド7点, 8グリッド25点, 9グリッド23点, 10グリッド17点である。層位別では上層39点, 下層33点である。他は覆土一括である。

図示した5点(212～216<sup>[49]</sup>)は、212が景德鎮の青花・輪花鉢である。213は京都系の緑釉陶器・坏で10世紀の製品である。214は肩部に突帯をもつ須恵器・壺で古代の製品である。215は在地の土器・坏で12世紀後半～13世紀前半の製品である。216は土製品・土錘である。

**時期** 近世。盛土層を掘削し構築された。出土遺物には混入が多い。SD17を切るため近世最古の遺構ではない。

**性格** 区画溝。近世家老屋敷の北側境界に関連した遺構と考えられる。



第28図 SD14出土遺物

**SD15**〈近世の溝〉(遺構:第22<sup>[40]</sup>・24<sup>[42]</sup>図・Pl.25<sup>[371]</sup>)

**位置・調査経過** 東西にのびる短い溝である。C・7~8グリッドに位置する。Ⅲ層で確認した。SK144を切り、SK131に切られる。

**形状・規模** 長軸は東西方向(N-73°-E)である。溝の断面形は低平な台形である。幅は125~145cm、深さは20~30cmである。長さは474cmまでを確認した。西端は緩やかに立ちあがり完結する。東端は攪乱等により断絶する。より東側への延長は確認できない。

**覆土** 中間位置の短軸方向で覆土断面を観察した(第24図15-15')。上層・下層に分かれる。上層(1層)は褐灰色砂質土層で鉄分の凝集がみられる。下層(2~4層)は灰褐色砂質土層である。

**出土遺物** 17点の遺物が出土した。いずれも細片で図示していない。出土遺物の内訳は白磁1点、染付4点、陶器2点、白色土器1点、土器8点、瓦1点である。覆土一括で収拾した。

**時期** 近世。確認面はⅢ層だが染付など近世の製品を含む。

**性格** 溝。

**SD16**〈近世の溝〉(遺構:第22<sup>[40]</sup>・24<sup>[42]</sup>図, Pl.25<sup>[371]</sup>)

**位置・調査経過** SE3から北東方向にのびる溝である。D・9~10グリッドに位置する。盛土層で確認した。SD8・SD17・SK153を切り、SE3に切られる。SE3とは連結した可能性もある。

**形状・規模** 長軸は北東-南西方向(N-47°-E)である。溝の断面形は縦長の台形である。幅は33~46cm、深さは50~60cmである。長さは310cmまでを確認した。東端では立ち上がりを確認した。西端はSE3により断絶する。SD18のような導水施設としてSE3に連結された可能性もあるが、連結部分に特別な構造はなく、SD18で発見された木管もない。

**覆土** 中間位置で短軸方向の覆土断面を観察した(第24図16-16')。上層・下層に分かれる。上層(1~4層)は黒褐色土層で炭化物・小石を含む。1・2層では鉄分の凝集がみられる。下層(5層)は褐灰色砂質土層である。

**出土遺物** 10点の遺物が出土した。細片につき図示はしていない。出土遺物の内訳は須恵器1点、土器9点である。覆土一括で収拾した。

**時期** 近世。盛土層を掘削し構築された。SD17を切る。

**性格** 溝。円形枡(SE3)と連結されたか。

**SD17**〈近世の溝〉(遺構:第22<sup>[40]</sup>・23<sup>[41]</sup>・24<sup>[42]</sup>図・Pl.26<sup>[372]</sup>, 遺物:第29図・Pl.100<sup>[446]</sup>)

**位置・調査経過** 南北方向に蛇行してのびる溝である。B~F・9グリッドに位置する。盛土層で確認した。SD17に切られる遺構はSD8・SD22・SD23・SX8・SK153・SK179・SK182・SK186・SK208・SK246で、SD17を切る遺構はSD14・SD16・SE3である。

**形状・規模** 1m幅で蛇行するが長軸は概ね南北方向(N-3°-E~N-25°-W)である。溝の断面は台形である。幅は75~155cm、深さは33~55cmである。長さは13mまでを確認した。南端では立ち上がりを確認した。調査区北壁では近代層に削平され覆土断面を確認できなかった。SD14の範囲内で収束した可能性もある。

**覆土** Dグリッド(第24図17a-17a'), Eグリッド(第24図17b-17b'), Fグリッド(第24図17c-17c')で短軸方向の覆土断面を観察した。いずれの覆土断面においても最下層では土層のグライ化が進行してい

る。滞水環境が想定されるが、流水環境を窺わせる堆積は認められない。全体的に溝の埋没は東側から始まったようである。

17a-17a'では上層・中層・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が暗灰黄色土層で炭化物・小石を含む。2層は灰色土層で鉄分の凝集がみられる。中層(3~5層)は3層が暗灰黄色土層で小石・山土粒を含む。4層は灰オリーブ色砂質土層で小石を含む。5層は褐灰色土層で砂・炭化物・礫を含み鉄分の凝集がみられる。下層(6層)は青灰色粘土層である。

17b-17b'では上層・中層・下層に分かれる。上層(1・2層)は暗灰黄色土層で炭化物・小石・山土粒を含む。中層(3層)は灰黄褐色土層で炭化物・小石・山土粒を含む。下層(4層)は褐灰色砂質土層で鉄分の凝集がみられる。

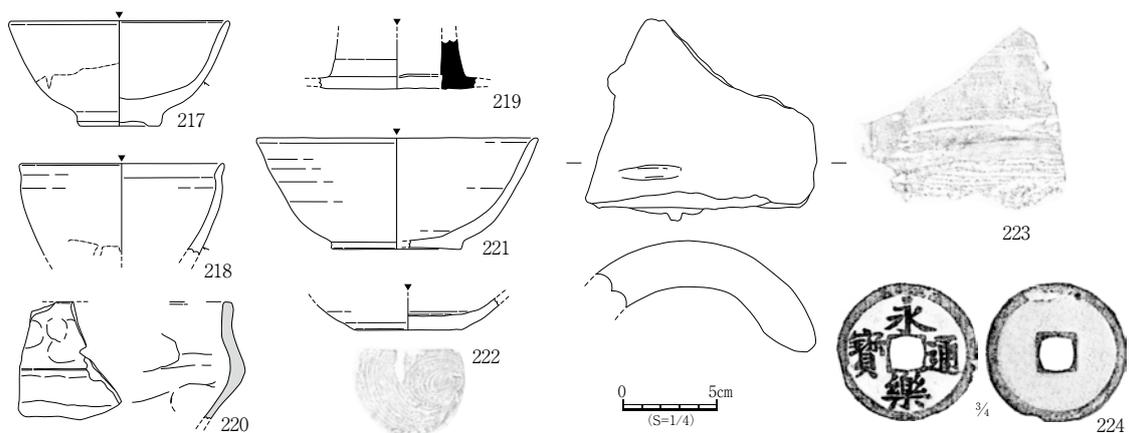
17c-17c'では上層・中層・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が黒褐色土層, 2層が暗灰黄色土層でいずれも炭化物・小石を含む。中層(3・4層)は3層が褐灰色土層で焼土を含み鉄分の凝集がみられる。4層は暗灰黄色土層である。下層(5層)は灰色粘土層である。

**出土遺物** 105点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付1点, 陶器2点, 炆器1点, 須恵器2点, 瓦器4点, 白色土器10点, 土器78点, 瓦5点, 銅銭1点, 動物遺体1点である。遺物の收拾は, 水平位置ではグリッド別に, 垂直位置では上層・中層・下層に分けて行った。グリッド別の内訳はCグリッド14点, Dグリッド20点, Eグリッド32点, Fグリッド25点である。層位別では上層33点, 中層5点, 下層31点である。他は覆土一括である。

図示した8点(217~224)は, 217・218が唐津産の陶器・天目茶碗で17世紀の製品である。219は須恵器・脚部で古代の製品である。220は土佐型の瓦器・鍋で14~15世紀の製品である。221は在地の平高台の土器・坏で11世紀の製品である。222は土器・坏皿である。223は鉄線痕の残る瓦, 224は銅銭・永楽通寶である。動物遺体にウミガメ肋骨板がある(付編2<sup>[275]</sup>)。

**時期** 近世。盛土層を構築面とする。出土遺物には混入が多い。

**性格** 溝。15世紀以来, 南北軸の区画溝が掘削されてきた箇所にあたる。SD17を最後に南北溝は掘削されなくなる。



第29図 SD17出土遺物

**SD18** (導水管を埋置した近世の溝) (遺構: 第22<sup>[40]</sup>・24<sup>[42]</sup>図・Pl.27<sup>[373]</sup>, 遺物: 第30図・Pl.100・101<sup>[446-447]</sup>)

**位置・調査経過** 東西方向にのびSE3とSE7を繋ぐ導水管である。E・5~9グリッドに位置する。盛土層で確認した。SK142・SK181・SK185・SK188・SK191・SK192・SK232を切る。

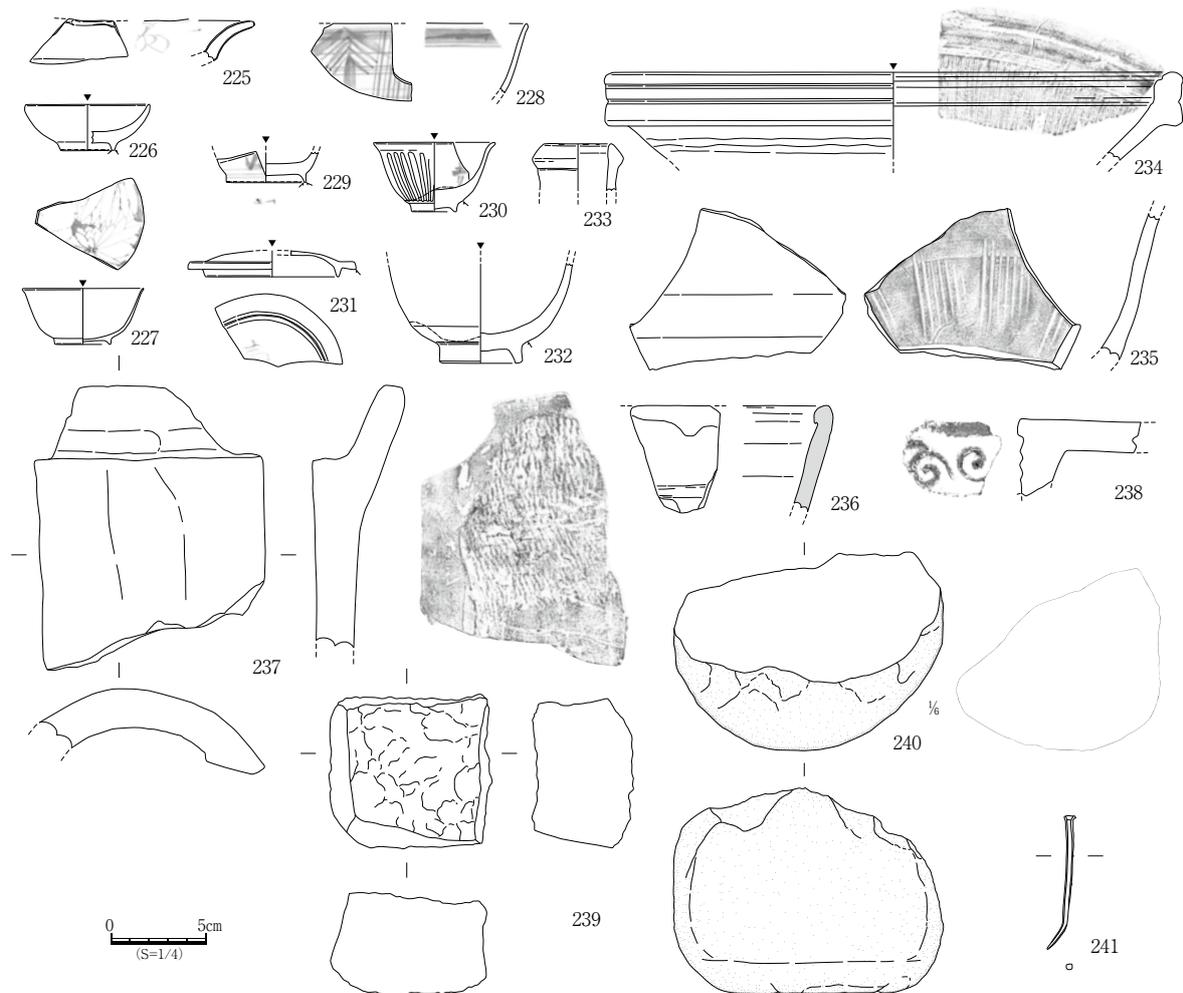
**形状・規模** 長軸は東西方向(N-67°-E)である。溝の断面形は台形である。径15cmの木管を埋置し裏込土で固定した。幅は26~95cm, 深さは29~60cmである。長さはSE3とSE7の間の17mである。

**覆土** 5グリッド(第24図18-18'), 7グリッド(Pl.27③④<sup>[373]</sup>)で短軸方向の覆土断面を観察した。

7グリッドでは上層・下層・裏込土に分かれる。上層(1層)は黒褐色土層で炭化物・焼土・塊石を含む。下層(2層)は木管を置いた灰色土層で焼土・小石を含む。裏込土(3層)は灰オリーブ色砂質土層である。

18-18'では上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は黒褐色土層で多量の炭化物と焼土・小石を含む。1層は柱痕状である。下層(3層)は木管を埋設した暗褐色土層で炭化物を含む。

**出土遺物** 312点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点, 白磁13点, 染付51点, 磁器12点, 陶胎染付1点, 陶器69点, 炆器9点, 須恵器1点, 瓦器11点, 黒色土器1点, 白色土器2点, 土器92点, 瓦22点, 石製品2点, 石造物1点, 銅製品1点, 鉄器20点, 鉄滓3点である。遺物の収拾はグリッド別, 層位別に行った。グリッド別の内訳は5グリッド44点, 6グリッド110点, 7グリッド51点, 8グリッド1点, 9グリッド24点, 東側70点である。層位別の内訳は上層が1点で, 他は覆土一括である。



第30図 SD18出土遺物

図示した17点(225～241<sup>[52]</sup>)は、225が青磁、226・227が白磁、228～230が染付、231～233が陶器、234・235が炆器、236が瓦器、237・238が瓦、239が石製品、240が石造物、241が銅製品である。  
[観305-306]

225は肥前の青磁・皿である。226・227は肥前の白磁・小坏で、227には上絵付で樹木が描かれる。228は肥前の染付・碗で18～19世紀の製品である。229は能茶山焼の染付で19世紀の製品である。230は肥前の染付・小坏で17世紀の製品である。231は瀬戸の陶器・蓋である。232は唐津の陶器・碗、233は瀬戸の陶器・徳利である。234は明石の炆器・播鉢で19世紀の製品である。235は唐津の炆器・播鉢である。236は瓦器・鉢である。237は丸瓦で鉄線痕が残る。238は軒平瓦である。239は被熱した石製品で台石とみられる。240は花崗岩製の五輪塔・水輪部分である。241は銅製の釘である。

時期 近世。盛土層を構築面とする。19世紀代の遺物は上部近代層のものか。

性格 木製の導水管を埋置した溝。井戸(SE7<sup>[77]</sup>)と集水槽(SE3<sup>[72]</sup>)をつなぐ。

#### SD19〈近世の溝〉(遺構:第22図<sup>[40]</sup>・PI.27<sup>[373]</sup>)

位置・調査経過 東西にのびる短い溝である。C10グリッドに位置する。盛土層で確認した。SD22の上部にあたる。

形状・規模 長軸は東西方向(N-81°-E)である。溝の断面は弓形である。幅33cm、深さ14cmで、長さは210cmまでを確認した。西端は立ち上がる。近代層により東方向への延長は確認できない。

覆土 中間位置で短軸方向の覆土断面を観察した。単層の灰色土層で緑石塊を含む。

出土遺物 覆土中から土器1点が出土した。細片につき図示していない。

時期 近世。盛土層を掘削し構築された。

性格 溝。

#### SD22〈溝〉(遺構:第22図<sup>[40]</sup>・23<sup>[41]</sup>・24<sup>[42]</sup>図・PI.27<sup>[373]</sup>, 遺物:第31図<sup>[54]</sup>・PI.101<sup>[447]</sup>)

位置・調査経過 東西にのびる溝である。C・9～10グリッドに位置する。C10-KG1の東西両壁で遺構覆土の断面を確認しそれぞれを面的に拡張した結果、一連の溝であることが判明した。上部はSX8と同様にⅢb層下の砂礫層に覆われている。調査区東壁ではⅢF層に覆われた状況を確認した。SX8・SK243を切り、SD8・SD14・SD17・SD19・SK186・SK197に切られる。

形状・規模 長軸は東西方向(N-56°-E)である。溝の断面は弓形である。幅は122～139cm、深さは14～41cmである。長さは590cmまでを確認した。調査区東壁には覆土断面があり、さらに東方に延長する。西端はSD8により断絶する。さらに西側への延長は確認できない。

覆土 10グリッド(第24図22a-22a'), 調査区東壁(第24図22b-22b')で短軸方向の覆土断面を観察した。

22a-22a'では上層・下層に分かれる。上層(1～4層)は1層が灰黄褐色砂質土層、2層が灰色砂質シルト層、3・4層が褐灰色シルト層でいずれも鉄分の凝集がみられる。下層(5・6層)は5層が灰色砂質シルト層、6層が褐灰色砂質土層である。上部は砂礫層に覆われている。下層には貝類の集中箇所がある。22b-22b'ではⅢc層を掘削して構築され、埋没後にⅢF層に覆われた状況が確認できた。

出土遺物 43点の遺物が出土した。内訳は瓦器3点、土器35点、瓦3点、鉄滓1点、動物遺体1点である。

覆土一括で収拾した。図示した3点(242～244<sup>[54]</sup>)は、242が在地の瓦器・播鉢で13～14世紀の製品とみられる。[観306]243は播磨型の土器・羽釜で15世紀の製品である。244は土器・鍋で16世紀の製品である。動物遺体にイヌ下顎骨、ハマグリ、カワニナ、イシマキガイがある(付編2<sup>[275]</sup>)。

時期 中世か。ⅢF層下の砂礫層に覆われている。堆積環境は古代の遺構であるSX8<sub>[112]</sub>とも似る。15～16世紀の遺物を含んでいるが重複する遺構との出土遺物の弁別が十分でない可能性もある。

性格 溝。

**SD23** (15世紀前半の区画溝) (遺構:第22<sub>[40]</sub>・23<sub>[41]</sub>・24<sub>[42]</sub>図・Pl.28・29<sub>[374-375]</sub>, 遺物:第31図・Pl.101・102<sub>[447-448]</sub>)

位置・調査経過 南北方向にのびる溝である。B～H・9グリッドに位置する。SE4の壁に露出した覆土断面からSD8・SD9の下部に位置する遺構の存在を認めた。SD8の底で溝状に延びるプランを確認し、またSE3一帯の露出した壁面で断面形状と重複関係を把握した。各所で上部が削平され遺構構築面は定かでないが、遺構の時期を考え合わせるとⅢb層を掘削して構築されたと考えられる。SD23に切られる遺構はSD25・SX6・SX8で、SD23を切る遺構はSD8・SD9・SD14・SD17・SD18・SD24・SE3・SE4・SK132・SK134・SK182・SK208である。

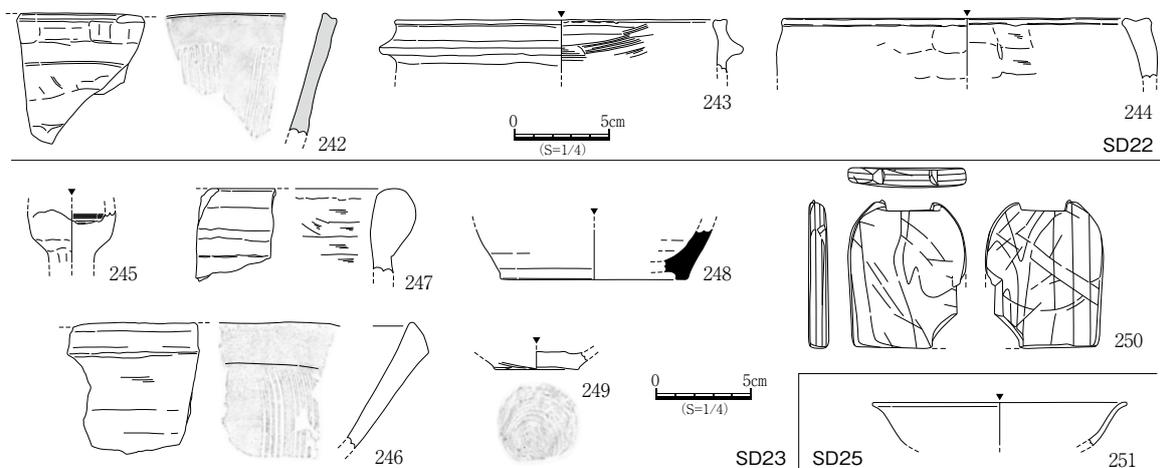
形状・規模 長軸は南北方向(N-20°-W)であるが、SD8より7°西に振れておりグリッドに沿わない。また北端では東に折れ向きを変えている。溝の断面は弓形である。幅は167～240cm、深さは42～80cmである。長さは22mまでを確認した。調査区北壁では覆土断面が確認でき、さらに北側に延長する。南側では立ち上がりを確認した。

覆土 調査区北壁(第24図23a-23a'), Eグリッド(第24図23b-23b'), Gグリッド(第24図8b-8b')の短軸方向で覆土断面を観察した。覆土の様相は各所で違いがあるが、いずれも灰色粘質シルトが主に堆積している。中央から北寄りにかけては両裾に砂礫が重層する。粘質シルトの堆積後に砂礫が重層する箇所もあり、水流があった可能性を窺わせるが、溝の南端は立ちあがっている。

8b-8b'では上層・下層に分かれる。上層(1～3層)は褐灰～灰色土層で砂を含む。下層(4～9層)は灰色シルト層で4～6層が粘質、7～9層が砂質である。

23b-23b'では上層・中層・下層に分かれる。上層(1・2層)は褐灰色砂質シルト層、中層(3～5層)は褐灰～灰色砂礫層、下層(6～9層)は6層が灰色土層で有機質を含む。7～9層は褐灰色砂礫層である。

23a-23a'では4層に分かれる。1層は褐灰色砂礫層、2層は灰色シルト層、3層は褐灰色砂礫層、4層は灰色砂礫層である。



第31図 SD22・SD23・SD25出土遺物

**出土遺物** 66点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁2点、白磁2点、陶器2点、炆器5点、須恵器3点、瓦器2点、白色土器2点、土器46点、木製品1点、動物遺体1点である。遺物の収拾は、水平位置ではグリッド別に、垂直位置は層位が確認できた箇所を上層・下層・最下層に分けて行った。グリッド別の内訳はCグリッド4点、Dグリッド22点、Eグリッド6点、Gグリッド10点、Hグリッド16点である。層位別では上層13点、下層2点、最下層1点である。

図示した6点(245~250<sup>[54]</sup>)は、245が瀬戸産の陶器で13世紀頃の製品である。246は備前焼の炆器・播鉢、247は備前焼の炆器・大甕で共に15世紀前半の製品である。248は須恵器・壺で古代の製品である。249は土器・坏皿で15世紀の製品である。250は木製品である。動物遺体にウシがある(付編2<sup>[275]</sup>)。

**時期** 15世紀前半。SD8に切られる。出土遺物には混入がある。15世紀前半の製品を含む。

**性格** 区画溝。南北溝では最も古い。SD8とは軸方向が若干ずれる。流水環境にあった可能性がある。

#### SD24〈中世の溝〉(遺構:第22<sup>[40]</sup>・23<sup>[41]</sup>・24<sup>[42]</sup>図・Pl.29<sup>[375]</sup>)

**位置・調査経過** 南北方向にのびる溝である。C8グリッドに位置する。IV層で確認した。SD23・SK219・SK221を切り、SD14・SK132・SK134に切られる。

**形状・規模** 長軸は南北方向(N-10°-W)である。溝の断面は弓形である。幅は55~88cm、深さは11~25cmである。長さは320cmまでを確認した。南端はSK132・SK134により断絶する。調査区北壁に覆土断面が確認でき、さらに北側に延長する。

**覆土** 中間位置で短軸方向縁辺部の覆土断面を観察した(第24図24-24')。24-24'は3層に分かれる。1層は灰黄褐色土層で小石を含む。2層は灰色土層で鉄分の凝集がみられる。3層は灰色砂質シルト層である。調査区北壁では埋没後ⅢF層に覆われた状況が確認できる(第24図23a-23a')。

**出土遺物** 覆土から土器3点が出土した。細片につき図示していない。

**時期** 中世。SD23を切り、ⅢF層に覆われる。

**性格** 溝。

#### SD25〈中世の溝〉(遺構:第22<sup>[40]</sup>・23<sup>[41]</sup>・24<sup>[42]</sup>図・Pl.29<sup>[375]</sup>, 遺物:第31図・Pl.102<sup>[448]</sup>)

**位置・調査経過** 東西方向にのびる溝である。EF・9~10グリッドに位置する。SD8の東壁で覆土断面を確認し面的に拡張した結果、溝であることが判明した。Ⅲ層を掘削し構築された。SR4を切り、SD8・SE10・SE15に切られる。

**形状・規模** 長軸は東西方向(N-75°-E)である。溝の断面は弓形である。幅は200cm、深さは58~68cmである。長さは340cmまでを確認した。西端はSD8により断絶し、東端は近代層により断絶する。

**覆土** SD8の東壁付近で短軸方向の覆土断面を観察した(第24図25-25')。25-25'は上層・下層に分かれる。上層(1~4層)は1層が暗灰黄色土層で小石・砂を含む。2・4層は褐灰色砂質シルト層で2層には鉄分の凝集がみられる。3層は灰黄褐色砂質土層である。下層(5~7層)は5・7層が砂の混じる灰色粘質シルト層で6層のオリーブ灰色砂質土層が諸処に挟まる。

**出土遺物** 15点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白磁1点、陶器1点、瓦器2点、土器11点である。覆土一括で収拾した。図示した1点(251<sup>[54]</sup>)は、中国製の白磁・皿で16世紀の製品である。

**時期** 中世。Ⅲ層を掘削し構築された。中世の製品を含む。

**性格** 溝。

### (3) 埋葬遺構

埋葬遺構には6基がある。SKとして調査した遺構のうち人骨等埋葬が確認されたSK153・SK155・SK183・SK234・SK237・SK282である。埋葬の時期は中世が5基(SK153・SK183・SK234・SK237・SK282)、近世が1基(SK155)である。備前焼大甕を棺に用いたSK153以外はいずれも木桶を棺としていた。SK183・SK282は木桶を横倒しに埋置し棺としていた。

第4表 埋葬遺構一覧

番号	墓制	位置	軸方向	長さ(%)	幅(%)	深さ(%)	時期	①遺物数(掲載点数) ②確認面 ③～に切られる ④～を切る ⑤その他
SK153	甕棺墓	D9	N-42°-W	294	(126)	35	16c	①111(8). ②盛土層. ③SD16/SD17. ④SK184/SK187/SK204.
SK155	円形木棺墓	FG・8	N-14°-W	92	88	30	16c	①21(3). ②盛土層. ④SK133.
SK183	横置円形木棺墓	D9	N-26°-W	79	69	21	16c	①0. ②Ⅲb層. ④SD8.
SK234	円形木棺墓	E2	—	95	94	25	14c	①17(2). ②Ⅲb層. ③SK166. ④SK269.
SK237	円形木棺墓	E3	—	91	70	45	15c	①73(5). ②Ⅲb層. ③SK166. ④SK172/SK269.
SK282	横置円形木棺墓	DE・3	N-5°-W	140	114	65	15c	①55(10). ②Ⅱ層下. ④SK164/SK231/SK264/SK265/SK269.

\*数値は墓坑規模. \*\*()数字は残存値. \*\*③④の「～」は③④に列記した遺構番号.

#### SK153 (備前大甕を用いた16世紀の甕棺墓) (遺構:第32・33<sup>[58]</sup>図・PI.30～33<sup>[376-379]</sup>, 遺物:第34<sup>[59]</sup>図・PI.102<sup>[448]</sup>)

**位置・調査経過** D9グリッドに位置する。盛土層における遺構検出時に不明瞭な長方形のプランおよび大甕口縁部を確認した。本来の遺構構築面は下部のⅢb層であるが、盛土造成時に上部を削平されたとみられる。遺構密集区域に位置するため重複関係は複雑である。SK153に切られる遺構はSK184・SK187・SK204で、SK153を切る遺構はSD16・SD17である。埋葬主体部の大甕は完存するが、肩部より上が割れ内方に落ち込んでいる。

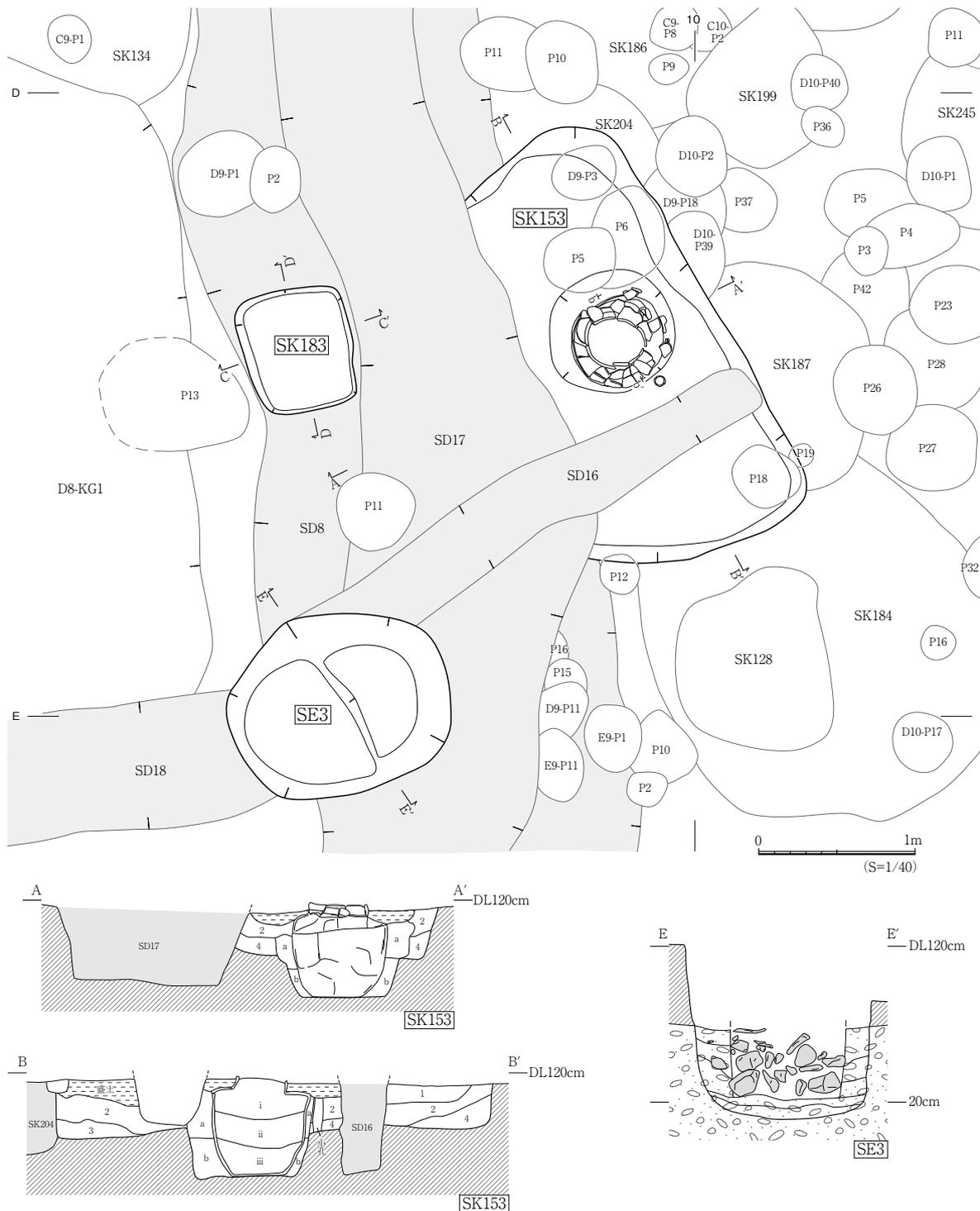
**形状・規模** 長方形の土坑の内部に、大甕のサイズに合わせた埋置坑を設け、被葬者を収めた大甕を埋置した。覆土の観察によれば、大甕の形状に合わせた埋置坑は長方形土坑を埋め戻した後に整えられた。長方形土坑は長軸が北西-東南方向(N-42°-W)で、長さ294cm、幅は甕の中心で反転し復原すると126cm、深さは35cmである。埋置坑は大甕の最大径60cmより一回り大きい80cmで、長方形土坑の底面をさらに30cm掘り下げている。埋置坑の掘方は大甕の形状に合わせて底を窄めている。大甕は埋置坑内の中心からやや南東側に偏った位置に埋置された。

**覆土** 大甕を中心とする長軸・短軸方向で覆土断面を観察した。大甕の内部、大甕の裏込土、掘方の覆土に分けて記述する(第32図A-A', B-B')。

大甕の内部には覆土が隙間なく詰まっているが、割れ落ちた大甕の破片が底付近にもみられるため被葬者を収めた当初は内部が空洞であったとみられる。蓋に類するものは確認できなかった。大甕内部の覆土はほぼ水平に堆積した3層(i~iii層)に分かれる。i層は盛土に色調が似た暗灰黄色砂質シルト層で、黄色や緑色がかかった土粒が斑状に混じる。ii層は褐灰色シルト層で微量の炭化物やローム粒を含み、鉄分の凝集もみられる。iii層はやや暗い褐灰色粘質シルト層である。埋葬人骨は下層に含まれている。

大甕と掘方覆土の隙間に充填された裏込土は上層・下層に分かれる。上層(a層)は色調が盛土に似た暗灰黄色シルト層である。下層(b層)は疎密な褐灰色粘質シルト層である。いずれも粘性がつよい。

掘方の覆土は4層に分かれる。およそ水平に堆積している。上部は大甕の口縁が露出する程度に削平され近世盛土に覆われる。1層は褐灰色土層で鉄分が凝集する。2層は褐灰色砂質シルト層である。



第32図 SK153・SE3平面図・断面図, SK183平面図

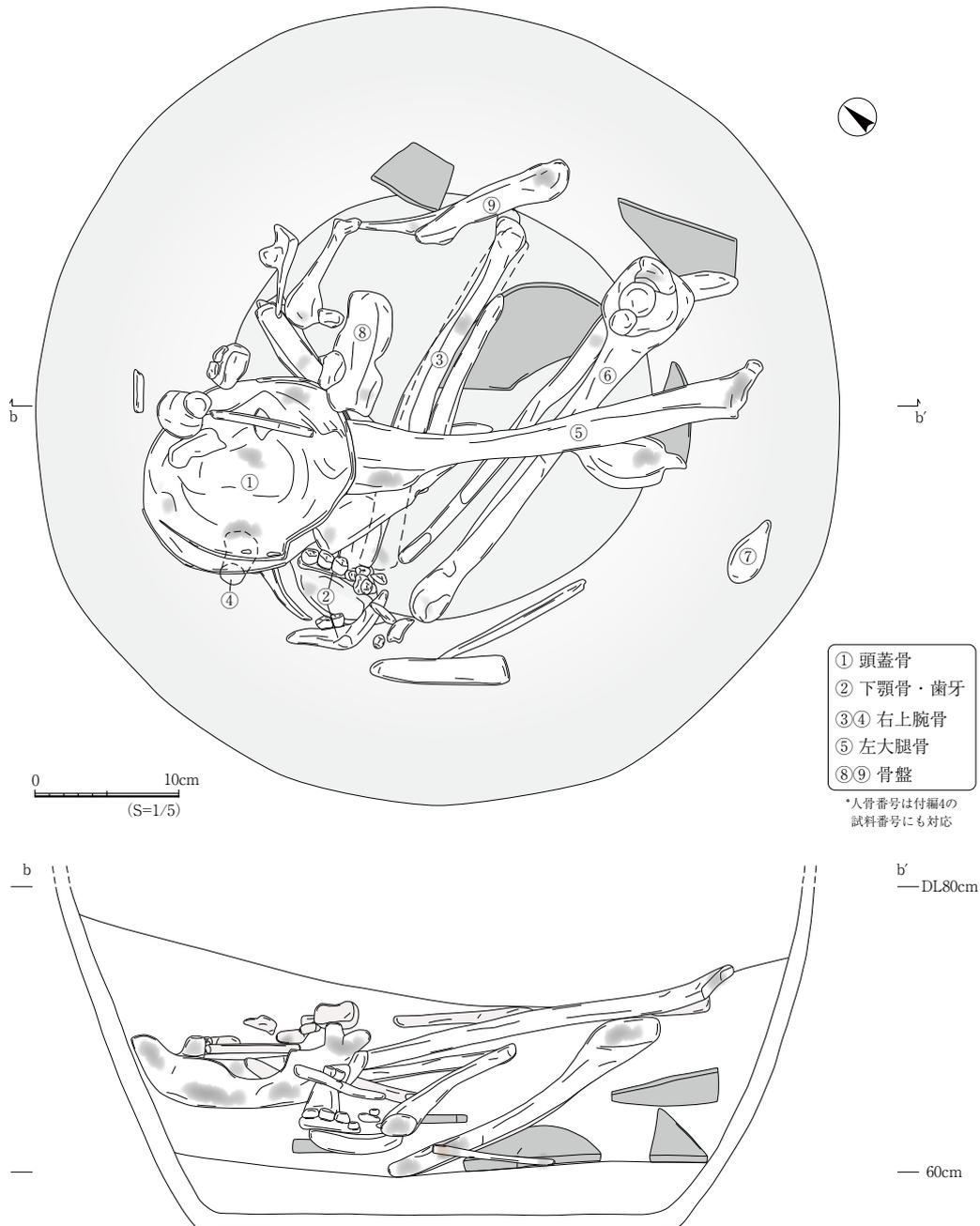
3層はオリブ灰色砂質土層で鉄分の凝集がみられる。4層は褐灰色砂質シルト層で鉄分の凝集がみられる。

出土遺物 111点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は炆器1点, 須恵器2点, 瓦器1点, 土器105点, 石製品1点, 動物遺体1点である。炆器の1点は埋葬棺の大甕(252)である。遺物の出土位置は, 大甕埋置坑覆土から7点, 棺内覆土から5点で, 他は掘方覆土から出土した。

図示した8点(252~259<sup>[39]</sup>)は、252が炆器、253が須恵器、254~258が土器、259が石製品である。

252は棺に用いられた備前焼の炆器・大甕である。ひび割れを布と漆で補修している。15世紀後半の製品である。253は東播系とみられる須恵器・鉢である。254・255は平高台の土器・坏で254は回転篋切である。256・257は土器・小皿で、埋置坑覆土の下層から出土した。256は西南側、257は東南側から投げ込まれたような状態であった(Pl.31②③④<sup>[37]</sup>)。258は土器・甕で10世紀頃の製品である。259は砥石の未製品とみられる。埋葬関連の遺物は252・256・257である。

棺内からは一体分の人骨が出土した。21部位と骨片、歯牙16点がある。部位が分かる骨には頭蓋骨・下顎骨・骨盤・上腕骨・大腿骨と歯牙がある。他に肋骨・脛骨・腓骨と推定できる部位も遺存してい

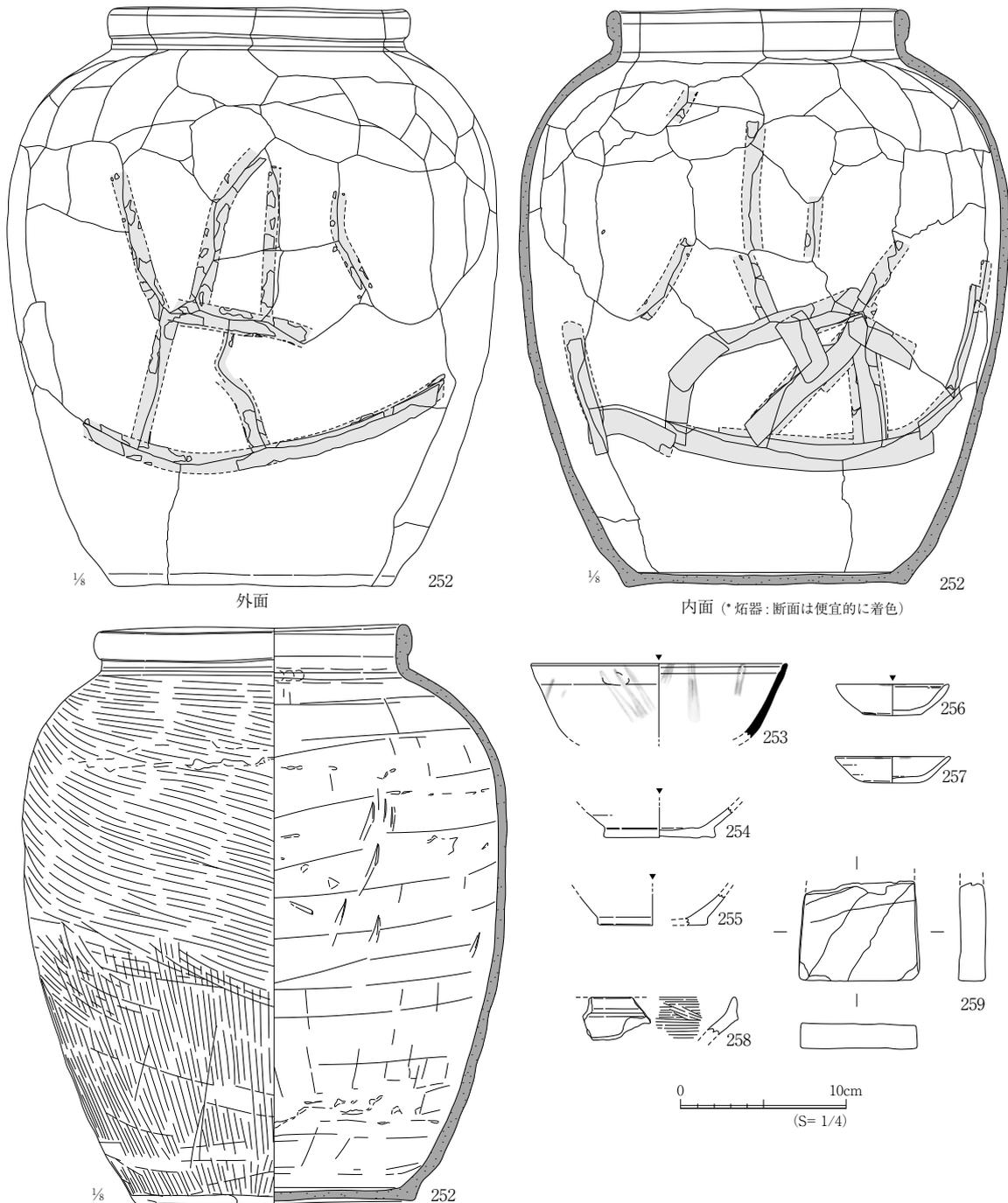


第33図 SK153人骨出土状況

た。人骨の出土位置によれば、棺内の被葬者は西ないし北を向いて屈んだ状態にあったと推測される。鑑定では成人女性である可能性が指摘されている(付編3<sup>[291]</sup>)。棺内に副葬品はない。

**時期** 16世紀の埋葬。埋葬棺である備前大甕は15世紀後半の製品である。埋置坑下部覆土の土器・小皿は15世紀の製品とみられる。掘方出土の遺物には混入が多い。SD8の埋没後(15世紀末)に埋葬が行われた。

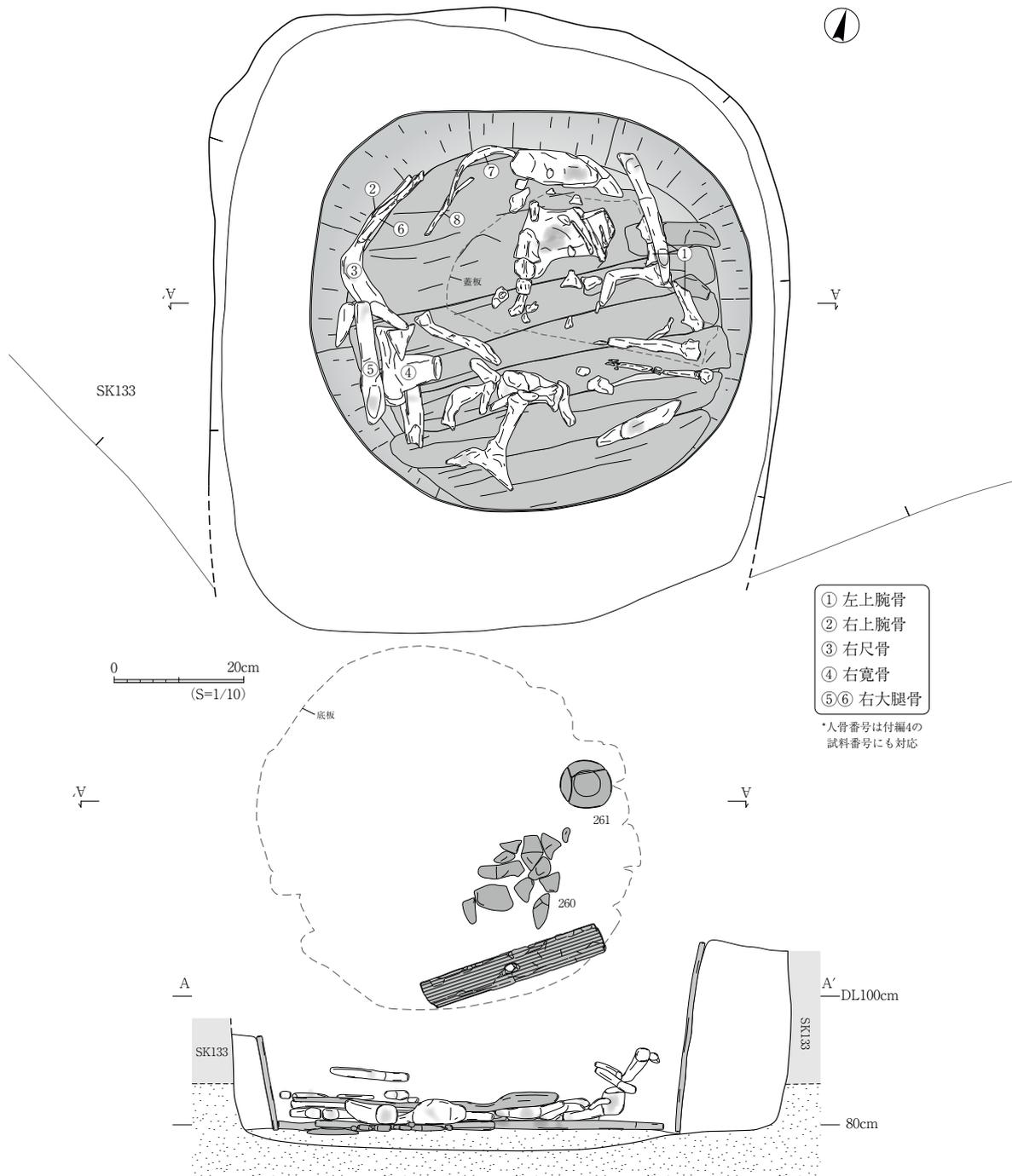
**性格** 備前焼の大甕を棺とした埋葬遺構。西2mには同時期の埋葬遺構とみられるSK183がある。



第34図 SK153出土遺物

**SK155** (16世紀の円形木棺墓) (遺構:第35・128<sup>[170]</sup>図・Pl.34・35<sup>[380-381]</sup>, 遺物:第36図・Pl.102・103<sup>[448-449]</sup>)

位置・調査経過 FG・8グリッドに位置する。SK133の覆土を掘削中に円形木棺の一部が露出し遺構の存在を認めた。盛土層における遺構検出時には該当箇所不規則な黒い染みが集中していたがプランが明確でなくSK133の一部と判断して調査を進めた。本来の遺構構築面は盛土層であろう。遺構を確認した段階では既に15cmほど掘削が進んでおり、SK155の覆土は相当部分が失われた。そのため円形木棺内の土層堆積状況は下部のごく一部を記録したに過ぎない。SK133を切る。



第35図 SK155平面図・断面図

**形状・規模** 方形の墓坑のやや東寄りの位置に円形木棺(桶棺)を置き被葬者を坐位の姿勢でおさめた。南北にやや長い(N-14°-W)方形土坑は長さ92cm, 幅88cmで確認レベルからの深さが30cmである。墓坑内のやや東寄りの位置に置かれた円形木棺は径62~68cmで深さ28cmまでが確認できた。底板の直上に人骨があり, 円形木棺内の北半分では人骨の上を半円形の板が覆う。底板と人骨を覆う板は板目の方向が異なるため, 内部に落ち込んだ蓋板と判断できる。まず蓋板と蓋板がない部分の人骨を露出させ写真・図面により記録した。その後, 蓋板を除去し残った人骨を露出させ記録した。蓋板を原状態のまま收拾しようとした結果, 蓋板と下の人骨をまとめて取り上げてしまった。室内で蓋板の除去作業を行った際, 人骨の存在に気づき, 原位置から動かぬよう丁寧に蓋板を取り除いた。結果, 上半身に当たる部分を原位置にちかい配置で顕わにすることができた。底板の下部からは素焼の坏と小皿が1点ずつと中央に穿孔のある細長い板1枚が出土した。

**覆土** 東西方向の覆土断面を観察した。円形木棺内の覆土と棺と掘方間の充填土(第35図A-A')に区別する。円形木棺内の覆土はわずかに記録し得た蓋板上の8cmである(Pl.34②<sup>[380]</sup>)。2層に分かれる。西側の上部層は灰黄褐色土層で有機質や山土粒を含む。東側の下層は緑灰色シルト層である。円形木棺と掘方の間の裏込土は黒褐色土と褐灰色土が斑状に混合したシルト質土層の単層で山土粒を含みわずかに鉄分の凝集がみられる。

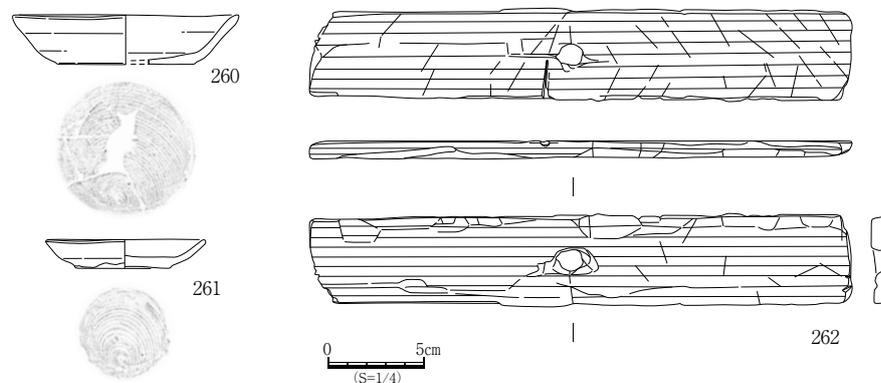
**出土遺物** 21点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器20点, 木製品1点である。図示した3点以外は覆土一括である。

図示した3点(260~262)は, 260が土器・坏皿, 261が土器・小皿で共に16世紀の製品とみられる。262は長さ28cmの木板で中央に穿孔がある。具体的な用途は不明である。これら3点は底板直下の底面直上に置かれた副葬品である。小皿は伏せた状態で円形木棺の東端に, 坏は中央やや東南よりの位置に正位置で, 板は南端に長軸を東西に向けて置かれていた。

人骨は一体分を検出した。19部位と骨片, 歯牙3点がある。人骨は底板の直上にあり北半分が落ち込んだ蓋板で覆われていた。部位が分かる骨には上腕骨・尺骨・寛骨・大腿骨と歯牙がある。人骨の出土位置によれば, 円形木棺内の被葬者は南を向いて屈んだ状態にあったと推測される。鑑定では壮年女性の可能性が指摘された(付編3<sup>[291]</sup>)。

**時期** 16世紀。円形木棺下に副葬された土器坏・小皿は16世紀の製品とみられる。

**性格** 円形木棺を用いた埋葬遺構。北12mに16世紀の埋葬遺構であるSK153がある。



第36図 SK155出土遺物

**SK183** (16世紀の横置円形木棺墓) (遺構: 第32<sup>[57]</sup>・37図・PI.36<sup>[382]</sup>)

**位置・調査経過** D9 グリッドに位置する。SD8 を掘削する過程で人骨の出土に気づいた。周囲を精査すると棺材とみられる有機質と墓坑の掘方が確認できた。埋葬遺構と判断し調査を進めたが、すでにSK183 の覆土は相当部分が失われた状態であった。検出できたのは墓床付近の一部にとどまる。SD8 を切る。

**形状・規模** 方形の墓坑掘方内に円形木棺を横倒しにして置き、被葬者を屈葬の姿勢で埋葬した墓である。長軸は南北方向(N-26°-W)である。掘方は長さ79cm、幅69cmで深さは21cmまでを確認した。ハーフパイプ状に確認された木質(65×50cm範囲)はSK282<sup>[67]</sup>と同様に円形木棺(桶)を横倒しにしたものと考えられる。南の端では側板(元は蓋か底板か)の一部を確認した。つなぎ合わせ板の縁辺を曲面にあわせて加工したものと思われる。

**覆土** 中間位置の短軸方向でわずかに残る覆土断面を観察した。棺内の覆土と棺と掘方の間の裏込土(第37図C-C')に分けて記述する。

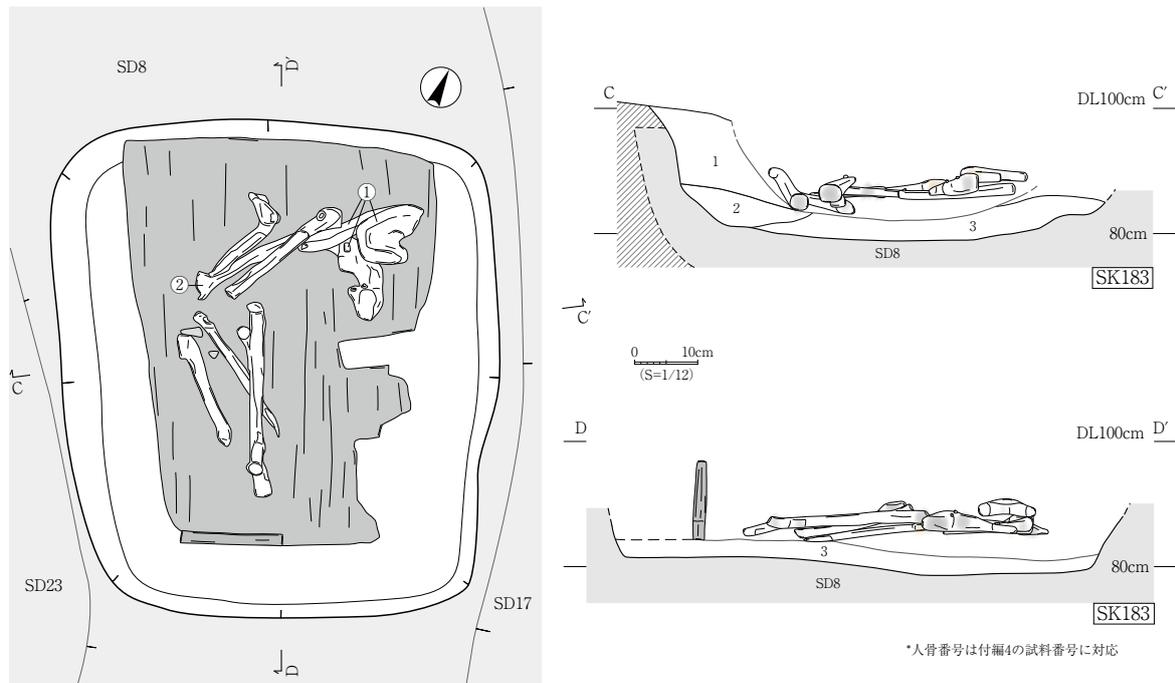
わずかに観察できた棺内の覆土は褐灰色シルト層で少量の炭化物を含む。

棺と掘方の間の覆土は側方の充填土と底の敷土に分かれる。側方の充填土(1・2層)は灰黄褐色土層で1層は小石・山土粒・有機質を含む。敷土(3層)は暗灰黄色土層で山土粒を含む。

**出土遺物** 遺物は出土していない。人骨は一体分が出土した。8部位と骨片、歯牙6点がある。部位の分かる骨に上腕骨・大腿骨・歯牙がある。歯牙や顎らしき骨が北側にあり、腕・脚が狭い範囲に並んでいる。頭を北側に向けた横臥屈葬の姿勢が考えられる。

**時期** 16世紀。15世紀末のSD8が埋没した後の埋葬である。墓制は15世紀の埋葬遺構であるSK282と同様である。また近接するSK153(甕棺墓)は16世紀の墓葬である。

**性格** 円形木棺を横置した埋葬遺構。東2mにSK153(16世紀の甕棺墓)が位置する。



第37図 SK183平面図・断面図

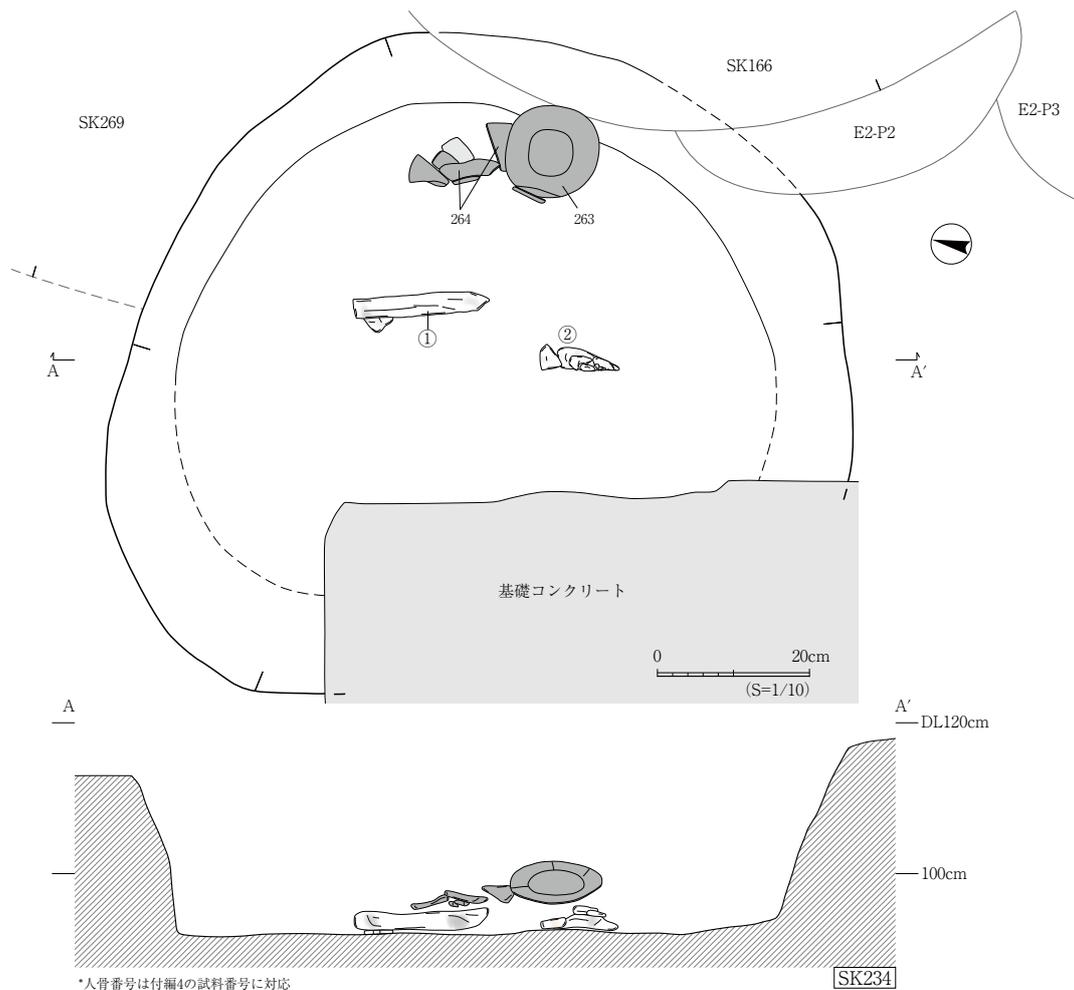
**SK234**〈14世紀の円形木棺墓〉(遺構:第38・41<sup>[66]</sup>図・Pl.37<sup>[383]</sup>, 遺物:第39図<sup>[64]</sup>・Pl.103<sup>[449]</sup>)

**位置・調査経過** E2グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK269を切り、SK166に切られる。西南側の一部はコンクリート基礎に削り取られた。

**形状・規模** 墓坑の平面形はやや歪な円形で、掘方は平らな底に向かって窄まるバケツ形である。上径は95cm、本来の底とみられる覆土1層下面までの深さは25cm、底径80cmである。墓床中央付近に人骨、底部縁辺からは土器坏皿2点が出土した。近接するSK237と対照すれば、本来は円形木棺を用いた墓葬である可能性が高い。その場合、墓床縁辺から出土した土器を棺外副葬品とすれば径45cm程度の円形木棺を用いたと考えられる。

**覆土** 南北方向で覆土断面を観察した(第41図A-A')。上層・下層に分かれる。上層(1層)は暗灰黄色土層で炭化物・山土粒・マンガン粒を含む。最下部の中央付近で人骨を検出した。円形木棺を用いたと考えられるが明確な痕跡は認められなかった。下層(2~4層)は褐灰~暗褐色土層で2・3層はシルト質、4層は砂質である。現地調査では下層を円形木棺設置前の敷土と判断したがSK269の覆土とも考えられる。

**出土遺物** 17点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は瓦器2点、土器15点である。図示した2点以外は覆土一括である。



\*人骨番号は付編4の試料番号に対応

SK234

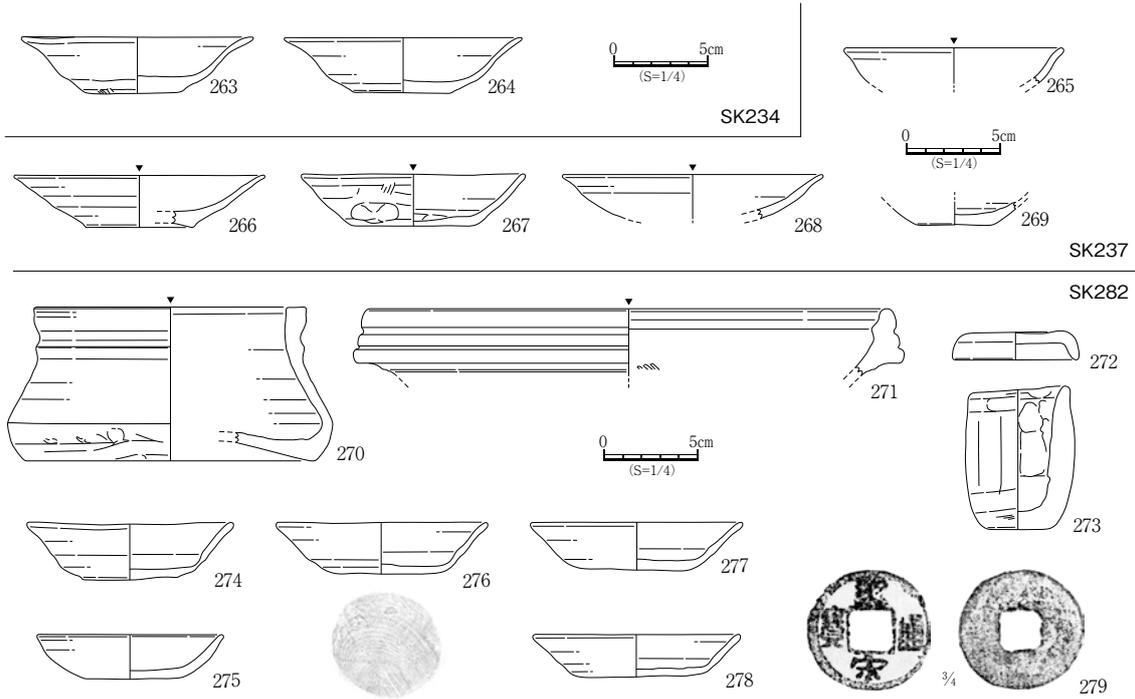
第38図 SK234平面図・断面図

図示した2点(263・264)は、<sup>[観306]</sup>263・264のいずれもが在地の土器・坏皿で14世紀の製品である。低平な器形と口縁の外反が特徴的で他の埋葬遺構から出土する土器・坏皿よりも古い様相を示す。墓床縁辺から出土しており棺外の副葬品と考えられる。

人骨は3片を検出した。細片につき部位の特定は困難である。

時期 14世紀。副葬された土器・坏皿は14世紀の製品である。

性格 円形木棺を用いた埋葬遺構。東1.8mにSK237，東2.9mにSK282がある。いずれも15世紀の埋葬遺構でSK234より時期が遅れる。



第39図 SK234・SK237・SK282出土遺物

**SK237** (15世紀の円形木棺墓) (遺構:第40・41<sup>[66]</sup>図・PI.38<sup>[384]</sup>, 遺物:第39図・PI.103<sup>[449]</sup>)

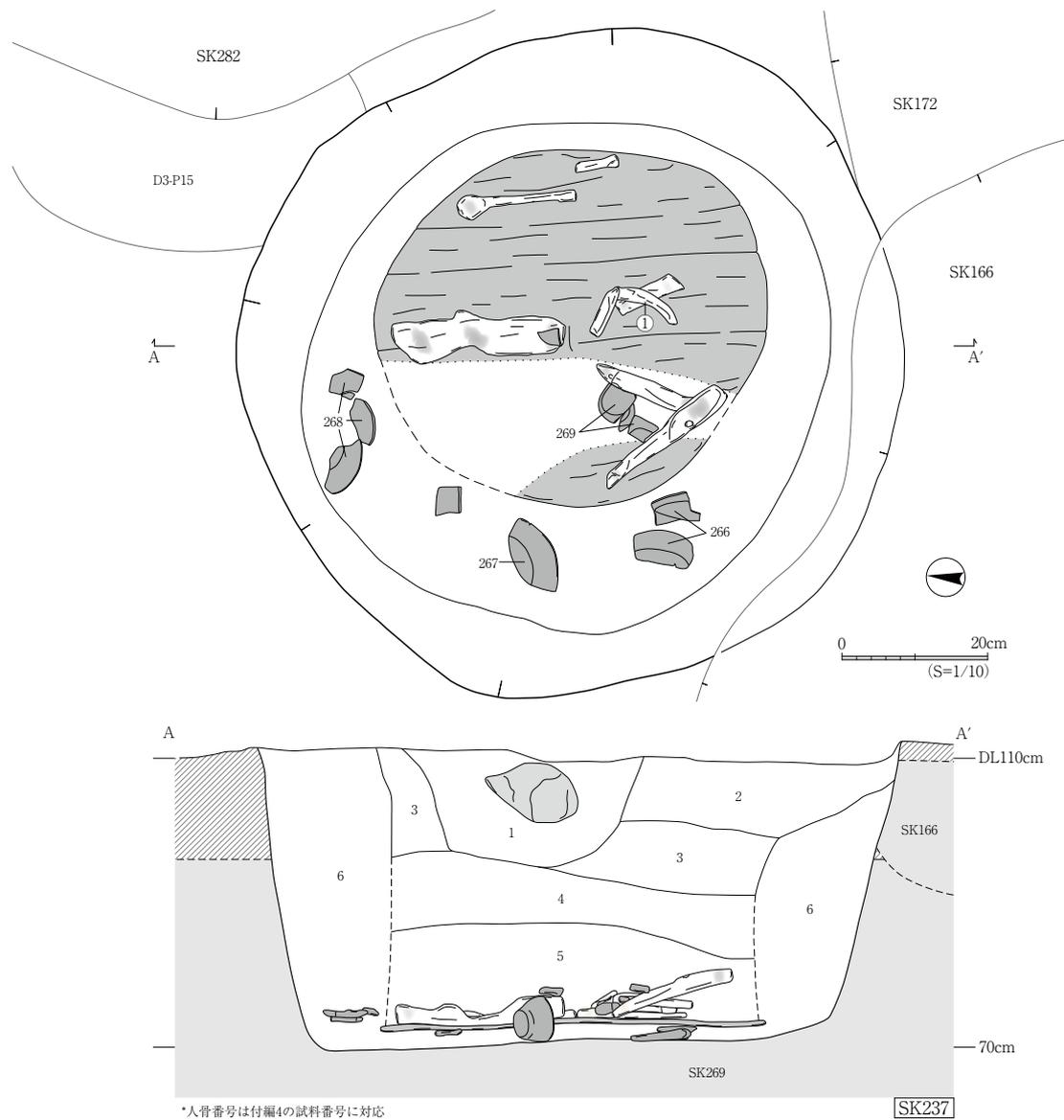
位置・調査経過 E3グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK172・SK269を切り,SK166に切られる。

形状・規模 円形の墓坑に円形木棺(桶)を置き被葬者を埋葬した。墓坑の平面形は円形,掘方は円筒形である。墓坑は上径91cm,深さ45cm,底径70cmである。底に遺存した底板と覆土断面に現れた形状によれば,円形木棺は径が約50cm,高さは28cm以上である。底板の上から人骨片と土器片,棺外の墓坑底から土器坏皿3個体分が出土した。

覆土 南北方向で覆土断面を観察した(第40図A-A')。円形木棺内覆土と棺と掘方の間の充填土に分けて記述する。

円形木棺内覆土は5層に分かれる。1層は黒褐色土層で塊石・小石・山土粒を含む。ピット状の掘り込みで別遺構の可能性もある。2・3層は黒褐色土層で炭化物・山土粒を含む。4層は褐灰色シルト層で焼土・マンガン粒を含む。5層は灰色粘質シルト層である。人骨を含む。

棺と掘方の間の裏込土である6層は黒褐～暗褐色土層でマンガン粒を含む。



第40図 SK237平面図・断面図

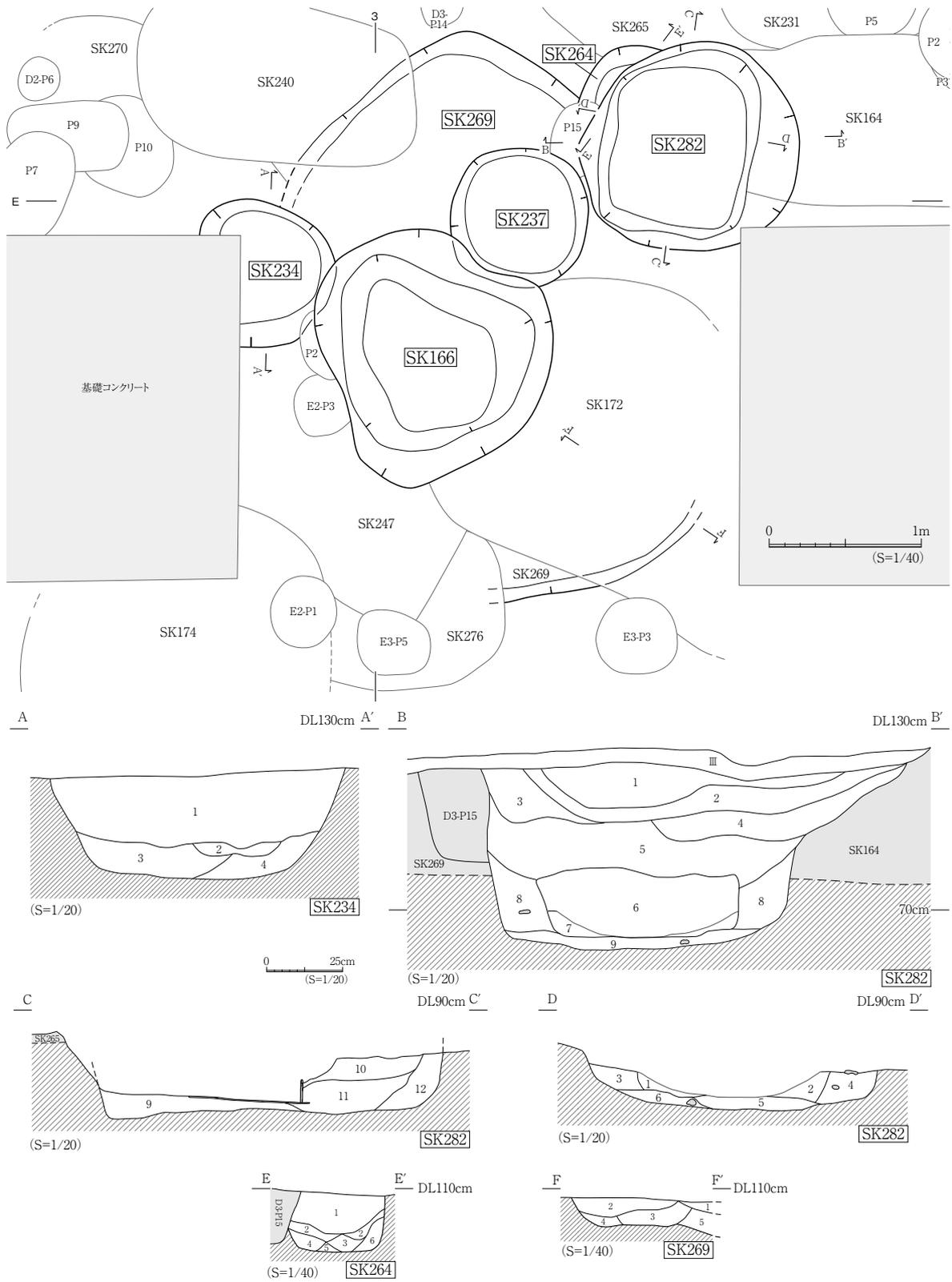
**出土遺物** 73点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点、瓦器2点、土器70点である。棺床の土器片(269)と棺外墓床の土器3点(266～268)以外は覆土一括で収拾した。

図示した5点(265～269)は、265が青磁、266～269が土器である。265は龍泉窯の青磁・皿で15世紀の製品である。<sup>[観306]</sup>266・267・268は在地の土器・坏皿で15世紀の製品である。いずれも棺外墓床から出土した。267は手捏ね成形である。269も在地の土器・坏皿で15世紀の製品である。棺床から出土した。

人骨は6部位を検出した。橈骨・大腿骨・脛骨らしき部位もあるが遺存状態が悪く特定は困難である。

**時期** 15世紀。副葬された土器・坏皿は15世紀代の製品である。

**性格** 円形木棺を用いた埋葬遺構。西1.8mに14世紀の埋葬遺構であるSK234、東1mに15世紀の埋葬遺構であるSK282がある。SK234とSK282の中間時期と考えられる。



第41図 SK234・SK264・SK269・SK282平面図・断面図, SK166・SK237平面図

**SK282**〈15世紀の横置円形木棺墓〉(遺構:第41・42<sup>[68]</sup>図・Pl.39・40<sup>[385-386]</sup>, 遺物:第39図<sup>[64]</sup>・Pl.103<sup>[449]</sup>)

**位置・調査経過** DE・3グリッドに位置する。調査の最終段階にSK264の傍で板材の縁が露出していたため、周囲を精査したところ人骨の出土があり埋葬遺構の存在が確認された。調査期間終了が迫っていたため、主体部覆土の観察を省略し埋葬人骨の検出作業を進めた。結果、横倒しにした円形木棺を用いた埋葬遺構であることが分かった。南側には空間があり副葬品が収められていた。検出した埋葬主体部と上部で調査したSK163は位置・形態・軸方向・規模がほぼ一致しており、SK282とSK163は同一遺構であり、SK163調査時に確認したグライ化した最下層は埋葬主体部の覆土であることが判明した。よってSK163をSK282に統合し、SK163の覆土をSK282の上層・中層に、埋葬主体部を下層と区分した。ただし、SK163の上部には近世の遺物を含んでおり、最上部だけが近世の土坑とも考えられる。

SK282 一帯は近代以降の造成で近世盛土が削平されており、SK282 (SK163)はII層直下の面で検出した。本来はIIIb層を掘削し構築されたと考えられるが、遺構の密集度が極めて高い区域であり周囲に地山は残っていない。SK282はSK164・SK231・SK264・SK265・SK269を切る。

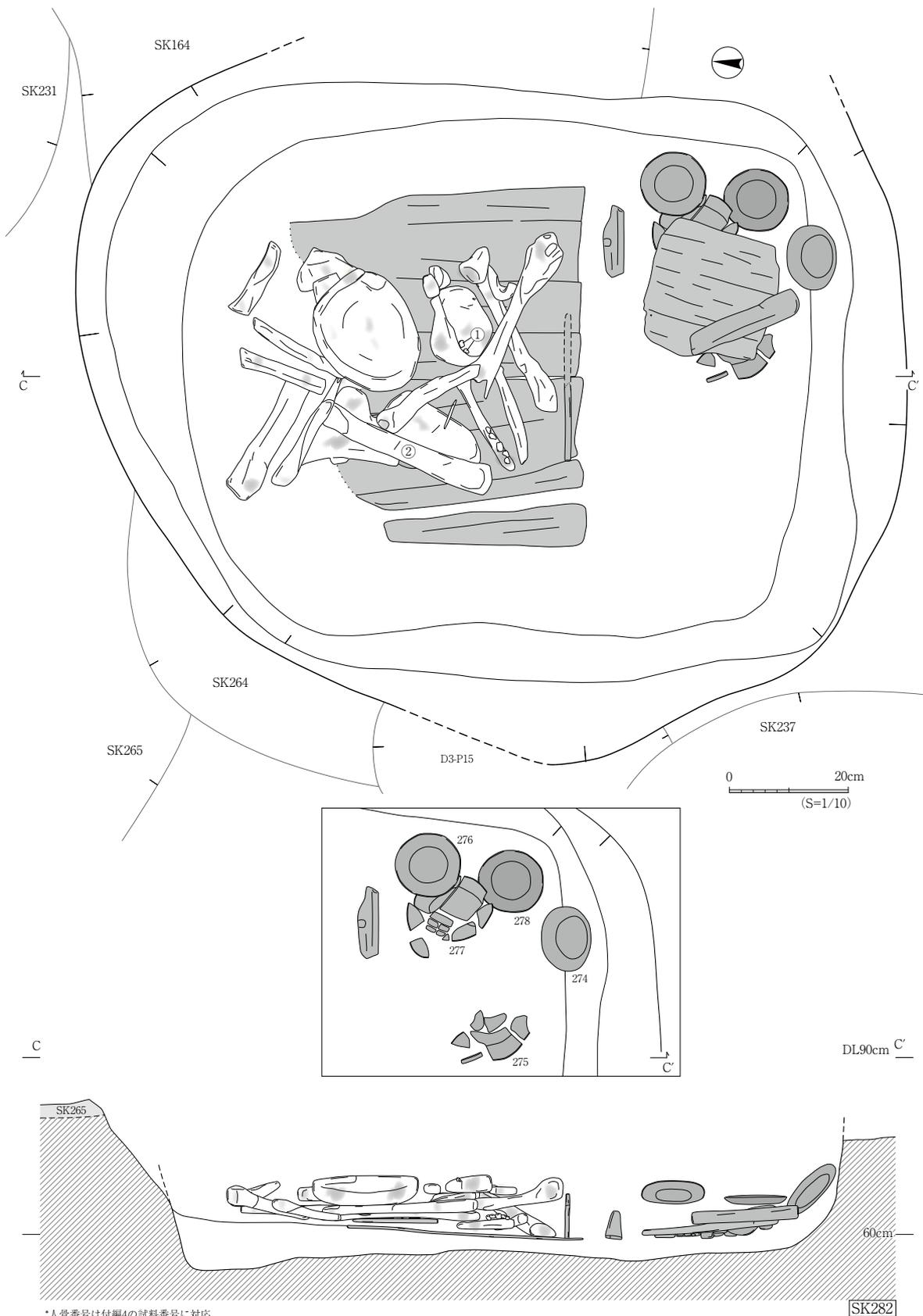
**形状・規模** 墓坑の平面形は隅丸方形で、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。壁から丸みをもってつながる底面は砂礫層をほぼ水平に均しており、南側を副葬空間、北側を埋葬空間と区分していた。長軸は南北方向(N-5°-W)で、上面の規模は長さ140cm、幅114cmである。確認面から底面までの深さは65cmで、円形木棺を用いた埋葬主体部を確認したのは深さ50cmのレベルである。主体部を確認したレベルでの掘方は長さ127cm、幅100cmである。北寄り部分に設けられた埋葬主体部は、長壁際に砂質シルトを充填して、横倒しにした円形木棺を固定している。遺存した円形木棺は長さ49cm、幅60cm、高さ8cmである。北側は板が朽ちてなくなっているが、人骨の出土状況からみると本来は墓坑北端に接していたと考えられる。円形木棺の遺存部分では7~8枚の板があり、1枚の幅は約8cmである。南端から4cmの箇所には間仕切りの用を為す側板がある。側板は複数枚の板を斜めに継いでおり、棺に接する部分が斜めに切り落とされている。人骨が検出されたのはこの側板を南端とする60cm×48cm範囲である。

副葬区の東南隅、底から立ち上がりにつながる傾斜部分には土器・坏皿5点(274~278)と方形の木板1枚、短冊状の板2点が埋置されていた。坏皿はいずれも正置で3点が墓坑掘方に沿うように置かれ、その内側には残りの2点が20cm間隔で東西に置かれていた。内側の2点の坏皿を覆うように22cm四方の方形の木板が置かれていた。方形板には部分的に釘孔のような穿孔がみられる(Pl.40<sup>④</sup><sup>[386]</sup>)。この方形板の上には短冊形の板が斜めに置かれていた。また同様の短冊形板が方形板北側のやや離れた位置に、北辺に平行するように置かれていた。方形板上の短冊板は4cm×20cm、北側の短冊板は3cm×12cmである。皇宋通寶(279)は木棺内の中央西寄り床の人骨下から出土した(Pl.39<sup>④</sup><sup>[385]</sup>)。

**覆土** 遺構上部(SK163箇所)では東西方向の覆土断面を観察し(第41図B-B'), 主体部で長軸・短軸で覆土断面を観察した(第41図C-C', D-D')。覆土は上・中・下層に分かれる。下層は埋葬主体部にあたる。

上層(1・2層)は1層が暗灰黄色砂質シルト層で炭化物・礫・山土粒を含む。2層は焼土を含む炭化物層である。近世の遺物を含んでおり後世に上部を削平した土坑とみられる。中層(3~5層)は3層がオリーブ灰色砂質シルト層、4・5層が暗灰黄色砂質シルト層でいずれも炭化物・山土粒を含む。

下層は埋葬区と副葬区に分かれ、覆土は棺内覆土、棺と掘方の裏込土、底の敷土、副葬区覆土に分かれる。棺内覆土(6層)は褐灰色粘質シルト層でマンガング粒・有機質を含みグライ化も進行している。



\*人骨番号は付編4の試料番号に対応

第42図 SK282平面図・断面図

木棺と掘方の間の裏込土(7・8層)は7層が横置した円形木棺の曲面部分と底の隙間を埋める黒灰色砂質シルト層で、8層は棺の側方を充填した褐灰色砂礫層である。敷土(9層)は灰色砂質土層である。副葬区覆土(10~12層)は10層が緑灰色砂質シルト層で有機質を含む。11層が灰黄色砂質シルト層、12層が灰緑色砂質土層である。

**出土遺物** 55点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白磁1点、染付5点、磁器2点、陶器7点、炆器7点、須恵器1点、瓦器1点、土器29点、瓦1点、銭貨1点である。遺物は上層・中層・下層に分けて収拾した。下層はさらに埋葬区と副葬区に分かれる。層位別では上層25点、上中層14点、下層11点である。副葬品は、銭貨(279)、土器坏皿5点(274~278)・方形板1枚・短冊板2点である。

図示した10点(270~279<sup>[64]</sup>)は、270・271が炆器、272~278が土器、279が銅銭である。上層から出土した270~273は近世の製品である。  
[観306-307]

270は備前焼の炆器・建水である。271は備前焼の炆器・播鉢で17世紀後半の製品である。272・273は土器・焼塩壺と蓋で17世紀の製品である。274~278は在地の土器・坏皿で15世紀の製品である。低平な器形と、内底の周囲と外胴中位が丁寧なナデ調整により帯状に窪むのが共通した特徴である。いずれも副葬空間に置かれていた。279は銅銭・皇宋通寶である。

人骨は一体分を検出した。人骨11部位と骨片、歯牙15点がある。部位が分かる骨には橈骨・尺骨・大腿骨・脛骨・歯牙がある(付編3<sup>[291]</sup>)。棺の規模からみて横臥屈葬と考えられる。

**時期** 15世紀。副葬された土器坏皿(274~278)は15世紀の製品である。

**性格** 円形木棺を横置した埋葬遺構。西1mに15世紀の埋葬遺構であるSK237、西2.9mに14世紀の埋葬遺構であるSK234がある。近接する3基のなかでは最も時期のくだる埋葬と考えられる。

#### (4) SE(井戸)

井戸はSE1~SE16までを調査した。SE9・11は名称の変更により欠番とした。最終的には14基を井戸と認定した。中世前半が1基(SE12)、中世後半が2基(SE1・SE13)、近世が10基、現代が1基(SE16)である。コンクリートで構築された近代のものを除くと、他はいずれも井側が木製である。

第5表 井戸(SE)一覧

番号	平面形態	位置	軸方向	長さ(%)	幅(%)	深さ(%)	時期	①遺物数(掲載点数) ②確認面 ③~に切られる ④~を切る ⑤その他
SE1	円形	K8	—	144	—	116	15c	①49(1)・②Ⅲb層・④SD2.
SE2	円形	C8	—	128	—	112	近世	①43(3)・②盛土層・④SD15/SK220/SK221/SK222.
SE3	円形	E9	—	142	120	145	近世	①74(9)・②盛土層・④SD8/SD16/SD17/SD23.
SE4	不整円形	FG・9-10	—	320	280	145	19c	①541(28)・②Ⅱ層下・④SD8/SD9/SD23/SE10.
SE5	隅丸方形	E4	—	210	(200)	130	19c	①340(16)・②Ⅱ層下・④SE6/SK154.
SE6	—	E4	—	(220)	(100)	90	近世	①0.②—・③SE5.④SK154.⑤井筒平面の確認のみ.
SE7	隅丸方形	E4	—	240	(190)	120	19c	①425(13)・②Ⅱ層下・④SE8.
SE8	隅丸方形	E4	—	300	265	120	近世	①143(4)・②Ⅱ層下・③SE7.④SK232.
SE10	隅丸方形	EF・10	—	(400)	(460)	(242)	18c	①874(29)・②Ⅱ層下・③SE4.④SD25/SX9.
SE12	不整円形	K・3-4	—	230	225	110	14c	①148(17)・②Ⅲb層・③SD2.④SK89.
SE13	円形	K4	—	182	154	106	15c	①75(9)・②Ⅲb層・③K4-P7.
SE14	隅丸方形	D・4-5	—	213	185	38	近世	①108(1)・②Ⅱ層下・④SK154.
SE15	不整円形	E10	—	(198)	192	132	近世	①11(1)・②Ⅱ層下・④SD25.
SE16	円形	P・8-9	—	109	106	70	20c後	①23(14)・②Ⅱ層.

\* ( ) 数字は残存値. \*\* 遺構番号下線は本文中に詳述なし. \*\*\* ③④の「~」は③④に列記した遺構番号.

**SE1** (15世紀の井戸) (遺構:第43図・Pl.41<sup>[387]</sup>, 遺物:第43図・Pl.104<sup>[450]</sup>)

**位置・調査経過** K8グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。当初SK73として調査を開始したが、覆土断面で井戸側を確認したためSE1に変更した。SD2を切る。現代建物基礎に北西側上部を削平されたが遺構の大部分が遺存する。

**形状・規模** 平面円形の井戸で、壁はやや窄まりながら底に達する。底は礫層でおよそ水平に均される。上面径は144cm、底面径は78cm、深さ116cmである。上面からの深さ57cmで確認した井戸側は底に達するまでの62cmが遺存していた。板状の木材で組まれた井戸側は歪んでいたが本来は平面方形であったとみられる。南側は井戸側から掘方までの間が狭い。南側半部で確認した井戸側は東西幅が60cmで、南北長は40cmまでを確認した。反転させて長さを推定すると80cmで全体が長方形となるので、井戸側は南に偏して設置された可能性もある。裏込土中からは底からの高さ55cmに20cm大の割石2つ、高さ64cmに人頭大の川原石1つが出土しており、いずれも井戸側に接していた。

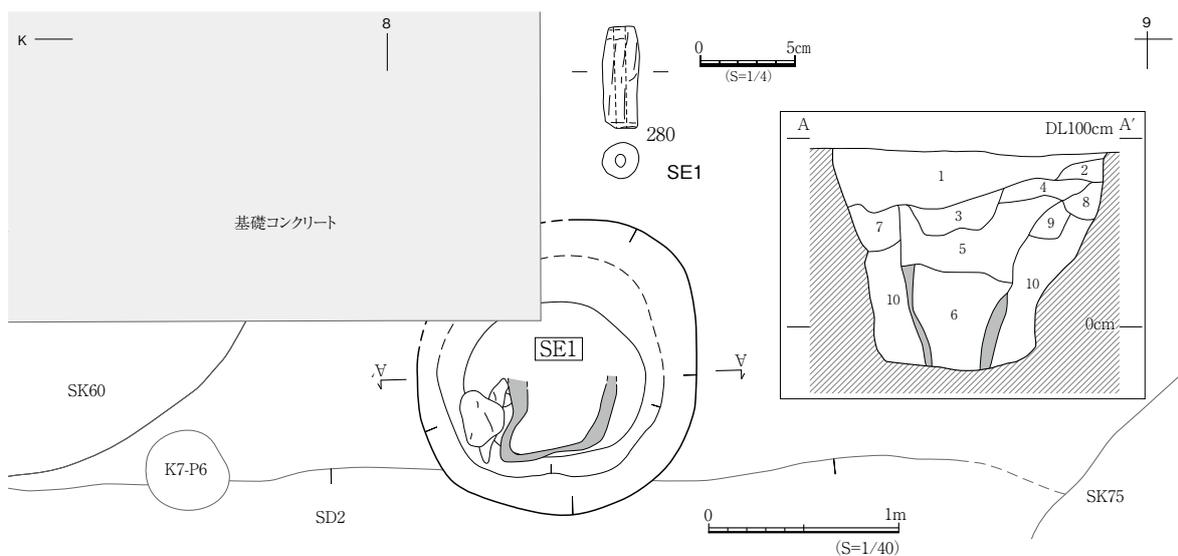
**覆土** 東西方向で覆土断面を観察した(第43図A-A')。上層、井側、裏込土に分かれる。上層(1~4層)は1層が灰褐色土層、2層が暗褐色土層、3・4層が褐灰色土層でいずれも炭化物・礫・マンガン粒・山土粒を含む。井側覆土は上層・下層に分かれる。井側上層(5層)は粗い黒褐色土層で炭化物を含み鉄分の凝集がみられる。井側下層(6層)は粗い灰色シルト層で鉄分の凝集がみられる。木製の側板を確認した。裏込土(7~10層)は灰色粘質シルト層で炭化物を含み鉄分の凝集がみられる。

**出土遺物** 49点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は瓦器5点、土器41点、土製品2点、石製品1点である。遺物は北側半裁時には覆土一括で、南側掘削時には上層、井戸側内、裏込土と区分して収拾した。層位別では上層18点、下層1点、裏込土5点である。残りは覆土一括である。

図示した1点(280)は土錘である。  
[観307]

**時期** 15世紀に埋没。SD2(15世紀代)を切る。遺物には混入したものが多い。最も新しいものは15世紀の製品である。

**性格** 井戸。



第43図 SE1平面図・断面図・出土遺物

**SE2**〈近世の井戸〉(遺構:第44図・Pl.41<sup>[387]</sup>,遺物:第44図・Pl.104<sup>[450]</sup>)

**位置・調査経過** C8グリッドに位置する。盛土層で確認した。検出時には近代の遺物を含む土坑と判断し精査の対象外としていたが、掘削の過程で井側のプランを確認したため以後は井戸として調査を進めた。SD15・SK220・SK221・SK222を切る。

**形状・規模** 平面形は円形である。覆土を大部分を除去したため上部の詳細は不明である。下部では礫層を円筒形に掘り込み井側としていた。上面径128cm, 深さ112cm, 底径50cmである。底から塊石数個が出土した。

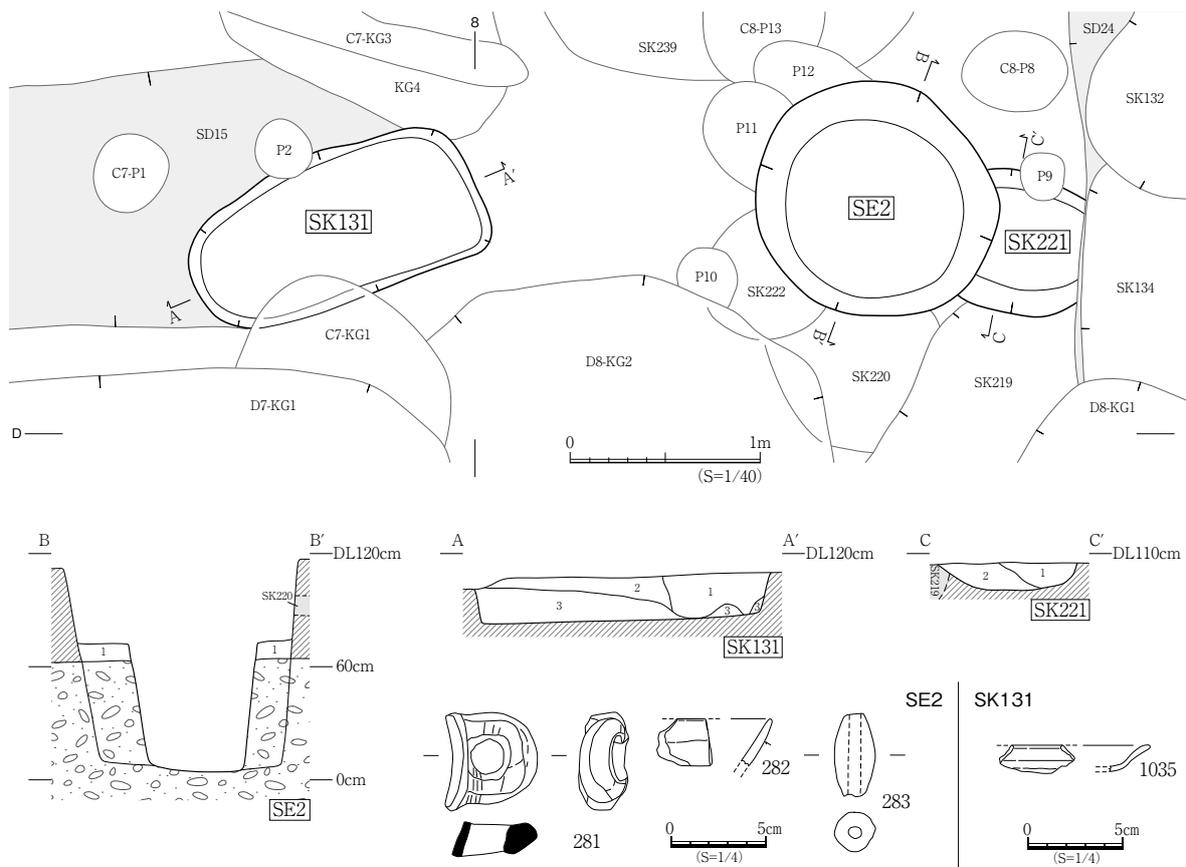
**覆土** 南北方向で裏込土の一部を確認したに留まる(第44図B-B')。裏込土は黒灰色粘土層で大小の礫・有機質を含む。井側底で塊石を確認した。

**出土遺物** 43点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付8点, 磁器2点, 陶器9点, 須恵器2点, 黒色土器1点, 白色土器1点, 土器17点, 土製品1点, 瓦1点, 鉄器1点である。覆土一括で収拾した。

図示した3点(281~283)は、**281**が須恵器の把手である。**282**は搬入品の黒色土器・坏で9世紀後半~10世紀初の製品である。**283**は土錘である。

**時期** 近世。盛土層を掘削し構築された。遺物には混入がある。

**性格** 井戸。



第44図 SE2・SK131・SK221平面図・断面図, SE2・SK131出土遺物

**SE3** (近世の集水槽) (遺構: 第32図<sup>[57]</sup>・PI.41<sup>[387]</sup>, 遺物: 第45図・PI.104<sup>[450]</sup>)

**位置・調査経過** E9 グリッドに位置する。盛土層で確認した。検出時には近代の遺物を含む土坑として精査の対象外としていたが、掘削の過程で井側のプランを確認したためその後は井戸として調査を進めた。しかし井側の裏込土が底にも回り込んでおり、また底には板材も敷かれていたため井戸とは考え難くなった。その後、連結するSD18が木管を備えた導水施設であると判明したため、SE3を集水施設と認めた。SE3はSD8・SD16・SD17・SD23を切る。導水管であるSD18を介してSE8に繋がる。SD16もSD18に類した溝である可能性がある。

**形状・規模** 平面形は円形である。覆土を大部分を除去したため上部の詳細は不明であるが、掘方は円筒形である。平面規模は120～142cm、深さ145cmである。井側相当部分は円筒形で木枠と底板がある。径70cm、底板は掘方底から13cmの高さにある。埋め戻し時には多量の塊石が投入された。

**覆土** 北西軸で覆土断面を部分的に確認した。上部には炭化物を含む層が堆積していたが詳細に記録していない。筒形の槽内には人頭大の塊石が詰まっていた。

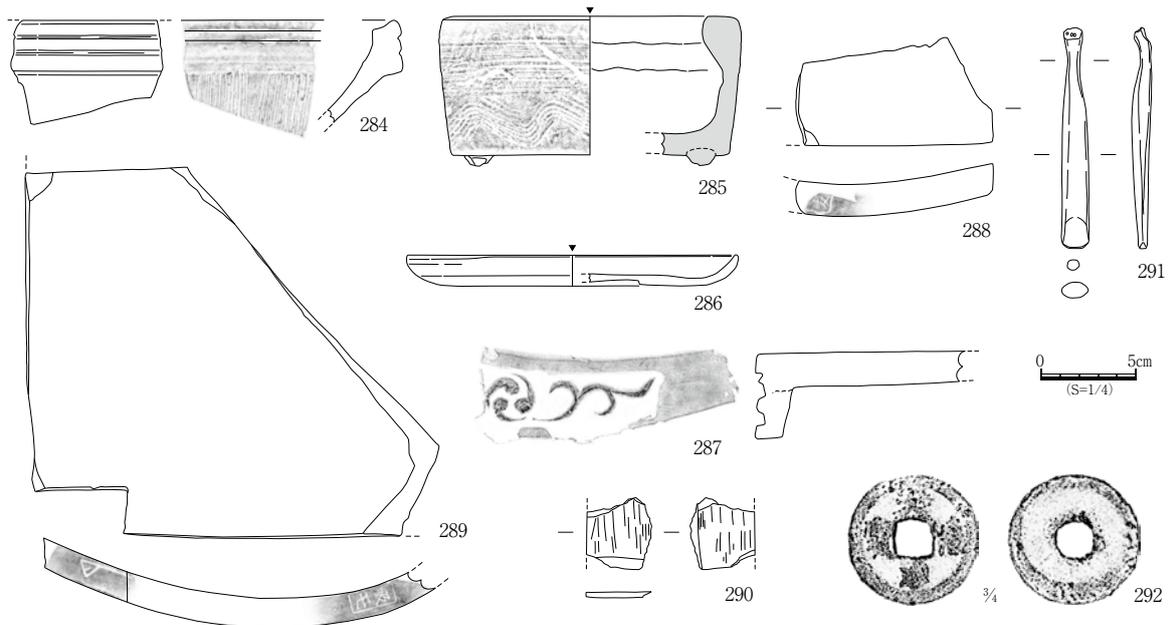
**出土遺物** 74点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点、白磁1点、染付9点、磁器2点、陶器12点、陶胎染付1点、炆器1点、瓦器2点、瓦13点、白色土器1点、土器27点、石製品1点、骨角器1点、銭貨1点、ガラス製品1点である。覆土一括で収拾した。

図示した9点(284～292)は、284が炆器、285が瓦器、286が土器、287～289が瓦、290が石製品、291が骨角器、292が銅銭である。

284は備前焼の炆器・播鉢で17世紀後半の製品である。285は近世の瓦器・火鉢、286は近世の土器・皿である。287は軒平瓦である。288は平瓦で「□友」刻印がある。289は棧瓦で「吸モ」「△」刻印がある。290は粘板岩製の薄板、291は骨角器・歯ブラシである。292は銅銭・新寛永通寶である。

**時期** 近世。盛土を掘削して構築された。出土遺物は近世の製品である。

**性格** 集水槽。導水施設であるSD18によってSE8と連結される。



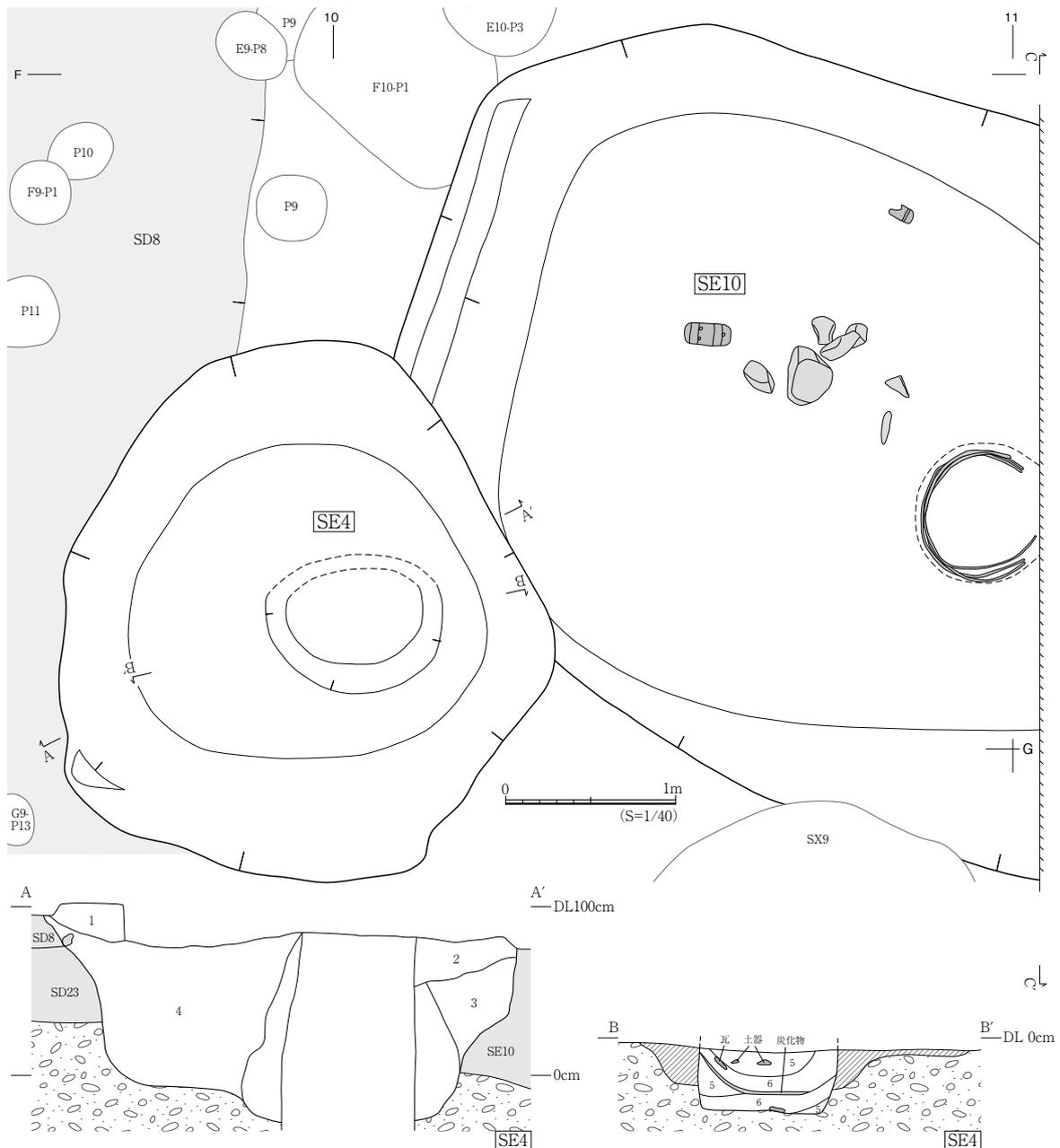
第45図 SE3出土遺物

**SE4**〈19世紀の井戸〉(遺構:第46図・Pl.42<sup>[388]</sup>, 遺物:第47図<sup>[74]</sup>・Pl.104~106<sup>[450-452]</sup>)

**位置・調査経過** FG・9~10グリッドに位置する。II層(近代層)を掘削する過程で確認した。周囲はII層が厚く堆積している。検出時には近代の遺物を含む大型土坑と判断し精査の対象外としていたが,掘削の過程で井側のプランを確認したため以後は井戸として調査を進めた。SE4はSD8・SD9・SD23・SE10を切る。

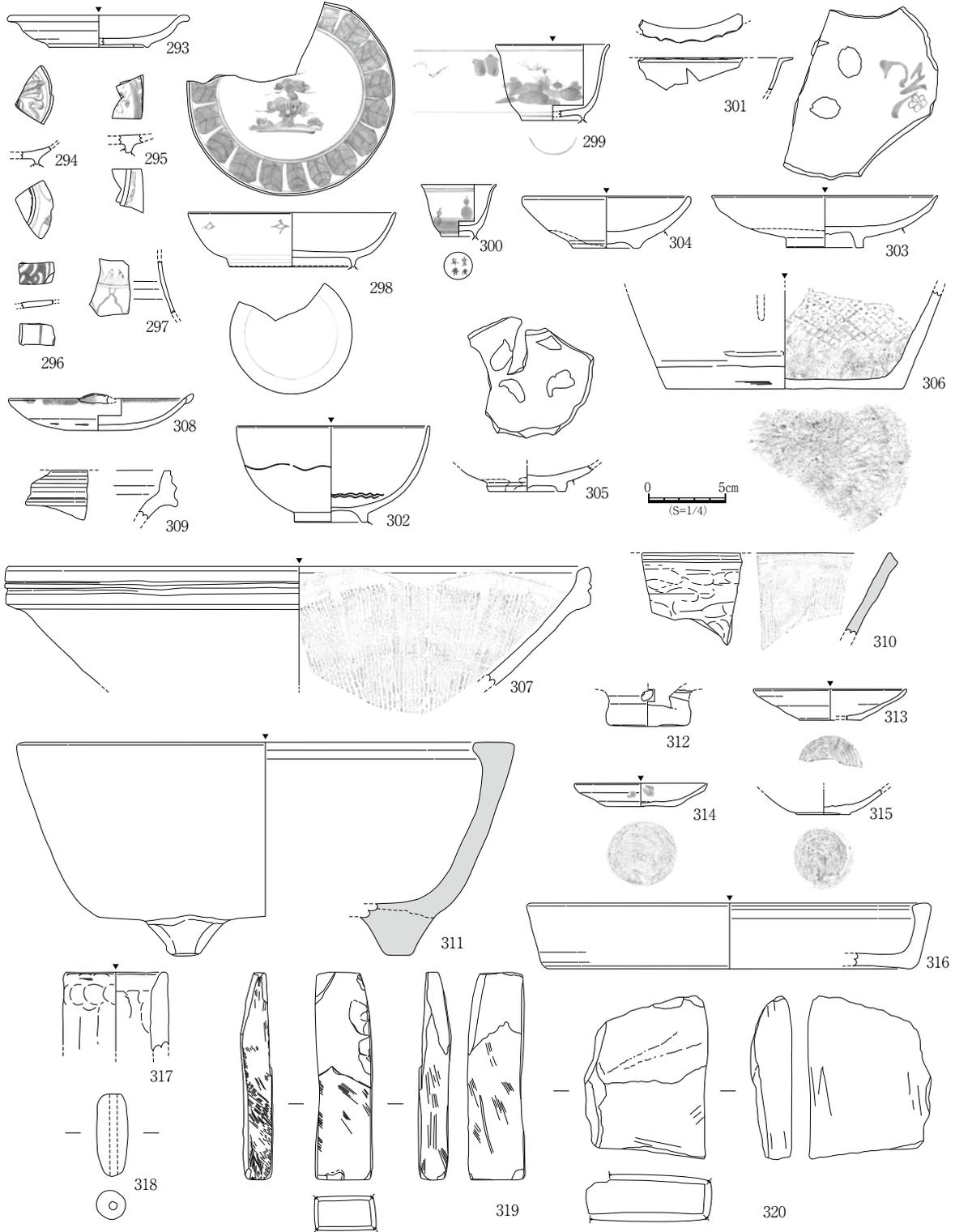
**形状・規模** 平面形は不整形である。平面規模は280~320cmである。深さ約105cmまでを垂直に掘り込んだ後,底中央のやや東寄り箇所を径80cm,深さ40cmに掘り下げ井筒とした。

**覆土** 北東軸の覆土断面を観察した(第46図A-A')。井筒内の覆土は東西軸で確認した(第46図B-B')。井側内の覆土は詳細に観察していない。裏込土と井筒内覆土に分けて記述する。



第46図 SE4平面図・断面図, SE10平面図

裏込土は4層に分かれる。1層は黒褐色土層で砂を含み鉄分の凝集がみられる。2層は黒褐色土層で炭化物を含み鉄分の凝集がみられる。3層は褐灰色土層で小石を含む。4層は緑灰色土層で砂・小石・シルトブロックを含み鉄分の凝集がみられる。



第47図 SE4出土遺物

井筒内覆土(5・6層)は2層が互層をなす。5層は黒褐色砂質土層, 6層は粘性の木質層である。6層は薄板・樹皮や漆喰状の白色物を多量に含んでいた。

**出土遺物** 541点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁16点, 白磁9点, 青花9点, 染付24点, 磁器11点, 陶胎染付5点, 陶器98点, 炆器23点, 須恵器3点, 瓦器11点, 弥生土器1点, 白色土器4点, 土器286点, 土製品1点, 瓦25点, 石製品4点, 鉄器1点, 動物遺体8点, 植物遺体2点である。遺物の收拾は上層・下層, 裏込上層・裏込下層に分けて行った。内訳は井側下層は66点, 裏込下層4点, 裏込上層7点である。その他は覆土一括である。

図示した28点(293~320)<sup>[観307-308]</sup>は, 293が白磁, 294~297が青花, 298~300が染付, 301が磁器, 302~306が陶器, 307~309が炆器, 310・311が瓦器, 312~317が土器, 318が土製品, 319・320が石製品である。

293は中国製の白磁・皿で16世紀の製品である。294~296は景德鎮の青花・皿, 297は漳州窯の青花・瓶である。298は肥前の染付・皿で19世紀の製品である。299・300は肥前の染付である。303~305は唐津の陶器・皿で17世紀の製品である。303には意匠化された「花」字が描かれる。306は肥前の陶器・甕で内面に格子目当て具痕が残る。307は備前の炆器・播鉢である。308は備前の炆器・灯明皿である。309は丹波の炆器・甕である。310は在地の瓦器・播鉢で中世の製品である。312は柱状高台の土器・坏で古代の製品である。313~315は在地の土器・小皿で近世の製品である。316は関西系の土器・焙烙で近世の製品である。317は土器・焼塩壺で17世紀の製品である。319は粘板岩製, 320は砂岩製の砥石である。動物遺体にシカ中足骨, サザエ・ハマグリ等貝類, タイ等魚骨がある(付編2<sup>[275]</sup>)。

**時期** 19世紀。18世紀のSE10を切る。遺物には混入が多いが, 最も新しいものは19世紀の製品である。  
**性格** 井戸。

#### SE5〈19世紀の井戸〉(遺構:第48図<sup>[76]</sup>・Pl.43<sup>[389]</sup>, 遺物:第49図<sup>[77]</sup>・Pl.106<sup>[452]</sup>)

**位置・調査経過** E4グリッドに位置する。SK154の覆土断面を観察した際, 南側が別の遺構であることに気付いた。底に残る井筒の痕跡により井戸であることが判明した。遺構自体はII層直下で確認した。SE5はSE6・SK154を切る。SE6はSE5の底で井筒の痕跡のみが確認された。

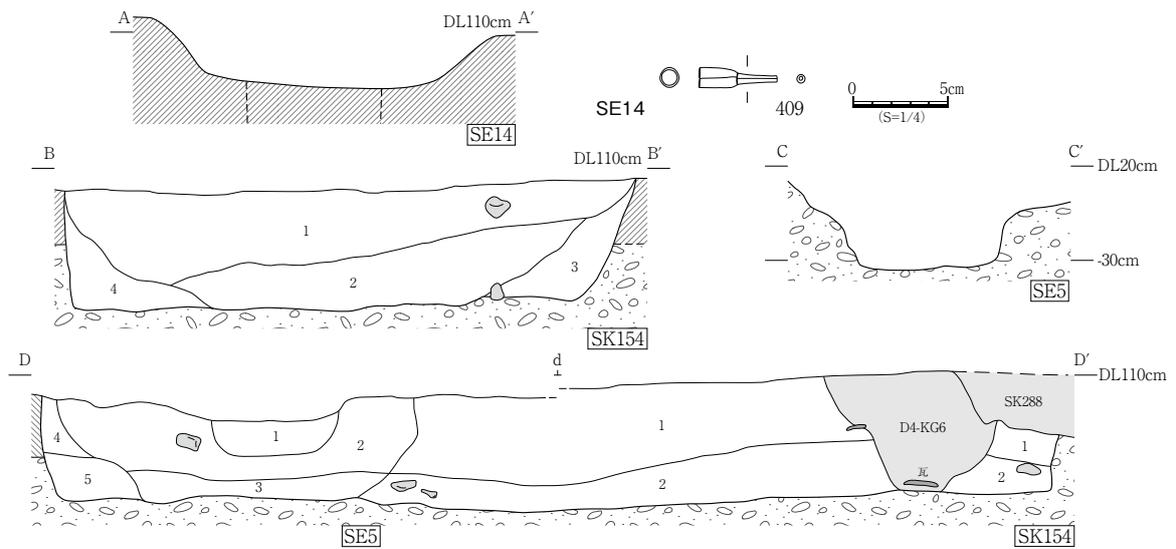
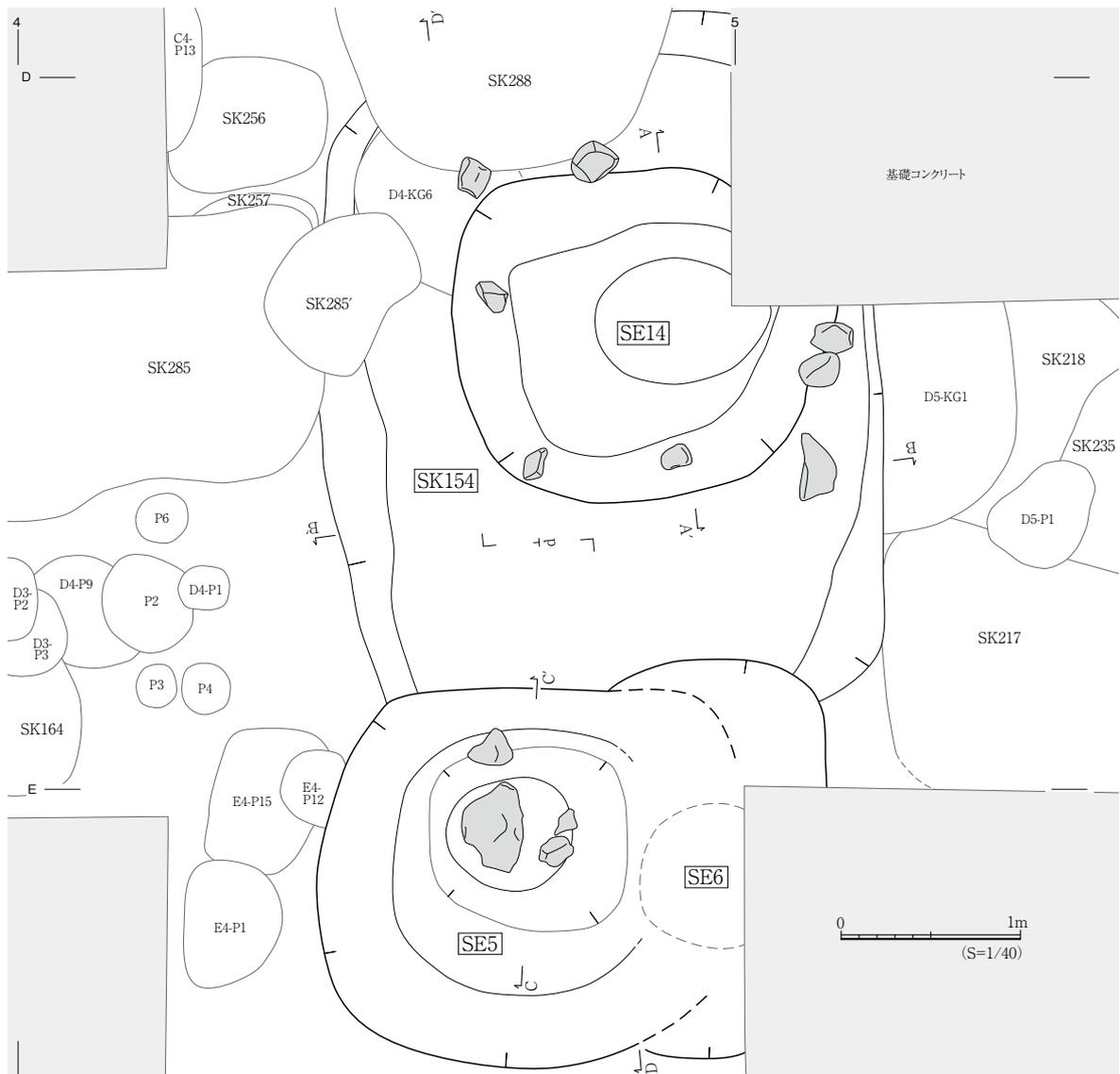
**形状・規模** 平面は隅丸方形で平面規模は210cm大である。掘方は歪な椀形で深さ75cmまで掘り下げた後, およそ水平に均した底のやや北寄り箇所を径60cm, 深さ55cmに掘り下げ井筒としていた。

**覆土** 当初は遺構と認識していなかったため南北方向の裏込土を観察したに留まる。裏込土は5層に分かれる。1~3層は暗褐色土層で炭化物・礫・山土粒を含む。4・5層は暗褐~褐灰色砂礫層である。

**出土遺物** 340点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁2点, 白磁4点, 染付62点, 磁器10点, 陶胎染付4点, 陶器124点, 炆器18点, 瓦器13点, 白色土器4点, 白塗土器1点, 土器44点, 土製品3点, 瓦42点, 石製品2点, 銭貨1点, 鉄器2点, 鉄滓2点, 動物遺体2点である。遺物の收拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層20点, 下層13点である。他は覆土一括である。

図示した16点(321~336)<sup>[観308-309]</sup>は, 321が染付, 322が磁器, 323~326が陶器, 327~329が炆器, 330~332が土器, 333が白塗土器, 334が土製品, 335が瓦, 336が銅銭である。

321は肥前の染付・端反碗で19世紀の製品である。322は肥前の磁器・獅子人形で赤・褐・緑色の色絵付である。323は唐津の陶器・天目茶碗で17世紀の製品である。324は肥前の陶器・鉢で蓮弁文帯がある。325・326は瀬戸の陶器・灯明皿・受皿で近世の製品である。327は肥前の炆器・鉢で型押の菊・柏葉文がある。328は堺の炆器・播鉢で19世紀の製品である。329は備前の炆器・瓶である。

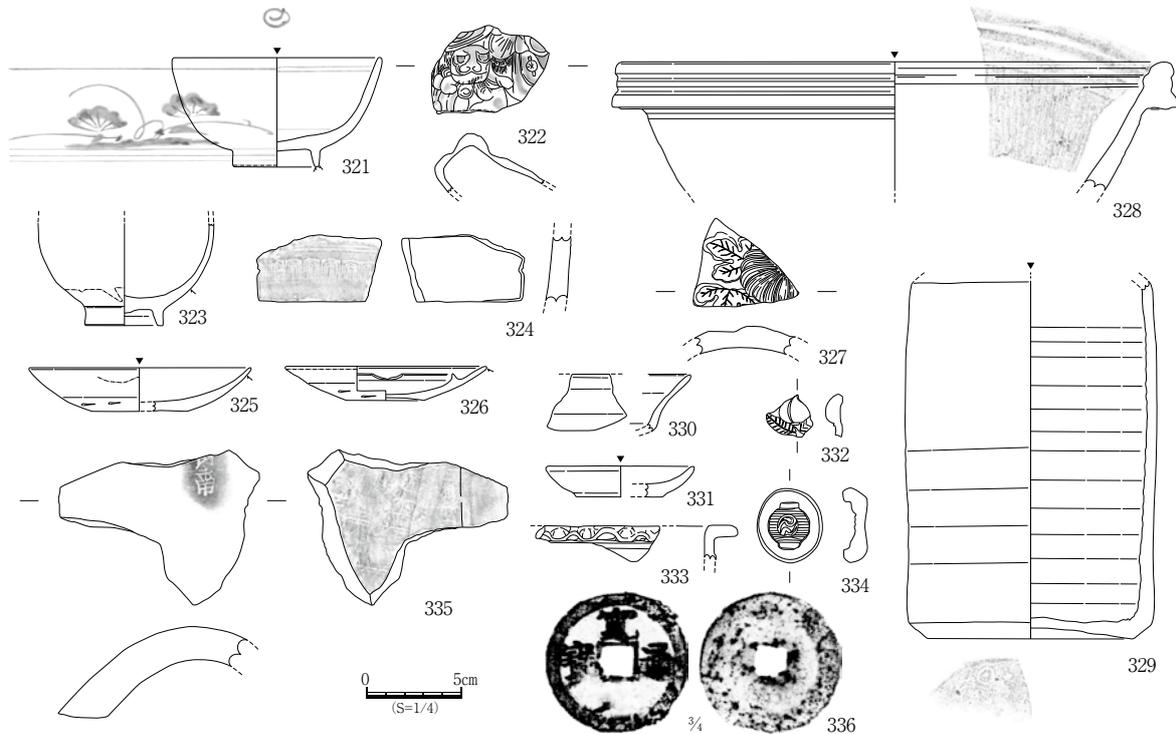


第48図 SE5・SE14・SK154平面図・断面図，SE14出土遺物

330は土器・坏皿, 331は土器・小皿でいずれも近世の製品である。332は土器片で型押の桃・葉文がある。333は白塗土器・鉢で近世の製品である。334は土製品・人形型であろう。335は丸瓦で刻印がある。336は古寛永通寶である。動物遺体にシカ脛骨・中足骨・踵骨がある(付編2<sup>[275]</sup>)。

時期 19世紀。出土遺物には混入があるが最も新しいのは19世紀の製品である。

性格 井戸。



第49図 SE5出土遺物

SE7<19世紀の井戸>(遺構:第50図<sup>[78]</sup>・Pl.43<sup>[389]</sup>, 遺物:第51図<sup>[79]</sup>・Pl.106・107<sup>[452-453]</sup>)

位置・調査経過 E4グリッドに位置する。II層直下で確認した。検出時には近代の遺物を含む大型土坑と判断し精査の対象外として調査を進めた。覆土断面にも井側の痕跡は現れず井戸と気付いたのは底に井筒の痕跡が確認された段階である。SE7はSE8を切る。

形状・規模 上面はやや歪な隅丸方形で規模は240×190cmである。垂直に近い角度で深さ110cmまで掘り込み、水平に均した底の北寄り箇所にやや歪な隅丸方形の土坑を掘削し井筒としていた。井筒部分は平面規模が110cm大、深さ30cmである。

覆土 南北方向の覆土断面を観察した(第50図A-A')。上層・下層・井筒覆土に分かれる。上層(1~4層)は1層が暗灰黄色砂質シルト層で炭化物・焼土・小石・山土粒を含む。2層が黒灰色シルト層で炭化物・有機質を含む。3層は不規則に広がる黒褐色木質層である。4層は緑灰色砂質シルト層で炭化物・礫を含む。下層(5・6層)は緑灰色砂質シルト層で礫を含む。井筒覆土(7・8層)は7層が黒褐色木質層で8層が緑灰色粘質シルト層で礫を含む。

出土遺物 425点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁6点, 白磁5点, 青磁染付1点, 染付26点, 石製品4点, 青花1点, 磁器23点, 陶胎染付2点, 陶器111点, 炆器17点, 瓦器18点, 白色土器3点, 土器120点, 瓦64点, 木製品1点, 繊維製品1点, 鉄器5点, 鉄滓5点である。動物遺体には12点がある。

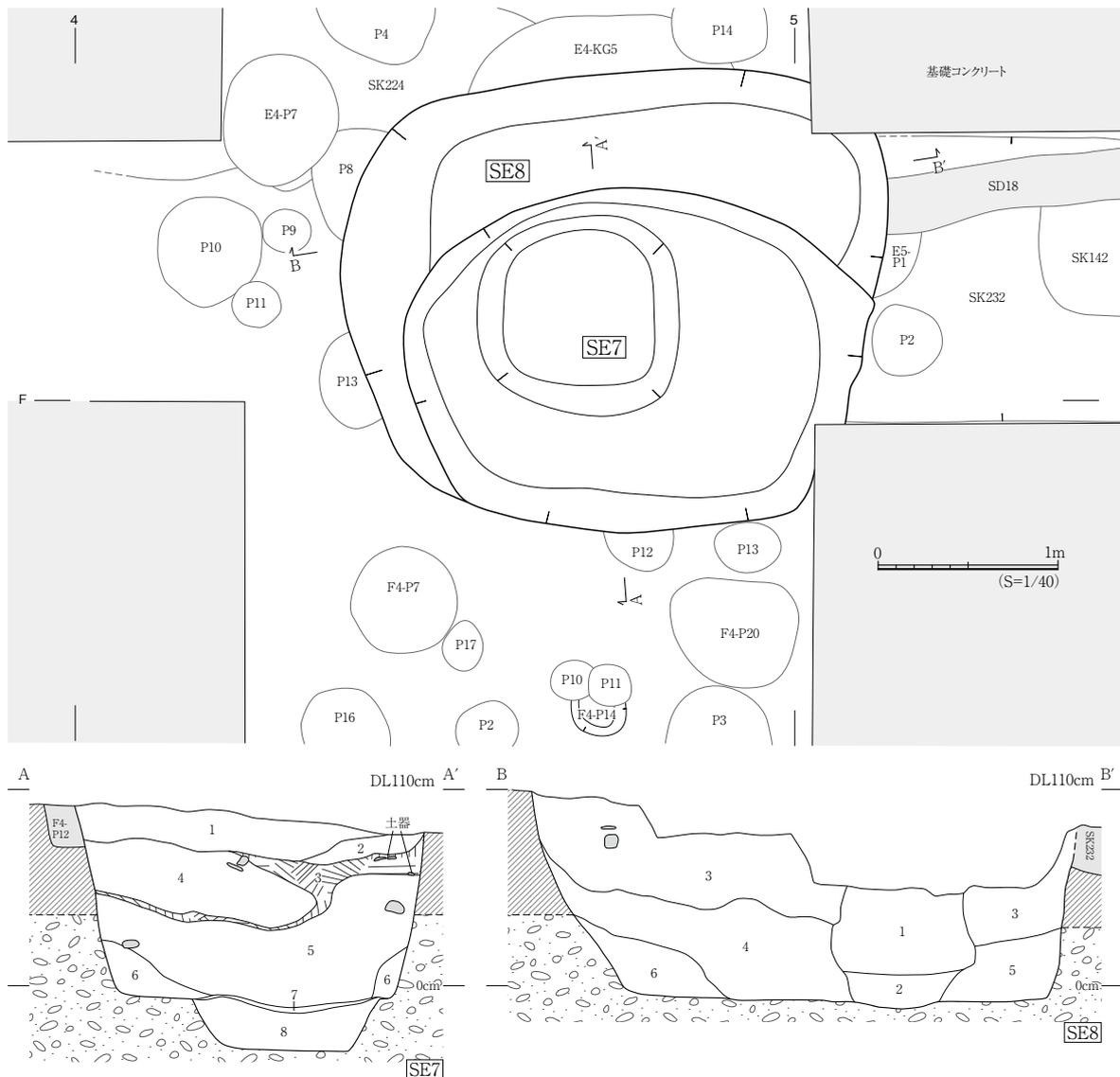
遺物の収拾は上層・中層・下層・井筒覆土に分けて行った。内訳は上層21点, 中層33点, 下層35点, 井筒覆土3点である。他は覆土一括である。

図示した13点(337~349)は, 337~340が染付, 341~343が陶器, 344・345が土器, 346が木製品, 347が繊維製品, 348・349が鉄器である。

337は肥前の染付・蓋物蓋で19世紀の製品である。338は初期伊万里の染付・皿で17世紀前半の製品である。339は肥前の染付・酒杯である。340は肥前の染付・仏飯器である。341は唐津の陶器・天目茶碗で17世紀後半の製品である。342は能茶山の陶器・浅碗で19世紀前半の製品である。343は萩の陶器・ピラ掛け碗で19世紀の製品である。344・345は在地の土器・小皿で近世の製品である。346は「山内」墨書のある木札である。347は棕櫚ホウキ, 348は鉄器・刃物, 349は鉄器・頭巻釘である。動物遺体にハイガイ・テングニシ等貝類, シイラ等魚骨, イヌ上腕骨, ハト科橈骨がある(付編2<sub>(275)</sub>)。

時期 19世紀。出土遺物には混入があるが, 最も新しいのは19世紀の製品である。

性格 井戸。



第50図 SE7・SE8平面図・断面図

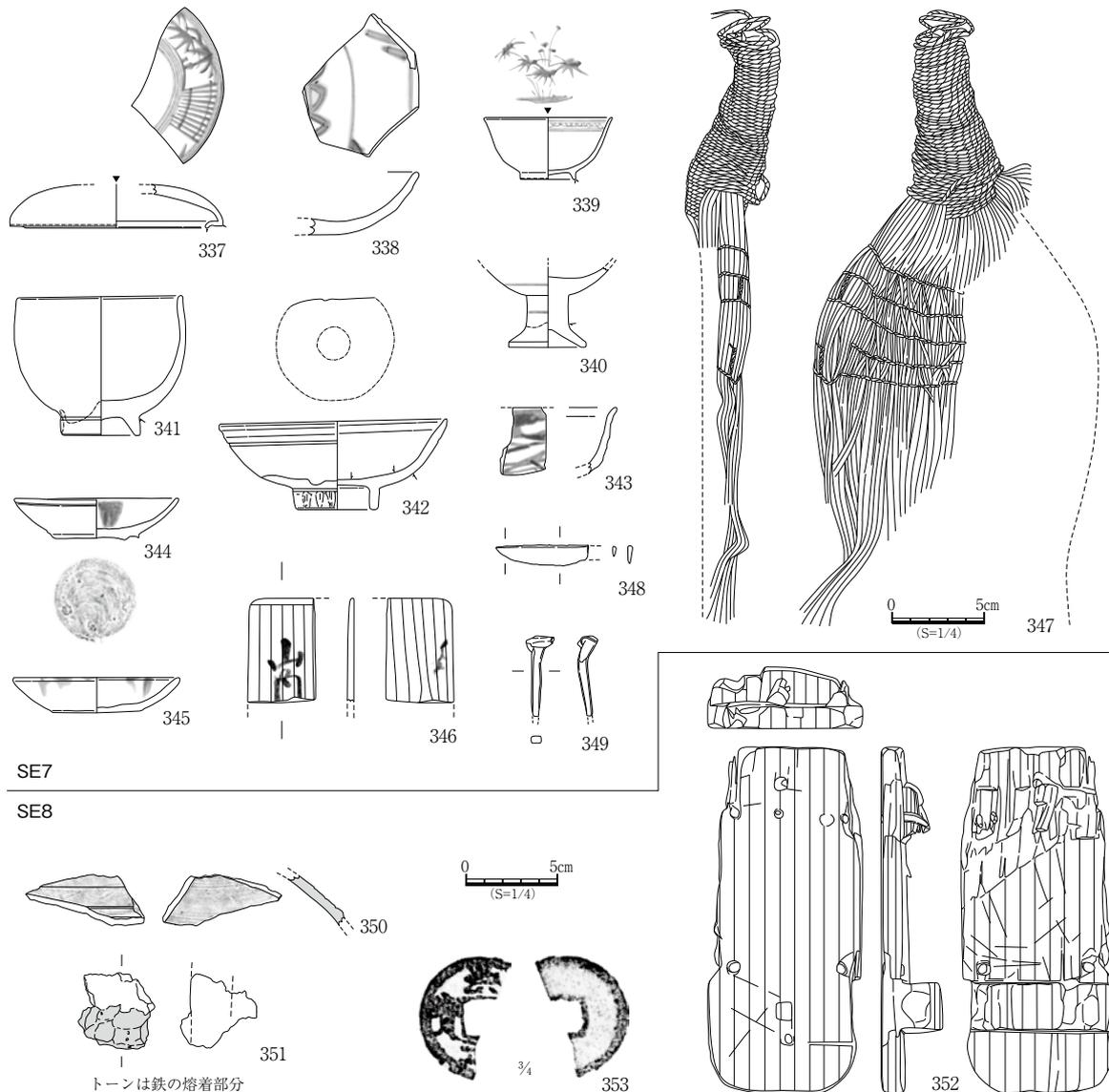
SE8〈近世の井戸〉(遺構:第50図・Pl.43<sup>[389]</sup>,遺物:第51図・Pl.107<sup>[453]</sup>)

位置・調査経過 E4グリッドに位置する。II層直下で確認した。SK232を切る。大部分をSE7に切られ一部が残るのみである。SD18に連結されたとみられる。

形状・規模 上面は隅丸方形とみられ、規模は300×265cmである。垂直に近い角度で深さ120cmまで掘削された。覆土断面の痕跡により井側の径が70cm程度であったと分かる。

覆土 残存部分の覆土は東西方向で確認した(第50図B-B')。井側覆土と裏込土に分かれる。井側覆土(1・2層)は暗褐～黒褐色砂礫層である。裏込土(3～6層)は3・4層が黒褐色砂質土層で炭化物・礫・ブロック土・有機質を含む。5層は暗灰黄色砂礫層、6層は赤褐色砂礫層である。

出土遺物 143点が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点、染付13点、磁器6点、陶器27点、炆器7点、須恵器1点、瓦器7点、土器48点、瓦18点、木製品1点、銭貨1点、鉄器1点、鉄滓9点、動物遺体3点である。遺物は覆土一括で収拾した。



第51図 SE7・SE8出土遺物

図示した4点(350~353<sup>[79]</sup>)は、350が瓦器・壺で近世の製品である。351は土製品・轆羽口で先端に鉄の熔着がみられる。352は木製品・下駄である。353は銅銭・洪武通寶である。動物遺体にイヌ上腕骨・橈骨、イノシシ中足骨がある(付編2<sup>[275]</sup>)。

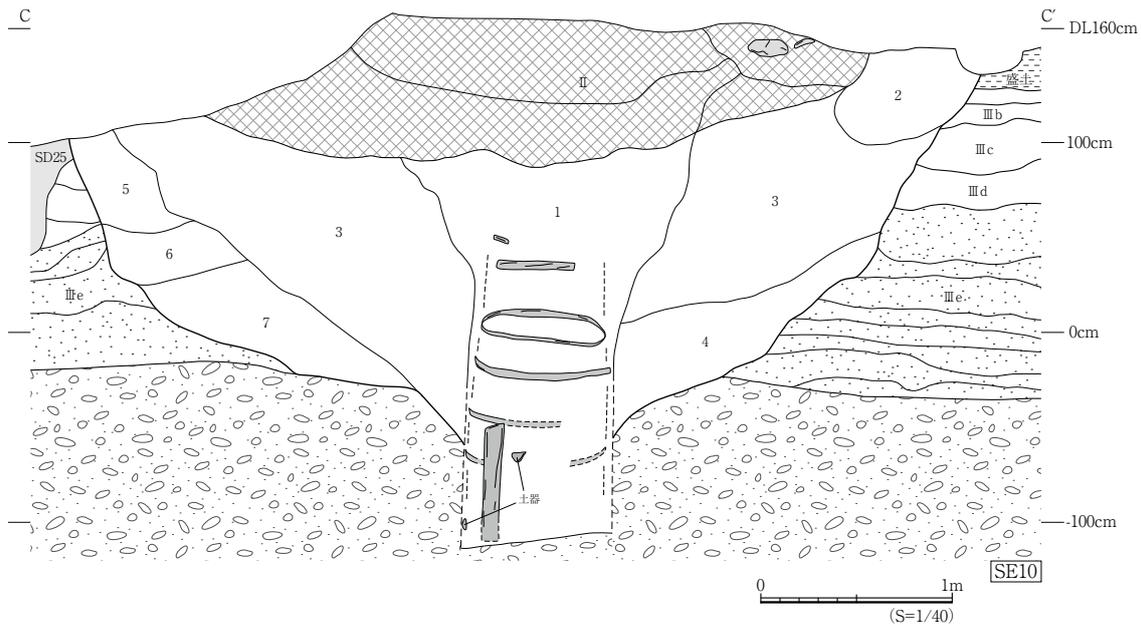
時期 近世。SE7に切られる。出土遺物は近世の製品である。

性格 井戸。SD18によって集水施設であるSE3に連結される。

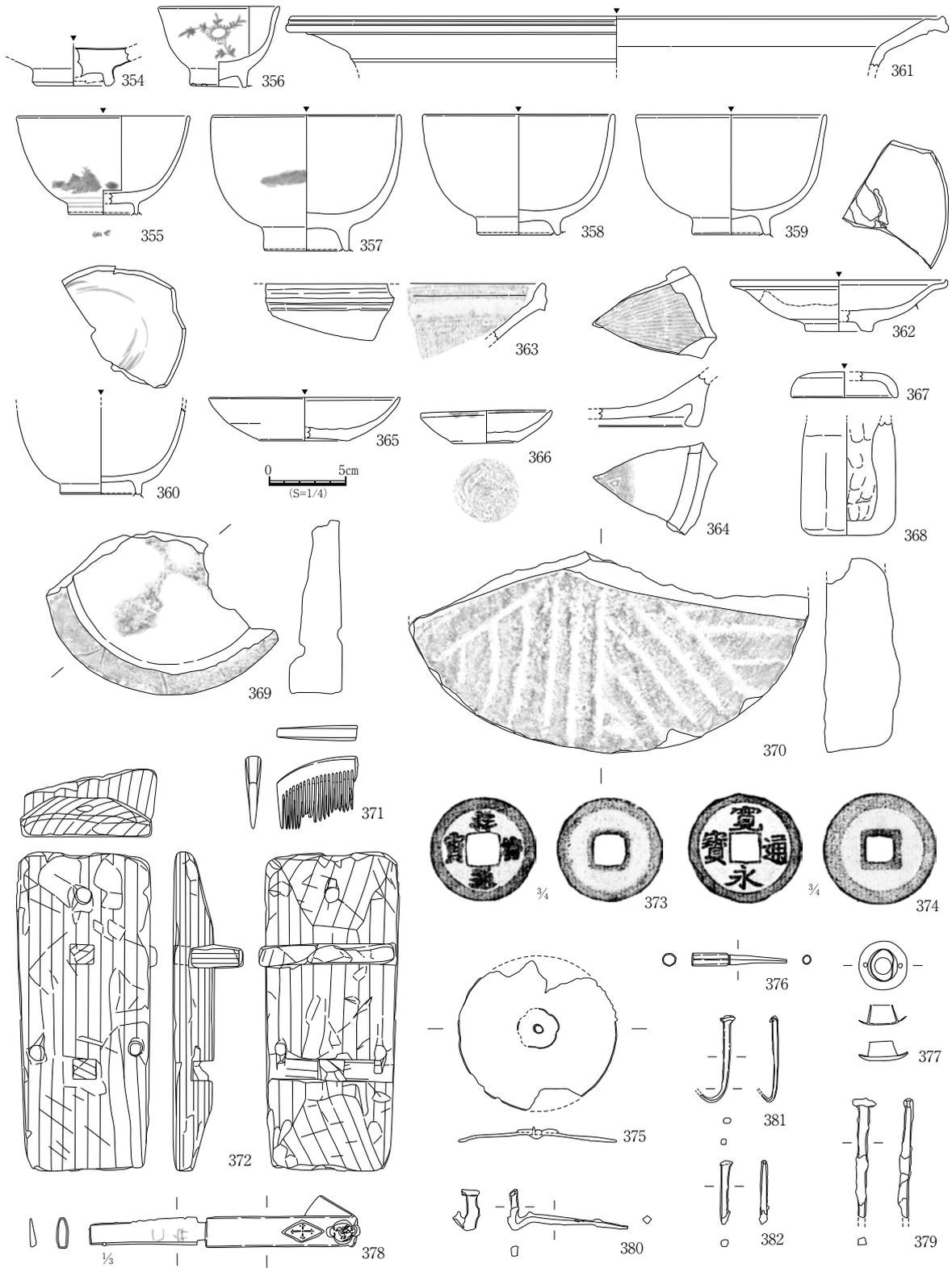
**SE10** (18世紀の井戸) (遺構:第46<sup>[73]</sup>・52図・PI.44<sup>[390]</sup>, 遺物:第53図・PI.107・108<sup>[453-454]</sup>)

位置・調査経過 EF・10グリッドに位置する。近世盛土層での遺構検出時、一帯には分厚い近代層(II層)が広がっていた。この近代層の広がりにはSE4・SE10・SE15・SX9の上部にあたるもので、遺構掘削により脆弱となった地盤を近代の造成時に整えた結果とみられる。この近代層と遺構覆土のグライ化により遺構検出は困難を極めた。井側部分を検出した後も掘方の範囲を明確に把握するのは困難であった。検出時は井筒を含む範囲を長方形の土坑と認識して調査を開始し、その後はF10グリッド攪乱→SK147→SE10と遺構に対する認識が変転した。裏込土の区域はSK147に切られる大型の土坑として調査を開始し、その後はF10グリッド攪乱→SE10と認識が変転した。最終的に確定した範囲も井側の位置からみるとやや不整合と思えるが、土層の観察の結果、図示した範囲がSE10の掘方であると判断した。SE10はSD25・SX9を切り、SE4に切られる。

形状・規模 井筒を境に算出した全長が720cm、調査区東壁で確認した幅が460cmである。平面は隅丸方形とみられるが、掘方の形状が不自然に長細い。調査区東壁断面で確認した掘方は漏斗状で、まず大きく碗形に掘り込んだ後(上部掘方)、円筒形の井側部分を底に向かって窄まるような形状でさらに掘り込んでいる(下部掘方)。下部掘方が湧水点に達したところで板材を箍巻きした桶状の井側を設置し、周囲をブロック土混りの裏込土で固定したとみられる。覆土上面から上部掘方までの深さは158cmであり、さらに下部掘方を84cm下げた箇所(標高-114cm)で水が湧いてきた。揚水ポンプを稼働しながら掘削を継続したが、湧水量が多く遺構の状態が確認できないため調査を断念した。



第52図 SE10断面図



第53図 SE10出土遺物

そのため底の形状や状態は不明である。井側は円筒形であり、竹製の籬が遺存するが板材は部分的にしか確認できなかった。井側は覆土上面から湧水池点までの深さ 242cm までを確認した。井側の径は 74cm で、籬は 5 本が約 30cm 間隔で巻かれていた。

**覆土** 調査区東壁(第 52 図 C-C') と裏込土部分の南北方向で覆土断面を観察した。井側覆土と裏込土に分かれる。井側覆土(1 層)は灰色砂質土でやや粒の大きな礫・炭化物・有機質を含む。裏込土(2~7 層)は大部分を占める 3 層が 20cm 大のシルトブロックを中心とした土層で下部がグライ化している。2・5・6 層は黒褐~暗褐色土層でシルトブロックを含む。4 層は砂礫層, 7 層は灰褐色砂質シルト層である。

**出土遺物** 874 点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁 17 点, 白磁 13 点, 染付 94 点, 磁器 31 点, 陶器 192 点, 炆器 43 点, 須恵器 1 点, 瓦器 11 点, 白色土器 2 点, 土器 275 点, 土製品 1 点, 瓦 156 点, 石製品 4 点, 木製品 2 点, 銭貨 2 点, 銅製品 5 点, 銅鉄器 1 点, 鉄器 8 点, 鉄滓 3 点, 動物遺体 13 点である。遺物の収拾は最上層・井側上層・下層・裏込内・井側覆土・井筒覆土に分けて行った。内訳は井側覆土 178 点, 井側上層 35 点, 井側下層 16 点, 裏込土 631 点である。他は覆土一括である。

図示した 29 点(354~382<sup>[81]</sup>)は, 354 が青磁, 355・356 が染付, 357~362 が陶器, 363・364 が炆器, 365~368 が土器, 369 が瓦, 370 が石製品, 371・372 が木製品, 373・374 が銅銭, 375~378 が銅・真鍮製品, 379~382 が鉄器である。  
[観309-310]

354 は龍泉窯の青磁・碗で 14 世紀後半~15 世紀前半の製品である。355 は肥前の染付・丸碗で 17 世紀末~18 世紀前半の製品である。356 は肥前の染付・小碗で 17 世紀中頃の製品である。357 は肥前内野山の陶器・丸碗で 17 世紀前半の製品である。358・359 は肥前の陶器・丸碗で 17 世紀の製品である。360 は肥前の陶器・碗である。361 は陶器・大皿である。362 は唐津の陶器・溝縁皿で 17 世紀前半の製品である。363 は丹波の炆器・播鉢で 17 世紀の製品である。364 は備前の炆器・播鉢で高台がつき外底に「△」刻印がある。18 世紀前半の製品である。365・366 は在地の土器・坏皿及び小皿である。367・368 は土器・焼塩壺で 17 世紀の製品である。369 は「三つ柏」文の軒丸瓦である。370 は凝灰岩製の石臼である。371 は木製品・横櫛, 372 は木製品・下駄である。373 は祥符通寶の模鑄銭, 374 は古寛永通寶である。375 は銅製品・蓋, 376 は真鍮製品・煙管吸口, 377 は銅製品・金具である。378 は銅柄・鉄刀子で小柄部分を丁字を十字に配した菱形文と鳥文を配した木瓜形装飾で飾る。379~382 は鉄器・頭巻釘である。動物遺体にシカ脛骨, イヌ橈骨, シイラ等魚骨, サザエ・ハマグリ等がある(付編 2<sup>[275]</sup>)。

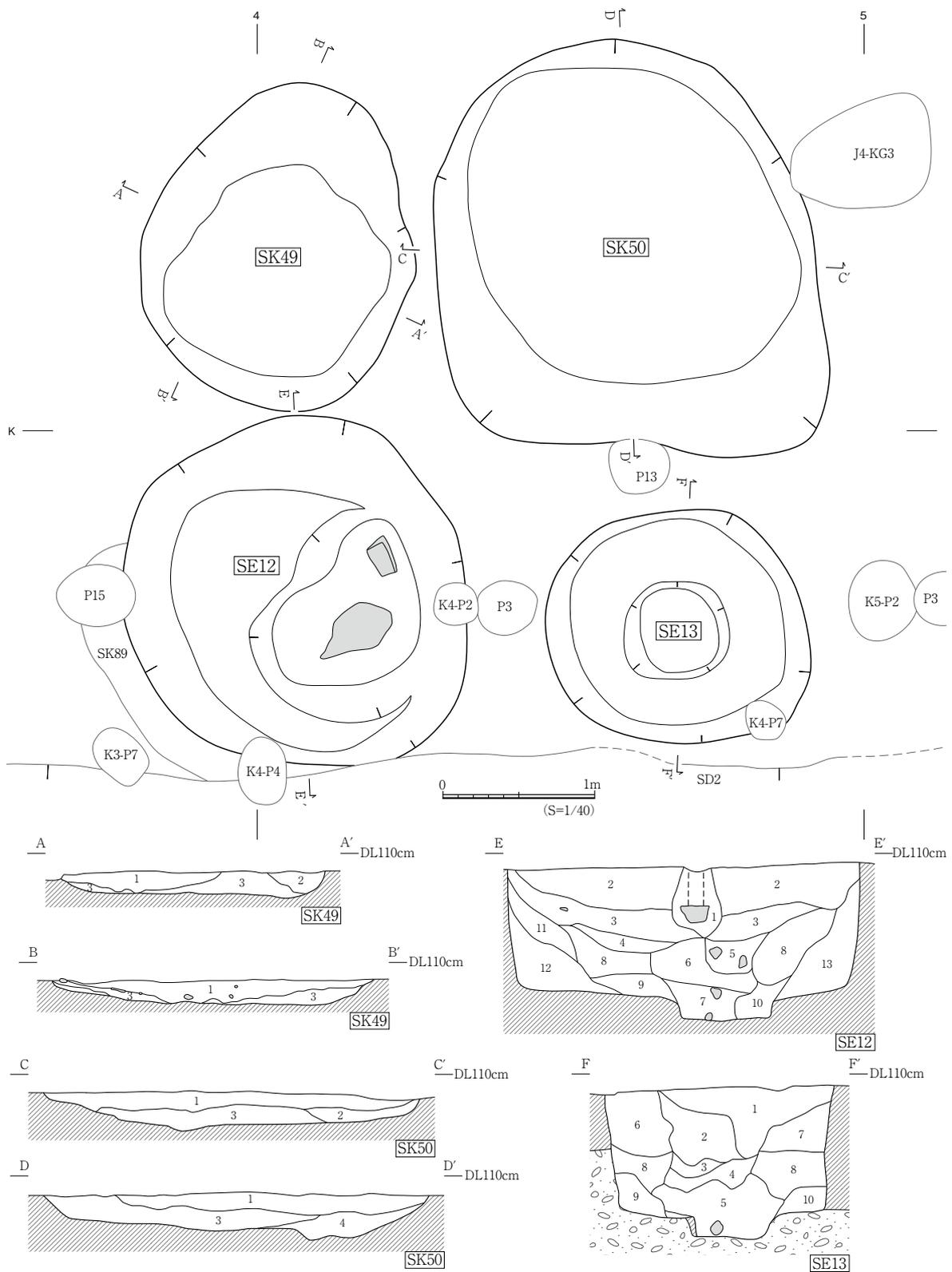
**時期** 18 世紀。染付・丸碗(355), 炆器・播鉢(364)は 18 世紀代の製品である。

**性格** 井戸。

**SE12** (14 世紀の井戸) (遺構: 第 54 図・PI.45<sup>[391]</sup>, 遺物: 第 55 図<sup>[85]</sup>・PI.108・109<sup>[454-455]</sup>)

**位置・調査経過** K・3~4 グリッドに位置する。Ⅲ b 層で確認した。検出時は SK46 としたが覆土断面に井側の痕跡を確認したため井戸と改め調査を継続した。SK89 を切り, SD2 に切られる。

**形状・規模** 平面形は不整円形で規模は 230cm 大である。覆土と地山の識別が困難であり覆土 12・13 層が地山かどうかは確定できなかった。地山であるとするれば, 掘方は底に向かって窄まるような形状となる。覆土であれば掘方は円筒形である。いずれにせよ深さ 90cm まで掘削した後, 中央付近に円形の土坑を掘り込み井側とする。井側部分の規模は径 60cm, 深さ 20cm である。特別な施設なく素掘りの井戸と考えられる。上部中央に根石に柱を据えたような痕跡があるが井戸と関連するかどうかは明瞭でない。



第54図 SE12・SE13・SK49・SK50平面図・断面図

**覆土** 南北方向で覆土断面を観察した(第54図E-E)。上層・井側覆土・裏込土に分かれる。上層(1~4層)は1層は黄みがかった褐灰色土層で炭化物を含む。ピット状の掘り込みで塊石の上に管状の木が立てられていた。2層は暗褐色土層, 3層は褐灰色土層, 4層は黒褐色土層でいずれも炭化物・礫・山土粒を含み鉄分の凝集がみられた。井側覆土(5~7層)は5層が黒褐色土層で遺物や塊石を含む。6・7層は粗い褐灰色土層で炭化物・有機質・山土粒を含み鉄分の凝集がみられる。裏込土(8~13層)は8~11層は褐灰~暗褐色土層で炭化物・山土粒を含む。12層は暗灰黄色土層で礫を含み, 13層は灰黄褐色シルト層で鉄分の凝集がみられるが, いずれも地山との区別が明瞭でない。

**出土遺物** 148点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁3点, 陶器2点, 炆器47点, 須恵器2点, 瓦器22点, 弥生土器2点, 白色土器1点, 土器59点, 土製品8点, 動物遺体2点である。遺物は井側上層・中層・下層・裏込土に分けて収拾した。内訳は上層69点, 中層34点, 下層9点, 裏込土17点である。

図示した17点(383~399)は, 383が青磁, 384・385が陶器, 386~388が炆器, 389が須恵器, 390~392が瓦器, 393が土器, 394~399が土製品である。  
〔観310-311〕

383は龍泉窯の青磁・碗で14世紀の製品である。384は古瀬戸の陶器・天目茶碗で14世紀の製品である。385は瀬戸の陶器・鉢とみられる。386は備前の炆器・播鉢で14世紀後半~15世紀前半の製品である。387は産地不明の炆器・播鉢である。388は常滑の炆器・大甕である。389は須恵器・坏である。390・391は在地の瓦器・播鉢で14世紀の製品である。392は土佐型の瓦器・鍋で14~15世紀の製品である。393は在地の土器・坏で14世紀の製品である。394~399は土錘である。動物遺体にハタ科の擬鎖骨がある(付編2<sub>[275]</sub>)。

**時期** 14世紀。出土遺物は14世紀の製品である。

**性格** 井戸。

**SE13** (15世紀の井戸) (遺構:第54図<sub>[83]</sub>・Pl.45<sub>[391]</sub>, 遺物:第55図・Pl.109<sub>[455]</sub>)

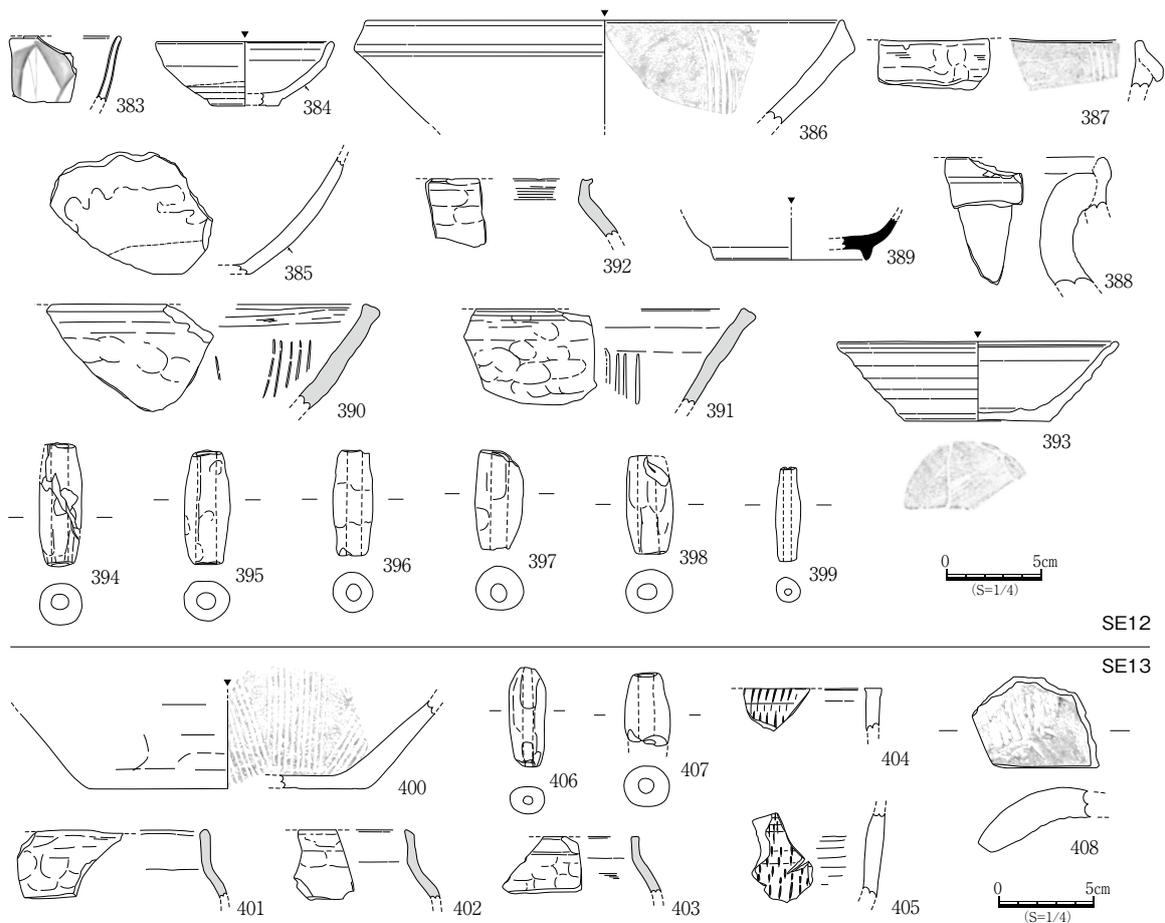
**位置・調査経過** K4グリッドに位置する。検出時はSK47として調査を開始したが, 覆土断面に井側の痕跡を確認したため井戸と改め調査を進めた。Ⅲb層で検出した。K4-P7に切られる。

**形状・規模** 平面形はやや歪な円形で規模は径154~182cmである。掘方は円筒形で88cmまで掘削した後, 底の礫層を水平に均し, 井筒部分を円形に一段低く掘り下げる。井筒の規模は径50cm, 深さ18cmである。特別な施設は確認されず, 素掘りの井戸と考えられる。

**覆土** 南北方向で覆土断面を観察した(第54図F-F)。井側覆土, 裏込土に分かれる。井側覆土(1~5層)はさらに上層・下層に分かれる。井側上層(1・2層)は暗褐~黒褐色土層で炭化物・焦土・山土粒・小石を含む。井側下層(3~5層)は3・4層が黒褐色砂質土層で炭化物を含む。5層は黒褐色土層でシルトブロック・塊石を含み, 最下部には有機質を含む。裏込土(6~10層)は黄褐~灰褐色土層で炭化物・山土粒を含む。

**出土遺物** 75点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は磁器1点, 炆器10点, 瓦器6点, 土器53点, 土製品3点, 瓦2点である。遺物の収拾は西側半裁時には覆土一括, 完掘時には井戸側内と裏込土を区分し, 井戸側内はさらに上層・中層・下層に区分し遺物を収拾した。内訳は上層17点, 中層2点, 下層1点, 覆土53点である。

図示した9点(400~408)は, 400が炆器, 401~403が瓦器, 404・405が土器, 406・407が土製品, 408が瓦である。  
〔観311〕



第55図 SE12・SE13出土遺物

400は備前の炆器・播鉢で15～16世紀の製品である。401～403は土佐型の瓦器・鍋で14～15世紀の製品である。404・405は土器・鉢で外面を飛鉾で飾る。406・407は土錘である。408は丸瓦で内面に布絞り目が残る。

時期 15世紀。出土遺物には混入もあるが最も新しいのは15世紀の製品である。

性格 井戸。

**SE14**〈近世の井戸〉(遺構:第48図<sup>[76]</sup>・PI.45<sup>[391]</sup>,遺物:第48図<sup>[76]</sup>・PI.109<sup>[455]</sup>)

位置・調査経過 D・4～5グリッドに位置する。II層直下で確認した。検出時には近代の遺物を含む土坑として精査の対象外としたが、土坑底で井筒の痕跡を確認したため井戸に改めた。SK154を切る。  
 形状・規模 平面形はやや歪な隅丸方形である。平面規模は213×185cm, 深さ38cmである。底で確認した井筒の痕跡は100×70cm大である。

覆土 覆土の観察は行っていない。

出土遺物 108点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁7点, 白磁6点, 染付28点, 陶器37点, 炆器3点, 土器25点, 銅製品1点, 鉄塊1点である。真鍮製品・煙管吸口(409<sup>[76]</sup>)を図示した。  
[観311]

時期 近世。出土遺物は近世の製品である。

性格 井戸。

**SE15**〈近世の井戸〉(遺構:Pl.45<sup>[391]</sup>, 遺物:第56図・Pl.109<sup>[455]</sup>)

**位置・調査経過** E10 グリッドに位置する。Ⅱ層直下で確認した。一帯にはⅡ層が厚くひろがっており遺構の検出は困難を極めた。検出時には近代の遺物を含む土坑として調査したが、土坑底で井筒の痕跡を確認したため井戸に改めた。SD25を切る。

**形状・規模** 上面は不整円形で規模は200cm大である。垂直に近い角度で深さ132cmまで掘削し、水平に均した底の南に偏した位置に円筒形の土坑を掘削し井筒としていた。井筒の規模は径80～100cm、深さ47cmである。

**覆土** 覆土の観察は行っていない。

**出土遺物** 11点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付3点、陶器4点、土器3点、銅製品1点である。覆土一括で収拾した。図示した1点(410<sup>[87]</sup>)は陶器・餌猪口で近世の製品である。  
[観311]

**時期** 近世。出土遺物は近世の製品である。

**性格** 井戸。

**SE16**〈現代の井戸〉(遺構:第56図・Pl.45<sup>[391]</sup>, 遺物:第56図・Pl.109・110<sup>[455-456]</sup>)

**位置・調査経過** P・8～9グリッドに位置する。Ⅱ層で検出した。単独である。

**形状・規模** コンクリート製の井戸である。平面110cm大、深さ70cmの円筒形の掘方内に径80cm、高さ70cmの円筒形で底もあるコンクリート製の井側が設置されていた。井側底の縁寄りには径10cm程度の孔が空いており、孔の下の礫層が径10cmの筒状に100cmほど掘削されていた。井側底の孔周りには筒を固定するための目張りのようなもの(モルタルか)が付着していた。井側内には井側より一回り小さい径50cmのコンクリート製筒が入れ子の状態で埋没していた。大小コンクリート筒の間からは石臼が出土した。

**覆土** 覆土の詳細な観察は行っていない。礫を多量に含む黒褐色土が堆積していた。

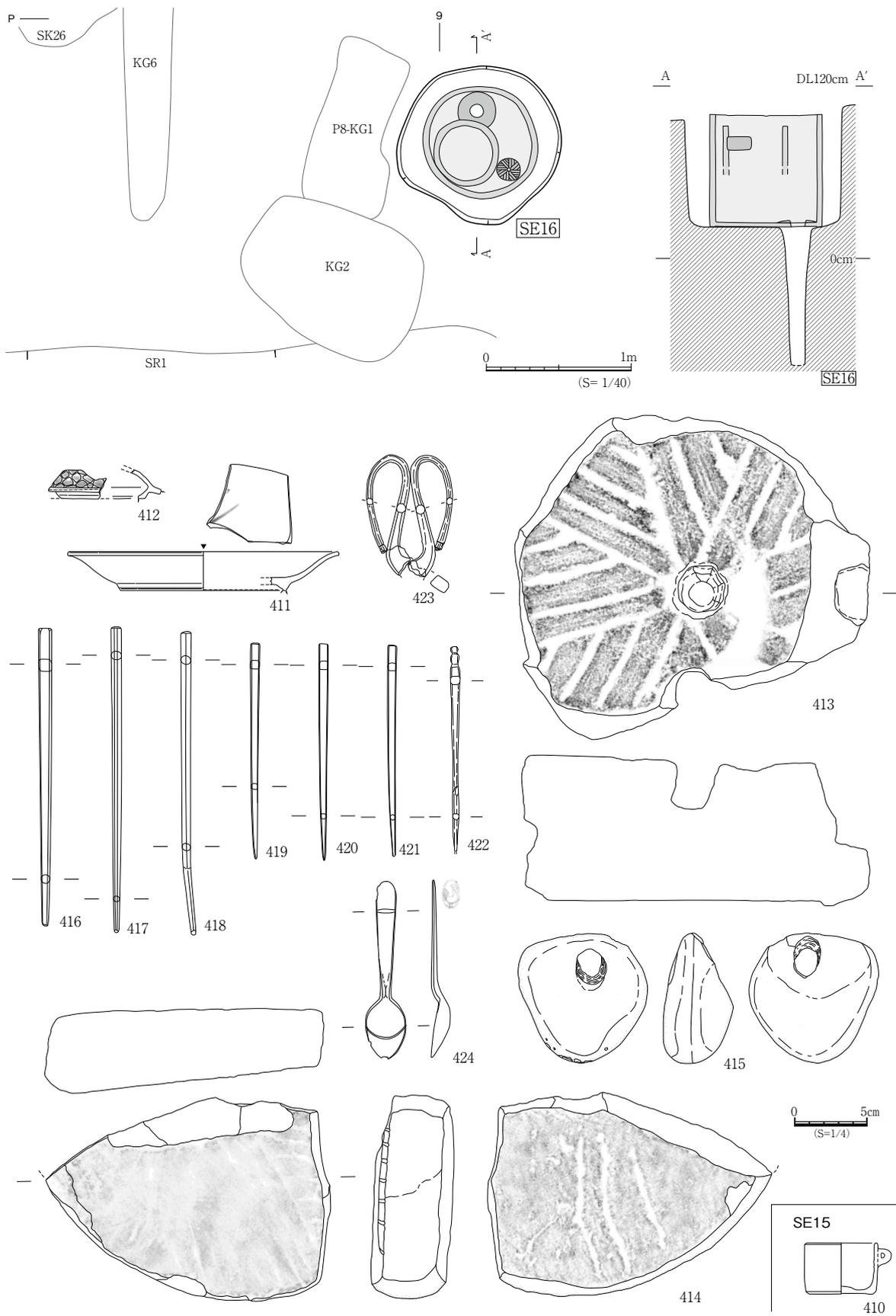
**出土遺物** 23点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付3点、磁器1点、漆器7点、木製品1点、革製品1点、石製品3点、銅製品2点、鉄器3点、ステンレス缶1点、プラスチック製品2点である。覆土一括で収拾した。

図示した14点(411～424)は、411が染付、412が磁器、413～415が石製品、416～421が漆器、422が木製品、423が真鍮製品、424がプラスチック製品である。  
[観311-312]

411は瀬戸の染付・皿で20世紀の製品である。412は磁器・蓋で現代の製品である。413・414は砂岩製の石臼である。414は砥石に転用された可能性がある。井戸を埋める習俗に関わるものであろう。415は砂岩製の石錘で自然石を簡単に加工し穿孔している。416～422は箸である。419～422は子供用で塗料が塗られている。423は真鍮製の鋏である。柄の部分が残っており刃は鉄製であったとみられる。424はプラスチック製のスプーンである。柄端には点描で表現された型押し鳥文が表現されていた。図示していないが出土遺物にはコーヒー飲料の空き缶が含まれていた。

**時期** 20世紀後半。出土遺物は現代の製品である。

**性格** 井戸。



第56図 SE16平面図・断面模式図・出土遺物, SE15出土遺物

(5) SX (不詳(大型)遺構)

土坑(SK)より規模が大きく、性格が不明あるいは特異な遺構をまとめてSX (不詳(大型)土坑)とした。不詳(大型)遺構はSX1~12までを調査したがSX7は遺構と認定できず欠番とした。またSX1・SX2は一連の整地遺構であるためSXの総数は10基となる。SX1・2は粗朶による整地遺構で近世に構築された。SX3は19世紀後半(幕末~近代)の遺構で池の可能性が考慮される。SX4・5は15世紀に構築・廃絶された楕円形の大型土坑である。SX6は古代に遡る溝状の遺構で流路とも考えられる。SX8・12は近世の大型円形筒形土坑で井戸の可能性を考慮したが土層断面からは井戸と断定し難い。SX10は中世後期に構築・廃絶された溝状の遺構である。SX11は中世の整地層と思われるが性格不詳である。

第6表 不詳(大型)遺構(SX)一覧

番号	平面形態	位置	軸方向	長さ(㍍)	幅(㍍)	深さ(㍍)	時期	①遺物数(掲載点数) ②確認面 ③~に切られる ④~を切る ⑤その他
SX1	不整形長方形	R・5-7/ S・5-6	N-77°-E	840	300	45	17c後	①448(68). ②Ⅲa層.
SX2	鉤形	R-S・3-4	N-13°-W	560	430	60	17c後	①295(63). ②Ⅲa層. ③SK10/SK11.
SX3	不整形	M-U・9-12	N-14°-W	(2700)	(1000)	90	19c後	①2890(164). ②Ⅱ層直下. ③SK287. ④SX5/SK82.
SX4	不整形楕円形	L-M・8-9	N-3°-W	690	440	70	16c	①561(9). ②Ⅲb層. ③SD11/SX5/SK74/SK75/SK76/SK78/ SK87/SK104. ④SD2/SD6.
SX5	不整形	K-M・9-10	N-17°-W	(760)	414~ 520	90	16c	①268(12). ②Ⅲb層. ③SD10/SX3/SK82/SK83/SK84/SK91. ④ SD8/SD9/SX4/SK123.
SX6	溝状	H・9-10	N-75°-E	(660)	280	70	10c後~11c	①22(2). ②Ⅲd層. ③SD8上/SD9上/SD23/SK109上.
SX8	不整形円形	C・9-10	N-10°-W	360	—	94	10c後~11c	①96(4). ②-. ③SD8/SD14上/SD22/SD23/SK197上.
SX9	円形	G10	—	236	—	112	18c前	①208(14). ②Ⅱ層下. ③SE10.
SX10	溝状	F・6-8/ G・7-8	N-83°-W	(480)	250	40	中世	①11. ②Ⅲb層. ③SX12/SK116/SK133/SK138/SK203. ④SK193/ SK216/SK226.
SX11	不明	G-H・6-8	—	—	—	40	中世	①10. ②Ⅲb層. ③SK116. ④SK178.
SX12	円形	F・7-8	—	308	—	74	19世紀	①96(1). ②-. ④SX10/SK133.

\* ( ) 数字は残存値. \*\*③④の「~」は③④に列記した遺構番号.

**SX1・2**(粗朶による17世紀後半の整地遺構)(遺構:第57図・PI.46・47<sup>[392-393]</sup>, 遺物:第58~63図<sup>[90-95]</sup>・PI.110~118<sup>[456-461]</sup>)

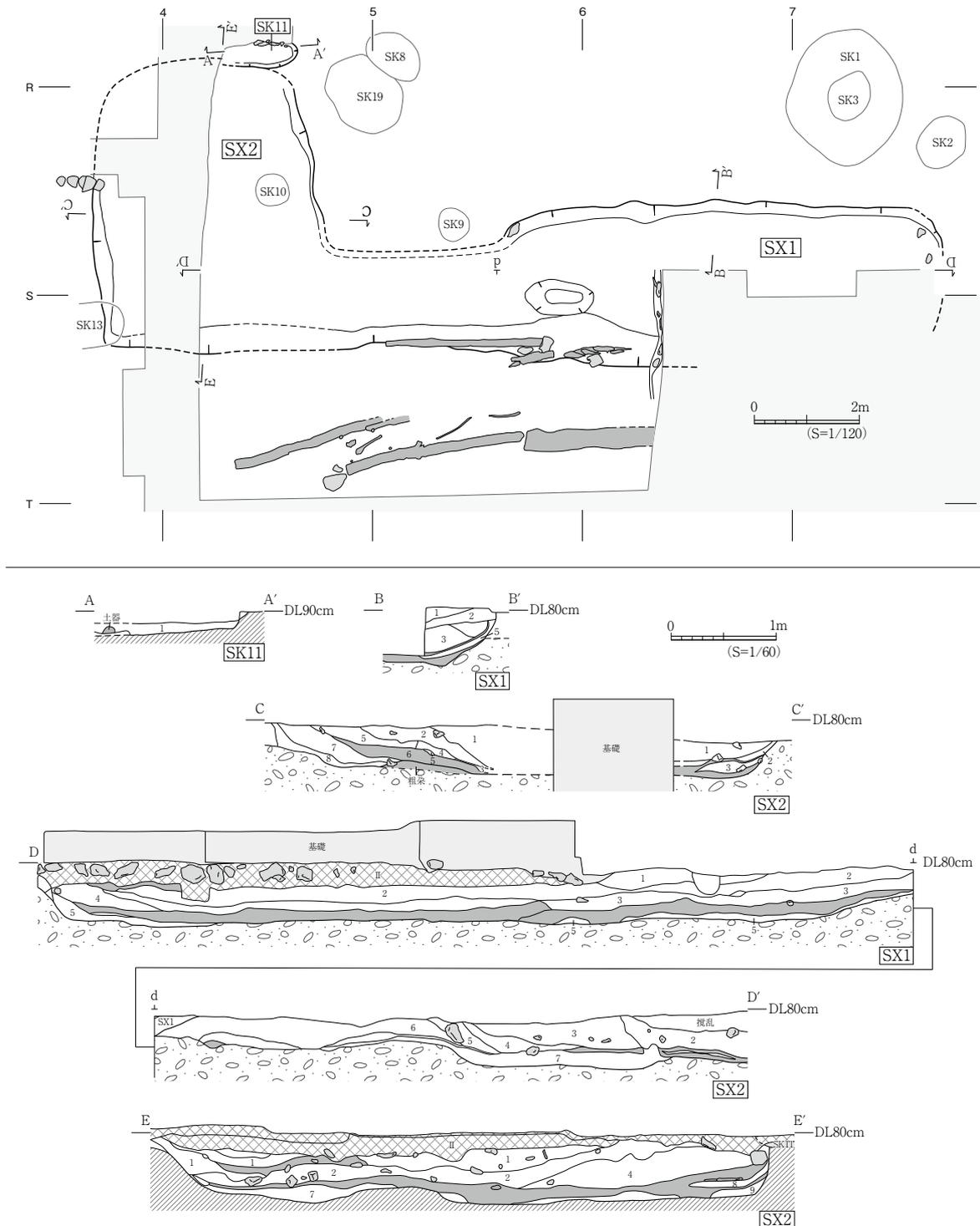
**位置・調査経過** 粗朶による整地遺構である。RS・3~7グリッドに位置する。コンクリート基礎下で確認した。東西のコンクリート基礎下で類似の遺構を発見し、東側をSX1、西側をSX2と名付け調査を進めた。範囲を確認する過程で両者がひと続きの遺構であると判明した。盛土層の範囲外にあり、Ⅲa層相当を掘削し構築された。SK10・SK11に切られる。

**形状・規模** 平面形は鉤形である。東西(N-77°-E)に長く西側が北方向に90度折れる。東西の長さ16m、SX1の幅は3m、SX2西側の南北に長い箇所は長さ5.6m、幅4.3mである。垂直に近い角度で50cmほど掘り下げた礫層の底を水平に均し、マツの枝を敷き詰めた後、上部に粘土とマツの枝を互層に積んで充填した。粗朶の技術を応用したものである。覆土断面によればSX2、SX1の順に構築された。

**覆土** SX1とSX2は一連の整地遺構であるが、土層堆積の観察によればまず西側のSX2が構築され、続いてSX1が構築された(第57図D-D'の中間)。覆土断面は複数箇所を観察したが、このうちSX1の北立ち上がり(第57図B-B'), SX2の南北方向(第57図E-E'), SX1・SX2の東西方向(第57図D-D'), SX2の東西方向(第57図C-C')を図示した。

SX1・SX2それぞれの覆土断面図には共通の層番号を付している。木層はマツの枝・小枝を中心とする層である。全体にグライ化したシルト質土層と木層が互層をなしている。

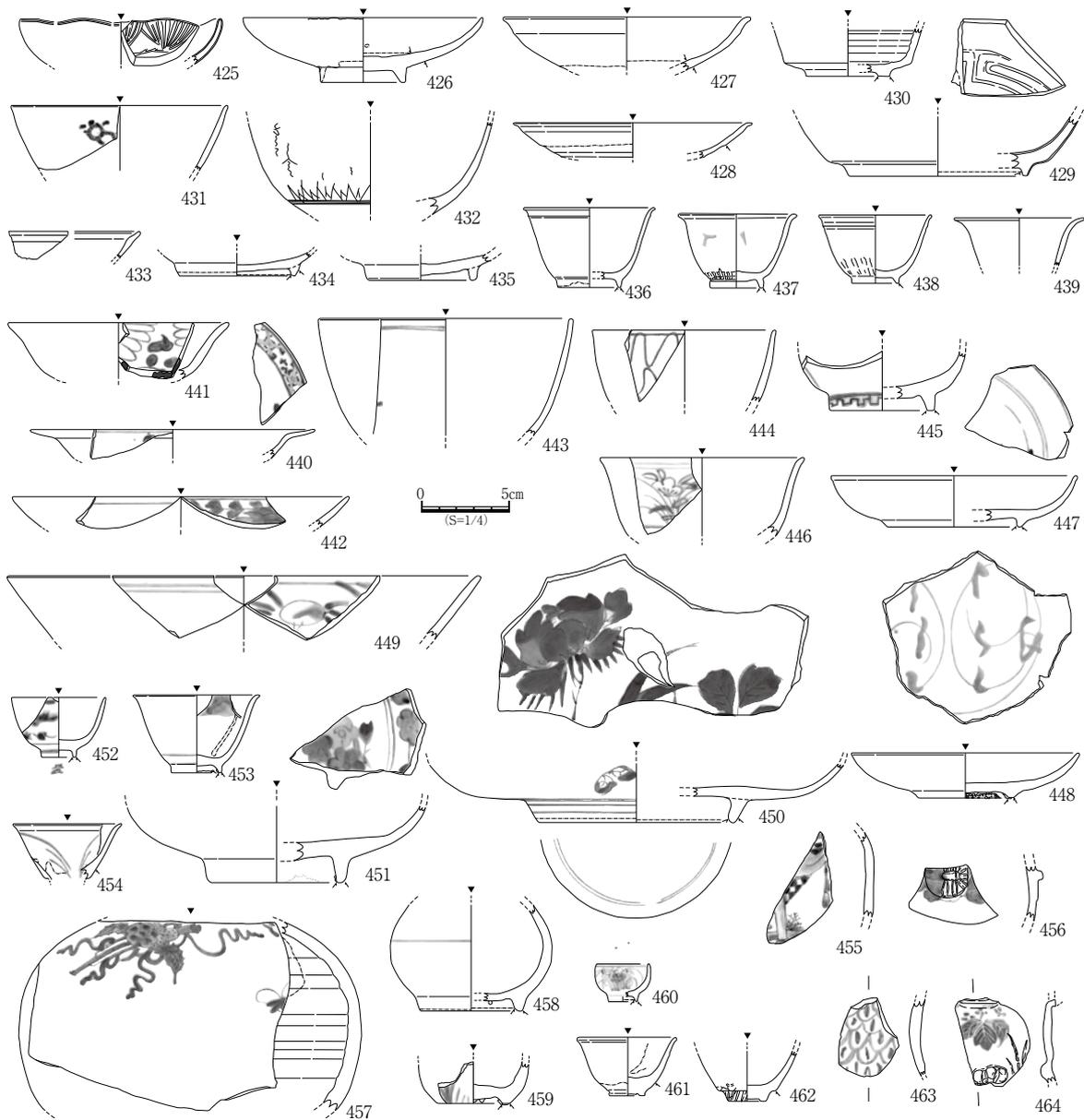
SX1には5層があり、下部の土層は木層を挟んで堆積する。1層は暗灰オリブ色土層で砂・小石・有機質を含む。2層は灰色土層で風化緑色粒・石灰粒・有機質を含む。2層の上部には木層が堆積する。



第57図 SX1・SX2・SK11平面図・断面図

3層は黒褐色有機質土層で小石・風化緑色粒を含む。4層はⅢ層と礫の混合したオリーブ灰色土層で有機質を含む。木層を挟んで5層は灰色粘土層で有機質を含む。B-B'では5層下にも木層がある。B-B'の最上層は褐灰色シルト層でマンガン粒・山土粒を含む。

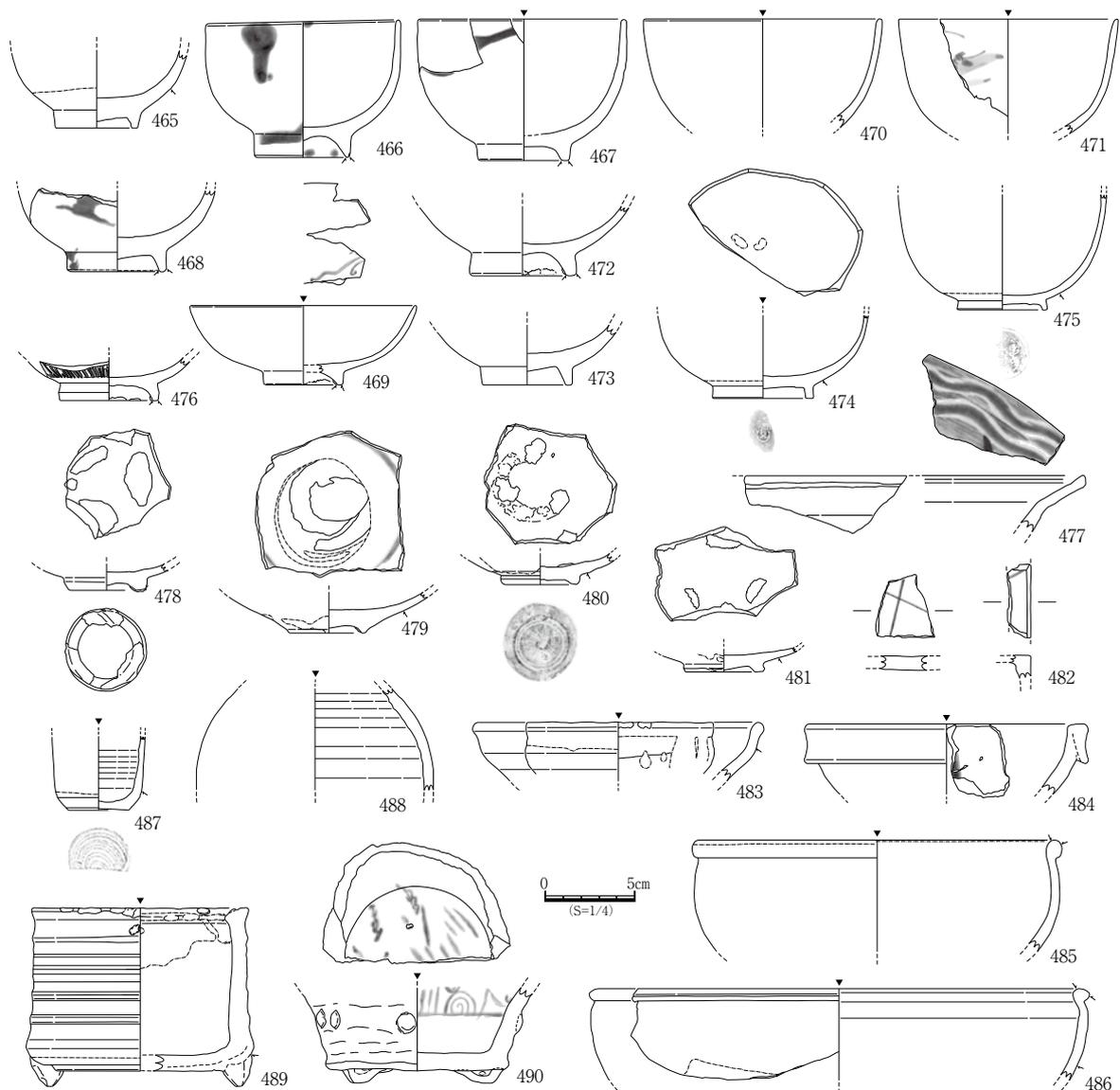
SX2には9層があり、諸処に木層が挟まる。1層は褐灰色粘土で有機質・小石・礫を含む。木層を挟んで2層は暗灰オリーブ色土層で有機質・礫・緑石粒を含む。3層はオリーブ灰色砂質土層で多量の礫・有機質を含む。4層は灰色粘土層である。5層は暗灰オリーブ色土層で礫・有機質をふくむ。6層は灰色砂質土層で有機質・小石を含む。木層を挟んで7層は灰色シルト層で有機質・礫を含む。8層は灰色砂質土層で有機質を含む。木層を挟んで9層はオリーブ灰色シルト層である。



第58図 SX1・SX2出土遺物(青磁・白磁・青花・染付・磁器)

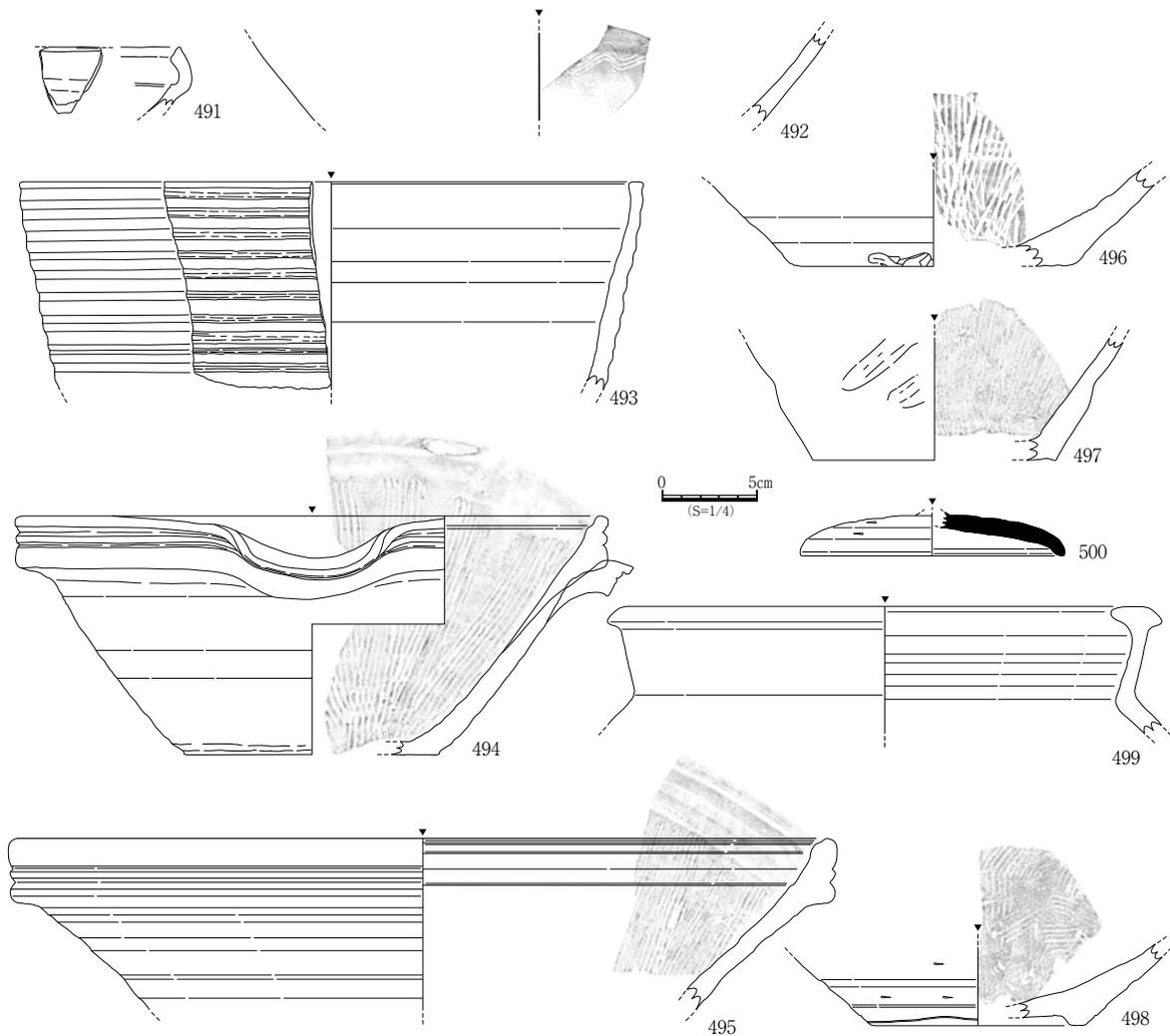
出土遺物 SX1・SX2から743点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁31点、白磁23点、青花5点、染付90点、磁器42点、陶胎染付1点、陶器198点、炆器45点、須恵器3点、瓦器3点、白色土器5点、土器133点、瓦121点、石製品2点、漆器13点、木製品25点、動物遺体2点、レンガ1点である。遺物の収拾は、水平位置をSX1・SX2に区分し、垂直位置を上部近代層・上層・中層・下層と木層に区分して行った。水平位置別の内訳はSX1が448点、SX2が295点である。層位別の内訳は、SX1では上部近代層12点、上層81点、中層4点、下層3点、木層114点である。SX2では、上層61点、中層52点、下層31点、木層112点である。

図示した131点(425~555<sup>[90-95]</sup>)は、425~430が青磁、431~439が白磁、440~442が青花、443~460が染付、461~464が磁器、465~490が陶器、491~499が炆器、500が須恵器、501~514が土器、515~521が瓦、522が石製品、523~531が漆器、532~555が木製品である。以下、主要な遺物について言及する。



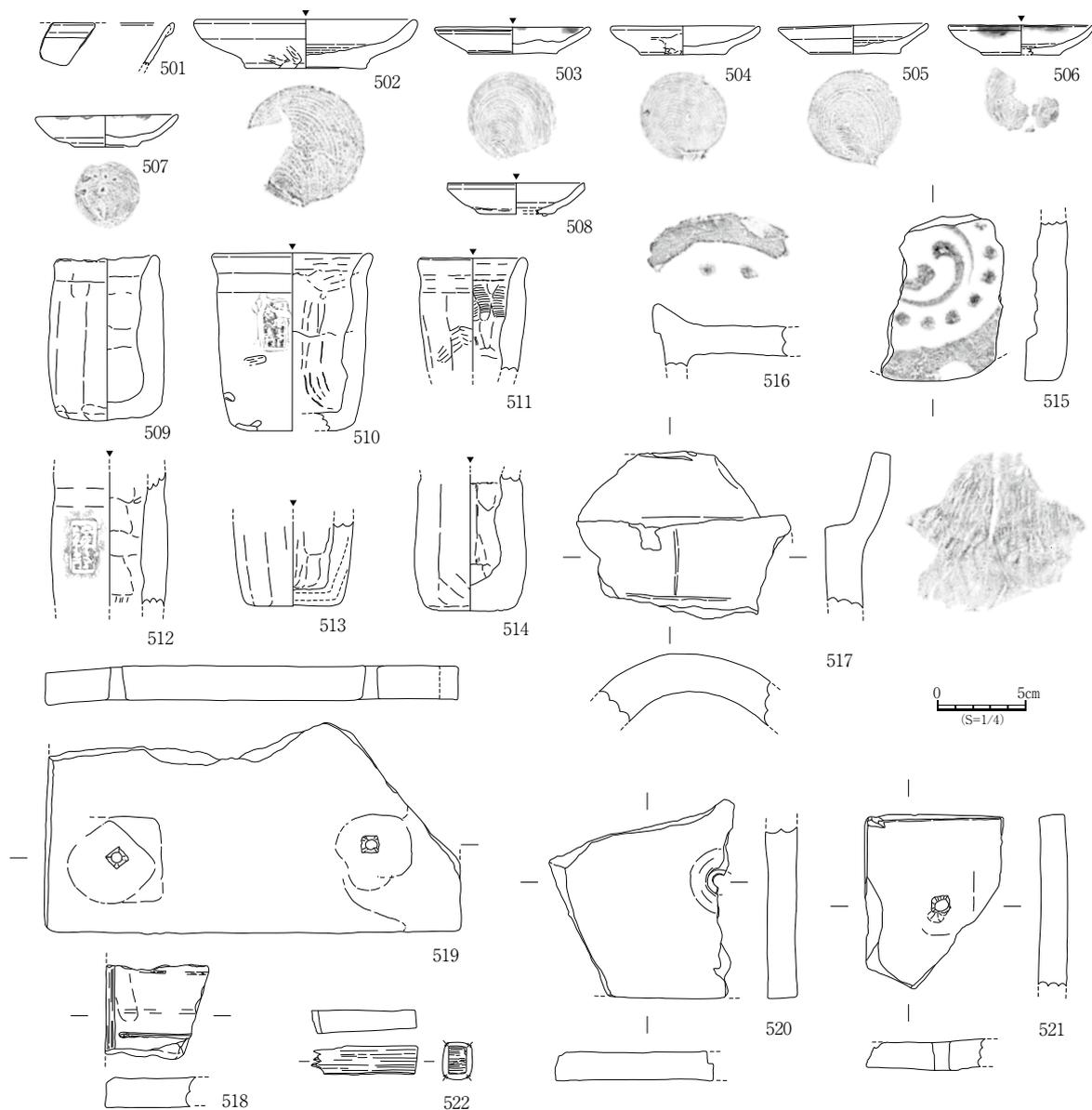
第59図 SX1・SX2出土遺物(陶器)

425は肥前の青磁・輪花皿である。426・427は肥前の青磁・皿で見込が輪禿である。17世紀後半の製品である。429は肥前の青磁・鉢で見込に籠彫りの雷文がある。430は肥前の青磁・火入れである。432は肥前の白磁・碗で外胴に線彫りの文様がある。17世紀後半の製品である。436～439は肥前の白磁・小坏である。440は景德鎮の青花・鏝皿で17世紀の製品である。441・442は景德鎮の青花・皿である。443は肥前の染付・大碗である。444は肥前の染付・碗で一重編目文が描かれる。17世紀後半の製品である。448は初期伊万里の染付・皿で17世紀前半の製品である。449は肥前山辺田の染付・皿で17世紀後半の製品である。450は肥前の染付・中皿で良品である。17世紀後半の製品である。452～454は肥前の染付・小坏である。457は肥前の染付・瓶で良品である。458は初期伊万里の染付・瓶、459は初期伊万里の染付・仏花器で共に17世紀前半の製品である。465は唐津の陶器・天目茶碗で17世紀前半の製品である。466・467は肥前内野山の陶器・丸碗で17世紀前半の製品である。469は肥前の京焼風陶器・薄茶碗で17世紀後半の製品とみられる。474・475は肥前の京焼風陶器・碗で、474は高台内に「寶」刻印、475は「清水」刻印がある。ともに17世紀後半の製品である。477は唐津の陶器・刷毛目皿で17世紀末の製品である。479は平戸三川内の陶器・皿で17世紀後半の製品である。482は瀬戸・美濃の織部陶器・向付で17世紀前半の製品である。485・486は陶器・捏鉢で在産とみられる。

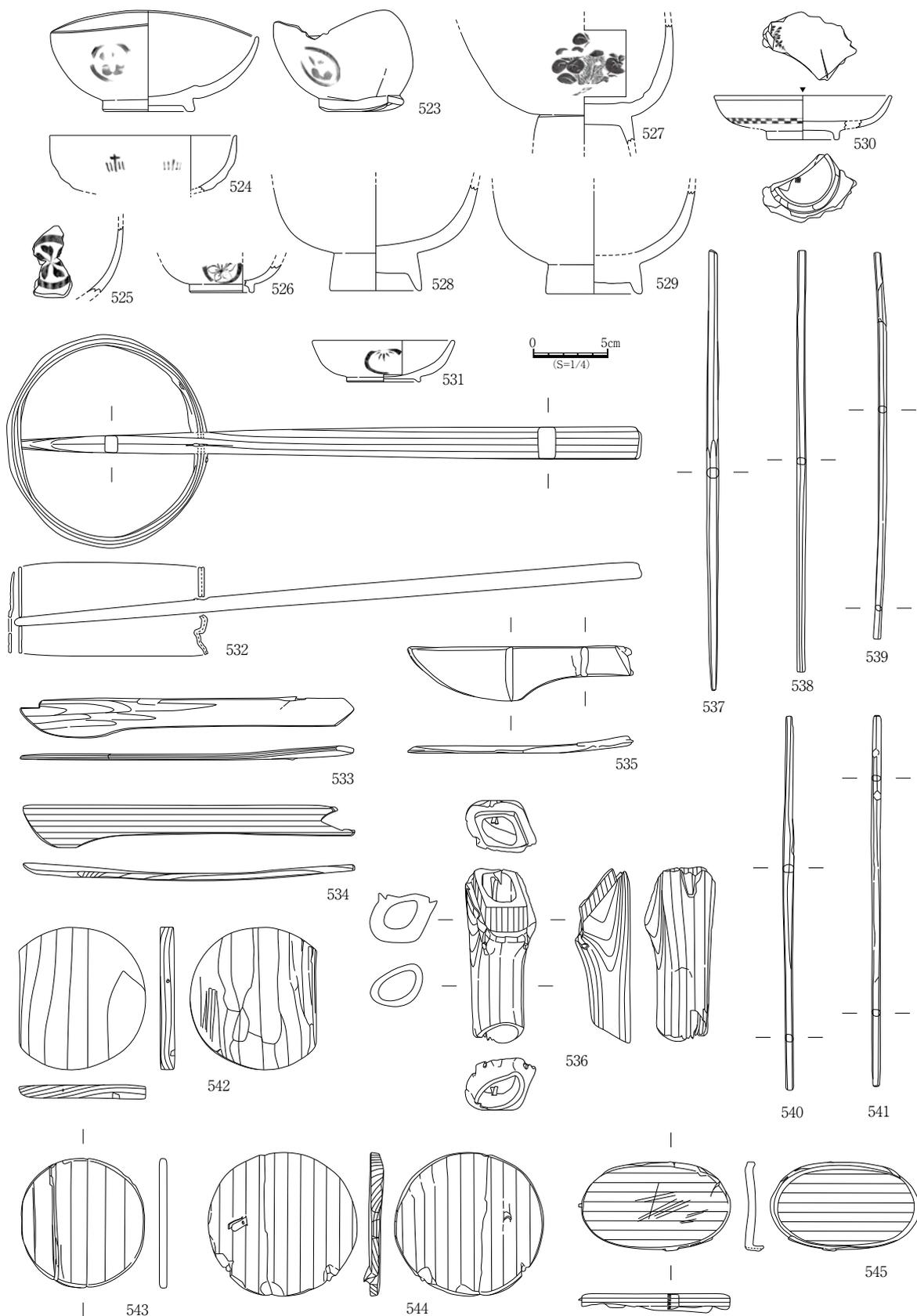


第60図 SX1・SX2出土遺物(炆器・須恵器)

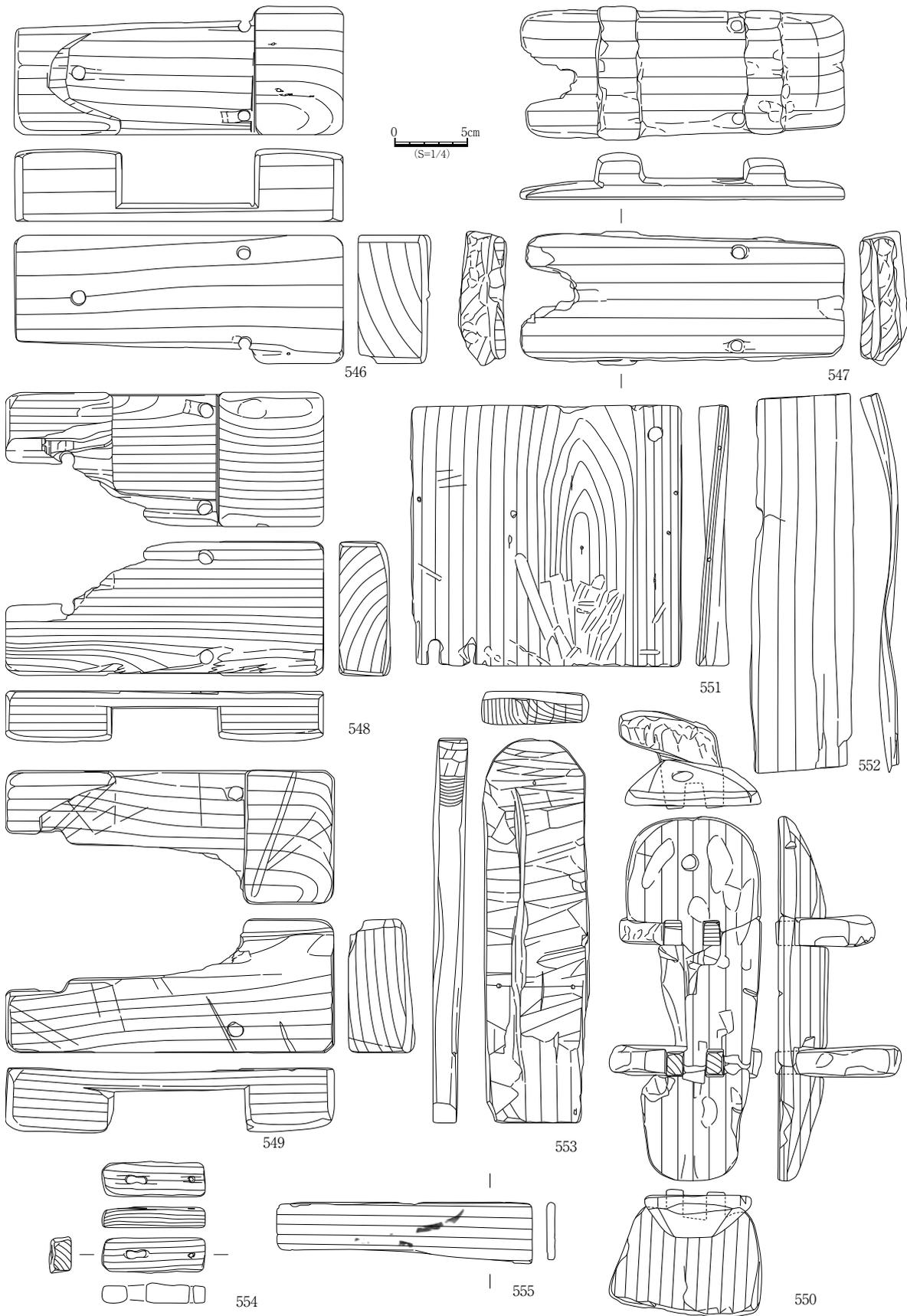
489は瀬戸の陶器・灰落しである。490は志野焼の陶器・足付鉢で17世紀前半の製品である。491は備前の炆器・浅丸鉢で17世紀の製品である。492は備前の炆器・鉢である。493は備前の大鉢である。494~496は備前の炆器・播鉢で17世紀後半の製品である。497は丹波の炆器・播鉢で17世紀前半の製品である。498は須佐唐津の炆器・播鉢で17世紀の製品である。499は唐津の炆器・大甕である。500は須恵器・坏蓋で古代の製品である。501は土器・碗で12世紀頃の製品である。502は在地の土器・皿で近世の製品である。503~508は在地の土器・小皿で近世の製品である。509~514は土器・焼塩壺で17世紀後半の製品である。510・512には刻印がある。515・516は軒丸瓦, 517は丸瓦, 518は平瓦, 519~521は海鼠瓦である。522は粘板岩製の砥石である。523~529は漆器・碗である。523は内外赤漆, 524~527は外黒漆・内赤漆, 528・529は内外黒漆である。530は内外黒漆の漆器・杯, 531は外黒漆・内赤漆の漆器・杯である。532は木製品・柄杓, 533~535は木製品・切匙である。536は木製品・柄である。



第61図 SX1・SX2出土遺物(土器・瓦)



第62図 SX1・SX2 出土遺物(漆器・木製品)



第63図 SX1・SX2出土遺物(木製品)

537～541は木製品・箸である。542～544は円盤状の木製品で容器蓋とみられる。545は楕円形の木製品・蓋である。546～550は木製品・下駄である。551は木製品・方形板である。隅に穿孔がある。552は木製品・長方形板である。551・552は粗朶の最下部に敷かれていた(Pl.46⑤<sup>[392]</sup>)。553は木製品・長方形板で三角位置に釘孔がある。554は長方形の木製品で2箇所穿孔がある。555は木札で朱文字らしき痕跡が残る。動物遺体にシカ脛骨、シイラ腹椎がある(付編2<sup>[275]</sup>)。

時期 17世紀後半に構築。肥前・青磁(426・427), 肥前・白磁(432), 初期伊万里(448・451・458・459), 肥前染付(449), 肥前京焼風陶器(474・475), 土器・焼塩壺(510～513)は17世紀後半の製品である。

性格 屋敷内の低地部に構築された粗朶技法による整地層。

### SX3 (19世紀後半の池か) (遺構:第64図・Pl.48<sup>[394]</sup>, 遺物:第65～73図<sup>[99-107]</sup>・Pl.118～130<sup>[464-476]</sup>)

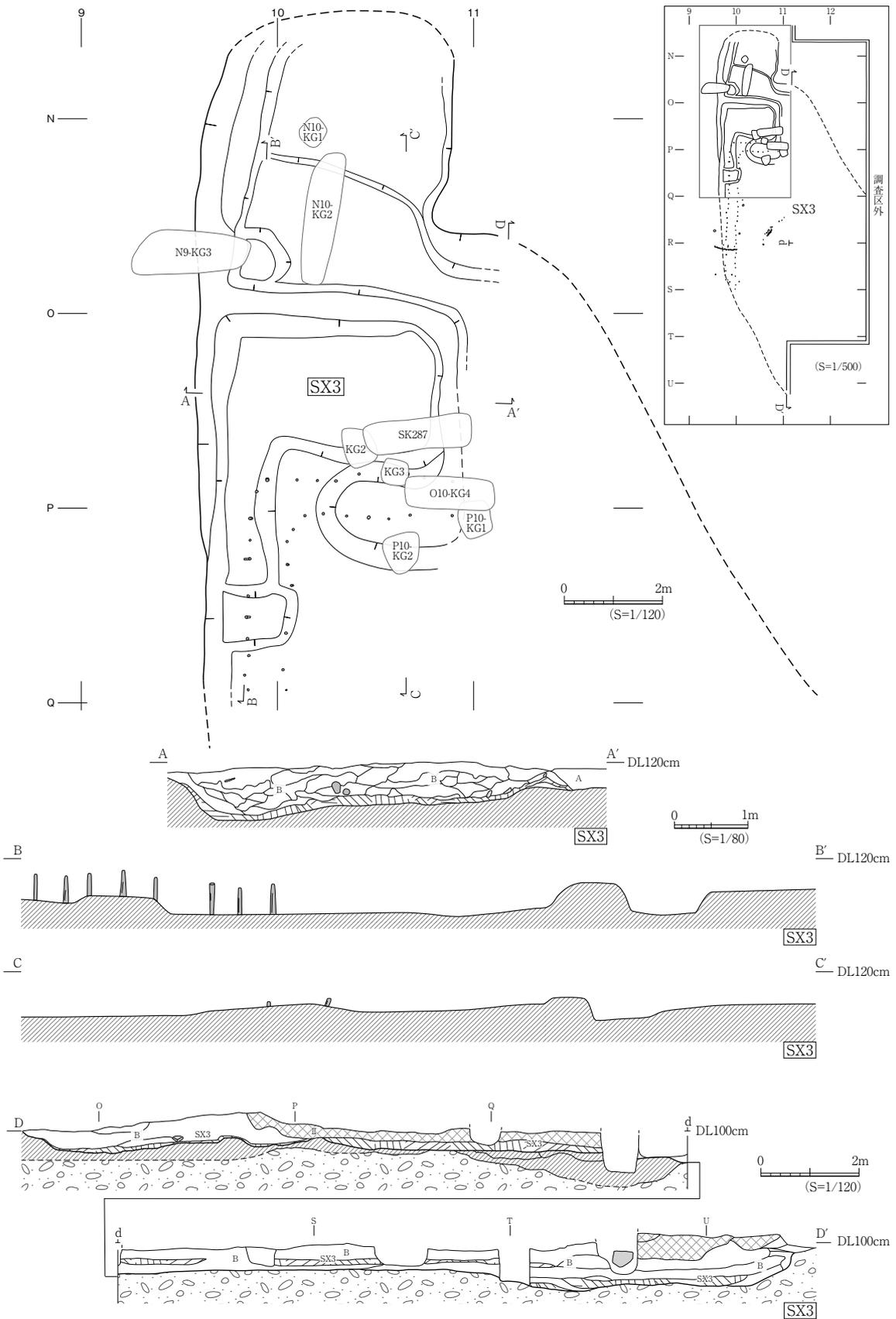
位置・調査経過 M～U・9～12グリッドの27×10m範囲にひろがる。一帯は地形が低いこともあって近代・現代に大規模な土地の造成が行われており、遺跡のなかでも取り分けI層・II層が分厚く堆積する。覆土の相当部分が削平されたとみられる。調査A区・B区・C区においてはII層下に厚く堆積する木質層と認識し、長大な水溜まりの痕跡かと考えていた。D区調査時にも同様の木質層が認められたが、地山(III層)を削り出して土手(或いは陸橋)を造り出した箇所があり、全体が人口の池ではなかったかと考えるに至った。遺構はIII層を掘削するが上部の相当部分は削平されたとみられる。SX3を切る遺構は20世紀中頃のSK287である。SX3の北端は明瞭でないが位置関係から見るとSX5・SK82はSX3に切られる。

形状・規模 27×10m規模でひろがる長大な窪みで池と考えられる。90cmほど掘り下げた底面にはうすく剥いだ木の皮やシダ類が20cm程度の厚みで堆積している。埋め戻しは一時に行われた。遺構範囲の北西箇所にはU字状にめぐる土手状の高まりがある。また埋没後の覆土上には2条の杭列が延びる。

覆土 調査区東壁(第64図D-D')とOグリッドの東西方向(第64図A-A')で覆土断面を観察した。覆土は、樹皮とシダからなる木層、暗褐色土層とそのグライ化した土層(A層)、褐灰色シルト層とそのグライ化した土層(B層)に大別することができる。A-A'ではA層、B層、木層が順に堆積しているが、A層・B層の堆積は不規則で一時に埋めた様子が窺える。A-A'の東辺から南側にかけては暗褐色のA層がひろく堆積している。木層はSX3の全域で最下層に堆積しているが、南縁ではA層・B層と互層をなしている。

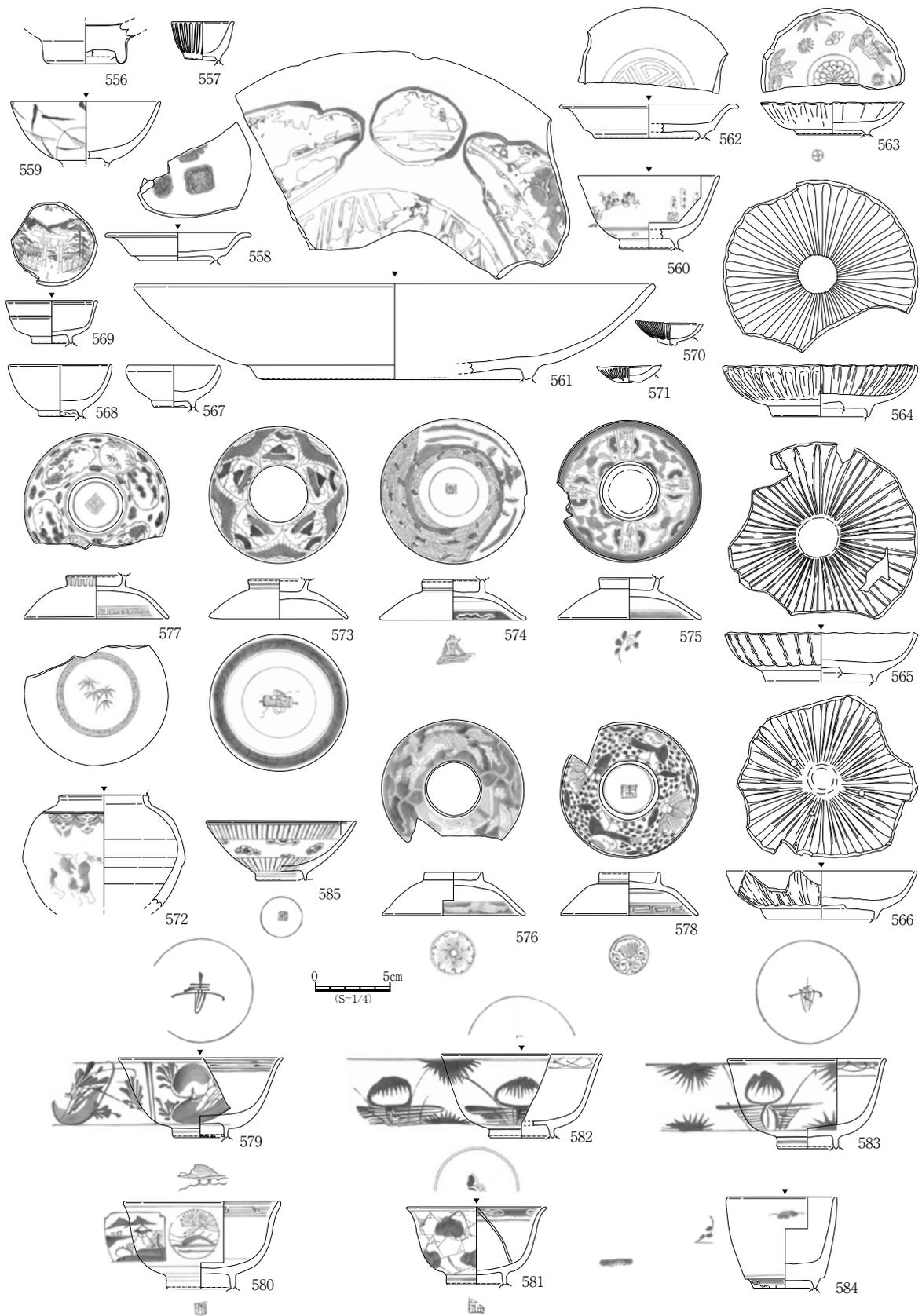
出土遺物 2,890点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁18点、青磁染付3点、クロム青磁1点、白磁125点、染付738点、磁器40点、陶胎染付13点、陶器1,305点、炆器136点、瓦器50点、施釉土器12点、白色土器15点、土器283点、土製品2点、瓦113点、石製品2点、漆器1点、木製品17点、銭貨3点、鉄器2点、動物遺体11点である。遺物の收拾は垂直位置では上層・木層に区分し、水平位置ではC区およびC区木層を別途区分し行った。内訳は上層138点、木層198点、C区164点、C区木層446点である。他は覆土一括1,944点である。

図示した164点(556～719<sup>[99-107]</sup>)は、556・557が青磁、558が青磁染付、559がクロム青磁、560～571が白磁、572～605が染付、606が磁器、607・608が陶胎染付、609～633が陶器、634～637が陶製品、638～650が炆器、651～658が瓦器、659が施釉土器、660～662が白色土器、663～680が土器、681～683が土製品、684～700が瓦、701が漆器、702～716が木製品、717～719が銅銭である。

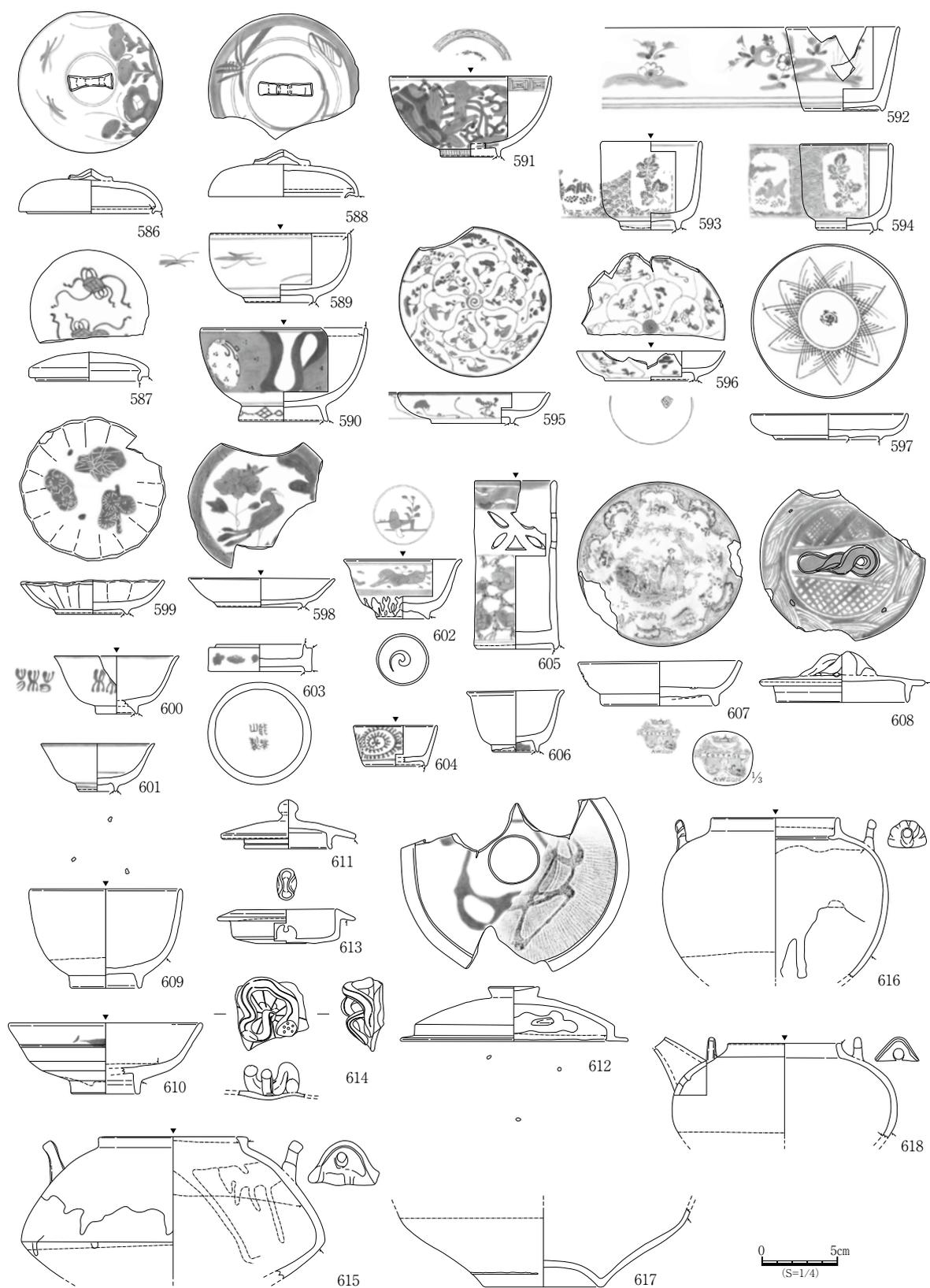


第64図 SX3平面図・断面図

556は龍泉窯の青磁・碗で14～15世紀の製品である。558は肥前の青磁染付・小皿で19世紀の製品である。559はクロム青磁・碗で19世紀末の製品である。560は瀬戸の白磁・端反碗である。上絵付で文様や落款意匠が描かれる。561は白磁・大皿である。上絵付で窓絵が描かれる。562は瀬戸の白磁・型押皿で見込に「壽」字が線刻される。19世紀後半の製品である。563～566は肥前の白磁・菊皿で19世紀の製品である。569は記念杯とみられる白磁・盃である。上絵付で「祇園」字や鳥居等風景が描かれる。570・571は肥前の白磁・紅皿である。573～578は肥前の染付・碗蓋で19世紀の製品である。579は瀬戸の染付・端反碗で19世紀の製品である。580は能茶山の染付・端反碗である。581～583は肥前の染付・端反碗である。585は染付・平碗で20世紀前半の製品である。586～588は染付・蓋物蓋で19世紀の製品である。589・590は肥前の染付・蓋物で19世紀の製品である。591は肥前の小広東碗で19世紀の製品である。592は能茶山焼とみられる染付・蕎麦猪口である。593・594は肥前の染付・湯呑碗で19世紀の製品である。595～598は染付・小皿で19世紀の製品である。599は染付・菊皿で19世紀後半の製品である。600～602は染付・小坏で、602は瀬戸産である。603は能茶山の染付・合子である。605は瀬戸の染付・花生けで19世紀の製品である。607は陶胎染付・小皿である。銅版転写で西洋風の人物・風景を描く。高台内に「COTTAGE/□AWSON」銘がある。608は鹿児島窯の陶胎染付・土瓶蓋で19世紀後半の製品である。610は陶器・煎じ碗で19世紀の製品である。611は陶器・青土瓶蓋で19世紀中頃の製品である。612は陶器・鍋蓋でイッチン掛けが施された19世紀の製品である。615～617は陶器・土瓶で19世紀の製品である。618は陶器・青土瓶で19世紀の製品である。619～621は陶器・行平鍋で19世紀の製品である。622は陶器・爛德利、623は陶器・瓶で19世紀の製品である。624・625は陶器・灯明具で19世紀の製品である。629～631は陶器・植木鉢で19世紀の製品である。632は能茶山の陶器・植木鉢で19世紀の製品である。外底に4字以上の墨書がある。634～637は陶製品・窯道具である。634はトチン、635～637は三足ハマで19世紀の製品である。638は備前の炆器・鉢で19世紀の製品である。639・640は植木鉢器形の炆器・鉢である。641は炆器・土瓶蓋である。642は備前の炆器・灯明受皿である。643～645は堺の炆器・播鉢で19世紀の製品である。646～648は明石の炆器・播鉢で19世紀の製品である。650は炆器・植木鉢で三脚を切り出す。651は瓦器・七輪、652・653は瓦器・焜炉である。654は瓦器・二口竈である。655～657は瓦器・火鉢である。659は施釉土器・ミニチュア碗である。660は尾戸窯の白色土器・皿で「壽」字が型押しされる。661は京都系の白色土器・涼炉で19世紀である。662は白色土器・焜炉である。663は土器・皿で「□風」字が型押しされる。白色土器・壽皿と同型である。664は在地の土器・坏で近世の製品である。665は土器・小型羽釜である。666は関西系の土器・焙烙鍋である。667・668・670～672は土器・焜炉である。669は土器・焜炉で673～675の土器・サナを併せて用いる。676は土器・火消し壺、677は土器・火打箱、678・679は土器・十能である。681は土製品・戸車である。682・683は土製品・泥面子で682は引き両に三珠文、683は「前原」文字を文様とする。684は一つ巴文の軒丸瓦、685～687は三つ巴文の軒丸瓦で、685は「天□」刻印がある。688・692・693は丁字文の軒瓦で、688は「行常」刻印、693は「横濱源」刻印がある。689・690は三つ巴文の軒平瓦である。691は剣酢漿草の軒棧瓦である。694は「け□上」刻印のある鎌軒瓦である。695は「小の□」刻印のある隅瓦である。696は「◇」刻印のある丸瓦である。697は「大坂...」刻印のある丸瓦である。698は「片勇」刻印、699は「手結喜」刻印をもつ棧瓦である。700は「布直」刻印のある瓦片である。701は漆器・椀蓋である。702は木札で「禁他用」「明治十五年十月新調」「銅炉□」「(朱印) 功能ハ諸巾石簿/□□□□□/□□□□用テヨシ」の墨書がある。1882(明治15)年のものである。

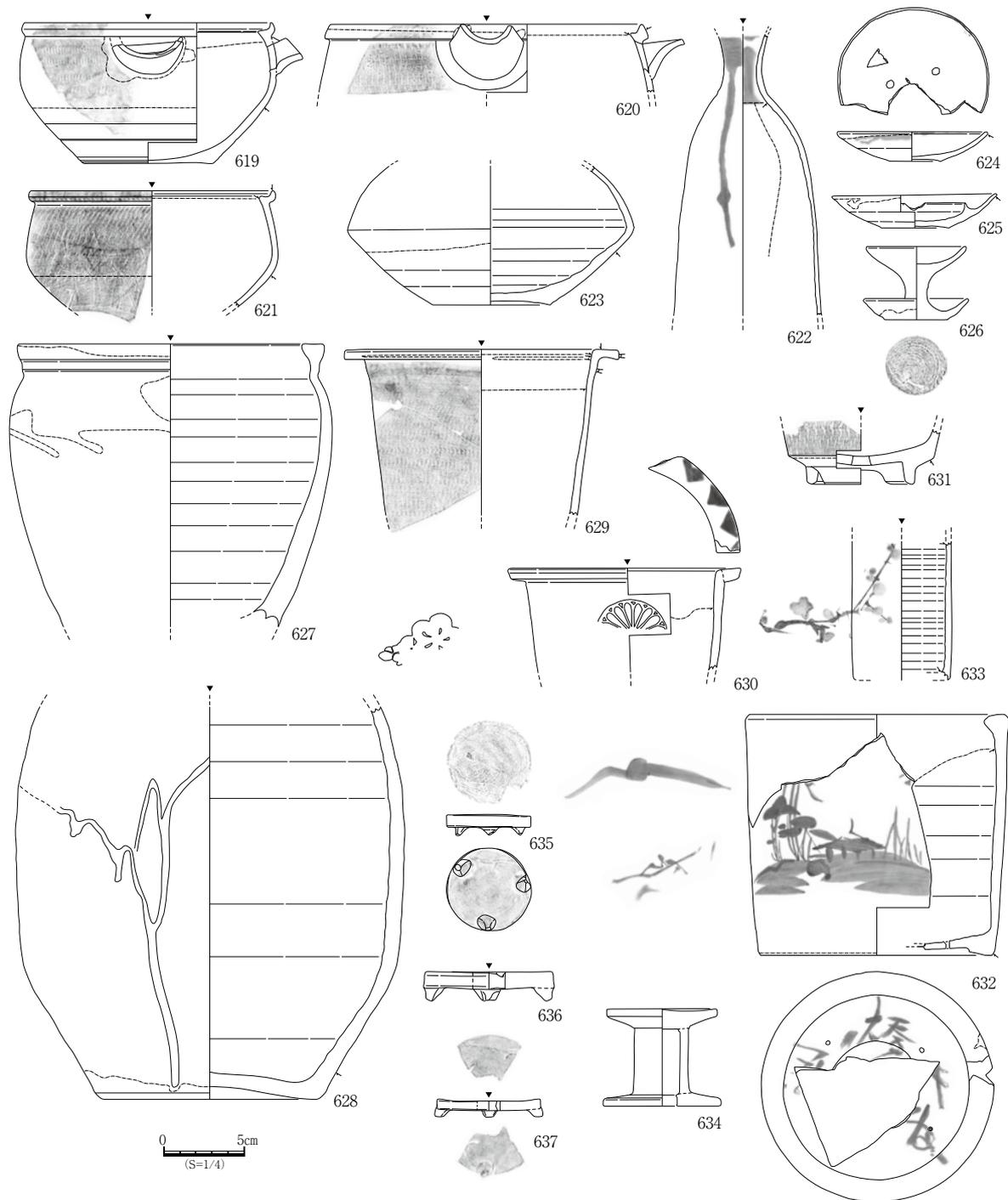


第65図 SX3出土遺物(青磁・白磁・染付)



第66图 SX3出土遺物(染付・陶胎染付・陶器)

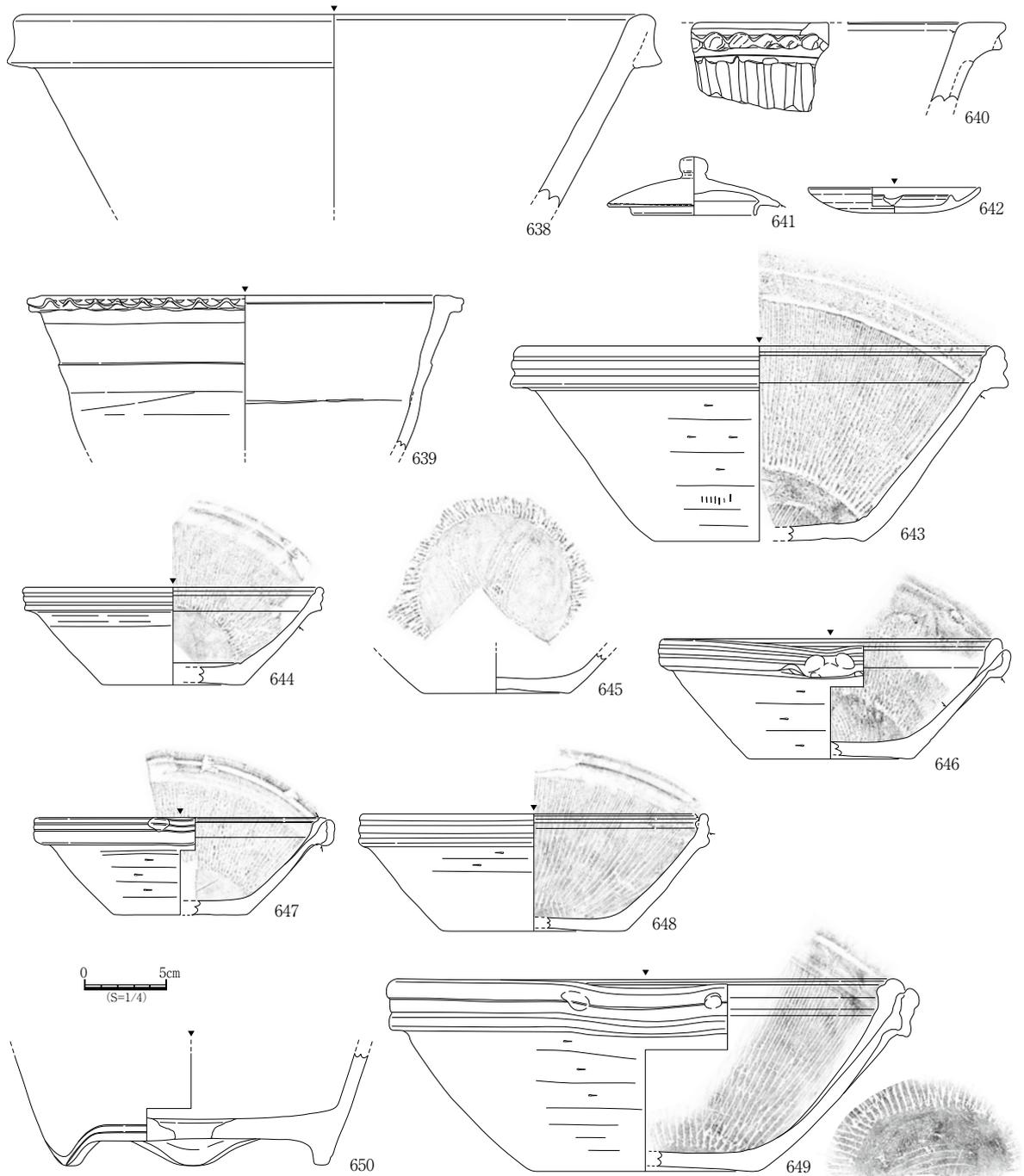
703・704は「神風講社」墨書のある木札で、703にはさらに「第□拾□番」「(朱字)神宮教会」墨書がある。705は「金壹圓也沖金」墨書のある木札である。706は「金...平」「二千八万...三...」墨書のある木札である。707・708は円盤形の木製品である。709は木製品・柄である。断面は小判形で長さが長い。710・711は木製品・千両下駄である。鼻緒が遺存している。712～716は建築部材の一部と考えられる加工木材である。717～719は銅銭・新寛永通寶である。動物遺体にタヌキ肩甲骨, イワガキ・サザエ・マガキ・ハマグリ・アサリ等貝類がある(付編2<sup>[275]</sup>)。



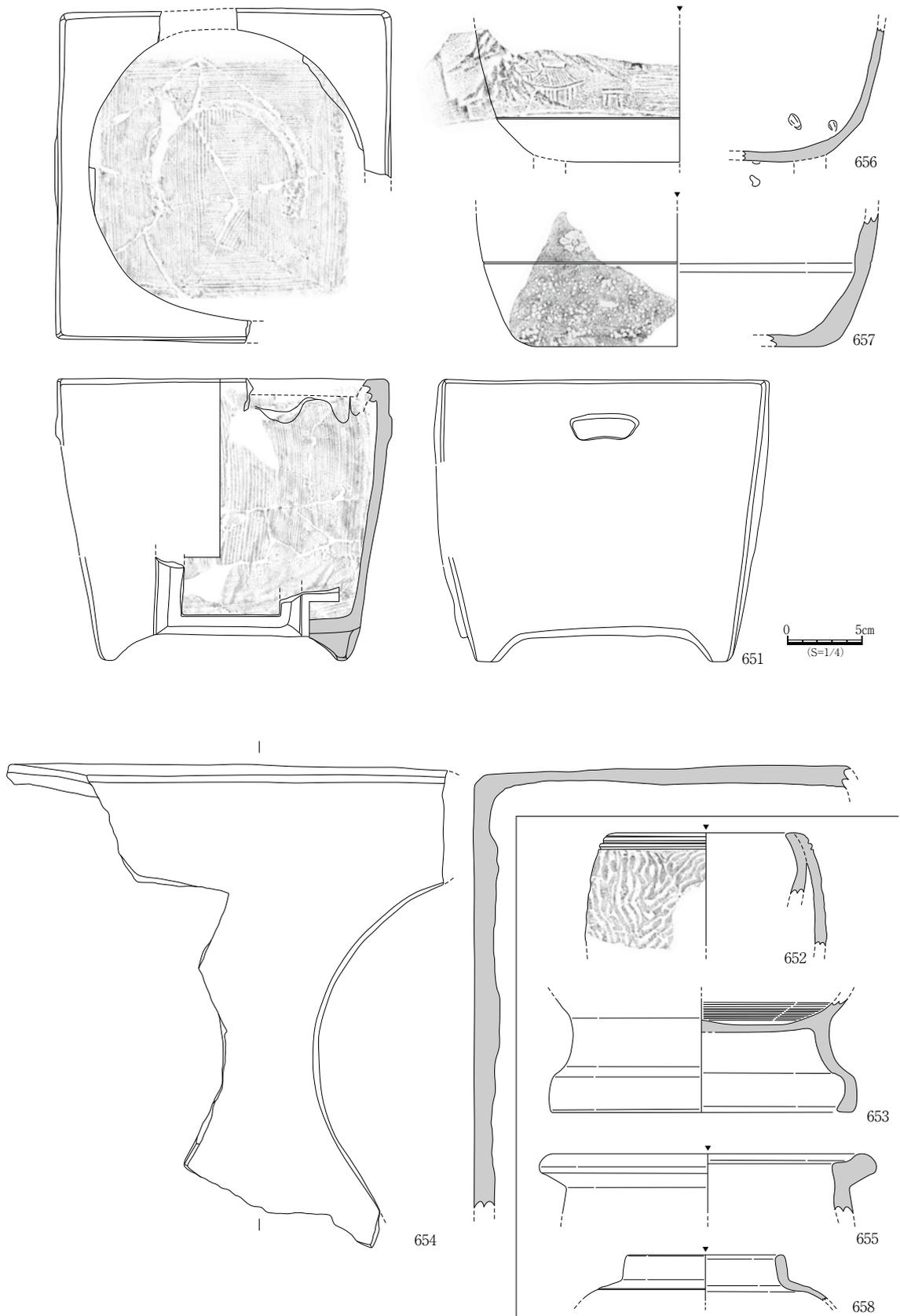
第67図 SX3出土遺物(陶器)

時期 19世紀後半に構築・廃絶された。出土遺物に明治15(1882)年紀年墨書の木札(702)がある。「神風講社」墨書の木札(703・704)は明治12(1879)年に組織された神宮教会に関わるものである。陶胎染付・土瓶蓋(608)は鹿見窯の製品であり、鹿見窯は明治5(1872)年から明治20(1887)年頃まで操業された。能茶山焼(580・592)は文政3(1820)年に開業され、藩窯としては明治3(1870)年に閉窯された。

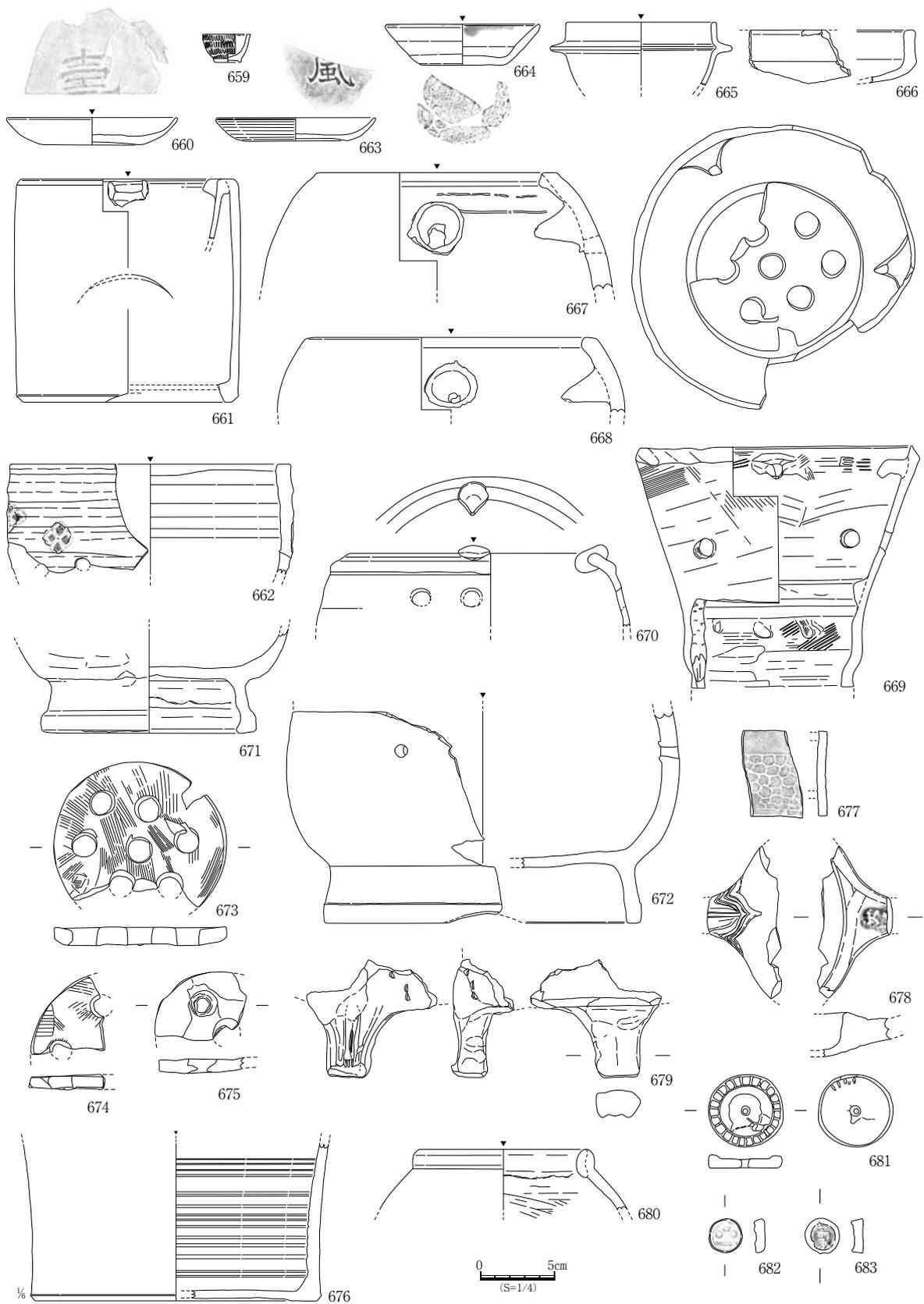
性格 池か。底には有機質や遺物が沈殿したように溜まっていた。北西縁には鉤形にのびる陸橋状の土手が確認された。護岸施設等は確認されていない。



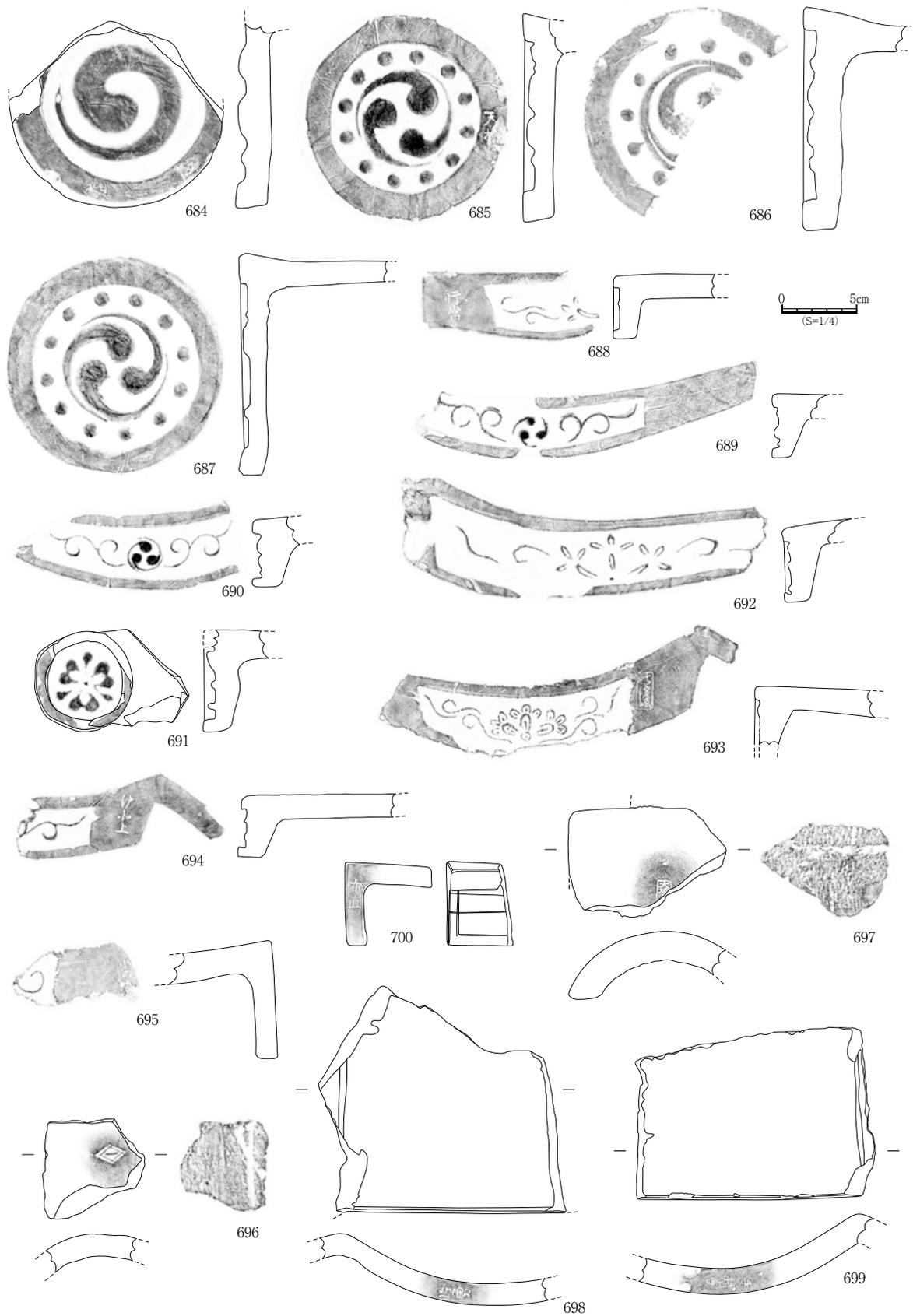
第68図 SX3出土遺物(炆器)



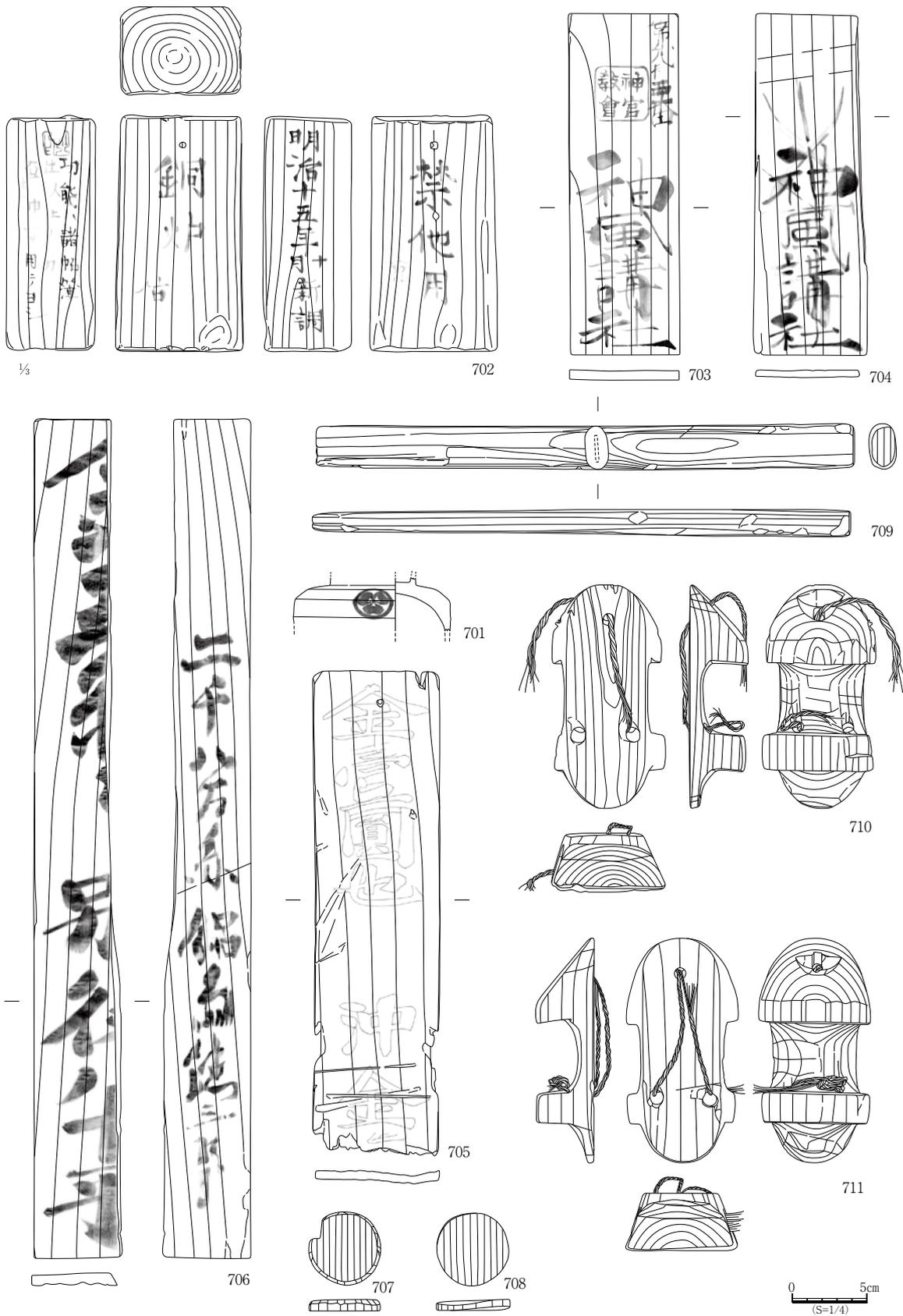
第69図 SX3出土遺物(瓦器)



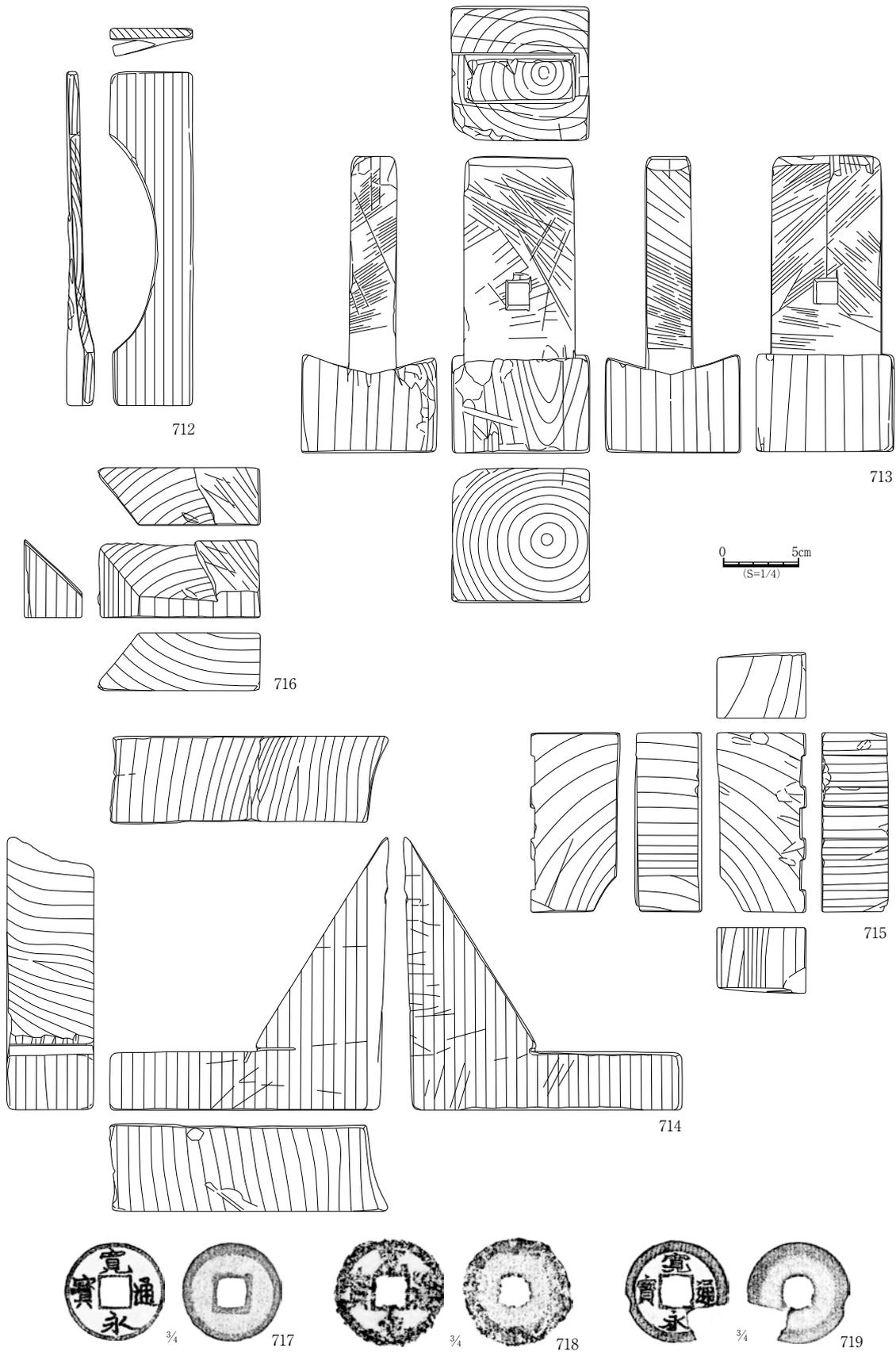
第70図 SX3出土遺物(土器)



第71図 SX3出土遺物(瓦)



第72図 SX3出土遺物(漆器・木製品)



第73図 SX3出土遺物(木製品・銅銭)

**SX4** (16世紀の大型楕円形土坑) (遺構:第74図・Pl.49・50<sup>[395-396]</sup>, 遺物:第75図<sup>[110]</sup>・Pl.130<sup>[476]</sup>)

位置・調査経過 LM・8~9グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SX4に切られる遺構はSD2・SD6で、SX4を切る遺構はSD11・SX5・SK74・SK75・SK76・SK78・SK87・SK104である。

形状・規模 南北方向(N-3°-W)に長い不整楕円形の大型土坑で舟形の掘方をもつ。長さ690cm, 幅440cm, 深さ70cmである。

覆土 長軸方向(第74図B-B')・短軸方向(第74図A-A')の覆土断面を観察した。全体は上層・下層に分かれる。上層(1~5層)は1~4層が黒褐~暗褐色土層でマンガン粒・山土粒・緑石粒を含む。5層は黄灰色土層で黄土粒を含む。下層(6~13層)は6層が灰褐色土層でマンガン粒を含む。7層は暗灰黄色粘質土層でマンガン粒・灰色土粒を含む。8層は灰黄褐色土層でマンガン粒・灰色土粒を含む。9層は暗灰黄色土層で灰色土粒を含む。10層はオリーブ灰色土層で有機質を含み鉄分の凝集がみられる。11層は灰色土層で鉄分の凝集がみられる。12層はオリーブ灰色土層で鉄分の凝集がみられる。13層は灰褐色土層でマンガン粒を含む。

出土遺物 561点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁3点, 陶器2点, 炆器4点, 須恵器5点, 瓦器27点, 白色土器2点, 土器513点, 土製品2点, 石製品2点, 鉄器1点である。遺物の収拾は上層・下層に分けて行った。出土位置を記録した4点はいずれも上層にあたる。内訳は上層294点, 下層50点である。他は覆土一括である。北西隅の上層に土器坏皿が集中する箇所があった。

図示した9点(720~728<sup>[110]</sup>)は、720が青磁, 721が須恵器, 722が瓦器, 723~726が土器, 727・728が石製品である。  
【観321-322】

720は龍泉窯の青磁・折縁皿である。721は在地の須恵器・皿で古代の製品である。722は土佐型の瓦器・鍋の底部で14~15世紀の製品である。723~725は在地の土器・坏で16世紀の製品である。726は播磨型の土器・羽釜で15世紀の製品である。727は砂岩製の砥石である。728は火成岩の筋砥石である。

時期 16世紀代。SD2・SD8とSX5の間に構築・廃絶された。出土遺物には混入が多いが最も新しいのは16世紀の製品である。

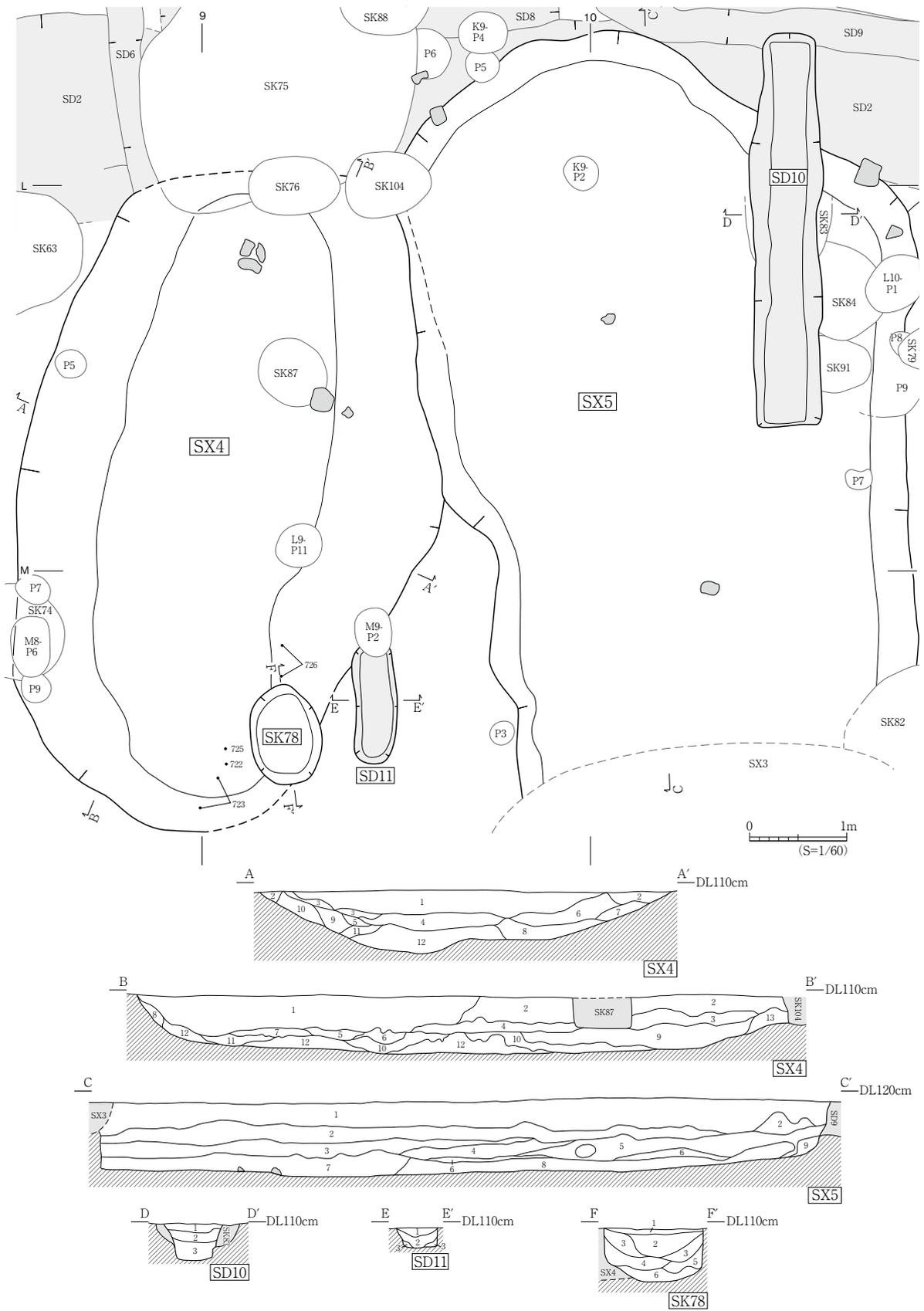
性格 不明。

**SX5** (16世紀の大型土坑) (遺構:第74図・Pl.49・50<sup>[395-396]</sup>, 遺物:第75図<sup>[110]</sup>・Pl.131<sup>[477]</sup>)

位置・調査経過 KM・9~10グリッドに位置する。一帯にはⅢF層がひろがっており平面プランの検出は困難であった。Ⅲb層を掘削し構築され、埋没後はⅢF層に覆われた。明確な痕跡は確認できなかったが南端はSX3により断絶する。SX5はSD8・SD9・SX4・SK123を切り、SD10・SX3・SK82・SK83・SK84・SK91に切られる。

形状・規模 南北方向(N-17°-W)に長い不整長方形の土坑もしくは溝である。長さは760cmまでを確認した。幅は414~520cm, 深さは90cmである。壁は垂直に近い角度で掘り込まれ、底は概ね水平に均されるが中央付近がより深い。

覆土 長軸方向(第74図C-C')・短軸方向の覆土断面を観察した。上・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が灰褐色シルト層で炭化物・焼土・小石を含み鉄分の凝集がみられる。1層とⅢF層の区別はやや困難である。2層は灰黄色土層で炭化物・焼土を含み鉄分の凝集がみられる。下層(3~9層)は砂質・水成傾向でグライ化もみられる。3層が灰色土層で砂・炭化物・有機質を含み鉄分の凝集がみられる。



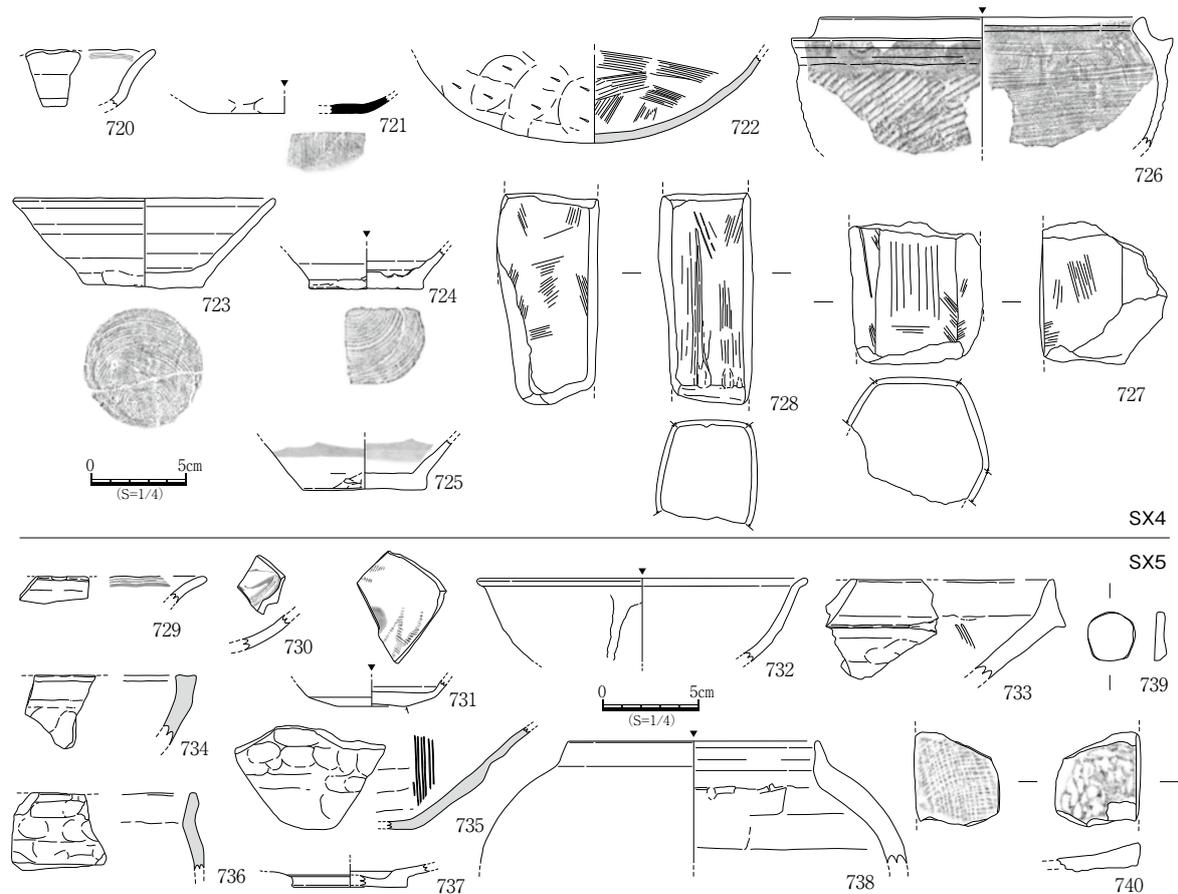
第74図 SX4・SX5・SD10・SD11・SK78平面図・断面図

4層は灰色土と砂の互層で炭化物・山土粒を含む。5層は灰黄色土層で炭化物・小石・山土粒を含む。6層は砂と粘土の互層で小石を含み鉄分が凝集する。7層は緑灰色砂質シルト層で有機質・塊石を含む。8層は青灰色シルト層で小石・有機質を含む。9層は明灰色シルト層で有機質を含み鉄分が凝集する。  
 出土遺物 268点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁5点, 青花1点, 染付1点, 陶器2点, 炆器13点, 須恵器3点, 瓦器21点, 弥生土器2点, 白色土器9点, 土器202点, 土製品1点, 瓦4点, 鉄滓1点, 動物遺体2点, 珊瑚1点である。遺物の收拾は上層・下層に分けて行った。区分して收拾した遺物はいずれも下層(93点)で他は覆土一括である。

図示した12点(729~740)は, 729が龍泉窯の青磁・輪花皿である。730は龍泉窯の青磁・皿で13世紀の製品である。731は同安窯の青磁・皿で12世紀の製品である。732は朝鮮産とみられる陶器・鉢である。丸い口唇が小さく外折し玉縁状となる。733は備前の炆器・播鉢で15世紀後半の製品である。734は在地の瓦器・鉢である。735は在地の瓦器・播鉢である。736は土佐型の瓦器・鍋で14~15世紀の製品である。737は在地の土器・坏皿で古代の製品である。738は土器・茶釜である。739は土器片を再加工した円盤である。740は平瓦で布目痕・縄目痕が残る。古代の製品である。他にヒトの肩甲骨が出土している(付編2<sup>[275]</sup>)。

時期 16世紀。SD9・SX4を切りⅢF層に覆われる。遺物には混入が多いが最も新しいのは16世紀の製品である。

性格 不明。最初の埋没時は流水環境にあったとみられる。

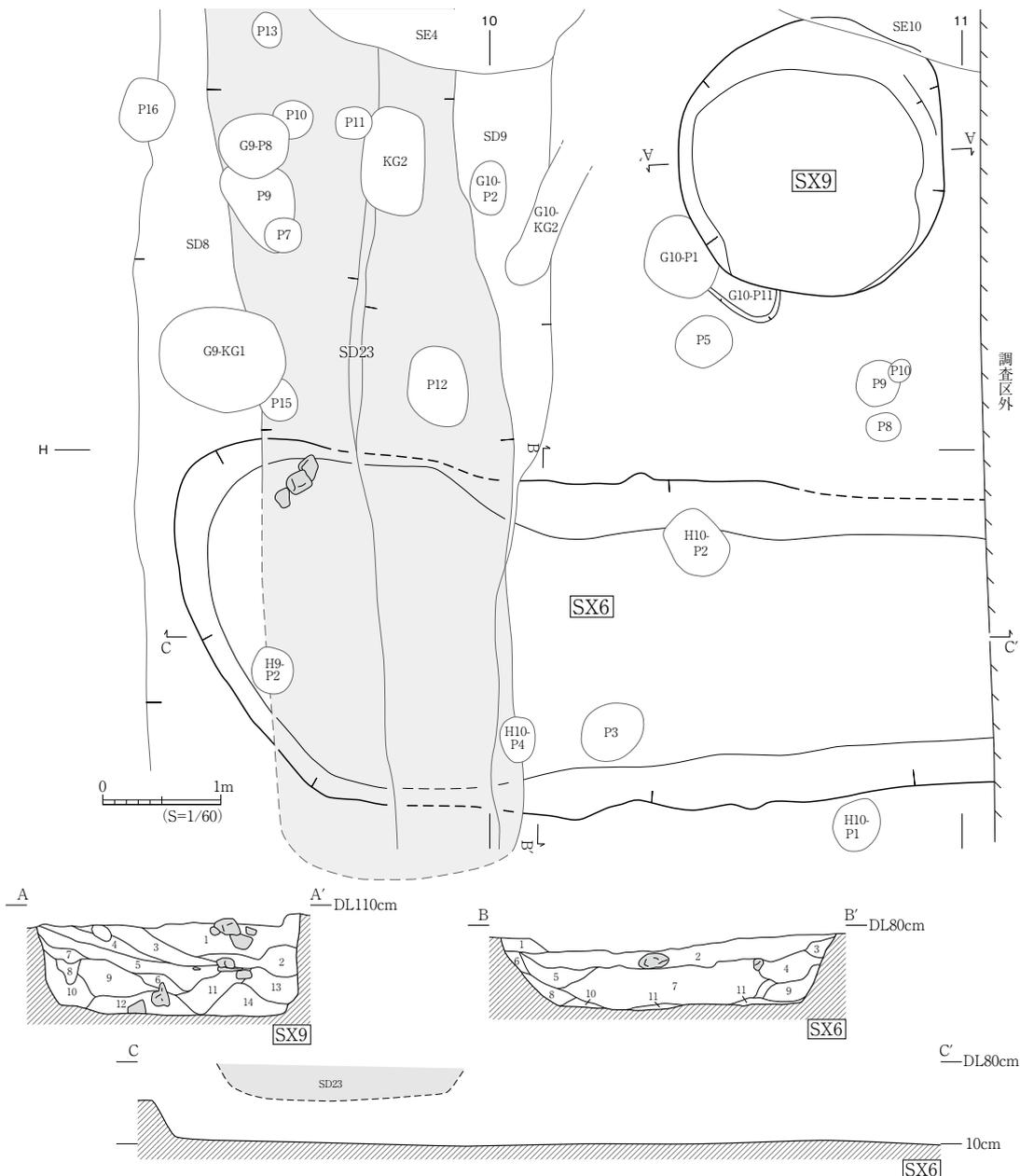


第75図 SX4・SX5 出土遺物

**SX6**〈10世紀後半～11世紀の流路か〉(遺構:第76図・PI.50<sup>[396]</sup>,遺物:第77図<sup>[112]</sup>・PI.131<sup>[477]</sup>)

**位置・調査経過** H・9～10グリッドに位置する。SD23の北壁で覆土断面を確認した。面的に拡張した結果、西側では立ち上がりを確認した。東側は調査区東壁に覆土断面が認められるためさらに東方に延長する。Ⅲe層を掘削しⅢd層に覆われる。SD23に切られる。SD8・SD9・SK109はSX6の上部堆積層を掘削する。

**形状・規模** 長軸を東西方向(N-75°-E)にとる流路とみられる遺構である。断面形は隅丸台形を確認したが調査区東壁では弓形に近い。西端は緩やかに立ちあがる。幅280cm,深さ70cmで,長さは660cmまでを確認した。



第76図 SX6・SX9平面図・断面図

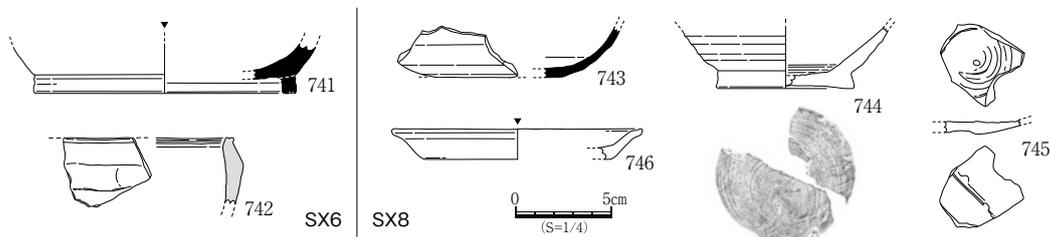
**覆土** 短軸方向(第76図B-B')と調査区東壁(第6図②<sub>[10]</sub>)で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。全体がグライ化している。上層(1・2層)は褐灰～灰色砂質シルト層で有機質・炭化物を含む。下層(3～11層)は灰色～緑灰色のシルト～砂層である。大部分をしめる7層は灰色粘質シルト層で有機質・ブロック状の砂を含む。Ⅲe層を掘削しⅢd層に覆われる。

**出土遺物** 22点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は陶器1点, 須恵器5点, 瓦器5点, 土器10点, 動物遺体1点である。覆土一括で収拾した。

図示した2点(741・742)は、741が須恵器・壺で古代の製品である。742は在地の瓦器・鍋で中世の製品である。  
[観322]

**時期** 古代。Ⅲe層を掘削しⅢd層に覆われる。出土遺物には重複する遺構との区別が十分でなかったものを含む。

**性格** 溝ないし流路。覆土から堆積時の流水環境が窺える。



第77図 SX6・SX8出土遺物

**SX8** (10世紀後半～11世紀の大型土坑)(遺構:第78図・PI.50<sub>[396]</sub>, 遺物:第77図・PI.131<sub>[477]</sub>)

**位置・調査経過** C・9～10グリッドに位置する。SD23の東壁で覆土断面を確認した。調査時に露出していたⅢb層下の砂礫層をさらに除去し平面プランを確認した。北縁は調査区外にある。構築面は不明であるがⅢe層を掘削し砂礫層に覆われている。砂礫層の上部にはⅢb層・ⅢF層が堆積する。SD8・SD22・SD23に切られる。SD14・SK197はSX8の上部堆積層を掘削する。

**形状・規模** 不整円形の大型土坑ですり鉢状の掘方をもつ。平面は360cm大, 深さ94cmである。

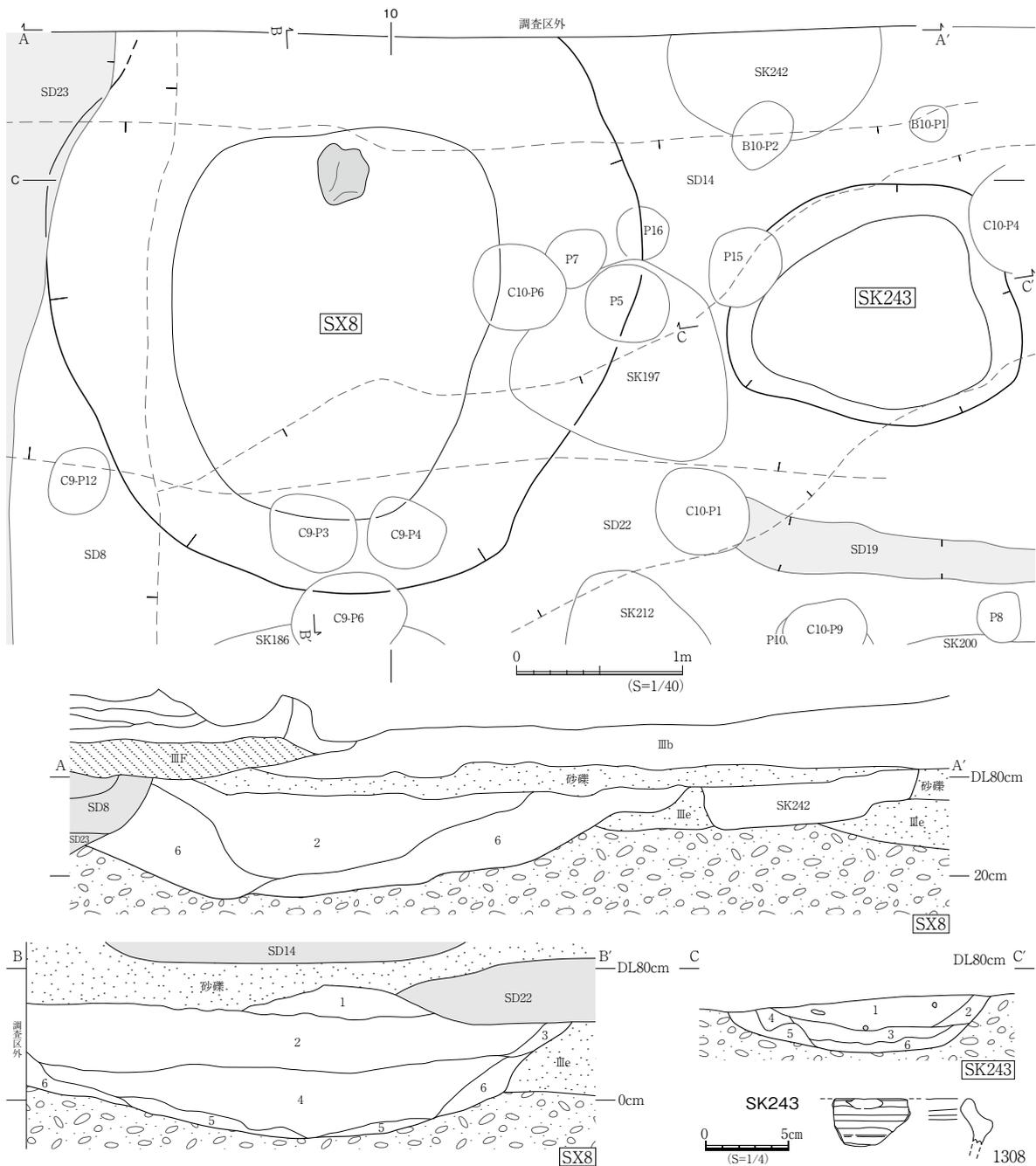
**覆土** 調査区北壁(第78図A-A')と南北方向(第78図B-B')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1～3層)は1層が緑灰色砂質シルト層, 2層は灰色粘質シルト層で有機質を含む。3層は灰色砂質土層である。下層(4～6層)は4層が灰色粘質シルト層で砂礫層と互層をなす。砂・小石を含む。5層は黒褐色砂質シルト層で有機質を含む。6層は褐灰色砂礫層である。

**出土遺物** 96点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は須恵器1点, 瓦器1点, 白色土器14点, 土器78点である。遺物の収拾は上層・下層・最下層に分けて行った。内訳は上層62点, 下層4点, 最下層1点である。他は覆土一括である。

図示した4点(743～746)は、743が須恵器・蓋坏で6世紀の製品である。744は在地の土器・坏で10世紀後半～11世紀の製品である。745は在地の土器・坏皿で10～11世紀の製品である。外底にヘラ起こし痕が残る。746は在地の土器・皿で9～10世紀の製品である。動物遺体にウマ臼歯がある。  
[観322]  
[275]

**時期** 10世紀後半～11世紀。砂礫層およびⅢb層に覆われる。出土遺物は10世紀後半～11世紀の製品である。

**性格** 不明。



第78図 SX8・SK243平面図・断面図, SK243出土遺物

**SX9**〈18世紀前半の大型円形筒形土坑〉(遺構:第76図<sup>[111]</sup>・PI.50<sup>[396]</sup>,遺物:第79図<sup>[114]</sup>・PI.131・132<sup>[477-478]</sup>)

**位置・調査経過** G10グリッドに位置する。一帯にはⅡ層が厚く堆積しており,これを除去する過程で円形のプランを確認した。整った円形のプランであったため井戸として調査を進めたが,井戸の明確な痕跡が確認できずSXと改めた。SE10に切られる。

**形状・規模** 平面形は円形で筒形の掘方を持つ。径236cm大,深さ112cmである。

**覆土** 東西方向で覆土断面を観察した(第76図A-A')。上層・中層・下層に分かれる。上層(1~3層)は,1層が粗い黒色土層で炭化物・焼土・有機質・山土粒・塊石を含む。塊石上には角柱片が立っている。

2層は黒褐色土層で炭化物・焼土・塊石を含む。塊石は層下部に集中していた。3層は灰オリーブシルト層で焼土・小石を含む。中層(4~7層)は4層が暗灰黄色土層で炭化物・砂・有機質を含む。5層は黒褐色土層で山土ブロック・炭化物・焼土・小石・有機質を含む。6層は黒色土層で有機質・山土粒・砂を含む。7層は黒色土とオリーブ色土の混合層で炭化物・焼土・小石・砂を含む。下層(8~14層)は8層が灰色粘土層でピット状の掘り込みをなす。9層は青灰色粘土層で小石・緑石粒・黒土粒を含む。10層は緑灰色シルト層で有機質を含む。11層は緑灰色土層で緑石粒を含む。12層は黒色土層で塊石を含む。13層は灰色土層で炭化物・有機質を含む。14層は灰色土層で緑石粒を含む。

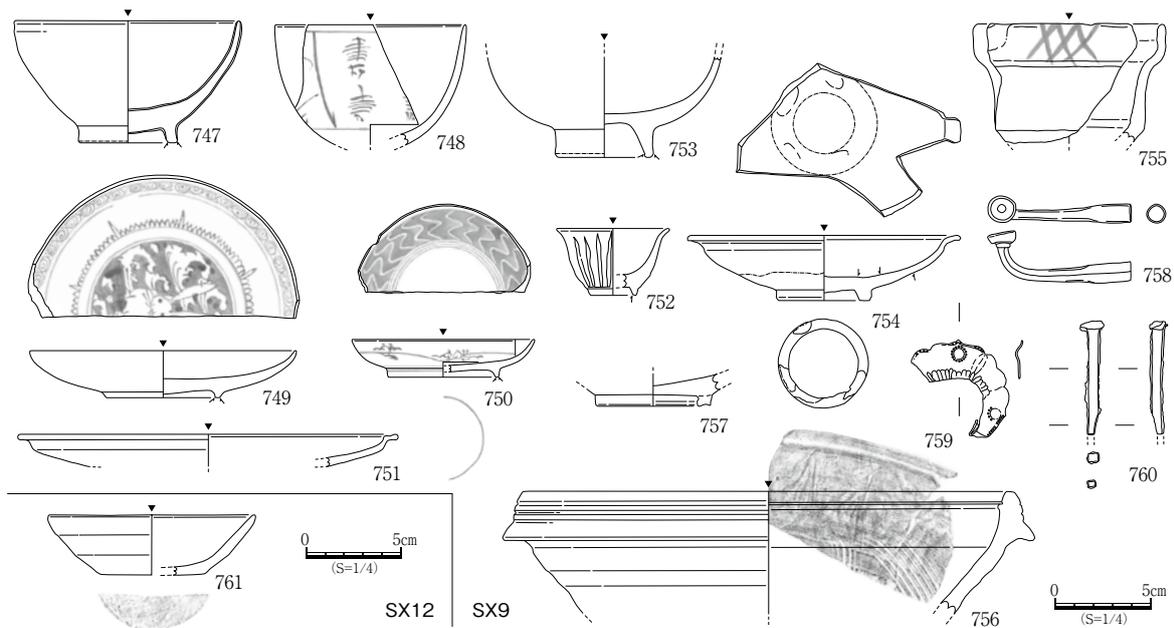
出土遺物 208点の遺物が出土した。内訳は青磁3点, 白磁1点, 染付34点, 磁器26点, 陶胎染付1点, 陶器39点, 炆器7点, 白色土器1点, 土器93点, 銅製品2点, 鉄器1点, 珊瑚1点である。遺物の収拾は上層・中層・下層に区分して行った。内訳は上層106点, 中層2点, 下層93点である。他は覆土一括である。

図示した14点(747~760)は, 747が青磁, 748~750が染付, 751・752が磁器, 753~755が陶器, 756が炆器, 757が土器, 758・759が銅・真鍮製品, 760が鉄器である。

747は肥前の青磁・碗である。748は肥前の染付・碗で17世紀中頃の製品である。749は肥前の染付・皿で17世紀前半の製品である。750は肥前の染付・皿で17世紀後半~18世紀初の製品である。751は肥前の磁器・皿である。752は肥前の磁器・小坏で17世紀前半の製品である。753は肥前の陶器・丸碗で18世紀前半の製品である。754は肥前の陶器・皿で17世紀後半~18世紀前半の製品である。755は絵唐津の陶器・鉢で16世紀末~17世紀初の製品である。756は備前の炆器・播鉢で16世紀末~17世紀初の製品である。757は輪高台の土器・碗で11世紀頃の製品である。758は真鍮製の煙管雁首で18世紀前半の製品である。759は銅製の飾金具, 760は鉄器・頭卷釘である。動物遺体にイノシシ橈骨, サザエがある(付編2<sub>[275]</sub>)。

時期 18世紀前半に廃絶。SE10に切られる。出土遺物中で最も新しいのは18世紀前半の製品である。

性格 不詳。



第79図 SX9・SX12出土遺物

**SX10**〈中世の溝状大型土坑〉(遺構:第80図<sup>[116]</sup>・PI.51<sup>[397]</sup>)

**位置・調査経過** FG・6~8グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。西側は立ち上がりを確認できたが、東側はSK133・SK116により断絶する。SK193・SK216・SK226を切り、SX12・SK116・SK133・SK138・SK203に切られる。

**形状・規模** 長軸を東西方向(N-83°-W)にとる溝状の土坑である。断面形は台形である。西側の縁辺は緩やかに立ちあがる。底はほぼ水平に均されるが、西寄りがやや深い。幅250cm、深さ40cm、長さは480cmまでを確認した。

**覆土** 長軸方向(第80図C-C')、短軸方向(第80図B-B')の覆土断面を観察した。9層に分かれる。1層は暗灰黄色シルト層で近世盛土層に似る。2層は灰黄褐色シルト層、3層は褐灰色砂質シルト層で小石を含む。4層はオリーブ灰色砂質シルト層、5層は褐灰色土層で鉄分の凝集がみられる。6層は灰黄褐色砂質土層、7層は褐灰色シルト層で鉄分の凝集がみられる。8層は灰オリーブ砂質土層、9層は灰褐色土層で縞状の堆積がみられる。

**出土遺物** 11点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は須恵器1点、白色土器2点、土器8点である。覆土一括で収拾した。

**時期** 中世。出土遺物は古代の製品を含むが重複関係では中世にあたる。

**性格** 不詳。

**SX11**〈中世の整地層か〉(遺構:第81図<sup>[117]</sup>・PI.51<sup>[397]</sup>)

**位置・調査経過** GH・6~8グリッドにひろがる。Ⅲb層で平面の北縁および西縁を検出し、覆土断面でも北側と西側の立ち上がりを確認したが、範囲は把握できなかった。覆土は基本層序に近く整地層の可能性もある。東側はSK116により断絶する。SK178を切り、SK116に切られる。

**形状・規模** 平面形は把握できていない。底は水平に近く壁は垂直に近い角度で立ちあがる。深さは40cmである。

**覆土** 覆土の詳細な観察は行っていない。水平に近い状態で褐灰色シルト層が上下に堆積していた。

**出土遺物** 10点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は青磁1点、陶器1点、白色土器2点、土器6点である。覆土一括で収拾した。白色土器など古代の製品を含む。

**時期** 中世。中世の遺構であるSK116に切られる。出土遺物には混入がある。

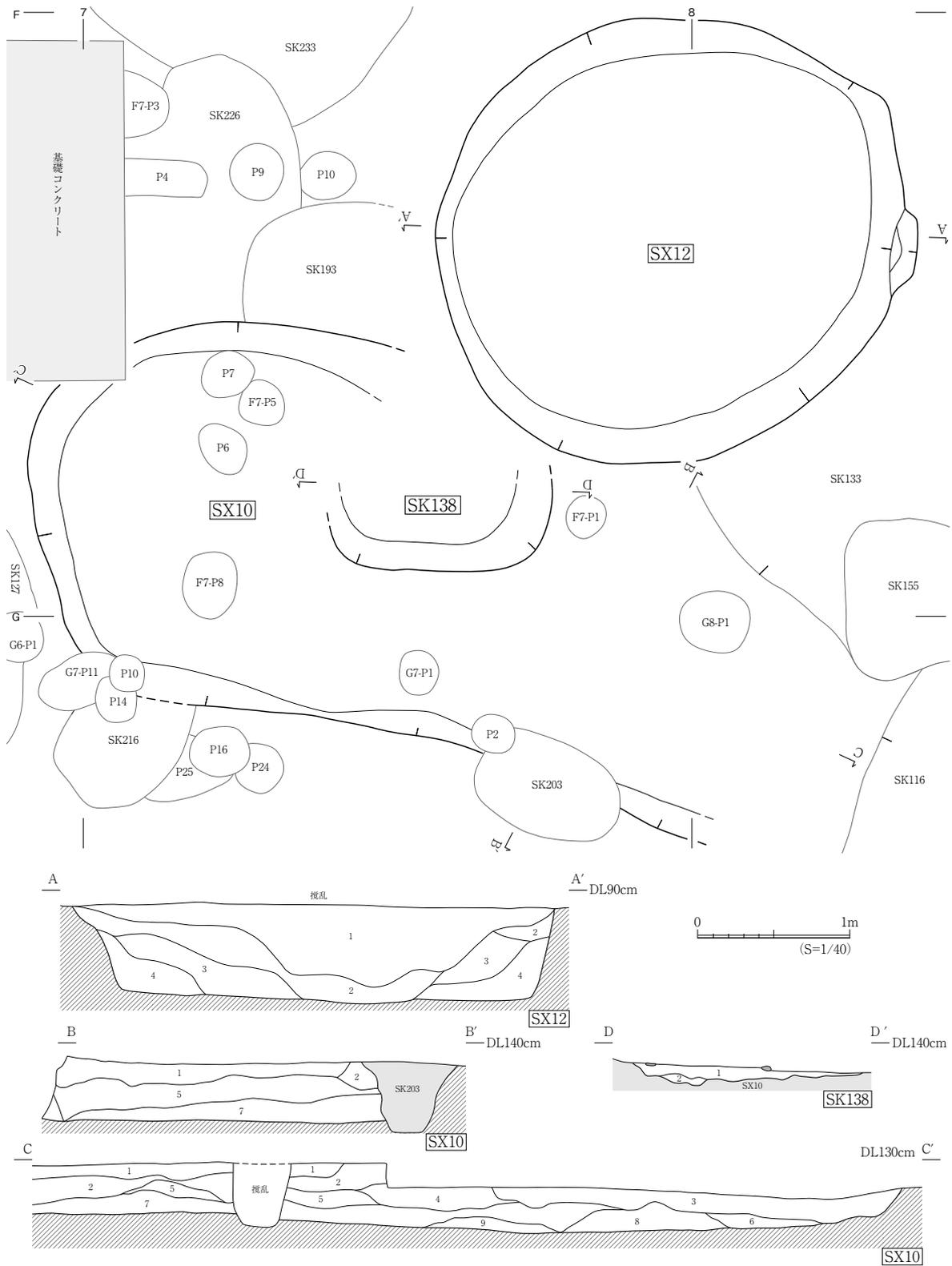
**性格** 整地層か。古代の流路ないし溝であるSX6の西延長位置にあたる。SK116<sup>[162]</sup>も同様の性格をもつ可能性がある。

**SX12**〈19世紀の大型土坑〉(遺構:第80図<sup>[116]</sup>・PI.51<sup>[397]</sup>、遺物:第79図<sup>[114]</sup>・PI.132<sup>[478]</sup>)

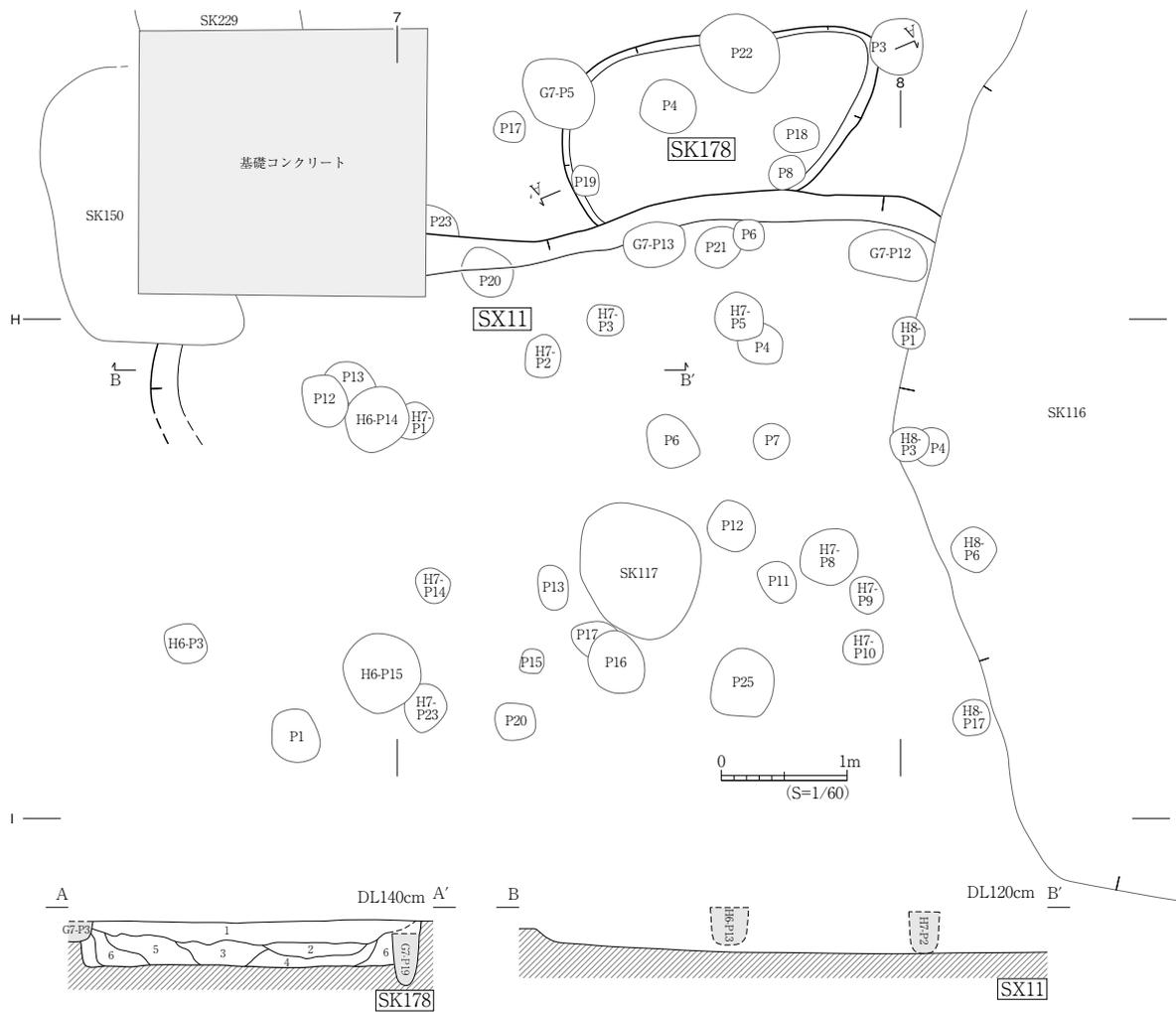
**位置・調査経過** F・7~8グリッドに位置する。一帯の広い範囲を掘削し攪乱の底でプランを確認した。整った円形プランであったため井戸として調査を進めたが、井戸の明確な痕跡が確認できずSXと改めた。SX10・SK133を切る。

**形状・規模** 平面形は円形で円筒形に近い掘方をもつ。上面径308cm大、深さ74cmである。

**覆土** 東西方向の覆土断面を観察した(第80図A-A')。上層・下層に分かれる。上層(1層)は黒灰色粘質シルト層で炭化物・礫・山土粒・有機質を含む。下部に粘土が堆積していた。下層(2~4層)はいずれも砂礫層で2層が暗灰黄色、3層が赤褐色、4層が灰黄褐色である。



第80図 SX10・SX12・SK138平面図・断面図



第81図 SX11・SK178平面図・断面図

**出土遺物** 96点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点, 染付6点, 磁器6点, 陶器8点, 炆器6点, 土器51点, 瓦6点, 漆器1点, 銅製品1点, 鉄器2点, 動物遺体8点である。遺物の收拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層4点, 下層3点で他は覆土一括である。

図示した1点(761<sub>[114]</sub>)は, 在地の土器・坏皿で製品である。動物遺体にイヌ・シカないしイノシシ, サザエ・アワビ・ハマグリ・ハイガイ・イワガキ等貝類, スズキ等魚骨がある(付編2<sub>[275]</sub>)。

**時期** 19世紀。出土遺物は19世紀の製品を含む。

**性格** 井戸の可能性が考慮される。

(6) SK (土坑)

土坑はSK1～SK289までを調査したが、うち39基は名称の変更等により欠番とした。結果、埋葬遺構の6基(SK153・SK155・SK183・SK234・SK237・SK282)を除く244基をSK(土坑)とした。このうち139基について以下に内容を詳述する。残りの105基は第7表に基礎データのみを示す。時期別では古代が43基、中世が73基、近世が89基、近代が1基、時期不詳が38基である。さらに時期が限定できる遺構には11～12世紀[SK39・59・80]、15世紀[SK37]、15世紀末～16世紀初[SK75]、16世紀[SK100・108]、17世紀[SK28・45・49～51・58・105・127・143・148・154・157・158・162・167・171・172・175・286]、18世紀[SK7・129・139・142・159・166]、19世紀[SK173・285・288]、20世紀[SK287]がある。

第7表 土坑(SK)一覧

番号	平面形態	位置	軸方向	長さ(㌢)	幅(㌢)	深さ(㌢)	時期	①遺物数(掲載点数) ②確認面 ③～に切られる ④～を切る ⑤その他
SK1	不整形	QR・7	N-11°-W	260	222	14	近世	①14(3). ②Ⅲa・b層. ③SK3.
SK2	楕円形	R7	N-17°-E	107	83	7	近世	①1. ②Ⅲ層.
SK3	隅丸方形	QR・7	N-9°-E	100	80	35	近世	①10. ②Ⅲ層. ④SK1. ⑤樹根.
SK4	楕円形	Q8	N-2°-W	85	62	27	近世	①2(1). ②Ⅲa・b層. ③SK5. ⑤柱穴.
SK5	楕円形	Q9	N-6°-E	59	33	30	19c	①6(3). ②Ⅲa・b層. ③SK6. ④SK4. ⑤柱穴.
SK6	不整形	QR・9	N-82°-W	86	64	30	19c	①7(2). ②Ⅲa・b層. ④SK5. ⑤柱穴.
SK7	隅丸長方形	Q6	N-52°-E	71	43	26	18c	①21(6). ②Ⅲa・b層. ④SR2上. ⑤柱穴.
SK8	楕円形	Q・4.5	N-60°-W	117	74	28	—	①2. ②Ⅲ層. ④SR2上/SK19.
SK9	円形	R5	—	68	59	42	近世	①3. ②Ⅲ層. ⑤柱穴.
SK10	隅丸方形	R4	—	62	61	53	近世	①13. ②Ⅲ層. ④SX2. ⑤柱穴.
SK11	溝状	Q4	N-74°-E	(133)	(60)	23	近世	①205(6). ②Ⅲa・b層. ④SX2. ⑤土器坏皿一括廃棄坑.
SK12	円形	Q2	N-32°-W	63	47	15	—	①1. ②Ⅲ層. ④SR3上.
SK13	楕円形	S3	N-71°-E	(200)	108	8	近世	①2. ②Ⅲ層. ③SX2. ④SK14/SK15.
SK14	楕円形	RS・2.3	N-40°-W	(170)	(150)	10	近世	①8. ②Ⅲ層. ③SK13. ④SK17.
SK15	楕円形	S・2.3	N-64°-E	200?	(40)	20	近世	①0. ②Ⅲ層. ③SK14.
SK16	楕円形	R2	N-6°-W	70	50	60	—	①0. ②Ⅲ層. ④SK17/SK18. ⑤柱穴.
SK17	楕円形	R2	N-35°-W	(70)	(30)	27	近世	①3. ②Ⅲ層. ③SK14/SK16.
SK18	楕円形	R2	N-90°	(50)	40	14	—	①0. ②Ⅲ層. ③SK16.
SK19	楕円形	QR・4.5	N-57°-W	160	120	25	近世	①33. ②Ⅲ層. ③SK8.
SK20	楕円形	Q・5.6	N-58°-E	170	120	14	近世	①2. ②Ⅲ層. ④SR2上.
SK21	円形	P5	—	220	—	50	近世	①20(6). ②Ⅲa・b層. ④SK22.
SK22	隅丸方形	P5	N-34°-W	60	(40)	47	近世	①5. ②Ⅲ層. ③SK21. ⑤柱穴.
SK23	隅丸方形	N8	N-77°-E	58	46	33	近世	①12(3). ②Ⅲb層. ⑤柱穴.
SK24	不整形	N8	N-7°-W	120	70	14	—	①0. ②Ⅲb層.
SK25	円形	N・7.8	—	44	—	30	中世カ	①2(1). ②Ⅲb層. ④SK27. ⑤柱穴.
SK26	楕円形	O8	N-13°-W	130	90	20	中世	①5. ②Ⅲb層.
SK27	隅丸方形	N7	N-3°-E	36	28	12	中世	①1. ②Ⅲb層. ③SK25.
SK28	隅丸長方形	MN・7	N-77°-E	255	138	37	17c前	①450(17). ②Ⅲa・b層. ④SK69. ⑤廃棄坑.
SK30	不整形	MN・6	—	304	288	15	17c	①60(6). ②Ⅲb層. ④SK69.
SK31	不整形	M6	N-13°-W	76	71	25	近世	①11(1). ②Ⅲb層.
SK32	不整形	M6	N-83°-W	75	60	13	近世カ	①8(1). ②Ⅲb層.
SK33	楕円形	ML・6	N-11°-W	123	103	12	—	①5. ②Ⅲb層.
SK34	隅丸方形	L6	N-12°-E	59	52	10	近世	①1(1). ②Ⅲb層. ③SK36. ④SK94.

\*埋葬遺構(SK153・155・183・234・237・282)を除く.\*\*遺構番号下線は本文中に詳述なし。\*\*\*()数値は残存値。\*\*\*\*③④の「～」は③④に列記した遺構番号。

番号	平面形態	位置	軸方向	長さ(%)	幅(%)	深さ(%)	時期	①遺物数(掲載点数) ②確認面 ③~に切られる ④~を切る ⑤その他
SK35	不整形	LM・5	N-3°-E	150	146	10	—	①2. ②Ⅲ層.
SK36	不整形	L6	N-80°-W	118	86	15	近世カ	①1. ②Ⅲ層. ③SK34. ④SK94. ⑤柱穴.
SK37	楕円形	L6	N-36°-E	94	78	60	15c	①12(4). ②Ⅲb層. ④SK94上. ⑤柱穴.
SK38	楕円形	L5	N-0°	54	35	22	—	①6. ②Ⅲ層. ⑤柱穴.
SK39	楕円形	L・6-7	N-74°-E	300	130	88	11c頃	①43(1). ②Ⅲb層. ③SD2/SK63. ④SK94. ⑤SD13の一部.
SK40	円形	L・3-4	N-52°-E	89	73	100	近世	①14. ②Ⅲb層. ④SK96. ⑤柱穴.
SK41	円形	L4	N-4°-E	76	72	16	—	①13. ②Ⅲb層. ④SK54.
SK42	楕円形	L3	N-7°-W	104	73	13	—	①0. ②Ⅲb層.
SK43	楕円形	L・2-3	N-87°-W	78	72	10	—	①5. ②Ⅲ層. ⑤柱穴.
SK44	溝状	K3	N-45°-W	127	80	16	古代カ	①1(1). ②Ⅲb層.
SK45	楕円形	J・2-3	N-32°-W	(280)	202	16	17c	①55(13). ②盛土層. ⑤廃棄坑.
SK48	円形	M2	—	72	—	14	近世	①11(1). ②盛土層. ⑤柱穴.
SK49	隅丸方形	J・3-4	N-11°-E	225	183	20	17c	①33(4). ②Ⅱ層. ⑤廃棄坑.
SK50	隅丸方形	J4	N-14°-W	265	248	30	17c	①178(27). ②Ⅱ層. ⑤廃棄坑.
SK51	隅丸方形	K5	—	96	95	18	17c	①13(3). ②Ⅲb層. ④SD2/SD12上/SK52.
SK52	楕円形	K6	N-88°-E	93	66	91	—	①4. ②Ⅲ層. ③SK51. ④SD2. ⑤柱穴.
SK53	楕円形	K3	N-83°-E	113	73	23	—	①3. ②Ⅲ層. ④SD2上.
SK54	円形	L4	—	237	232	64	中世カ	①32(1). ②Ⅲb層. ③SK41. ④SD12/SK96.
SK55	楕円形	LM・4	N-81°-E	310	212	27	中世	①17. ②Ⅲb層. ④SD12上.
SK56	円形	JK・5	—	124	116	55	中世カ	①9. ②Ⅲb層.
SK57	長方形	J5	N-50°-W	171	125	93	—	①15. ②Ⅲb層. ⑤柱穴.
SK58	隅丸長方形	KL・7-8	N-18°-W	257	159	90	17c	①249(23). ②Ⅲb層. ④SD2/SK63. ⑤廃棄坑.
SK59	楕円形	J6	N-7°-W	89	71	50	11~12c	①26(4). ②Ⅲb・c層. ⑤柱穴.
SK63	不整楕円形	KL・7-8	N-84°-E	577	309	60	中世	①165(8). ②Ⅲb層. ③SK58/SK65. ④SD2/SK39. ⑤大型土坑.
SK64	隅丸長方形	L7	N-42°-E	90	54	11	近世	①11(4). ②Ⅲb層.
SK65	円形	L・7-8	—	105	—	33	中世	①20(4). ②Ⅲb層. ④SK63.
SK66	円形	JK・7	—	362	324	59	中世	①253(7). ②Ⅲb層. ③SK100. ④SD13.
SK68	楕円形	L7	N-6°-W	80	64	20	—	①0. ②Ⅲb層. ⑤柱穴.
SK69	楕円形	MN・6-7	N-70°-E	450	280	68	中世	①16(3). ②Ⅲb層. ③SK28/SK30. ④SK95.
SK70	楕円形	J8	N-67°-W	(70)	57	20	11c頃	①5(1). ②Ⅲb・c層. ③SD13.
SK74	円形	M8	—	102	100	15	—	①5. ②Ⅲb層. ④SX4.
SK75	楕円形	KL・8-9	N-62°-E	300	250	48	15c末~16c初	①55(2). ②Ⅲb層. ③SX4/SX5/SK76/SK88/SK104. ④SD6/SD7/SD8.
SK76	楕円形	KL・9	N-75°-E	95	60	39	—	①9. ②Ⅲb層. ④SX4/SK75.
SK78	楕円形	M9	N-20°-W	103	73	57	16cカ	①8(2). ②Ⅲb層. ④SX4.
SK79	楕円形	L10	N-62°-E	85	53	10	近世	①8(1). ②ⅢF層. ④SK123/L10-P9.
SK80	楕円形	JK・10	N-15°-W	142	124	14	11c頃カ	①19. ②Ⅲb層. ④SK124上.
SK81	卵形	K・10-11	N-66°-E	174	140	14	中世	①36(2). ②Ⅲb層. ④SK124上.
SK82	楕円形	M・10-11	—	240?	(100)	60	近世	①46(3). ②ⅢF層. ③SX3. ④SX5.
SK83	円形	L10	—	85	—	18	近世	①21(6). ②ⅢF層. ③SD10. ④SX5/SK84.
SK84	正方形	L10	—	(100)	93?	7	近世	①22. ②ⅢF層. ③SD10/SK83. ④SX5.
SK87	楕円形	L9	N-55°-W	75	64	33	—	①3. ②Ⅲ層. ④SX4. ⑤柱穴.
SK88	円形	K9	—	97	—	33	中世	①11(2). ②Ⅲb層. ④SD8/SK75. ⑤柱穴.
SK89	楕円形	K3	N-46°-W	(150)	(55)	30?	中世	①2. ②Ⅲ層. ③SE12.
SK90	楕円形	K10	N-69°-E	127	52	23	—	①5. ②Ⅲ層. ④SD9.
SK91	楕円形	L10	N-88°-W	(60)	59	13	近世	①1. ②ⅢF層. ③SD10. ④SX5.

\*埋葬遺構(SK153・155・183・234・237・282)を除く.\*\*遺構番号下線は本文中に詳述なし。\*\*\*()数値は残存値。\*\*\*\*③④の「~」は③④に列記した遺構番号。

番号	平面形態	位置	軸方向	長さ(%)	幅(%)	深さ(%)	時期	①遺物数(掲載点数) ②確認面 ③~に切られる ④~を切る ⑤その他
SK92	卵形	L・10-11	N-71°-E	111	70	13	近世	①21. ②ⅢF層. ④SK93.
SK93	楕円形	L11	N-18°-W	66?	(30)	10	近世	①3. ②ⅢF層. ③SK92.
SK94	溝状	L・5-6	N-78°-W	(535)	200	55	古代	①33(1). ②Ⅲb層. ③SD2/SK34/SK36/SK37/SK39. ⑤一部SD13.
SK95	楕円形	M・7-8	N-71°-E	261	182	47	中世	①5. ②Ⅲb層. ③SK69.
SK96	楕円形	L・4-5	N-77°-W	(200)	174	44	中世	①10. ②Ⅲb層. ③SK40/SK54. ④SD12/SK98.
SK98	楕円形	L5	N-5°-W	209	132	42	中世	①10(1). ②Ⅲb層. ③SK35/SK96. ④SD12.
SK99	楕円形	I6	N-31°-W	86	49	16	—	①16. ②Ⅲb層. ⑤柱穴.
SK100	楕円形	IJ・6-7	N-50°-W	333	270	48	16c	①123(9). ②Ⅲb層. ④SD12/SK66.
SK101	円形	L・10-11	—	75	—	17	近世カ	①3(1). ②ⅢF層. ④SK123上. ⑤柱穴.
SK102	隅丸方形	J6	N-82°-E	229	188	31	17cカ	①90(8). ②Ⅲb層. ③SK105.
SK104	楕円形	LM・9	N-73°-E	88	66	27	—	①0. ②Ⅲ層. ④SX4/SX5/SK75.
SK105	方形	I6	N-88°-E	188	144	12	17c	①54(6). ②Ⅲb層. ④SK102.
SK106	楕円形	J・5-6	N-85°-W	105	84	52	近世	①20(3). ②Ⅲb層. ⑤柱穴.
SK107	隅丸長方形	I・7-8	N-84°-W	(200)	125	55	—	①14. ②Ⅲb層上面. ④SK108.
SK108	円形	IJ・8-9	N-33°-W	388	—	106	16c	①160(11). ②Ⅲb層上面. ③SK107. ④SD6/SD7/SD13.
SK109	楕円形	H・9-10	N-9°-W	84	58	56	中世	①21. ②Ⅲb層上面. ④SD9. ⑤柱穴.
SK110	長方形カ	L・3-4	N-46°-E	(220)	(100)	50	中世	①1. ②Ⅲ層. ③SD2/SK42.
SK111	楕円形	I6	N-30°-E	103	62	23	—	①2. ②Ⅲ層.
SK112	円形	I7	—	186	(160)	34	—	①5. ②Ⅲ層.
SK113	不整円形	J5	N-77°-E	108	89	16	—	①14. ②Ⅲ層.
SK114	不整形	HI・5-6	N-9°-W	415	227	35	古代	①20(1). ②Ⅲb・c層. ③SK111.
SK116	不整形	F・H・8-9	—	900	(480)	62	中世	①192(11). ②Ⅲb層. ③SD6/SD7/SD8/SK139. ④SD12上/SX11.
SK117	不整円形	H7	N-0°	100	98	33	—	①6. ②Ⅲ層. ⑤柱穴.
SK118	円形	M6	—	123	117	30	—	①0. ②Ⅲ層.
SK119	楕円形	LM・6-7	N-49°-W	82	55	36	—	①0. ②Ⅲ層. ③SD5.
SK120	円形	L・7-8	N-26°-E	89	—	59	中世前	①10(1). ②Ⅲb層. ⑤柱穴.
SK121	不整楕円形	M・3-4	N-76°-E	223	162	42	—	①0. ②Ⅲ層. ④SD12上.
SK123	不整楕円形カ	L・10-11	N-83°-Eカ	(200)	200?	38	中世	①13. ②Ⅲb層. ③SX5/SK79/SK101. ④SD2.
SK124	不整楕円形カ	JK・10	N-68°-Eカ	(130)	165?	40	古代	①0. ②Ⅲb層. ③SK80/SK81上.
SK127	隅丸長方形カ	FG・6	N-76°-Eカ	370	210	35	17c	①136(15). ②盛土層. ③SK159. ④SK151/SK202/SK207/SK229. ⑤廃棄坑.
SK128	隅丸長方形	DE・9-10	N-16°-W	118	100	38	近世	①53(3). ②盛土層. ④SK184上.
SK129	細長方形	D・6-7	N-81°-E	396	150	31	18c	①106(18). ②盛土層. ④SK214/SK215/SK271. ⑤廃棄坑.
SK130	不整形	E・7-8	—	121	105	19	近世	①11. ②盛土層. ⑤柱穴.
SK131	隅丸長方形	C7	N-54°-E	156	81	20	近世	①8(1). ②盛土層. ④SD15.
SK132	楕円形	C8	N-23°-E	(100)	108	15	近世	①0. ②盛土層. ④SD24上/SK134.
SK133	不整長方形	F8	N-40°-E	383	255	45	中世	①73(2). ②盛土層. ③SK155/SX12. ④SD6/SD7/SK177/SK179/SK190.
SK134	楕円形	C8	N-36°-W	185	162	32	近世	①5. ②盛土層. ③SK132. ④SD8上/SD24上.
SK135	隅丸長方形	EF・8	N-52°-W	174	96	40	近世	①63(5). ②Ⅱ層下. ④SK136.
SK136	隅丸長方形	E8	N-88°-W	(140)	137	42	近世	①65(3). ②Ⅱ層下. ③SK135. ④SK188.
SK137	隅丸方形	E8	N-5°-W	94	82	40	近世	①21(2). ②Ⅱ層下. ④SK209. ⑤柱穴.
SK138	楕円形	F7	N-76°-Eカ	146?	(55)	17	近世	①20(3). ②盛土層. ④SX10.
SK139	不整形	G8	N-76°-E	183	153	94	18c	①686(59). ②盛土層. ④SD6/SD7/SK116. ⑤廃棄坑.
SK140	円形	E6	—	86	—	29	近世	①15(1). ②盛土層. ④SK192.
SK141	不整形	C4	N-12°-W	119	104	33	近世	①104(6). ②盛土層. ④SD14/SK152. ⑤廃棄坑.
SK142	隅丸長方形	E5	N-8°-W	217	157	28	18c	①42(1). ②盛土層. ④SD18/SK232.

\*埋葬遺構(SK153・155・183・234・237・282)を除く.\*\*遺構番号下線は本文中に詳述なし.\*\*\*()数値は残存値.\*\*\*\*③④の「~」は③④に列記した遺構番号.

番号	平面形態	位置	軸方向	長さ(%)	幅(%)	深さ(%)	時期	①遺物数(掲載点数) ②確認面 ③~に切られる ④~を切る ⑤その他
SK143	楕円形	F6	N-33°-W	159	85	38	17c	①37(4). ②盛土層. ④SK192/SK202/SK230.
SK144	楕円形	C7	N-64°-E	90	69	28	近世	①2. ②盛土層. ③SD15. ④SD14.
SK145	不整形	E5	N-48°-E	89	80	14	近世	①0. ②盛土層.
SK148	隅丸長方形	C4	N-77°-E	123	92	16	17c	①18(3). ②盛土層. ④SD14.
SK149	不整形	G6	—	152	140	39	近世	①212(21). ②II層. ③SK160. ⑤廃棄坑.
SK150	隅丸長方形	G6	N-21°-W	228	134	28	近世	①79(5). ②II層.
SK151	隅丸長方形	G6	N-40°-W	(220)	(140)	35	近世	①710(7). ②II層. ③SK127. ⑤廃棄坑.
SK152	楕円形	C4	N-57°-W	151	94	32	近世	①15. ②盛土層. ③SK141. ④SD14.
SK154	隅丸長方形	D・4.5	N-21°-W	400	314	85	17c	①612(32). ②盛土層. ③SE5/SE6/SE14/SK285/SK288. ⑤廃棄坑.
SK157	円形	F4	—	148	—	35	17c	①44(9). ②盛土層.
SK158	楕円形	G4	N-29°-E	152	115	55	17c	①24(2). ②盛土層. ④SK162/SK167.
SK159	細長方形	F・5.6	N-51°-W	(225)	130	49	18c	①189(19). ②II層下. ④SK127/SK202/SK286. ⑤廃棄坑.
SK160	長方形	H6	N-53°-E	140	104	28	—	①0. ②盛土層. ④SK149.
SK161	不整形	G3	N-79°-E	152	107	29	近世	①36. ②盛土層.
SK162	楕円形	G4	N-15°-E	540	(155)	54	17c	①119(9). ②II層. ③SK158. ④SK167/SK253.
SK164	長方形	D3	N-76°-E	(190)	113	38	近世	①20. ②盛土層. ④SK231.
SK165	不整形楕円形	G4	N-84°-E	145	90	51	近世	①14(3). ②盛土層. ④SK167.
SK166	不整形	E・2.3	不明	160	150	49	18cカ	①212. ②II層下. ④SK172/SK234/SK237/SK247/SK269. ⑤瓦敷.
SK167	長楕円形	G4	N-15°-W	(330)	170	26	17c	①150(4). ②盛土層. ③SK158/SK162/SK165. ④SK253.
SK168	隅丸長方形	F2	N-82°-W	200	103	17	近世	①60(2). ②盛土層. ③SK169. ④SK251上/SK277/SK280上.
SK169	円形	F2	N-7°-W	100	—	18	近世	①16. ②盛土層. ④SK168/SK238上/SK280上.
SK171	不整形	GH・2.3	不明	370	350	36	17c	①220(5). ②盛土層. ③SK173.
SK172	隅丸長方形	E3	N-77°-W	(240)	200	31	17c	①153(4). ②盛土層. ③SK166. ④SK247/SK269/SK276. ⑤廃棄坑.
SK173	楕円形	G3	N-61°-W	(250)	177	31	19c	①90(9). ②盛土層. ④SK171.
SK174	円形	E2	—	200	200?	18	近世	①13. ②盛土層. ④SK247/SK248上/SK249上/SK269上/SK276上.
SK175	不整形	GH・3	N-80°-W	(250)	200	17	17c	①201(39). ②II層. ⑤土器坏皿一括廃棄坑.
SK177	舟形	F9	N-80°-E	126	47	20	—	①7. ②III b層. ③SK133. ④SK179.
SK178	不整形楕円形	G7	N-59°-E	258	145	37	中世	①0. ②III b層. ③SX11.
SK179	不整形楕円形	F9	N-86°-E	287	186	24	中世	①4. ②III b層. ③SD17/SK133. ④SK180/SK182.
SK180	不整形楕円形	G9	N-44°-E	(200)	195?	33	中世	①2. ②III b層. ③SD8. ④SD7.
SK181	円形	E8	—	110	(100)	36	中世	①0. ②III b層. ③SD18. ④SK185/SK209. ⑤柱穴.
SK182	不整形楕円形	EF・8.9	N-1°-E	(250)	190	28	古代	①6(1). ②III b層. ③SD8/SD17/SK133/SK179/SK189. ④SK190/SK208.
SK184	楕円形	DE・10	N-48°-W	240	217	23	古代	①8. ②III b・c層. ③SK128/SK153/SK187. ④SK210/SK246.
SK185	楕円形	E・8.9	N-11°-W	(150)	138	26	古代	①4. ②III b・c層. ③SD18/SK181. ④SK208/SK209.
SK186	楕円形	C9	N-60°-E	190?	158	33	古代	①10. ②III b・c層. ③SD17/SK199/SK204. ④SD22.
SK187	楕円形	D10	N-42°-W	153	(80)	29	古代	①17(1). ②III b・c層. ③SD16/SK153/D10-P26. ④SK184.
SK188	不整形楕円形	E8	N-16°-W	(200)	153	40	古代カ	①10. ②III b・c層. ③SD18/SK136. ④SK209.
SK189	楕円形	E8	N-16°-E	98	71	29	古代カ	①4. ②III b・c層. ④SK182/SK208.
SK190	隅丸長方形	F8	N-9°-E	146	107	32	古代カ	①1. ②III b・c層. ③SK133/SK135/SK179/SK182.
SK191	楕円形	E6	N-12°-W	186	93	26	古代カ	①4(1). ②III b層. ③SD18/SK192.
SK192	隅丸長方形	EF・5.6	N-17°-W	(260)	194	35	古代	①17(2). ②III b層. ③SD18/SK140/SK143. ④SK191/SK230.
SK193	方形	F7	—	100	100?	23	中世カ	①0. ②III b層. ③SX10. ④SK226.
SK196	円形	D10	—	100	92	27	中世カ	①3. ②III b・c層. ④SK198. ⑤弥生土器のみ.
SK197	不整形	C10	不明	133	115	22	中世	①6. ②III b・c層. ③SD14上. ④SD22/SX8.
SK198	楕円形	D10	N-80°-E	(160)	111	26	中世カ	①5. ②III b層. ③SK196. ④SK245/SK275.

\*埋葬遺構(SK153・155・183・234・237・282)を除く.\*\*遺構番号下線は本文中に詳述なし。\*\*\*()数値は残存値。\*\*\*\*③④の「~」は③④に列記した遺構番号。

番号	平面形態	位置	軸方向	長さ(㊦)	幅(㊦)	深さ(㊦)	時期	①遺物数(掲載点数) ②確認面 ③~に切られる ④~を切る ⑤その他
SK199	不整形	D10	N-5°-W	106	87	24	中世カ	①5. ②Ⅲb層. ④SK186.
SK200	楕円形	C10	N-78°-E	(130)	100	30	—	①0. ②Ⅲb層.
SK201	楕円形	F6	N-58°-W	100?	68	29	古代	①2. ②Ⅲb・c層. ④SK202.
SK202	不整長方形	F6	N-79°-E	(260)	210	35	古代	①22(1). ②Ⅲb層. ③SK127/SK143/SK201/SK207.
SK203	楕円形	G7	N-74°-W	97	64	46	中世	①0. ②Ⅲb層. ③SX10.
SK204	楕円形カ	D9	N-53°-W	(85)	(35)	22	中世	①9. ②Ⅲb層. ③SK153. ④SK186.
SK205	楕円形	DE・5-6	N-41°-E	267	153	25	中世	①4. ②Ⅲb層. ③SK206. ④SK235.
SK206	楕円形	D5	N-81°-E	108	82	21	中世カ	①4. ②Ⅲb層. ④SK205/SK217/SK235.
SK207	不明	F6	—	(110)	(60)	25	中世	①2. ②Ⅲb層. ③SX10/SK127. ④SK202.
SK208	楕円形	E9	N-50°-W	145	121	28	中世	①6. ②Ⅲb層. ③SD17/SK182/SK185/SK189. ④SD23/SK209.
SK209	不整楕円形	E8	N-36°-W	189	146	16	中世	①5. ②Ⅲb層. ③SK137/SK181/SK185/SK188.
SK210	溝状	DE・10	N-73°-E	(240)	147	31	古代	①6. ②Ⅲb層. ③SK184. ④SR4.
SK212	不整円形	C10	N-45°-W	106	82	30	古代	①1. ②Ⅲb・c層. ③SD22.
SK213	楕円形	D6	N-33°-E	120	90	34	中世カ	①3. ②Ⅲb層. ③SK205. ④SK214/SK271.
SK214	楕円形	D6	N-80°-W	98	85	45	中世カ	①1. ②Ⅲb層. ③SK129/SK213/SK271. ④SK215. ⑤柱穴.
SK215	楕円形	D6	N-56°-E	106	75	24	中世カ	①3. ②Ⅲb層. ③SK129/SK214.
SK216	不整楕円形	G・6-7	N-38°-E	100カ	77	22	中世	①3. ②Ⅲb層. ③SX10.
SK217	不整形	D5	—	(200)	(130)	30	古代	①11(1). ②Ⅲb層. ③SK154/SK206. ④SK235.
SK218	不整形	D5	—	(150)	(140)	12	中世カ	①4. ②Ⅲb層. ③SK154/SK217. ④SK235.
SK219	不整長楕円形	C8	N-12°-E	265	(85)	19	中世カ	①8. ②Ⅲb層. ③SD24/SK134/SK221. ④SK220.
SK220	楕円形	C8	N-47°-W	(85)	87	10	中世カ	①1. ②Ⅲb層. ③SE2/SK219/SK222.
SK221	楕円形	C8	N-87°-W	(100)	74	16	古代	①1. ②Ⅲb層. ③SD24/SE2/C8-P9. ④SK219.
SK222	楕円形カ	C8	N-39°-E	(45)	63	21	中世	①0. ②Ⅲb層. ③SE2. ④SK220.
SK224	不整形	E4	N-86°-E	(160)	120	36	—	①0. ②Ⅲb層. ③SE8.
SK226	長楕円形	F7	N-12°-W	200	95?	25	中世	①0. ②Ⅲb層. ③SX10/SK193. ④SK233.
SK227	不整楕円形	C3	N-30°-W	164	104	32	中世	①10. ②Ⅲb層. ③SD14. ④SK228.
SK228	楕円形	C3	N-11°-W	147	93	24	—	①7. ②Ⅲb層. ③SD14/SK227.
SK229	円形	G6	—	130	(65)	19	—	①0. ②Ⅲb層. ③SK127/SK151. ⑤柱穴.
SK230	楕円形	F6	N-73°-E	(120)	93	31	古代カ	①0. ②Ⅲb・c層. ③SK143/SK192.
SK231	不整楕円形	D3	N-78°-E	176	123	54	中世	①8. ②Ⅲb層. ③SK164/SK282. ④SK263/SK265.
SK232	不整形	E5	N-27°-E	(240)	(160)	39	古代カ	①2. ②Ⅲb層. ③SD18/SE8/SK142.
SK233	楕円形	E7	N-58°-W	275	200	31	中世カ	①0. ②Ⅲb層. ③SK226.
SK235	楕円形	D5	N-72°-E	248	200	53	古代	①10(1). ②Ⅲb層. ③SK205/SK206/SK217. ④SK283.
SK238	楕円形	G2	N-90°	134	92	17	古代カ	①23. ②Ⅲb・c層. ③SK169. ④SK280.
SK239	長楕円形	C8	N-79°-E	200	99	32	—	①0. ②Ⅲb層. ③SD14. ⑤柱穴.
SK240	隅丸長方形	D2	N-84°-E	184	105	20	古代	①75(5). ②Ⅲb・c層. ④SK269/SK270.
SK241	長楕円形	D2	N-89°-E	178	77	30	中世	①35. ②Ⅲc層. ④SK262/SK268.
SK242	円形	B10	—	128	(70)	33	古代	①0. ②IV層. ③SD14上.
SK243	不整形	C10	N-64°-E	175	145	26	中世カ	①3(1). ②IV層. ③SD22.
SK244	隅丸方形	C10	—	115	93	29	古代カ	①0. ②IV層. ③SK200. ④SK245.
SK245	長方形	C10	N-82°-E	143	121	26	古代カ	①2. ②IV層. ③SK198/SK244. ④SK275.
SK246	楕円形	E9	N-33°-E	173	117	40	古代カ	①1. ②IV層. ③SD8/SK128/SK184.
SK247	長方形	E3	N-67°-W	(160)	134	38	中世	①17. ②Ⅲb・c層. ③SK166/SK172/SK174/SK234. ④SK269/SK276.
SK248	楕円形	E2	N-63°-W	119	80	24	—	①7. ②Ⅲb層. ③SK174上. ④SK249/SK281.
SK249	円形	E2	—	125	115	23	中世カ	①3. ②Ⅲb層. ③SK174上/SK248.

\*埋葬遺構(SK153・155・183・234・237・282)を除く.\* 遺構番号下線は本文中に詳述なし。\*\*\*()数値は残存値。\*\*\*\*③④の「~」は③④に列記した遺構番号。

番号	平面形態	位置	軸方向	長さ(%)	幅(%)	深さ(%)	時期	①遺物数(掲載点数) ②確認面 ③~に切られる ④~を切る ⑤その他
SK251	長楕円形	FG・2-3	N-1°-W	247	107	59	中世カ	①3. ②IV層. ③SK168上. ④SK273/SK277.
SK253	楕円形	G4	N-42°-W	103	77	20	古代	①13. ②IV層. ③SK167.
SK255	円形	C・2-3	—	116	—	53	古代カ	①0. ②III c層. ④SK259/SK260.
SK256	隅丸方形	D4	N-68°-E	90	74	30	近世カ	①2. ②III c層. ④C4-P13.
SK257	隅丸方形	D4	N-67°-E	76	49	23	中世カ	①2(1). ②III c層. ③SK285. ⑤柱穴.
SK258	長楕円形	C4	N-61°-E	234	147	25	中世	①17(1). ②III c層. ③SK141/SK278/SK288.
SK259	—	C2	—	(80)	(60)	34	古代カ	①0. ②III c層. ③SK255/C2-P4~8.
SK260	楕円形	C3	N-30°-E	180	(110)	45	古代	①6. ②III c層. ③SD14/SK255.
SK262	不整長方形	CD・2-3	N-72°-E	(230)	166	32	古代カ	①11. ②III c層. ③SK241/SK263. ④SK265.
SK263	不明	D3	N-25°-W	(200)	(130)	32	中世	①3. ②III c層. ③SK231. ④SK262/SK265.
SK264	円形	D3	—	(60)	—	36	中世カ	①0. ②III c層. ③SK282/D3-P15. ④SK265/SK269.
SK265	—	D3	—	(100)	(160)	20	中世カ	①0. ②III c層. ③SK231/SK263/SK264/SK282. ④SK266.
SK266	隅丸長方形	D3	N-86°-E	128	93	15	中世	①1. ②III c層. ③SK265. ④SK268. ⑤柱穴.
SK268	隅丸長方形	D2	N-78°-E	(120)	120	18	中世	①9(3). ②III c層. ③SK240/SK241/SK266/SK269.
SK269	不整形	D・2-3	—	380	300	28	中世カ	①2. ②III c層. ③SK166上/SK172上/SK234/SK237/SK240/SK247/SK276/SK282. ④SK268/SK270.
SK270	不明	D2	N-50°-W	(190)	(80)	32	古代カ	①7. ②III c層. ③SK234/SK240/SK269.
SK271	楕円形	D6	N-77°-E	117	89	55	中世カ	①7. ②III b層. ③SK129/SK213. ④SK214.
SK273	円形	F2	—	87	—	43	中世カ	①0. ②IV層. ③SK251/F2-P6/F3-P10. ⑤柱穴.
SK275	不整円形	D10	—	76	64	35	古代カ	①0. ②IV層. ③SK198/SK245. ⑤柱穴.
SK276	不明	E・2-3	N-71°-W	(180)	120	37	中世	①2. ②III c層. ③SK174上/SK247. ④SK269/SK281.
SK277	隅丸方形	G・2-3	—	128	110	48	中世カ	①0. ②IV層. ③SK168/SK251. ④SK280.
SK278	隅丸方形	C・3-4	—	(90)	116	26	中世	①6. ②III c層. ③SD14. ④SK258.
SK280	隅丸長方形	F2	N-61°-W	(230)	106	39	古代カ	①0. ②III c層. ③SK168上/SK169上/SK238/SK251.
SK281	溝状	E2	N-10°-W	(100)	69	36	古代カ	①8. ②III c層. ③SK248/SK276.
SK283	楕円形	D5	N-5°-W	(120)	85	44	古代カ	①5. ②IV層. ③SK235. ⑤柱穴.
SK284	舟形	K6	N-86°-E	124	76	50	古代	①31. ②III b層. ③SK62. ⑤柱穴.
SK285	不整長方形	D4	N-70°-E	232	156	34	19c	①1377(34). ②II層. ④SK154/SK231/SK257. ⑤土器皿一括廃棄坑.
SK286	不整形	F6	N-50°-W	205	(130)	42	17c末	①66(1). ②III b層. ③SK159. ④SK127. ⑤廃棄坑.
SK287	長方形	O10	N-71°-E	219	70	30	20c中	①74(10). ②II層. ④SX3. ⑤戦災処理遺構.
SK288	隅丸方形	C4	N-14°-W	198	193	35	19c	①752(16). ②II層. ④SK154/SK258. ⑤廃棄坑.
SK289	不整形	D6	N-83°-E	182	108	18	17c	①66(7). ②II層.

\*埋葬遺構(SK153・155・183・234・237・282)を除く.\*\*遺構番号下線は本文中に詳述なし。\*\*\*()数値は残存値。\*\*\*\*③④の「~」は③④に列記した遺構番号。

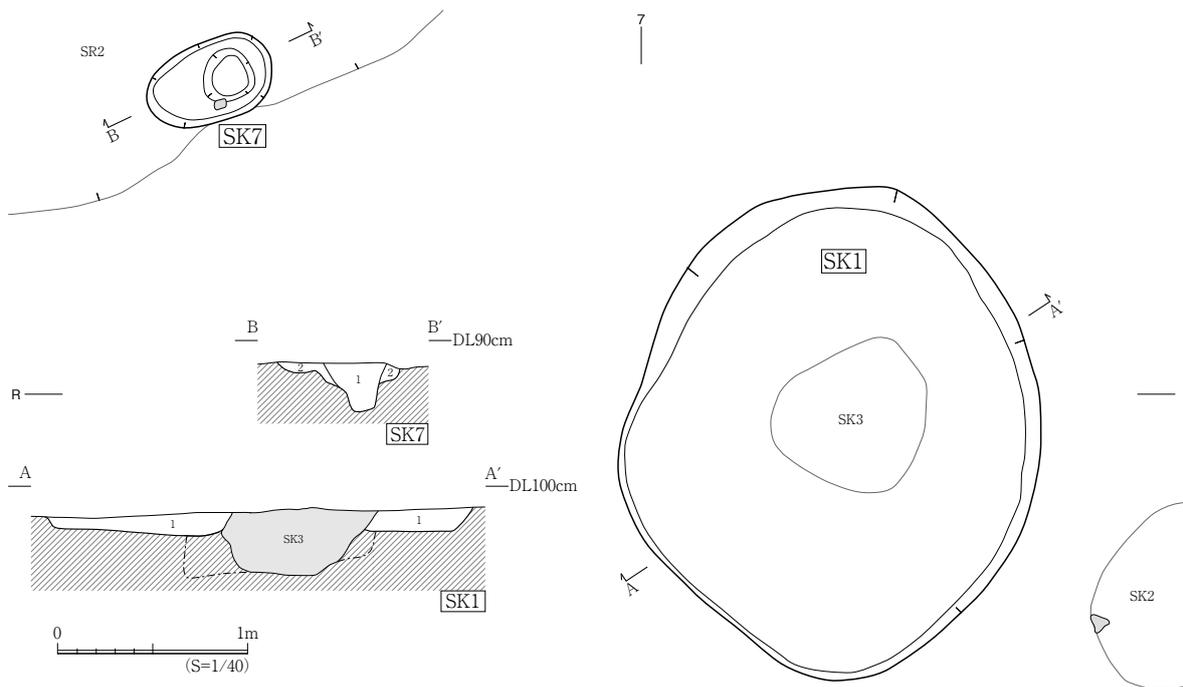
**SK1** (近世の土坑) (遺構:第82図<sub>[124]</sub>・PI.52<sub>[398]</sub>, 遺物:第84図<sub>[125]</sub>・PI.132<sub>[478]</sub>)

**位置・調査経過** QR・7グリッドに位置する。盛土層範囲外のⅢa・b層で確認した。SK3に切られる。  
**形状・規模** 平面形は不整円形で皿形の掘方をもつ。上面は260×222cm大、深さ14cmである。  
**覆土** 北東軸で覆土断面を観察した(第82図A-A')。暗褐色土の単層で山土粒・礫を含む。  
**出土遺物** 14点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点、染付1点、陶器5点、炆器1点、白色土器1点、土器5点である。いずれも覆土一括で収拾した。

図示した3点(762~764<sub>[125]</sub>)は、762が肥前の青磁・皿で17世紀後半以降の製品である。763は肥前とみられる陶器・壺である。<sup>[観323]</sup>764は土器・皿で古代の製品とみられる。

**時期** 近世。出土遺物には混入がある。最も新しいのは近世の製品である。

**性格** 土坑。



第82図 SK1・SK7平面図・断面図

**SK4**〈近世の柱穴か〉(遺構:第83図・PI.52<sup>[398]</sup>, 遺物:第84図・PI.132<sup>[478]</sup>)

**位置・調査経過** Q8グリッドに位置する。盛土層の範囲外にありⅢa・b層で確認した。SK5に切られる。  
**形状・規模** 南北方向(N-2°-W)に長い楕円形の土坑でボウル形の掘方をもつ。長さ85cm, 幅62cm, 深さ27cmである。

**覆土** 東西方向で覆土断面を観察した(第83図A-A')。褐灰色シルトの単層で小石を多量に含む。

**出土遺物** 2点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付1点, 土器1点である。覆土一括で収拾した。

図示した1点(765)は肥前の染付・小坏で近世の製品である。

**時期** 近世。出土遺物は近世の製品である。

**性格** 柱穴か。

**SK5**〈19世紀の柱穴〉(遺構:第83図・PI.52<sup>[398]</sup>, 遺物:第84図・PI.132<sup>[478]</sup>)

**位置・調査経過** Q9グリッドに位置する。Ⅲa・b層で確認した。SK4を切り, SK6に切られる。

**形状・規模** 南北方向(N-6°-E)に長い楕円形の土坑でボウル形の掘方のもつ。長さ59cm, 幅33cm, 深さ30cmである。

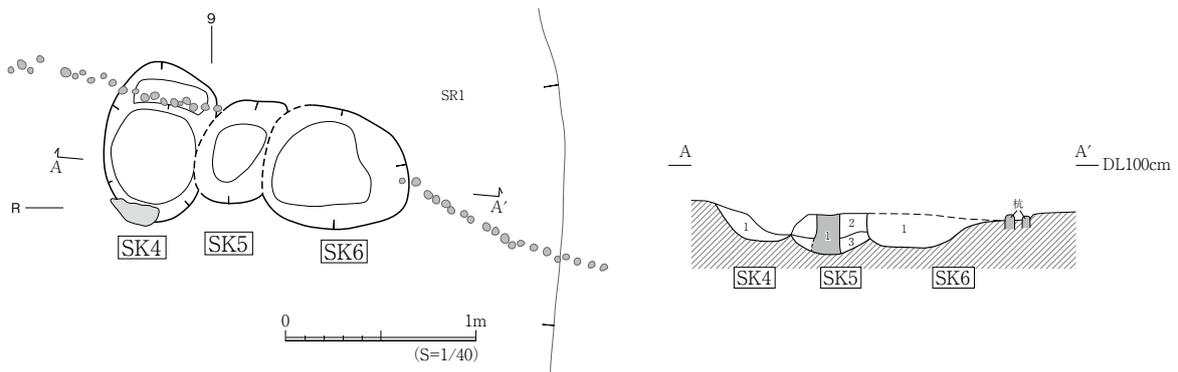
**覆土** 東西方向で覆土断面を観察した(第83図A-A')。3層に分かれる。柱痕を確認した。1層は柱痕である。2層は灰黄褐色土層で小石を含む。3層は黄灰色砂質土層で礫を含む。

**出土遺物** 6点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付4点, 陶器2点である。覆土一括で収拾した。

図示した3点(766~768)は, 766が瀬戸の染付・広東碗蓋で19世紀の製品である。767は染付・碗で19世紀の製品である。768は肥前産とみられる陶器・丸碗である。

**時期** 19世紀。出土遺物は19世紀の製品である。

**性格** 柱穴。



第83図 SK4・SK5・SK6平面図・断面図

**SK6**〈19世紀の柱穴か〉(遺構:第83図・PI.52<sup>[398]</sup>, 遺物:第84図・PI.132<sup>[478]</sup>)

**位置・調査経過** QR・9グリッドに位置する。盛土層の範囲外にありⅢa・b層で確認した。SK5を切る。  
**形状・規模** 東西方向(N-82°-W)に長い不整長方形の土坑で、垂直に近い角度で掘削され底は水平に均される。長さ86cm, 幅64cm, 深さ30cmである。

**覆土** 東西方向の覆土断面を観察した(第83図A-A')。灰黄褐色シルトの単層である。

**出土遺物** 7点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付3点, 陶器4点である。覆土一括で収拾した。

図示した2点(769・770)は, 769が肥前波佐見の染付・厚手碗で18世紀の製品である。770は肥前の染付・餌猪口である。<sup>[観323]</sup>

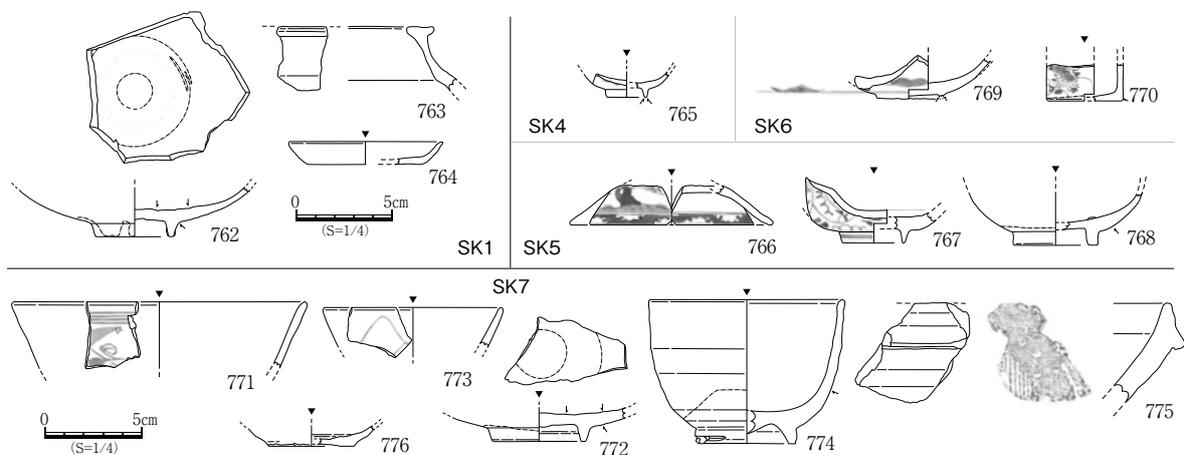
**時期** 19世紀。19世紀のSK5を切る。出土遺物は近世の製品である。

**性格** 柱穴か。

**SK7**〈18世紀の柱穴〉(遺構:第82図・PI.52<sup>[398]</sup>, 遺物:第84図・PI.132<sup>[478]</sup>)

**位置・調査経過** Q6グリッドに位置する。盛土層の範囲外にありⅢa・b層で確認した。SR2を切る。  
**形状・規模** 北東-南西方向(N-52°-E)に長い隅丸長方形の土坑で、浅い掘り込みの北東寄り部分に柱穴部分を掘り下げる。長さ71cm, 幅43cm, 深さ26cmである。

**覆土** 長軸方向の覆土断面を観察した(第82図B-B')。2層に分かれる。柱痕を確認した。1層は鈍い黄褐色土層で炭化物・焼土・小石を含む。柱痕とみられる。2層は褐灰色土層で小石を含む。



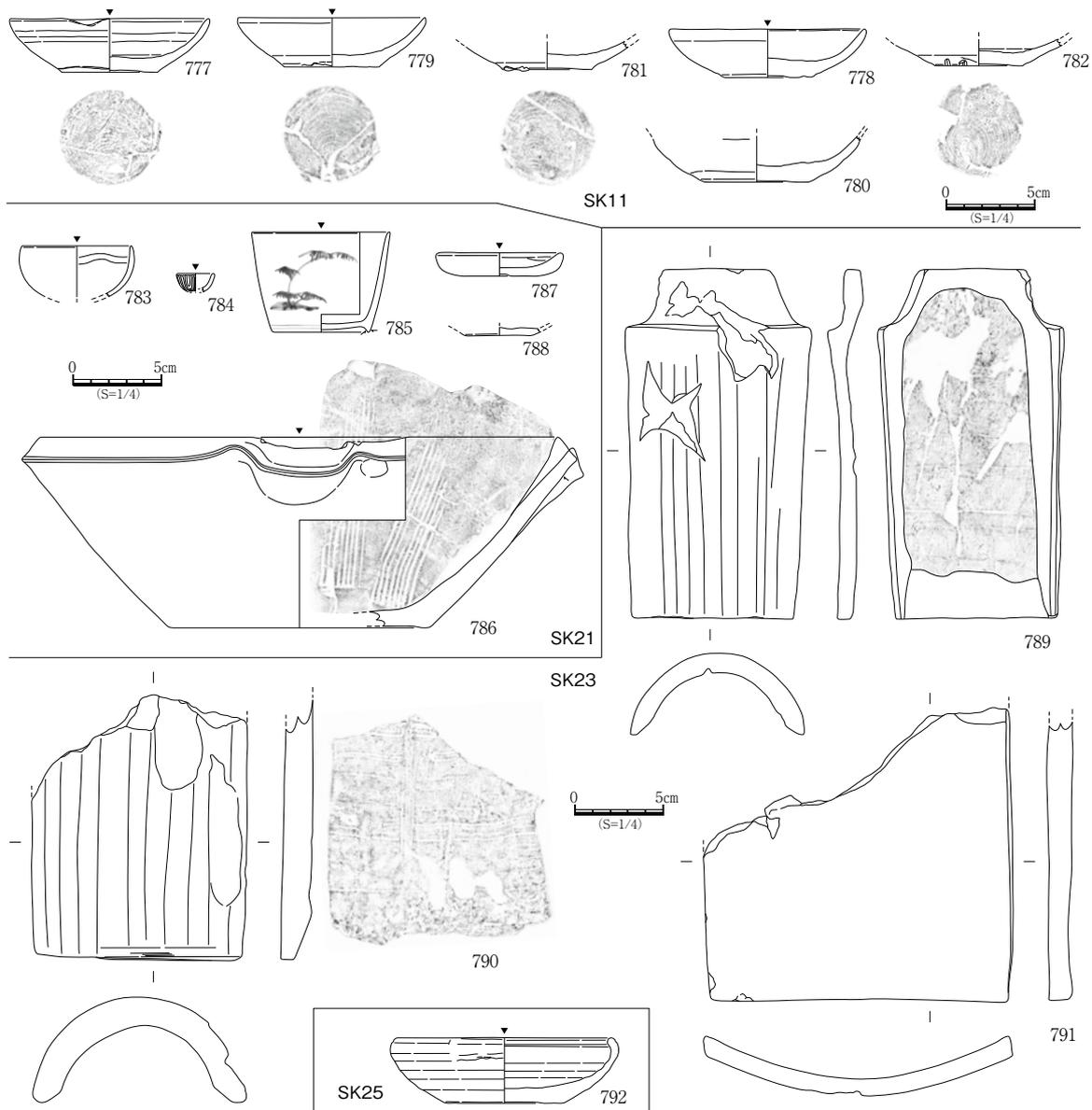
第84図 SK1・SK4・SK5・SK6・SK7出土遺物

出土遺物 21点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁2点、白磁3点、染付2点、磁器1点、陶器1点、  
 炆器1点、須恵器1点、土器3点、瓦7点である。遺構周辺に散る遺物もSK7に含めて収拾した。周囲  
 から9点、覆土から12点が出土した。

図示した6点(771~776<sup>[125]</sup>)は、771が龍泉窯の青磁・碗で11~12世紀の製品である。772は肥前の青磁・  
 皿で17世紀後半以降の製品である。773は肥前波佐見の染付・厚手碗で18世紀の製品である。774は  
 肥前の陶器・天目茶碗で17世紀後半の製品である。775は備前の炆器・播鉢で15世紀後半の製品で  
 ある。776は在地の土器・坏である。

時期 18世紀。出土遺物には混入があるが最も新しいのは18世紀の製品である。

性格 柱穴。



第85図 SK11・SK21・SK23・SK25出土遺物

**SK11**〈近世の土器廃棄土坑〉(遺構:第57図<sup>[89]</sup>・PI.52<sup>[398]</sup>・53<sup>[399]</sup>, 遺物:第85図・PI.132<sup>[478]</sup>)

**位置・調査経過** Q4グリッドに位置する。Ⅲa・b層で確認した。コンクリート基礎により大部分が失われている。平面プランは明確でなかったが土器・坏皿の集中により遺構の存在を認め、遺構の範囲と遺存した覆土の断面を確認した。SX2を切る。

**形状・規模** 東西方向(N-74°-E)に長い溝状の土坑とみられる。残長133cm, 残幅60cm, 深さ23cmである。遺存範囲の西寄り箇所に土器・坏皿片が集中する。

**覆土** 東西方向で覆土断面を観察した(第57図A-A')。灰オリーブ色土の単層で炭化物・小石・緑石粒・山土粒を含む。

**出土遺物** 205点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白磁1点, 土器204点である。遺物は土器集中部と覆土一括に分けて収拾した。内訳は土器集中部158点, 覆土一括47点である。

図示した6点(777~782)は、いずれも土器・坏皿で近世の製品である。色調には鈍橙色と灰黄色の2種類がある。<sup>[観323-324]</sup> 轆轤成形で外底に回転糸切が残る。

**時期** 近世。出土遺物は近世の製品である。

**性格** 土器廃棄土坑。土器の被熱痕跡や焼土・炭化物層は顕著でない。

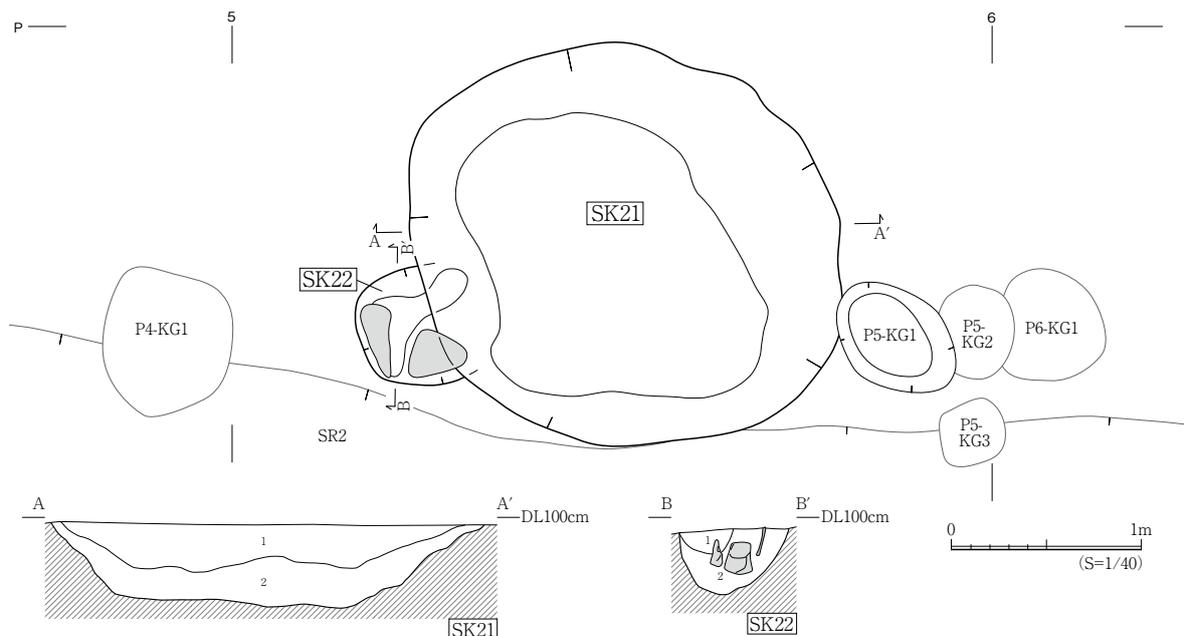
**SK21**〈近世の土坑〉(遺構:第86図・PI.53<sup>[399]</sup>, 遺物:第85図・PI.132<sup>[478]</sup>)

**位置・調査経過** P5グリッドに位置する。Ⅲa・b層で確認した。SK22を切る。

**形状・規模** 平面形は円形, 断面形は低平な台形である。上面は220cm大, 深さ50cmである。

**覆土** 東西方向で覆土断面を観察した(第86図A-A')。2層に分かれる。1層は黒褐色土層で炭化物・多量の焼土・緑石粒・小石を含む。2層は灰色土層である。

**出土遺物** 20点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点, 白磁1点, 染付4点, 陶器1点, 炆器1点, 土器5点, 瓦7点である。覆土一括で収拾した。



第86図 SK21・SK22平面図・断面図

図示した6点(783~788<sup>[126]</sup>)は、783が肥前の青磁・小碗である。784は肥前の白磁・紅皿である。785は肥前の染付・蕎麦猪口である。786は備前の炆器・播鉢で15世紀前半の製品である。787・788は在地の土器・小皿で近世の製品である。

時期 近世。出土遺物は近世の製品である。

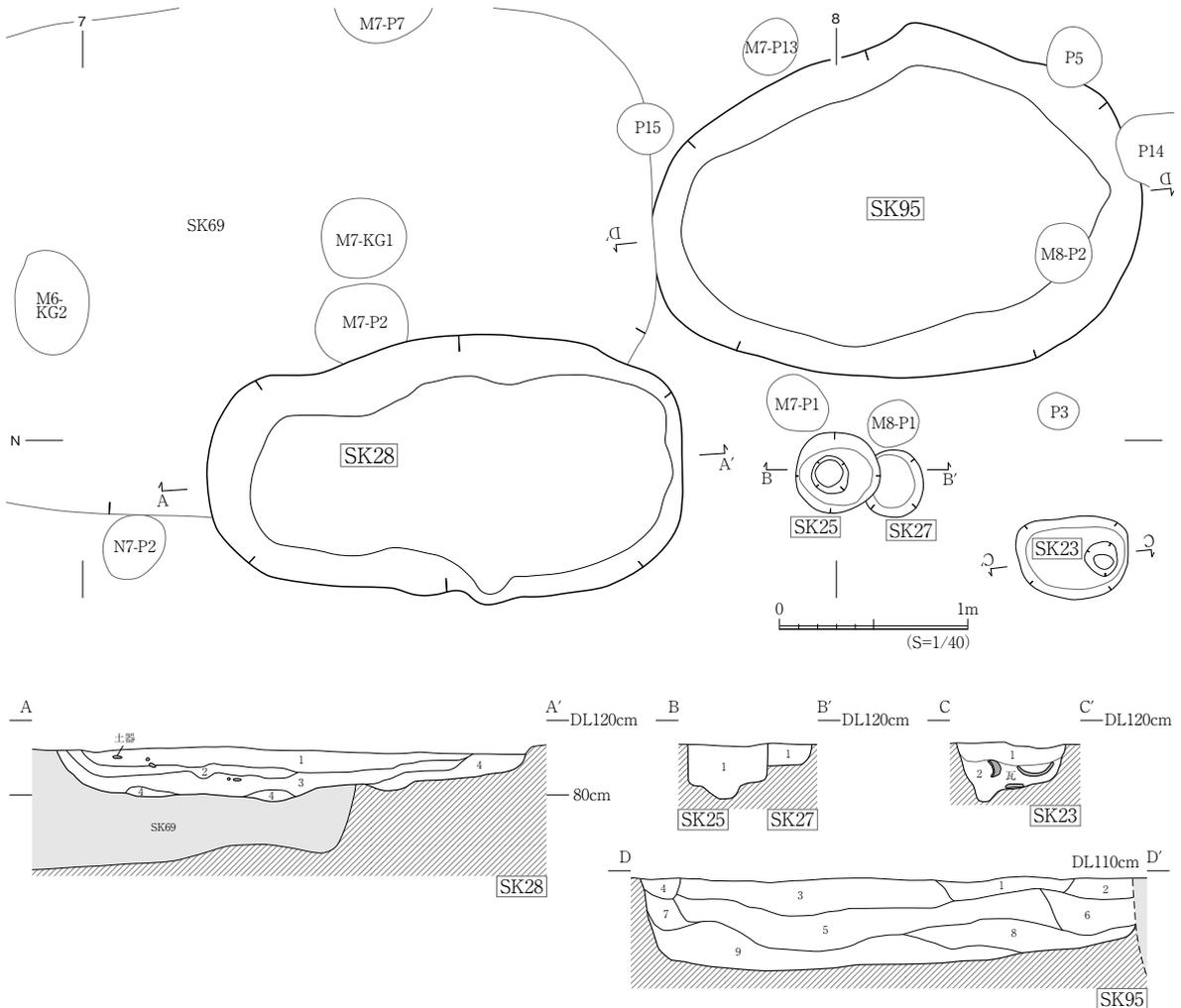
性格 土坑。

**SK23** (近世の柱穴) (遺構: 第87図・PI.53<sup>[399]</sup>, 遺物: 第85図<sup>[126]</sup>・PI.133<sup>[479]</sup>)

位置・調査経過 N8グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。単独である。

形状・規模 東西方向(N-77°-E)に長い隅丸方形の土坑である。垂直に近い角度で掘り込まれ、平たく均された底はやや東側が高く、東寄りの底には柱穴状の浅い掘り込みがある。長さ58cm, 幅46cm, 深さ33cmである。覆土中には完存に近い瓦3点を含む。

覆土 長軸方向で覆土断面を観察した(第87図C-C')。2層に分かれる。1層は黒褐色土層で炭化物・礫・山土粒を含む。2層は褐灰色土層で山土粒を含む。完存に近い瓦を含む。



第87図 SK23・SK25・SK27・SK28・SK95平面図・断面図

**出土遺物** 12点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器4点, 瓦8点である。覆土一括で収拾した。

図示した3点(789~791<sup>[126]</sup>)は, 789・790が凹面に鉄線痕が残る丸瓦である。791は平瓦である。いづれも土坑底から下層にかけて出土した。<sup>[観324]</sup>

**時期** 近世。出土遺物は近世の製品である。

**性格** 柱穴。廃絶後は瓦が廃棄された。

**SK25**〈柱穴〉(遺構:第87図・PI.53<sup>[399]</sup>, 遺物:第85図<sup>[126]</sup>・PI.133<sup>[479]</sup>)

**位置・調査経過** N・7~8グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK27を切る。

**形状・規模** 平面は円形で円筒形の掘方をもつ。底の中央が円形に浅く掘り込まれる。上面径は44cm, 深さ30cmである。

**覆土** 東西方向で覆土断面を観察した(第87図B-B')。暗褐色土の単層で炭化物・焼土・山土粒を含む。

**出土遺物** 2点の遺物が出土した。覆土一括で収拾した。

図示した1点(792<sup>[126]</sup>)は土器・鉢で中世の製品である。口縁が内湾するやや特異な器形である。<sup>[観324]</sup>

**時期** 中世か。遺物は少ないが中世の製品が出土した。

**性格** 柱穴。

**SK28**〈17世紀前半の廃棄土坑〉(遺構:第87図・PI.54<sup>[400]</sup>, 遺物:第88図<sup>[130]</sup>・PI.133<sup>[479]</sup>)

**位置・調査経過** MN・7グリッドに位置する。東半分を平成23年度, 西半分を平成24年度に調査した。盛土層の範囲外にありⅢa・b層で確認した。SK69を切る。

**形状・規模** 東西方向(N-77°-E)に長い不整隅丸方形の土坑である。底には凹凸があり壁は緩やかに立ちあがる。長さ255cm, 幅138cm, 深さ37cmである。

**覆土** 長軸方向の覆土断面を観察した(第87図A-A')。上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が暗灰黄色土層で炭化物・山土粒を含む。2層は黄褐色土層である。下層(3・4層)は3層が黒褐色炭化物層で山土粒と多くの遺物を含む。4層は暗灰黄色土層で炭化物を含む。

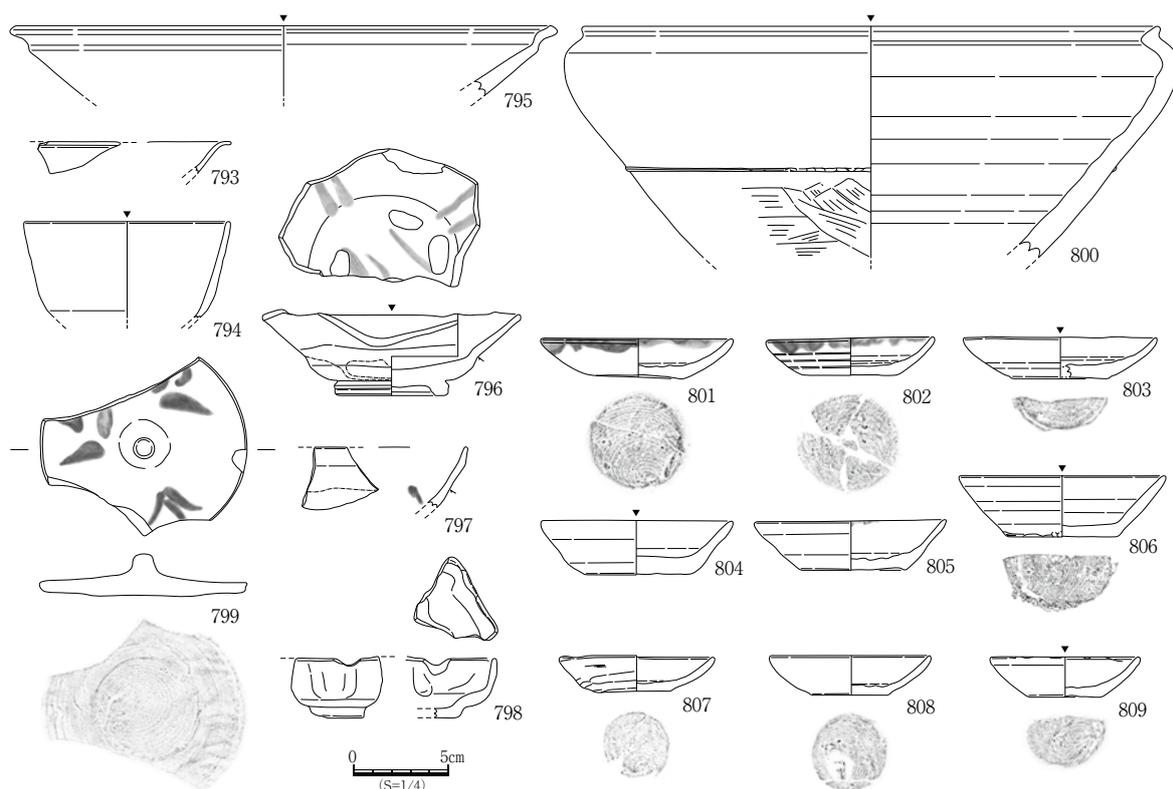
**出土遺物** 450点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白磁1点, 磁器3点, 陶器14点, 炆器1点, 須恵器2点, 瓦器1点, 土器383点, 瓦5点, 鉄器32点, ガラス製品8点である。遺物の収拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層21点, 下層299点である。他は覆土一括である。

図示した17点(793~809<sup>[130]</sup>)は, 793が白磁, 794~799が陶器, 800が炆器, 801~809が土器である。<sup>[観324]</sup>

793は肥前の白磁・小坏で17世紀の製品である。794は唐津とみられる陶器・碗である。795は唐津の陶器・溝縁皿で17世紀前半の製品である。796・797は唐津の陶器・皿で17世紀前半の製品である。798は瀬戸織部の陶器・向付で17世紀の製品である。799は絵唐津の陶器・水指蓋で17世紀初の製品である。800は備前の炆器・大鉢で近世の製品である。801~806は在地の土器・坏皿である。低平で灰色がかった801~803と相対的に深い橙色の804~806という2種類がある。804~806はSK175出土品とよく似ており, SK28とSK175に近い時期にあることを示す。807~809は在地の土器・小皿である。

**時期** 17世紀前半。出土遺物は17世紀前半の製品である。

**性格** 廃棄土坑。土器・坏皿を中心とする17世紀前半の一括廃棄遺物を包含する。



第88図 SK28出土遺物

**SK30** (17世紀の土坑) (遺構:第89図・Pl.54<sub>[400]</sub>, 遺物:第89図・Pl.134<sub>[480]</sub>)

位置・調査経過 MN・6グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK69を切る。

形状・規模 平面は不定形で不整形の一隅が方形に張り出す。底には凹凸があり壁は緩やかに立ちあがる。平面は304×288cm, 深さは15cmである。

覆土 南北方向(第89図D-D')と東西方向(第89図C-C')で覆土断面を観察した。7層に分かれる。1層は灰オリーブ色土層で炭化物を含む。2層は黒褐色土層で炭化物・山土粒を含む。3~5層は褐灰色土層で微量の炭化物・マンガン粒を含む。6・7層は灰~灰黄褐色粘質土層である。

出土遺物 60点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白磁2点, 青花1点, 染付2点, 磁器1点, 土器52点, 瓦1点, 鉄器1点である。覆土一括で収拾した。

図示した6点(810~815)は, 810が景德鎮の青花・輪花皿で16~17世紀の製品である。811は中国の白磁・皿で16世紀の製品である。<sup>[観324-325]</sup>812~814は在地の土器・坏皿で17世紀の製品である。815は丸瓦で凹面に縄圧痕が残る。

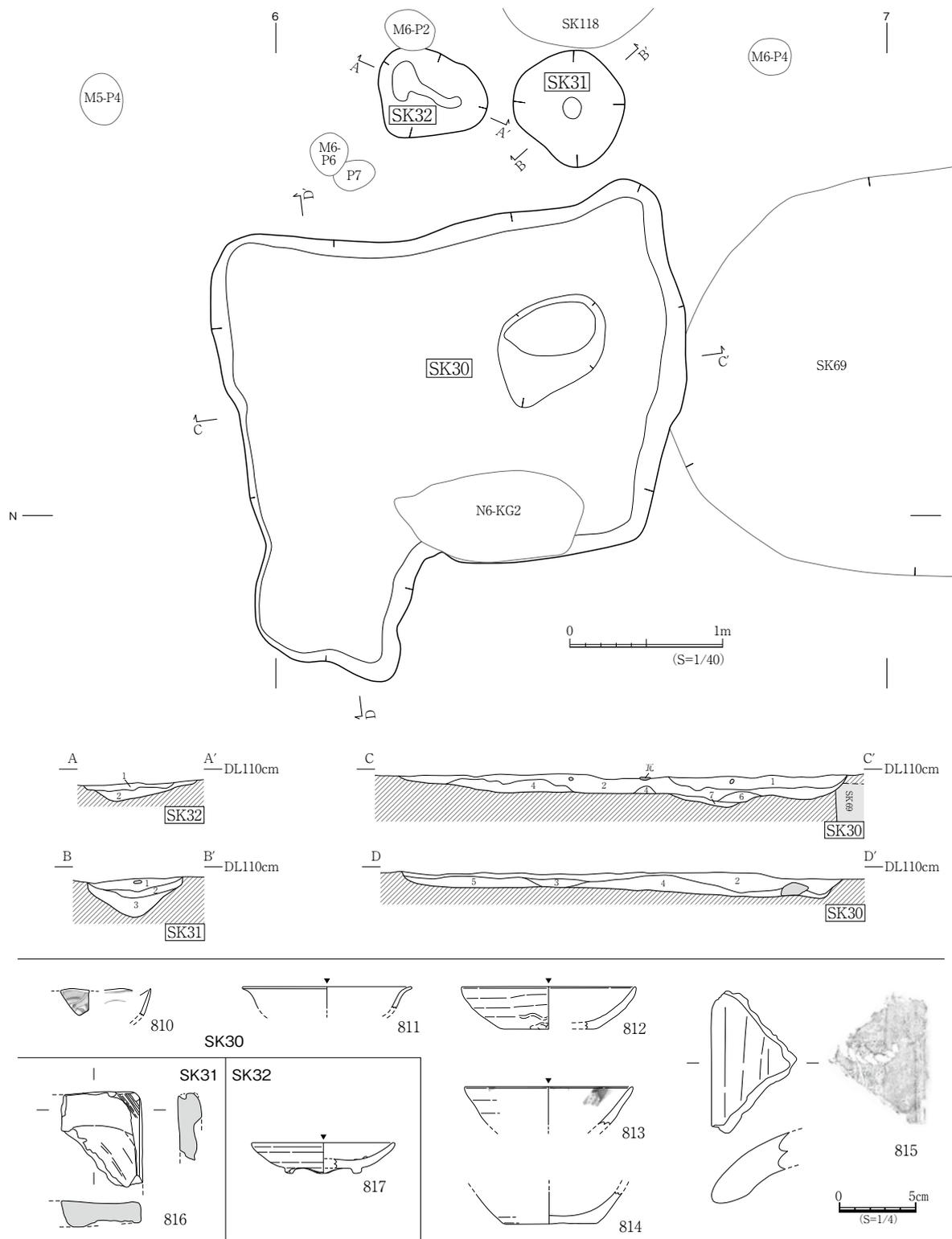
時期 17世紀。出土遺物は17世紀の製品である。

性格 土坑。

**SK31** (近世の小土坑) (遺構:第89図・Pl.54<sub>[400]</sub>, 遺物:第89図・Pl.134<sub>[480]</sub>)

位置・調査経過 M6グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。単独である。

形状・規模 北西-南東方向(N-13°-W)に長い不整形の土坑で錐体状の掘方をもつ。長さ76cm, 幅71cm, 深さ25cmである。



第89図 SK30・SK31・SK32平面図・断面図・出土遺物

覆土 北東軸で覆土断面を観察した(第89図B-B')。3層に分かれる。1層は灰色土層で炭化物・山土粒・小石を含む。2層は灰オリブ層で山土粒・小石を含む。3層はオリブ灰色土層で砂・マンガン粒を含む。

出土遺物 11点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は炆器1点, 瓦器1点, 土器7点, 鉄器2点である。遺物は上層・下層に分けて収拾した。内訳は上層3点で他は覆土一括である。

図示した1点(816<sup>[131]</sup>)は, 硯とみられる瓦器である。

時期 近世。出土遺物は近世の製品である。

性格 小土坑。

**SK32** (小土坑) (遺構: 第89図<sup>[131]</sup>・PI.55<sup>[401]</sup>, 遺物: 第89図<sup>[131]</sup>・PI.134<sup>[480]</sup>)

位置・調査経過 M6グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。単独である。

形状・規模 平面は不整形で掘方は錐体に近い。平面は75×60cm, 深さ13cmである。

覆土 北西-南東方向で覆土断面を観察した(第89図A-A')。2層に分かれる。1層は灰色土層で炭化物・小石を含む。2層は灰オリーブ砂質土層である。

出土遺物 8点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白磁1点, 瓦器1点, 土器6点である。遺構の周りにも遺物が散っており, 遺物の収拾は遺構周囲と覆土に分けて行った。内訳は遺構周囲5点, 覆土3点である。

図示した1点(817<sup>[131]</sup>)は中国の白磁・皿で15世紀前半の製品である。

時期 近世か。覆土が隣接するSK31に類似する。出土遺物は混入か。

性格 小土坑。

**SK34** (3つの塊石を伴う近世の土坑) (遺構: 第90図・PI.55<sup>[401]</sup>, 遺物: 第90図・PI.134<sup>[480]</sup>)

位置・調査経過 L6グリッドに位置する。SK36の底に平面プランが露出した。SK94を切る。SK36に上部を削平される。

形状・規模 北東-南西方向(N-12°-E)に長い隅丸方形の土坑である。底付近のみが窪みのように残る。長さ59cm, 幅52cm, 深さ10cmである。底には3つの塊石が三角形の頂点位置に置かれていた。塊石のひとつは石臼の残欠である。

覆土 南北方向で覆土断面を観察した(第90図B-B')。暗灰黄色土の単層で多量の山土粒を含む。底に炭化物が拡がる。

出土遺物 1点の遺物が出土した。砂岩製の石臼(818)が底に置かれていた。

時期 近世。

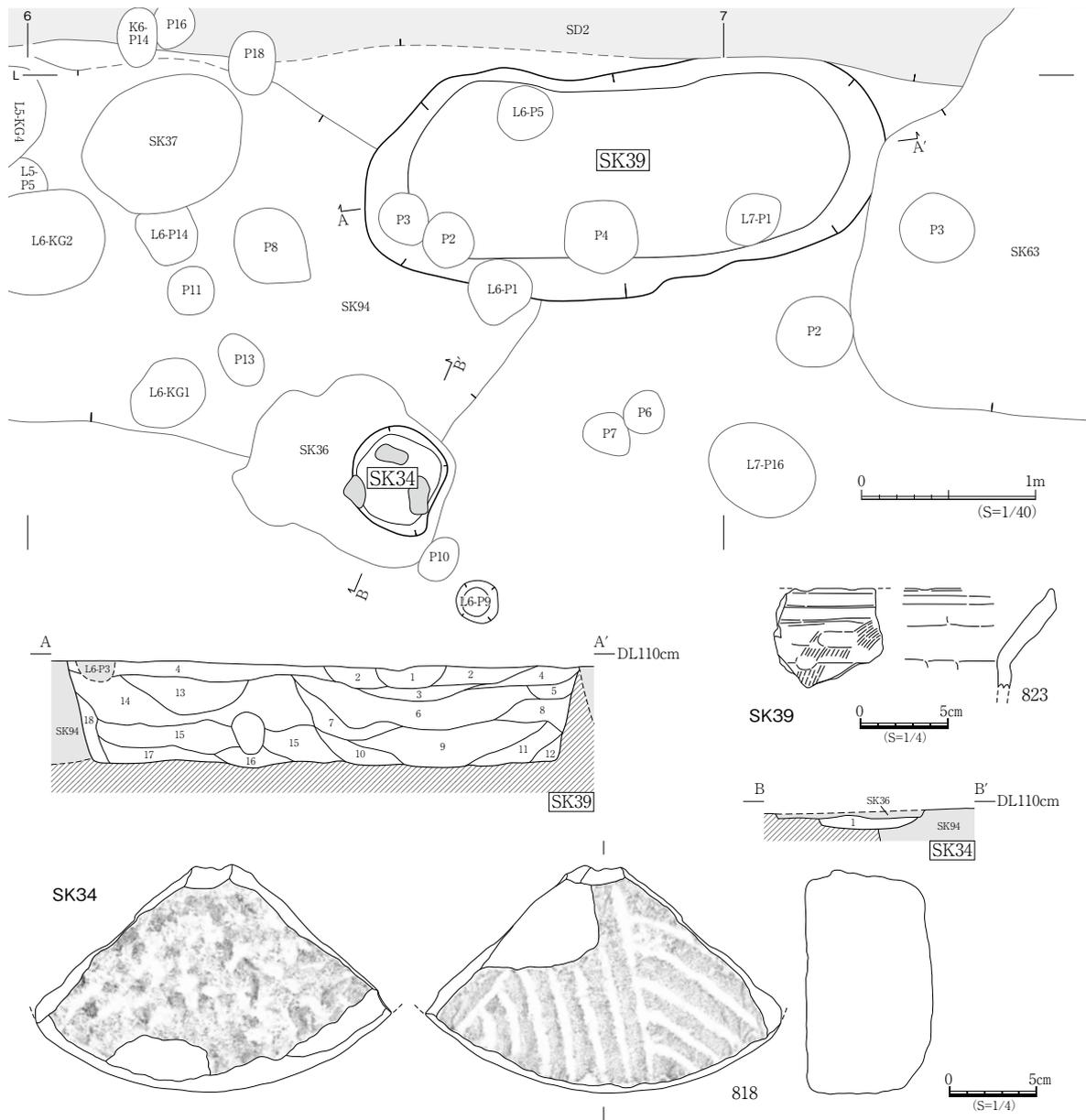
性格 柱穴か。底に置かれた3つの塊石は根巻石か。

**SK37** (15世紀の柱穴か) (遺構: 第91図<sup>[134]</sup>・PI.55<sup>[401]</sup>, 遺物: 第91図<sup>[134]</sup>・PI.134<sup>[480]</sup>)

位置・調査経過 L6グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK94の上部覆土を掘削し構築された。覆土と地山の識別が困難で底を捉えきれなかった。

形状・規模 北東-南西方向(N-36°-E)に長い楕円形の土坑で筒形の掘方をもつ。長さ94cm, 幅78cm, 深さ60cmである。

覆土 北東軸で覆土断面を観察した(第91図A-A')。9層に分かれる。1層は黒褐色土層でマンガン粒・山土粒を含む。2層は褐灰色土層でマンガン粒を含む。3層は黒褐色土層でマンガン粒を含む。4層は褐灰色砂質土層でマンガン粒を含む。5層は黒褐色土層でマンガン粒を含む。6層は褐灰色土層である。



第90図 SK34・SK39平面図・断面図・出土遺物

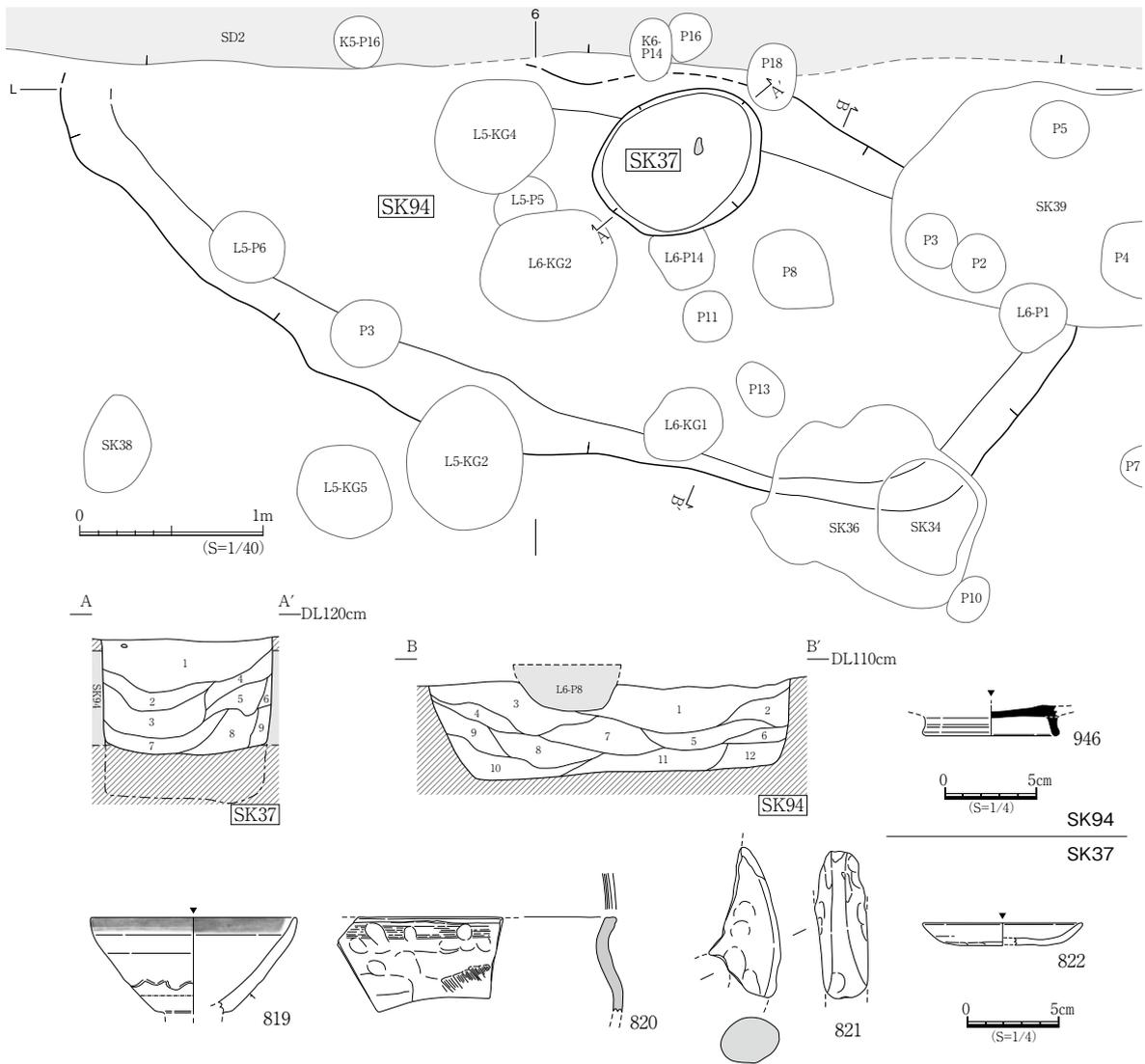
7・8層は褐灰色土層で炭化物を含む。9層は黒褐色土層である。

出土遺物 12点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は陶器1点，瓦器3点，土器8点である。遺物の收拾は覆土一括で行ったが最下層出土の2点は別途收拾した。

図示した4点(819～822<sup>[134]</sup>)は，819が中国建窯の陶器・天目茶碗で15世紀の製品である。820は土佐型の瓦器・鍋で14～15世紀の製品である。<sup>[観325]</sup>821は瓦器・三足鍋で13～14世紀の製品である。822は在地の土器・小皿で15世紀の製品である。

時期 15世紀。出土遺物には混入もあるが最も新しいのは15世紀の製品である。

性格 柱穴か。



第91図 SK37・SK94平面図・断面図・出土遺物

**SK39** (11世紀頃の土坑, SD13の一部) (遺構:第90図<sup>[133]</sup>・Pl.55<sup>[401]</sup>, 遺物:第90図<sup>[133]</sup>・Pl.134<sup>[480]</sup>)

**位置・調査経過** L・6~7グリッドに位置する。SD13の南側延長部分を含む。Ⅲb層で確認した。本来はⅢc層を掘削し構築されたと考えられるが、窪みに堆積した土層(1~4層)により平面プランが検出できた。SK94を切り、SD2・SK63に切られる。先行する古代の土坑の東側をSD13が切ったとみられるが、正確な形状は把握できていない。SK94につながる土坑であった可能性もある。

**形状・規模** 現地調査では東西方向(N-74°-E)に長い楕円形の平面形プラン、断面台形の掘方を確認した。規模は長さ300cm、幅130cm、深さ88cmであった。覆土の中層にあたる断面台形の掘り込み部分がSD13の南側延長にあたるため、SK39とした形状・規模には誤りがある。本来は土坑と溝が重複していたのであろう。SD13の延長は上幅160cm、深さ60cm、底幅120cmである。南西側に隣接するSK94はSK39に切られたと判断したが、SK94もSD13を含んでいた可能性がある。

**覆土** 長軸方向で覆土断面を観察した(第90図A-A')。上・中・下層に分かれる。上層(1~4層)は1層が黒褐色土層で炭化物・山土粒を含む。2・3層は暗灰黄色土層で炭化物・焼土・山土粒を含む。4層は灰黄褐色土層で炭化物・山土粒を含む。中層(5~12層)は北東方向から延びてくるSD13の覆土にあたる。

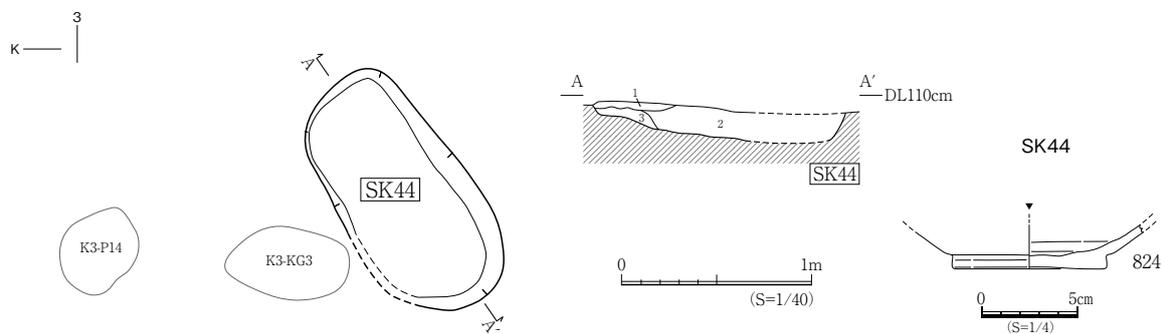
5層は暗灰黄色土層で炭化物・山土粒を含む。6層は褐灰色土層で炭化物を含み鉄分の凝集がみられる。7層は褐灰色土層で灰色粘土粒を含み鉄分の凝集がみられる。8層は灰褐色土層で鉄分が凝集する。9～11層は褐灰色土層で炭化物・マンガン粒を含む。12層は灰色土層で炭化物を含む。下層(13～18層)は13層が暗褐色土層で炭化物・マンガン粒を含む。14・15層は灰褐色土層で炭化物・灰色粘土粒を含む。16層は灰色土層で鉄分が凝集する。17・18層は褐灰色土層でマンガン粒を含む。

**出土遺物** 43点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は瓦器1点, 白色土器3点, 土器39点である。遺物は層位別に収拾した。内訳は上層5点, 下層4点で他は覆土一括である。

図示した1点(823<sub>[133]</sub>)は土器・甕で10世紀頃の製品である。  
[観325]

**時期** 11世紀頃。出土遺物には11世紀頃の製品を含む。

**性格** 東側はSD13の延長, 西側は土坑。



第92図 SK44平面図・断面図・出土遺物

**SK44**〈土坑〉(遺構:第92図・PI.56<sub>[402]</sub>, 遺物:第92図・PI.134<sub>[480]</sub>)

**位置・調査経過** K3グリッドに位置する。盛土下のⅢb層で確認した。単独である。

**形状・規模** 北西-南東方向(N-45°-W)に長い溝状の土坑である。底には凹凸があり緩やかに立ち上がる。長さ127cm, 幅80cm, 深さ16cmである。

**覆土** 長軸方向で覆土断面を観察した(第92図A-A')。覆土は近世盛土に起源するとみられる。3層に分かれる。1層は暗灰黄色土層で炭化物を含む。2層は黄灰色土層で炭化物・山土粒を含む。3層はオリーブ灰色土層である。

**出土遺物** 1点の遺物が出土した。図示した1点(824)は土器・埴で11世紀頃の製品である。覆土下層より出土した。  
[観325]

**時期** 古代か。わずか1点であるが11世紀頃の製品が出土した。

**性格** 土坑。

**SK45**〈17世紀の廃棄土坑〉(遺構:第93図<sub>[136]</sub>・PI.56<sub>[402]</sub>, 遺物:第93図<sub>[136]</sub>・PI.134・135<sub>[480-481]</sub>)

**位置・調査経過** J・2~3グリッドに位置する。盛土層で確認した。調査E区を南北に分けた境界にかかっている。北側のIグリッド区域では近代層を掘り下げる過程でプランを見失ってしまった。本来は楕円形のプランが遺存していた。単独である。

**形状・規模** 北西-南東方向(N-32°-W)に長い楕円形の土坑である。底には凹凸があり浅く立ちあがる。残存した長さは280cm, 幅202cm, 深さ16cmである。炭化物層には廃棄された遺物を含む。

覆土 長軸方向で覆土断面を観察した(第93図A-A')。2層に分かれる。1層は黒褐色土層で多量の炭化物・山土粒を含む。遺物を含む。2層は暗灰黄色土層で炭化物・山土粒を含む。

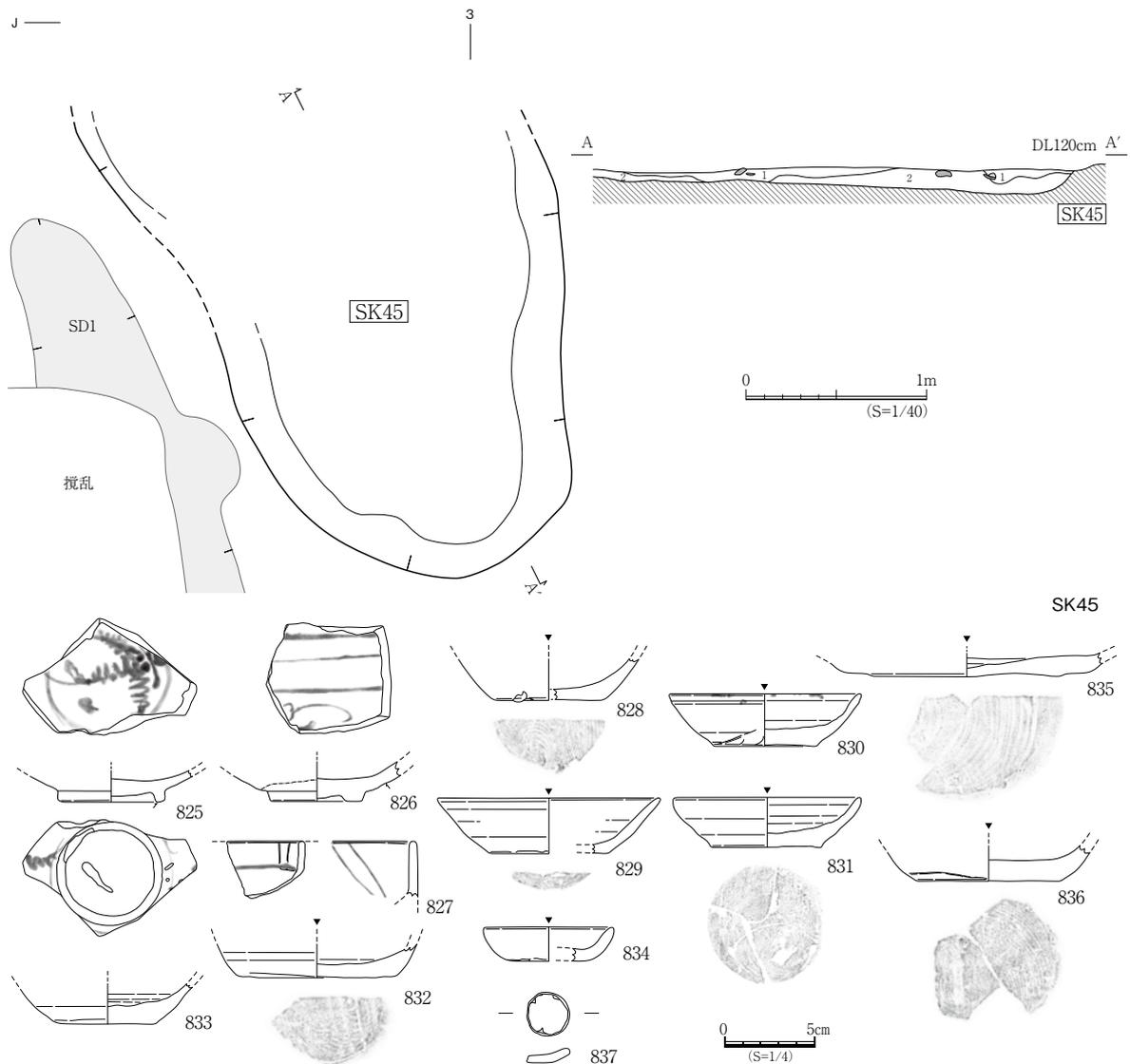
出土遺物 55点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青花2点, 陶器2点, 土器49点, 土製品1点, 瓦1点である。遺物の収拾は上層・下層に分けて収拾した。内訳は上層7点で他は覆土一括である。

図示した13点(825~837)は, 825が青花, 826・827が陶器, 828~836が土器, 837が土製品である。

825は漳州窯の青花・皿で17世紀の製品である。826は瀬戸織部の皿で17世紀の製品である。827は瀬戸織部の向付で17世紀の製品である。828は在地の土器・坏で近世の製品である。829~833は在地の土器・坏皿で17世紀の製品である。834は在地の土器・小皿, 835・836は在地の土器・皿で近世の製品である。837は土器片を再加工した円盤である。

時期 17世紀。出土遺物は17世紀の製品である。

性格 廃棄土坑。



第93図 SK45平面図・断面図・出土遺物

**SK48**〈近世の柱穴〉(遺構:第94図・Pl.56<sup>[402]</sup>,遺物:第94図・Pl.135<sup>[481]</sup>)

位置・調査経過 M2グリッドに位置する。盛土層で確認した。他の小さな土坑(1層)に切られているがともにSK48として報告する。

形状・規模 平面は円形で浅いボウル状に掘り込まれている。径72cm, 深さ14cmである。

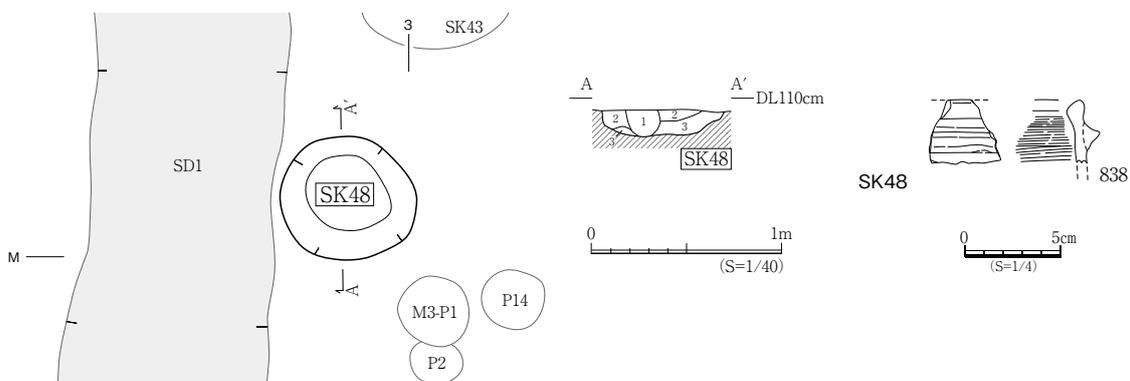
覆土 南北方向で覆土断面を観察した(第94図A-A')。3層に分かれる。1層はピット状の掘り込みに堆積した灰褐色土層で山土粒を含む。2層は暗褐色土層で炭化物・焼土を含む。3層は灰褐色土層で炭化物・焼土を含む。

出土遺物 11点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器9点, 瓦1点, 鉄器1点である。覆土一括で収拾した。

図示した1点(838)は播磨型の土器・羽釜で15世紀前半の製品である。

時期 近世。出土遺物には混入もあるが近世の製品を含む。

性格 柱穴。



第94図 SK48平面図・断面図・出土遺物

**SK49**〈17世紀の廃棄土坑〉(遺構:第54図<sup>[83]</sup>・Pl.56<sup>[402]</sup>,遺物:第95図<sup>[138]</sup>・Pl.135<sup>[481]</sup>)

位置・調査経過 J・3~4グリッドに位置する。一帯にはII層が厚く堆積しておりこれを除去すると下部にSK49・SK50のプランが露出した。本来は盛土層を掘削し構築されたとみられる。

形状・規模 北東-南西方向(N-11°-E)がやや長い歪な隅丸方形の土坑である。底には凹凸があり緩やかに立ちあがる。上面は225×183cm, 深さ20cmである。

覆土 長軸方向(第54図B-B'), 短軸方向(第54図A-A')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は黒褐色土層で炭化物・焼土を含む。2層は黄灰色土層で礫を含む。3層は褐灰色土層で炭化物・山土粒・マンガン粒を含む。

出土遺物 33点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付5点, 磁器3点, 陶器5点, 炆器2点, 白色土器1点, 土器15点, 瓦1点, 骨角器1点である。遺物の収拾は最上層・上層・下層に分けて行った。内訳は最上層15点, 上層14点, 下層3点で他は覆土である。

図示した4点(839~842<sup>[138]</sup>)は, 839が肥前の染付・碗である。840は唐津の陶器・腰折碗で17世紀の製品である。841は唐津の陶器・小碗で16世紀末~17世紀初の製品である。842は土器・坏皿である。

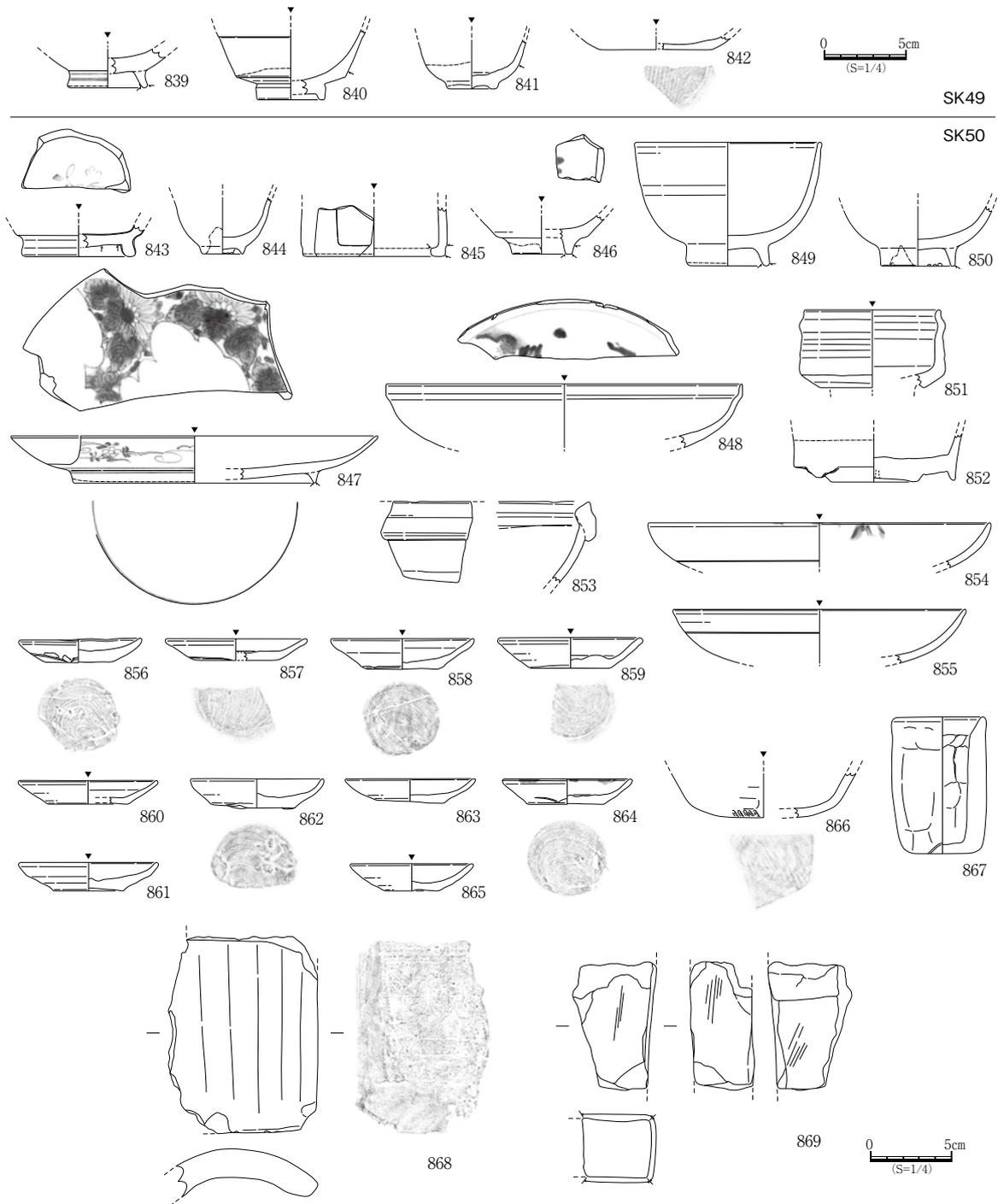
時期 17世紀。出土遺物には17世紀の製品を含む。

性格 廃棄土坑。

**SK50** (17世紀の廃棄土坑) (遺構:第54図<sup>[83]</sup>・PI.57<sup>[403]</sup>, 遺物:第95図・PI.135・136<sup>[481-482]</sup>)

位置・調査経過 J4グリッドに位置する。一帯にはII層が厚く堆積しておりこれを除去すると下部にSK49・SK50のプランが露出した。本来は盛土層を掘削し構築されたとみられる。単独である。

形状・規模 南北方向(N-14°-W)にやや長い不整隅丸方形の土坑で、底には凹凸があり緩やかに立ちあがる。上面は265×248cm, 深さ30cmである。



第95図 SK49・SK50出土遺物

**覆土** 長軸方向(第54図D-D'), 短軸方向(第54図C-C')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は黒褐色土層で多量の炭化物を含み下部には有機質が拡がる。2層は暗灰黄色粘質土層で小石を含む。3層は褐灰色土層で炭化物・小石を含む。4層は褐灰色土層で炭化物・黒土粒を含み鉄分が凝集する。  
**出土遺物** 178点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁6点, 白磁3点, 褐釉染付1点, 染付14点, 磁器4点, 陶器18点, 炆器3点, 瓦器2点, 白色土器4点, 土器116点, 瓦6点, 石製品1点である。遺物の收拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層68点, 下層5点で他は覆土一括である。

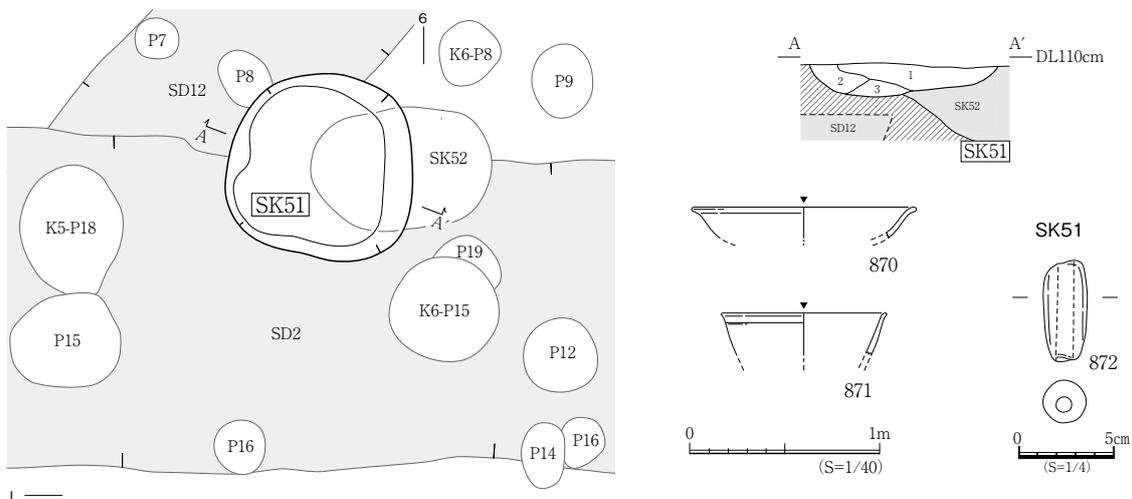
図示した27点(843~869)は, 843が青磁, 844・845が白磁, 846~848が染付, 849~852が陶器, 853が炆器, 854・855が白色土器, 856~867が土器, 868が瓦, 869が石製品である。

843は肥前の青磁・碗である。844は肥前の白磁・小坏, 846は肥前の染付・腰折碗で共に17世紀前半の製品である。847は肥前の染付・中皿で17世紀後半の良品である。848は肥前の染付・中皿である。849は肥前の陶器・丸碗で17世紀後半~18世紀前半の製品である。850は肥前の陶器・碗で17世紀中頃の製品である。851は志野焼の陶器・向付で16世紀末~17世紀初の製品である。852は肥前の陶器・香炉である。853は中国製の炆器・鉢で16世紀後半の製品である。854・855は尾戸の白色土器・皿で17世紀の製品とみられる。856~865は在地の土器・小皿である。861・865は17世紀, 862~864は18~19世紀の製品とみられる。866は土器・鉢である。867は土器・焼塩壺で17世紀の製品である。868は鉄線痕が残る丸瓦である。869は砂岩製の砥石である。動物遺体にサザエがある(付編2<sub>[275]</sub>)。  
**時期** 17世紀。17世紀の製品と19世紀の製品を含む。19世紀の製品はII層のものともみられる。  
**性格** 廃棄土坑。

**SK51** (17世紀の土坑) (遺構:第96図・PI.57<sub>[403]</sub>, 遺物:第96図・PI.136<sub>[482]</sub>)

**位置・調査経過** K5グリッドに位置する。III b層で確認した。SD12の上部にあり, SD2・SK52を切る。  
**形状・規模** 平面は隅丸方形で, 底には凹凸があって西側がやや低く, 緩やかに立ちあがる。平面は95cm大, 深さ18cmである。

**覆土** 東西方向で覆土断面を観察した(第96図A-A')。3層に分かれる。1層は褐灰色土層で炭化物・焼土・小石を含む。2層は黒褐色土層で小石を含む。3層は褐灰色土層で小石を含む。



第96図 SK51平面図・断面図・出土遺物

出土遺物 13点の遺物が出土した。出土遺物には白磁2点、磁器1点、土器9点、土製品1点がある。遺物の收拾は上層・下層に区分して收拾した。内訳は下層3点で他は覆土一括である。

図示した3点(870~872<sup>[139]</sup>)は、870が中国の白磁・皿で16世紀の製品である。871は肥前の白磁・小坏で17世紀の製品である。872は土製品・土錘である。  
〔観326-327〕

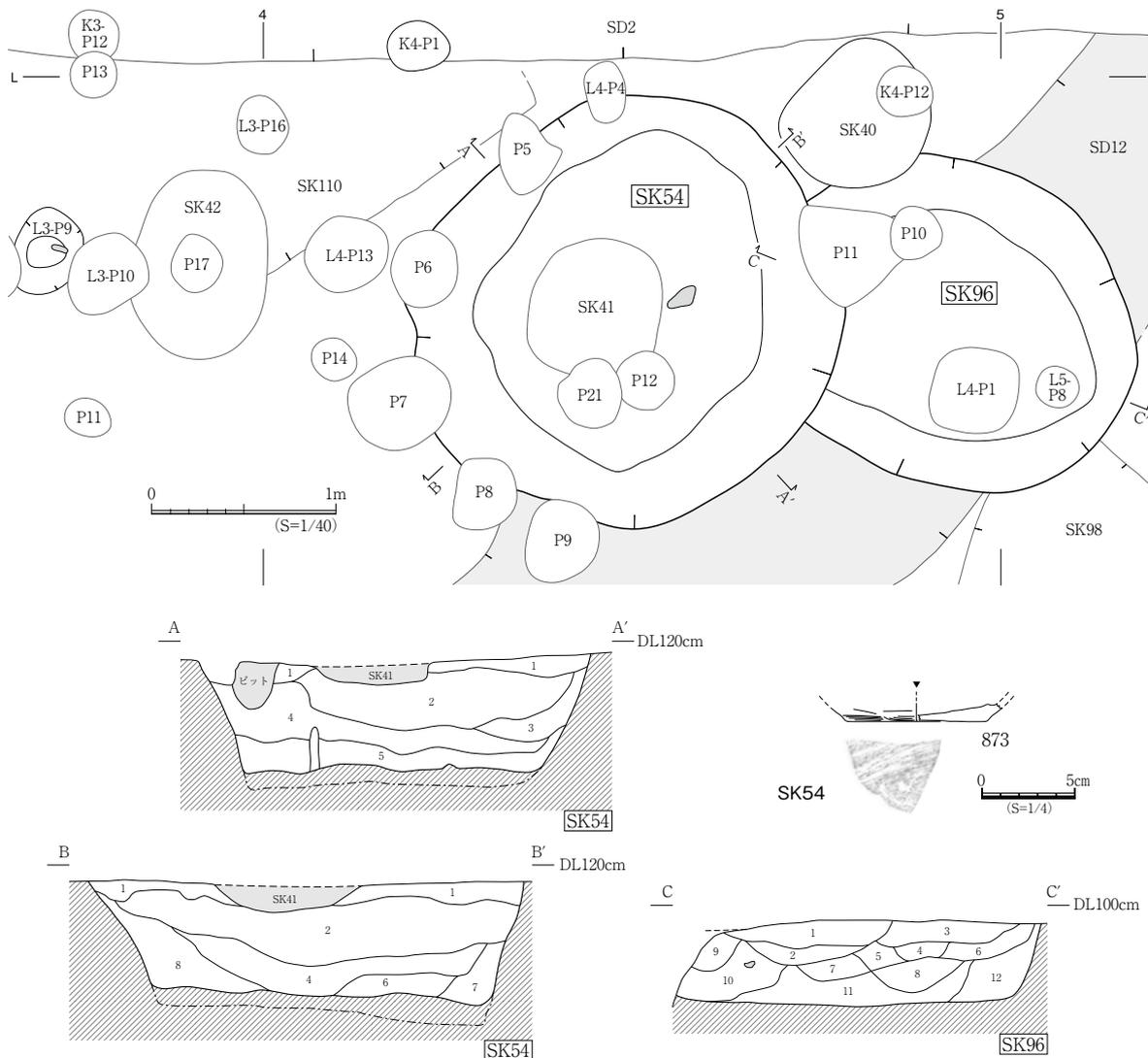
時期 17世紀。出土遺物には17世紀の製品を含む。

性格 土坑。

**SK54**〈土坑〉(遺構:第97図・PI.57<sup>[403]</sup>, 遺物:第97図・PI.136<sup>[482]</sup>)

位置・調査経過 L4グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SD12・SK96を切り、SK41に切られる。7基のピットが縁辺をめぐるようにSK54を切る。

形状・規模 平面形が円形の土坑である。底はおよそ水平に均され、壁は垂直に近い角度で立ちあがる。平面は237cm大、深さ64cmである。



第97図 SK54・SK96平面図・断面図, SK54出土遺物

**覆土** 北東-南西方向(第97図B-B'), 北西-南東方向(第97図A-A')で覆土断面を観察した。8層に分かれる。1層は灰黄褐色砂質土層で炭化物を含む。2層は灰褐色土層で多量のマンガン粒を含む。3層は褐灰色シルト層でマンガン粒を含む。4層は褐灰色シルト層でマンガン粒を含み鉄分が凝集する。5層は褐灰色シルト層で炭化物・灰色粘土粒を含む。6層は褐灰色シルト層, 7層は灰色シルト層で鉄分が凝集する。8層は暗褐色土層でマンガン粒を含む。

**出土遺物** 32点の遺物が出土した。内訳は炆器1点, 瓦器3点, 土器27点, 動物骨1点である。層位別に収拾した内訳は上層3点で, 他は覆土一括である。図示した1点(873)は, 在地の土器・坏皿である。  
[観327]

**時期** 中世か。

**性格** 土坑。

**SK55**〈中世の土坑〉(遺構:第98図・PI.57<sup>[403]</sup>)

**位置・調査経過** LM・4グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SD12の上部包含層を掘削し構築された。複数のピットに切られる。

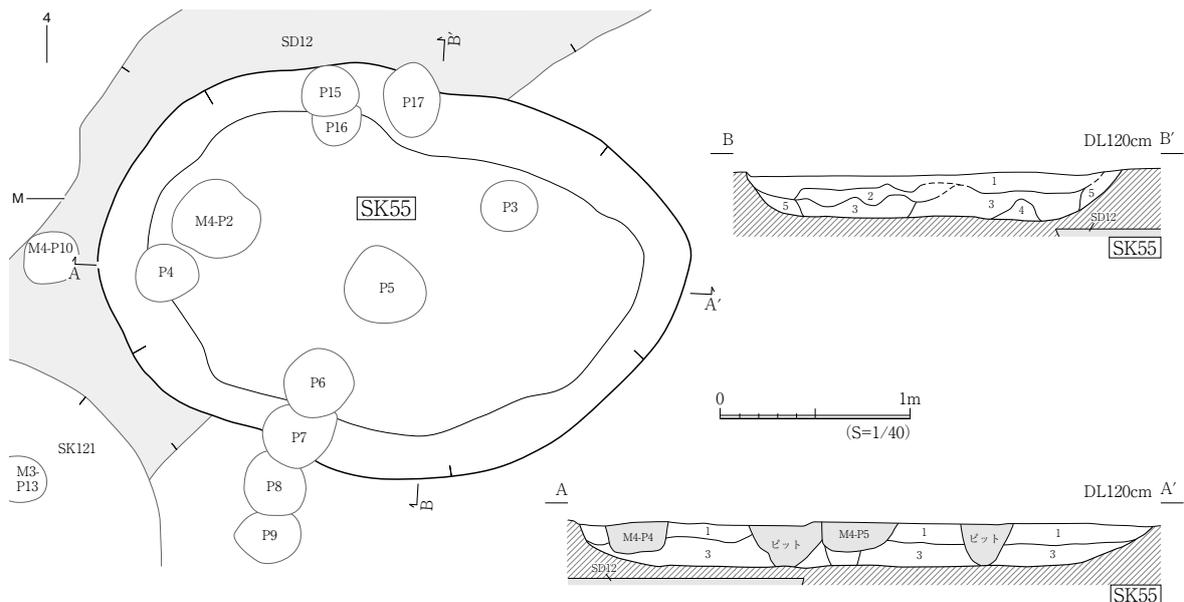
**形状・規模** 東西方向(N-81°-E)に長い楕円形の土坑である。底は水平に均され緩やかに立ちあがる。長さ310cm, 幅212cm, 深さ27cmである。

**覆土** 長軸方向(第98図A-A'), 短軸方向(第98図B-B')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が黒褐色砂質土層で小石・山土粒を含み鉄分の凝集がみられる。2層は褐灰色土層で小石を含み鉄分の凝集がみられる。下層(3~5層)は3層が灰褐色土層で焼土を含む。4・5層は褐灰色土層でマンガン粒を含む。

**出土遺物** 17点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は瓦器1点, 土器16点である。覆土一括で収拾した。

**時期** 中世。出土遺物には中世の遺物を含む。

**性格** 土坑。



第98図 SK55平面図・断面図

**SK56**〈土坑〉(遺構:第99図・Pl.58<sup>[404]</sup>)

位置・調査経過 JK・5グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。単独である。

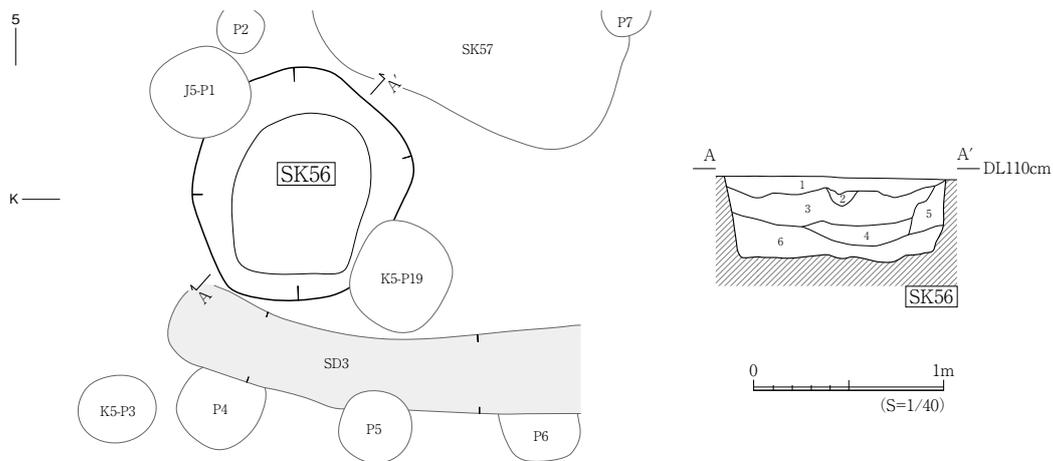
形状・規模 平面は円形で筒形の掘方をもつ。平面は124×116cm, 深さ55cmである。

覆土 北東-南西方向で覆土断面を観察した(第99図A-A')。6層に分かれる。1層は黒褐色土層で山土粒を含む。2層は暗灰黄色土層で山土粒を含む。3層は褐灰色シルト層で小石・マンガン粒を含む。4・5層は暗褐色シルト層, 6層は褐灰色砂質シルト層である。

出土遺物 土器9点を覆土一括で収拾した。いずれも細片につき図示していない。

時期 中世か。

性格 土坑。



第99図 SK56平面図・断面図

**SK58**〈17世紀の廃棄土坑〉(遺構:第100図・Pl.58<sup>[404]</sup>, 遺物:第101図<sup>[144]</sup>・Pl.136・137<sup>[482-483]</sup>)

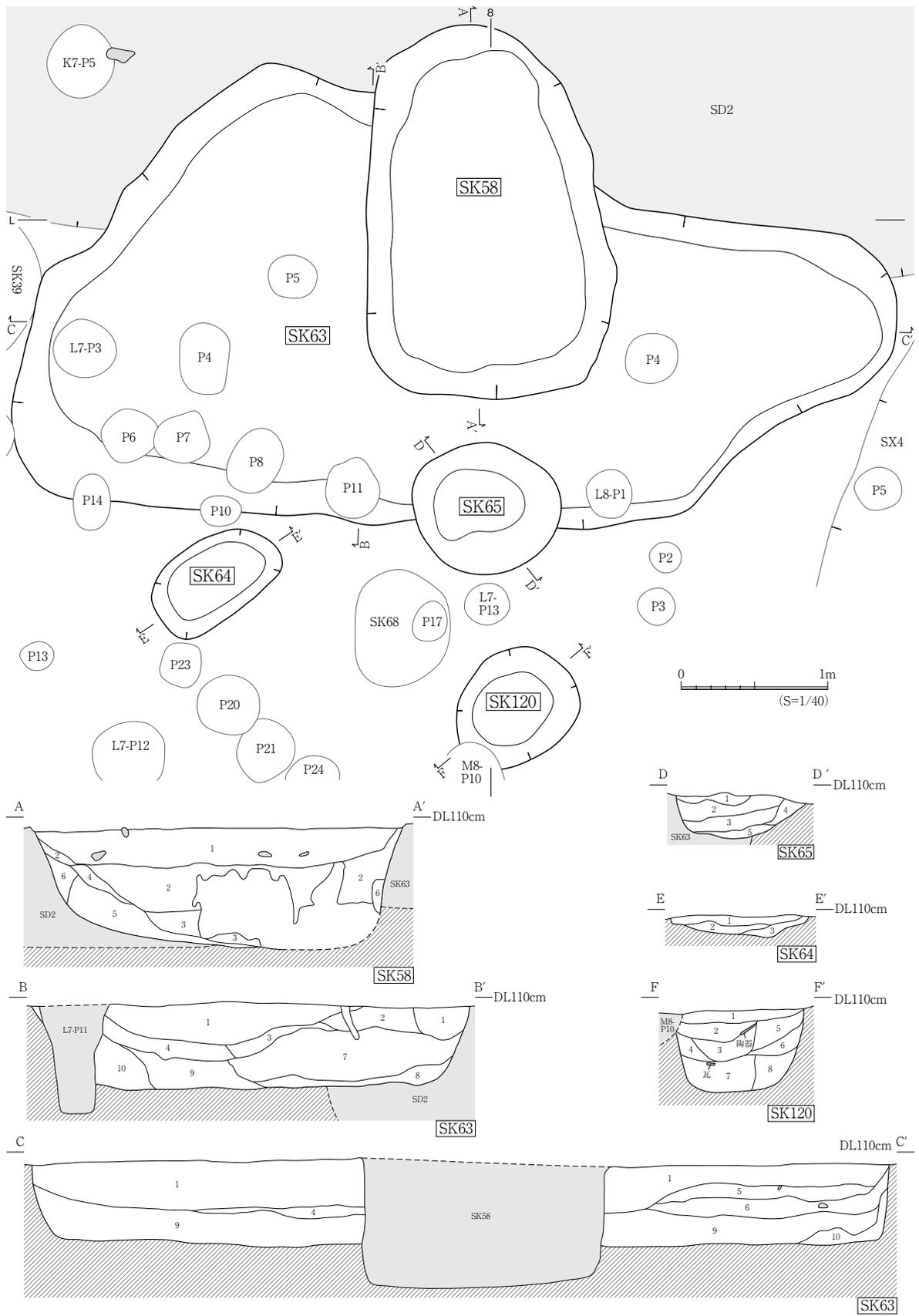
位置・調査経過 KL・7~8グリッドに位置する。盛土層の範囲外にありⅢb層で確認した。SD2・SK63を切る。

形状・規模 南北方向(N-18°-W)に長くて深さのある不整隅丸長方形の土坑である。底は平らだが北側に高く, 壁は垂直に近い角度で立ちあがるが北側の立ち上がりは緩やかである。長さ257cm, 幅159cm, 深さ90cmである。

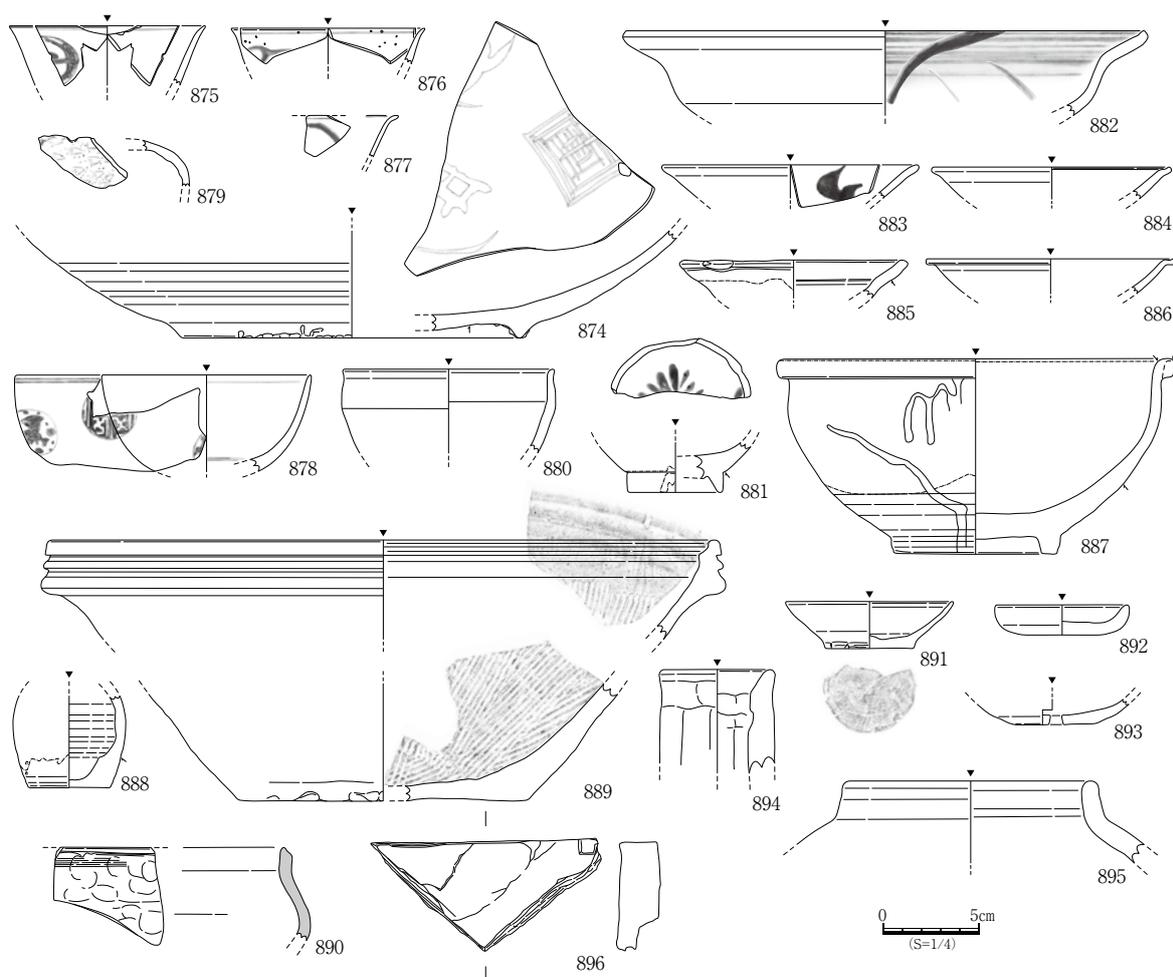
覆土 長軸方向で覆土断面を観察した(第100図A-A')。上層・下層に分かれる。上層(1層)は黒褐色土層で炭化物・多量の礫・山土粒を含む。多量の遺物を含む。下層(2~6層)は2層が褐灰色土層で炭化物を含み鉄分の凝集がみられる。3層は灰色砂質シルト層で小石を含む。4・5層は灰褐色砂質シルト層で鉄分の凝集がみられる。6層は灰褐色粘質土層で鉄分の凝集がみられる。2層から3層にかけて灰色粘質土層がひろがっており土壌化した木質とみられる。

出土遺物 249点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁3点, 白磁5点, 青花3点, 染付13点, 磁器30点, 陶器51点, 炆器2点, 須恵器1点, 瓦器3点, 白色土器1点, 土器134点, 瓦1点, 石製品2点である。遺物の収拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層80点, 下層9点で他は覆土一括である。

図示した23点(874~896<sup>[144]</sup>)は, 874が青磁, 875~877が青花, 878が染付, 879が磁器, 880~888が陶器, 889が炆器, 890が瓦器, 891~895が土器, 896が石製品である。



第100図 SK58・SK63・SK64・SK65・SK120平面図・断面図



第101図 SK58出土遺物

874は肥前の青磁・大皿で17世紀の製品である。875～877は景德鎮の青花・小坏で17世紀前半の製品である。878は肥前の染付・碗で17世紀後半の製品である。色絵付も施される。879は肥前の磁器・水滴である。880は瀬戸の陶器・天目茶碗で17世紀の製品である。881は陶器・碗で見込に呉須文様がある。882は肥前の陶器・刷毛目二彩手中皿で17世紀末～18世紀前半の製品である。883～885は唐津の陶器・皿で17世紀頃の製品である。886は瀬戸の陶器・皿である。887は唐津の陶器・捏鉢である。888は唐津の陶器・茶壺で17世紀の製品である。889は備前の炆器・搗鉢で17世紀後半の製品である。890は土佐型の瓦器・鍋で14～15世紀の製品である。891～893は在地の土器・小皿である。894は土器・焼塩壺で17世紀の製品である。895は土器・壺である。896は千枚岩製の石製品である。

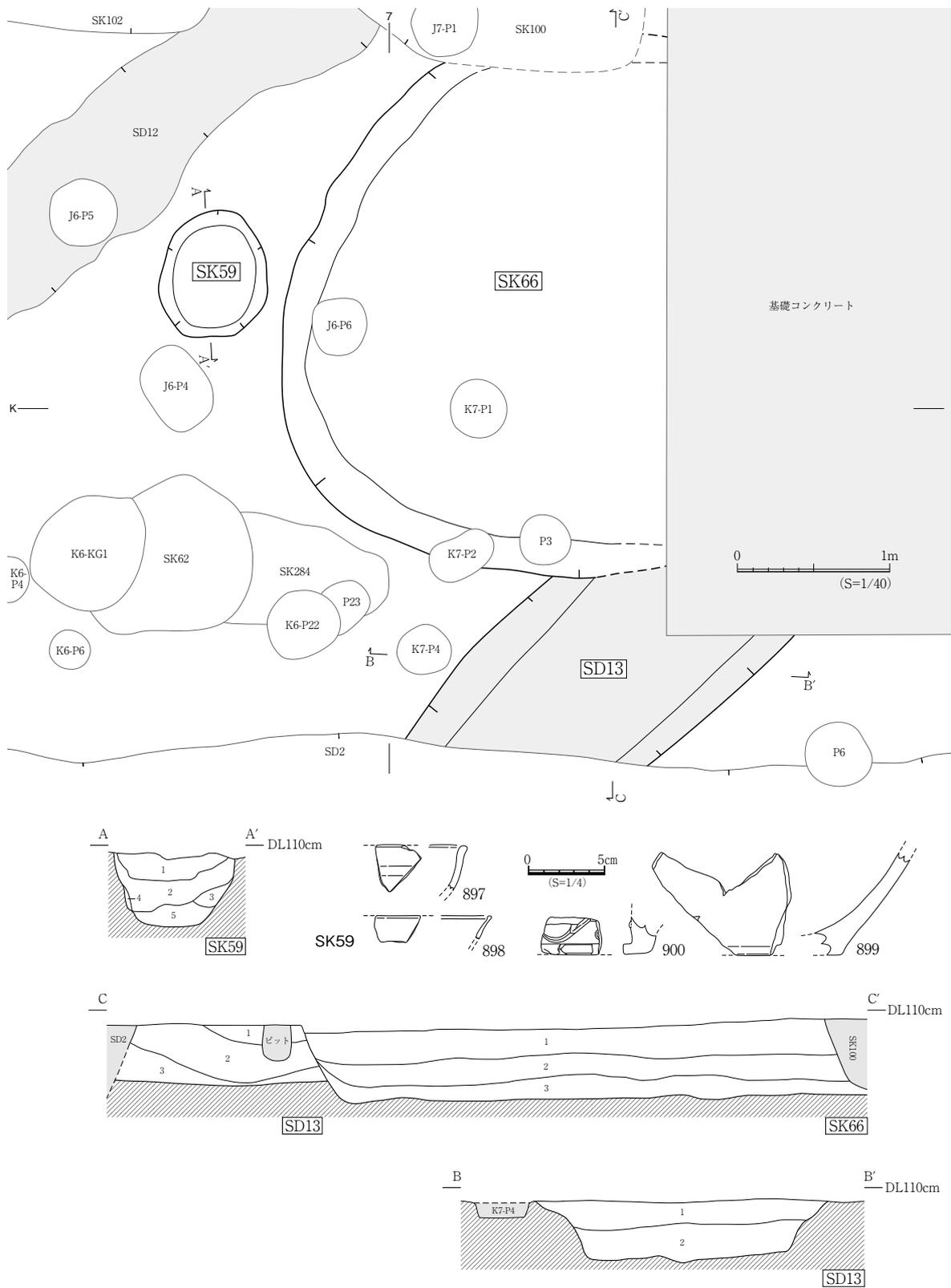
時期 17世紀。出土遺物には混入もあるが最も新しいのは17世紀の製品である。

性格 廃棄土坑。

**SK59** (11～12世紀の柱穴か) (遺構:第102図・PI.58<sup>[404]</sup>, 遺物:第102図・PI.137<sup>[483]</sup>)

位置・調査経過 J6グリッドに位置する。Ⅲb・c層で確認した。単独である。

形状・規模 南北方向(N-7°-W)に長い楕円形の土坑で断面台形の掘方を持つ。長さ89cm, 幅71cm, 深さ50cmである。



第102図 SK59・SK66・SD13平面図・断面図, SK59出土遺物

**覆土** 南北方向で覆土断面を観察した(第102図A-A')。5層に分かれる。1層は灰色土層で瓦礫を含む。2層は暗褐色土層で多量のマンガン粒・灰色粘土粒を含む。3層はやや粗い黒褐色土層である。4層は暗褐色土層で多量のマンガン粒を含む。5層は暗褐色土層で上部に鉄分が凝集している。

**出土遺物** 26点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付3点, 陶器2点, 瓦器1点, 白色土器4点, 土器15点, 瓦1点である。覆土一括で収拾した。

図示した4点(897~900<sup>[145]</sup>)は、**897**が在地の土器・壺で11~12世紀の製品である。**898**は在地の土器・坏皿で古代の製品とみられる。<sup>[観327]</sup>**899**は在地の土器・壺で古代の製品とみられる。**900**は軒平瓦で11世紀頃の製品とみられる。

**時期** 11~12世紀。出土遺物は11~12世紀の製品である。

**性格** 柱穴か。

**SK63** (中世の大型土坑) (遺構: 第100図<sup>[143]</sup>・PI.59<sup>[405]</sup>, 第103図・PI.137<sup>[483]</sup>)

**位置・調査経過** KL・7~8グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SD2・SK39を切り, SK58・SK65に切られる。

**形状・規模** 東西方向(N-84°-E)に長い不整楕円形の土坑である。北側縁が張り出し, 東端はやや窄まる。掘方の断面は台形である。長さ577cm, 幅309cm, 深さ60cmである。

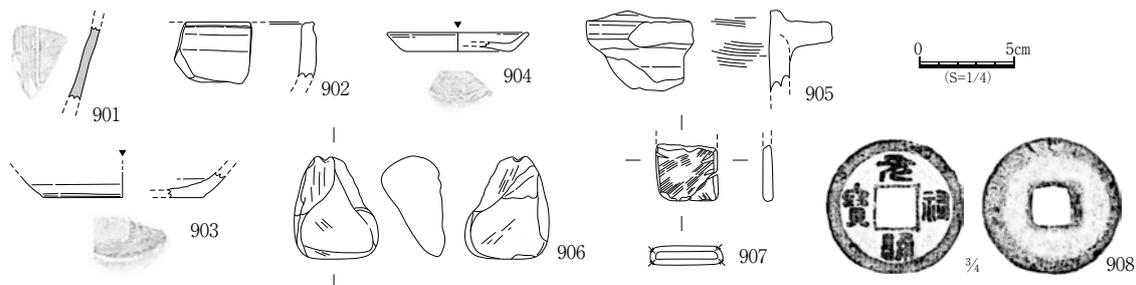
**覆土** 長軸方向(第100図C-C'), 短軸方向(第100図B-B')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1~6層)は1層が灰黄褐色土層で炭化物・山土粒を含む。2・3層は黄灰色土層である。4層は黒褐色土層で山土粒を含み鉄分が凝集する。5層は暗灰黄色土層で炭化物・マンガン粒を含む。6層は褐灰色土層で炭化物・マンガン粒を含む。下層(7~10層)は7・8層が灰褐色シルト層で炭化物を含み鉄分が凝集する。9層は灰色シルト層で炭化物を含む。10層は褐灰色シルト層でマンガン粒を含む。

**出土遺物** 165点の遺物が出土した。内訳は炆器2点, 瓦器14点, 弥生土器1点, 白色土器9点, 土器135点, 土製品2点, 石製品1点, 銭貨1点である。層位別の内訳は上層83点, 下層16点で他は覆土一括である。

図示した8点(901~908)は、**901**が在地の瓦器・播鉢で13~14世紀の製品である。**902**は弥生時代中期~後期の土器・高坏である。<sup>[観328]</sup>**903**は在地の土器・坏皿で古代の製品とみられる。**904**は土器・小皿で古代の製品である。**905**は摂津の土器・羽釜で10~11世紀の製品である。**906**は土製品で転用砥石とみられる。角に丸味があり, 部分的に砥面が形成される。**907**は粘板岩製の砥石である。**908**は銅銭・元祐通寶である。

**時期** 中世。SD2を切る。出土遺物には混入がある。

**性格** 大型土坑。



第103図 SK63出土遺物

**SK64**〈近世の土坑〉(遺構:第100図<sup>[143]</sup>・PI.59<sup>[405]</sup>, 遺物:第104図・PI.137<sup>[483]</sup>)

位置・調査経過 L7グリッドに位置する。盛土層の範囲外にありⅢb層で確認した。覆土と地山の識別が困難で底を適切に検出することが出来なかった。単独である。

形状・規模 北東-南西方向(N-42°-E)に長い隅丸長方形の土坑である。底には凹凸があり緩やかに立ちあがる。長さ90cm, 幅54cm, 深さ11cmである。

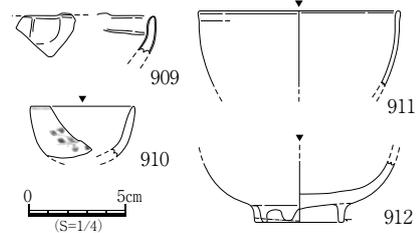
覆土 長軸方向(第100図E-E')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は黒褐色土層で炭化物・小石を含む。遺物を含む。2層はオリブ灰色土層, 3層は黄灰色土層である。

出土遺物 11点の遺物が出土した。内訳は青磁1点, 染付1点, 陶器2点, 土器6点, 鉄器1点である。上層からのみ出土した。

図示した4点(909~912)は, <sup>[観328]</sup>909が肥前の青磁・鉢である。910は肥前の染付・小坏である。911は肥前の陶器・丸碗で17世紀の製品である。912は肥前の陶器・丸碗である。

時期 近世。出土遺物は近世の製品である。

性格 土坑。



第104図 SK64出土遺物

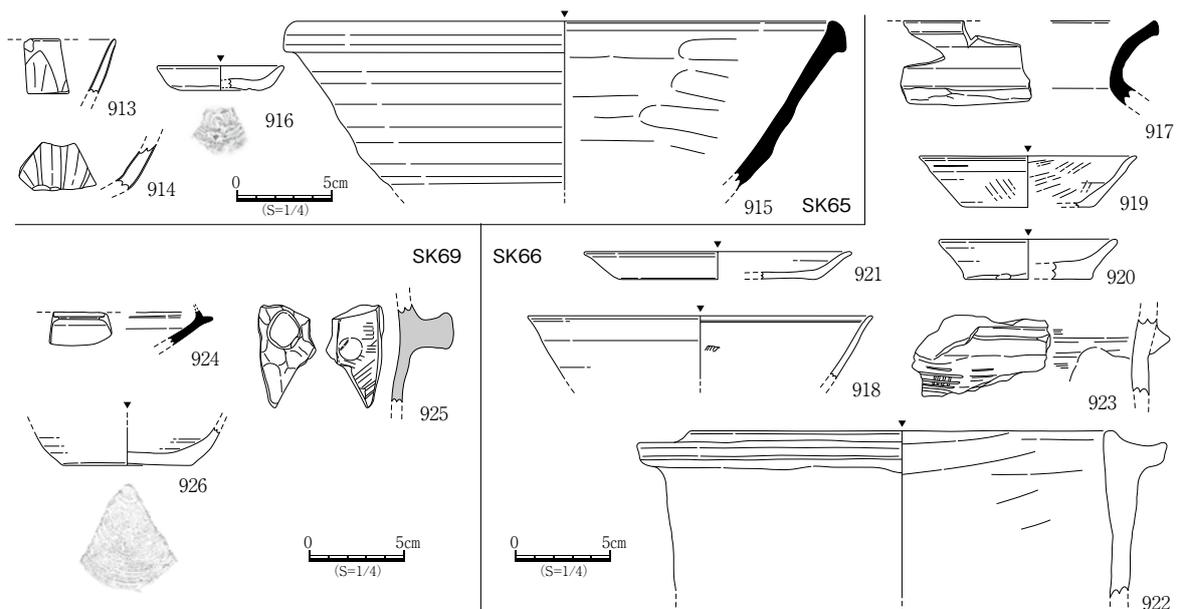
**SK65**〈中世の土坑〉(遺構:第100図<sup>[143]</sup>・PI.59<sup>[405]</sup>, 第105図・PI.137<sup>[483]</sup>)

位置・調査経過 L・7~8グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK63を切る。

形状・規模 平面は円形でボウル形の掘方をもつ。径105cm大, 深さ33cmである。

覆土 北西軸(第100図D-D')で覆土断面を観察した。5層に分かれる。1層は黒褐色土層で炭化物・小石を含む。2層は暗褐色土層で炭化物・山土粒を含む。3層は黒褐色土層で炭化物を含む。4層は暗灰黄色土層, 5層は灰褐色土層で灰色粘土粒を含む。

出土遺物 20点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁2点, 須恵器1点, 瓦器1点, 土器15点, 瓦1点である。覆土一括で収拾した。



第105図 SK65・SK66・SK69出土遺物

図示した4点(913~916<sup>[147]</sup>)は、913が龍泉窯の青磁・碗で14世紀後半~15世紀前半の製品である。<sup>[観328]</sup>914は龍泉窯の青磁・碗で13~14世紀の製品である。915は東播系の須恵器・捏鉢で12世紀の製品である。916は在地の土器・小皿である。

時期 中世。SK63を切る。出土遺物には混入がある。

性格 土坑。

**SK66**〈中世の大型土坑〉(遺構:第102図<sup>[145]</sup>・PI.60<sup>[406]</sup>, 遺物:第105図<sup>[147]</sup>・PI.137・138<sup>[483-484]</sup>)

位置・調査経過 JK・7グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。東半分は近現代建物基礎に削り取られる。SD13を切り, SK100に切られる。

形状・規模 平面はやや歪な円形である。底はおよそ水平に均され壁は垂直に近い角度で立ちあがる。平面は362cm大, 深さ59cmである。

覆土 南北方向で覆土断面を観察した(第102図C-C')。3層に分かれる。1層は暗褐色土層で炭化物・焼土・マンガン粒を含む。2層は灰黄褐色シルト層で炭化物・マンガン粒を含む。3層は灰褐色土層でマンガン粒・灰色粘土粒を含む。

出土遺物 253点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は磁器2点, 炆器3点, 須恵器4点, 瓦器1点, 白色土器1点, 土器241点, 鉄器1点である。遺物の収拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層51点, 下層13点で他は覆土一括である。

図示した7点(917~923<sup>[147]</sup>)は、917が須恵器・壺で古代の製品である。918は在地の土器・坏である。<sup>[観328]</sup>919は在地の土器・坏皿で15世紀の製品である。920は土器・小皿で中世の製品である。921は在地の土器・皿で9~10世紀頃の製品である。922は撰津の土器・羽釜で10~11世紀の製品である。923は播磨型の土器・羽釜で15世紀の製品である。

時期 中世。出土遺物には混入もあるが最も新しいのは中世の製品である。

性格 大型土坑。

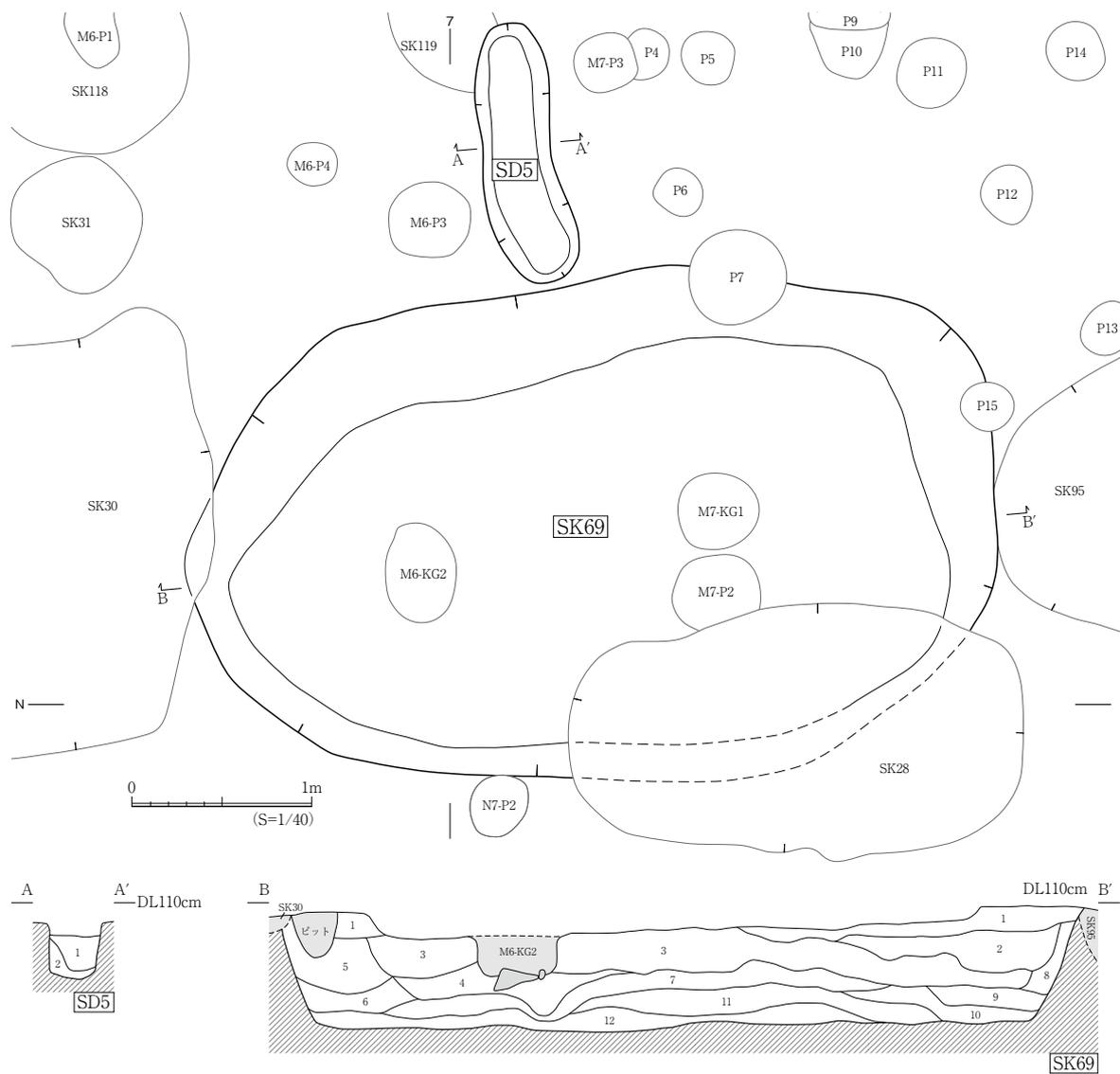
**SK69**〈中世の大型土坑〉(遺構:第106図・PI.60<sup>[406]</sup>, 遺物:第105図<sup>[147]</sup>・PI.138<sup>[484]</sup>)

位置・調査経過 MN・6~7グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK95を切り, SK28・SK30に切られる。

形状・規模 東西方向(N-70°-E)に長い楕円形の大型土坑である。壁は垂直に近い角度で掘り込まれ, 底はやや凹凸があるがほぼ水平に均されている。長さ450cm, 幅280cm, 深さ68cmである。

覆土 長軸方向(第106図B-B')で覆土断面を観察した。12層に分かれる。1層は黒褐色土層で焼土・山土粒・マンガン粒・小石を含む。2層は暗灰黄色土層でマンガン粒を含む。3層は褐灰色土層で小石を含み鉄分の凝集がみられる。4層は灰黄褐色土層で鉄分の凝集がみられる。5層は暗褐色土層でマンガン粒を含む。6層は暗褐色土層で鉄分の凝集がみられる。7層はにぶい黄褐色土層で砂を含み下部に鉄分の凝集がみられる。8層はにぶい黄褐色土層でマンガン粒を含む。9層は灰褐色砂質土層, 10層はにぶい黄褐色土層でマンガン粒を含む。11・12層は褐灰色砂質シルト層である。

出土遺物 16点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は炆器1点, 須恵器2点, 瓦器1点, 弥生土器1点, 土器11点である。遺物の収拾は最上層・最下層を別途区分して行い他は覆土一括で収拾した。内訳は最上層9点, 最下層2点, 覆土5点である。



第106図 SK69・SD5平面図・断面図

図示した3点(924~926<sup>[147]</sup>)は、924が須恵器・蓋坏で6世紀の製品である。全体が水磨され磨滅している。925は瓦器・鍋の把手とみられる。把手は棒状で先端が喇叭形に開く。中世の製品とみられる。926は在地の土器・坏皿で中世の製品である。

時期 中世。出土遺物には混入があるが中世の製品を含む。

性格 大型土坑。

**SK70**〈11世紀頃の小土坑〉(遺構:第107図<sup>[150]</sup>・PI.60<sup>[406]</sup>,遺物:第107図<sup>[150]</sup>・PI.138<sup>[484]</sup>)

位置・調査経過 J8グリッドに位置する。Ⅲb・c層で確認した。SD13(SK71)に切られる。

形状・規模 北西-南東方向(N-67°-W)に長い楕円形の土坑でボウル形に近い掘方をもつ。残存長は70cm,幅57cm,深さ20cmである。

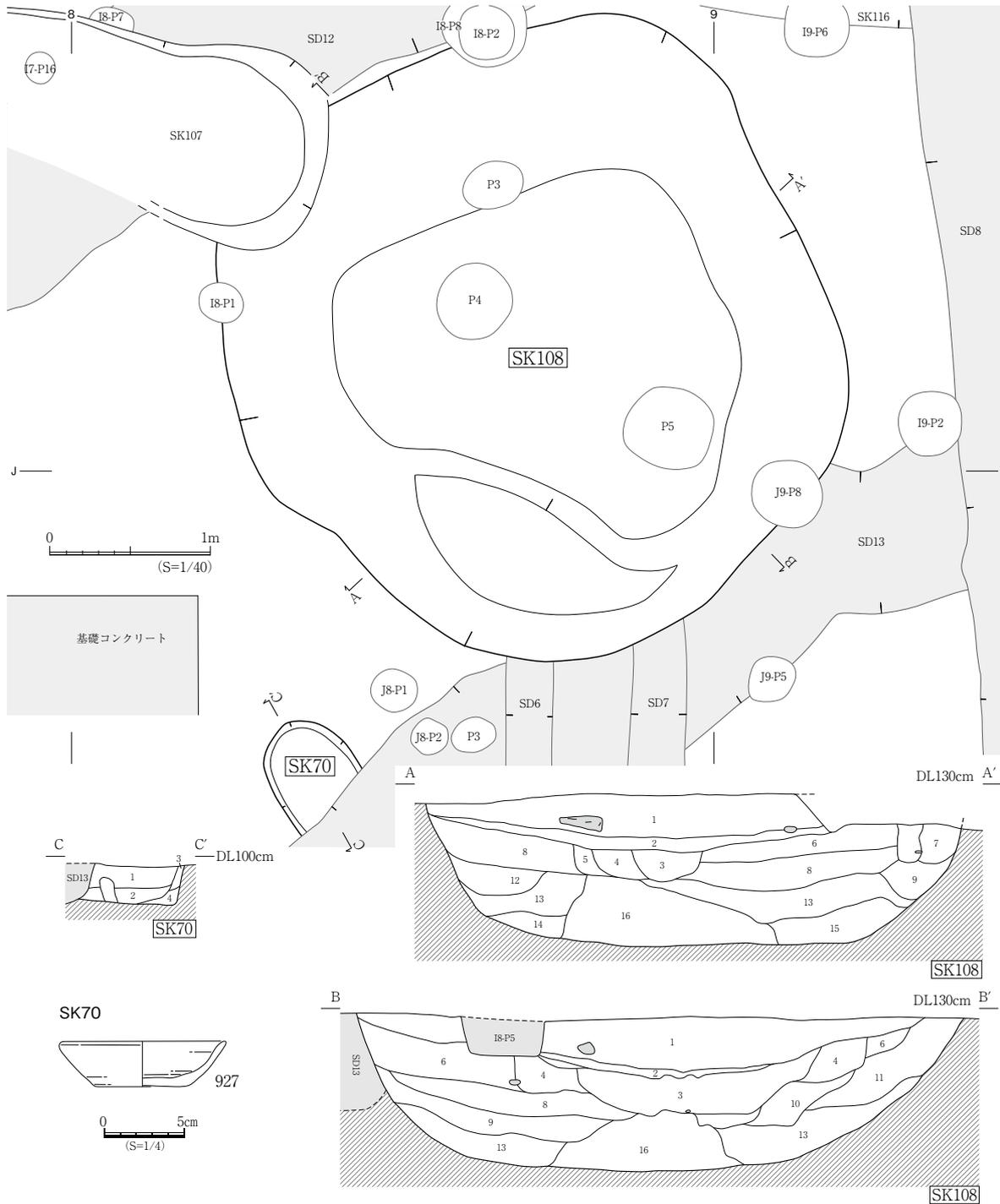
覆土 長軸方向(第107図C-C')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は暗褐色砂質シルト層,2層は暗褐色シルト層である。3層は灰褐色シルト層,4層は暗褐色シルト層で焼土を含む。

出土遺物 5点の遺物が出土した。白色土器2点, 土器3点が覆土から出土した。

図示した1点(927)は, 在地の土器・坏皿で11世紀頃の製品である。やや厚手で外底には回転篋切の痕跡が残る。  
〔観328〕

時期 11世紀頃。SD13に切られる。出土遺物には11世紀頃の製品を含む。

性格 小土坑。



第107図 SK70・SK108平面図・断面図, SK70出土遺物

**SK75**〈15世紀末～16世紀初の土坑〉(遺構:第108図・Pl.61<sup>[407]</sup>,遺物:第108図・Pl.138<sup>[484]</sup>)

位置・調査経過 KL・8～9グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SD6・SD7・SD8を切り、SX4・SX5・SK76・SK88・SK104に切られる。

形状・規模 北東-南西方向(N-62°-E)にやや長い楕円形の土坑で断面隅丸台形の掘方を持つ。平面300×250cm,深さ48cmである。

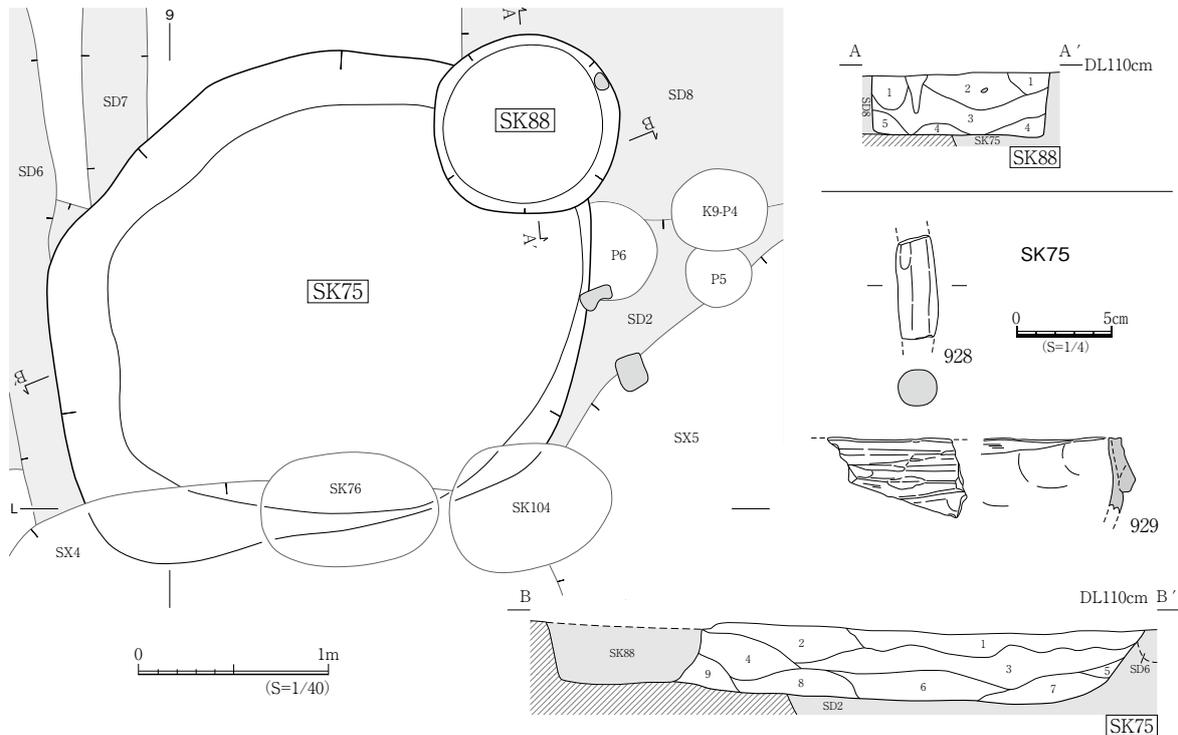
覆土 長軸方向(第108図B-B')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1～5層)は灰褐色シルト層でマンガン粒を含む。下層(6～9層)は褐灰色砂質シルト層でマンガン粒を含む。

出土遺物 55点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は瓦器5点,白色土器10点,土器40点である。遺物の收拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層20点で他は覆土一括である。

図示した2点(928・929)は、**928**が瓦器・三足鍋の脚部で14世紀の製品である。**929**は瓦器・三足鍋で13～14世紀の製品である。

時期 15世紀末～16世紀初。SD8とSX4の間に入る。出土遺物には混入もあるが中世の製品を含む。

性格 土坑。



第108図 SK75・SK88平面図・断面図, SK75出土遺物

**SK78**〈土坑〉(遺構:第74図<sup>[109]</sup>・Pl.61<sup>[407]</sup>,遺物:第109図<sup>[152]</sup>・Pl.138<sup>[484]</sup>)

位置・調査経過 M9グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SX4を切る。

形状・規模 南北方向(N-20°-W)に長い楕円形の土坑である。壁は垂直に掘り込まれ,底はボウル状をなす。長さ103cm,幅73cm,深さ57cmである。

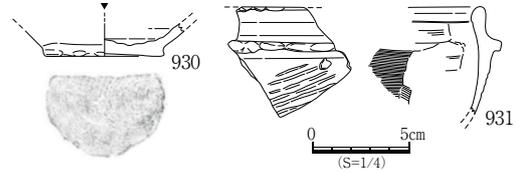
覆土 長軸方向(第74図F-F')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1～3層)は1層が黒褐色土層で炭化物を含む。2層は灰褐色シルト層で炭化物・焼土を含む。3層は褐灰色シルト層で炭化物を含む。下層(4～6層)は灰色砂質シルト層である。

出土遺物 8点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点, 土器7点である。遺物の収拾は上層・下層に分けて行った。上層5点, 下層1点で他は覆土一括である。

図示した2点(930・931)は、**930**が在地の土器・坏皿  
[観328-329]  
で中世の製品である。**931**は播磨型の土器・羽釜で13  
世紀後半の製品である。

時期 16世紀か。SX4を切る。出土遺物には混入もあるが中世の製品を含む。

性格 土坑。



第109図 SK78出土遺物

**SK79**〈近世の土坑〉(遺構:第110図・Pl.61<sup>[407]</sup>, 遺物:第110図・Pl.138<sup>[484]</sup>)

位置・調査経過 L10グリッドに位置する。ⅢF層で確認した。SK123・L10-P9の上部にある。

形状・規模 東西方向(N-62°-E)に長い楕円形の土坑である。底には凹凸があり壁は急傾斜で立ちあがる。長さ85cm, 幅53cm, 深さ10cmである。

覆土 長軸方向(第110図C-C')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は黒褐色土層で炭化物・焼土・山土粒を含む。遺物を含む。2層は褐灰色土層で鉄分の凝集がみられる。3層は灰褐色土層である。

出土遺物 8点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器8点でいずれも覆土一括で収拾した。

図示した1点(932)は在地の土器・小皿である。  
[観329]

時期 近世。ⅢF層で確認した。

性格 土坑。

**SK80**〈土坑〉(遺構:第110図・Pl.61<sup>[407]</sup>)

位置・調査経過 JK・10グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK124の上部にある。

形状・規模 南北方向(N-15°-W)に長い楕円形の土坑で断面低台形の掘方をもつ。長さ142cm, 幅124cm, 深さ14cmである。

覆土 長軸方向(第110図A-A')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は茶褐色シルト層でマンガン粒を含む。2層は灰褐色シルト層でマンガン粒・灰色土粒を含む。3層は褐灰色シルト層で灰色土粒を含み鉄分の凝集がみられる。4層は灰褐色シルト層で鉄分の凝集がみられる。

出土遺物 19点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は須恵器1点, 瓦器1点, 白色土器1点, 土器16点である。覆土一括で収拾した。

時期 11世紀頃か。出土遺物は11世紀頃の製品を含む。混入の可能性もある。

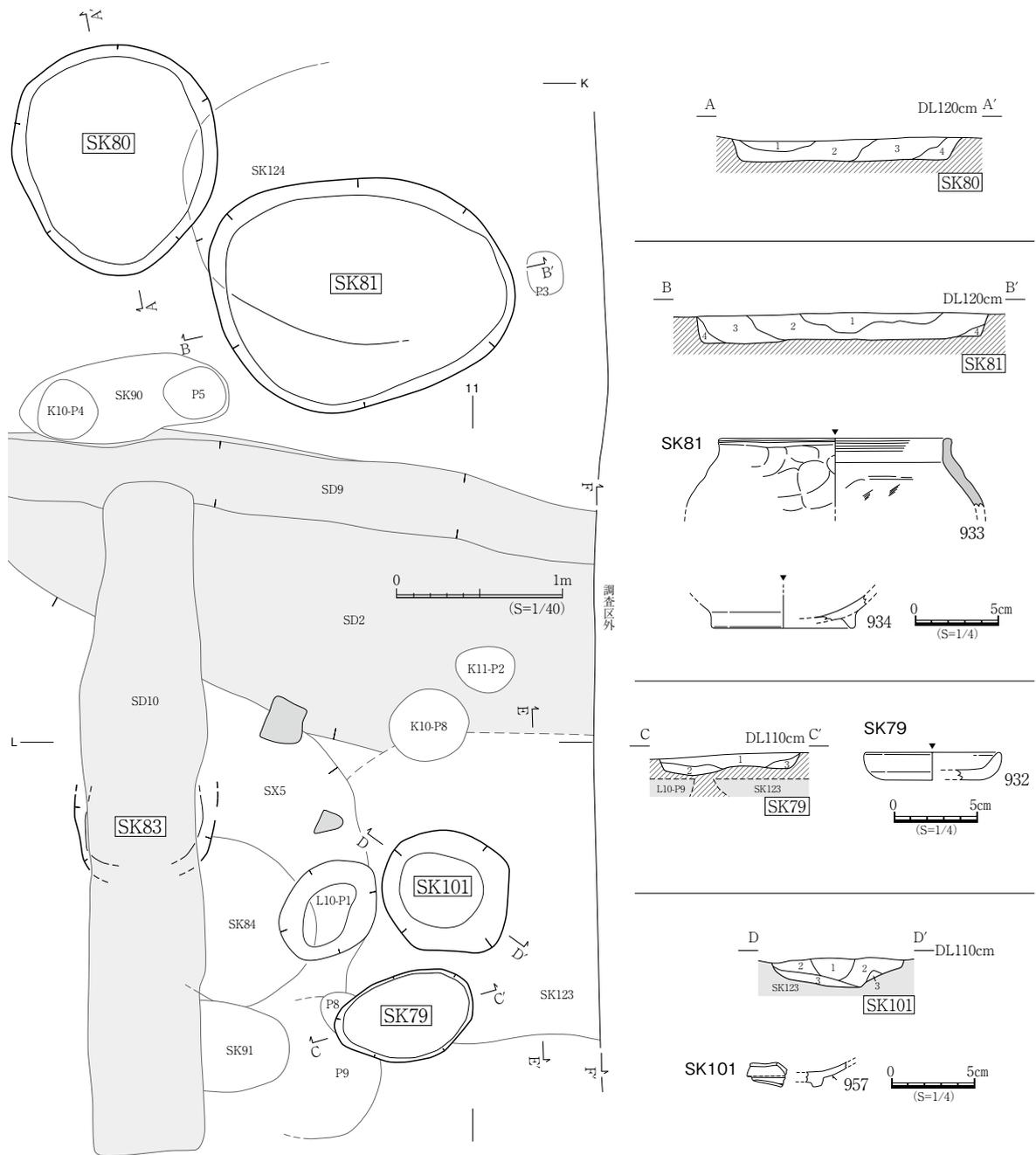
性格 土坑。

**SK81**〈中世の土坑〉(遺構:第110図・Pl.62<sup>[408]</sup>, 遺物:第110図・Pl.138<sup>[484]</sup>)

位置・調査経過 K・10~11グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK124の上部にある。

形状・規模 東西方向(N-66°-E)に長い平面卵形の土坑である。底は水平に均され壁は垂直に立ちあがる。長さ174cm, 幅140cm, 深さ14cmである。

覆土 長軸方向で覆土断面を観察した(第110図B-B')。4層に分かれる。1層は灰褐色シルト層で鉄分の凝集が少量みられる。2層は褐灰色シルト層で少量の炭化物を含み鉄分の凝集が筋状にみられる。



第110図 SK79・SK81・SK101 平面図・断面図・出土遺物, SK83平面図, SK80平面図・断面図

3層は灰褐色シルト層で炭化物を含む。4層は褐灰色シルト層でマンガン粒を含む。

出土遺物 36点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は瓦器3点, 白色土器2点, 土器31点である。覆土一括で収拾した。

図示した2点(933・934)は、933が土佐型の瓦器・鍋で14～15世紀の製品である。934は輪高台の土器・<sup>[観329]</sup> 碗で11～12世紀の製品である。

時期 中世。出土遺物には混入もあるが中世の遺物を含む。

性格 土坑。

**SK82** (近世の土坑) (遺構: 第111図・PI.62<sup>[408]</sup>, 遺物: 第111図・PI.138<sup>[484]</sup>)

位置・調査経過 M・10～11グリッドに位置する。ⅢF層で確認した。SX5を切り、SX3に切られる。東側は調査区外にのびる。

形状・規模 平面が楕円形、断面が台形の土坑である。残存規模は長さ240cm、幅100cm、深さ60cmである。

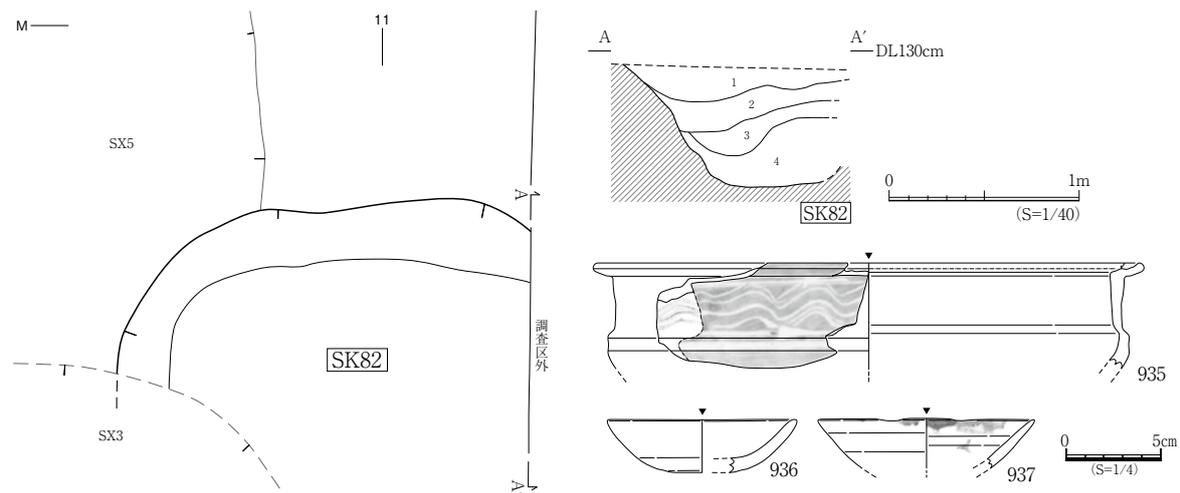
覆土 調査区東壁(第111図A-A')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。いずれも鉄分の凝集がみられる。1層は灰色土層で炭化物を含む。2層は青灰色土層、3層は黒褐色土層で炭化物・シルトブロックを含む。4層は大部分がグライ化したシルトブロック層で炭化物を含む。

出土遺物 46点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁2点、染付1点、磁器2点、陶器8点、白色土器2点、土器20点、瓦11点である。覆土一括で収拾した。

図示した3点(935～937)は、935が肥前の陶器・刷毛目鍋である。936・937は在地の土器・坏皿で近世の製品である。動物遺体にはサンゴ、アカニシ、サザエがある(付編2<sup>[275]</sup>)。

時期 近世。ⅢF層で構築された。出土遺物は近世の製品である。

性格 土坑。



第111図 SK82平面図・断面図・出土遺物

**SK83** (近世の土坑) (遺構: 第110図<sup>[153]</sup>・PI.22<sup>[368]</sup>, 遺物: 第112図・PI.138<sup>[484]</sup>)

位置・調査経過 L10グリッドに位置する。ⅢF層で確認した。SD10に切れ縁辺が僅かに残るのみである。SX5・SK84を切る。

形状・規模 平面は円形でボウル形の掘方をもつ。径85cm大で、深さは18cmまでを確認した。

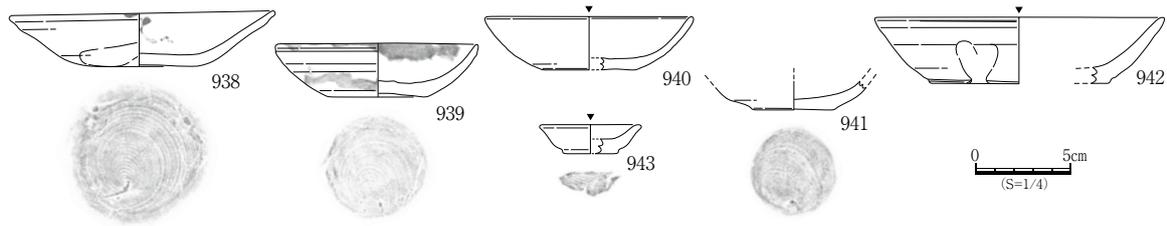
覆土 SD10とともに覆土断面を観察した。わずかに残る褐灰色シルト層の堆積を確認した。

出土遺物 21点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点、陶器1点、土器19点である。覆土一括で収拾した。

図示した6点(938～943)は、938～941が在地の土器・坏皿で近世の製品である。942は在地の土器・皿で近世の製品である。943は在地の土器・小皿で近世の製品である。

時期 近世。出土遺物は近世の製品である。

性格 土坑。



第112図 SK83出土遺物

**SK88**〈中世の柱穴か〉(遺構:第108図<sup>[151]</sup>・PI.62<sup>[408]</sup>, 遺物:第113図・PI.139<sup>[485]</sup>)

**位置・調査経過** K9グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SD8・SK75を切る。

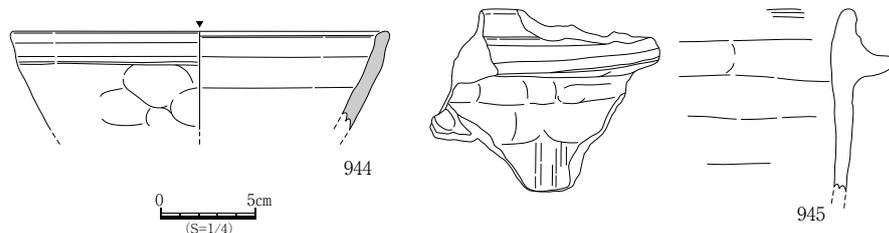
**形状・規模** 平面円形で筒形の掘方をもつ。径97cm, 深さ33cmである。

**覆土** 南北方向(第108図A-A)で覆土断面を観察した。5層に分かれる。1層は黒褐色シルト層でマンガン粒を含む。2層はオリーブ灰色シルト層で山土粒を含む。3層は褐灰色シルト層でマンガン粒を含む。4層は褐灰色砂質シルト層, 5層は灰褐色シルト層である。

**出土遺物** 11点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は瓦器1点, 白色土器1点, 土器9点である。覆土一括で収拾した。図示した2点(944・945)は, 944が瓦器・鉢で中世の製品である。945は摂津の土器・羽釜<sup>[観329]</sup>で10～11世紀の製品である。

**時期** 中世。出土遺物には混入もあるが中世の製品を含む。

**性格** 柱穴か。



第113図 SK88出土遺物

**SK94**〈古代の溝状土坑もしくはSD13の一部〉(遺構:第91図<sup>[134]</sup>・PI.62<sup>[408]</sup>, 遺物:第91図<sup>[134]</sup>・PI.139<sup>[485]</sup>)

**位置・調査経過** L・5～6グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SD2・SK34・SK36・SK37・SK39に切られる。SD13の一部である可能性がある。この場合, SK39の中層(SD13部分)の南西延長にあたり溝の方向が南西から北西に折れることになる。

**形状・規模** 北西-南東方向(N-78°-W)に長い溝状の土坑である。短軸方向の断面は台形である。幅200cm, 深さ55cmで, 長さは535cmまでを確認した。

**覆土** 短軸方向の2箇所<sup>[観329]</sup>で覆土断面を観察し一方を図示した(第91図B-B)。上層・中層・下層に分かれる。上層(1～4層)は灰褐色シルト層で炭化物・山土粒・マンガン粒を含む。中層(5～9層)は褐灰色シルト層でマンガン粒を含む。7層は砂質, 8・9層は粘質である。下層(10～12層)は灰色シルト層でマンガン粒・山土粒を含み鉄分の凝集がみられる。

**出土遺物** 33点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は須恵器2点, 瓦器4点, 土器26点, 鉄器1点である。

**覆土**一括で収拾した。図示した1点(946<sup>[134]</sup>)は輪高台の須恵器・坏<sup>[観329]</sup>で古代の製品である。

**時期** 古代。出土遺物は古代の製品である。

**性格** 溝状土坑。SD13(古代の区画溝)の一部である可能性もある。

**SK95**〈中世の大型土坑〉(遺構:第87図<sup>[128]</sup>・PI.63<sup>[409]</sup>)

位置・調査経過 M・7～8グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK69に切られる。

形状・規模 東西方向(N-71°-E)に長い楕円形の土坑である。底はおよそ平らであるが西側がやや高い。壁は垂直に近い角度で立ちあがる。長さ261cm, 幅182cm, 深さ47cmである。

覆土 長軸方向(第87図D-D')で覆土断面を観察した。9層に分かれる。1層は黒褐色シルト層で炭化物を含む。2層はにぶい黄褐色シルト層でマンガン粒を含む。3層はにぶい黄褐色砂質シルト層で炭化物を含む。4層は灰褐色シルト層で炭化物・焼土を含む。5層はにぶい黄褐色砂質シルト層で炭化物を含む。6層は褐黄灰色シルト層でマンガン粒を含む。7層は灰褐色シルト層でマンガン粒を含む。8・9層は灰褐色砂質シルト層で山土粒を含む。

出土遺物 5点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は瓦器3点, 土器2点である。覆土一括で収拾した。

時期 中世。中世の遺構であるSK69に切られる。

性格 大型土坑。

**SK96**〈中世の土坑〉(遺構:第97図<sup>[140]</sup>・PI.63<sup>[409]</sup>)

位置・調査経過 L・4～5グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SD12・SK98を切り, SK40・SK54に切られる。

形状・規模 北西-南東方向(N-77°-W)に長い楕円形の土坑で掘方の断面形は隅丸台形である。残存長200cm, 幅174cm, 深さ44cmである。

覆土 長軸方向(第97図C-C')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1～4層)は1・2層が暗褐～黒褐色土層で炭化物を含む。3・4層は灰黄褐色シルト層である。下層(5～12層)は5～8層が暗褐色シルト層でマンガン粒を含む。9～12層が褐灰～灰褐色シルト層である。

出土遺物 10点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は土器8点, 鉄器2点である。覆土一括で収拾した。

時期 中世。中世遺構のSK54に切られる。

性格 土坑。

**SK98**〈中世の土坑〉(遺構:第114図・PI.63<sup>[409]</sup>, 遺物:第114図・PI.139<sup>[485]</sup>)

位置・調査経過 L5グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SD12の上部包含層を掘削し, SK35・SK96に切られる。

形状・規模 南北方向(N-5°-W)に長い楕円形で掘方の断面は台形である。長さ209cm, 幅132cm, 深さ42cmである。

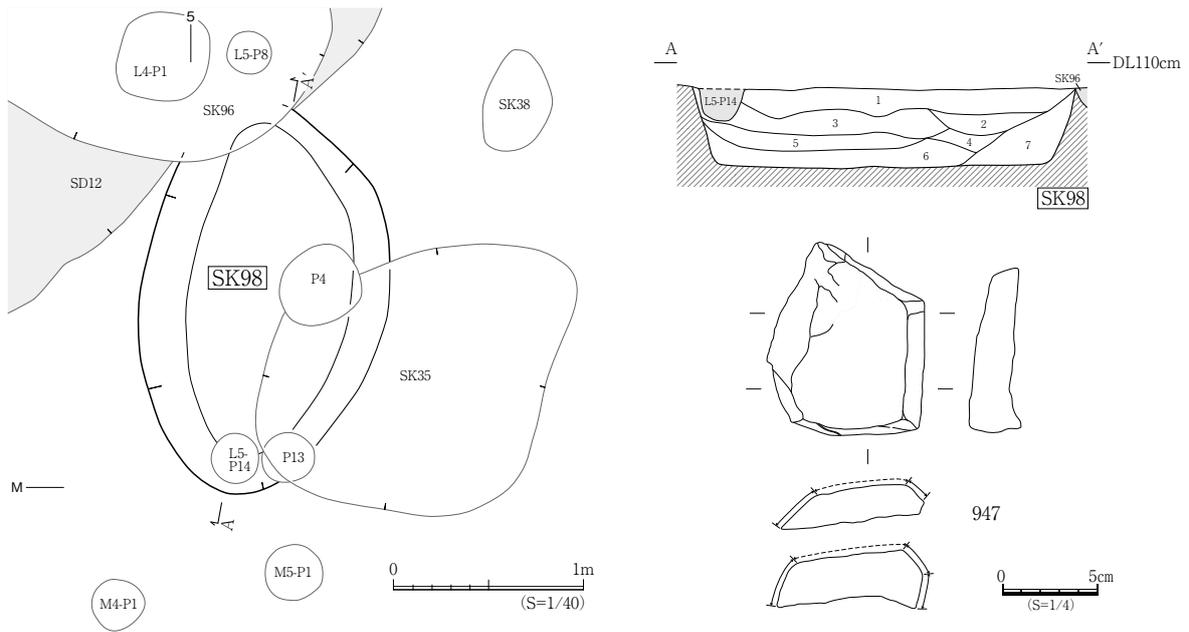
覆土 長軸方向(第114図A-A')で覆土断面を観察した。7層に分かれる。1層は暗褐色シルト層で炭化物を含む。2～7層は褐灰～灰褐色シルト層でマンガン粒・灰色粘土粒を含む。6層は炭化物を含む。

出土遺物 10点の遺物が出土した。土器9点, 石製品1点を覆土一括で収拾した。

図示した1点(947)は砂岩製の石製品である。  
<sup>[観329]</sup>

時期 中世。中世遺構のSK96に切られる。

性格 土坑。



第114図 SK98平面図・断面図・出土遺物

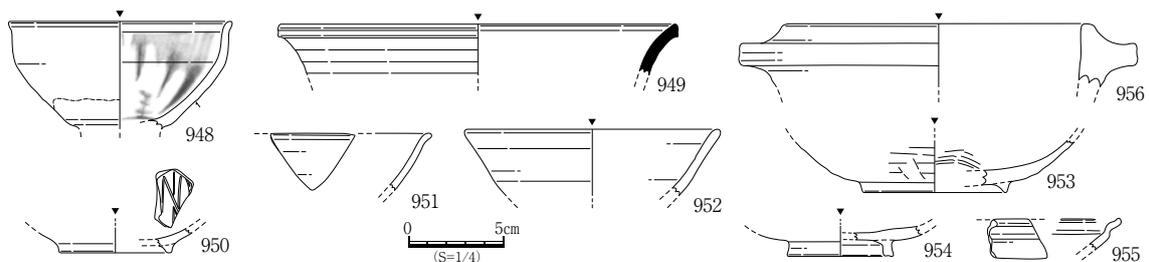
**SK100**〈16世紀の大型土坑〉(遺構:第116図<sup>[158]</sup>・PI.63<sup>[409]</sup>, 遺物:第115図・PI.139<sup>[485]</sup>)

**位置・調査経過** IJ・6~7グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。当初, SK66を切る南縁部分はSK72として調査したが, 北側で確認していたSK100と同一遺構であることが分かりSK72をSK100に含めた。SD12・SK66を切る。

**形状・規模** 北西-南東方向(N-50°-W)にやや長い楕円形で掘方の断面は台形である。長さ333cm, 幅270cm, 深さ48cmである。

**覆土** 東西方向(第116図D-D')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1~5層)は1層が灰色シルト層で鉄分の凝集がみられる。2・3層は灰黄褐色シルト層でマンガン粒・炭化物を含む。4・5層は灰褐色シルト層でマンガン粒を含む。下層(6~9層)は6・7層が灰褐色シルト層で炭化物・焼土・山土粒・マンガン粒を含む。8層はにぶい赤褐色シルト層で多量のマンガン粒を含む。9層は灰色砂質シルト層である。

**出土遺物** 123点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付3点, 磁器1点, 陶器9点, 須恵器2点, 黒色土器1点, 白色土器7点, 土器97点, 石製品1点, 鉄器2点である。遺物はSK72箇所を上層, 他を覆土一括として収拾した。内訳は上層12点, 覆土111点である。



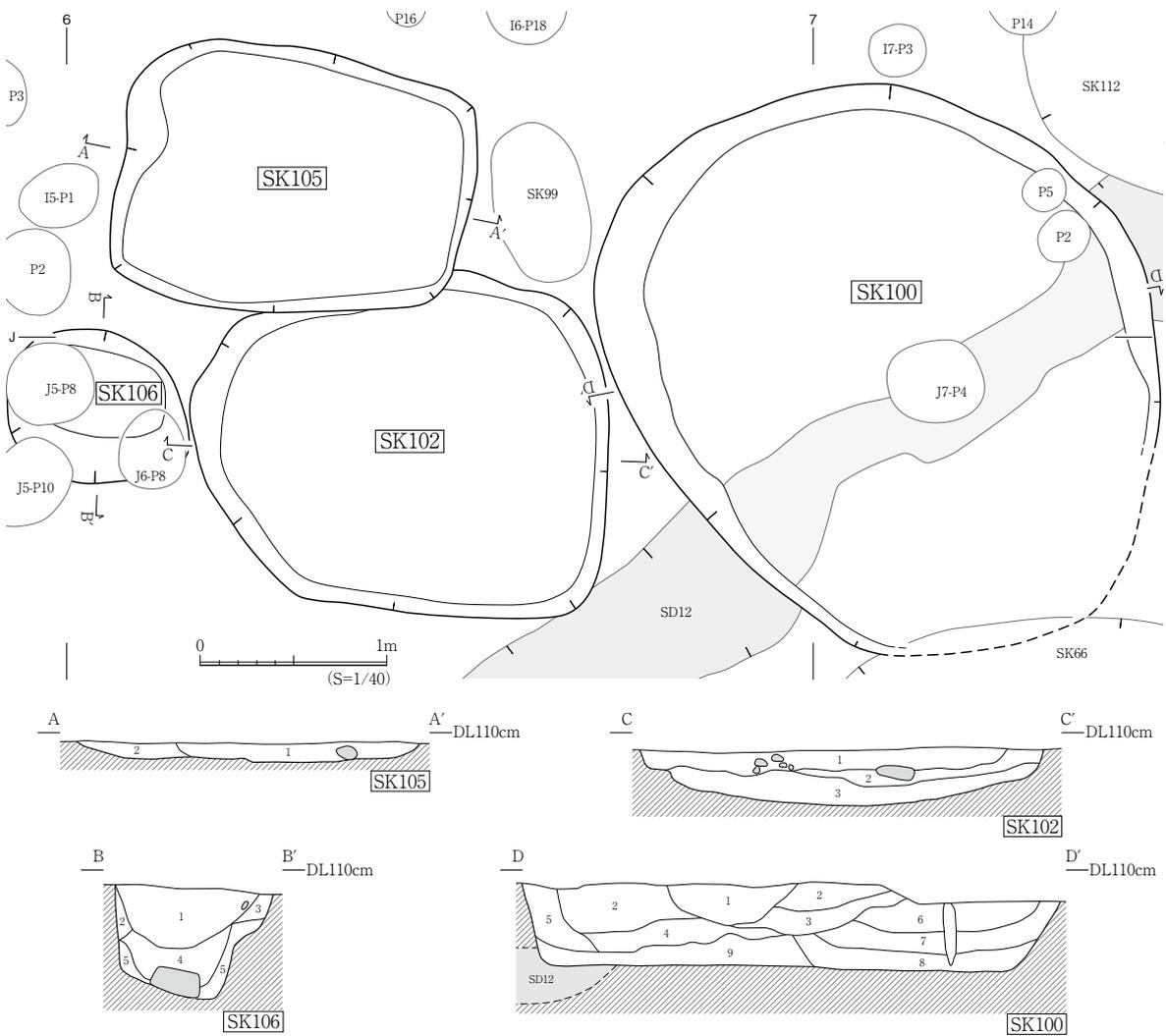
第115図 SK100出土遺物

図示した9点(948～956<sup>[観329]</sup><sub>[157]</sub>)は、948が陶器、949が須恵器、950が黒色土器、951・952が白色土器、953～956が土器である。

948は瀬戸の陶器・天目茶碗で16世紀の製品である。内外面に鉄釉が縞状に垂れる。949は須恵器・甕で古代の製品である。950は楠葉型の黒色土器・埴で11世紀末～12世紀初の製品である。内底にミガキによるジグザグの暗文が施される。951・952は京都系の白色土器・輪高台埴で11～12世紀の製品である。953・954は京都系を模倣した在地の土器・輪高台埴で11～12世紀の製品である。955は京都系の土器・ての字口縁皿で10～11世紀の製品である。956は摂津の土器・羽釜で10～11世紀の製品である。

時期 16世紀。11世紀前後の製品はSD13からの混入と考えられる。出土遺物のうち最も新しいのは16世紀の製品である。

性格 大型土坑。



第116図 SK100・SK102・SK105・SK106平面図・断面図

**SK101**〈柱穴〉(遺構:第110図<sup>[153]</sup>・Pl.64<sup>[410]</sup>,遺物:第110図<sup>[153]</sup>・Pl.139<sup>[485]</sup>)

位置・調査経過 L・10～11グリッドに位置する。ⅢF層で確認した。SK123を切る。

形状・規模 平面は円形で底には凹凸があり緩やかに立ちあがる。径75cm, 深さ17cmである。

覆土 長軸方向(第110図D-D')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層はピット状の灰色粘質シルト層, 2層は灰色シルト層でマンガン粒を含む。3層は褐灰色シルト層で鉄分の凝集がみられる。

出土遺物 3点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白磁1点, 白色土器1点, 土器1点である。覆土一括で収拾した。図示した1点(957<sup>[153]</sup>)は, 中国の白磁・皿で15世紀の製品である。

時期 近世か。ⅢF層を掘削し構築された。出土遺物は混入であろう。

性格 柱穴。

**SK102**〈土坑〉(遺構:第116図・Pl.64<sup>[410]</sup>,遺物:第117図・Pl.139<sup>[485]</sup>)

位置・調査経過 J6グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK105に切られる。

形状・規模 東西方向(N-82°-E)に長い隅丸方形で底は浅い窪み壁は垂直に近い角度で立ちあがる。

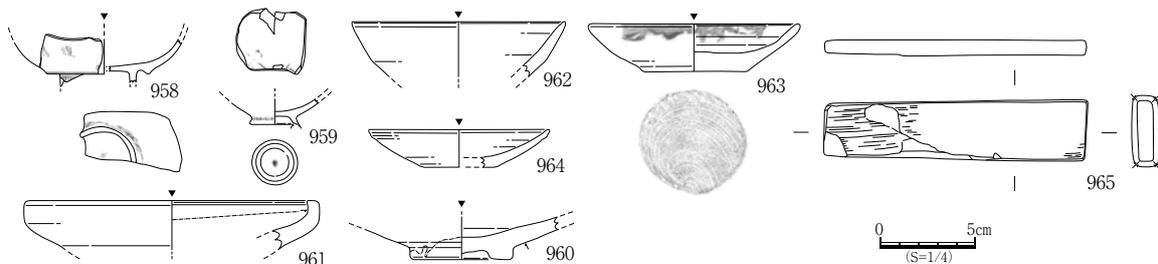
覆土 長軸方向(第116図C-C')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は黒褐色土層で小石・山土粒を含む。2層は黒褐色土層で炭化物・マンガン粒を含む。3層は暗灰黄色土層で鉄分が凝集する。

出土遺物 90点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁2点, 白磁3点, 染付17点, 陶胎染付2点, 陶器20点, 炆器2点, 土器38点, 石製品6点である。覆土一括で収拾した。

図示した8点(958～965)は, 958が肥前産とみられる染付・小坏である。959は瀬戸の染付・小坏で19世紀の製品である。960は唐津の陶器・皿で17世紀の製品である。961は唐津の陶器・鉢である。962～964は在地の土器・坏皿で近世の製品である。965は粘板岩製の砥石である。

時期 17世紀か。17世紀のSK105に切られる。出土遺物には混入がある。

性格 土坑。



第117図 SK102出土遺物

**SK105**〈17世紀の土坑〉(遺構:第116図・Pl.64<sup>[410]</sup>,遺物:第118図<sup>[160]</sup>・Pl.139<sup>[485]</sup>)

位置・調査経過 I6グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK102を切る。

形状・規模 東西方向(N-88°-E)に長い方形の土坑で掘方は浅いボウル状である。長さ188cm, 幅144cm, 深さ12cmである。

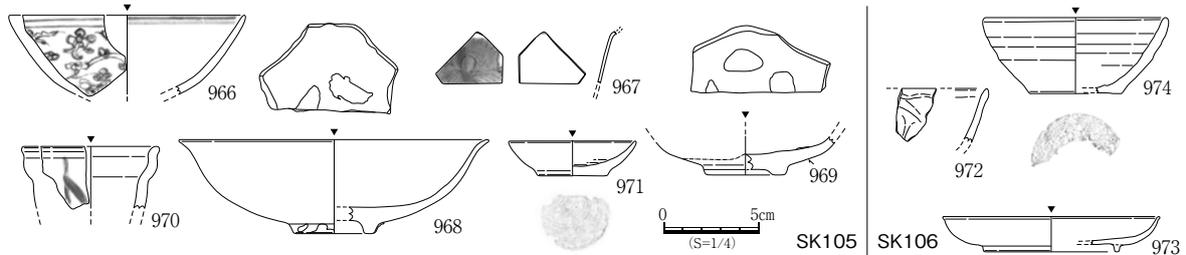
覆土 長軸方向(第116図A-A')で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層は黒褐色砂質土層で炭化物・山土粒を含む。2層は黒色粘土層で炭化物・山土粒を含む。

出土遺物 54点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点, 染付4点, 陶器8点, 炆器2点, 瓦器1点, 白塗土器1点, 土器35点, 瓦2点である。覆土一括で収拾した。

図示した6点(966～971)は、966が初期伊万里の染付・碗で17世紀前半の製品である。967は肥前〔観330〕の染付・小坏で17世紀の製品とみられる。968・969は唐津の陶器・皿で17世紀の製品である。970は唐津の陶器・茶入れで17世紀の製品である。971は尾戸窯とみられる白塗土器・小皿である。

時期 17世紀。出土遺物は17世紀の製品である。

性格 土坑。



第118図 SK105・SK106出土遺物

**SK106** (近世の柱穴) (遺構:第116図〔158〕・PI.64〔410〕, 遺物:第118図・PI.140〔486〕)

位置・調査経過 J・5～6グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。3基のピットに切られる。

形状・規模 東西方向(N-85°-W)に長い楕円形の土坑で南寄り部分が円筒形に掘り込まれる。底には方形に整えられた礎石が置かれていた。上面は長さ105cm, 幅84cmで, 深さは52cmである。

覆土 南北方向(第116図B-B)で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1層)は黒褐色土層で炭化物・焼土・礫を含む。下層(2～5層)は2・3層が暗灰黄色シルト層, 4層が灰オリーブシルト層で炭化物を含む。5層はオリーブ灰色砂質土層である。

出土遺物 20点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点, 白磁1点, 染付3点, 陶器4点, 土器10点, ガラス製品1点である。覆土一括で収拾した。

図示した3点(972～974)は、972が龍泉窯の青磁・碗で15世紀後半～16世紀前半の製品である。973は肥前〔観330〕の白磁・皿である。974は在地の土器・坏皿で近世の製品である。

時期 近世。出土遺物には混入があるが最も新しいのは近世の製品である。

性格 柱穴。

**SK108** (16世紀の大型円形土坑) (遺構:第107図〔150〕・PI.65〔411〕, 遺物:第119図・PI.140〔486〕)

位置・調査経過 IJ・8～9グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SD6・SD7・SD13を切り, SK107に切られる。

形状・規模 平面は円形でボウル状の掘方をもつ。径388cm, 深さ106cmである。

覆土 北東-南西方向(第107図A-A'), 北西-南東方向(第107図B-B)で覆土断面を観察した。上層・中層・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が暗褐色土層で炭化物・焼土・塊石を含む。2層は灰色土層でマンガン粒を含む。中層(3～5層)は3層が暗灰黄色土層で山土粒を含み筋状の炭化物を含む。4層は黒褐色土層で小石・山土粒を含む。5層は灰黄色土層で鉄分の凝集がみられる。下層(6～16層)は灰黄褐～灰褐色シルト層でマンガン粒を含む。16層は不規則にひろがるオリーブ灰色粘質シルト層で有機質起源の土層とみられる。

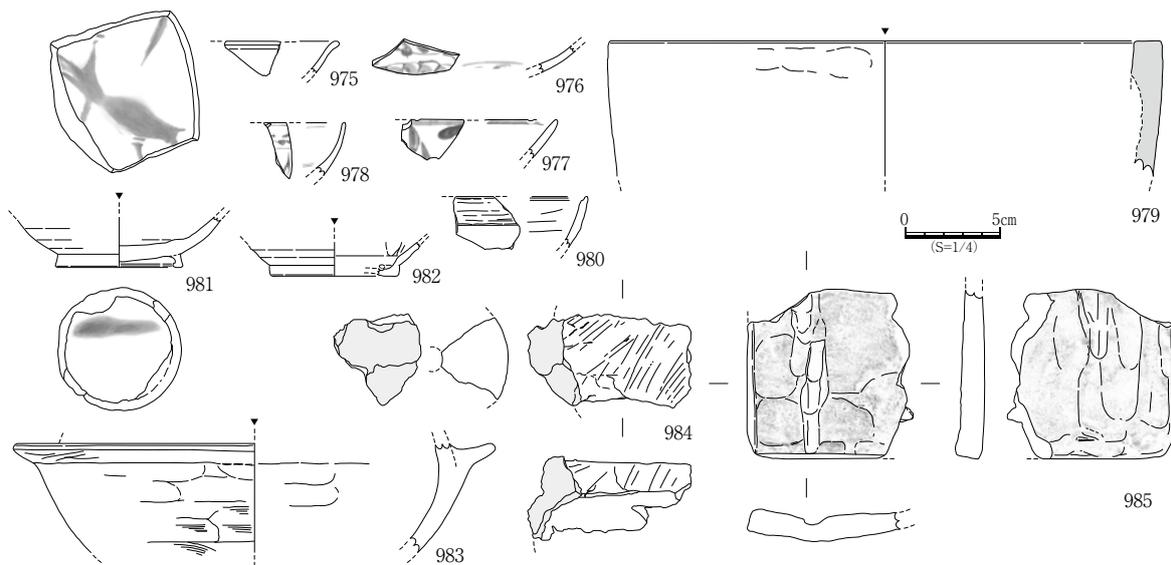
**出土遺物** 160点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点、白磁2点、青花3点、磁器1点、陶胎染付1点、炆器3点、瓦器3点、白色土器6点、土器121点、瓦2点、銭貨1点、鉄器15点、動物遺体1点である。遺物の收拾は上層・中層・下層に分けて行った。内訳は上層64点、中層30点、下層37点で他は覆土一括である。

図示した11点(975~985)は、975が白磁、976~978が青花、979が瓦器、980が黑色土器、981~983が土器、984が土製品、985が瓦である。

975は中国の白磁・皿で16世紀の製品である。976は景德鎮の青花・碗で16世紀の製品である。977は漳州窯の青花・皿である。978は景德鎮の青花・皿で15~16世紀の製品である。979は瓦器・焜炉である。980は楠葉型の黑色土器・坏で11世紀の製品である。981は在地の土器・輪高台碗で11~12世紀の製品である。982は在地の土器・坏で10世紀の製品である。983は土器・茶釜で16世紀の製品である。984は土製品・轡羽口である。先端に鉄が熔着している。985は古代の平瓦である。凹面に紐圧痕が残る。

**時期** 16世紀。出土遺物には混入があるが最も新しいのは16世紀の製品である。

**性格** 大型円形土坑。



第119図 SK108出土遺物

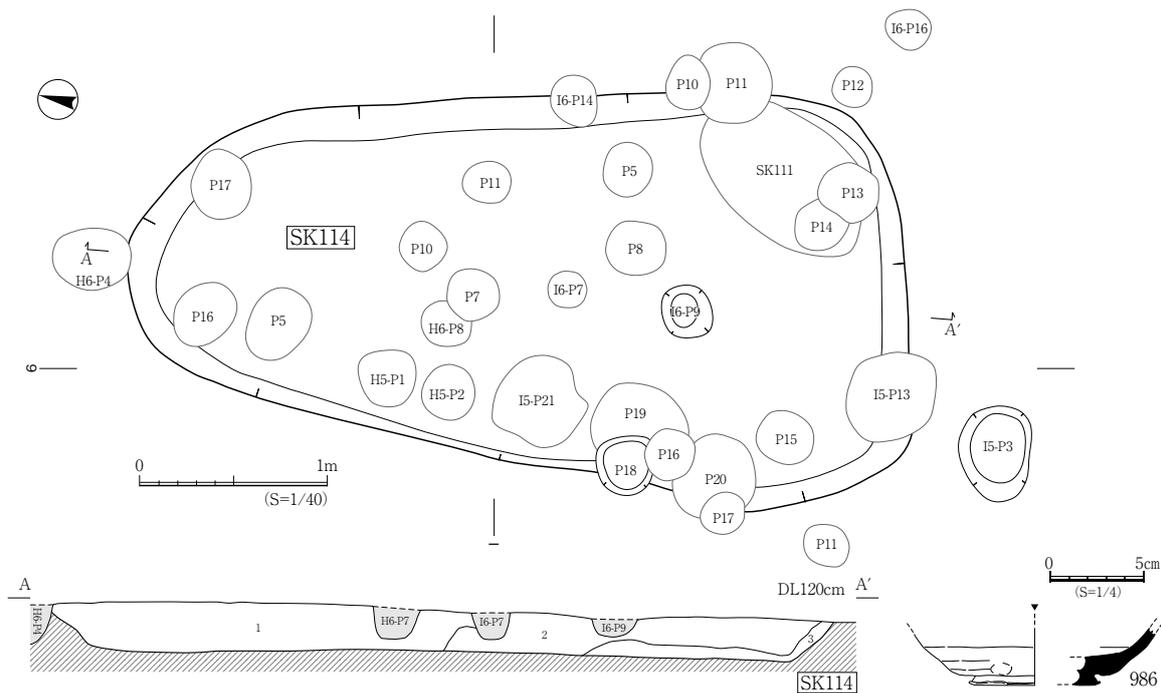
**SK114**〈古代の大型土坑〉(遺構:第120図<sup>[162]</sup>・Pl.65<sup>[411]</sup>, 遺物:第120図<sup>[162]</sup>・Pl.140<sup>[486]</sup>)

**位置・調査経過** HI・5~6グリッドに位置する。III b・c層で確認した。SK111に切られる。多数のピットに切られる。

**形状・規模** 南北方向(N-9°-W)に不整形の土坑で、底は水平に均され壁は斜めに立ちあがる。長さ415cm、幅227cm、深さ35cmである。

**覆土** 長軸方向(第120図A-A')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層はにぶい赤褐色土層で小石を含む。2層は褐灰色土層で鉄分の凝集がみられる。3層は灰褐色土層である。

**出土遺物** 20点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は須恵器3点、白色土器2点、土器14点、石製品1点である。覆土一括で收拾した。



第120図 SK114平面図・断面図・出土遺物

図示した1点(986)は在地の須恵器・埴で古代の製品である。

時期 古代。出土遺物は古代の製品である。

性格 大型土坑。

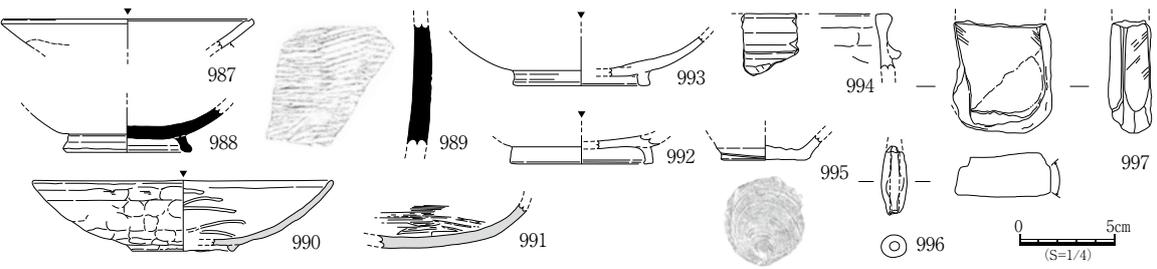
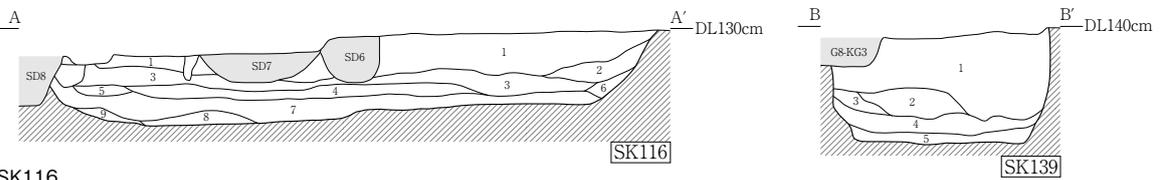
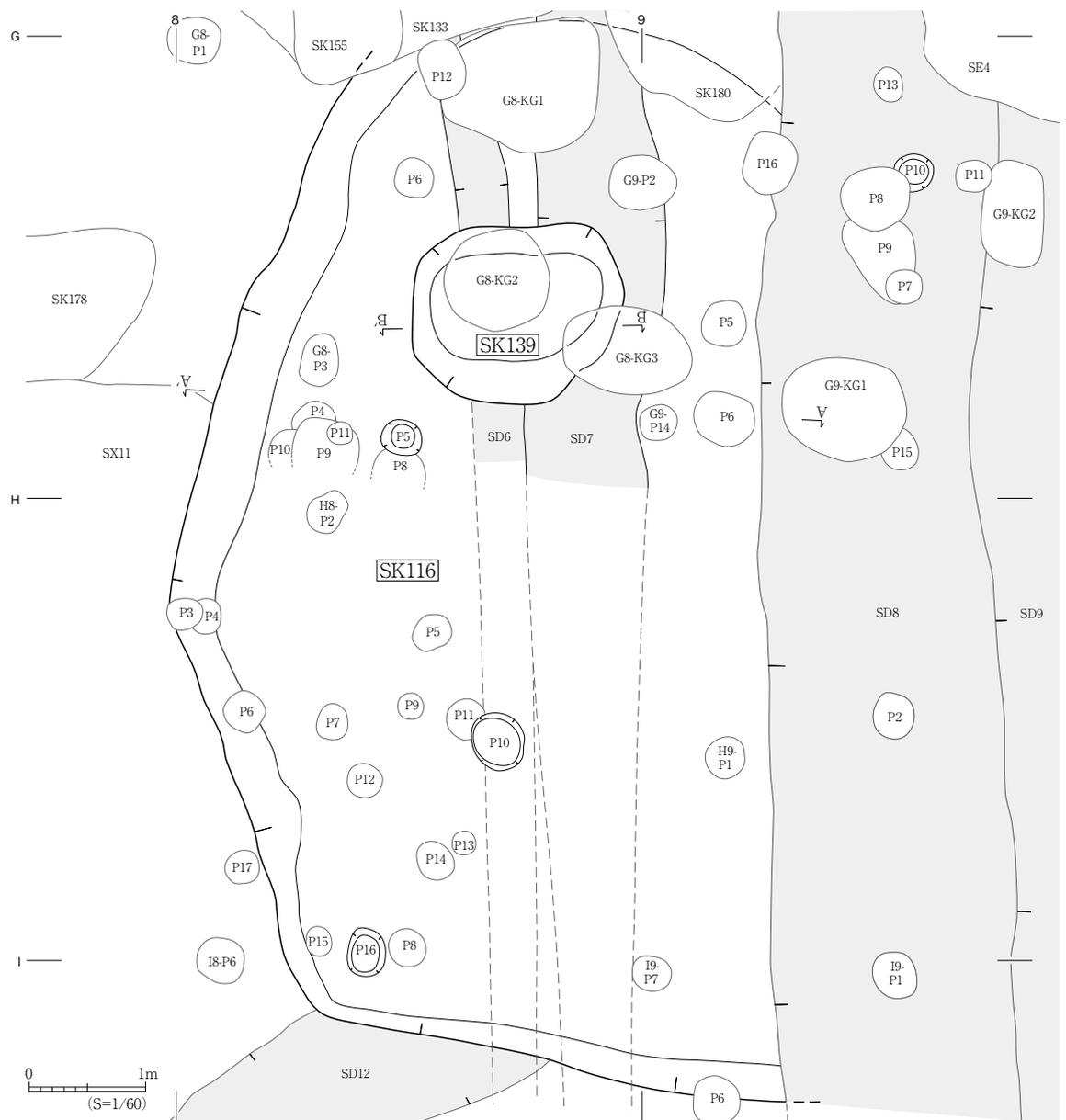
**SK116**〈中世の整地層か〉(遺構:第121図・P1.66<sup>[412]</sup>, 遺物:第121図・P1.140<sup>[486]</sup>)

位置・調査経過 F~H・8~9グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。調査E区・F区にまたがる。E区ではSK126・SK116の2つの遺構としていたが、F区で北側へのひろがりを確認する過程でSK126とSK116は同一遺構であると判断するにいたりSK116に統合した。北側の立ち上がりは不明瞭で東側はSD8により断絶する。SD12・SX11を切り、SD6・SD7・SD8・SK139に切られる。

形状・規模 平面は南北に長い不定形で底には二段の平面があり西側が高い。壁は緩やかに立ちあがる。南北方向は長さ900cmまでを確認し、東西方向の残幅は480cm、深さは62cm、底の段差は10cmである。

覆土 短軸方向の2箇所まで覆土断面を観察し1箇所を図示した(第121図A-A')。9層に分かれる。1層は暗灰黄色土層で小石・山土粒を含む。2・3層は灰黄褐色土層で小石・山土粒を含む。4層は褐灰色シルト層で鉄分の凝集がみられる。5層はオリーブ灰色土層で小石・山土粒を含む。6層は褐灰色シルト層、7層は灰黄褐色砂質シルト層、8層は褐灰色砂質シルト層、9層は褐灰色砂質土層である。

出土遺物 192点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付2点、磁器1点、陶器3点、炆器4点、須恵器4点、瓦器8点、黒色土器1点、白色土器21点、土器143点、土製品2点、瓦2点、石製品1点である。遺物の収拾は水平位置ではグリッド別とSK126箇所に分け、垂直位置では上層・中層・下層分けて行った。内訳はGグリッド3点、Hグリッド49点、Iグリッド23点、SK126箇所53点、層位別は上層4点、中層4点、下層2点で他は覆土一括である。



第121図 SK116・SK139平面図・断面図, SK116出土遺物

図示した11点(987~997<sup>[163]</sup>)は、987が唐津の陶器・皿で17世紀の製品である。988は須恵器・坏で古代の製品である。989は須恵器・甕である。990は楠葉型の瓦器・塚で13世紀の製品である。991は土佐型の瓦器・鍋で14~15世紀の製品である。992・993は在地の土器・輪高台塚で11~12世紀の製品である。994は播磨型の土器・羽釜で15世紀の製品である。995は土器・壺である。996は土製品・土錘である。997は砂岩製の砥石である。

時期 中世。出土遺物は混入もあるが中世の製品を含む。

性格 整地層か。

**SK120** (中世前期の柱穴) (遺構:第100図<sup>[143]</sup>・Pl.66<sup>[412]</sup>, 遺物:第122図・Pl.140<sup>[486]</sup>)

位置・調査経過 L・7~8グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。M8-P10に切られる。

形状・規模 平面は円形で、掘方は上半が円筒形で下半は底に向かって窄まる。径89cm, 深さ59cmである。

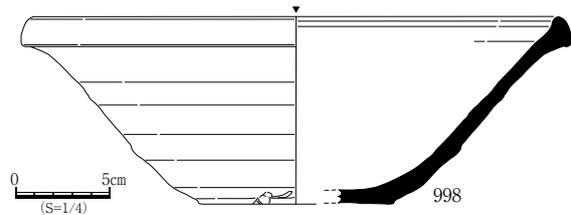
覆土 長軸方向(第100図F-F')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1~6層)は灰褐色シルト層で1層は炭化物, 2層は遺物・炭化物を含む。下層(7・8層)は7層が灰色シルト層で炭化物・有機質を含む。8層は灰褐色シルト層である。

出土遺物 10点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は須恵器2点, 土器7点, 鉄器1点である。覆土一括で収拾した。

図示した1点(998)は東播系の須恵器・捏鉢で12世紀末~13世紀初の製品である。

時期 中世前期。中世前期の製品が出土した。

性格 柱穴。



第122図 SK120 出土遺物

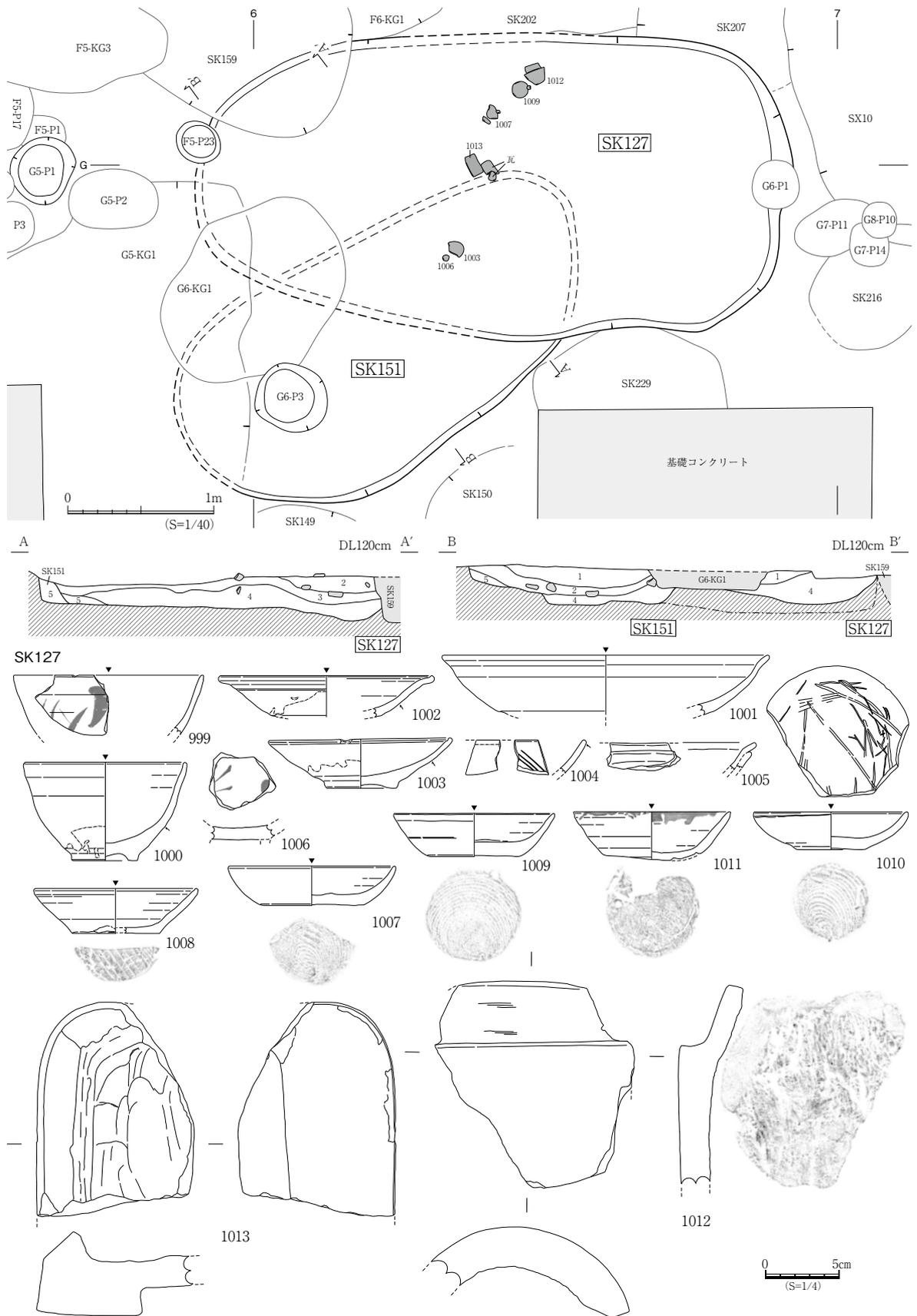
**SK127** (17世紀の廃棄土坑) (遺構:第123図・Pl.66<sup>[412]</sup>, 遺物:第123図・Pl.140・141<sup>[486-487]</sup>)

位置・調査経過 FG・6グリッドに位置する。一帯にはⅡ層が厚く堆積しておりⅡ層を除去する過程で遺物の集中箇所を確認した。遺構は底付近が残るのみで明確なプランの検出が困難でありSK151との重複関係も現地調査では十分に把握できなかった。そのためプランの確定とSK151との重複関係については室内整理に先送りし、最終的には隅丸長方形のSK127がSK151を切るとした。SK151・SK202・SK207・SK229を切り, SK159に切られる。

形状・規模 東西方向(N-76°-E)に長い隅丸長方形の土坑である。掘方は不規則で、底には凹凸があり立ち上がりは緩やかである。長さ370cm, 幅210cm, 深さ35cmである。炭化物層に遺物が集中していた。

覆土 北西軸の2箇所(SK151とともに)覆土断面を観察した(第123図A-A', B-B')。5層に分かれる。1層は暗灰黄色砂質シルト層で炭化物・小石・山土粒を含む。2層は暗灰黄色砂質土層で炭化物・山土粒・緑石粒を含む。3層は黒褐色炭化物層で焼土を含む。4・5層は褐灰色砂質シルト層で炭化物を含む。

出土遺物 136点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白磁2点, 染付2点, 陶器17点, 炆器5点, 瓦器1点, 土器105点, 瓦2点, 鉄塊2点である。7点の位置を記録した。他は覆土一括で収拾した。SK151出土遺物との弁別は十分でない。



第123図 SK127・SK151平面図・断面図, SK127出土遺物

図示した15点(999～1013<sup>[165]</sup>)は、999～1006が陶器、1007～1011が土器、1012・1013が瓦である。

999は絵唐津の陶器・碗で17世紀前半の製品である。1000は唐津の陶器・碗で17世紀の製品である。1001は唐津の陶器・中皿で17世紀の製品である。1002・1003は唐津の陶器・皿で17世紀の製品である。1004は唐津の陶器・皿で内面に櫛描文がある。1005は唐津の陶器・皿で焼成時に熔着した2片である。1006は織部の陶器・向付で17世紀の製品である。1007～1011は土器・坏皿で近世の製品である。1012は丸瓦、1013は鬼瓦である。

時期 17世紀。出土遺物は17世紀の製品である。

性格 廃棄土坑。

**SK128**〈近世の土坑〉(遺構:第125図・Pl.66<sup>[412]</sup>, 遺物:第124図・Pl.141<sup>[487]</sup>)

位置・調査経過 DE・9～10グリッドに位置する。現地調査では近代の遺物を含む土坑と判断し精査の対象外としていたが、出土遺物の検討によりSKと改めた。SK184を切る。

形状・規模 南北方向(N-16°-W)にやや長い隅丸長方形の土坑である。掘方の断面は台形で底は中央付近がやや窪む。長さ118cm、幅100cm、深さ38cmである。

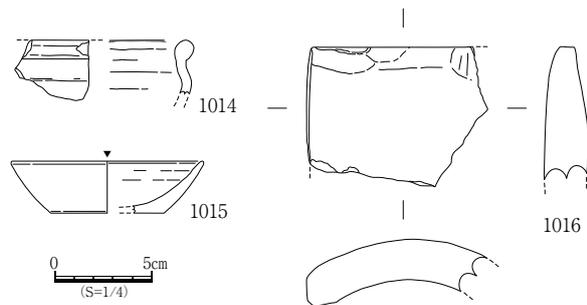
覆土 覆土の観察は行っていない。

出土遺物 53点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は陶器2点、土器45点、瓦5点、鉄器1点である。いずれも覆土上部から出土した。

図示した3点(1014～1016)は、1014が唐津の陶器・鉢である。1015が在地の土器・坏皿で近世の製品である。1016は丸瓦で煤が付着する。

時期 近世。出土遺物は近世である。

性格 土坑。



第124図 SK128 出土遺物

**SK129**〈18世紀の廃棄土坑〉(遺構:第126図<sup>[168]</sup>・Pl.67<sup>[413]</sup>, 遺物:第127図<sup>[169]</sup>・Pl.141・142<sup>[487-488]</sup>)

位置・調査経過 D・6～7グリッドに位置する。現地調査では近代の遺物を含む土坑と判断し精査の対象外としていたが、出土遺物の検討によりSKと改めた。SK214・SK215・SK271を切る。

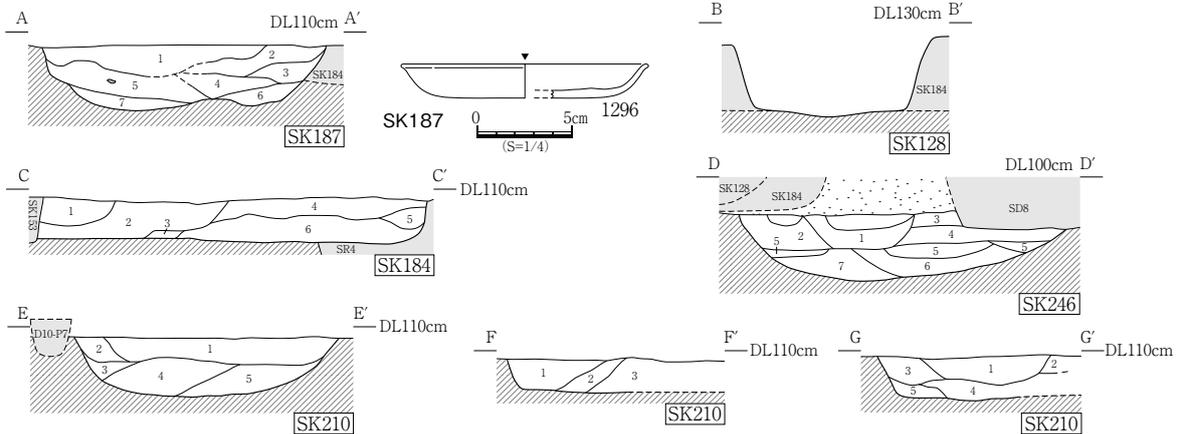
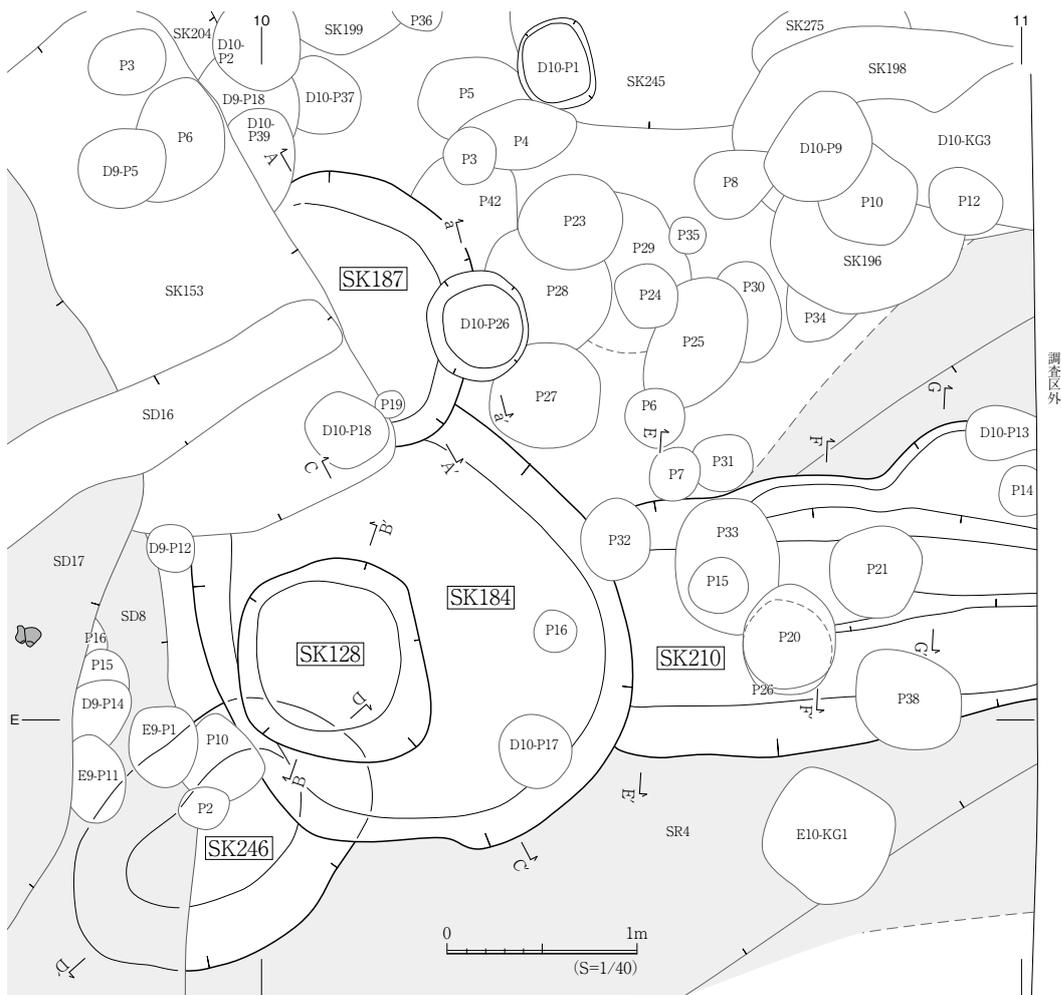
形状・規模 東西方向(N-81°-E)に長い細長方形の土坑である。底は水平で壁は垂直に近い角度で立ちあがる。長さ396cm、幅150cm、深さ31cmである。

覆土 覆土の観察は行っていない。

出土遺物 106点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁2点、白磁5点、染付27点、磁器1点、陶胎染付2点、陶器31点、炆器10点、土器26点、土製品1点、石製品1点である。覆土一括で収拾した。

図示した18点(1017～1034<sup>[169]</sup>)は、1017が白磁、1018～1023が染付、1024・1025が陶胎染付、1026～1029が陶器、1030～1032が土器、1033が土製品、1034が石製品である。

1017は肥前の白磁・皿で18世紀の製品である。1018は肥前の染付・蓋物で18世紀の製品である。1019は肥前の染付・湯呑碗である。1020は肥前の染付・皿、1021は波佐見の染付・小皿、1022は肥前の染付・小碗で18世紀の製品である。1023は肥前の染付・小坏である。1024は肥前の陶胎染付・碗、1025は肥前の陶胎染付・香炉である。1026は京焼とみられる陶器・煎じ碗で18世紀の製品である。

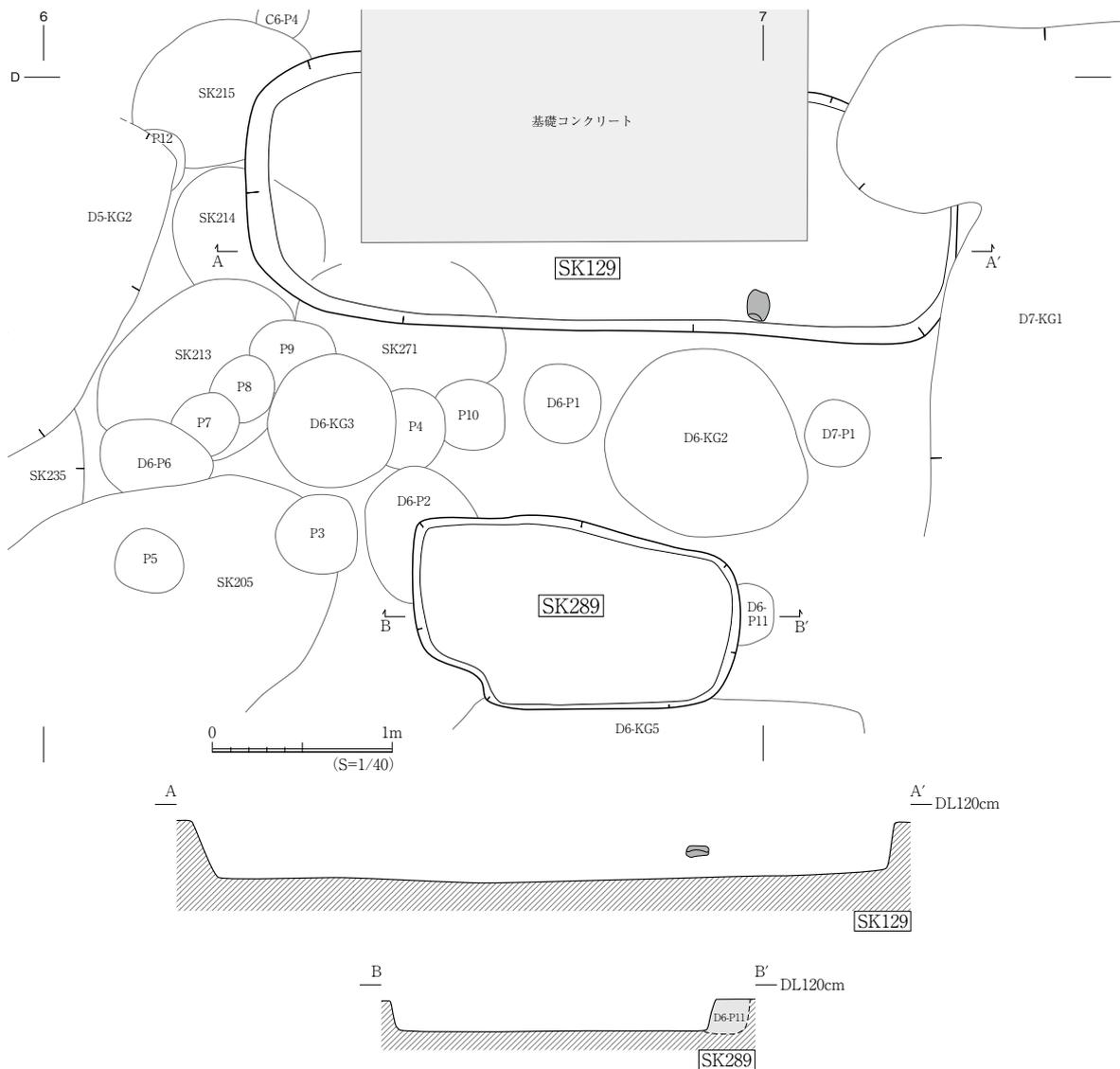


第125図 SK128・SK184・SK187・SK210・SK246平面図・断面図, D10-P26平面図, SK187出土遺物

1027は京焼の陶器・碗で18世紀の製品である。1028は瀬戸の陶器・香炉である。1029は唐津の陶器・壺である。1030は在地の土器・坏皿である。1031は関西系の土器・焙烙鍋で18世紀の製品である。1032は土器・角火鉢, 1033は土製品・虚無僧人形である。1034は石製品で硯未製品とみられる。

時期 18世紀。出土遺物は18世紀の製品である。

性格 廃棄土坑。



第126図 SK129・SK289平面図・断面図

**SK131** (近世の土坑) (遺構:第44図<sub>[71]</sub>・PI.67<sub>[413]</sub>, 遺物:第44図<sub>[71]</sub>・PI.142<sub>[488]</sub>)

位置・調査経過 C7グリッドに位置する。盛土層で確認した。SD15を切る。

形状・規模 北東-南西方向(N-54°-E)に長い隅丸長方形の土坑で掘方は箱形である。長さ156cm, 幅81cm, 深さ20cmである。

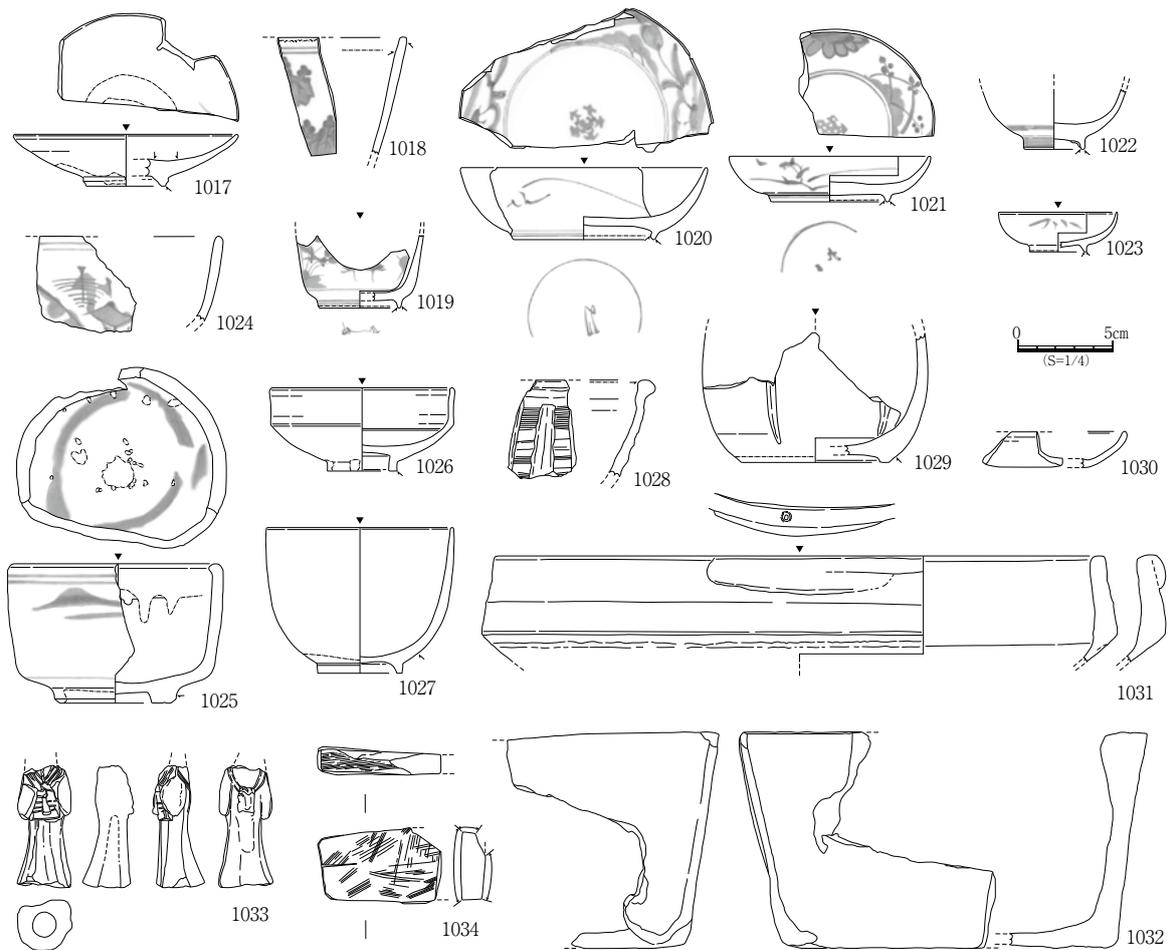
覆土 長軸方向(第44図A-A')で覆土を観察した。3層に分かれる。1層は灰褐色土層で炭化物を含み鉄分の凝集がみられる。2層は灰褐色土層で砂を含み鉄分の凝集がみられる。3層はオリーブ灰色砂質土層で小石を含み鉄分の凝集がみられる。

出土遺物 8点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器8点で覆土一括で收拾した。

図示した1点(1035<sub>[71]</sub>)は、在地の土器・皿で古代の製品である。  
[観332]

時期 近世。盛土層を掘削し構築された。出土遺物には混入がある。

性格 土坑。



第127図 SK129出土遺物

**SK133**〈中世の大型土坑〉(遺構:第128図<sup>[170]</sup>・PI.67<sup>[413]</sup>, 遺物:第128図<sup>[170]</sup>・PI.142<sup>[488]</sup>)

位置・調査経過 F8グリッドに位置する。盛土層で遺構を検出したが盛土層は遺構覆土の窪みに落ち込んだもので本来はⅢb層を掘削し構築された。SD6・SD7・SK177・SK179・SK190を切り、SK155・SX12に切られる。

形状・規模 北東-南西方向(N-40°-E)に長い不整長方形の土坑である。底は水平に均され壁は垂直に近い角度で立ちあがる。長さ383cm, 幅255cm, 深さ45cmである。

覆土 長軸方向(第128図E-E)で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が粗い暗灰黄色土層で炭化物・小石を含む。2層は褐灰色土層でマンガン粒を含み鉄分の凝集がみられる。

下層(3~5層)は3層がオリーブ灰色シルト層, 4層が褐灰色シルト層, 5層が褐灰色砂質土層である。

出土遺物 73点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白磁1点, 陶器2点, 炆器4点, 須恵器1点, 瓦器6点, 白色土器3点, 土器53点, 土製品1点, 瓦1点, 石製品1点である。遺物の收拾は上層・中層・下層・最下層に分けて行った。内訳は上層24点, 下層13点, 最下層5点で他は覆土一括である。

図示した2点(1036・1037<sup>[170]</sup>)は、1036が土製品・土錘, 1037が砂岩製の石製品である。

時期 中世。出土遺物は中世の製品である。

性格 大型土坑。



第128图 SK133·SK135·SK136·SK137·SK182平面图·断面图, SK155平面图, SK133·SK182出土遗物

**SK135** (近世の土坑) (遺構: 第128図・Pl.68<sup>[414]</sup>, 遺物: 第129図・Pl.142<sup>[488]</sup>)

**位置・調査経過** EF・8グリッドに位置する。一帯には近代の大規模な造成があり、II層が厚く堆積していた。II層を除去後に複雑に重複する遺構のプランを確認した。SK135はSK136を切る。下部にSK190がある。

**形状・規模** 北西-南東方向(N-52°-W)に長い隅丸長方形の土坑である。底にはやや凹凸があり壁は垂直に近い角度で立ちあがる。長さ174cm, 幅96cm, 深さ40cmである。炭化物層に下部のまとまった数の遺物を含む。

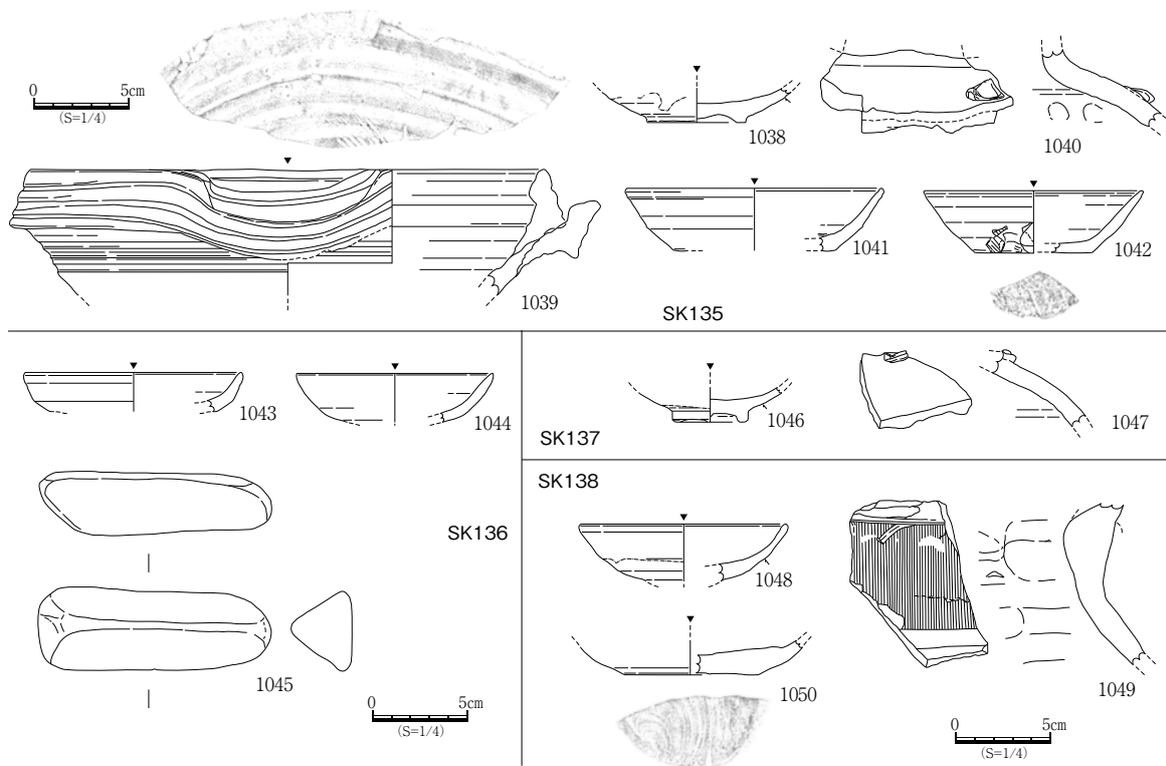
**覆土** 長軸方向(第128図B-B')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は暗灰黄色土層で筋状の炭化物・焼土・礫を含み下部にブロック土が堆積する。2層は暗灰黄色土層で炭化物・山土粒を含む。3層は黒褐色土層で炭化物・焼土を含み上面に有機質が堆積する。

**出土遺物** 63点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は磁器1点, 陶器1点, 炆器4点, 瓦器1点, 土器56点である。遺物の収拾は上層・中層・下層に分けて行った。内訳は上層50点, 中層4点, 下層7点で他は覆土一括である。

図示した5点(1038~1042)は、**1038**が唐津の陶器・皿で17世紀の製品である。**1039**は備前の炆器・播鉢〔観332〕で近世の製品である。**1040**は備前の炆器・壺で近世の製品である。**1041・1042**は在地の土器・坏皿で近世の製品である。

**時期** 近世。出土遺物は近世の製品である。

**性格** 土坑。



第129図 SK135・SK136・SK137・SK138出土遺物

**SK136** (近世の土坑) (遺構:第128図<sup>[170]</sup>・Pl.68<sup>[414]</sup>, 遺物:第129図<sup>[171]</sup>・Pl.142<sup>[488]</sup>)

位置・調査経過 E8グリッドに位置する。Ⅱ層下で確認した。SK188を切り, SK135に切られる。

形状・規模 北西-南東方向(N-88°-W)に長い隅丸長方形の土坑である。底はおよそ水平に整えられ, 壁は緩やかに立ちあがる。残存長は140cm, 幅137cm, 深さ42cmである。

覆土 長軸方向(第128図C-C')で覆土断面を観察した。3層がある。1層は灰黄褐色土層で炭化物・焼土・小石を含む。2層は暗灰黄色土層で炭化物・山土粒を含む。3層は青灰色土層で炭化物・有機物を含む。

出土遺物 65点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白磁1点, 陶器2点, 炆器1点, 土器52点, 瓦6点, 石製品1点, 鉄器2点である。遺物は上層・下層に分けて取捨した。内訳は上層26点, 下層39点である。

図示した3点(1043~1045<sup>[171]</sup>)は, 1043が中国の白磁・皿で15世紀の製品とみられる。1044は在地の土器・坏皿で近世の製品である。1045は砂岩製の石製品である。横断面三角形の棒状である。

時期 近世。出土遺物は近世の製品である。

性格 土坑。

**SK137** (近世の柱穴) (遺構:第128図<sup>[170]</sup>・Pl.68<sup>[414]</sup>, 遺物:第129図<sup>[171]</sup>・Pl.142<sup>[488]</sup>)

位置・調査経過 E8グリッドに位置する。Ⅱ層を除去後に遺構のプランを確認した。SK209を切る。

形状・規模 南北方向(N-5°-W)にやや長い隅丸方形の土坑である。壁は垂直に掘り込まれ, 底は北が低く南側に向かってあがる。長さ94cm, 幅82cm, 深さ40cmである。

覆土 長軸方向(第128図A-A')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1層)は粗い黒褐色土層で炭化物・焼土・礫を含む。下層(2~4層)は2層が灰オリーブ色土層で砂を含む。3層は黄灰色土・黒色土の混合層で小石を含む。4層は灰褐色土層で砂礫を含む。

出土遺物 21点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白磁2点, 染付2点, 陶器1点, 炆器2点, 土器7点, 瓦7点である。層位別の内訳は上層7点, 下層2点, 最下層1点である。図示した2点(1046・1047<sup>[171]</sup>)は, 1046が中国の白磁・皿で15世紀の製品である。1047は備前の炆器・壺で近世の製品である。

時期 近世。出土遺物は近世の製品である。

性格 柱穴。

**SK138** (近世の土坑) (遺構:第80図<sup>[116]</sup>・Pl.68<sup>[414]</sup>, 遺物:第129図<sup>[171]</sup>・Pl.142<sup>[488]</sup>)

位置・調査経過 F7グリッドに位置する。盛土層で確認した。攪乱に北半部を削り取られる。Ⅱ層に上部を削平され底の一部が残るのみである。SX10を切る。

形状・規模 東西方向(N-76°-E)に長い楕円形の土坑である。底には凹凸があり壁は緩やかに立ちあがる。長さ146cm, 残存幅は55cm, 深さ17cmである。

覆土 長軸方向(第80図D-D')で覆土を観察した。2層に分かれる。1層は黒褐色土層で多量の炭化物・焼土・山土ブロック土を含む。2層は黄灰色土層で炭化物・焼土を含む。

出土遺物 20点の遺物が出土した。内訳は磁器1点, 炆器1点, 陶器1点, 瓦器1点, 土器16点である。

図示した3点(1048~1050<sup>[171]</sup>)は, 1048が唐津の陶器・皿で17世紀の製品である。1049は常滑の炆器・大甕で14世紀の製品である。1050は在地の土器・皿で近世の製品である。

時期 近世。出土遺物は近世の製品である。

性格 土坑。

**SK139**〈18世紀の廃棄土坑〉(遺構:第121図<sup>[163]</sup>・PI.69<sup>[415]</sup>, 遺物:第130・131図<sup>[174-175]</sup>・PI.142～145<sup>[488-491]</sup>)

**位置・調査経過** G8グリッドに位置する。盛土層で確認した。SD6・SD7・SK116を切る。

**形状・規模** 東西方向(N-76°-E)に長い不整形の土坑である。壁は垂直にちかい角度で掘り込まれ底に向かってやや窄まる。東～南の壁は底付近に小さな段をもつ。底はおよそ水平に均される。壁には工具痕とみられる小さな窪みが多数みられる。長さ183cm, 幅153cm, 深さ94cmである。

**覆土** 長軸方向(第121図B-B')で覆土を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1～3層)は1層が黒褐色土層で多量の炭化物・小石・有機質を含む。2層は黒褐色土層で貝類・炭化物・小石を含む。3層は黒褐色土層で炭化物・黄灰色土ブロックを含む。下層(4・5層)は4層がにぶい黄褐色シルト層で有機質を含む。5層は褐灰色砂礫層である。

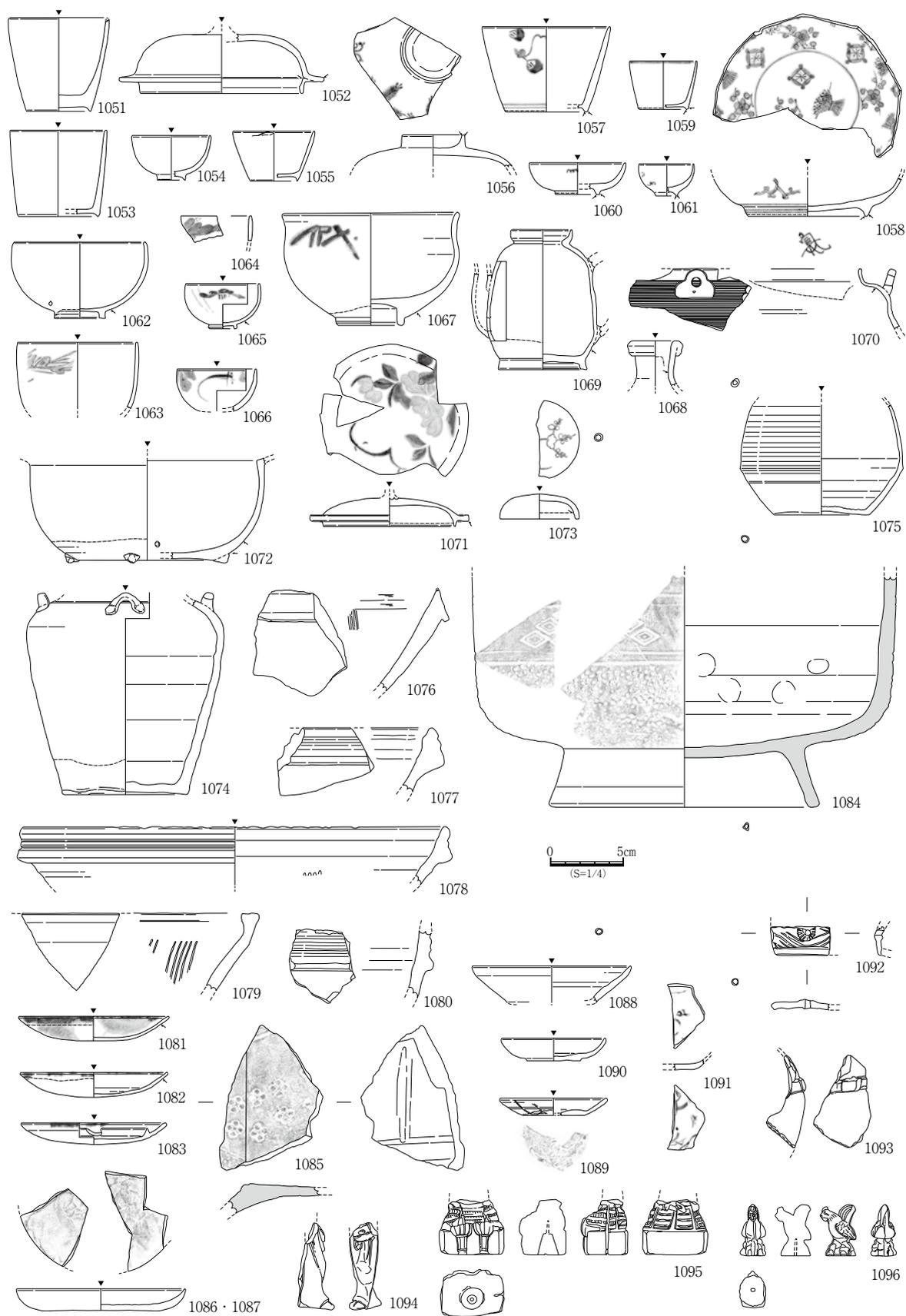
**出土遺物** 686点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁11点, 白磁31点, 青磁染付5点, 染付97点, 磁器25点, 陶器231点, 炆器29点, 瓦器2点, 白色土器12点, 土器139点, 土製品6点, 瓦14点, 石製品3点, 骨角器1点, 銅製品1点, 鉄銭貨1点, 鉄器76点, 動物遺体2点である。遺物の収拾は上層・中層・下層に分けて行った。内訳は上層608点, 中層61点, 下層5点で他は覆土一括で収拾した。

図示した59点(1051～1109<sup>[174-175]</sup>)は、1051が青磁, 1052～1055が白磁, 1056～1061が染付, 1062～1075が陶器, 1076～1083が炆器, 1084・1085が瓦器, 1086・1087が白色土器, 1088～1092が土器, 1093～1096が土製品, 1097～1099が瓦, 1100～1102が石製品, 1103が骨製品, 1104が銅製品, 1105が銅銭, 1106～1109が鉄器である。

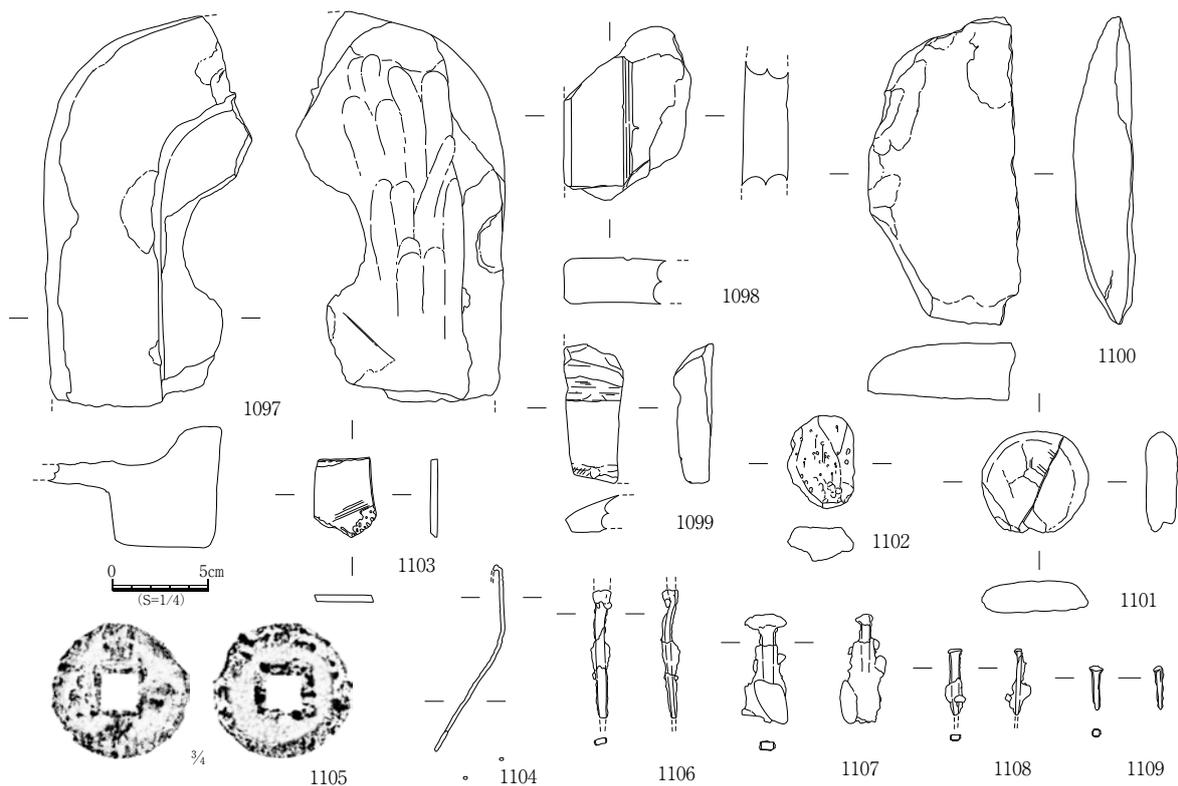
1051は肥前の青磁・猪口である。1052は肥前の白磁・蓋, 1053は肥前の白磁・蕎麦猪口, 1054は肥前の白磁・小碗, 1055は肥前の白磁・猪口である。1056は肥前の染付・碗蓋である。1057は肥前の染付・蕎麦猪口で18世紀～19世紀頃の製品である。1058は肥前の染付・皿で18世紀の製品である。1059は肥前の染付・猪口, 1060は肥前の染付・小坏, 1061は肥前の染付・飯事道具である。1062は京焼の陶器・半球碗で18世紀の製品である。1063・1064は肥前の陶器・碗で上絵付が施される。1065・1066は京焼の陶器・小碗である。1066には上絵付が施される。1067は京焼の陶器・鉢である。1068は陶器・徳利である。1069は瀬戸の陶器・水差しである。1070は陶器・急須である。1071は瀬戸の陶器・土瓶蓋である。1072は陶器・土鍋, 1073は陶器・合子である。1074は瀬戸の陶器・四耳壺である。1075は陶器・壺である。1076は備前の炆器・播鉢で15世紀前半の製品である。1077は備前の炆器・播鉢で17世紀後半の製品である。1078は備前の炆器・播鉢で18世紀の製品である。1079は唐津の炆器・播鉢で17世紀の製品である。1080は丹波の炆器・甕で17世紀の製品である。1081・1082は備前の炆器・灯明皿である。1083は備前の炆器・灯明受皿である。1084は瓦器・焜炉である。1085は瓦器・火鉢とみられる。1086・1087は尾戸の白色土器・皿で19世紀の製品とみられる。1088は在地の土器・坏皿である。1089～1091は在地の土器・小皿で18～19世紀頃の製品とみられる。1091には墨書がある。1092は型作りの土器で穿孔がある。1093～1096は土製品・人形で, 1094は着物力士, 1095は鎧武者, 1096は鶏である。1097は鬼瓦, 1098・1099は瓦片である。1100は花崗岩製の円盤形石製品である。1101は火成岩, 1102は軽石の石製品とみられる。1103は骨角器で薄板状に加工されている。1104は銅製品・筭である。1105は鉄銭で寛永通寶鉄四文銭とみられる。1106～1109は鉄釘で, 1107～1109は頭巻釘である。動物遺体にシカ, ハイガイ・オキシジミ・ヤマトシジミ等貝類, 魚類がある(付編2<sup>[275]</sup>)。

**時期** 18世紀。出土遺物は18世紀の製品である。

**性格** 廃棄土坑。



第130図 SK139出土遺物



第131図 SK139出土遺物

**SK140**〈近世の小土坑〉(遺構:第132図<sup>[176]</sup>・Pl.69<sup>[415]</sup>, 遺物:第132図<sup>[176]</sup>・Pl.145<sup>[491]</sup>)

位置・調査経過 E6グリッドに位置する。盛土層で確認した。SK192を切る。

形状・規模 平面円形で掘方は浅い筒形である。径86cm, 深さ29cmである。

覆土 東西方向(第132図E-E')で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層は黒褐色土層で炭化物・小石・山土粒を含む。2層は黄灰色砂質土層である。

出土遺物 15点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付5点, 陶器2点, 土器8点である。遺物の收拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層5点, 下層3点で他は覆土一括である。

図示した1点(1110<sup>[176]</sup>)は肥前の染付・小坏で近世の製品である。

時期 近世。盛土層を掘削し構築された。出土遺物は近世の製品である。

性格 小土坑。

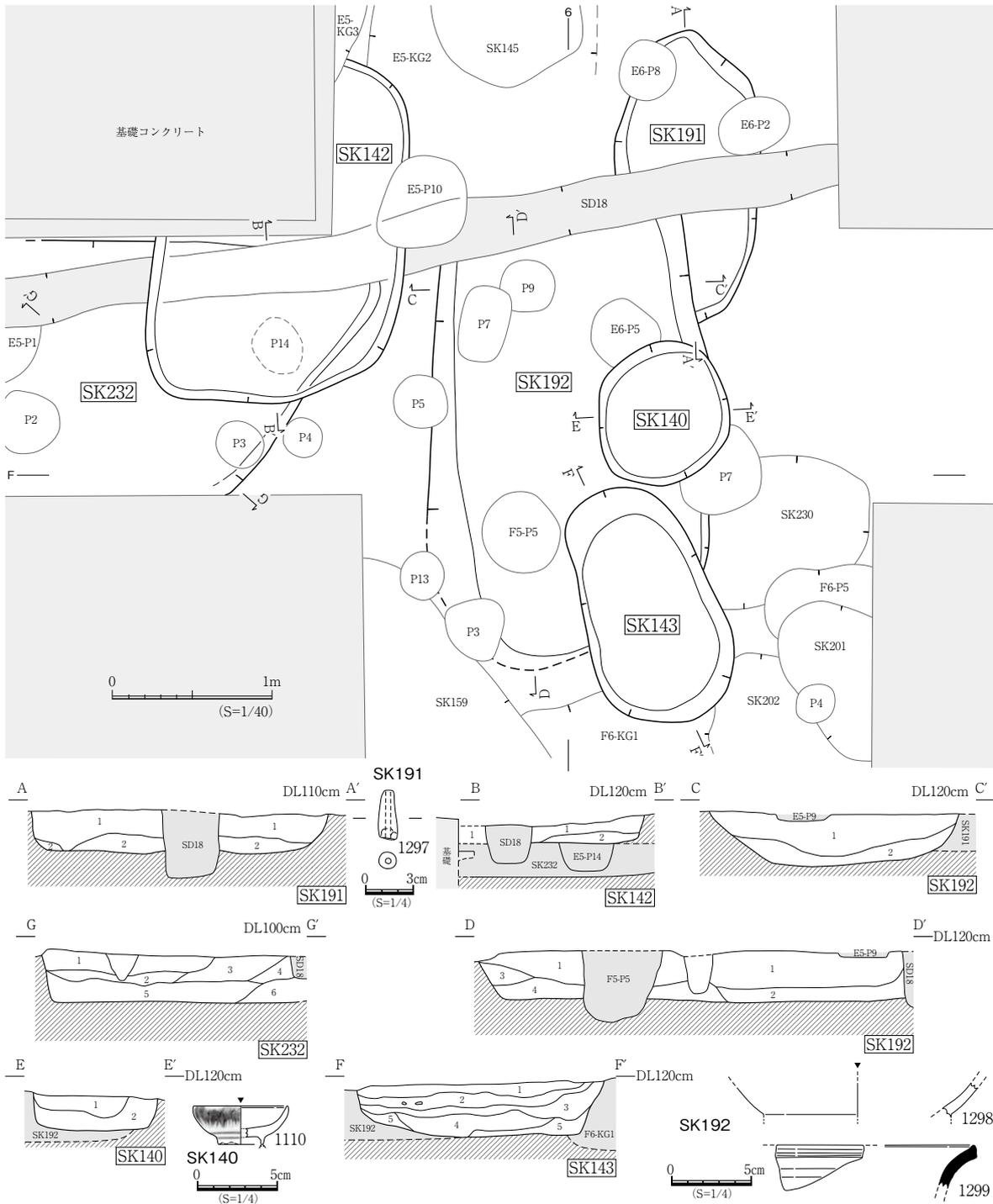
**SK141**〈近世の廃棄土坑〉(遺構:第133図<sup>[177]</sup>・Pl.69<sup>[415]</sup>, 遺物:第134図<sup>[178]</sup>・Pl.145<sup>[491]</sup>)

位置・調査経過 C4グリッドに位置する。盛土層で確認した。SD14・SK152を切る。

形状・規模 南北方向(N-12°-W)に長い不整形の土坑である。底には高低差があり北側が12cm高い。壁は垂直に近い角度で立ちあがる。長さ119cm, 幅104cm, 深さ33cmである。

覆土 長軸方向(第133図A-A')で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層は粗い暗灰黄色粘質土層で砂を含む。2層は暗灰黄色粘質土層で炭化物を含む。

出土遺物 104点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付3点, 陶器3点, 炆器2点, 瓦器3点, 白色土器1点, 土器<sup>[69]</sup>69点, 瓦20点, 鉄器3点である。3点は出土位置を記録した。他は覆土一括で收拾した。

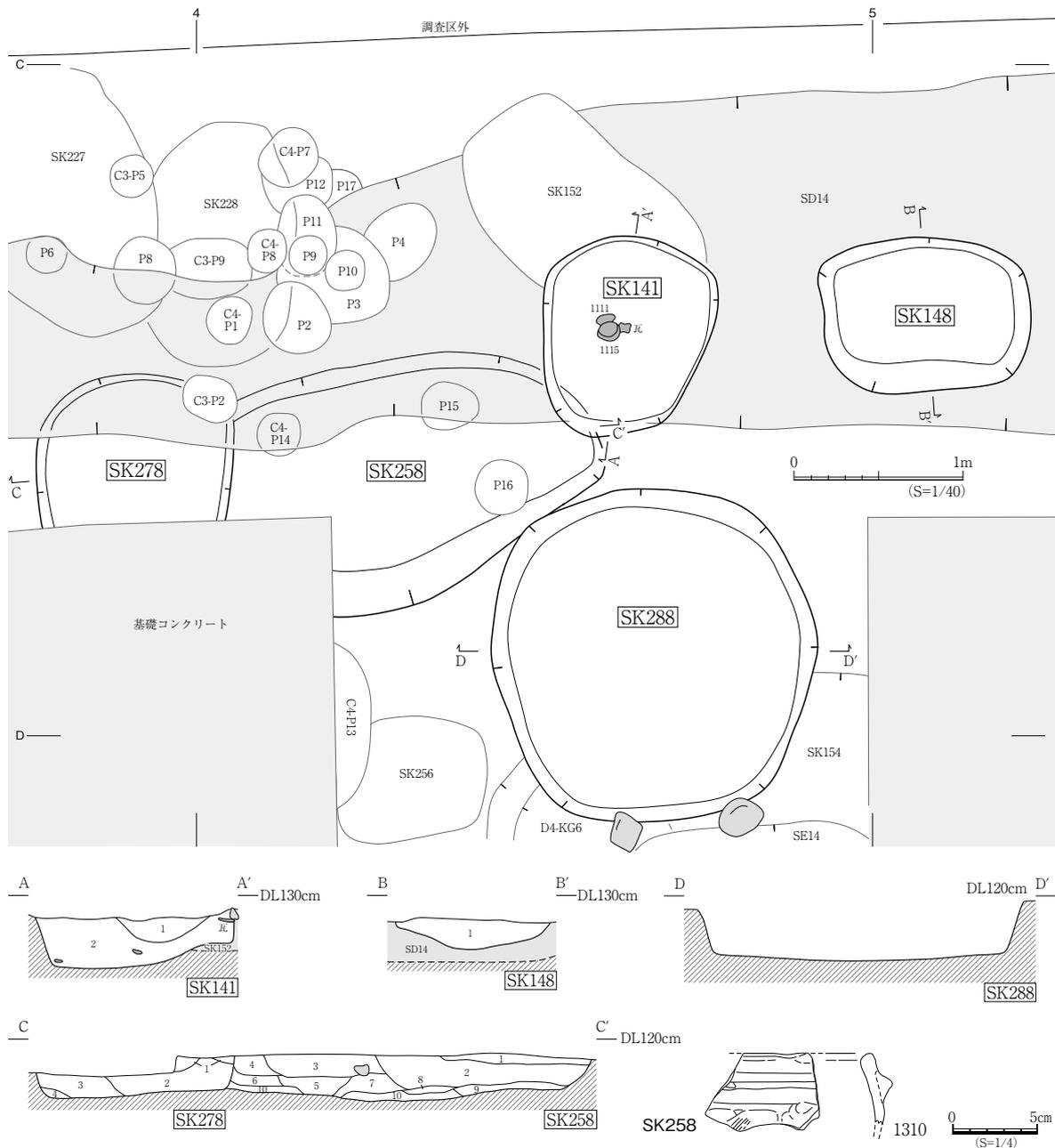


第132図 SK140・SK142・SK143・SK191・SK192・SK232平面図・断面図, SK140・SK191・SK192出土遺物

図示した6点(1111~1116<sup>[178]</sup>)は、1111が唐津の陶器・皿で17世紀前半の製品である。1112は在地の土器・坏皿<sup>[観335]</sup>, 1113は在地の土器・皿, 1114は在地の土器・小皿でいずれも近世の製品である。1115は三つ巴の軒丸瓦, 1116は鬼瓦である。動物遺体にシカ上腕骨がある(付編2<sup>[275]</sup>)。

時期 近世。盛土層を掘削し構築された。出土遺物は近世の製品である。

性格 廃棄土坑。



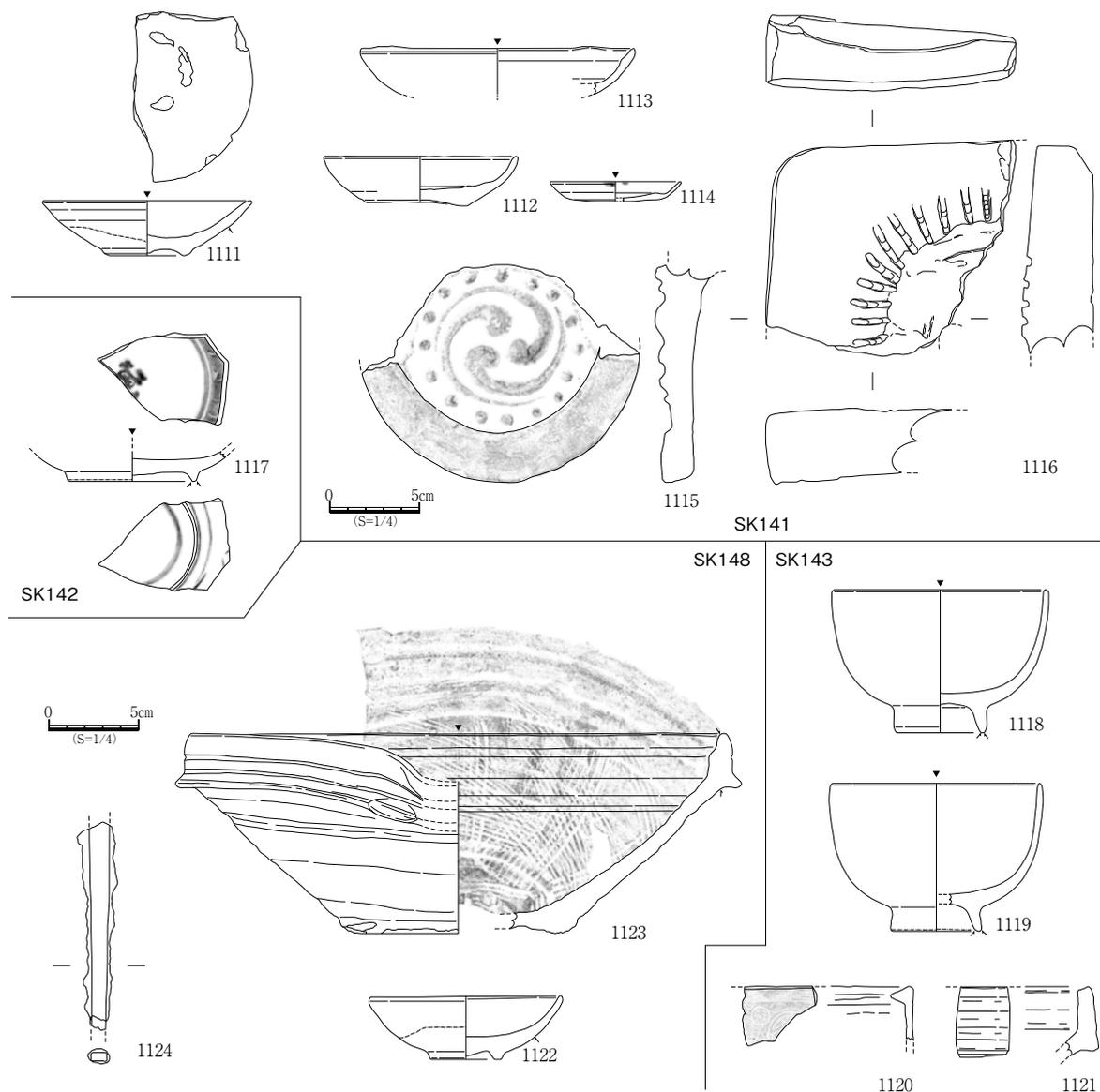
第133図 SK141・SK148・SK258・SK278・SK288平面図・断面図, SK258出土遺物

**SK142**〈18世紀の土坑〉(遺構:第132図・PI.69<sup>[415]</sup>, 遺物:第134図<sup>[178]</sup>・PI.145<sup>[491]</sup>)

**位置・調査経過** E5 グリッドに位置する。盛土層で確認した。北西部分をコンクリート基礎に削り取られる。SD18・SK232を切る。

**形状・規模** 南北方向に(N-8°-W)に長い隅丸方形の土坑である。底は水平で壁は垂直に近い角度で立ちあがる。長さ217cm, 幅157cm, 深さ28cmである。

**覆土** 長軸方向(第132図B-B')の覆土を部分的に観察した。2層に分かれる。1層は黒褐色土層で炭化物・焼土・小石を含む。2層は暗灰黄色土層で焼土・小石・山土粒を含む。



第134図 SK141・SK142・SK143・SK148出土遺物

**出土遺物** 42点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁2点, 染付10点, 磁器4点, 陶器10点, 炆器2点, 瓦器1点, 施釉土器1点, 土器10点, 瓦2点である。遺物の收拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層14点, 下層6点で他は覆土一括である。

図示した1点(1117)は、肥前の染付・皿で18世紀の製品である。

**時期** 18世紀。盛土層を掘削し構築された。出土遺物は18世紀の製品を含む。

**性格** 土坑。

**SK143** (17世紀の土坑) (遺構:第132図<sup>[176]</sup>・PI.70<sup>[416]</sup>, 遺物:第134図・PI.145<sup>[491]</sup>)

**位置・調査経過** F6グリッドに位置する。盛土層で確認した。SK192・SK202・SK230を切る。

**形状・規模** 北西-南東方向(N-33°-W)に長い長楕円形の土坑である。底にはやや凹凸があり壁は垂直に近い角度で立ちあがる。長さ159cm, 幅85cm, 深さ38cmである。

**覆土** 長軸方向(第132図F-F')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1~3層)は1層が暗褐色土層で炭化物・焼土を含む。2層は灰黄褐色土層で炭化物・小石を含む。3層は灰色礫層で筋状の炭化物を含む。下層(4・5層)は4層が灰黄色土層で焼土を含む。5層は黄褐色土層で炭化物を含む。

**出土遺物** 37点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付6点, 磁器3点, 陶器12点, 炆器5点, 瓦器1点, 土器9点, 瓦1点である。遺物の収拾は最上層・上層・中層・下層に分けて行った。内訳は最上層5点, 上層4点, 中層13点で他は覆土一括である。

図示した4点(1118~1121)は, 1118・1119が唐津の陶器・丸碗〔観335〕で17世紀の製品とみられる。1120は陶器・角鉢である。1121は備前の炆器・鉢である。

**時期** 17世紀。盛土層を掘削し構築された。出土遺物は17世紀の製品である。

**性格** 土坑。

**SK148**〈17世紀の土坑〉(遺構:第133図〔177〕・PI.70〔416〕, 遺物:第134図・PI.145〔491〕)

**位置・調査経過** C4グリッドに位置する。盛土層で確認した。SD14を切る。

**形状・規模** 東西方向(N-77°-E)に長い隅丸長方形の土坑である。短軸方向の断面は弓形である。長さ123cm, 幅92cm, 深さ16cmである。

**覆土** 短軸方向(第133図B-B')で覆土断面を観察した。粗い黒褐色土の単層で炭化物を含み鉄分の凝集がみられる。

**出土遺物** 18点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付1点, 陶器1点, 炆器2点, 土器7点, 鉄器2点, 瓦5点である。覆土一括で収拾した。

図示した3点(1122~1124)は, 1122が唐津の陶器・皿〔観335〕で17世紀前半の製品である。1123は備前の炆器・播鉢で16世紀末~17世紀初の製品である。1124は棒状の鉄器である。

**時期** 17世紀。出土遺物は17世紀の遺物を含む。

**性格** 土坑。

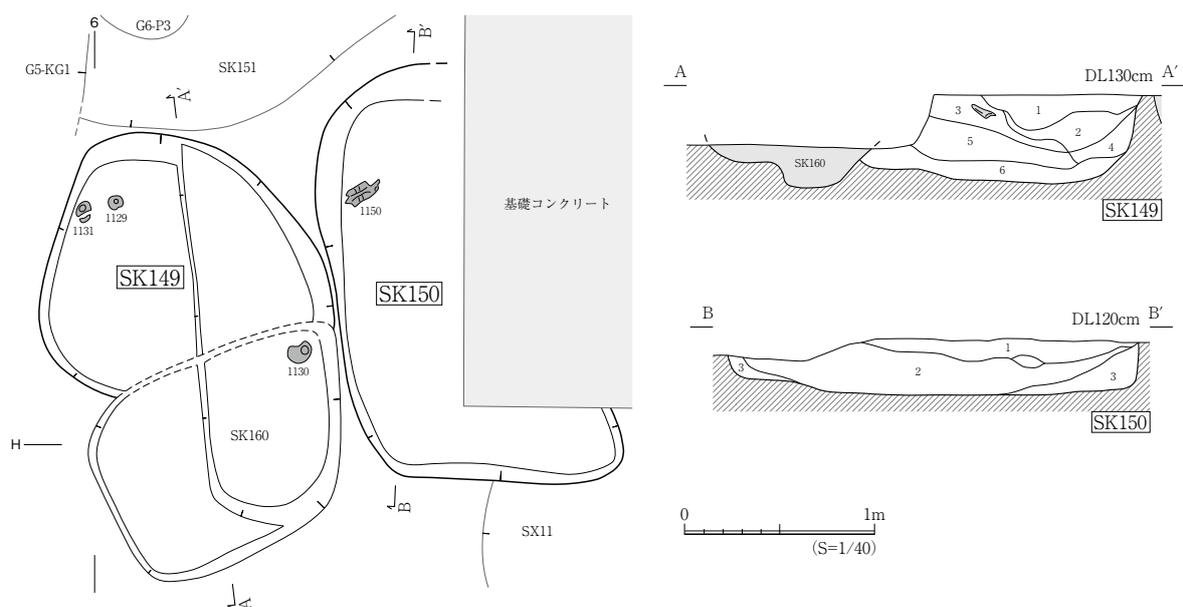
**SK149**〈近世の廃棄土坑〉(遺構:第135図〔180〕・PI.70〔416〕, 遺物:第136図〔181〕・PI.146〔492〕)

**位置・調査経過** G6グリッドに位置する。一帯はII層が厚く堆積しており, II層の除去後に重複する2つの遺構(他方はSK160)の存在を認めたが, 明確なプランや境界は把握できなかった。2つの遺構にかかる箇所を設定した覆土断面及び完掘後の状況により, 重複関係はSK160がSK149を切ると判断したが不明瞭な部分も残る。

**形状・規模** 平面は不整形で掘方はボウル形に近い。平面は152cm大, 深さ39cmである。

**覆土** 南北方向(第135図A-A')でSK160とともに覆土断面を観察した。6層に分かれる。1層は粗い暗褐色土層で炭化物・焼土・小石を含む。2層は粗い暗灰黄色土層で炭化物・焼土・小石を含む。3層は粗い黒褐色土層で炭化物・焼土を含む。4層は暗灰黄色土層で炭化物・焼土・山土粒を含む。5層は灰黄褐色土層で多量の炭化物・小石・山土粒を含む。6層は黒褐色ブロック土層で炭化物を含む。

**出土遺物** 212点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁11点, 青磁染付1点, 染付27点, 磁器8点, 陶器39点, 炆器12点, 瓦器1点, 土器87点, 瓦13点, 石製品1点, 鉄器12点である。遺物の収拾は上層・下層に分けて行った。3点は出土位置を記録した。層位別の内訳は上層75点, 下層9点で他は覆土一括である。



第135図 SK149・SK150平面図・断面図

図示した21点(1125~1145)は、1125が青磁、1126~1129が染付、1130~1134が陶器、1135・1136が炆器、1137が瓦器、1138~1143が土器、1144が瓦、1145が石製品である。

1125は肥前の青磁・皿で17世紀前半の製品である。1126は肥前の染付・小坏、1127は肥前の染付・猪口、1128は肥前の染付・稜花鉢、1129は肥前の染付・仏飯器である。1130は唐津の陶器・丸碗で17世紀の製品である。1131は京焼とみられる陶器・半球碗で18世紀の製品である。1132は唐津とみられる陶器・小皿である。1133は唐津の陶器・鉢である。1134は丹波の陶器・壺で19世紀の製品とみられる。1135は炆器・窯道具で匣鉢とみられる。1136は備前の炆器・灯明受皿である。1137は瓦器・甕である。1138は在地の土器・坏皿、1139~1143は在地の土器・小皿である。1144は丸瓦である。1145は粘板岩製の石製品で硯未製品とみられる。

時期 近世。出土遺物は近世の製品である。

性格 廃棄土坑。

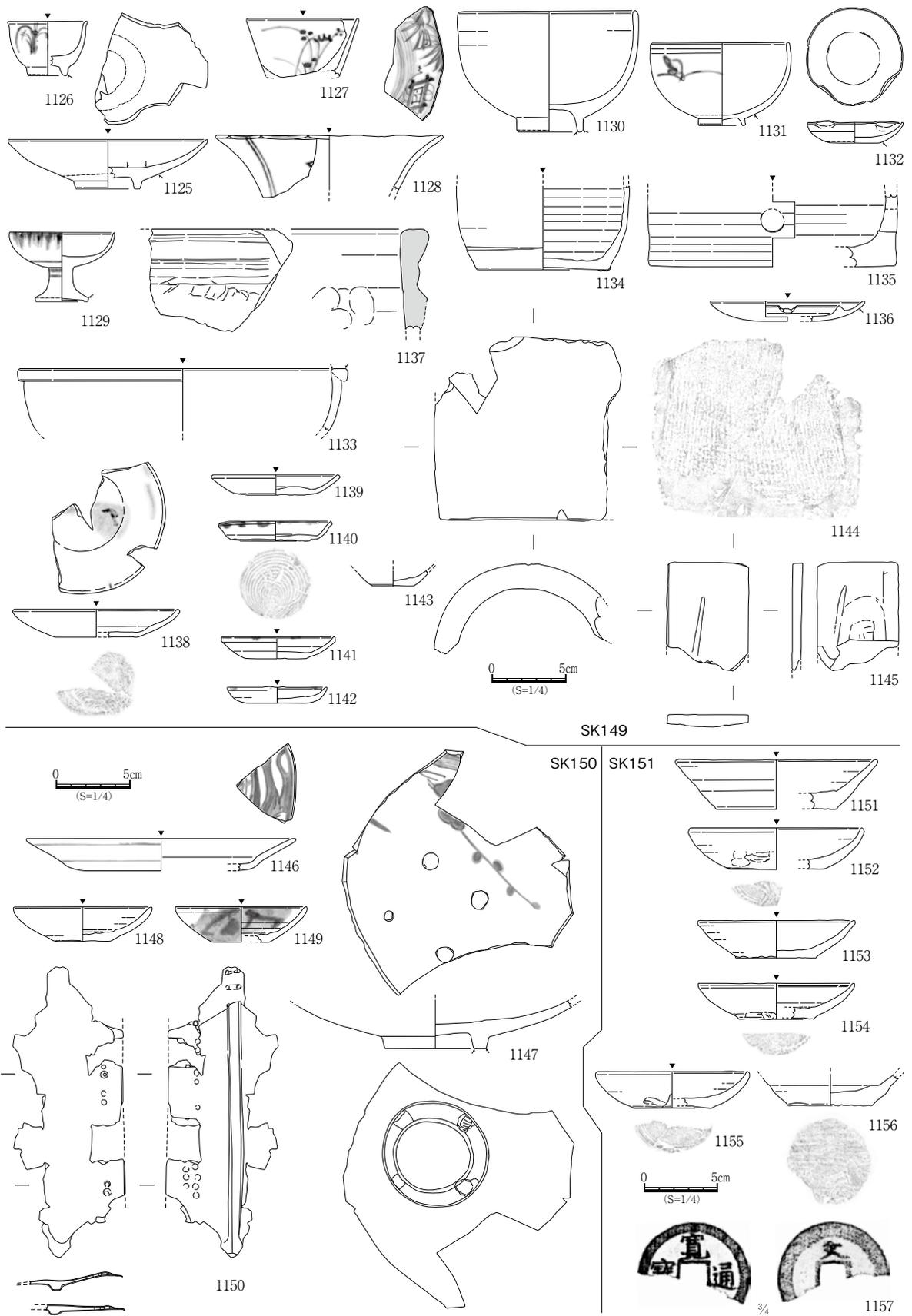
**SK150** (近世の土坑) (遺構: 第135図・PI.70<sup>[416]</sup>, 遺物: 第136図・PI.146・147<sup>[492-493]</sup>)

位置・調査経過 G6グリッドに位置する。一帯はII層が厚く堆積しており、II層除去後に遺構のプランを確認した。北東部分はコンクリート基礎により削り取られた。単独である。

形状・規模 南北方向(N-21°-W)に長い隅丸長方形の土坑である。底はおよそ水平で壁は垂直に近い角度で立ちあがる。長さ228cm、幅134cm、深さ28cmである。

覆土 長軸方向(第135図B-B')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は黒灰色土層で炭化物・山土粒を含む。2層は黒色土層で多量の炭化物・焼土・有機質・灰・砂を含む。3層はオリーブ灰色砂質土層である。

出土遺物 79点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁2点、青花1点、染付4点、磁器2点、陶器11点、土器54点、瓦2点、石製品1点、漆器1点、鉄器1点である。覆土一括で収拾した。漆器(1150)は覆土2層の上面から出土した。



第136図 SK149・SK150・SK151出土遺物

図示した5点(1146~1150<sup>[181]</sup>)は、1146が景德鎮の青花・折縁皿で16~17世紀の製品である。1147は肥前の陶器・中皿である。1148・1149は在地の土器・坏皿で近世の製品である。1150は薄板状の漆器である。各面に栗色漆と赤漆が塗布される。脊が通り、小さな木の鉾が多数打ち込まれている。

時期 近世。出土遺物は近世の製品である。

性格 土坑。

**SK151** (近世の廃棄土坑) (遺構:第123図<sup>[165]</sup>・PI.71<sup>[417]</sup>, 遺物:第136図<sup>[181]</sup>・PI.147<sup>[493]</sup>)

位置・調査経過 G6グリッドに位置する。一帯にはII層が厚く堆積しておりII層を除去する過程で遺物の集中箇所(SK127)及びこれと重複関係にある遺構(SK151)を確認した。いずれの遺構も底付近が残るのみで明確なプランの検出が困難であり、最終的なプランと重複関係は室内整理作業に先送りとした。最終的には重複関係をSK127がSK151を切ると判断した。

形状・規模 北東-南西方向(N-40°-W)に長い隅丸長方形の土坑である。底には凹凸があり壁は緩やかに立ちあがる。残長220cm, 残幅140cm, 深さ35cmである。

覆土 北西軸の2箇所(SK127と共に覆土断面を観察した(第123図A-A', B-B'))。5層に分かれる。1層は暗灰黄色砂質シルト層で炭化物・小石・山土粒を含む。2層は黒灰色シルト層で炭化物・焼土・礫・山土粒を含む。3層は黒褐色土層で炭化物・小石を含む。4層は褐灰色砂質土層で炭化物を含む。5層はオリブ灰色砂質シルト層で炭化物を含む。

出土遺物 710点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付2点, 陶器2点, 炆器1点, 須恵器1点, 土器682点, 瓦16点, 銭貨1点, 鉄器5点である。遺物の収拾は上層・中層・下層・炭化物層・底に分けて行った。内訳は上層602点, 中層3点, 下層50点, 炭化物層3点, 底10点で他は覆土一括である。

図示した7点(1151~1157<sup>[181]</sup>)は、1151~1156が在地の土器・坏皿で近世の製品である。1157は銅銭・新寛永通寶である。

時期 近世。出土遺物は近世の製品である。

性格 廃棄土坑。

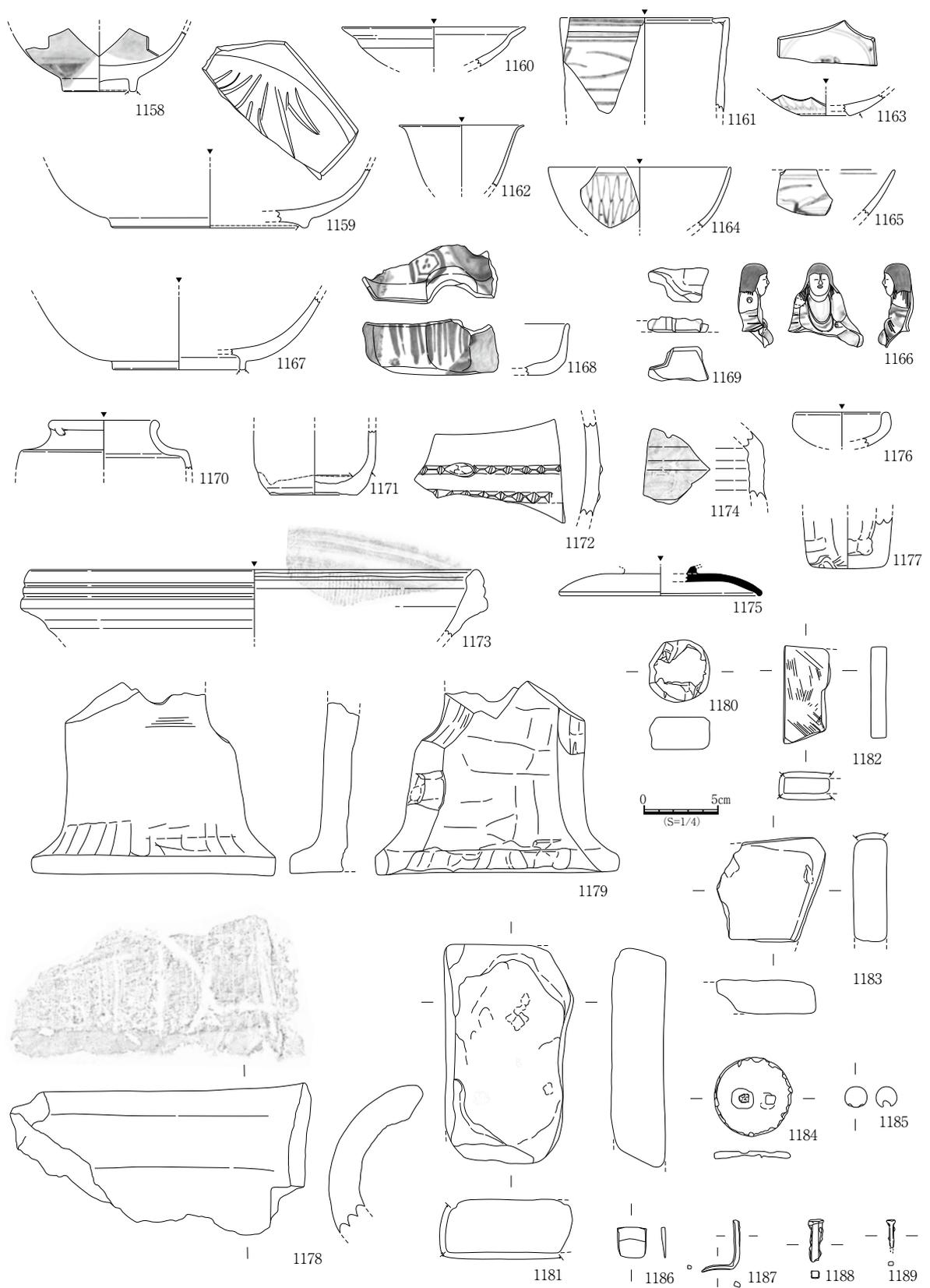
**SK154** (17世紀の廃棄土坑) (遺構:第48図<sup>[76]</sup>・PI.71<sup>[417]</sup>, 遺物:第137図・PI.147・148<sup>[493-494]</sup>)

位置・調査経過 D・4~5グリッドに位置する。盛土層で確認した。検出時は長大な長方形の土坑として調査を進めたが覆土断面などで複数遺構の重複を確認した。SE5・SE6・SE14・SK285・SK288に切られる。

形状・規模 南北方向(N-21°-W)に長い長大な隅丸長方形の土坑で掘方の断面は台形である。長さ400cm, 幅314cm, 深さ85cmである。

覆土 長軸方向(第48図D-D'), 短軸方向(第48図B-B')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は褐灰色礫層でシルト・炭化物・有機質を含む。2層は青灰色シルト層で多量の礫・有機質を含む。3層はにぶい赤褐色礫層, 4層は灰褐色土層で炭化物・礫を含む。

出土遺物 612点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁8点, 白磁15点, 青花1点, 青磁染付1点, 染付78点, 磁器22点, 陶器116点, 炆器12点, 須恵器6点, 瓦器3点, 白色土器2点, 土器99点, 瓦225点, 石製品4点, 鉛製品2点, 鉄器10点, 動物遺体8点である。遺物の収拾は上層・中層・下層に分けて行った。内訳は上層142点, 中層2点, 下層62点で他は覆土一括である。



第137図 SK154出土遺物

図示した32点(1158～1189<sup>[183]</sup>)は、1158～1161が青磁、1162が白磁、1163が青花、1164・1165が染付、1166が磁器、1167～1172が陶器、1173・1174が炆器、1175が須恵器、1176・1177が土器、1178・1179が瓦、1180が瓦転用品、1181～1183が石製品、1184・1185が鉛製品、1186～1189が鉄器である。

1158は肥前の青磁・碗、1159は肥前の青磁・中皿、1160は肥前の青磁・皿、1161は肥前の青磁・筒形鉢である。1162は肥前の白磁・小坏で17世紀の製品とみられる。1163は中国製の青花・皿で15～16世紀の製品である。1164・1165は肥前の染付・丸碗である。1166は肥前の磁器・水滴である。1167は肥前の陶器・鉢である。1168は瀬戸の陶器・向付で17世紀の製品である。1169は織部の陶器・向付で17世紀の製品である。1170は瀬戸の陶器・壺である。1171は唐津の陶器・壺である。1172は唐津の陶器・大甕で17世紀の製品である。1173は備前の炆器・搦鉢で17～18世紀の製品である。1174は備前の炆器・壺である。1175は須恵器・坏蓋で古代の製品である。1176は在地の土器・小皿で近世の製品である。1177は土器・焼塩壺である。1178は軒丸瓦で鉄線痕が残る。1179は棟瓦とみられる。1180は瓦を再加工した円盤である。1181は砂岩製、1182は粘板岩製、1183は砂岩製の砥石である。1184は鉛製品で円盤形のインゴットとみられる。1185は鉛製品で鉄砲玉とみられる。1186は鉄器で楔とみられる。1187～1189は鉄釘で1188・1189は頭巻釘である。動物遺体にシカ中足骨・脛骨・踵骨等がある(付編2<sup>[275]</sup>)。

時期 17世紀。出土遺物は17世紀の製品である。

性格 廃棄土坑。

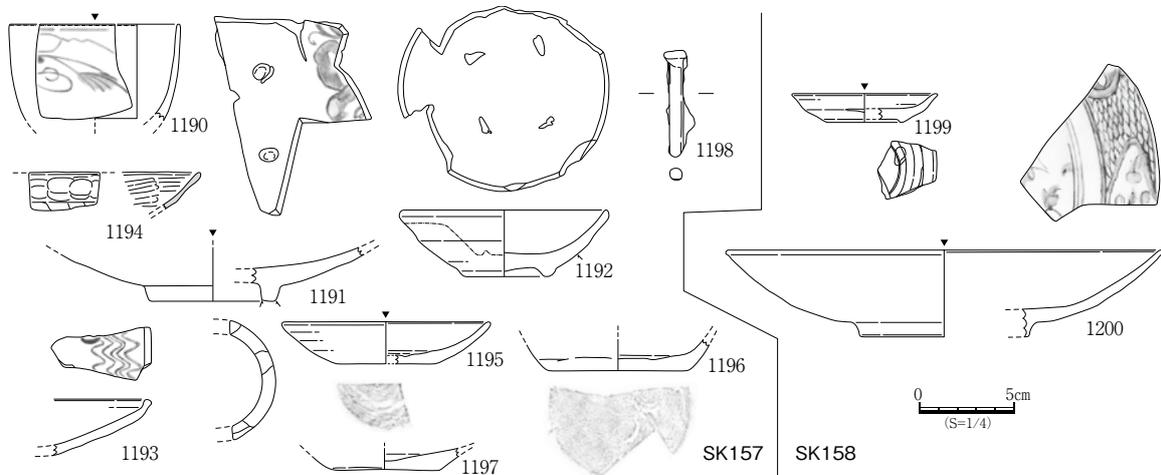
**SK157** (17世紀の土坑) (遺構:第139図・PI.71<sup>[417]</sup>, 遺物:第138図・PI.148<sup>[494]</sup>)

位置・調査経過 F4グリッドに位置する。盛土層で確認した。単独である。

形状・規模 平面は円形で掘方の断面は低平な隅丸台形である。径148cm, 深さ35cmである。

覆土 南北方向(第139図A-A')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が暗褐色砂礫層で炭化物・山土粒を含む。2層は黒褐色炭化物層で焼土を含む。下層(3・4層)は3層が黄灰色シルト層で炭化物を含む。4層は黒褐色シルト層で炭化物を含む。

出土遺物 44点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付2点, 陶器11点, 炆器5点, 瓦器1点, 土器22点, 瓦2点, 鉄器1点である。遺物の收拾は上層・下層に分けて行った。内訳は下層6点, 覆土38点である。

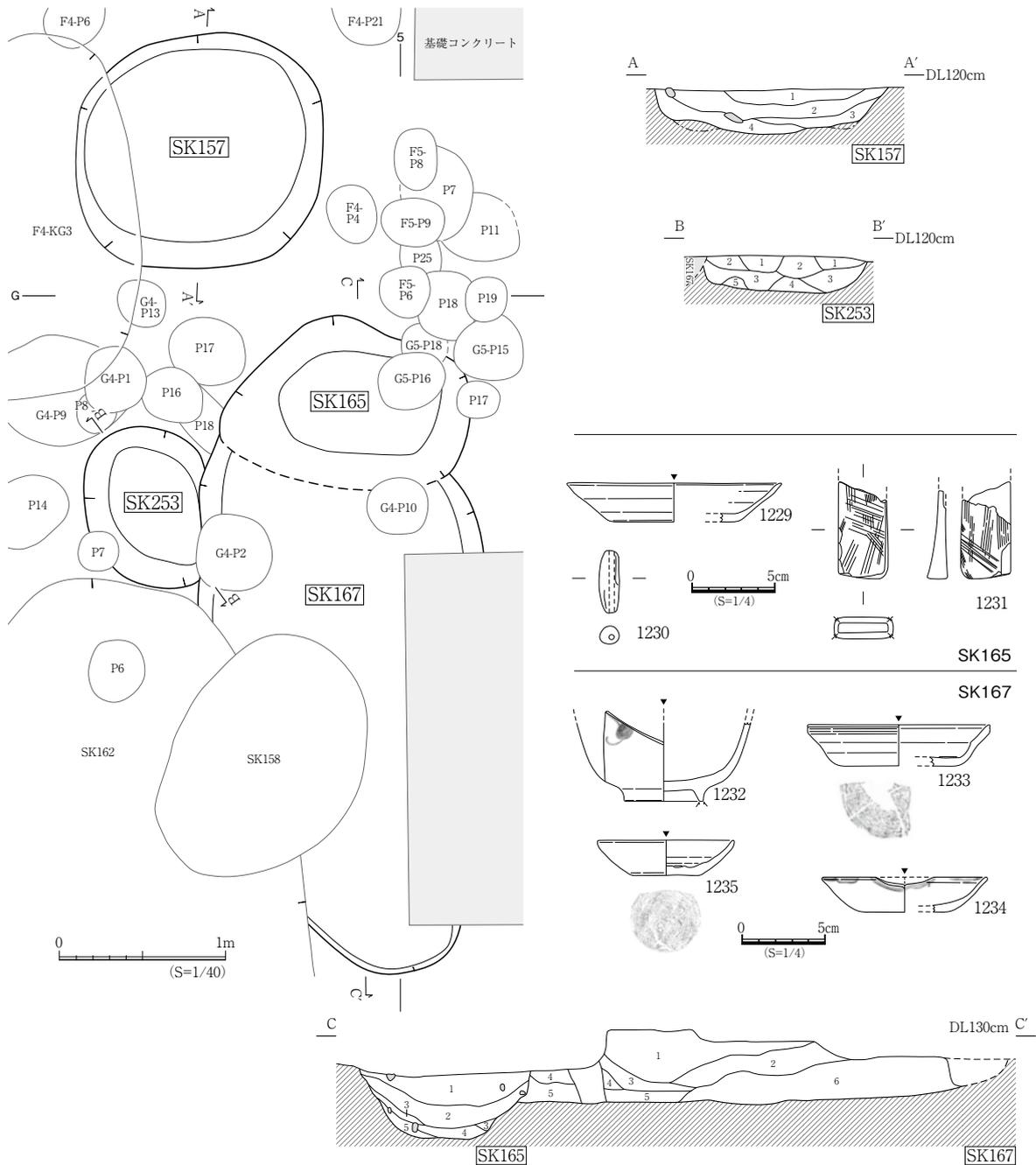


第138図 SK157・SK158出土遺物

図示した9点(1190~1198)は、1190が初期伊万里の染付・碗で17世紀前半の製品である。1191は肥前の陶器・二彩手中皿である。1192は唐津の陶器・皿で16世紀末~17世紀初の製品である。1193は肥前の陶器・皿である。1194は和泉型の瓦器・碗で13世紀の製品である。1195~1197は在地の土器・坏皿で近世の製品である。1198は鉄器で頭巻釘である。

時期 17世紀。出土遺物は17世紀の製品である。

性格 土坑。

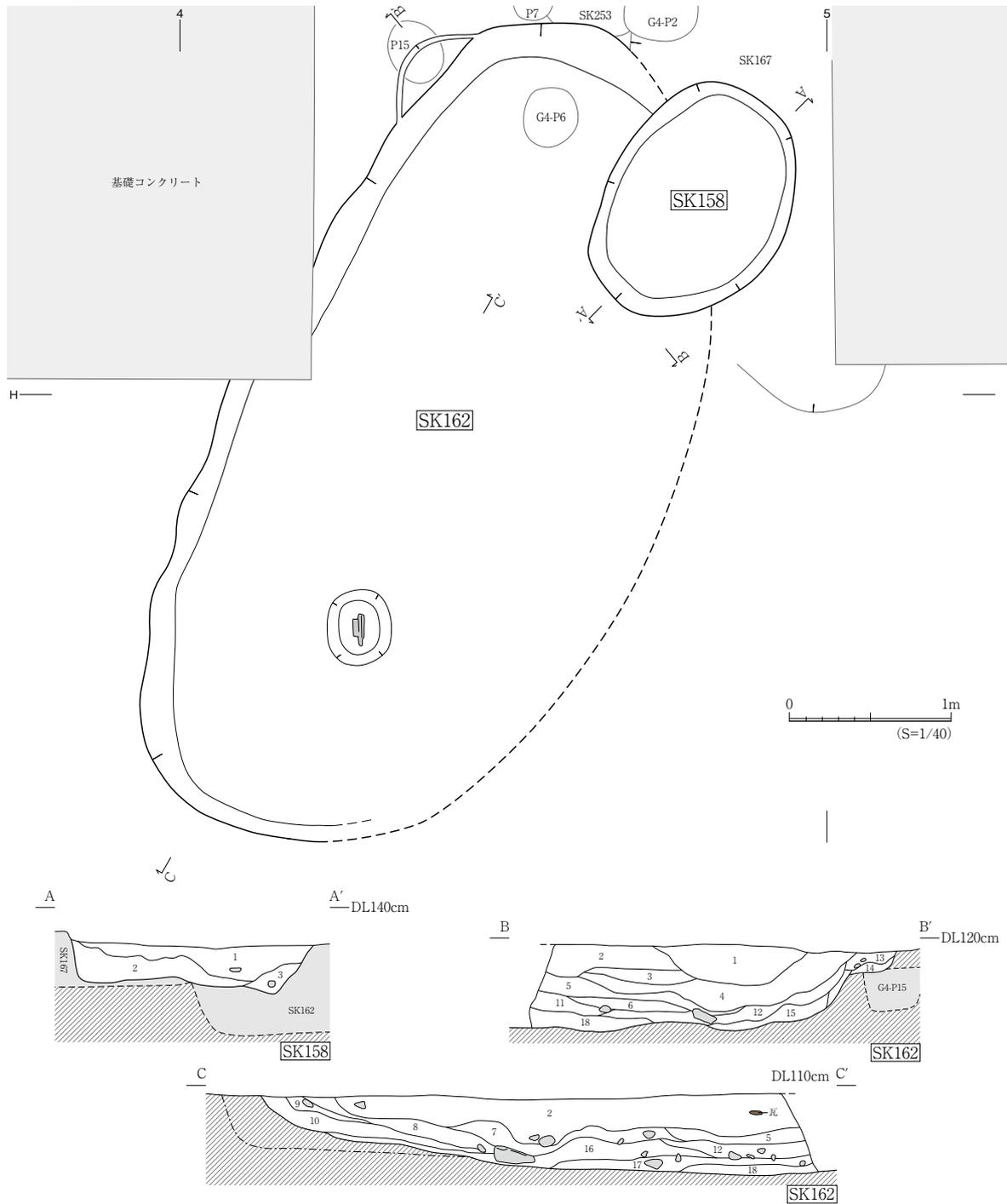


第139図 SK157・SK165・SK167・SK253平面図・断面図, SK165・SK167出土遺物

**SK158**〈17世紀の土坑〉(遺構:第140図・Pl.71<sup>[417]</sup>, 遺物:第138図<sup>[184]</sup>・Pl.149<sup>[495]</sup>)

位置・調査経過 G4グリッドに位置する。盛土層で確認した。SK162・SK167を切る。

形状・規模 北東-南西方向(N-29°-E)に長い楕円形の土坑である。底には凹凸があり壁は垂直に近い角度で立ちあがる。長さ152cm, 幅115cm, 深さ55cmである。



第140図 SK158・SK162平面図・断面図

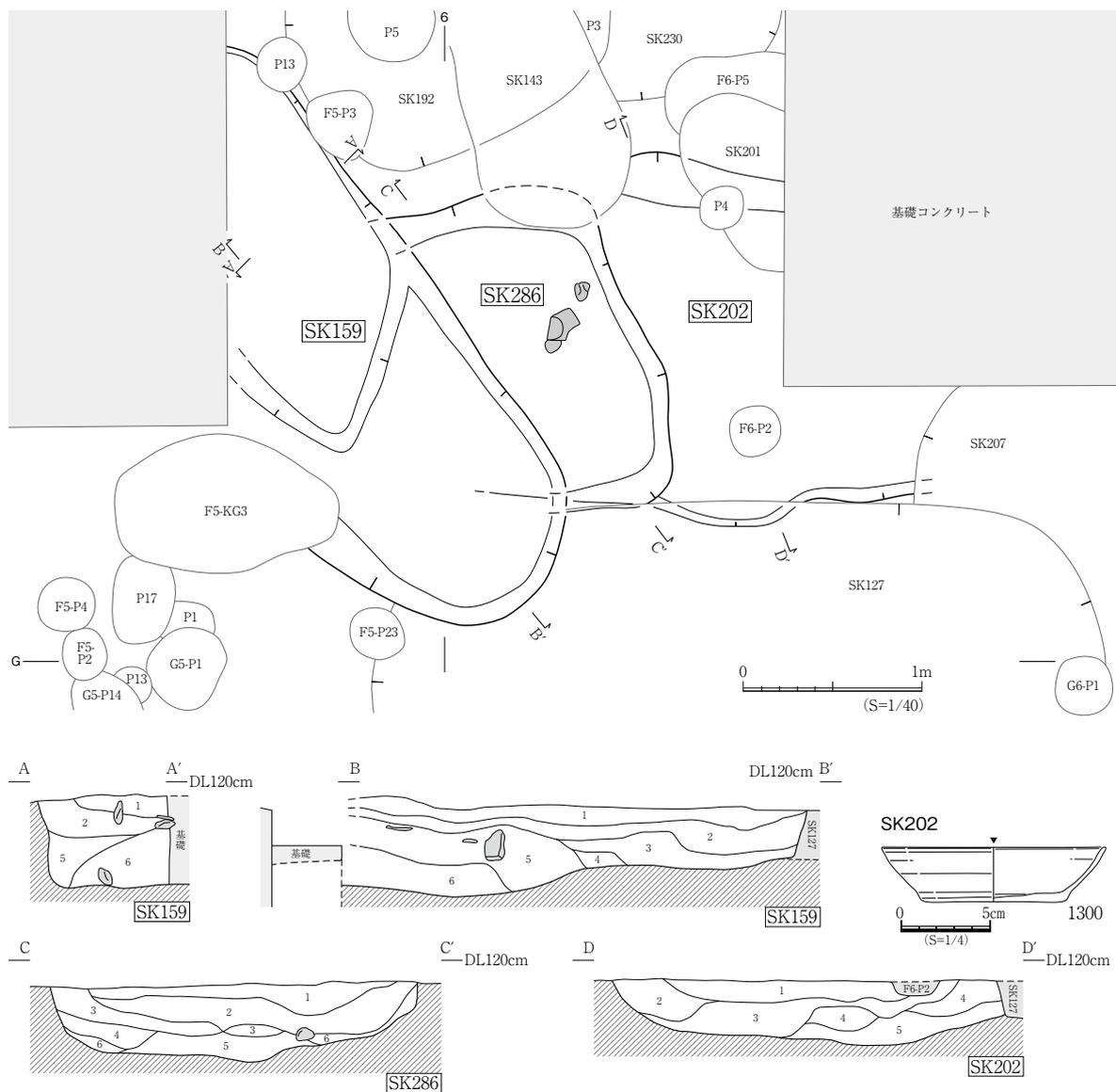
**覆土** 長軸方向(第140図A-A')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は粗い黒褐色土層で炭化物・焼土・小石・山土粒を含む。2層は暗褐色粘質土層で炭化物・焼土・有機質を含む。3層は灰褐色シルト層で小石を含む。

**出土遺物** 24点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点, 染付3点, 磁器2点, 陶器5点, 土器12点, 瓦1点である。覆土一括で収拾した。

図示した2点(1199・1200<sup>[184]</sup>)は, 1199が同安窯の青磁・皿で13~14世紀の製品である。1200は初期伊万里の色絵磁器・皿で17世紀の製品である。<sup>[観337]</sup>

**時期** 17世紀。出土遺物は17世紀の製品である。

**性格** 土坑。



第141図 SK159・SK202・SK286平面図・断面図, SK202出土遺物

**SK159** (18世紀の廃棄土坑) (遺構:第141図<sup>[187]</sup>・Pl.72<sup>[418]</sup>, 遺物:第142図・Pl.149<sup>[495]</sup>)

**位置・調査経過** F・5～6グリッドに位置する。一帯にはⅡ層が厚く堆積しており,Ⅱ層除去後にプランを確認した。北西側はコンクリート基礎に削り取られる。SK127・SK202・SK286を切る。

**形状・規模** 北西-南東方向(N-51°-W)に長い細長方形の土坑である。底には凹凸がありまた段差がある。底は南側が15cm高い。壁は垂直に近い角度で掘り込まれる。残存長は225cm,幅130cm,深さ49cmである。

**覆土** 長軸方向(第141図B-B'),短軸方向(第141図A-A')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1~4層)は1・2層が黒褐色土層で炭化物・小石・砂・シルトを含む。3層はにぶい黄褐色土で炭化物・ブロック土を含む。4層は灰黄褐色シルト層である。下層(5・6層)は5層が黒褐色土層で炭化物・焼土・礫を含む。6層は灰褐色シルト土層で山土粒を含む。

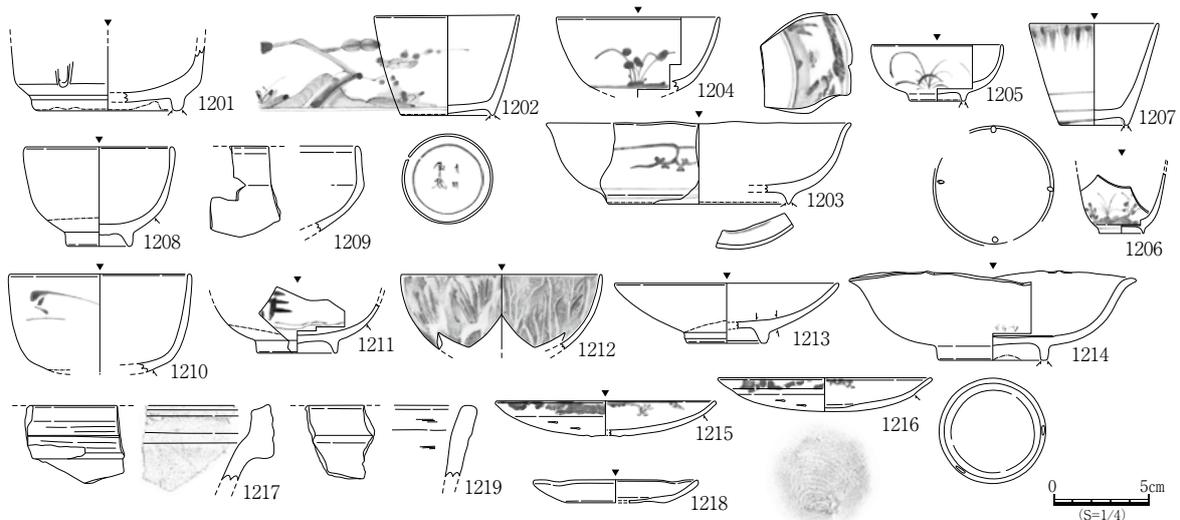
**出土遺物** 189点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁8点,白磁5点,染付32点,磁器17点,陶器39点,炆器13点,須恵器1点,瓦器1点,白色土器1点,土器68点,瓦2点,石製品2点である。遺物の収拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層76点,下層15点で他は覆土一括である。

図示した19点(1201~1219)は,1201が青磁,1202~1207が染付,1208~1214が陶器,1215~1217が炆器,1218・1219が土器である。

1201は肥前の青磁・壺である。1202は肥前の染付・蕎麦猪口,1203は肥前の染付・輪花鉢,1204・1205は肥前の染付・小碗,1206は肥前の染付・小坏,1207は肥前の染付・猪口である。1208は唐津の陶器・天目茶碗で18世紀の製品である。1209は瀬戸の陶器・天目茶碗である。1210は肥前の陶器・御室碗で17世紀後半~18世紀前半の製品である。1211は肥前京焼風陶器・半球碗とみられる。18世紀の製品である。1212は現川の陶器・打ち刷毛目碗で18世紀前半の製品である。1213は唐津の陶器・皿で17世紀の製品である。1214は肥前の陶器・稜花鉢である。1215・1216は備前の炆器・灯明皿である。1217は備前の炆器・搦鉢で18世紀の製品である。1218は土器・小皿,1219は土器・火鉢である。

**時期** 18世紀。出土遺物は18世紀の製品である。

**性格** 廃棄土坑。



第142図 SK159出土遺物

**SK161**〈近世の土坑〉(遺構:第143図・Pl.72<sup>[418]</sup>)

位置・調査経過 G3グリッドに位置する。盛土層で確認した。単独である。

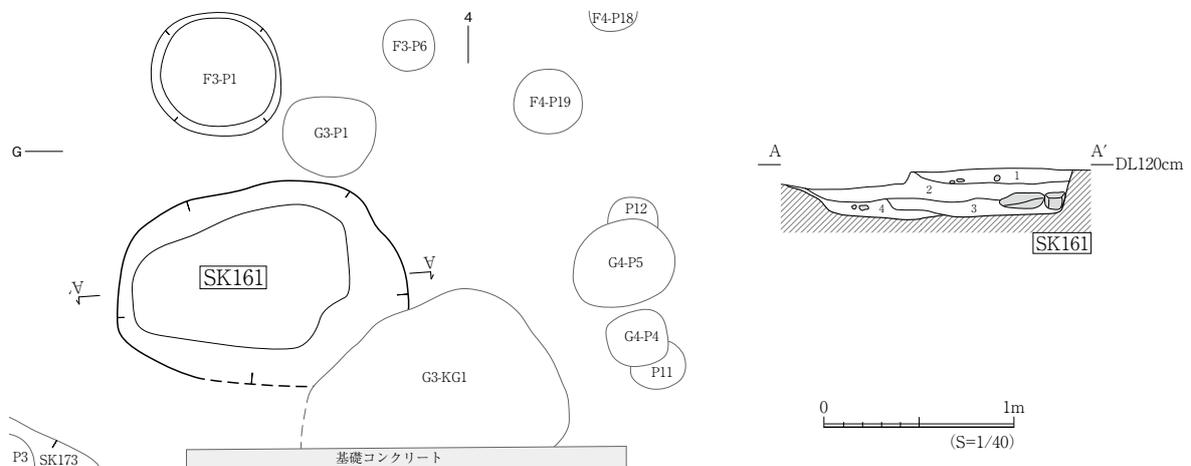
形状・規模 東西方向(N-79°-E)に長い不整形の土坑である。掘方の断面は低平な台形である。長さ152cm, 幅107cm, 深さ29cmである。

覆土 長軸方向(第143図A-A')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は暗灰黄色土層で炭化物・焼土を含む。2層は黒褐色砂質シルト層で炭化物・山土粒を含む。3層は黒褐色砂質土層で炭化物を含む。4層は灰褐色土層で小石を含む。

出土遺物 36点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は青磁1点, 染付9点, 陶器5点, 瓦器1点, 土器18点, 瓦2点である。覆土一括で收拾した。

時期 近世。出土遺物は近世の製品である。

性格 土坑。



第143図 SK161平面図・断面図

**SK162**〈17世紀の土坑〉(遺構:第140図<sup>[186]</sup>・Pl.72<sup>[418]</sup>, 遺物:第144図<sup>[190]</sup>・Pl.149・150<sup>[495-496]</sup>)

位置・調査経過 G4グリッドに位置する。II層除去後に確認した。遺構のプランは不明瞭で南北方向で観察した覆土の断面で南側へのさらなる延長を確認した。SK167・SK253を切り, SK158に切られる。

形状・規模 南北方向(N-15°-E)に長い大型の楕円形土坑である。掘方の断面は低平な隅丸台形で底には凹凸がある。長さ540cm, 残存幅155cm, 深さ54cmである。

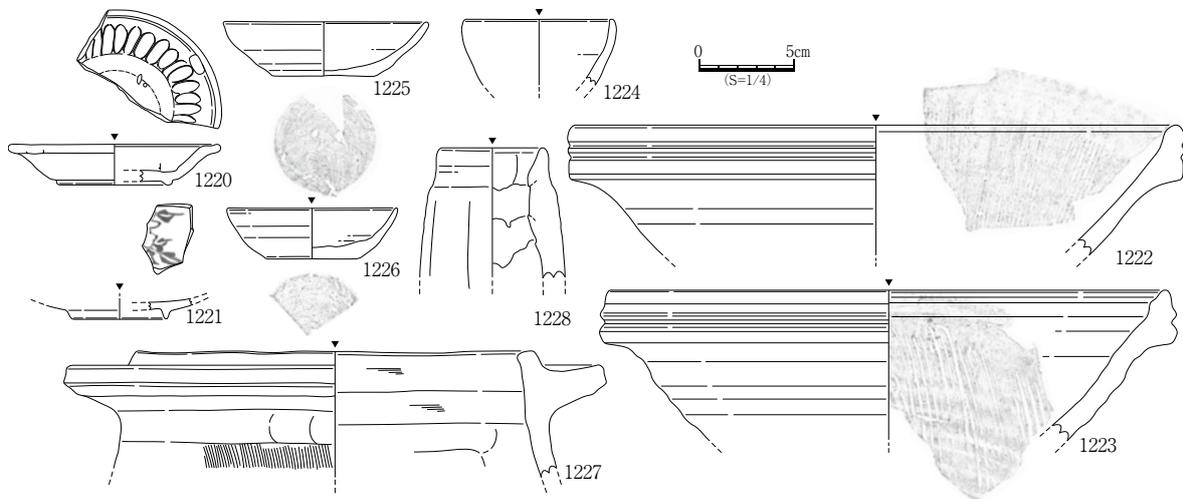
覆土 長軸方向(第140図C-C'), 短軸方向(第140図B-B')で覆土断面を観察した。シルト質土層と有機質・炭化物層が互層をなす。18層に分かれる。1・2層は褐灰色砂質シルト層で炭化物・焼土・小石・山土粒を含む。3層は灰褐色砂質シルト層で炭化物・山土粒を含む。4層は褐灰色砂質ブロック土層で有機質・炭化物・礫を含む。5層は褐灰色砂質シルト層で炭化物・マンガン粒を含む。6層は緑灰色土層で炭化物・焼土・小石を含む。7層は褐灰色土層で炭化物・礫を含む。8層は褐灰色シルト層で炭化物・山土粒を含む。9層は暗褐色シルト層で小石を含む。10層は黒灰色土層で多量の山土塊を含み上部に炭化物が堆積する。11層は緑灰色土層で炭化物・山土塊を含む。12層は青灰色粘質シルト層で上部に有機質が堆積する。13層は灰色砂質シルト層で炭化物を含む。14層は灰褐色砂質シルト層で山土粒を含む。15層は褐灰色砂質シルト層, 16層は青灰色土層で小石・山土粒を含む。17層は暗褐色土層で有機質・小石・山土粒を含む。18層は青灰色砂質土層である。

出土遺物 119点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点, 白磁7点, 染付7点, 磁器4点, 陶器35点, 炆器6点, 白色土器1点, 土器56点, 瓦1点, 鉄器1点である。遺物の収拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層45点, 下層21点で他は覆土一括である。

図示した9点(1220~1228)は, 1220が唐津とみられる陶器・皿である。1221は肥前の陶器・皿で近世の製品である。〔観338〕1222は備前の炆器・播鉢で18世紀の製品である。1223は備前の炆器・播鉢で17世紀後半の製品である。1224は土器・坏で近世の製品である。1225・1226は在地の土器・坏皿で近世の製品である。1227は摂津の土器・羽釜で10~11世紀の製品である。1228は土器・焼塩壺で17世紀の製品である。

時期 17世紀。出土遺物には混入があるが最も新しいのは17世紀の製品である。

性格 大型土坑。



第144図 SK162出土遺物

**SK165** (近世の土坑) (遺構: 第139図<sub>[185]</sub>・PI.72<sub>[418]</sub>, 遺物: 第139図<sub>[185]</sub>・PI.150<sub>[496]</sub>)

位置・調査経過 G4グリッドに位置する。盛土層で確認した。SK167を切る。

形状・規模 東西方向(N-84°-E)に長い不整楕円形の土坑である。掘方の断面は隅丸台形である。長さ145cm, 幅90cm, 深さ51cmである。

覆土 南北方向(第139図C-C')でSK167と共に覆土断面を観察した。5層に分かれる。1層は粗い暗褐色砂質土層で炭化物・小石・山土粒を含む。2層は粗い黒褐色砂質シルト層で炭化物・山土粒を含む。3層は粗い灰色粘質シルト層で炭化物・小石を含む。4層は暗灰黄色粘質シルト層で有機質を含む。5層は灰褐色砂質シルト層で鉄分の凝集がみられる。

出土遺物 14点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は陶器2点, 土器10点, 土製品1点, 石製品1点である。遺物の収拾は上層・中層・下層に分けて行った。内訳は上層2点, 中層6点, 下層4点で他は覆土一括である。

図示した3点(1229~1231<sub>[185]</sub>)は, 1229が在地の土器・皿で古代の製品である。1230は土製品・土錘である。〔観338-339〕1231は片岩製の砥石である。

時期 近世。出土遺物には混入もあるが近世の製品を含む。

性格 土坑。

**SK166**〈近世の瓦敷土坑〉(遺構:第41<sup>[66]</sup>・145図・PI.73<sup>[49]</sup>)

**位置・調査経過** E・2~3グリッドに位置する。一帯にはII層が厚く堆積しており、II層の除去後に遺構の平面プランを確認した。検出時には近代の遺物を含む土坑と判断し精査の対象外としていたが、掘削の過程で一面に瓦片の拡がりを確認したためSKと改め調査を継続した。SK172・SK234・SK237・SK247・SK269を切る。

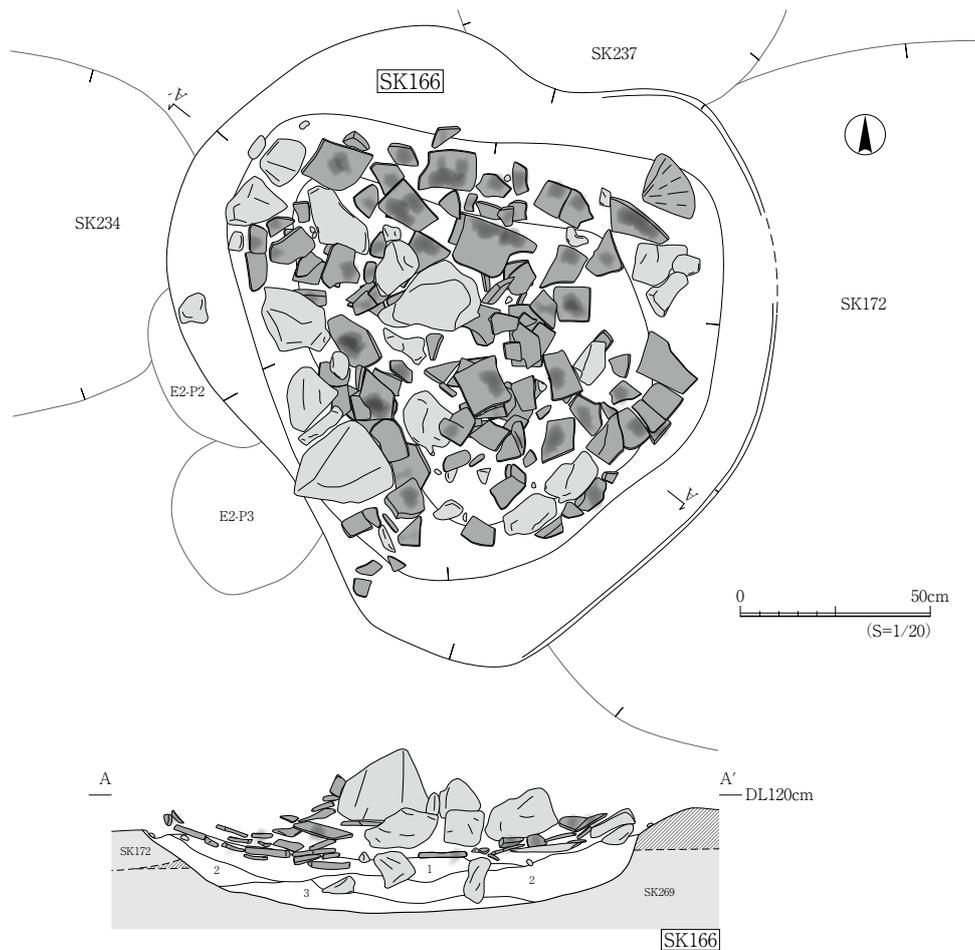
**形状・規模** 平面は不整形で底は浅いボウル状、壁は斜めに立ちあがる。平面は160×150cm大、深さ49cmである。150点の平瓦片と3点の丸瓦片が底から20cm浮いた位置に底の局面に沿うように敷かれていた。瓦敷きの諸処には塊石があり石臼片もみられる。

**覆土** 北西軸(第145図A-A')で覆土断面を観察した。覆土上部の相当部分がすでに失われた。残った覆土は3層に分かれる。1層は茶褐色土層で炭化物・有機質を含む。2層は褐灰色シルト層で鉄分の凝集がみられる。3層は褐灰色砂質シルト層である。

**出土遺物** 底に敷かれた瓦を含め212点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は青磁1点、白磁2点、染付7点、磁器3点、陶器11点、白色土器1点、土器33点、瓦153点、石製品1点である。覆土一括で收拾した。瓦の内訳は丸瓦3点、平瓦150点である。

**時期** 18世紀か。出土遺物に18世紀の肥前二彩手陶器を含む。

**性格** 瓦敷きの土坑。



第145図 SK166平面図・断面図

**SK167** (17世紀の土坑) (遺構:第139図<sup>[185]</sup>・Pl.73<sup>[419]</sup>, 遺物:第139図<sup>[185]</sup>・Pl.150<sup>[496]</sup>)

位置・調査経過 G4グリッドに位置する。盛土層で確認した。SK253を切り, SK158・SK162・SK165に切られる。

形状・規模 南北方向(N-15°-W)に長い長楕円形で底は緩やかに窪み緩やかに立ちあがる。残存長330cm, 幅170cm, 深さ26cmである。

覆土 南北方向(第139図C-C')でSK165と共に覆土断面を観察した。6層に分かれる。1層は灰黄褐色シルト層で炭化物・焼土・小石・山土粒を含む。2層は灰褐色砂質シルト層で炭化物・焼土を含む。3層は灰色粘質シルト層で炭化物・山土粒を含む。4層は灰褐色土層で炭化物を含む。5層は褐灰色砂質シルト層で焼土・小石・山土粒を含む。6層は褐灰色砂質シルト層で炭化物・焼土・山土粒を含む。

出土遺物 150点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁2点, 白磁1点, 染付5点, 磁器1点, 陶器18点, 炆器1点, 瓦器2点, 土器92点, 瓦13点, 鉄器15点である。遺物の收拾は上層・中層・下層に分けて行った。内訳は上層5点, 中層14点, 下層24点で他は覆土一括で收拾した。

図示した4点(1232~1235<sup>[185]</sup>)は, 1232が初期伊万里の染付・碗で17世紀前半の製品である。1233は在地の土器・坏皿で近世の製品である。1234・1235は在地の土器・小皿で近世の製品である。

時期 17世紀。出土遺物は17世紀の製品である。

性格 土坑。

**SK168** (近世の土坑) (遺構:第146図・Pl.74<sup>[420]</sup>, 遺物:第146図・Pl.150<sup>[496]</sup>)

位置・調査経過 F2グリッドに位置する。盛土層で確認した。SK251・SK277・SK280を切り, SK169に切られる。

形状・規模 北西-南東方向(N-82°-W)に長い隅丸長方形の土坑である。掘方の断面は低平な台形である。長さ200cm, 幅103cm, 深さ17cmである。

覆土 長軸方向(第146図A-A')で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層は暗灰黄色砂質シルト層で炭化物・山土粒を含み鉄分が凝集する。2層は暗灰黄色砂質シルト層で炭化物・焼土・小石を含む。

出土遺物 60点の遺物が出土した。内訳は染付2点, 陶器7点, 炆器1点, 土器49点, 瓦1点である。覆土一括で收拾した。図示した2点(1236・1237)は, 1236が土器・鉢, 1237が土器・鍋である。

時期 近世。盛土層を掘削し構築された。

性格 土坑。

**SK169** (近世の土坑) (遺構:第146図・Pl.74<sup>[420]</sup>)

位置・調査経過 F2グリッドに位置する。盛土層で確認した。攪乱により南半分が削り取られる。SK168・SK238・SK280を切る。

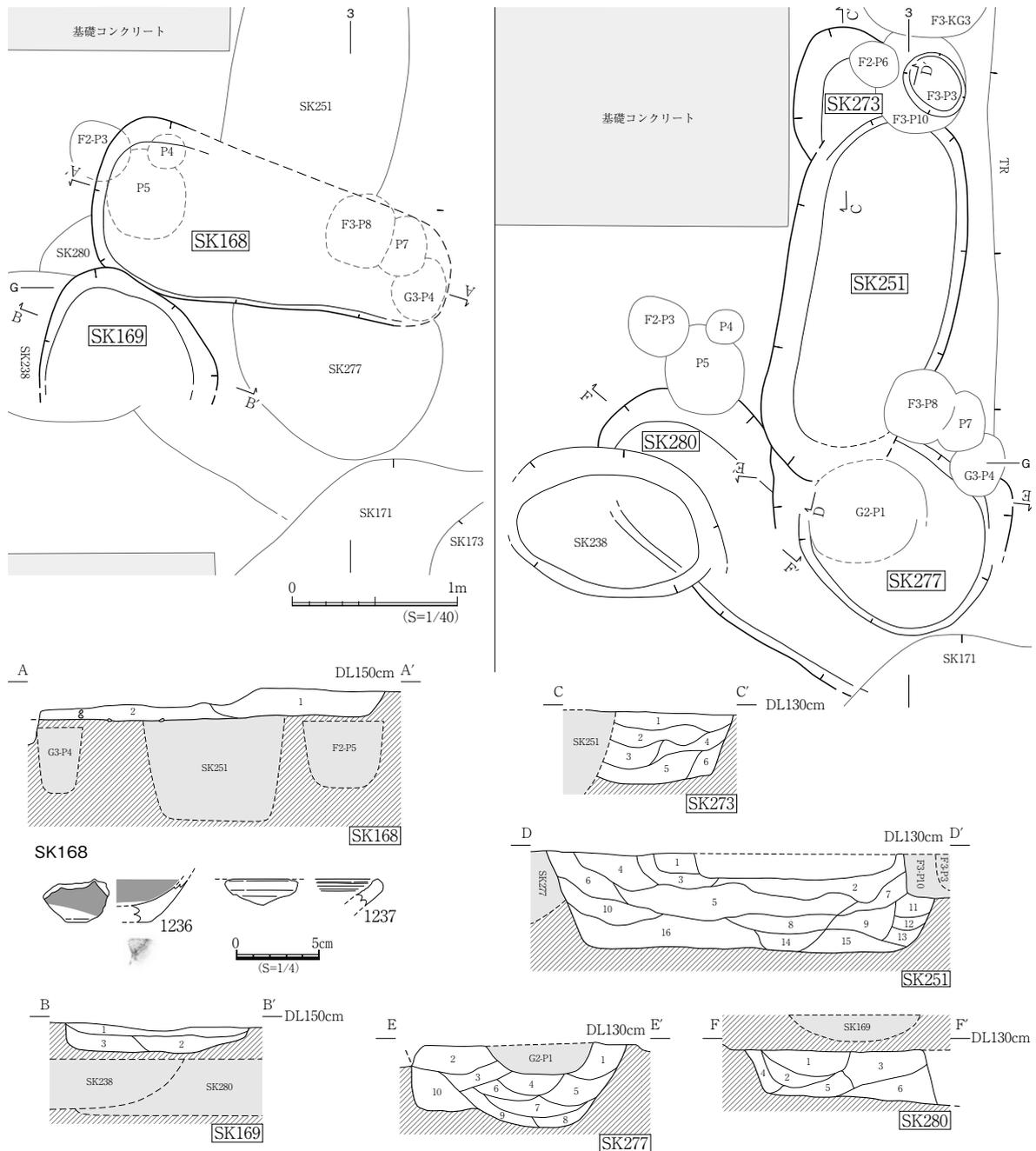
形状・規模 平面は円形で, 底には凹凸があり壁は急傾斜で立ちあがる。径100cm大, 深さ18cmである。

覆土 短軸方向(第146図B-B')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は暗灰黄色砂質シルト層で炭化物・焼土・山土粒を含む。2・3層は褐灰色シルト層で炭化物・焼土・山土粒を含む。

出土遺物 16点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は土器16点である。覆土一括で收拾した。

時期 近世。盛土層を掘削し構築された。

性格 土坑。



第146図 SK168・SK169・SK251・SK273・SK277・SK280平面図・断面図, SK168出土遺物

**SK171** (17世紀の土坑) (遺構:第147図<sup>[195]</sup>・PI.74<sup>[420]</sup>, 遺物:第148図<sup>[196]</sup>・PI.150<sup>[496]</sup>)

**位置・調査経過** GH・2~3グリッドに位置する。盛土層で確認した。南側を攪乱に、北西部をコンクリート基礎に削り取られる。SK173に切られる。

**形状・規模** 平面は不整形, 底はおよそ水平に整えられ, 緩やかに立ちあがる壁の一部を確認した。370×350cm範囲を確認し, 深さは36cmである。

**覆土** 南北方向(第147図A-A)で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が黒褐色土層で炭化物・小石・山土粒を含む。2層は褐灰色砂礫層である。下層(3~5層)は3層が灰オリーブ砂質土層, 4層は灰黄褐色礫層, 5層は褐灰色砂質土層である。

出土遺物 220点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白磁7点, 染付16点, 磁器2点, 陶器32点, 炆器2点, 須恵器2点, 瓦器1点, 施釉土器2点, 土器148点, 瓦5点, 土製品1点, 銭貨1点, 鉄器1点である。覆土一括で収拾した。

図示した5点(1238~1242<sup>[196]</sup>)は, 1238が唐津の陶器・折縁皿で17世紀前半の製品である。1239は肥前の陶器・皿で17世紀後半の製品である。1240は在地の土器・皿で近世の製品である。1241は在地の土器・小皿で近世の製品である。1242は銅銭・元祐通寶である。

時期 17世紀。出土遺物は17世紀の製品である。

性格 土坑。

**SK172** (17世紀の廃棄土坑) (遺構:第149図<sup>[197]</sup>・PI.74<sup>[420]</sup>, 遺物:第148図<sup>[196]</sup>・PI.150<sup>[496]</sup>)

位置・調査経過 E3グリッドに位置する。盛土層で確認した。東側はコンクリート基礎に削り取られる。SK247・SK269・SK276を切り, SK166に切られる。

形状・規模 北西-南東方向(N-77°-W)に長い隅丸長方形の土坑である。底には凹凸があり壁は垂直に近い角度で立ちあがる。残存長240cm, 幅200cm, 深さ31cmである。

覆土 短軸方向(第149図A-A')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は暗灰黄色砂質土層で炭化物・山土粒を含む。2層は黒褐色砂質土層で炭化物・山土粒を含む。3層はオリーブ灰色砂質シルト層で炭化物・小石を含む。

出土遺物 153点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付1点, 磁器1点, 陶器12点, 炆器3点, 土器126点, 瓦9点, 動物遺体1点である。遺物の収拾は上層・中層・下層に分けて行った。内訳は上層38点, 中層42点で他は覆土一括である。

図示した4点(1243~1246<sup>[196]</sup>)は, 1243が唐津の陶器・天目茶碗で17世紀前半の製品である。1244は唐津の陶器・小碗で17世紀の製品である。1245は在地の土器・坏皿, 1246は在地の土器・小皿で近世の製品である。動物遺体にハイガイがある(付編2<sup>[275]</sup>)。

時期 17世紀。出土遺物は17世紀の製品である。

性格 廃棄土坑。

**SK173** (19世紀の土坑) (遺構:第147図・PI.74<sup>[420]</sup>, 遺物:第148図<sup>[196]</sup>・PI.150・151<sup>[496-497]</sup>)

位置・調査経過 G3グリッドに位置する。盛土層で確認した。東側はコンクリート基礎により削り取られる。SK171を切る。

形状・規模 北西-南東方向(N-61°-W)に長い楕円形の土坑で掘方の断面は低平な台形である。残存長250cm, 幅177cm, 深さ31cmである。

覆土 長軸方向(第147図B-B')で覆土断面を観察した。7層に分かれる。1層は暗灰黄色砂質シルト層で炭化物・焼土・山土粒を含む。2層は黒褐色土層で炭化物・礫・山土粒を含む。3層は暗灰黄色砂質土層で炭化物・焼土・小石・山土粒を含む。4層はオリーブ灰色砂質土層で炭化物・小石・山土粒・緑石粒を含む。5層は褐灰色砂礫層, 6層は灰黄褐色砂礫層, 7層は褐灰色礫層である。

出土遺物 90点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点, 白磁2点, 染付14点, 磁器2点, 陶器17点, 炆器7点, 施釉土器1点, 土器37点, 土製品1点, 瓦6点, 銅製品1点, 鉄器1点である。いずれも覆土一括で収拾した。

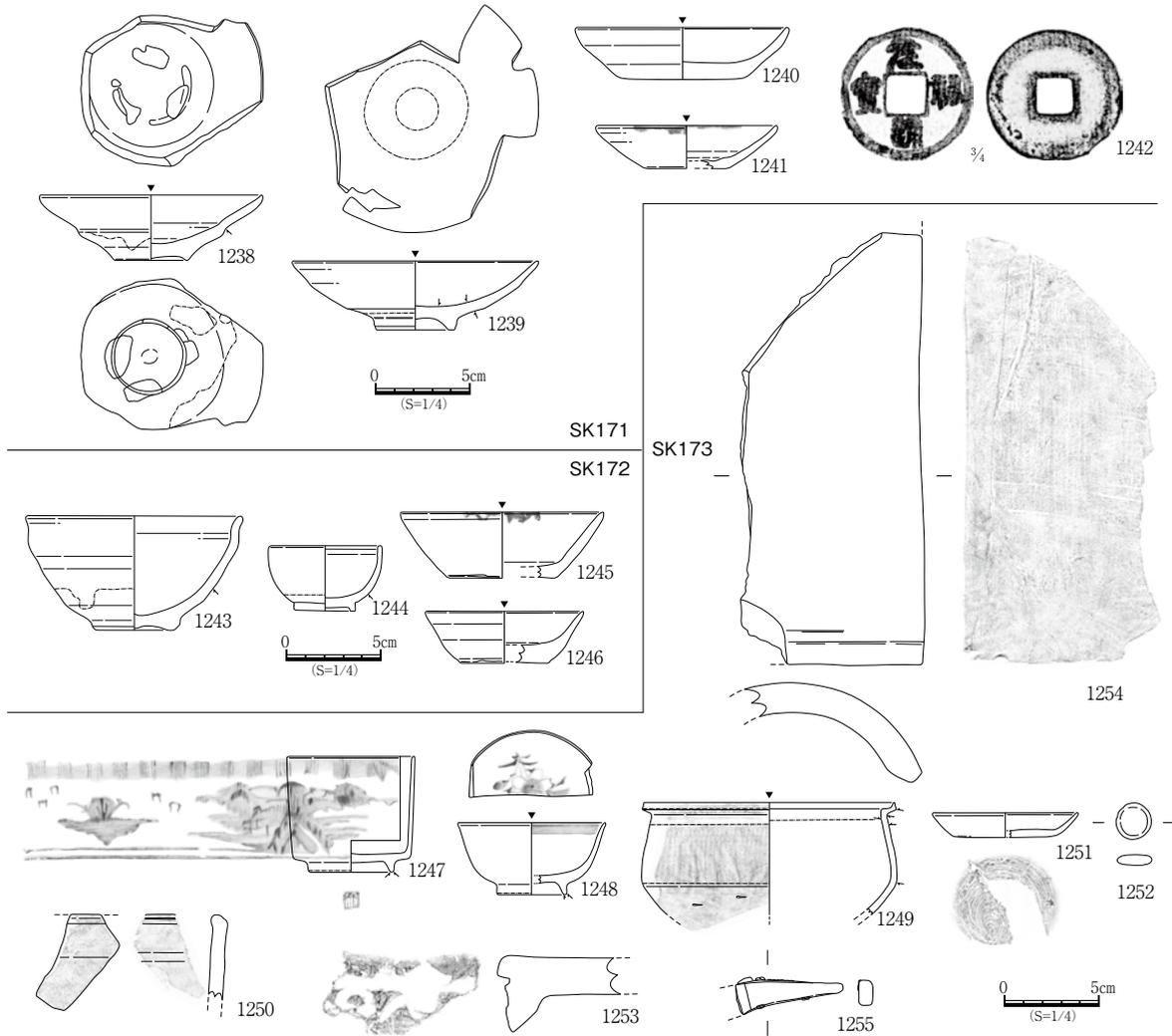


第147図 SK171・SK173・SK175平面図・断面図

図示した9点(1247~1255)は、1247が能茶山の染付・筒碗で19世紀後半の製品である。1248は能茶山の染付・小碗で19世紀後半の製品である。1249は陶器・行平鍋である。1250は施釉土器・焜炉である。1251は在地の土器・小皿で18世紀以降の製品とみられる。1252は土製品・おはじきである。1253は軒平瓦, 1254は丸瓦である。1255は鉄器・刃物柄である。

時期 19世紀。出土遺物は19世紀の製品である。

性格 土坑。

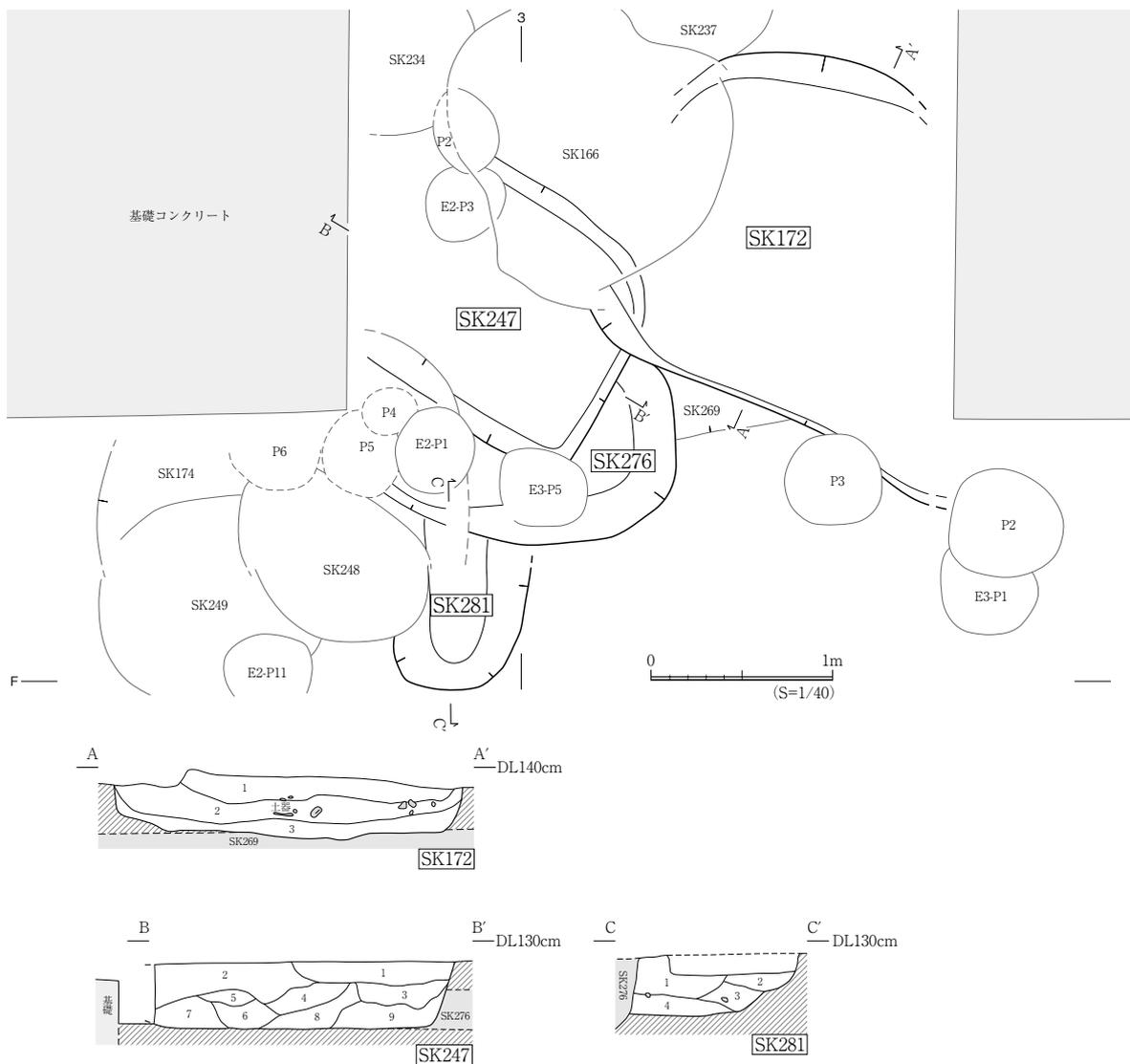


第148図 SK171・SK172・SK173出土遺物

**SK175** (17世紀の土器廃棄土坑) (遺構:第147図<sup>[195]</sup>・Pl.75<sup>[421]</sup>, 遺物:第150図<sup>[198]</sup>・Pl.151~153<sup>[497-499]</sup>)

位置・調査経過 GH・3グリッドに位置する。一帯に厚く堆積するII層を除去する過程で大量の土器・坏皿を含む炭化物層が露出した。遺構の範囲を確認し, 覆土断面を観察するためのベルトを長・短軸に設定し調査を進めた。重複関係は把握できなかった。

形状・規模 東西方向(N-80°-W)に長い不整形の土坑である。床には凹凸があり壁は垂直に近い角度で立ちあがる。残長250cm, 幅200cm, 深さ17cmである。炭化物層に40点近い土器・坏皿が廃棄されていた。



第149図 SK172・SK247・SK281 平面図・断面図, SK276平面図

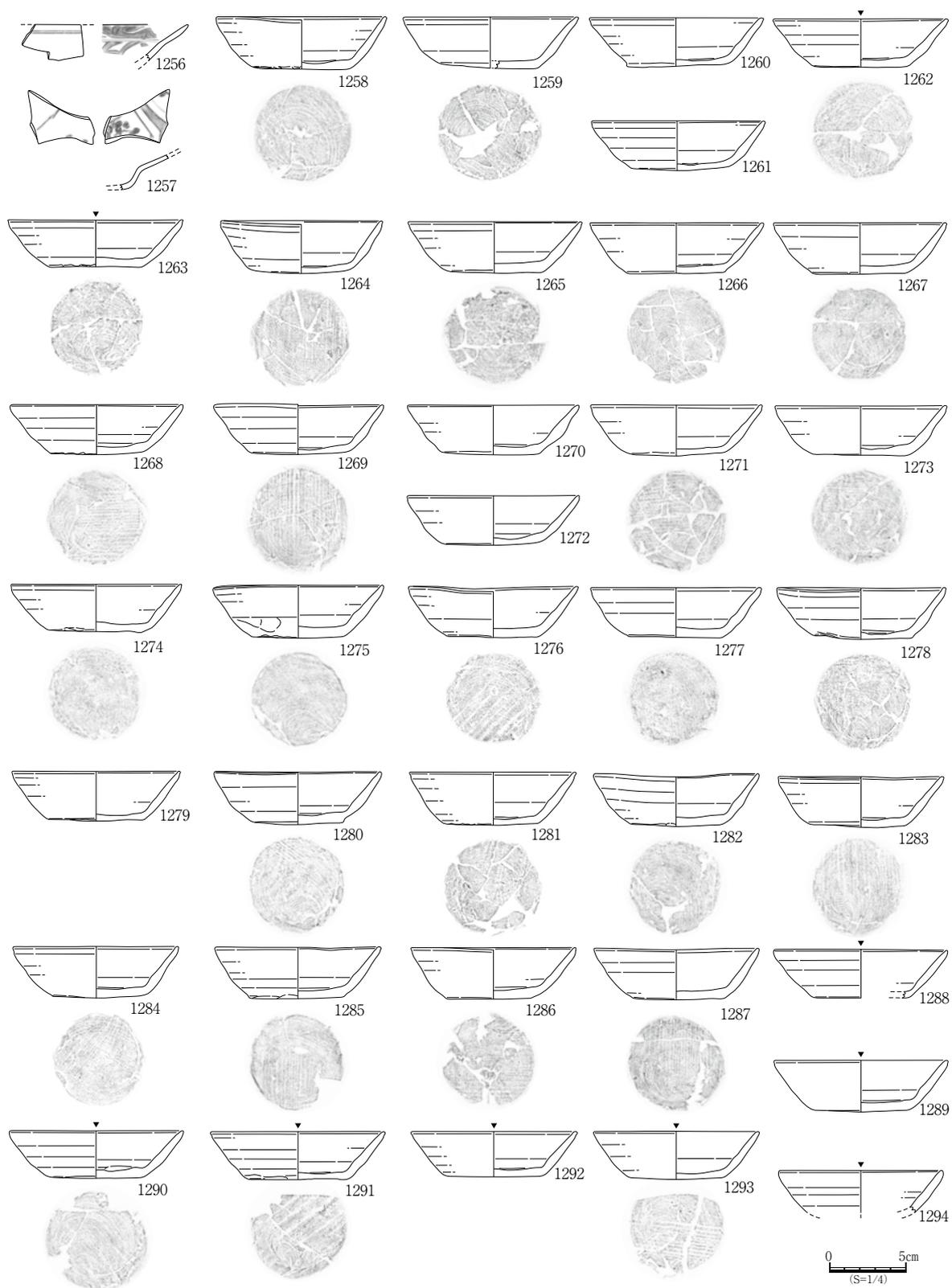
**覆土** 長軸方向(第147図D-D'), 短軸方向(第147図C-C')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は暗灰黄色土層で炭化物・山土粒を含む。2層は黒色炭化物層で焼土を含む。一括廃棄された土器・坏皿を含む。3層は褐灰色シルト層, 4層は灰褐色砂礫層で鉄分の凝集がみられる。

**出土遺物** 201点の遺物が出土した。出土遺物の内訳はクロム青磁1点, 青花2点, 染付5点, 陶器5点, 炆器2点, 施釉土器1点, 白色土器1点, 土器177点, 瓦6点, 鉄塊1点である。土器集中部分では34点の出土位置を図化し收拾した。土器集中部81点で他は覆土一括である。

図示した39点(1256~1294<sup>[198]</sup>)は、1256・1257が景德鎮の青花・鏝皿で16~17世紀の製品である。<sup>[観339-341]</sup>1258~1294は在地の土器・坏皿である。規格性が極めて高く、サイズは器高3.3cm前後、口径は11.0cm前後、底径は6.3cm前後である。橙色に発色したものが多い。

**時期** 17世紀。出土遺物にはII層と弁別できていないものを含むが17世紀の製品を含む。

**性格** 廃棄土坑。SK28とともに17世紀の土器・坏皿の基準資料となる。



第150図 SK175出土遺物

**SK178**〈中世の土坑〉(遺構:第81図<sup>[117]</sup>・Pl.75<sup>[421]</sup>)

位置・調査経過 G7グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SX11に切られる。

形状・規模 北東-南西方向(N-59°-E)に長い不整楕円形の土坑である。底は水平に均され壁は垂直に立ちあがる。長さ258cm,幅145cm,深さ37cmである。

覆土 長軸方向(第81図A-A')で覆土断面を観察した。6層に分かれる。1層は褐灰色シルト層で小石・マンガン粒を含む。2層は褐灰色シルト層である。3・4層は褐灰色シルト層で砂を少量含む。5・6層は灰褐色シルト層でマンガン粒を含む。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 中世。SX11(中世の整地層)に切られる。

性格 土坑。

**SK182**〈古代の土坑〉(遺構:第128図<sup>[170]</sup>・Pl.76<sup>[422]</sup>,遺物:第128図<sup>[170]</sup>・Pl.153<sup>[499]</sup>)

位置・調査経過 EF・8~9グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。重複関係が複雑で遺構の形状を適切に捉えられていない。SK190・SK208を切り,SD8・SD17・SK133・SK179・SK189に切られる。

形状・規模 南北方向(N-1°-E)に長い不整楕円形の土坑である。底にはやや凹凸があり壁は垂直に近い角度で立ちあがる。残存長250cm,幅190cm,深さ28cmである。

覆土 短軸方向(第128図D-D')で覆土断面を観察した。6層に分かれる。1層は黒褐色土層で鉄分の凝集がみられる。2・3層は褐灰色シルト層で鉄分の凝集がみられる。4層はオリーブ灰色砂質シルト層,5・6層はオリーブ灰色砂質土層である。

出土遺物 6点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器6点である。覆土一括で収拾した。

図示した1点(1295<sup>[170]</sup>)は、平高台の土器・坏で古代の製品である。  
[観341]

時期 古代。出土遺物は少ないが古代の製品を含む。

性格 土坑。

**SK184**〈古代の土坑〉(遺構:第125図<sup>[167]</sup>・Pl.76<sup>[422]</sup>)

位置・調査経過 DE・10グリッドに位置する。Ⅲb・c層で確認した。SR4の上部包含層を掘削する。SK210・SK246を切り,SK128・SK153・SK187に切られる。

形状・規模 北西-南東方向(N-48°-W)に長い楕円形の土坑である。底は水平に均され,壁は底から丸みをもって垂直に近い角度で立ちあがる。長さ240cm,幅217cm,深さ23cmである。

覆土 長軸方向(第125図C-C')で覆土断面を観察した。6層に分かれる。1層は褐灰色土層,2層は暗灰黄色シルト層,3層は暗灰黄色砂質土層,4層は灰オリーブ色砂質シルト層,5層は褐灰色シルト層,6層は灰褐色砂質土層で鉄分の凝集がみられる。

出土遺物 8点の遺物が出土した。いずれも細片につき図化していない。出土遺物の内訳は白色土器2点,土器6点である。覆土一括で収拾した。

時期 古代。出土遺物は少ないが古代の製品を含む。

性格 土坑。

**SK185**〈古代の土坑〉(遺構:第151図, Pl.76<sup>[422]</sup>)

位置・調査経過 E・8~9グリッドに位置する。Ⅲ b・c層で確認した。SK208・SK209を切り, SD18・SK181に切られる。

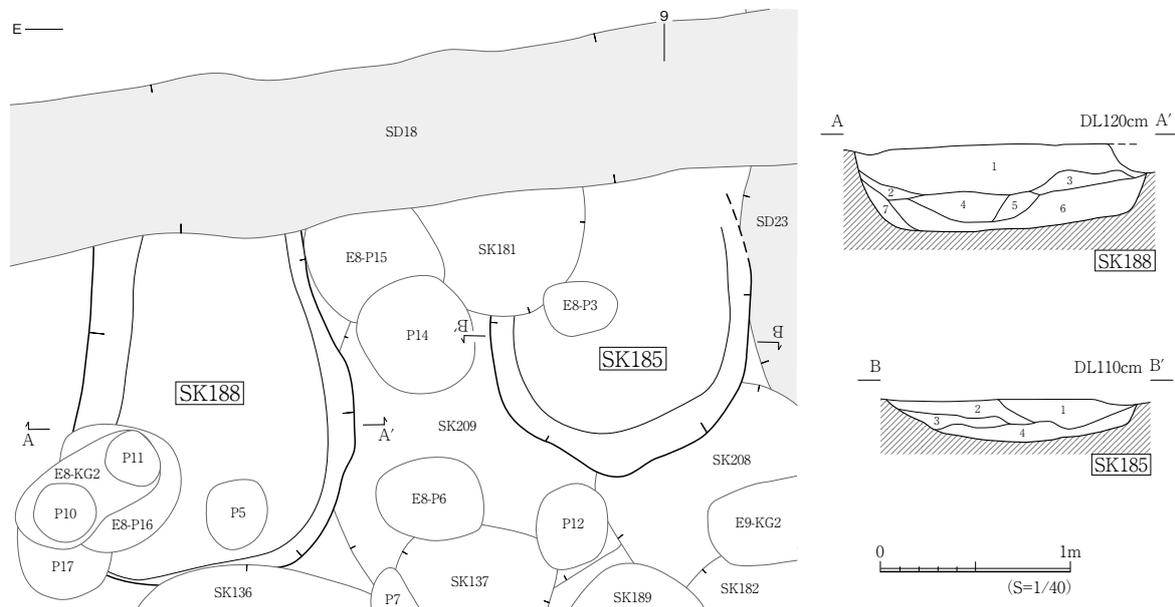
形状・規模 南北方向(N-11°-W)にやや長い楕円形の土坑で掘方の断面は弓形である。残存長150cm, 幅138cm, 深さ26cmである。

覆土 東西方向(第151図B-B')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は灰黄褐色土層で小石・山土粒を含む。2層は褐灰色土層で有機質・山土粒を含む。3層は褐灰色砂質シルト層, 4層は褐灰色砂質土層でいずれも鉄分の凝集がみられる。

出土遺物 4点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は黑色土器1点, 白色土器2点, 土器1点である。覆土一括で収拾した。

時期 古代。出土遺物は少ないが古代の製品を含む。

性格 土坑。



第151図 SK185・SK188平面図・断面図

**SK187**〈古代の土坑〉(遺構:第125図<sup>[167]</sup>・Pl.76<sup>[422]</sup>, 遺物:第125図<sup>[167]</sup>・Pl.153<sup>[499]</sup>)

位置・調査経過 D10グリッドに位置する。Ⅲ b・c層で確認した。SK184を切り, SD16・SK153・D10-P26に切られる。

形状・規模 北西-南東方向(N-42°-W)に長い楕円形の土坑である。掘方断面は弓形で底には凹凸がある。長さ153cm, 残幅80cm, 深さ29cmである。

覆土 長軸方向(第125図A-A')で覆土断面を観察した。7層に分かれる。1層は暗灰黄色砂質シルト層で炭化物・小石を含む。2~5層は褐灰色砂質シルト層で鉄分が凝集する。6・7層は灰色砂質土層である。

出土遺物 17点の遺物が出土した。内訳は白色土器1点, 土器16点である。層位別の内訳は上層2点, 下層10点で他は覆土一括である。図示した1点(1296<sup>[167]</sup>)は, 在地の土器・皿で古代の製品である。  
[観341]

時期 古代。出土遺物は少ないが古代の製品を含む。

性格 土坑。

**SK188**〈土坑〉(遺構:第151図・Pl.77<sup>[423]</sup>)

位置・調査経過 E8グリッドに位置する。Ⅲb・c層で確認した。SK209を切り, SD18・SK136に切られる。

形状・規模 南北方向(N-16°-W)に長い不整楕円形の土坑である。掘方の断面は台形で壁はやや外に張る。残存長200cm, 幅153cm, 深さ40cmである。

覆土 東西方向(第151図A-A')で覆土断面を観察した。7層に分かれる。1・2層は暗灰黄色砂質シルト層で小石を含む。3層は灰黄褐色砂質土層で鉄分の凝集がみられる。4・6・7層は褐灰色砂質土層である。5層は灰黄褐色砂質土層である。

出土遺物 10点の遺物が出土した。いずれも細片につき図化していない。出土遺物の内訳は白色土器1点, 土器9点である。遺物の收拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層4点で他は覆土一括である。

時期 古代か。出土遺物は少ないが古代の遺物を含む。

性格 土坑。

**SK191**〈土坑〉(遺構:第132図<sup>[176]</sup>・Pl.77<sup>[423]</sup>, 遺物:第132図<sup>[176]</sup>・Pl.153<sup>[499]</sup>)

位置・調査経過 E6グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SD18・SK192に切られる。

形状・規模 南北方向(N-12°-W)に長い楕円形の土坑である。掘方は不規則で底にはやや凹凸があり, 壁は垂直に近い角度で立ちあがる部分と緩やかに立ちあがる部分がある。長さ186cm, 幅93cm, 深さ26cmである。

覆土 長軸方向(第132図A-A')で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層は暗褐色土層で小石・マンガン粒を含む。2層は灰褐色砂質土層でマンガン粒を含む。

出土遺物 4点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器3点, 土製品1点である。覆土一括で收拾した。

図示した1点(1297<sup>[176]</sup>)は土製品・土錘である。  
[観341]

時期 古代。出土遺物は僅少であるが古代の製品を含む。

性格 土坑。

**SK192**〈古代の土坑〉(遺構:第132図<sup>[176]</sup>・Pl.77<sup>[423]</sup>, 遺物:第132図<sup>[176]</sup>・Pl.153<sup>[499]</sup>)

位置・調査経過 EF・5~6グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK191・SK230を切り, SD18・SK140・SK143に切られる。

形状・規模 南北方向(N-17°-W)に長い隅丸長方形の土坑である。掘方断面はやや歪な弓形である。残存長260cm, 幅194cm, 深さ35cmである。

覆土 長軸方向(第132図D-D'), 短軸方向(第132図C-C')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は暗褐色土層で小石・マンガン粒を含む。2層は褐灰色砂質土層, 3層は暗褐色土層で焼土・マンガン粒を含む。4層は灰褐色砂質土層である。

出土遺物 17点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は緑釉陶器3点, 須恵器1点, 弥生土器1点, 土器12点である。覆土一括で收拾した。

図示した2点(1298・1299<sup>[176]</sup>)は, 1298が京都系の緑釉陶器・碗で9世紀の製品である。1299が須恵器・壺で古代の製品である。  
[観341]

時期 古代。出土遺物は少ないが古代の製品を含む。

性格 土坑。

**SK202**〈古代の土坑〉(遺構:第141図<sup>[187]</sup>・Pl.77<sup>[423]</sup>, 遺物:第141図<sup>[187]</sup>・Pl.153<sup>[499]</sup>)

位置・調査経過 F6グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。東側はコンクリート基礎に削り取られる。SK127・SK143・SK201・SK207に切られる。

形状・規模 東西方向(N-79°-E)に長い不整長方形の土坑である。底には凹凸があり壁は緩やかに立ちあがる。残存長260cm, 幅210cm, 深さ35cmである。

覆土 北西軸(第141図D-D')で覆土断面を観察した。5層に分かれる。1・2層は暗褐色砂質土層で小石・灰色土粒を含む。3層は灰褐色砂質土層, 4層は褐灰色砂質土層, 5層は灰オリーブ色砂質土層である。

出土遺物 22点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器22点である。遺物の收拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層7点で他は覆土一括である。

図示した1点(1300<sup>[187]</sup>)は、回転篋切の土器・坏で10世紀の製品である。  
〔観341〕

時期 古代。出土遺物は少ないが古代の遺物を含む。

性格 土坑。

**SK206**〈土坑〉(遺構:第152図・Pl.78<sup>[424]</sup>)

位置・調査経過 D5グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK205・SK217・SK235を切る。

形状・規模 東西方向(N-81°-E)に長い楕円形の土坑である。掘方断面は台形である。長さ108cm, 幅82cm, 深さ21cmである。

覆土 東西方向(第152図D-D')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は灰黄褐色砂質シルト層で炭化物・小石・山土粒を含む。2~4層は褐灰色砂質シルト・砂質土層で鉄分の凝集がみられる。

出土遺物 4点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は須恵器1点, 土器3点である。土器2点を最下層で收拾した。他は覆土一括である。

時期 中世か。中世のSK205を切る。

性格 土坑。

**SK210**〈古代の土坑〉(遺構:第125図<sup>[167]</sup>・Pl.78<sup>[424]</sup>)

位置・調査経過 DE・10グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。検出時にはSK210北縁のSK194・SK195を重複する遺構として確認したがSK210と同一遺構であると判断しこれに含めた。調査区東壁に断面が確認できさらに東方に延長する。SR4の上部包含層を掘削し, SK184に切られる。

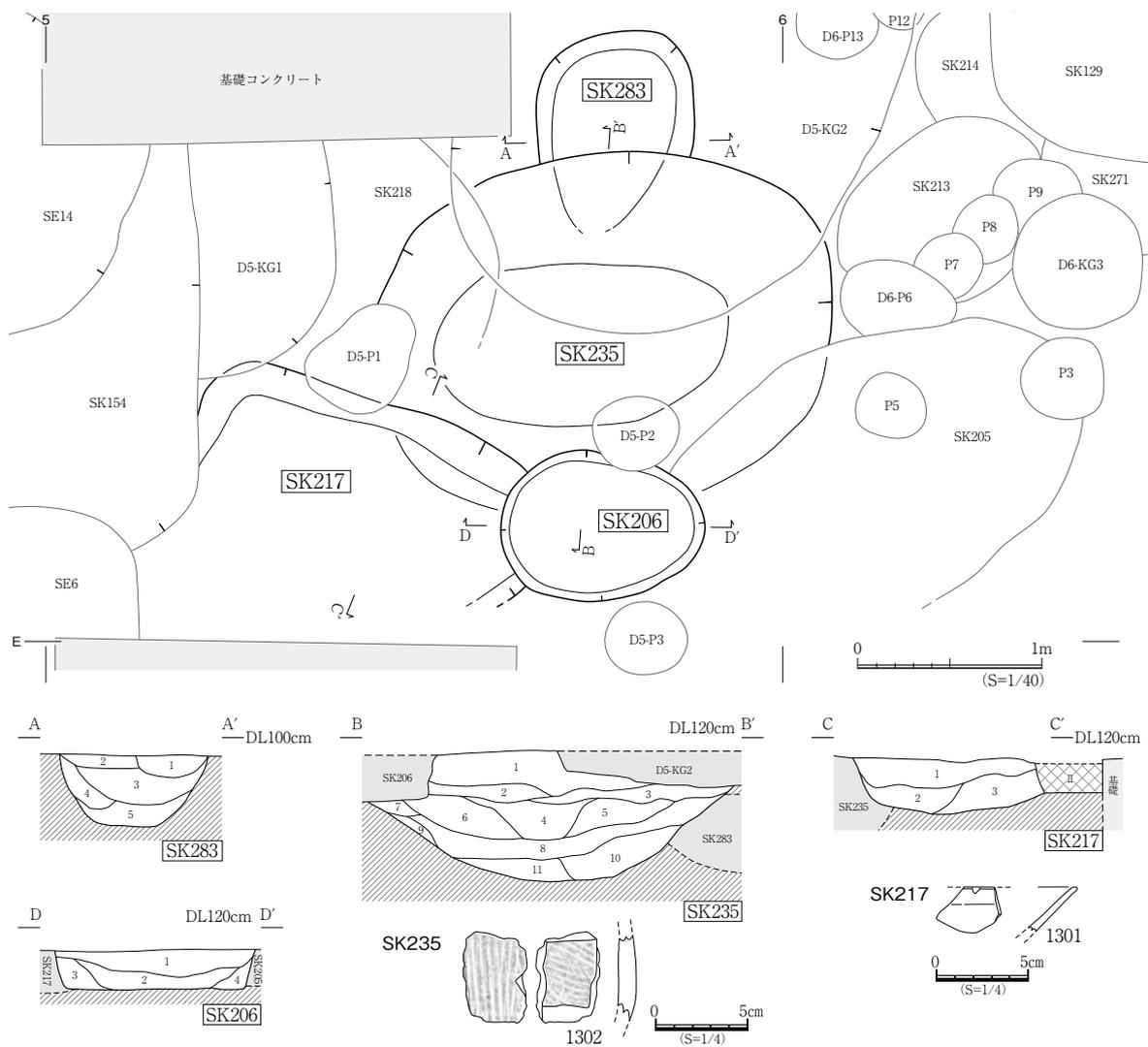
形状・規模 東西方向(N-73°-E)に長い溝状の土坑である。短軸の断面は隅丸台形である。残長240cm, 幅147cm, 深さ31cmである。

覆土 南北方向の3箇所(第125図E-E'・F-F'・G-G')で覆土断面を観察した。5層に分かれる。1層は褐灰色シルト層でマンガン粒を含む。2層は褐灰色土層でマンガン粒を含む。3層は灰褐色砂質土層, 4層は灰オリーブ色砂質土層, 5層は褐灰色砂質シルト層である。

出土遺物 6点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は土器6点である。覆土一括で收拾した。

時期 古代。古代の遺構と考えられるSK184に切られる。出土遺物は少ないが古代の製品を含む。

性格 溝の可能性はある。



第152図 SK206・SK217・SK235・SK283平面図・断面図，SK217・SK235出土遺物

**SK212**〈古代の小土坑〉（遺構：第153図<sup>[204]</sup>・PI.78<sup>[424]</sup>）

位置・調査経過 C10グリッドに位置する。Ⅲb・c層で確認した。SD22に切られる。

形状・規模 不整円形の土坑で底は僅かにボウル形で壁は斜めに立ちあがる。平面106×82cm，深さ30cmである。

覆土 東西方向（第153図A-A'）で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層は褐灰色砂質シルト層で小石を含む。2層は灰黄褐色砂質土層である。

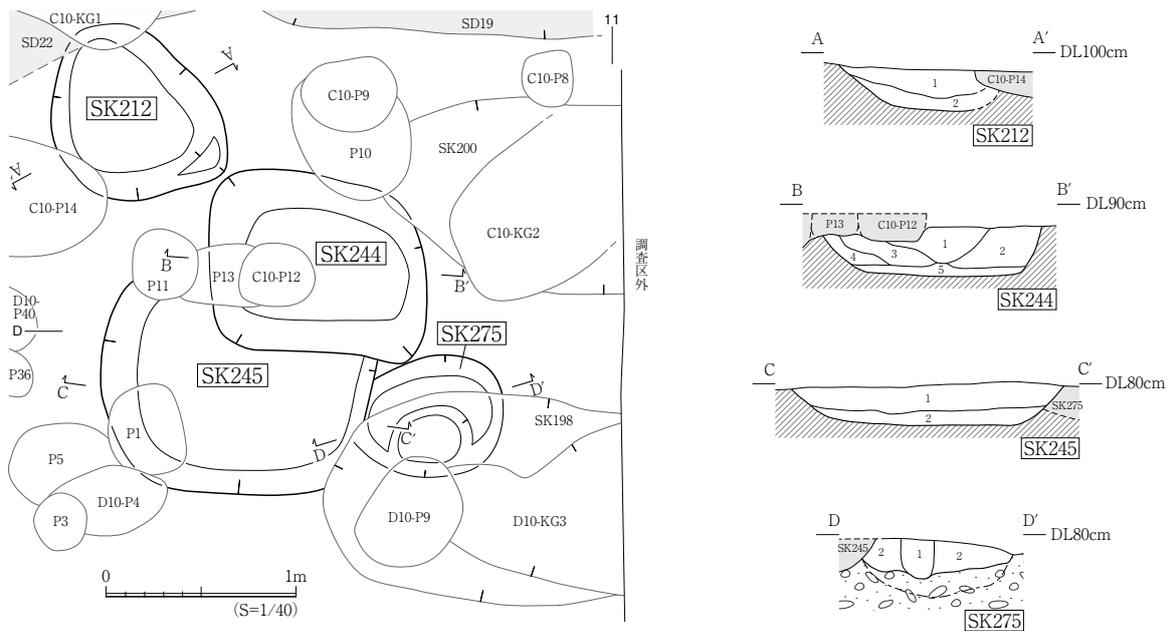
出土遺物 白色土器1点が覆土より出土した。細片につき図示していない。

時期 古代。古代の溝であるSD22に切られる。

性格 小土坑。

**SK217**〈古代の土坑〉（遺構：第152図・PI.78<sup>[424]</sup>，遺物：第152図・PI.153<sup>[499]</sup>）

位置・調査経過 D5グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。南側はコンクリート基礎に削り取られる。SK235を切り，SK154・SK206に切られる。



第153図 SK212・SK244・SK245・SK275平面図・断面図

**形状・規模** 平面不整形で、底はボウル状に浅く窪み壁は垂直に近い角度で立ちあがる。残存規模は平面200×130cm、深さ30cmである。

**覆土** 北東軸(第152図C-C')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は暗灰黄色土層で小石・山土粒を含む。2層は褐灰色砂質土層で鉄分の凝集が見られる。3層は灰黄褐色砂質土層で小石を含み鉄分の凝集がみられる。

**出土遺物** 11点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は緑釉陶器1点、陶器1点、炆器1点、土器8点である。覆土一括で収拾した。

図示した1点(1301<sup>[203]</sup><sub>[観341]</sub>)は、京都系の緑釉陶器・碗で9世紀の製品である。

**時期** 古代。出土遺物には古代の製品を含む。

**性格** 土坑。

**SK221** (古代の土坑) (遺構:第44図<sup>[71]</sup>・PI.79<sup>[425]</sup>)

**位置・調査経過** C8グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK219を切り、SD24・SE2・C8-P9に切られる。

**形状・規模** 東西方向(N-87°-W)に長い楕円形の土坑で掘方の断面は弓形である。残長は100cm、幅74cm、深さ16cmである。

**覆土** 南北方向(第44図C-C')で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層は褐灰色砂礫層、2層は灰色砂礫層でいずれも鉄分の凝集がみられる。

**出土遺物** 摂津の土器・羽釜1点が覆土より出土した。細片につき図示していない。

**時期** 古代。出土遺物は僅かであるが古代の遺物を含む。

**性格** 土坑。

**SK232**〈古代の土坑〉(遺構:第132図<sup>[176]</sup>・Pl.79<sup>[425]</sup>)

位置・調査経過 E5グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。南北両側がコンクリート基礎で断絶する。SD18・SE8・SK142に切られる。

形状・規模 北東-南西方向(N-27°-E)に長い不整形の土坑である。底は水平で壁は垂直に立ちあがる。残存規模は長さ240cm,幅160cm,深さ39cmである。

覆土 北西軸(第132図G-G')で覆土断面を観察した。6層に分かれる。1・2層は褐灰色砂質土層,3層は灰褐色砂質土層,4・5層は灰色砂質土層,6層は灰色砂礫層である。

出土遺物 2点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は土器甕2点である。覆土一括で収拾した。

時期 古代か。出土遺物は僅少であるが古代の製品が出土した。

性格 土坑。

**SK235**〈古代の土坑〉(遺構:第152図<sup>[203]</sup>・Pl.79<sup>[425]</sup>,遺物:第152図<sup>[203]</sup>・Pl.153<sup>[499]</sup>)

位置・調査経過 D5グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK283を切り,SK205・SK206・SK217に切られる。

形状・規模 東西方向(N-72°-E)に長い楕円形の土坑で掘方断面は弓形である。長さ248cm,幅200cm,深さ53cmである。

覆土 南北方向(第152図B-B')で覆土断面を観察した。上層・中層・下層に分かれる。上層(1~3層)は灰褐色土層で小石を含む。中層(4~7層)はいずれも砂質土層で4層が暗褐色,5層が黒褐色,6層がオリブ灰色,7層が褐灰色である。下層(8~11層)は8・9層が褐灰色砂質土層,10層が黒褐色砂礫層,11層が暗褐色砂礫層である。

出土遺物 10点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は須恵器1点,土器9点である。覆土一括で収拾した。

図示した1点(1302<sup>[203]</sup>)は,土器・甕で古代の製品とみられる。  
[観341]

時期 古代。出土遺物は僅少であるが古代の製品を含む。

性格 土坑。

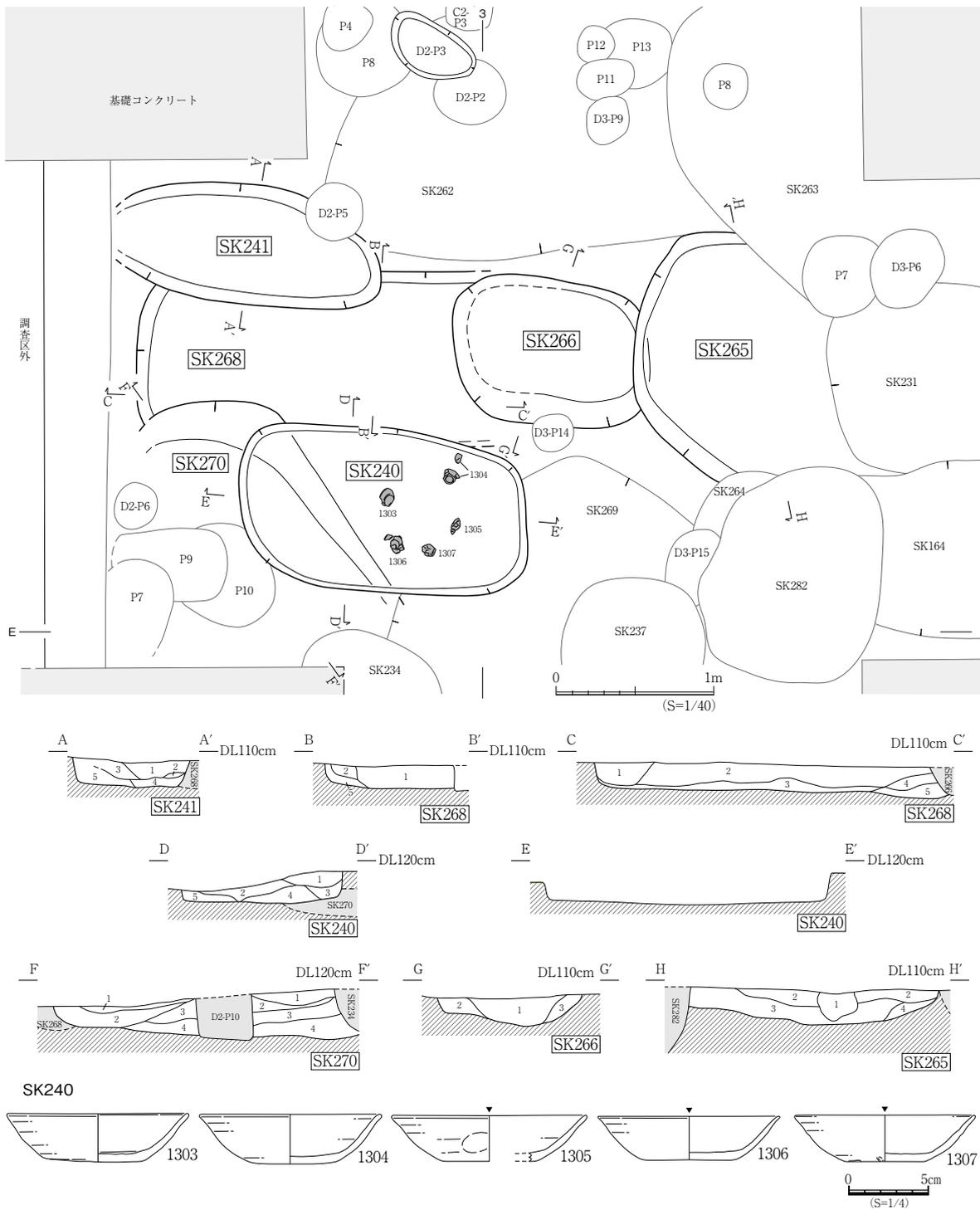
**SK240**〈古代の土坑〉(遺構:第154図<sup>[206]</sup>・Pl.79<sup>[425]</sup>,遺物第154図<sup>[206]</sup>・Pl.153<sup>[499]</sup>)

位置・調査経過 D2グリッドに位置する。一帯は近代の造成により相当部分が削平されており,Ⅱ層が厚く堆積していた。遺構が位置していたコンクリート基礎の間は特に大きく削平されていたが,Ⅲb・c層で僅かに残る遺構のプランを確認した。SK269・SK270を切る。

形状・規模 東西方向(N-84°-E)に長い隅丸長方形の土坑で掘方は箱形である。長さ184cm,幅105cm,深さ20cmである。

覆土 短軸方向(第154図D-D')で覆土断面を観察した。5層に分かれる。1層は黒褐色シルト層で山土粒を含む。2層は暗灰黄色シルト層,3層は暗灰黄色砂質シルト層,4層は灰黄褐色シルト層で小石・山土粒を含む。5層は灰色シルト層で鉄分の凝集がみられる。

出土遺物 75点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付1点,炆器1点,瓦器3点,土器70点である。5点は出土位置を記録した。他は覆土一括で収拾した。



第154図 SK240・SK241・SK265・SK266・SK268・SK270平面図・断面図，SK240出土遺物

図示した5点(1303～1307)は、いずれも在地の土器・坏皿である。口縁は僅かに端反り，外底は回転糸切後にナデ調整されている。<sup>[観341]</sup>

時期 古代。出土遺物は古代の製品を含む。

性格 土坑。

**SK241**〈中世の溝状土坑〉(遺構:第154図・PI.80<sup>[426]</sup>)

位置・調査経過 D2グリッドに位置する。Ⅲc層で確認した。SK262・SK268を切る。

形状・規模 東西方向(N-89°-E)に長い長楕円形の土坑である。短軸方向の断面は台形である。長さ178cm,幅77cm,深さ30cmである。

覆土 南北方向(第154図A-A')で覆土断面を観察した。5層に分かれる。1層は灰色シルト層で炭化物・山土粒を含み鉄分の凝集がみられる。2・3層は褐灰色土層でマンガン粒を含む。4・5層は黒褐～褐灰色砂質シルト層である。

出土遺物 35点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は瓦器1点,土器34点である。覆土一括で収拾した。

時期 中世。出土遺物には中世の製品が含まれる。

性格 溝状土坑。

**SK243**〈土坑〉(遺構:第78図<sup>[113]</sup>・PI.80<sup>[426]</sup>,遺物:第78図<sup>[113]</sup>・PI.153<sup>[499]</sup>)

位置・調査経過 C10グリッドに位置する。Ⅳ層で確認した。SD22に切られる。

形状・規模 東西方向(N-64°-E)にやや長い不整形の土坑である。掘方の断面形はやや歪な弓形である。長さ175cm,幅145cm,深さ26cmである。

覆土 長軸方向(第78図C-C')で覆土断面を観察した。6層に分かれる。1層は灰色～緑灰色砂質土層で小石・有機質を含む。2層はシルトと砂の互層,3層は灰色粘質シルト層,4層は褐灰色粘質シルト層,5・6層はシルトと砂の互層である。

出土遺物 3点の遺物が出土した。覆土一括で収拾した。

図示した1点(1308<sup>[113]</sup>)は播磨型の土器・羽釜で14世紀後半の製品である。  
[観341]

時期 中世か。SD22に切られる。出土遺物には中世の遺物を含む。

性格 土坑。埋没時は流水環境にあったか。

**SK244**〈土坑〉(遺構:第153図<sup>[204]</sup>・PI.80<sup>[426]</sup>)

位置・調査経過 C10グリッドに位置する。Ⅳ層で確認した。SK245を切り,SK200に切られる。

形状・規模 平面は隅丸方形,断面は台形の土坑である。長さ115cm,幅93cm,深さ29cmである。

覆土 東西方向(第153図B-B')で覆土断面を観察した。5層に分かれる。1～4層は緑灰色砂質土層で1層は有機質を含み3層は灰色土粒を含む。5層は灰黄褐色砂質土層である。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 古代か。Ⅳ層上の砂礫層に覆われる。

性格 土坑。

**SK245**〈土坑〉(遺構:第153図<sup>[204]</sup>・PI.80<sup>[426]</sup>)

位置・調査経過 C10グリッドに位置する。一帯に広がる砂礫層を除去しⅣ層で確認した。SK275を切り,SK198・SK244に切られる。

形状・規模 東西方向(N-82°-E)にやや長い隅丸方形の土坑で掘方の断面は低平な台形である。長さ143cm,幅121cm,深さ26cmである。

**覆土** 長軸方向(第153図C-C')で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層は褐黄灰色砂質土層, 2層は灰褐色砂質土層である。

**出土遺物** 土器片2点が覆土より出土した。細片につき図示していない。

**時期** 古代か。IV層上の砂礫層に覆われる。

**性格** 土坑。

**SK246** (土坑) (遺構:第125図<sup>[167]</sup>・PI.81<sup>[427]</sup>)

**位置・調査経過** E9グリッドに位置する。一带に広がる砂礫層を除去しIV層で確認した。SR4上部包含層を掘削する。SD8・SK128・SK184に切られる。

**形状・規模** 北東-南西方向(N-33°-E)に長い楕円形の土坑で掘方断面は弓形である。長さ173cm, 幅117cm, 深さ40cmである。

**覆土** 長軸方向(第125図D-D')で覆土断面を観察した。7層に分かれる。1・2層は褐灰色砂質土層, 3層は灰褐色砂礫層, 4・5層は灰黄褐色砂質土層, 6層は灰オリーブ砂礫層, 7層は灰褐色砂礫層である。

**出土遺物** 土器1点が覆土より出土。細片につき図示していない。

**時期** 古代か。IV層上の砂礫層に覆われる。

**性格** 土坑。

**SK247** (中世の土坑) (遺構:第149図<sup>[197]</sup>・PI.81<sup>[427]</sup>)

**位置・調査経過** E3グリッドに位置する。Ⅲb・c層で確認した。北西部はコンクリート基礎により断絶する。SK269・SK276を切り, SK166・SK172・SK174・SK234に切られる。

**形状・規模** 北西-南東方向(N-67°-W)に長い長方形の土坑で掘方の断面は台形である。残長160cm, 幅134cm, 深さ38cmである。

**覆土** 北西軸(第149図B-B')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が暗灰黄色土層で炭化物・山土粒を含む。2層は褐灰色土層で炭化物を含み鉄分が凝集する。下層(3~9層)は3~5層が灰黄褐色砂質~砂礫層, 6・7層は褐灰色砂質~砂礫層, 8・9層は灰黄褐色砂質土層である。

**出土遺物** 17点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は瓦器4点, 土器13点である。遺物の収拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層15点で他は覆土一括である。

**時期** 中世。出土遺物には中世の製品を含む。

**性格** 土坑。

**SK251** (溝状土坑) (遺構:第146図<sup>[193]</sup>・PI.81<sup>[427]</sup>)

**位置・調査経過** FG・2~3グリッドに位置する。IV層で確認した。SK273・SK277を切り, SK168に上部を削平される。

**形状・規模** 南北方向(N-1°-W)に長い長楕円形の土坑で掘方の断面は台形である。長さ247cm, 幅107cm, 深さ59cmである。

**覆土** 長軸方向(第146図D-D')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1~4層)は1層が暗灰黄色土層で小石を含む。2層が黒褐色土層, 3層が灰黄褐色土層, 4層が灰褐色土層で小石を含む。下層(5~16層)は灰褐色~褐灰色の砂礫層ないし砂質土層である。

出土遺物 土器3点が覆土より出土した。いずれも細片につき図示していない。

時期 中世か。

性格 溝状土坑。

**SK253**〈古代の土坑〉(遺構:第139図<sup>[185]</sup>・PI.81<sup>[427]</sup>)

位置・調査経過 G4グリッドに位置する。IV層で確認した。SK167に切られる。

形状・規模 北西-南東方向(N-42°-W)にやや長い楕円形の土坑で掘方の断面は弓形に近い。長さ103cm,幅77cm,深さ20cmである。

覆土 長軸方向(第139図B-B)で覆土断面を観察した。5層に分かれる。1~3層は暗褐色土層で2層は炭化物を含む。4・5層は暗褐色砂質土層である。

出土遺物 13点の遺物が出土した。いずれも細片につき図示していない。出土遺物の内訳は土器13点である。覆土一括で収拾した。

時期 古代。出土遺物は僅少であるが古代の製品を含む。

性格 土坑。

**SK255**〈土坑〉(遺構:第155図<sup>[210]</sup>・PI.82<sup>[428]</sup>)

位置・調査経過 C・2~3グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後にⅢc層で確認した。北側はコンクリート基礎により断絶する。SK259・SK260を切る。

形状・規模 平面円形で掘方は筒形に近い。底には凹凸がある。径116cm大,深さ53cmである。

覆土 東西方向(第155図A-A)で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1~4層)は1層が灰色土層で小石・有機質を含む。2層は灰黄褐色土層,3・4層は黒褐色土層である。下層(5~8層)は5層が褐灰色土層で鉄分の沈殿がみられる。6層は灰褐色土層,7層は灰褐色砂質土層,8層は灰オレンジ色砂層である。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 古代か。Ⅲc層を掘削し構築された。

性格 土坑。

**SK256**〈小土坑〉(遺構:第156図<sup>[211]</sup>・PI.82<sup>[428]</sup>)

位置・調査経過 D4グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。C4-P13に切られる。

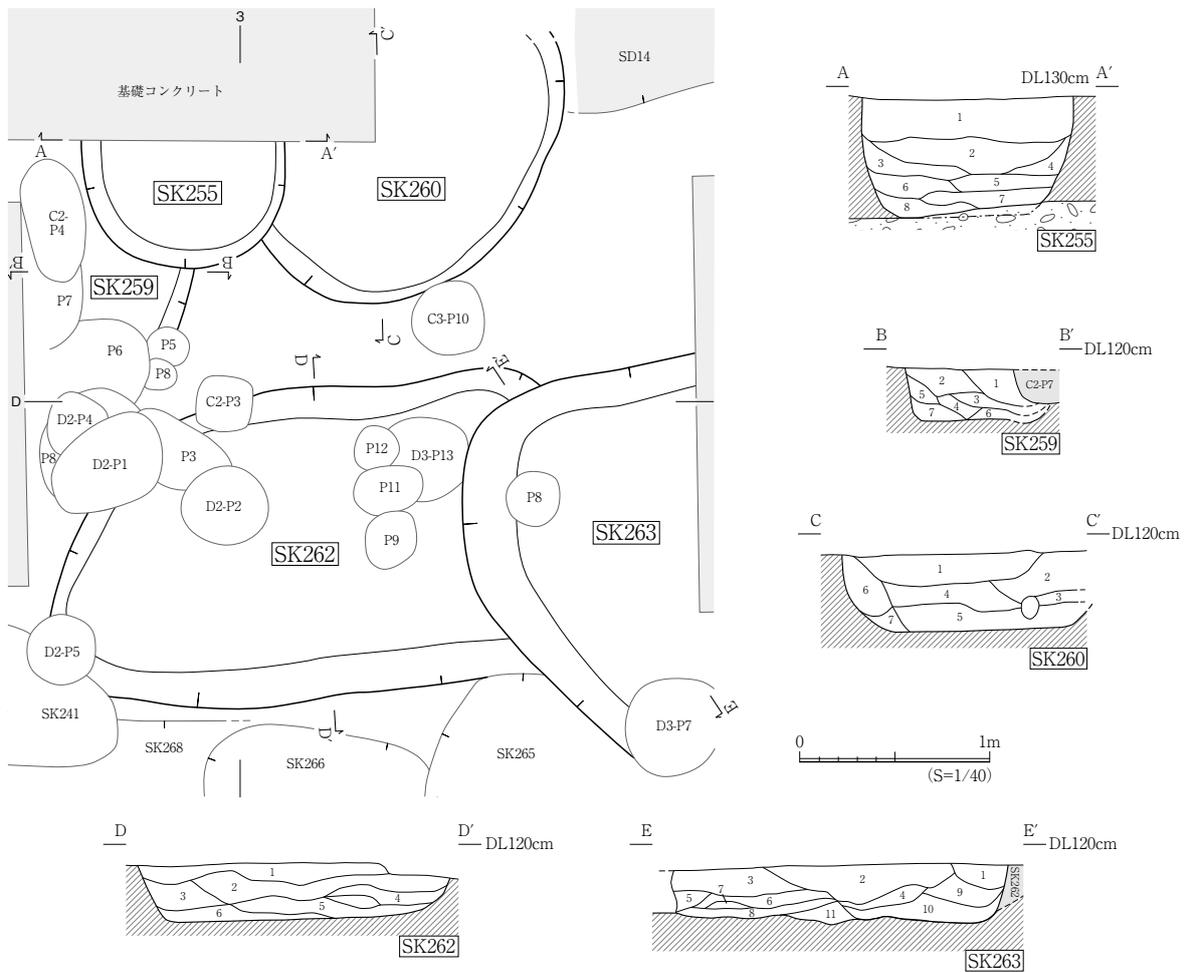
形状・規模 東西方向(N-68°-E)に長い隅丸方形の土坑で掘方は底の狭い台形である。長さ90cm,幅74cm,深さ30cmである。

覆土 短軸方向(第156図A-A)で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は赤褐色砂礫層,2層は灰褐色土層,3層はにぶい黄褐色土層,4層は灰褐色砂層である。

出土遺物 土器1点,瓦1点が覆土より出土した。細片につき図示していない。

時期 近世か。

性格 小土坑。



第155図 SK255・SK259・SK260・SK262・SK263平面図・断面図

**SK257** (柱穴) (遺構:第156図・PI.82<sup>[428]</sup>, 遺物:第156図・PI.153<sup>[499]</sup>)

位置・調査経過 D4グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。SK285に上部を掘削される。D4-P8に切られる。

形状・規模 東西方向(N-67°-E)に長い隅丸方形の土坑で掘方の断面は隅丸台形である。長さ76cm, 幅49cm, 深さ23cmである。

覆土 短軸方向(第156図A-A')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は褐灰色土層, 2層は褐灰色砂礫層, 3層はにぶい黄褐色砂質シルト層, 4層は灰黄褐色砂礫層である。

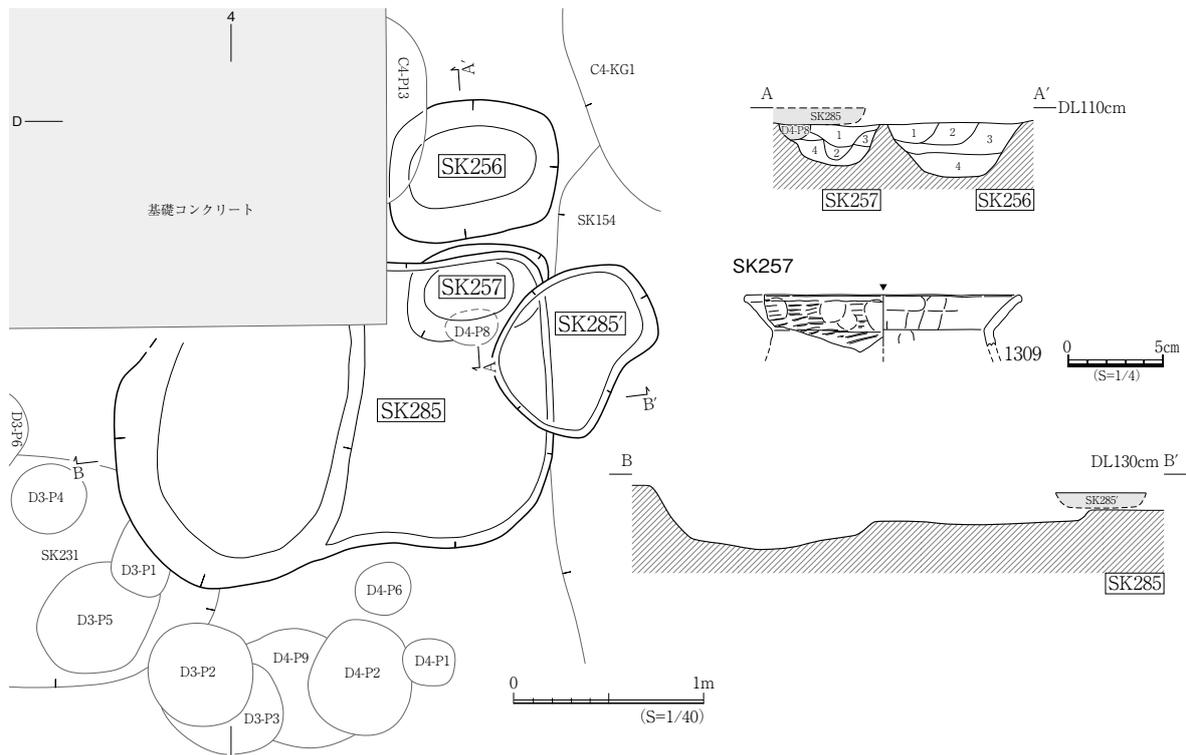
出土遺物 2点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は弥生土器1点, 土器1点である。覆土一括で收拾した。図示した1点(1309)は弥生土器・甕で弥生時代終末期の製品である。<sup>[観341]</sup>

時期 中世か。

性格 柱穴。

**SK258** (中世の土坑) (遺構:第133図<sup>[177]</sup>・PI.82<sup>[428]</sup>, 遺物:第133図<sup>[177]</sup>・PI.153<sup>[499]</sup>)

位置・調査経過 C4グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。南西部がコンクリート基礎に削り取られる。SK141・SK278・SK288に切られる。



第156図 SK256・SK257・SK285平面図・断面図, SK257出土遺物

**形状・規模** 東西方向(N-61°-E)に長い楕円形の土坑である。底には凹凸があり壁は斜めに立ちあがる。長さ234cm, 幅147cm, 深さ25cmである。

**覆土** 長軸方向(第133図C-C')でSK278と共に覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が暗褐色土層でマンガン粒を含む。2層は灰色土層で鉄分の凝集が見られる。下層(3~10層)は3~6層が灰色土層, 7・8層が黒灰色土層, 9層が暗褐色土層, 10層が灰黄褐色砂礫層である。

**出土遺物** 17点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器16点, 銅製品1点である。覆土一括で収拾した。図示した1点(1310<sub>[177]</sub>)は, 播磨型の土器・羽釜で15世紀の製品である。

**時期** 中世。出土遺物は僅少であるが中世の製品を含む。

**性格** 土坑。

**SK259**〈土坑〉(遺構・第155図・Pl.83<sub>[429]</sub>)

**位置・調査経過** C2グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。SK255・C2-P4~8に切られる。

**形状・規模** 平面形は不明。掘方の断面は箱形に近く, 底には凹凸がある。残長80cm, 深さ34cmである。

**覆土** 東西方向(第155図B-B')で覆土断面を観察した。7層に分かれる。1層は褐灰色土層で炭化物・山土粒を含む。2層は黒褐色土層で焼土・山土粒を含む。3層は灰褐色砂質土層, 4層は褐灰色砂質土層, 5層は黒褐色土層, 6層は褐灰色砂質土層で炭化物・山土粒を含む。7層は黒褐色シルト層である。

**出土遺物** 遺物は出土していない。

**時期** 古代か。Ⅲc層で確認した。

**性格** 土坑。

**SK260**〈古代の土坑〉(遺構:第155図<sup>[210]</sup>・PI.83<sup>[429]</sup>)

位置・調査経過 C3グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。北西側はコンクリート基礎に削り取られる。SD14・SK255に切られる。

形状・規模 北東-南西方向に長い楕円形の土坑である。底は水平に均され壁は垂直に近い角度で胴張り気味に立ちあがる。長さ180cm, 残幅110cm, 深さ45cmである。

覆土 南北方向(第155図C-C')で覆土断面を観察した。7層に分かれる。1・2層は黒褐色土層でマンガン粒・小石を含む。3層は暗灰黄色土層で山土粒を含む。4層は暗褐色土層でマンガン粒・砂を含む。5層は灰黄褐色砂質土層, 6層は暗褐色シルト層, 7層は褐灰色砂質土層である。

出土遺物 土器6点が出土した。いずれも細片につき図示していない。覆土一括で収拾した。

時期 古代。出土遺物は僅少であるが古代の製品を含む。

性格 土坑。

**SK262**〈土坑〉(遺構:第155図<sup>[210]</sup>・PI.83<sup>[429]</sup>)

位置・調査経過 CD・2~3グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。SK265を切り, SK241・SK263に切られる。

形状・規模 東西方向(N-72°-E)に長い不整長方形の土坑である。掘方の断面は隅丸台形である。残長230cm, 幅166cm, 深さ32cmである。

覆土 短軸方向(第155図D-D')で覆土断面を観察した。6層に分かれる。1層は暗灰黄色土層, 2層は黒褐色土層で鉄分の凝集がみられる。3層は粗い黒褐色土層で砂を含む。4層は暗灰黄色土層, 5層は黒褐色土層で鉄分の凝集がみられる。6層は灰褐色砂礫層である。

出土遺物 土器11点が出土した。いずれも細片につき図示していない。覆土一括で収拾した。

時期 古代か。

性格 土坑。

**SK263**〈中世の土坑〉(遺構:第155図<sup>[210]</sup>・PI.83<sup>[429]</sup>)

位置・調査経過 D3グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後にⅢc層で確認した。東側はコンクリート基礎により断絶する。SK262・SK265を切り, SK231に切られる。

形状・規模 平面形は不明。底には凹凸があり壁は底付近が丸く垂直に近い角度で立ちあがる。残長200cm, 残幅130cm, 深さ32cmである。

覆土 北西軸(第155図E-E')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1・2層)は1層が灰黄褐色土層で炭化物を含む。2層は黒褐色土層で炭化物を含み鉄分の凝集がみられる。下層(3~11層)は3・4層が灰褐色土層で鉄分の凝集がみられる。5層は灰褐色土層, 6層は褐灰色土層, 7層は黒褐色土層で礫を含む。8層は暗灰黄色砂質土層で礫を含む。9層は褐灰色シルト層, 10層は褐灰色砂質シルト層, 11層は灰褐色砂質土層である。

出土遺物 瓦器1点, 土器2点が出土した。いずれも細片につき図示していない。覆土一括で収拾した。

時期 中世。

性格 土坑。

**SK264**〈土坑〉(遺構:第41図<sup>[66]</sup>・Pl.84<sup>[430]</sup>)

位置・調査経過 D3グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。SK265・SK269を切り、SK282・D3-P15に切られる。

形状・規模 遺存部分は少ないが平面は円形で掘方は筒形に近い。残径60cm大、深さ36cmである。

覆土 南北方向(第41図E-E')で覆土断面を観察した。6層に分かれる。1層は黒褐色土層で小石・山土粒を含む。2・4層は褐灰色砂質シルト層、3層は褐灰色砂礫層、5・6層は灰黄褐色砂礫層である。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 中世か。

性格 土坑。

**SK265**〈土坑〉(遺構:第154図<sup>[206]</sup>・Pl.84<sup>[430]</sup>)

位置・調査経過 D3グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。SK266を切りSK231・SK263・SK264・SK282に切られる。

形状・規模 遺存部分は僅かである。平面形は不明である。底には凹凸があり壁は緩やかに立ちあがる。残長100cm、残幅160cm、深さ20cmである。

覆土 南北方向(第154図H-H')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層はピット状で緑灰色土層、2層は褐灰色土層で鉄分の凝集がみられる。3層は灰オリーブ色・褐灰色シルトの混合層、4層は灰黄褐色土層で鉄分の凝集がみられる。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 中世か。

性格 土坑。

**SK266**〈中世の土坑〉(遺構:第154図<sup>[206]</sup>・Pl.84<sup>[430]</sup>)

位置・調査経過 D3グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。SK268を切り、SK265に切られる。

形状・規模 東西方向(N-86°-E)に長い隅丸長方形の土坑である。底には凹凸があり壁は緩やかに立ちあがる。長さ128cm、幅93cm、深さ15cmである。

覆土 南北方向(第154図G-G')で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は黒褐色土層、2層は褐灰色土層、3層は灰褐色砂礫層である。

出土遺物 土器1点が出土した。細片につき図示していない。覆土一括で収拾した。

時期 中世。

性格 柱穴。

**SK268**〈中世の土坑〉(遺構:第154図<sup>[206]</sup>・Pl.84<sup>[430]</sup>, 遺物:第157図<sup>[214]</sup>・Pl.153<sup>[499]</sup>)

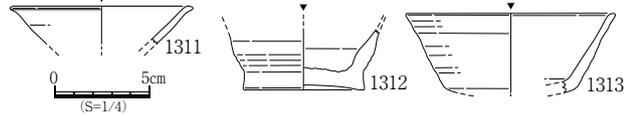
位置・調査経過 D2グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。SK240・SK241・SK266・SK269に切られる。

形状・規模 東西方向(N-78°-E)に長い隅丸長方形の土坑である。掘方は箱形に近い。残長120cm、幅120cm、深さ18cmである。

覆土 長軸方向(第154図C-C'), 短軸方向(第154図B-B')で覆土断面を観察した。5層に分かれる。1層は褐色土層でマンガン粒を含む。2層は灰褐色土層で小石を含む。3層は褐灰色土層, 4層は灰黄褐色土層, 5層は灰オリーブ色砂質土層である。

出土遺物 9点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は白磁2点, 瓦器1点, 土器6点である。覆土一括で収拾した。

図示した3点(1311~1313)は, 1311が白磁・皿である。1312は平高台の土器・坏で古代の製品である。1313は土器・坏皿で中世の製品とみられる。



第157図 SK268出土遺物

時期 中世。出土遺物は僅少であるが中世の遺物を含む。

性格 土坑。

#### SK269〈土坑〉(遺構:第41図<sup>[66]</sup>・Pl.85<sup>[431]</sup>)

位置・調査経過 D・2~3グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。SK268・SK270を切る。SK234・SK237・SK240・SK247・SK276・SK282に切られる。SK166・SK172に上部を削平される。

形状・規模 規模の大きな遺構であるが多くの遺構に切られ正確な形状は把握しがたい。平面は不整形で底には凹凸があり壁は緩やかに立ちあがる。平面380×300cm範囲にひろがり, 深さ28cmである。

覆土 北西軸(第41図F-F')で覆土断面を観察した。5層に分かれる。1層は灰黄褐色土層で礫を含む。2層はオリーブ灰色砂礫層, 3層は灰黄褐色砂質土層, 4層は黒褐色砂礫層, 5層は灰褐色砂層である。

出土遺物 土器2点が出土した。細片につき図示していない。遺物の収拾は上層・下層に分けて行った。内訳は上層1点, 下層1点である。

時期 中世か。

性格 土坑。

#### SK270〈土坑〉(遺構:第154図<sup>[206]</sup>・Pl.85<sup>[431]</sup>)

位置・調査経過 D2グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。SK234・SK240・SK269に切られる。

形状・規模 遺存部分が少なく正確な形状は把握しがたい。北西-南東方向(N-50°-W)に長い平面形は隅丸長方形か。底には凹凸があり壁は緩やかに立ちあがる。残長190cm, 残幅80cm, 深さ32cmである。

覆土 長軸方向(第154図F-F')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は黒褐色土・暗灰黄色土の混合層, 2層は灰褐色土層で小石を含む。3層は黒褐色土層で鉄分の凝集がみられる。4層は暗褐色土層である。

出土遺物 土器7点が出土した。いずれも細片につき図示していない。覆土一括で収拾した。

時期 古代か。出土遺物は僅少であるが古代の製品を含む。

性格 土坑。

**SK273**〈柱穴か〉(遺構:第146図<sup>[193]</sup>・Pl.85<sup>[431]</sup>)

位置・調査経過 F2グリッドに位置する。SK251・F2-P6・F3-P10に切られる。

形状・規模 平面円形で掘方の断面は台形、底は中央付近がやや窪む。径87cm大、深さ43cmである。

覆土 南北方向(第146図C-C')で覆土断面を観察した。6層に分かれる。1層は灰褐色土層、2層は灰褐色砂質土層、3層は黒褐色砂礫層、4層はオリーブ灰色砂質土層、5層は黒褐色砂礫層、6層は灰黄褐色砂礫層である。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 中世か。

性格 柱穴か。

**SK275**〈柱穴〉(遺構:第153図<sup>[204]</sup>・Pl.85<sup>[431]</sup>)

位置・調査経過 D10グリッドに位置する。一帯に広がる砂礫層を掘削後にIV層で確認した。SK198・SK245に切られる。

形状・規模 平面は不整形円形で底には凹凸があり壁は緩やかに立ちあがる。平面は76×64cmで深さ35cmである。

覆土 東西方向(第153図D-D')で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層はピット状で灰褐黄色砂質土層、2層は灰褐色砂質土層である。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 古代か。

性格 柱穴。

**SK276**〈中世の土坑〉(遺構:第149図<sup>[197]</sup>・Pl.86<sup>[432]</sup>)

位置・調査経過 E・2～3グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。SK269・SK281を切り、SK247に切られる。SK174に上部を削平される。

形状・規模 遺存部分が少なく正確な形状は把握しがたい。北西-南東方向(N-71°-W)に長い楕円形の土坑で掘方の断面は台形である。残長180cm、幅120cm、深さ37cmである。

覆土 南北方向(Pl.86②<sup>[432]</sup>)で覆土断面を観察した。7層に分かれる。1層は褐灰色土層で炭化物・小石を含む。2層は褐灰色土層、3層は灰色砂礫層、4層は灰黒褐色土層、5・6層は灰黄褐色砂礫層、7層は灰色砂礫層である。

出土遺物 瓦器1点、土器1点が出土した。いずれも細片につき図示していない。覆土一括で收拾した。

時期 中世。

性格 土坑。

**SK277**〈土坑〉(遺構:第146図<sup>[193]</sup>・Pl.86<sup>[432]</sup>)

位置・調査経過 G・2～3グリッドに位置する。IV層で確認した。SK280を切りSK168・SK251に切られる。

形状・規模 平面は隅丸方形で掘方はボウル形に近い。平面は128cm大、深さ48cmである。

覆土 東西方向(第146図E-E')で覆土断面を観察した。10層に分かれる。いずれも砂礫層である。1層は黒褐色砂礫層、2層は赤褐色砂礫層、3～9層は黒褐色砂礫層、10層はオリーブ灰色砂礫層である。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 中世か。

性格 土坑。

**SK278** (中世の土坑) (遺構:第133図<sup>[177]</sup>・Pl.86<sup>[432]</sup>)

位置・調査経過 C・3~4グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。南側はコンクリート基礎により断絶する。SK258を切り、SD14に切られる。

形状・規模 平面は隅丸方形で掘方の断面は台形である。底にはやや凹凸がある。残長90cm, 幅116cm, 深さ26cmである。

覆土 東西方向(第133図C-C')でSK258と共に覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は暗灰黄色土層で山土粒を含む。2層は暗褐色土層でマンガン粒を含む。3層は灰褐色土層, 4層は灰色シルト層である。

出土遺物 土器6点が出土した。いずれも細片につき図示していない。覆土一括で収拾した。

時期 中世。

性格 土坑。

**SK280** (溝状土坑) (遺構:第146図<sup>[193]</sup>・Pl.86<sup>[432]</sup>)

位置・調査経過 F2グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。SK238・SK251に切られる。SK168・SK169が上部包含層を掘削する。

形状・規模 北西-東南方向(N-61°-W)に長い隅丸細長方形の土坑で掘方の断面は低平な台形である。底にはやや凹凸がある。残長230cm, 幅106cm, 深さ39cmである。

覆土 北西軸(第146図F-F')で覆土断面を観察した。上層・下層に分かれる。上層(1~4層)は1層が黒褐色土層, 2層は暗褐色土層, 3層は褐灰色土層でいずれも小石を含む。4層は黒灰色砂質土層である。下層(5・6層)は黒褐色礫層である。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 古代か。

性格 溝状土坑。

**SK281** (溝状土坑) (遺構:第149図<sup>[197]</sup>・Pl.87<sup>[433]</sup>)

位置・調査経過 E2グリッドに位置する。Ⅲb層掘削後のⅢc層で確認した。SK248・SK276に切られる。

形状・規模 遺存部分が少なく正確な形状は把握しがたい。南北方向(N-10°-W)に長い溝状の土坑である。南端部は緩やかに立ちあがる。残長100cm, 幅69cm, 深さ19cmである。

覆土 南北方向(第149図D-D')で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は灰黄褐色土層で炭化物・礫を含む。2層は灰黄褐色土層, 3層は褐灰色砂質土層, 4層は灰色砂層である。

出土遺物 須恵器1点, 土器7点が出土した。いずれも細片につき図示してない。覆土一括で収拾した。

時期 古代か。

性格 溝状土坑。

**SK283**〈柱穴か〉(遺構:第152図<sup>[203]</sup>・Pl.87<sup>[433]</sup>)

位置・調査経過 D5グリッドに位置する。IV層で確認した。SK235に切られる。

形状・規模 南北方向(N-5°-W)に長い楕円形の土坑で掘方の断面は台形である。残長120cm, 幅85cm, 深さ44cmである。

覆土 東西方向(第152図A-A')で覆土断面を観察した。いずれも砂礫層で5層に分かれる。1層は暗褐色砂礫層, 2~4層は青灰色~灰色砂礫層, 5層は暗褐色砂礫層である。

出土遺物 土器5点が出土した。いずれも細片につき図示していない。覆土一括で収拾した。

時期 古代か。

性格 柱穴か。

**SK285**〈19世紀の廃棄土坑〉(遺構:第156図<sup>[211]</sup>・Pl.87<sup>[433]</sup>, 遺物:第158図<sup>[218]</sup>・Pl.153~155<sup>[499-501]</sup>)

位置・調査経過 D4グリッドに位置する。一帯にはII層が厚く堆積しており, II層を除去する過程で遺物が集中して出土する炭化物層を3箇所確認した。3つのKGとして調査を進めたが土質や遺物の様相が同じであるためひとつの遺構と判断しSKに改めた。しかしながら遺構の範囲やプランを適切にとらえることができず, 図ではやや東側に外れた位置にある遺物集中範囲をSK285'としている。SK154・SK231・SK257を切る。

形状・規模 東西方向(N-70°-E)に長い不整長方形の土坑である。凹凸のある底には段差があり東側が15cm高い。長さ232cm, 幅156cm, 深さ34cmである。本来はSK285'までを含めた遺構であったと考えられるが現地調査では明確なプランを検出できなかった。

覆土 覆土の観察は行っていない。

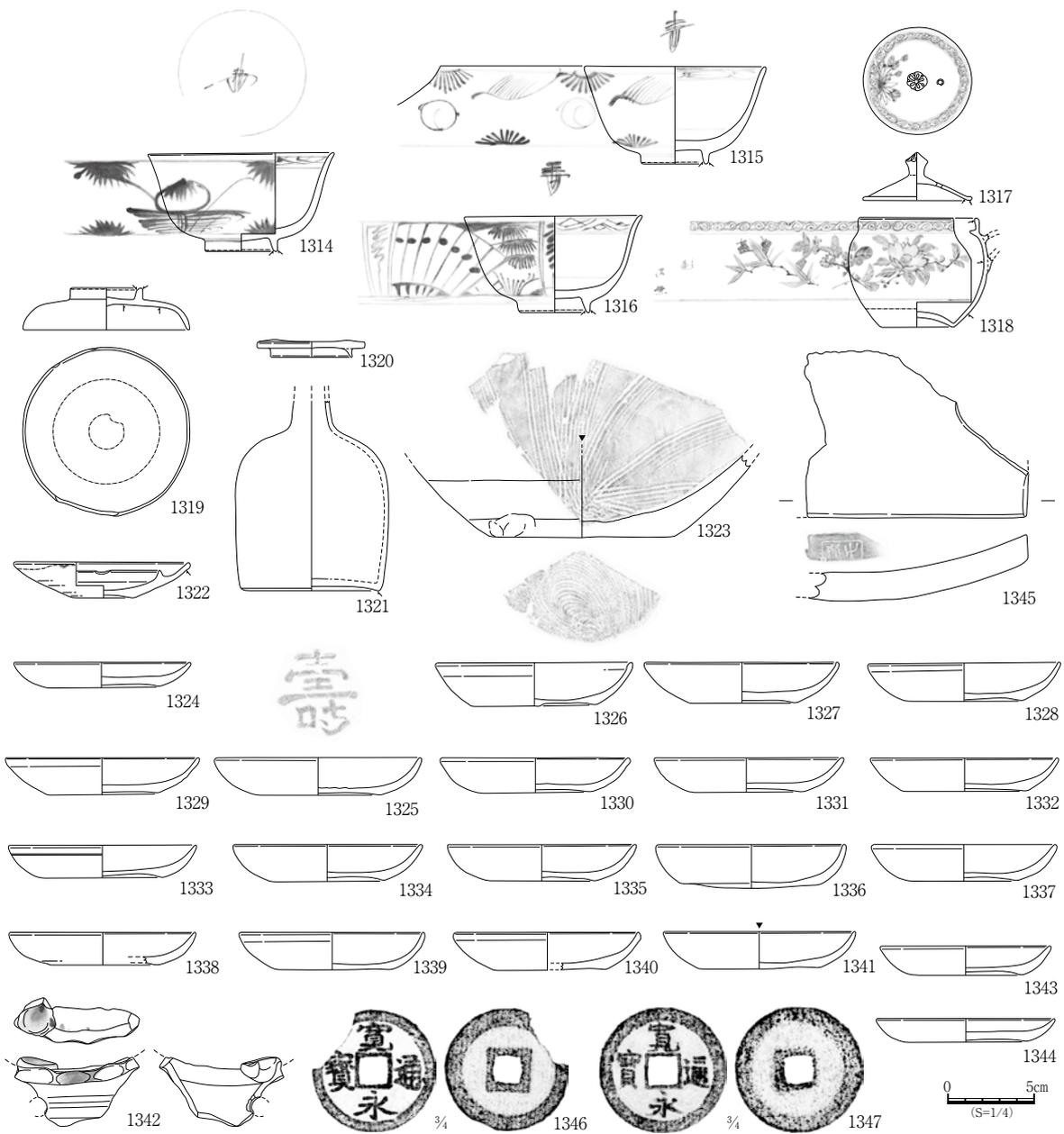
出土遺物 1,377点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁2点, 白磁17点, 染付73点, 磁器14点, 陶器169点, 炆器9点, 瓦器4点, 白色土器921点, 白塗土器41点, 土器51点, 瓦3点, 石製品5点, 銭貨2点, 銅製品1点, 鉄器25点, ガラス製品40点である。覆土一括で収拾した。

図示した34点(1314~1347<sup>[218]</sup>)は, 1314~1318が染付, 1319~1322が陶器, 1323が炆器, 1324が白色土器, 1325~1342が白塗土器, 1343・1344が土器, 1345が瓦, 1346・1347が銅銭である。  
[観341-342]

1314~1316は瀬戸の染付・端反碗で19世紀の製品である。1317は瀬戸の染付・ティーポット蓋, 1318は瀬戸の染付・ティーポットで共に19世紀の製品である。1319・1320は陶器・蓋で19世紀の製品である。1321は陶器・瓶で19世紀の製品である。1322は瀬戸の陶器・灯明受皿で19世紀の製品である。1323は炆器・播鉢で19世紀の製品とみられる。摺目は疎らで外底に回転糸切痕が残る。1324は尾戸窯の白色土器・皿で19世紀の製品である。1325~1341は尾戸窯の白塗土器・皿で19世紀の製品である。白化粧土を塗布し仕上がり白色土器に似せている。1325は内底に「壽」字が陽出される。1342は在地産とみられる白塗土器・焜炉で19世紀の製品とみられる。1343・1344は尾戸窯とみられる土器・皿である。硬質で外底は碁笥底である。1345は平瓦で「吸モ」刻印がある。1346は銅銭・古寛永通寶, 1347は銅銭・新寛永通寶である。

時期 19世紀。出土遺物は19世紀の製品である。

性格 廃棄土坑。



第158図 SK285出土遺物

**SK286** (17世紀末の廃棄土坑) (遺構:第141図<sup>[187]</sup>・PI.87<sup>[433]</sup>, 遺物:第159図・PI.155<sup>[501]</sup>)

**位置・調査経過** F6 グリッドに位置する。Ⅲ b層で確認した。検出時には近現代土坑として精査の対象外としたが、近世の遺物が主体であり整理段階でSKと改めた。SK127を切り、SK159に切られる。  
**形状・規模** 北西-南東方向(N-50°-W)に長い不整形の土坑である。底には凹凸があり壁は斜めに立ちあがる。長さ205cm, 残幅130cm, 深さ42cmである。

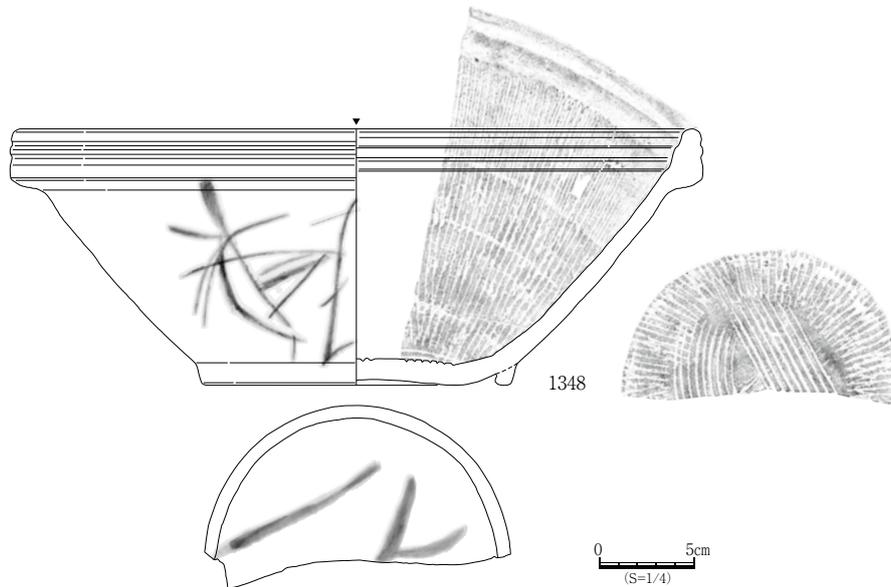
**覆土** 長軸方向(第141図C-C)で覆土断面を観察した。6層に分かれる。1層は暗灰黄色シルト層で炭化物・焼土・小石を含む。2層は黒褐色砂質土層で多量の炭化物・焼土・山土粒を含む。3層はオリーブ灰色シルトブロック層, 4層は黒褐色砂質シルト層で小石を含み鉄分の凝集がみられる。5層は灰黄色砂質シルト層である。6層は褐灰色砂礫層で炭化物を含み鉄分の凝集がみられる。

出土遺物 66点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付2点, 陶器15点, 炆器8点, 瓦器1点, 土器36点, 瓦4点である。覆土一括で収拾した。

図示した1点(1348)は, 備前の炆器・播鉢で17世紀末の製品である。

時期 17世紀末か。出土遺物には17世紀末の製品(1348)を含む。

性格 廃棄土坑。



第159図 SK286出土遺物

**SK287**〈20世紀中頃の戦災処理遺構〉(遺構:第160図<sup>[220]</sup>・Pl.88<sup>[434]</sup>, 遺物:第160図<sup>[220]</sup>・Pl.155<sup>[501]</sup>)

位置・調査経過 O10グリッドに位置する。II層で確認した。検出時は近現代の遺物を含む土坑として精査の対象外としたが, 戦中に一括廃棄された遺物であることを重視しSKと改めて報告する。SX3の上部包含層を掘削し構築された。

形状・規模 東西方向(N-71°-E)に長い長方形の土坑で掘方は箱形である。長さ219cm, 幅70cm, 深さ30cmである。

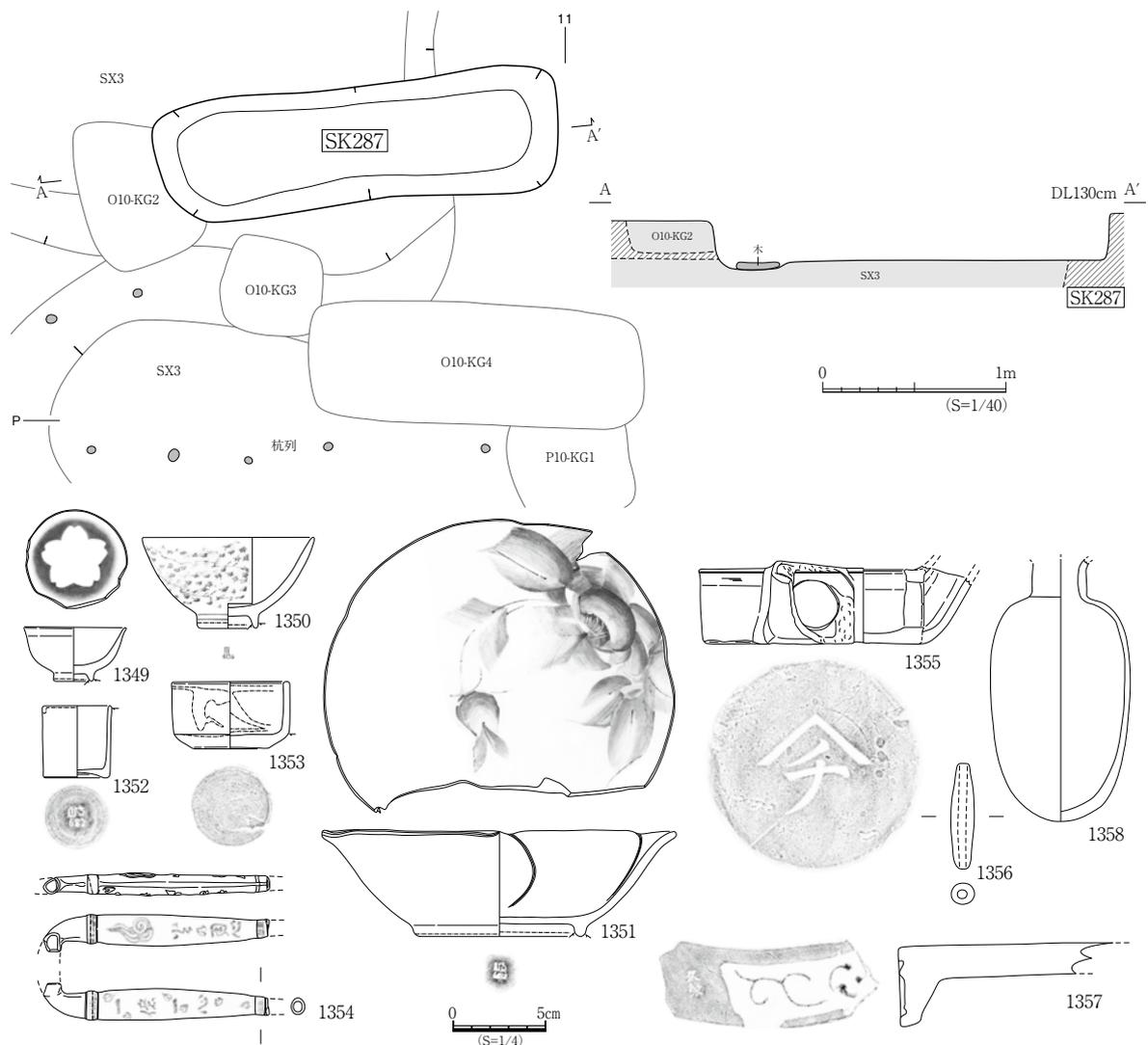
覆土 覆土の詳細な観察は行っていない。焼土を多量に含む黒褐色土が堆積する。

出土遺物 74点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点, 白磁12点, 染付8点, 統制陶器3点, 陶器15点, 炆器18点, 土器4点, 土製品1点, 瓦10点, 鉄器1点, ガラス1点である。覆土一括で収拾した。

図示した10点(1349~1358<sup>[220]</sup>)は, 1349が白磁・小坏で20世紀前半の製品である。1350は統制陶器・碗で「岐406」銘がある。1351は統制陶器・輪花鉢で「岐1038」銘がある。1352は統制陶器・猪口で「岐682」銘がある。1353は陶器・猪口で20世紀前半の製品である。1354は陶器・煙管で「火の用心」「一億一心」銘がある。1355は土器・練炭オコシで20世紀前半の製品である。外底に「ハチ」刻印がある。1356は土製品・土錘である。1357は軒平瓦で「久栄」刻印がある。1358はガラス製品・瓶で20世紀前半の製品である。動物遺体にシカ寛骨・腰椎・脛骨・中手骨・環椎がある(付編2<sup>[275]</sup>)。

時期 20世紀中頃。統制陶器(1940~45年)が出土している。

性格 戦災処理遺構。



第160図 SK287平面図・断面図・出土遺物

**SK288** (19世紀の廃棄土坑) (遺構:第133図<sup>[177]</sup>・PI.88<sup>[434]</sup>, 遺物:第161図・PI.155~157<sup>[501-503]</sup>)

**位置・調査経過** C4グリッドに位置する。II層掘削中に確認した。近代の遺物を含む土坑として精査の対象外としたが,出土遺物に近世の製品を含むためSKと改めた。SK154・SK258を切る。

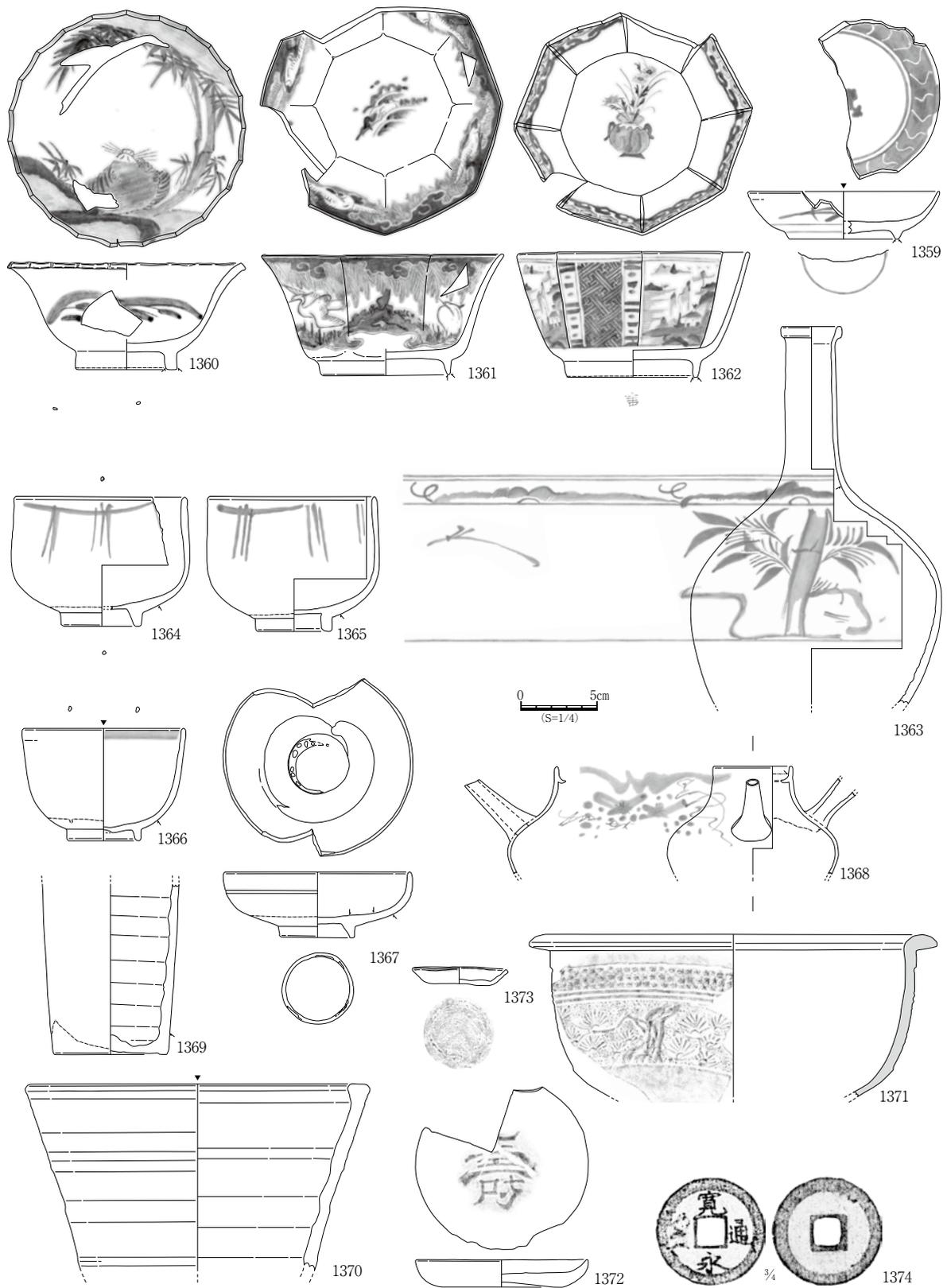
**形状・規模** 南北方向(N-14°-W)にやや長い隅丸方形の土坑で掘方の断面は低平な台形である。平面198cm大、深さ35cmである。

**覆土** 覆土の観察は行っていない。

**出土遺物** 752点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁3点,白磁10点,青磁染付4点,染付99点,磁器16点,陶器466点,炆器18点,瓦器15点,施釉土器2点,白色土器36点,土器76点,瓦2点,石製品2点,銭貨2点,銅製品1点である。覆土一括で収拾した。

図示した16点(1359~1374)は,1359~1363が染付,1364~1369が陶器,1370が炆器、1371が瓦器,1372が白色土器,1373が土器,1374が銅銭である。

1359は肥前波佐見の染付・皿で18世紀の製品である。1360は肥前の染付・稜花鉢で19世紀の製品である。1361・1362は肥前の染付・八角鉢で19世紀の製品である。1363は肥前の染付・瓶である。



第161図 SK288出土遺物

1364・1365は肥前の陶器・碗で注連縄文が描かれる。1366は尾戸窯産とみられる陶器・碗である。1367は肥前とみられる陶器・浅碗である。1368は肥前とみられる陶器・急須である。1369は瀬戸の陶器・徳利である。1370は備前の炆器・鉢である。1371は瓦器・火鉢である。1372は尾戸の白色土器・皿である。1373は在地の土器・小皿である。1374は銅銭・新寛永通寶である。

時期 19世紀。出土遺物は19世紀の製品を含む。

性格 廃棄土坑。

**SK289** (17世紀の土坑) (遺構:第126図<sup>[168]</sup>・PI.88<sup>[434]</sup>, 遺物:第162図・PI.157<sup>[503]</sup>)

位置・調査経過 D6グリッドに位置する。II層を掘削する過程で確認した。近代の遺物を含む土坑として精査の対象外としたが出土遺物に近世の製品を含むためSKと改めた。単独である。

形状・規模 東西方向(N-83°-E)に長い不整形の土坑である。底は水平に均され壁は垂直に近い角度で立ちあがる。長さ182cm, 幅108cm, 深さ18cmである。

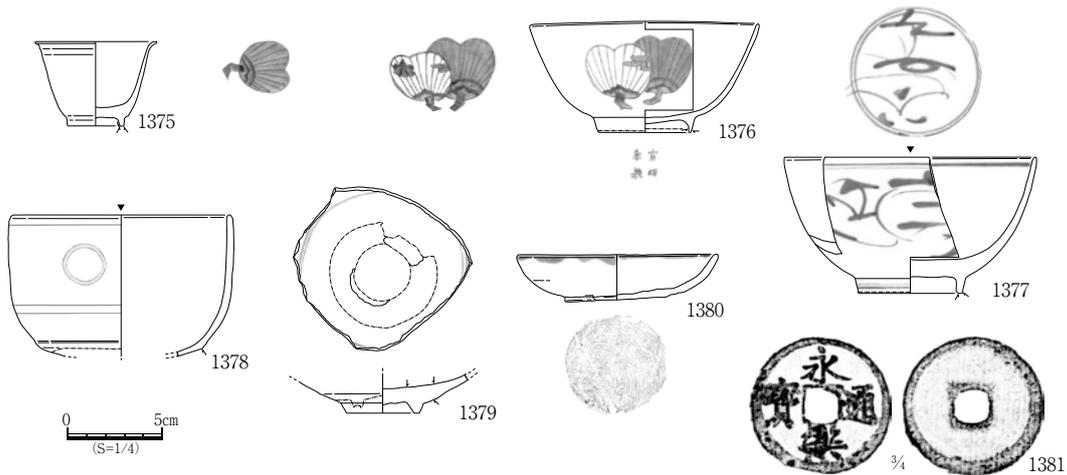
覆土 覆土の観察は行っていない。

出土遺物 66点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点, 白磁6点, 染付20点, 陶器20点, 炆器1点, 須恵器1点, 土器12点, 銭貨1点, 鉄器4点である。覆土一括で収拾した。

図示した7点(1375～1381)は、1375が肥前の白磁・小坏である。1376は肥前の染付・碗である。1377は肥前の染付・碗で荒磯文が描かれる。17世紀中頃の製品である。1378は肥前の陶器・碗である。1379は肥前の陶器・皿で17世紀後半～18世紀の製品である。1380は在地の土器・坏皿で近世の製品である。1381は銅銭・永楽通寶である。

時期 17世紀。出土遺物に近世の製品を含む。

性格 土坑。



第162図 SK289出土遺物

(7) Pit (柱穴等)

ピットは909基を確認した。時期が推定できるピットには下記がある。

古代[C2-P4, C4-P8, C10-P1, C10-P7, D2-P10, D3-P14, D4-P9, D10-P2, D10-P25, D10-P38, D10-P39, D10-P40, E8-P15, E8-P16, G4-P14, I9-P3, J6-P4, J6-P5, J7-P2, K9-P1]

中世[D2-P3, D2-P9, D10-P26, E2-P3, E2-P5, F3-P3, F5-P18, H8-P11, H8-P16, I7-P8, I8-P2, I10-P10, L7-P23, M6-P8] 13世紀[F4-P14] 15世紀[H7-P5],

近世[C3-P2, C4-P2, C4-P3, C4-P4, C4-P9, C8-P1, C9-P4, C10-P2, D2-P1, D2-P2, D3-P2, D3-P5, D4-P1, D5-P1, D5-P3, D6-P6, D9-P1, D9-P2, D9-P3, D9-P5, D10-P1, D10-P10, D10-P16, D10-P17, D10-P18, E2-P1, E2-P2, E4-P1, E4-P7, E4-P13, E4-P14, E5-P4, E5-P7, E7-P4, E7-P7, E8-P5, E8-P6, E8-P7, E8-P10, E9-P1, F2-P2, F3-P1, F4-P4, F4-P7, F4-P17, F4-P18, F4-P19, F5-P2, F5-P3, F5-P4, F5-P5, F5-P8, F5-P10, F5-P12, F5-P13, F5-P14, F5-P20, F5-P21, F5-P23, G5-P1, G5-P13, G5-P14, G5-P15, G5-P16, G6-P3, G7-P1, G7-P2, G7-P3, G7-P12, G8-P9, G8-P10, G10-P1, G10-P5, H8-P10, I6-P9, I9-P4, I10-P7, L10-P1]

近代[D3-P1, M3-P10, M8-P14]

以下、図示できる遺物が出土した主要なピット(上記下線)について内容を報告する。

**D10-P1** (遺構:P1.90①<sup>[436]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・P1.157<sup>[503]</sup>)

位置・調査経過 D10グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。東半を攪乱に削り取られる。

形状・規模 平面円形, 掘方は浅い筒形である。径48cm, 深さ9cmである。

覆土 覆土の観察は行っていない。

出土遺物 4点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器2点, 銭貨2点である。覆土一括で收拾した。

図示した1点(1382<sup>[229]</sup>)は, 銅銭・新寛永通寶である。  
[観344]

時期 近世。出土遺物に近世の製品を含む。

性格 小土坑。

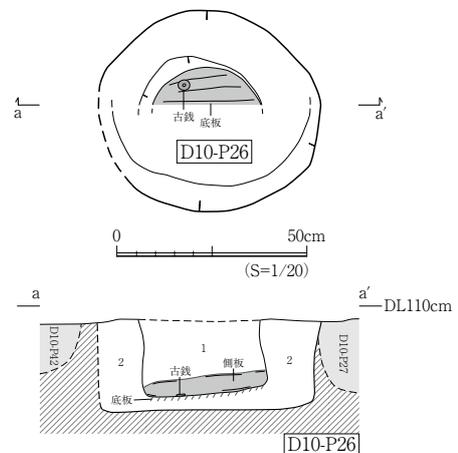
**D10-P26** (木製容器内に3枚の銭貨) (遺構:第125<sup>[167]</sup>・163図・P1.88⑤~⑧<sup>[434]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・P1.157<sup>[503]</sup>)

位置・調査経過 D10グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK187・D10-P27を切る。

形状・規模 円筒形の土坑内に円筒形の木製容器を置き, 銅銭3枚を収めた。土坑の平面形は円形で掘方は筒形である。径58cm, 深さ24cmである。木製容器は筒形で径32cm, 深さ20cmである。

覆土 南北方向(第163図a-a')で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層は木製容器の覆土である褐灰色ブロック土層である。2層は裏込土にあたるオリブ灰色シルト層である。

出土遺物 9点の遺物が出土した。土器6点を覆土一括で, 銭貨3点を容器底で收拾した。



第163図 D10-P26平面図・断面図

図示した3点(1383~1385<sup>[229]</sup>)は、1383が銅銭・開元通寶である。1384は銅銭・祥符元寶である。1385は銅銭・方孔円錢である。

時期 中世。出土遺物に中世の製品を含む。

性格 銅銭3枚を収めた土坑。

**F3-P1** (遺構:PI.90②<sup>[436]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・PI.157<sup>[503]</sup>)

位置・調査経過 F3グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。単独である。

形状・規模 平面円形, 掘方は筒形である。径66cm, 深さ28cmである。

覆土 東西方向で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は柱痕にあたる粗い黒褐色土層でマンガング粒を含む。2層は暗褐色砂質土層で焼土・小石を含む。3層は褐灰色砂質土層で小石を含む。

出土遺物 21点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付6点, 陶器4点, 炆器1点, 須恵器2点, 土器7点, 瓦1点である。覆土一括で収拾した。

図示した1点(1386<sup>[229]</sup>)は、在地の土器・小皿で近世の製品である。

時期 近世。出土遺物に近世の製品を含む。

性格 柱穴。

**F3-P3** (遺構:PI.90③<sup>[436]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・PI.157<sup>[503]</sup>)

位置・調査経過 F3グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。F3-P10を切る。

形状・規模 平面円形, 掘方は筒形である。径38cm, 深さ25cmである。

覆土 東西方向で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層は暗灰黄色砂質土層で小石・山土粒を含む。2層は褐灰色砂礫層である。

出土遺物 3点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器1点, 土製品2点である。覆土一括で収拾した。

図示した2点(1387・1388<sup>[229]</sup>)は、いずれも土製品・土錘である。

時期 中世か。

性格 柱穴。

**F4-P14** (13世紀の地鎮坑) (遺構:第164図・PI.89<sup>[435]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・PI.158<sup>[504]</sup>)

位置・調査経過 F4グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。F4-P10・F4-P11に切られる。

形状・規模 平面円形, 掘方は筒形である。径27cm, 深さ28cmである。底から順に土器・坏(1391), チャート塊2, 土器・坏(1390), チャート, 瓦器・埴(1389)を置いた。

覆土 東西方向で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層はにぶい黄褐色土層で炭化物・山土粒を含む。2層は暗褐色砂質シルト層である。

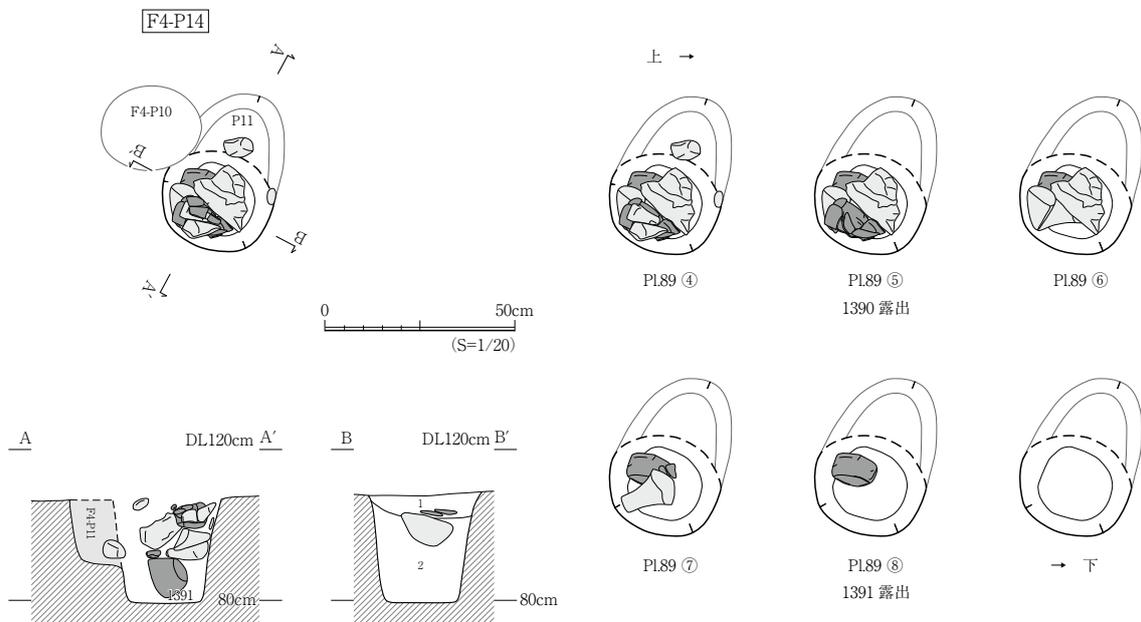
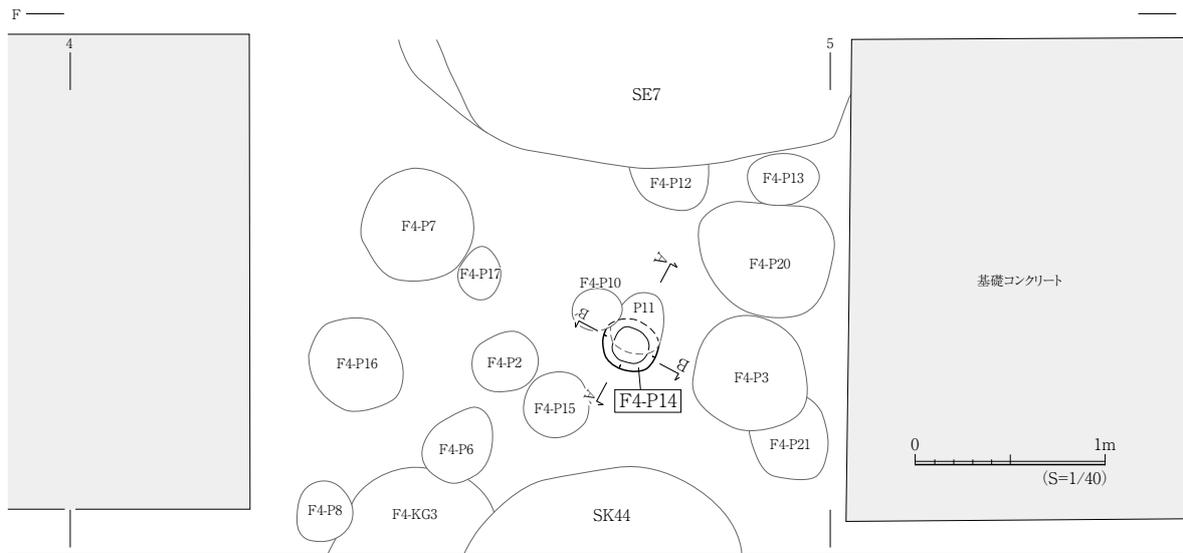
出土遺物 22点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は陶器1点, 瓦器4点, 土器16点, 瓦1点である。

最下層から土器2点を収拾した。他は覆土一括である。

図示した4点(1389~1392<sup>[229]</sup>)は、1389が和泉型の瓦器・埴で13世紀の製品である。1390・1391・1392は在地の土器・坏で13世紀の製品である。

時期 13世紀。出土遺物に13世紀の製品を含む。

性格 地鎮坑。



第164図 F4-P14平面図・断面図

**F4-P17** (遺構:PI.90④<sup>[436]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・PI.158<sup>[504]</sup>)

位置・調査経過 F4グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。F4-P7に切られる。

形状・規模 平面円形, 掘方は筒形である。径28cm, 深さ24cmである。

覆土 覆土の観察は行っていない。

出土遺物 17点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付3点, 陶器2点, 土器7点, 瓦2点, 鉄器1点, ガラス製品1点, 動物遺体1点。覆土一括で収拾した。図示した1点(1393<sup>[229]</sup>)は, 棧瓦で「片勇」刻印がある。19世紀の製品である。動物遺体にサザエがある(付編2<sup>[275]</sup>)。<sup>[観344]</sup>

時期 近世。

性格 柱穴。

**F5-P23** (遺構:PI.90⑤<sup>[436]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・PI.158<sup>[504]</sup>)

位置・調査経過 F5グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。単独である。

形状・規模 平面円形, 掘方は筒形である。径29cm, 深さ13cmである。底に塊石が置かれていた。

覆土 覆土の観察は行っていない。

出土遺物 5点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は陶器1点, 土器1点, 瓦3点である。覆土一括で收拾した。図示した1点(1394<sup>[229]</sup>)は, 鬼瓦である。

時期 近世。出土遺物に近世の製品を含む。<sup>[観344]</sup>

性格 根石をもつ柱穴。

**G5-P1** (遺構:PI.90⑥<sup>[436]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・PI.158<sup>[504]</sup>)

位置・調査経過 G5グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。G5-P2・G5-P13を切る。

形状・規模 平面円形, 掘方は筒形である。径48cm, 深さ24cmである。

覆土 覆土の観察は行っていない。

出土遺物 3点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付1点, 陶器1点, 銭貨1点である。覆土一括で收拾した。図示した1点(1395<sup>[229]</sup>)は, 銅銭・洪武通寶である。

時期 近世。出土遺物に近世の製品を含む。<sup>[観344]</sup>

性格 柱穴。

**G6-P3** (遺構:PI.90⑦<sup>[436]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・PI.158<sup>[504]</sup>)

位置・調査経過 G6グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK151を切る。

形状・規模 平面円形, 掘方は筒形である。径50cm, 深さ29cmである。底に塊石が置かれていた。

覆土 覆土の観察は行っていない。

出土遺物 18点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器18点である。覆土一括で收拾した。

図示した1点(1396<sup>[229]</sup>)は, 在地の土器・小皿である。<sup>[観344]</sup>

時期 近世。出土遺物に近世の製品を含む。

性格 礎石をもつ柱穴。

**G10-P1** (遺構:PI.90⑧<sup>[436]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・PI.158<sup>[504]</sup>)

位置・調査経過 G10グリッドに位置する。盛土層で確認した。SX9に切られる。

形状・規模 平面楕円形で掘方は筒形である。長さ72cm, 幅63cm, 深さ32cmである。底に塊石3つが置かれていた。

覆土 覆土の観察は行っていない。

出土遺物 25点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は染付3点, 陶器3点, 炆器1点, 白色土器1点, 土器9点, 瓦8点である。覆土一括で收拾した。

図示した1点(1397<sup>[229]</sup>)は, 能茶山の染付・八角鉢で19世紀の製品である。<sup>[観344]</sup>

時期 19世紀。出土遺物には19世紀の製品を含む。

性格 柱穴か。

**H8-P10** (遺構:PI.90⑨<sup>[436]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・PI.158<sup>[504]</sup>)

位置・調査経過 H8グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK116・H8-P11を切る。

形状・規模 平面円形, 掘方は筒形である。径48cm, 深さ32cmである。

覆土 東西方向で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層は暗灰黄色土層で炭化物・緑石粒・山土粒を含む。2層はオリーブ灰色土層である。

出土遺物 5点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は炆器1点, 土器4点である。覆土一括で収拾した。

図示した1点(1398<sup>[229]</sup>)は, 備前の炆器・水指とみられる。  
[観344]

時期 近世。出土遺物に近世の製品を含む。

性格 柱穴。

**H8-P16** (遺構:PI.90⑩<sup>[436]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・PI.158<sup>[504]</sup>)

位置・調査経過 H8グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。単独である。

形状・規模 平面楕円形, 掘方は筒形である。長さ41cm, 幅31cm, 深さ26cmである。

覆土 南北方向で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は暗灰黄色土層で炭化物・焼土を含む。2層は黒褐色土層で炭化物・山土粒を含む。3層は暗灰黄色土層で小石を含む。

出土遺物 6点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器5点, 土製品1点である。覆土一括で収拾した。

図示した1点(1399<sup>[229]</sup>)は, 土製品・土錘である。  
[観344]

時期 中世か。

性格 柱穴。

**I6-P9** (遺構:PI.90⑪<sup>[436]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・PI.158<sup>[504]</sup>)

位置・調査経過 I6グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK114を切る。

形状・規模 平面楕円形, 掘方は筒形である。長さ30cm, 幅26cm, 深さ11cmである。

覆土 東西方向で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層は暗灰黄色土層で炭化物を含む。2層は灰オリーブ色土層である。

出土遺物 3点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は土器3点である。覆土一括で収拾した。

図示した1点(1400<sup>[229]</sup>)は, 在地の土器・壺で近世の製品とみられる。  
[観344]

時期 近世。出土遺物に近世の製品を含む。

性格 柱穴。

**I9-P4** (遺構:PI.90⑫<sup>[436]</sup>, 遺物:第165図<sup>[229]</sup>・PI.158<sup>[504]</sup>)

位置・調査経過 I9グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SD8を切る。

形状・規模 平面円形, 掘方は筒形である。径38cm, 深さ22cmである。

覆土 南北方向で覆土断面を観察した。4層に分かれる。1層は黒褐色土層で炭化物・焼土・小石を含む。2層は褐灰色土層で炭化物・焼土を含む。3層は黒褐色土層で炭化物・焼土を含む。4層はオリーブ灰色土層である。

出土遺物 21点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は磁器4点, 瓦器1点, 土器1点, 瓦7点, 銭貨3点, ガラス製品5点である。覆土一括で収拾した。

図示した3点(1401~1403)は、**1401**が銅銭・洪武通寶、**1402**が銅銭・永楽通寶、**1403**が銅銭・新寛永通寶である。  
[観344]

時期 近世。出土遺物に近世の製品を含む。

性格 柱穴。

**I10-P7** (遺構:PI.90<sup>⑬</sup>[436], 遺物:第165図・PI.158<sup>[504]</sup>)

位置・調査経過 I10グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。単独である。

形状・規模 平面円形, 掘方は筒形である。径42cm, 深さ34cmである。

覆土 東西方向で覆土断面を観察した。3層に分かれる。1層は柱痕にあたる黒褐色土層で炭化物を含む。2層は暗褐色土層で炭化物・焼土・小石を含む。3層は暗褐色土層で小石を含む。

出土遺物 13点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は炆器1点, 白色土器1点, 土器6点, 瓦2点, 銭貨3点である。銭貨は1点が最上層, 残り2点は上面から出土した。他は覆土一括で収拾した。

図示した3点(1404~1406)は、**1404**・**1405**が銅銭・古寛永通寶、**1406**が銅銭・新寛永通寶である。  
[観344]

時期 近世。出土遺物に近世の製品を含む。

性格 柱穴。

**K9-P1** (遺構:PI.90<sup>⑭</sup>[436], 遺物:第165図・PI.158<sup>[504]</sup>)

位置・調査経過 K9グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SD8を切る。

形状・規模 平面円形, 掘方は筒形である。径38cm, 深さ25cmである。

覆土 南北方向で覆土断面を観察した。2層に分かれる。1層は黒褐色土層で炭化物・山土粒・小石を含む。2層は暗灰黄色土層である。

出土遺物 10点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は青磁1点, 白色土器2点, 土器7点である。覆土一括で収拾した。

図示した3点(1407~1409)は、**1407**が同安窯の青磁・皿で11世紀の製品である。**1408**は在地の土器・坏で11世紀の製品である。**1409**は撰津の土器・羽釜で11世紀の製品である。  
[観344]

時期 11~12世紀。出土遺物に11~12世紀の製品を含む。

性格 柱穴。

**L10-P1** (遺構:PI.90<sup>⑮</sup>[436], 遺物:第165図・PI.158<sup>[504]</sup>)

位置・調査経過 L10グリッドに位置する。Ⅲb層で確認した。SK84を切る。

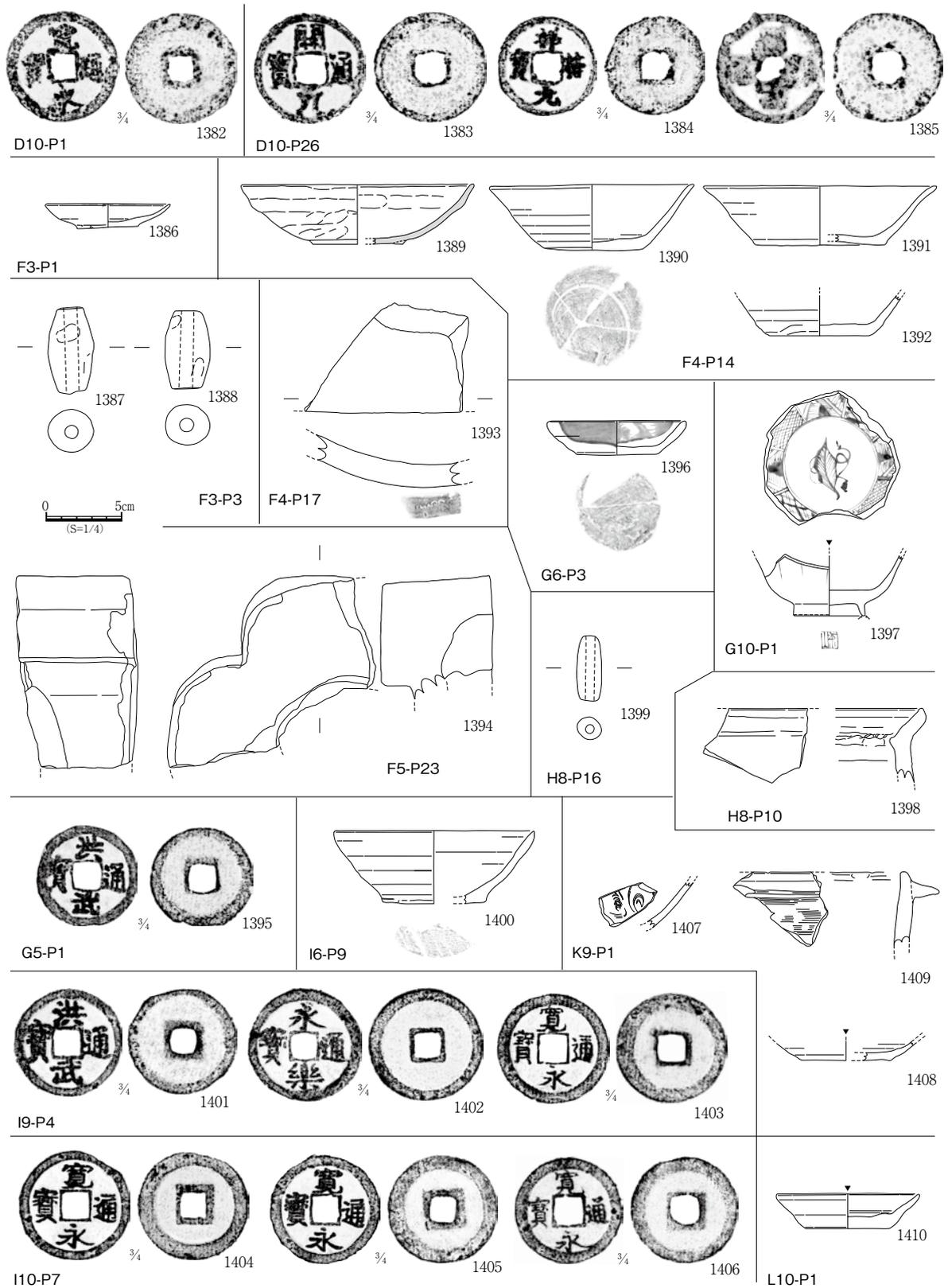
形状・規模 平面円形, 掘方は筒形である。径60cm, 深さ39cmである。

覆土 南北方向で覆土断面を観察した。5層に分かれる。1層は黒褐色土層で多量の炭化物・焼土を含む。遺物を含む。2層は柱痕にあたる灰色土層で礫を含み鉄分の凝集がみられる。3層は暗灰黄色土層, 4層は灰黄褐色土層, 5層は褐灰色土層である。

出土遺物 15点の遺物が出土した。出土遺物の内訳は炆器1点, 土器11点, 瓦2点, 鉄器1点である。土器1点と鉄器は柱痕から出土した。図示した1点(1410)は、在地の土器・坏皿で中世の製品である。  
[観344]

時期 近世。出土遺物に近世の製品を含む。

性格 柱穴。



第165図 ピット出土遺物

## ピットの配置について

前述のようにピットには909基がある。出土遺物に基づき古代19基・中世16基・近世79基・近代3基については時期を判別した<sup>[223]</sup>。またSKのうち50基については掘方形態と覆土断面により柱穴の可能性を考慮した(該当遺構は第7表の項目⑤に記載)。KGとした土坑のうちにも根石等の存在により柱穴と判断できるものを少なからず確認した。以上の柱穴と考えられる遺構の配置を第166～169図に示した。縮尺は120分の1で図上1.5cmがおよそ一間に相当する。第166図が遺跡の北西区域、第167図が北東区域、第168図が西区域、第169図が東区域のピット配置図である。南側は分布密度が薄いため図示しなかった。

ピットの位置関係から建物配置を復元できる事例は一つもなかったが、古代と近世以降の土坑については一定度の傾向性が認められたので以下に記す。

**古代のピット配置** 古代に時期比定したピットはCD・10グリッドに集中する(第167図<sup>[232]</sup>)。配置が不規則で建物の復元は困難であるが、ピットを線で結んでみると配列に方向性を見いだすことができる。D10-P40・D10-P25・D10-P38を結んだラインは北西-南東方向(N-46°-W)であり、C10-P7・C10-P1を結んだラインも同様に北西-南東方向である(N-39°-W)。またE8グリッドのE8-P15・E8-P16を結んだラインは北東-南西方向(N-35°-E)である。J・6～7グリッドのJ7-P2・J6-P4・J6-P5は北東-南西方向(N-41°-E)・北西-南東方向(N-41°-W)に結ぶことができる(第168図<sup>[233]</sup>)。

これらの方向は11～12世紀の区画溝であるSD12やSD13の軸方向である北東-南西方向(N-42～44°-E)に直交あるいは平行するものである。このことは古代の土地利用が北東-南西軸を基準にしていたことを示唆する。

**近世以降のピット配置** 近世以降の柱穴はしばしば根石を備えており、建物配置は復元できないが、同規模・同構造のピットが等間隔で並ぶ箇所が幾つかある。

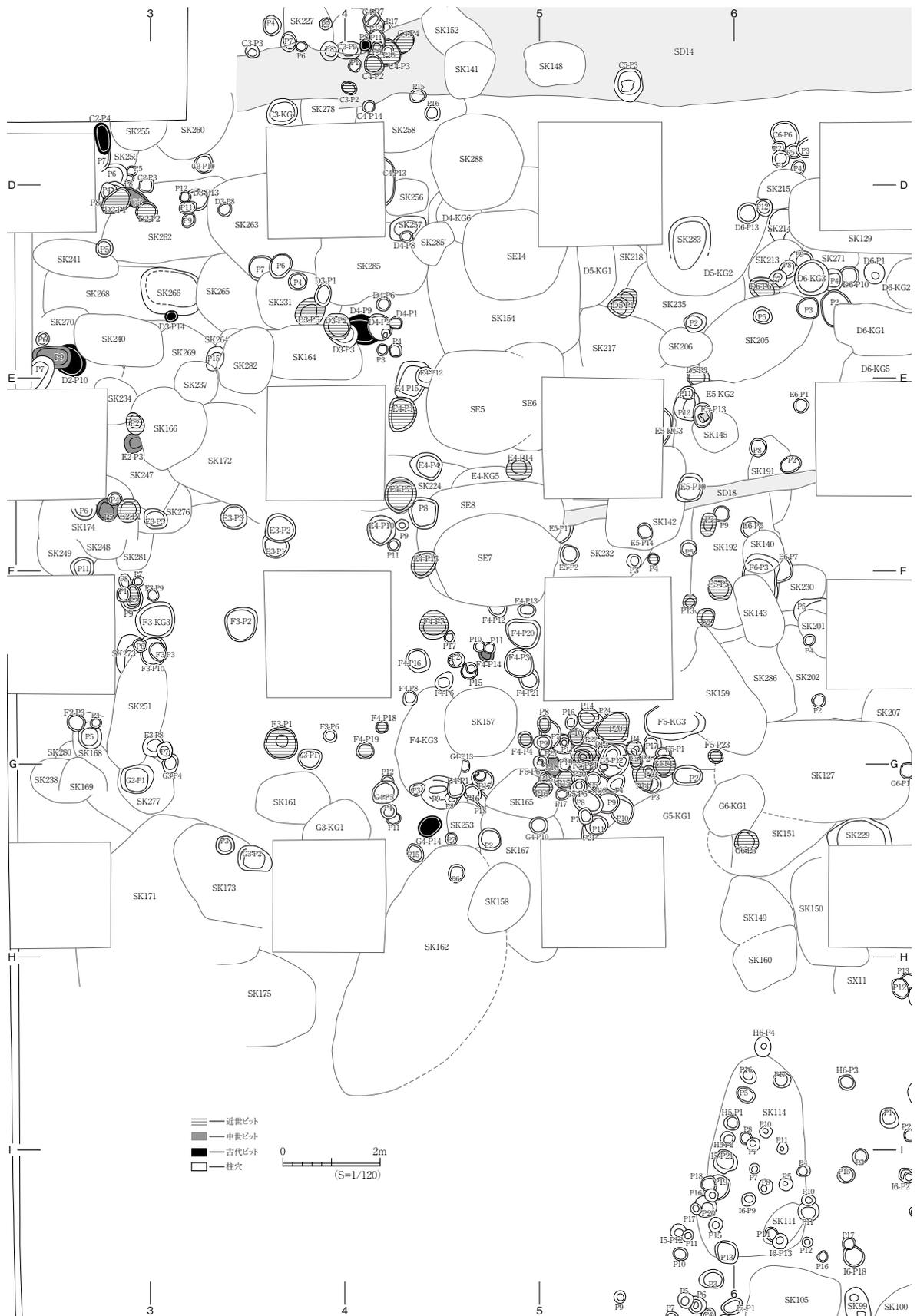
G～I・9グリッドではG9-P10・G9-P15・H9-P2・I9-P1の4基が南北方向(N-11°-W)に230cm間隔で並ぶ(第167図)。ちょうどSD8の中軸線上にあたる。

J～L・10グリッドではSK106・J6-KG2・K6-P17・K6-P15・L6-KG2の5基が南北方向(N-12°-W)に200cm間隔で並ぶ(第168図)。この南側にL5-KG4・L5-KG2・L5-KG3が南北方向(N-10°-W)に180cm間隔で並ぶ(第168図)。K6-P15から西側にK5-P15・K5-KG2・K4-P14・K4-P5・K3-KG1・K3-KG2が東西方向(N-77°-E)に200cm間隔で並ぶ(第168図)。ちょうどSD2の中軸線上にあたる。

L～O・6グリッドではL6-P16・M6-P3・M6-KG2・N6-P1・N6-KG2・O6-KG1・O6-KG2の7基が南北方向(N-11°-W)に200cm間隔で並ぶ(第168図)。これに並列してL～N・7グリッドではL7-P12・M7-P7・M7-P2・N7-KG1が南北方向(N-13°-W)に200cm間隔で並ぶ(第168図)。この2つの南北列は200cm間隔をおいて平行する。O・6～7グリッドではO6-KG3・O6-KG2・O7-KG1が東西方向(N-79°-E)に190cm間隔で並ぶ(第168図)。

I・8～10グリッドではI8-P5・I9-P2・I9-P4・I10-P7・I10-P8が東西方向(N-76°-E)に170cm間隔で並ぶ。

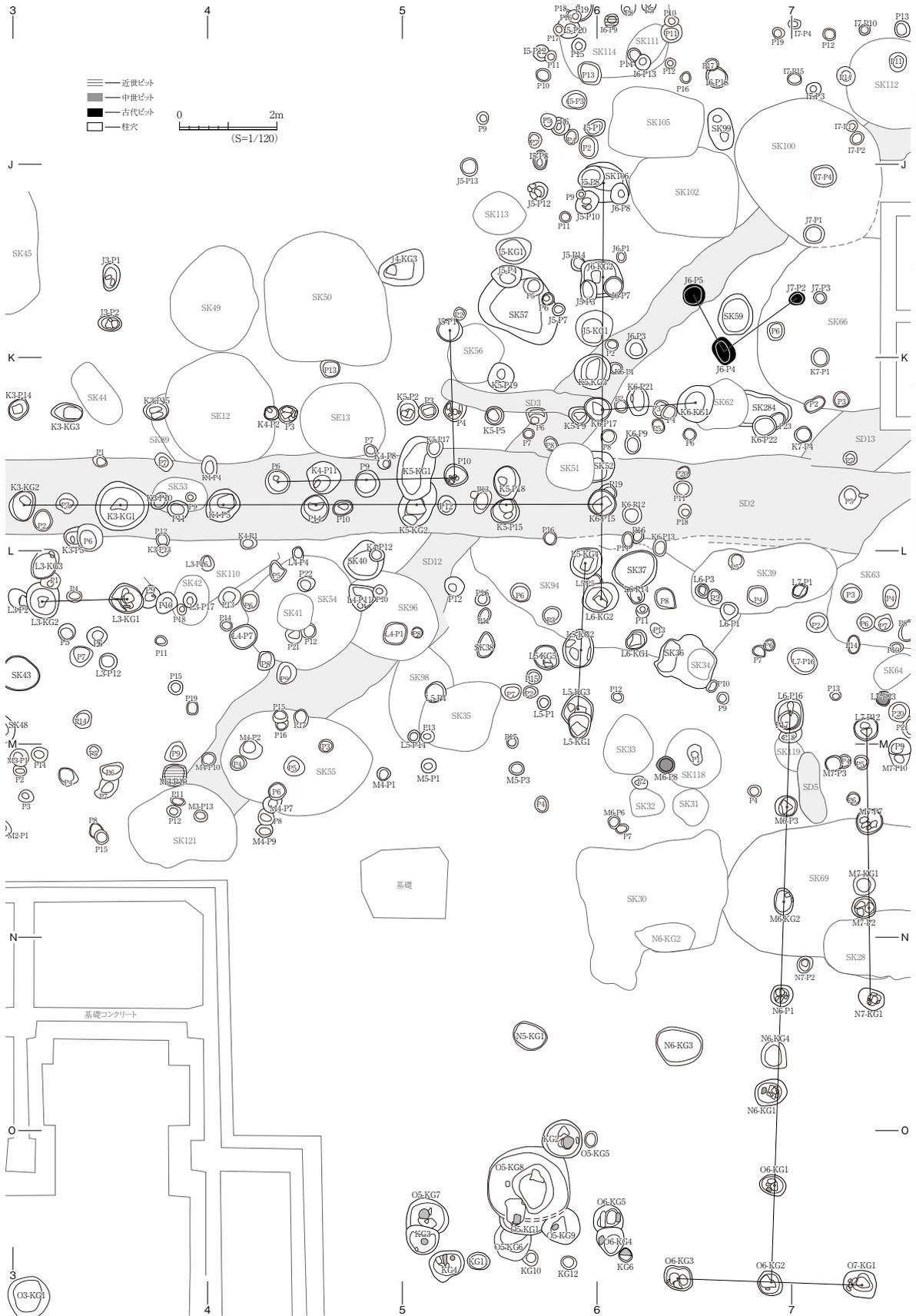
近世以降のピット列はいずれも調査区グリッドに沿う方向に並んでいた。15世紀に始まり、近世町割りの基準となった軸方向である。構築当時にはすでに埋没して久しいSD8やSD2の中軸線上に並ぶ柱穴列があることは注目に値する。或いは15世紀以来、何らかの意味を持ち続けた筋であったかもしれない。



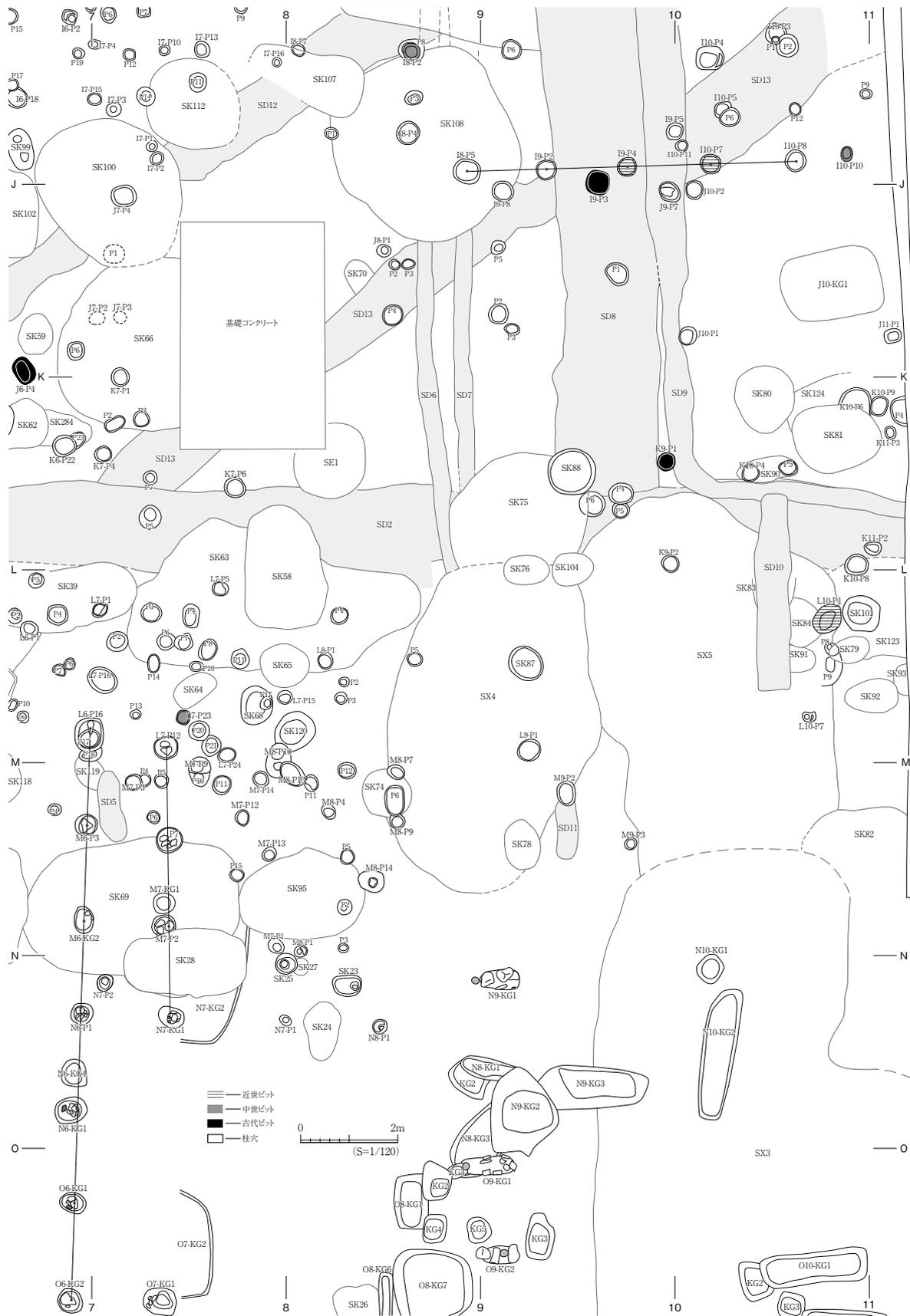
第166図 ピット配置図(北西区域)



第167図 ピット配置図(北東区域)



第168図 ピット配置図(西区域)



第169図 ピット配置図(東区域)

### 第3節 出土遺物の概要

#### (1) 概要

遺跡からは42,928点の遺物が出土した。うち遺構出土遺物は25,791点、包含層出土遺物は17,137点である。包含層出土遺物は第Ⅱ章1節<sup>[12]</sup>に140点の遺物を掲載し内容を整理した。遺構出土遺物は1410点を掲載しており遺構の報告中で要点のみを記した。ここでは種類別に特徴を整理する。

まず遺物の分類(凡例)にしたがって全体の内訳をみると、青磁466点、クロム青磁27点、白磁1,053点、青花43点、染付5,889点、青磁染付22点、磁器631点、陶器9,089点、緑釉陶器12点、統制陶器12点、陶胎染付80点、炆器1,347点、須恵器225点、瓦器1,120点、土器18,181点、弥生土器21点、黒色土器22点、白色土器1,625点、白塗土器170点、施釉土器98点、土製品73点、瓦1,774点、石製品等110点、石造物1点、漆器24点、木製品55点、銭貨66点、銅・真鍮製品34点、鉛製品2点、鉄器347点、鉄滓47点、鉄塊30点、ガラス製品96点、骨角器5点、動物遺体126点とその他5点がある。他に6体分の埋葬人骨がある。

正確な数量比は出していないが、全体的には近世以降の遺物が多く、とくに19世紀代の比率が高い。17世紀代の遺物がこれに次ぐ。中世より以前では15世紀代の遺物が多く、数は多くないが11～12世紀代の製品がこれに次ぐ。13～14世紀代と16世紀代の遺物は遺構数に応じて少ない。9～10世紀代の遺物はややあるが、弥生・古墳時代の資料は断片的である。縄文時代の遺物は出土していない。

以下、①青磁、②白磁、③青花、④染付、⑤陶器、⑥陶胎染付、⑦須恵器、⑧緑釉陶器、⑨黒色土器、⑩瓦器、⑪炆器、⑫煮炊具、⑬播鉢、⑭弥生土器、⑮土器壺・坏・坏皿、⑯鞆羽口、⑰銭貨、⑱瓦、⑲近世土佐の焼物・土器、⑳瓦、㉑文字資料について記述する。

#### (2) 各遺物の内容

##### ①青磁

遺跡全体から466点の青磁が出土した。中国同安窯・龍泉窯や肥前系の製品を確認した。報告では59点を掲載した。産地を判別したものには同安窯4点、龍泉窯30点、肥前系24点がある。

**同安窯** 同安窯4点(14<sup>[27]</sup>・731<sup>[110]</sup>・1199<sup>[184]</sup>・1407<sup>[229]</sup>)はいずれも皿である。11世紀(1407)、12世紀(731)、13～14世紀(14・1199)の製品がある。

14は内外に櫛描文がありSR2<sup>[24]</sup>(15世紀後半)から出土した。731は碁筒底で見込に櫛描文がありSX5<sup>[108]</sup>(16世紀)から出土した。1199は腰折れ器形の碁筒底でSK158<sup>[186]</sup>(17世紀)から出土した。1407は内面に櫛描文がありK9-P1<sup>[228]</sup>(11～12世紀)から出土した。

**龍泉窯** 龍泉窯30点(1～13・15<sup>[27]</sup>・86～88<sup>[32]</sup>・124<sup>[43]</sup>・265<sup>[64]</sup>・354<sup>[81]</sup>・383<sup>[85]</sup>・556<sup>[99]</sup>・720・729・730<sup>[110]</sup>・771<sup>[125]</sup>・913・914<sup>[147]</sup>・972<sup>[160]</sup>・h8<sup>[18]</sup>)は器種に碗25点、皿5点がある。時期別では11～12世紀(9・771)、13～14世紀(4・8・11・88・383・730・914)、14～15世紀(3・12・87・354・556・913)、15～16世紀(1・2・5・6・10・13・15・86・124・265・972・h8)とその他(7・720・729)の製品がある。

1～13・15はSR1・2・3<sup>[24]</sup>(15世紀後半)、86～88はSD1<sup>[32]</sup>(近世)、124はSD8<sup>[38]</sup>(15世紀末)、265はSK237<sup>[64]</sup>(15世紀)、383はSE12<sup>[82]</sup>(14世紀)、556はSX3<sup>[96]</sup>(19世紀後半)、720はSX4<sup>[108]</sup>(16世紀)、730はSX5<sup>[108]</sup>(16世紀)、771はSK7<sup>[125]</sup>(18世紀)、913・914はSK65<sup>[147]</sup>(中世)、972はSK106<sup>[160]</sup>(近世)から出土した。SR1・2・3・SD8・SK237は遺構の時期と近いが他は混入であろう。

**肥前系** 肥前系の24点(225<sup>[52]</sup>・425～430<sup>[90]</sup>・558・559<sup>[99]</sup>・747<sup>[114]</sup>・762<sup>[125]</sup>・772<sup>[125]</sup>・783<sup>[126]</sup>・843<sup>[138]</sup>・874<sup>[144]</sup>・909<sup>[147]</sup>・1051<sup>[174]</sup>・1125<sup>[181]</sup>・1158～1161<sup>[183]</sup>・1201<sup>[188]</sup>・h21<sup>[18]</sup>)は器種に碗・小碗・大皿・皿・小皿・鉢・壺・火入れなどがある。

いずれも近世以降の製品であるが、ある程度時期が限定できるものには17世紀前半(1125)、17世紀後半(426・427・762・772)の製品がある。425～430はSX1・2<sup>[88]</sup>(17世紀後半)、762はSK1<sup>[23]</sup>(近世)、772はSK7<sup>[125]</sup>(18世紀)、1125はSK149<sup>[179]</sup>(18世紀)から出土した。

## ②白磁

白磁は1053点が出土した。中国景德鎮製や肥前系・瀬戸産などを確認した。報告では59点を掲載した。産地を判別したのは中国19点、肥前系30点、瀬戸3点である。瀬戸の白磁は型押成形小皿で、しばしば「壽」字が線刻される19世紀中頃の製品である(562<sup>[99]</sup>)。以下、中国製の白磁について述べる。  
中国製の白磁 中国製の白磁19点(16～23<sup>[27]</sup>・89<sup>[32]</sup>・125<sup>[43]</sup>・251<sup>[54]</sup>・293<sup>[74]</sup>・811・817<sup>[131]</sup>・870<sup>[139]</sup>・957<sup>[153]</sup>・975<sup>[161]</sup>・1043・1046<sup>[171]</sup>)は器種に碗1点、皿15点、口禿皿(125)1点、八角坏(22)1点、小坏1点がある。時期別では14世紀(125)、15世紀(16・22・817・1043)、16世紀(17～21・23・89・251・293・811・870・975)の製品がある。

16～23はSR1・2・3<sup>[24]</sup>(15世紀後半)、89はSD1<sup>[32]</sup>(近世)、125はSD8<sup>[38]</sup>(15世紀末)、251はSD25<sup>[55]</sup>(中世)、293はSE4<sup>[73]</sup>(19世紀)、811はSK30<sup>[130]</sup>(17世紀)、817はSK32<sup>[132]</sup>(近世)、870はSK51<sup>[139]</sup>(17世紀)、957はSK101<sup>[159]</sup>(近世)、1043はSK136<sup>[172]</sup>(近世)、1046はSK137<sup>[172]</sup>(近世)から出土した。SR1・2・3では16世紀末に堆積したⅢF層<sup>[9]</sup>から多くが出土した。他は遺構の廃絶時期と製作時期に距たりがある。

## ③青花

青花は43点が出土した。景德鎮窯と漳州窯の製品を確認した。報告では32点を掲載した。うち産地を判別したものには景德鎮26点、漳州窯6点がある。以下、掲載した32点について述べる。

景德鎮 景德鎮26点(24～26・30～32<sup>[27]</sup>・212<sup>[49]</sup>・294～296<sup>[74]</sup>・440～442<sup>[90]</sup>・810<sup>[131]</sup>・875～877<sup>[144]</sup>・976・978<sup>[161]</sup>・1146<sup>[181]</sup>・1163<sup>[183]</sup>・1256・1257<sup>[198]</sup>・h9～h11<sup>[18]</sup>)は器種に皿17点、坏・小坏6点、盤1点、鉢1点、瓶1点がある。皿には鏝皿(440・1256・1257)、折縁皿(1146)、輪花皿(810)があり、他に碁笥底(25・h9)の皿もある。

時期別では15～16世紀(24・25・978・1163)、16世紀(26・32・296・976・h9・h10・h11)、16～17世紀(31・810・1146・1256・1257)、17世紀(440・875・876・877)の製品がある。

24～26・30～32はSR1・2・3<sup>[24]</sup>(15世紀後半)、212はSD14<sup>[49]</sup>(近世)、294～296はSE4<sup>[73]</sup>(19世紀)、440～442はSX1・2<sup>[88]</sup>(17世紀後半)、810はSK30<sup>[130]</sup>(17世紀)、875～877はSK58<sup>[142]</sup>(17世紀)、976・978はSK108<sup>[160]</sup>(16世紀)、1146はSK150<sup>[180]</sup>(近世)、1163はSK154<sup>[182]</sup>(17世紀)、1256・1257はSK175<sup>[196]</sup>(17世紀)から出土した。他は包含層<sup>[12]</sup>(h9・h10・h11)から出土した。

SR1・2・3では多くが16世紀末の資料を含むⅢF層<sup>[9]</sup>から出土した。SX1・2・SK30・SK58・SK108・SK175は遺構の廃絶時期と青花の製作時期に近い。

漳州窯 漳州窯6点(27～29<sup>[27]</sup>・297<sup>[74]</sup>・825<sup>[136]</sup>・977<sup>[161]</sup>)は器種に皿4点、盤1点、瓶1点がある。時期別では16世紀後半(28)、16世紀末(29)、17世紀(825)とその他(27・297・977)の製品がある。

27～29はSR1・2・3<sup>[24]</sup>(15世紀後半)、297はSE4<sup>[73]</sup>(19世紀)、825はSK45<sup>[135]</sup>(17世紀)、977はSK108<sup>[160]</sup>(16世紀)から出土した。SR1・2・3では多くが16世紀末の資料を含むⅢF層<sup>[9]</sup>から出土した。SK45は遺構の廃絶時期と漳州窯産青花の製作時期に近い。

## ④染付

染付は5,889点が出土した。肥前系や瀬戸産など17～20世紀の製品を確認した。報告では153点を掲載した。うち産地を判別したものには肥前100点、瀬戸15点(411<sup>[87]</sup>・579<sup>[99]</sup>・602・605<sup>[100]</sup>・766<sup>[125]</sup>・959<sup>[159]</sup>・1314～1318<sup>[218]</sup>・h75・h87～h89<sup>[20]</sup>)、能茶山8点がある。肥前のなかには初期伊万里10点(338<sup>[79]</sup>・448・451・458・459<sup>[90]</sup>・966<sup>[160]</sup>・1190<sup>[184]</sup>・1232<sup>[185]</sup>・h23・h25<sup>[18]</sup>)、波佐見4点(769・773<sup>[125]</sup>・1021<sup>[169]</sup>・1359<sup>[221]</sup>)がある。

以下、掲載した153点について述べる。能茶山焼については⑧<sup>[247]</sup>で記述する。

**肥前** 器種には碗各種、蓋各種、皿各種、鉢、小坏、蕎麦猪口、蓋物、瓶、仏花器等がある。

17世紀前半には初期伊万里があり、器種には碗(966・1190・1232・h23)、皿(338・448・451・h25)、瓶(458)、仏花器(459)がある。初期伊万里は**338**がSE7<sup>[77]</sup>(19世紀)、**448・451・458・459**がSX1・2<sup>[88]</sup>(17世紀後半)、**966**がSK105<sup>[159]</sup>(17世紀)、**1190**がSK157<sup>[184]</sup>(17世紀)、**1232**がSK167<sup>[192]</sup>(17世紀)から出土した。他は包含層(h23・h25)から出土した。その他、17世紀前半の肥前・染付にはSX9<sup>[113]</sup>(18世紀前半)出土の**749**<sup>[114]</sup>(皿)やSK50<sup>[138]</sup>(17世紀)出土の**846**<sup>[138]</sup>(腰折碗)がある。

17世紀後半の染付にはSX1・2<sup>[88]</sup>(17世紀後半)出土の**444**<sup>[90]</sup>(碗)・**449**<sup>[90]</sup>(皿)・**450**<sup>[90]</sup>(中皿)、SK50<sup>[138]</sup>(17世紀)出土の**847**<sup>[138]</sup>(中皿)、SK58<sup>[142]</sup>(17世紀)出土の**878**<sup>[144]</sup>(碗)がある。SX1・2<sup>[88]</sup>(17世紀後半)出土の**450**(中皿)・**457**<sup>[90]</sup>(瓶)はこの時期の良品である。

17世紀後半～18世紀初の染付にはSE10<sup>[80]</sup>(18世紀)出土の**355**<sup>[81]</sup>(丸碗)、SX9<sup>[113]</sup>(18世紀前半)出土の**750**<sup>[114]</sup>(皿)がある。

18世紀の染付には肥前・波佐見の製品があり、器種には厚手碗(769・773)・皿(1359)・小皿(1021)がある。波佐見の染付は**769**がSK6<sup>[125]</sup>(近世)、**773**がSK7<sup>[125]</sup>(18世紀)、**1021**がSK129<sup>[166]</sup>(18世紀)、**1359**がSK288<sup>[220]</sup>(19世紀)から出土した。その他、18世紀の染付にはSK129(18世紀)の**1018**<sup>[169]</sup>(蓋物)・**1020**<sup>[169]</sup>(皿)・**1022**<sup>[169]</sup>(小碗)、SK139<sup>[173]</sup>(18世紀)の**1058**<sup>[174]</sup>(皿)、SK142<sup>[177]</sup>(18世紀)の**1117**<sup>[178]</sup>(皿)がある。

19世紀の染付は多量・多種である(228<sup>[52]</sup>・298<sup>[74]</sup>・321<sup>[77]</sup>・337・339<sup>[79]</sup>・558・572・578・581～583<sup>[99]</sup>・589～591・593・594・604<sup>[100]</sup>・1057<sup>[174]</sup>・1360～1362<sup>[221]</sup>・h72・h73・h78<sup>[20]</sup>)。器種には端反碗(321・578・581～583)・広東碗(h72・h73)・小広東碗(591)、皿(298・558・h78)、稜花鉢(1360)・八角鉢(1361・1362)、蓋物(337・589・590)などがある。19世紀の染付は**228**がSD18<sup>[52]</sup>(19世紀)、**298**がSE4<sup>[73]</sup>(19世紀)、**321**がSE5<sup>[75]</sup>(19世紀)、**337・339**がSE7<sup>[77]</sup>(19世紀)、**558・572・578・581～583・589～591・593・594・604**がSX3<sup>[96]</sup>(19世紀後半)、**1360～1362**がSK288<sup>[220]</sup>(19世紀)から出土した。

**瀬戸** 瀬戸の染付は19～20世紀の製品で、器種には端反碗(579・1314～1316)、碗(h75)、鉢子(h87)、ティーポット(1317・1318)、花生(605)、広東碗蓋(766)、小坏(959)がある。**411**はSE16<sup>[86]</sup>(20世紀)、**579・602・605**はSX3<sup>[96]</sup>(19世紀後半)、**766**はSK5<sup>[124]</sup>(近世)、**959**はSK102<sup>[159]</sup>(近世)、**1315～1318**はSK285<sup>[217]</sup>(19世紀)から出土した。

**型紙摺絵** 型紙摺絵を用いた製品は19世紀末～20世紀前半に製作された。型紙摺絵は現地調査で44点を收拾し、報告で4点を掲載した(593・594<sup>[100]</sup>・h74・h75<sup>[20]</sup>)。報告した4点は器種に碗(h74・h75)、湯呑碗(593・594)がある。出土遺構には未報告を含めSK102<sup>[159]</sup>(近世)・SK106<sup>[160]</sup>(近世)・SK167<sup>[192]</sup>(17世紀)・SK171<sup>[193]</sup>(17世紀)・SX3<sup>[96]</sup>(19世紀後半)がある。SK167・SK171は收拾時の混入であろう。

**銅版転写** 銅版転写を用いた製品は19世紀末～20世紀前半に製作された。遺跡全体では13点があり、報告で8点を掲載した(607<sup>[100]</sup>・h77・h80～h83・h88・h89<sup>[20]</sup>)。報告した8点は器種に皿(h80～h83)、小皿(607)、蓋物(h77)、ティーポット(h88・h89)がある。出土遺構はSX3<sup>[96]</sup>(607)が19世紀後半である。

### ⑤陶器

陶器は9,089点が出土した。中世の製品も少量あるが大部分は近世以降の製品である。唐津・肥前、京焼、瀬戸、常滑、尾戸・能茶山他の製品を確認した。報告では222点を掲載した。産地を判別したものは唐津・肥前113点、京焼6点、瀬戸・美濃26点、尾戸・能茶山5点、丹波1点(1134<sup>[181]</sup>)、萩1点(343<sup>[79]</sup>)、常滑1点(h97<sup>[21]</sup>)がある。他に朝鮮製とみられる1点(732<sup>[110]</sup>)がある。

以下、掲載した遺物のうち天目茶碗、丸碗、肥前京焼風陶器、京焼、織部・志野について記述する。  
**天目茶碗** 天目茶碗は遺跡から124点が出土した。報告では18点を掲載した。産地別では中国・建窯1点(819<sup>[134]</sup>)、瀬戸6点(34・36<sup>[27]</sup>・384<sup>[85]</sup>・880<sup>[144]</sup>・948<sup>[157]</sup>・1209<sup>[188]</sup>)、唐津11点(35<sup>[27]</sup>・165<sup>[45]</sup>・217・218<sup>[51]</sup>・323<sup>[77]</sup>・341<sup>[79]</sup>・465<sup>[91]</sup>・774<sup>[125]</sup>・1208<sup>[188]</sup>・1243<sup>[196]</sup>・h28<sup>[18]</sup>)がある。

中国建窯製の**819**は15世紀の製品でSK37<sup>[132]</sup>(15世紀)から出土した。暗褐釉が二度掛けされ、内外口縁が帯状に黒い。胎土には黒微粒が多量に含まれる。

瀬戸の天目茶碗6点のうち、**384**は14世紀中頃の製品でSE12<sup>[82]</sup>(14世紀)から出土した。小型・低平な器形で底は削出の平底である。**34・36**は16世紀末の製品でSR2<sup>[24]</sup>のⅢF層(16世紀末)から出土した。**948**は16世紀の製品でSK100<sup>[157]</sup>(16世紀)から出土した。**880**は17世紀の製品でSK58<sup>[142]</sup>(17世紀)から出土した。**1209**はSK159<sup>[188]</sup>(18世紀)から出土した。

唐津の天目茶碗11点のうち、17世紀前半の製品にはSD10<sup>[45]</sup>(近世)の**165**、SX1<sup>[88]</sup>(17世紀後半)の**465**、SK172<sup>[194]</sup>(17世紀)の**1243**がある。17世紀後半の製品にはSE7<sup>[77]</sup>(19世紀)の**341**、SK7<sup>[125]</sup>(18世紀)の**774**がある。他、17世紀の製品にはSR2<sup>[24]</sup>(15世紀後半)上部近世層の**35**、SD17<sup>[50]</sup>(近世)の**217・218**、SE5<sup>[75]</sup>(19世紀)の**323**、包含層の**h28**がある。SK159<sup>[188]</sup>(18世紀)の**1208**はさらに時期が下るとみられる。  
**丸碗** 丸碗としたのは器高8~9cm、口径12cm前後の碗形陶器である。16点がありいずれも肥前産である(357~359<sup>[81]</sup>・466~468<sup>[91]</sup>・753<sup>[114]</sup>・768<sup>[125]</sup>・849<sup>[138]</sup>・911・912<sup>[147]</sup>・1118・1119<sup>[178]</sup>・1130<sup>[181]</sup>・1364・1365<sup>[221]</sup>)。

17世紀前半の製品にはSE10<sup>[80]</sup>(18世紀)の**357~359**、SX1・2<sup>[88]</sup>(17世紀後半)の**466・467**、SK64<sup>[147]</sup>(近世)の**911・912**、SK143<sup>[178]</sup>(17世紀)の**1118・1119**、SK149<sup>[179]</sup>(近世)の**1130**がある。

17世紀後半~18世紀前半の製品にはSX9<sup>[113]</sup>(18世紀前半)の**753**、SK50<sup>[138]</sup>(17世紀)の**849**がある。

19世紀の製品にはSK288<sup>[220]</sup>(19世紀)の**1364・1365**があり、いずれにも注連縄文が描かれる。

**肥前京焼風陶器** 肥前京焼風陶器は4点(469・474・475<sup>[91]</sup>・1211<sup>[188]</sup>)を掲載した。17世紀後半の製品にはSX1・2<sup>[88]</sup>(17世紀後半)の**469**(薄茶碗)・**474**(碗)・**475**(碗)がある。**474**には丸囲み「寶」刻印、**475**には「清水」刻印がある。18世紀の製品にはSK159<sup>[188]</sup>(18世紀)の**1211**(半球碗)がある。

**京焼** 京焼は7点(1026・1027<sup>[169]</sup>・1062・1065・1066・1067<sup>[174]</sup>・1131<sup>[181]</sup>)が出土した。いずれも18世紀の製品で、器種には碗・半球碗・小碗・鉢がある。SK129<sup>[166]</sup>(18世紀)の**1027**(碗)、SK139<sup>[173]</sup>(18世紀)の**1062**(半球碗)・**1065・1066**(小碗)・**1067**(鉢)、SK149<sup>[179]</sup>(近世)の**1131**(半球碗)がある。

**織部・志野** 遺跡全体からは織部11点、志野焼12点が出土した。織部5点(798<sup>[130]</sup>・826・827<sup>[136]</sup>・1006<sup>[165]</sup>・1169<sup>[183]</sup>)、志野焼2点(490<sup>[91]</sup>・851<sup>[138]</sup>)を掲載した。織部は17世紀の製品で向付・皿がある。SK28<sup>[129]</sup>(17世紀前半)の**798**(向付)、SK45<sup>[135]</sup>(17世紀)の**826**(皿)・**827**(向付)、SK127<sup>[164]</sup>(17世紀)の**1006**(向付)、SK154<sup>[182]</sup>(17世紀)の**1169**(向付)がある。志野焼は器種に向付・香炉がある。16世紀末~17世紀初の製品にSK50<sup>[138]</sup>(17世紀)の**851**(向付)がある。17世紀前半の製品にSX2<sup>[88]</sup>(17世紀後半)の**490**(足付鉢)がある。

#### ⑥陶胎染付

陶胎染付は80点が出土した。肥前産の他に高知市大津の鹿児島製品もみられる。報告では4点を掲載した(607・608<sup>[100]</sup>・1024・1025<sup>[169]</sup>)。産地を判別したものには肥前2点(1024・1025)、鹿児島1点(608)がある。鹿児島製品については別途⑱で記述する。器種には碗(1024)、皿(607)、土瓶蓋(608)、香炉(1025)がある。**607・608**がSX3<sup>[96]</sup>(19世紀後半)、**1024・1025**がSK129<sup>[166]</sup>(18世紀)から出土した。**607**は産地不明の皿であるが、銅版転写で西洋風の風景を内面に写し、紫色に発色させている。高台内には「COTTAGE/□AWSON」銘がある。胎土はやや軟質の灰黄色土で全釉である。

## ⑦須恵器

須恵器は遺跡全体から225点が出土した。うち50点を掲載した。時期別では古墳時代6点、古代37点、中世7点がある。

**古墳時代** 古墳時代の須恵器には6点(47・48<sup>[28]</sup>・94<sup>[35]</sup>・743<sup>[112]</sup>・924<sup>[147]</sup>・h6<sup>[18]</sup>)があり、器種には蓋坏、高坏がある。6～7世紀の製品である。水磨により磨滅したものが目立つ。47(蓋坏)は6世紀末～7世紀初、48(高坏)は6世紀の製品でSR1<sup>[24]</sup>(15世紀後半)から出土した。94(高坏)は7世紀の製品でSD2<sup>[32]</sup>(15世紀前半)から出土した。743(坏蓋)は6世紀後半の製品でSX8<sup>[112]</sup>(古代)から出土した。924(蓋坏)は6世紀の製品でSK69<sup>[148]</sup>(中世)から出土した。h6(蓋坏)は6世紀中頃の製品である。

**古代** 古代の須恵器には37点(49～55<sup>[28]</sup>・93・95・97・98<sup>[35]</sup>・131・132・135<sup>[43]</sup>・170～173<sup>[47]</sup>・186<sup>[47]</sup>・214<sup>[49]</sup>・219<sup>[51]</sup>・248<sup>[54]</sup>・281<sup>[71]</sup>・389<sup>[85]</sup>・500<sup>[92]</sup>・721<sup>[110]</sup>・741<sup>[112]</sup>・917<sup>[147]</sup>・946<sup>[134]</sup>・949<sup>[157]</sup>・986<sup>[162]</sup>・988・989<sup>[163]</sup>・1175<sup>[183]</sup>・1299<sup>[176]</sup>・h7・h13<sup>[18]</sup>)があり、器種には碗、坏、坏蓋、皿、壺、長頸壺、細頸壺、甕、把手がある。8～11世紀頃の製品と考えられる。49(蓋)・50(皿)・51(長頸壺)・52・53(壺)・54・55(甕)はSR2<sup>[24]</sup>(15世紀後半)のなかでも礫層から出土した。93(坏)・95(細頸壺)・97・98(甕)はSD2<sup>[32]</sup>(15世紀前半)から出土した。131(坏蓋)・132(坏)・135(壺)はSD8<sup>[38]</sup>(15世紀末)から出土した。170(碗)・171(坏)・172(壺)・173(甕)はSD12<sup>[45]</sup>(11世紀頃)から出土した。186(甕)はSD13<sup>[46]</sup>(11世紀頃)から出土した。214は肩に突帯のめぐる壺でSD14<sup>[49]</sup>(近世)から出土した。219(脚部)はSD17<sup>[50]</sup>(近世)から出土した。248(壺)はSD23<sup>[54]</sup>(15世紀前半)から出土した。281(把手)はSE2<sup>[71]</sup>(近世)から出土した。389(坏)はSE12<sup>[82]</sup>(14世紀)から出土した。500(坏蓋)はSX1<sup>[88]</sup>(17世紀後半)から出土した。721(皿)はSX4<sup>[108]</sup>(16世紀)から出土した。741(壺)はSX6<sup>[111]</sup>(古代)から出土した。917(壺)はSK66<sup>[148]</sup>(中世)から出土した。946(坏)はSK94<sup>[155]</sup>(古代)から出土した。949(甕)はSK100<sup>[157]</sup>(16世紀)から出土した。986(碗)はSK114<sup>[161]</sup>(古代)から出土した。988(坏)・989(甕)はSK116<sup>[162]</sup>(中世)から出土した。1175(坏蓋)はSK154<sup>[182]</sup>(17世紀)から出土した。1299(壺)はSK192<sup>[201]</sup>(古代)から出土した。

**中世** 中世の須恵器には7点(96<sup>[35]</sup>・133・134・153<sup>[43]</sup>・253<sup>[59]</sup>・915<sup>[147]</sup>・998<sup>[164]</sup>)がある。器種には蓋坏、坏、坏蓋、鉢、捏鉢がある。主に東播系で12～13世紀の製品である。

96は鉢で搦鉢の可能性もある。口縁はやや肥厚し口唇が面取りされる。内口唇には沈線がめぐる。外胴にはナデ・オサエがある。SD2<sup>[32]</sup>(15世紀前半)から出土した。133は東播系の鉢で口縁の内外が帯状に黒い。12世紀の製品である。134は東播系の捏鉢で口唇が上方に拡張され尖る。133・134はSD8<sup>[38]</sup>(15世紀末)から出土した。153は東播系の鉢で口縁が内外に小さく肥厚し口唇が上方に拡張され尖る。SD9<sup>[44]</sup>(16世紀)から出土した。253は東播系とみられる鉢で口縁が外側に僅かに肥厚し内口縁に弱い凹線がめぐる。内外に筋状の黒斑がつく。SK153<sup>[56]</sup>(16世紀)から出土した。915は東播系の捏鉢で口唇は丸みを帯び上下に張り出す。口唇は黒ずむ。12世紀の製品である。SK65<sup>[147]</sup>(中世)から出土した。998は東播系の捏鉢で口唇は丸く、上下に突出する。内口縁にはナデによる凹帯がめぐる。12世紀末～13世紀初の製品である。SK120<sup>[164]</sup>(中世)から出土した。

## ⑧緑釉陶器

遺跡全体で12点が出土した。器種には碗、坏があり産地には京都系・近江・東海がある。京都系の割高がやや高い。9～10世紀の製品である。出土遺構にはSD9<sup>[44]</sup>(16世紀)・SD14<sup>[49]</sup>(近世)・SK192<sup>[201]</sup>(古代)・SK217<sup>[203]</sup>(古代)・C8-P8・J7-P2(古代)があり、他に包含層から3点が出土した。報告では3点を掲載した(213・1298・1301)。

213<sup>[49]</sup>は京都系の坏で10世紀の製品である。回転斡切で、外底を丁寧にナデ調整している。SD14<sup>[49]</sup>(近世)から出土した。1298<sup>[176]</sup>は京都系の碗・胴部で9世紀の製品である。内外をミガキで仕上げる。SK192<sup>[201]</sup>(古代)から出土した。1301<sup>[203]</sup>は京都系の碗・口縁部で9世紀の製品である。内外をミガキで仕上げる。SK217<sup>[203]</sup>(古代)から出土した。

### ⑨黒色土器

遺跡全体で22点が出土した。器種には碗・坏・皿がある。9～11世紀の製品である。内黒・両黒があり、内黒がやや多い。出土遺構にはSR1<sup>[24]</sup>(15世紀後半)・SD12<sup>[45]</sup>(11～12世紀)・SD18<sup>[52]</sup>(近世)・SE2<sup>[71]</sup>(近世)・SK100<sup>[157]</sup>(16世紀)・SK108<sup>[160]</sup>(16世紀)・SK116<sup>[162]</sup>(中世)・SK185<sup>[200]</sup>(古代)・E8-P11・F8-P5・J6-P5(古代)・K5-P4があり、他に包含層から11点が出土した。報告では3点を掲載した(282・950・980)。

282<sup>[71]</sup>は畿内系の内面黒色土器・坏の口縁である。9世紀後半～10世紀初の製品である。内外をミガキで仕上げる。SE2(近世)から出土した。950<sup>[157]</sup>は楠葉型の両面黒色土器・碗の底部である。貼付輪高台で内底に暗文がある。11世紀末～12世紀初の製品である。SK100(16世紀)から出土した。980<sup>[161]</sup>は楠葉型の両面黒色土器・坏の口縁である。口唇内側に沈線がめぐる。11世紀の製品とみられる。SK108(16世紀)から出土した。

### ⑩瓦器

瓦器は遺跡全体から1,120点が出土した。瓦器には、須恵器より低火度で還元焰焼成した中世のものと、低火度で燻して黒く焼き上げた近世以降のものを含んでいる。報告では73点を掲載した。うち中世の瓦器55点、近世の瓦器18点である。中世の瓦器は器種に碗・鉢・茶釜・鍋・播鉢がある。近世の瓦器は器種に火鉢・焜炉・七輪・壺・甕がある。

以下、中世瓦器の碗・鉢について記述する。瓦器・播鉢は⑬に瓦器・鍋は⑫に別途記述する。

瓦器碗 遺跡全体では50点が出土した。畿内系の12～13世紀の製品を確認した。出土遺構にはSR1・2<sup>[24]</sup>(15世紀後半)・SD2<sup>[32]</sup>(15世紀前半)・SD8<sup>[38]</sup>(15世紀末)・SD9<sup>[44]</sup>(16世紀)、SD10<sup>[45]</sup>(近世)・SD12<sup>[45]</sup>(11～12世紀)・SD13<sup>[46]</sup>(11～12世紀)・SD14<sup>[49]</sup>(近世)・SD18<sup>[52]</sup>(近世)・SD25<sup>[55]</sup>(中世)・SX1・2<sup>[88]</sup>(17世紀後半)・SK116<sup>[162]</sup>(中世)・SK133<sup>[169]</sup>(中世)・SK154<sup>[182]</sup>(17世紀)・SK157<sup>[184]</sup>(17世紀)・SK237<sup>[64]</sup>(15世紀)・SK238(古代)・SK240<sup>[205]</sup>(古代)・SK263<sup>[212]</sup>(中世)・E2-P5(中世)・F4-P14<sup>[224]</sup>(13世紀)があり、他に包含層から8点が出土した。報告では16点を掲載した(56<sup>[28]</sup>・99・100～103<sup>[35]</sup>・136<sup>[43]</sup>・174～176<sup>[47]</sup>・187<sup>[47]</sup>・990<sup>[163]</sup>・1194<sup>[184]</sup>・1389<sup>[229]</sup>・h14・h15<sup>[18]</sup>)。産地を判断したものには楠葉型6点(99・100・174・175・187・990)と和泉型6点(56・136・1194・1389・h14・h15)がある。

56は和泉型で12世紀後半の製品である。SR1(15世紀後半)から出土した。99は楠葉型で13世紀の製品、100は楠葉型で13世紀の製品、101・102は胴部片、103は13世紀の製品である。SD2(15世紀前半)から出土した。136は和泉型で13世紀の製品である。SD8(15世紀末)から出土した。174・175は楠葉型で12世紀の製品、176は口縁片でSD12(11～12世紀)から出土した。187は楠葉型で12世紀の製品である。SD13(11～12世紀)から出土した。990は楠葉型で13世紀の製品である。SK116(中世)から出土した。1194は和泉型で13世紀の製品である。SK157(17世紀)から出土した。1389は和泉型で13世紀の製品である。F4-P14(13世紀)から出土した。包含層出土のh14は和泉型で13世紀の製品、h15は和泉型で12～13世紀の製品である。

瓦器鉢 報告では6点を掲載した(60<sup>[28]</sup>・104<sup>[35]</sup>・137・154<sup>[43]</sup>・734<sup>[110]</sup>・944<sup>[155]</sup>)。須恵器・鉢との区別は必ずしも十分でない。在地産と考えられる。

60は器面・口唇が平坦で角鉢とみられる。SR2<sub>[24]</sub>(15世紀後半)から出土した。104は器面のユビオサエが顕著でカップ状の器形を復元した。SD2<sub>[32]</sub>(15世紀前半)から出土した。137は口縁片で口唇が薄くなる。SD8<sub>[38]</sub>(15世紀末)から出土した。154は回転調整され口唇が匕面をなす。SD9<sub>[44]</sub>(16世紀)から出土した。734は口唇が凹面となる。SX5<sub>[108]</sub>(16世紀)から出土した。944は器面のユビオサエが顕著で口唇は丸くおさまる。SK88<sub>[155]</sub>(中世)から出土した。

### ⑪ 炆器

1,347点が出土し95点を掲載した。炆器は無釉の焼締め陶器でしばしば化粧土が掛かる。内訳は播鉢(53点)、大鉢(3)、鉢(9)、浅丸鉢(1)、瓶(1)、大甕(6)、甕(3)、壺(3)、建水(1)、水指(2)、灯明具(8)、小皿(1)、植木鉢(2)、土瓶蓋(1)、窯道具(1)である。播鉢と大甕以外は近世以降の製品である。産地には備前・常滑・丹波・唐津等があり中国製もある。播鉢は⑬<sub>[243]</sub>に別途記述する。

灯明具 炆器の灯明具は遺跡全体で59点が出土している。報告では8点を掲載した。灯明具には灯明皿(308<sub>[74]</sub>・1081・1082<sub>[174]</sub>・1215・1216<sub>[188]</sub>)と灯明受皿(642<sub>[102]</sub>・1083<sub>[174]</sub>・1136<sub>[181]</sub>)がある。いずれも備前焼で近世の製品である。灯明具は成形後の回転ケズリにより薄く仕上げられる。受皿は返りに切込みがある。外底以外に化粧土をかけ暗赤色に焼き上げる。308がSE4<sub>[73]</sub>(19世紀)、642がSX3<sub>[96]</sub>(19世紀後半)、1081～1083がSK139<sub>[173]</sub>(18世紀)、1136がSK149<sub>[179]</sub>(近世)、1215・1216がSK159<sub>[188]</sub>(近世)から出土した。

鉢類 炆器・鉢類は13点を掲載した(92<sub>[35]</sub>・126<sub>[43]</sub>・327<sub>[77]</sub>・491～493<sub>[92]</sub>・638～640<sub>[102]</sub>・800<sub>[130]</sub>・853<sub>[138]</sub>・1121<sub>[178]</sub>・1370<sub>[221]</sub>)。92は備前の大鉢で外底がハケ調整される。中世の製品である。SD2<sub>[32]</sub>(15世紀前半)から出土した。491は備前の浅丸鉢で口縁が強く内湾する。493は備前の筒形鉢で外面に強い轆轤目が残る。491・492は近世の製品でSX1<sub>[88]</sub>(17世紀後半)から出土した。800は備前の大鉢で口縁がつよく内湾する。器面に黒粒・黄ゴマがあり外胴部下半は重焼で変色する。17世紀前半の製品であろう。SK28<sub>[129]</sub>(17世紀前半)から出土した。853は中国製の鉢で厚い二重口縁の外面に弱い凹帯2条がめぐり。口縁の上端が摘まみ上げられ丸く尖る。16世紀後半の製品である。SK50<sub>[138]</sub>(17世紀)から出土した。1370は備前の筒形鉢で胴の内外が回転ナデで凸凹する。近世の製品である。SK288<sub>[220]</sub>(19世紀)から出土した。

甕類 甕類は大甕6点(46<sub>[27]</sub>・247<sub>[54]</sub>・252<sub>[59]</sub>・388<sub>[85]</sub>・499<sub>[92]</sub>・1049<sub>[171]</sub>)、甕3点(44<sub>[27]</sub>・309<sub>[74]</sub>・1080<sub>[174]</sub>)を掲載した。

大甕の産地には備前(247・252)、常滑(46・388・1049)、肥前(499)がある。46は常滑の大甕・口縁で14世紀の製品である。SR2<sub>[24]</sub>(15世紀後半)から出土した。247は備前の大甕・口縁で玉縁状をなす。15世紀の製品である。SD23<sub>[54]</sub>(15世紀前半)から出土した。252は備前の大甕で15世紀後半の製品である。割れた胴部の継ぎ目に内外から幅2～3cmの布帯を当て漆で接着し補修している。SK153<sub>[56]</sub>(16世紀)で用いられた埋葬棺である。388は常滑の大甕・口縁で14世紀の製品である。SE12<sub>[82]</sub>(14世紀)から出土した。499は唐津の大甕・口縁で17世紀の製品である。SX2<sub>[88]</sub>(17世紀後半)から出土した。1049は常滑の大甕頸部で14世紀の製品である。SK138<sub>[172]</sub>(近世)から出土した。

甕の産地には備前(44)、丹波(309・1080)がある。309は丹波の甕・口縁で17世紀の製品である。縁帯の口縁外面に2条の凹線がめぐり。SE4<sub>[73]</sub>(19世紀)から出土した。1080は丹波の甕・口縁で縁帯の口縁外面に退化した3条の凹線がめぐり。SK139<sub>[173]</sub>(18世紀)から出土した。

### ⑫ 煮炊具

出土した煮炊きの道具には弥生時代から近現代までのものがある。⑭<sub>[244]</sub>に別途記述する弥生土器を除けば、煮炊具には古代の土器・甕および羽釜、中世の瓦器・鍋および土器・羽釜がある。近世以降になると土器・煮炊具は炒める道具である焙烙鍋に変化し、煮炊具は別の素材で製作される。

古代の土器・甕 9～11世紀の土器・甕は10点(117<sup>[35]</sup>・141<sup>[43]</sup>・185<sup>[47]</sup>・204～206<sup>[47]</sup>・258<sup>[59]</sup>・823<sup>[133]</sup>・1302<sup>[203]</sup>・h5<sup>[18]</sup>)を掲載した。古墳時代の甕から変化した土器・煮炊具で、球形の胴にくの字に折れる口縁がつく。口唇は摘まみ上げられ上方に丸く尖る。胴部外面は縦ハケ調整され、横ハケのものは(205)はより新しい。胎土に礫粗粒を多く含む。1302は内面にタタキのような痕跡があり特異である。117はSD2<sup>[32]</sup>(15世紀前半)、141はSD8<sup>[38]</sup>(15世紀末)、185はSD12<sup>[45]</sup>(11～12世紀)、204～206はSD13<sup>[46]</sup>(11～12世紀)、258はSK153<sup>[56]</sup>(16世紀)、823はSK39<sup>[134]</sup>(11～12世紀)、1302はSK235<sup>[205]</sup>(古代)から出土した。

撰津の土器・羽釜 撰津の土器・羽釜は10点(118<sup>[35]</sup>・160<sup>[43]</sup>・207・208<sup>[47]</sup>・905<sup>[146]</sup>・922<sup>[147]</sup>・945<sup>[155]</sup>・956<sup>[157]</sup>・1227<sup>[190]</sup>・1409<sup>[229]</sup>)を掲載した。10～11世紀の製品である。器体は丸底の砲弾型で先端か、やや下がった位置に鏝がつく。胴部外面は縦ハケ調整される。胎土には礫粗粒を多く含む。鏝の端部は方形のものが多く丸く尖るもの(208)もある。118はSD2<sup>[32]</sup>(15世紀前半)、160はSD9<sup>[44]</sup>(16世紀)、207・208はSD13<sup>[46]</sup>(11～12世紀)、905はSK63<sup>[146]</sup>(中世)、922はSK66<sup>[148]</sup>(中世)、945はSK88<sup>[155]</sup>(中世)、956はSK100<sup>[157]</sup>(16世紀)、1227はSK162<sup>[189]</sup>(近世)、1409はK9-P1<sup>[228]</sup>(11～12世紀)から出土した。

瓦器・三足鍋 瓦器・三足鍋は10点(57～59<sup>[28]</sup>・105～108<sup>[35]</sup>・821<sup>[134]</sup>・928・929<sup>[151]</sup>)を掲載した。13～14世紀の製品である。口縁から下がった位置に断面三角形の突帯がつく。全体に粗製である。57～59はSR1・2・3<sup>[24]</sup>(15世紀後半)、105～108はSD2<sup>[32]</sup>(15世紀前半)、821はSK37<sup>[132]</sup>(15世紀)、928・929はSK75<sup>[151]</sup>(15世紀末～16世紀初)から出土した。

土佐型の瓦器・鍋 土佐型の瓦器・鍋は14点(109・110<sup>[35]</sup>・138<sup>[43]</sup>・220<sup>[51]</sup>・392・401～403<sup>[85]</sup>・722<sup>[110]</sup>・736<sup>[110]</sup>・820<sup>[134]</sup>・890<sup>[144]</sup>・933<sup>[153]</sup>・991<sup>[163]</sup>)を掲載した。14～15世紀の製品である。土佐型の瓦器・鍋は扁平な球形の胴部から頸がゆるく締まり、口縁が直立ないし小さく外反する。口唇はナデや櫛状工具によりヒ面をなす。丸底の外面にはケズリ痕がある(722)。胴部外面にはナデ・オサエが顕著である。109・110はSD2<sup>[32]</sup>(15世紀前半)、138はSD8<sup>[38]</sup>(15世紀末)、220はSD17<sup>[50]</sup>(近世)、392はSE12<sup>[82]</sup>(14世紀)、401～403はSE13<sup>[84]</sup>(15世紀)、722はSX4<sup>[108]</sup>(16世紀前半)、736はSX5<sup>[108]</sup>(16世紀)、820はSK37<sup>[132]</sup>(15世紀)、890はSK58<sup>[142]</sup>(17世紀)、933はSK81<sup>[152]</sup>(中世)、991はSK116<sup>[162]</sup>(中世)から出土した。

播磨型の土器・羽釜 播磨型の土器・羽釜は12点(68・69<sup>[28]</sup>・91<sup>[32]</sup>・142<sup>[43]</sup>・243<sup>[54]</sup>・726<sup>[110]</sup>・838<sup>[137]</sup>・923<sup>[147]</sup>・931<sup>[152]</sup>・994<sup>[163]</sup>・1308<sup>[113]</sup>・1310<sup>[177]</sup>)を掲載した。15世紀の製品が多い。平行タタキの施された胴部は球形で、内湾しながら口縁につながる。口唇は平坦で外側が丸く突出する。口縁部から下がった位置に突帯(鏝)がめぐる。頸部突帯の断面は三角形が大多数でこれは15世紀代の特徴である。突帯断面が方形の1308は14世紀後半に遡る。68・69はSR1・2<sup>[24]</sup>(15世紀後半)、91はSD1<sup>[32]</sup>(近世)、142はSD8<sup>[38]</sup>(15世紀末)、243はSD22<sup>[53]</sup>(中世)、726はSX4<sup>[108]</sup>(16世紀前半)、838はSK48<sup>[137]</sup>(近世)、923はSK66<sup>[148]</sup>(中世)、931はSK78<sup>[151]</sup>(中世)、994はSK116<sup>[162]</sup>(中世)、1308はSK243<sup>[207]</sup>(中世)、1310はSK258<sup>[210]</sup>(中世)から出土した。その他中世の煮炊具 143<sup>[43]</sup>は土器・羽釜の口縁部である。搬入品とみられるが産地は不明である。口縁はくの字に折れ、摘まみ上げられた口唇は上方に尖る。SD8<sup>[38]</sup>(15世紀末)から出土した。71<sup>[28]</sup>は河内型の土器・羽釜で15世紀の製品である。SR1<sup>[24]</sup>(15世紀後半)から出土した。70<sup>[28]</sup>・244<sup>[54]</sup>は口縁の破片で、器形は播磨型の土器・羽釜に似る。突帯はなく肥厚した口縁の体部外側が斜めの凹面となる。突帯が痕跡化した形態であろう。胴部外面にはナデ・オサエがみられる。播磨型の土器・羽釜から変化したもので16世紀の製品と考えられる。70はSR1<sup>[24]</sup>(15世紀後半)、244はSD22<sup>[53]</sup>(中世)から出土した。

茶釜は出土した4点すべてを掲載した。土器3点(72<sup>[28]</sup>・738<sup>[110]</sup>・983<sup>[161]</sup>)、瓦器1点(139<sup>[43]</sup>)がある。15～16世紀の製品である。72は一对の耳がつく16世紀の製品である。SR1<sup>[24]</sup>(15世紀後半)から出土した。

139は瓦器で頸部に二圏線、肩部に双弧線が施文される。15世紀の製品であろう。SD8<sub>[38]</sub> (15世紀末)から出土した。738は上半の破片で短い口縁がつく。16世紀の製品であろう。SX5<sub>[108]</sub> (16世紀)から出土した。983は鏝以下の破片で煤が付着する。16世紀の製品であろう。SK108<sub>[160]</sub> (16世紀)から出土した。近世の焙烙鍋 39点が出土し、5点を掲載した。讃岐の御厩系2点(73<sub>[28]</sub>・h41<sub>[118]</sub>)、関西系3点(316<sub>[74]</sub>・666<sub>[104]</sub>・1031<sub>[169]</sub>)がある。73・h41は御厩系である。h41は鏝縁がやや垂下する。胴にはナデ・オサエ痕がある。73は底部の内外面が細かなハケ工具で調整される。73は19世紀の製品でSR2<sub>[24]</sub> (15世紀後半)上部近世層から出土した。h41は18世紀の製品で包含層から出土した。316・666・1031は関西系で、垂直か内傾する板状の口縁に丸い胴(底)がつく。1031は外口縁の一部が肥厚し上部から穿孔される。把手がつく箇所である。316はSE4<sub>[73]</sub> (19世紀)、666はSX3<sub>[96]</sub> (19世紀後半)、1031はSK129<sub>[166]</sub> (18世紀)から出土した。

### ⑬ 播鉢

播鉢は398点が出土した。大部分が炆器(351点)で、瓦器(26点)と陶器(21点)が若干ずつある。61点を掲載した。内訳は炆器53点、瓦器6点、陶器2点である。瓦器、炆器、陶器の順に登場した。炆器53点のうち産地を判断したものは備前35点、明石5点、堺4点、唐津2点、丹波2点、須佐2点がある。以下、素材・産地別に播鉢の内容を記述する。

**瓦器・播鉢** 瓦器と須恵器の区別は曖昧であるが同質の播鉢を瓦器・播鉢とする。6点(242<sub>[54]</sub>・310<sub>[74]</sub>・390・391<sub>[85]</sub>・735<sub>[110]</sub>・901<sub>[146]</sub>)を掲載した。器形には大きな湾曲がなく口縁にいたる。口唇はナデにより凹面となる。外胴部はナデ・オサエが顕著である。胴部内面は横ナデで丁寧に仕上げられる。摺目は間隔が疎らである。4～5歯(390・391・901)と7～8歯(242・310・735)の違いがあり、時期差と考えられる。底部は遺存例がなく詳細不明である。13～14世紀の製品とみられる。242はSD22<sub>[53]</sub> (中世)、310はSE4<sub>[73]</sub> (19世紀)、390・391はSE12<sub>[82]</sub> (14世紀)、735はSX5<sub>[108]</sub> (16世紀)、901はSK63<sub>[146]</sub> (中世)から出土した。

**備前の炆器・播鉢** 備前の播鉢は35点(39・40・42・43<sub>[27]</sub>・127～130<sub>[43]</sub>・246<sub>[54]</sub>・271<sub>[64]</sub>・284<sub>[72]</sub>・364<sub>[81]</sub>・386・400<sub>[85]</sub>・494～496<sub>[92]</sub>・733<sub>[110]</sub>・756<sub>[114]</sub>・775<sub>[125]</sub>・786<sub>[126]</sub>・889<sub>[144]</sub>・1039<sub>[171]</sub>・1076～1078<sub>[174]</sub>・1123<sub>[178]</sub>・1173<sub>[183]</sub>・1217<sub>[188]</sub>・1222・1223<sub>[190]</sub>・1348<sub>[219]</sub>・h12・h33<sub>[18]</sub>)を掲載した。分類・編年がよく整理されており製作時期の違いを細かに把握できる。

14世紀中頃の製品には1点(39)がある。39は口唇部の上下拡張がごく僅かで、内胴には4歯摺目が疎らにつく。SR1<sub>[24]</sub> (15世紀後半)から出土した。

14世紀後半～15世紀前半の製品には6点(40・127・246・386・786・1076)がある。口唇は上方に拡張し尖る。5～8歯の摺目が疎らにつく。40はSR1<sub>[24]</sub> (15世紀後半)、127はSD8<sub>[38]</sub> (15世紀末)、246はSD23<sub>[54]</sub> (15世紀前半)、386はSE12<sub>[82]</sub> (14世紀)、786はSK21<sub>[127]</sub> (近世)、1076はSK139<sub>[173]</sub> (18世紀)出土した。

15世紀後半の製品には3点(128・733・775)がある。口唇は上方に大きく拡張して尖り、下方にも小さく拡張する。口縁内面は屈折する。5歯程度の摺目が確認された。128はSD8<sub>[38]</sub> (15世紀末)、733はSX5<sub>[108]</sub> (16世紀)、775はSK7<sub>[125]</sub> (18世紀)から出土した。

15世紀末の製品には1点(129)がある。口縁は板づくりで外面には2条のナデ凹帯がめぐる。口唇は平坦で内側に弱い稜が立つ。129はSD8<sub>[38]</sub> (15世紀末)から出土した。

16世紀末～17世紀前半の製品には3点(756・1123・h33)がある。口縁は縁帯となり外面に2条の沈線がめぐる。口縁形状には、板状で口唇内側に稜ができるもの(h33)や、断面が三角形に近く内面に沈線(756)や段(1123)を持つものがある。内胴には9～11歯の摺目が密に施され、斜めの摺目が縦の摺目を切る。756はSX9<sub>[113]</sub> (18世紀前半)、1123はSK148<sub>[179]</sub> (17世紀)、h33は包含層から出土した。

17世紀後半の製品には8点(271・284・494～496・889・1077・1223)がある。口縁の断面は三角形に近く外面に凹線2条がめぐる。内面の段差は痕跡的である。内胴には8～14歯の摺目が密に施される。271はSK282<sub>[67]</sub>(15世紀), 284はSE3<sub>[72]</sub>(近世), 494～496はSX1・2<sub>[88]</sub>(17世紀後半), 889はSK58<sub>[142]</sub>(17世紀), 1077はSK139<sub>[173]</sub>(18世紀), 1223はSK162<sub>[189]</sub>(近世)から出土した。

17世紀末～18世紀の製品には6点(364・1078・1173・1217・1222・1348)がある。口縁断面が方形に近づき、2条の凹線は退化する。内胴には8～13歯の摺目が密に施される。貼付の高台がつく。高台には短いもの(1348)と長いもの(364)がある。1348は短い貼付高台がつき外胴と外底に火嚢がある。17世紀末の製品とみられる。364はやや湾曲した長い貼付高台がつき外底には三角形に点の刻印がある。18世紀前半の製品とみられる。364はSE10<sub>[80]</sub>(18世紀), 1078はSK139<sub>[173]</sub>(18世紀), 1173はSK154<sub>[182]</sub>(17世紀), 1217はSK159<sub>[188]</sub>(18世紀), 1222はSK162<sub>[189]</sub>(近世), 1348はSK286<sub>[218]</sub>(17世紀末)から出土した。その他の炆器・播鉢 堺の播鉢は4点(328<sub>[77]</sub>・643・644・645<sub>[102]</sub>)を掲載した。いずれも19世紀の製品である。328はSE5<sub>[75]</sub>(19世紀), 643～645はSX3<sub>[96]</sub>(19世紀後半)から出土した。

明石の播鉢は5点(234<sub>[52]</sub>・646～648<sub>[102]</sub>・h108<sub>[21]</sub>)を掲載した。いずれも19世紀の製品である。234はSD18<sub>[52]</sub>(近世), 646～648はSX3<sub>[96]</sub>(19世紀後半), h108は包含層から出土した。

丹波の播鉢は2点(363<sub>[81]</sub>・497<sub>[92]</sub>)が出土した。いずれも17世紀の製品である。363は色調がオリブ褐色で口縁は縁帯をなし外面に粗い凹線2条がめぐる。口唇は丸い。内胴に8歯摺目を密に施す。SE10<sub>[80]</sub>(18世紀)から出土した。497は胴部片で色調は明褐色である。内胴には8歯摺目が密に施され、外胴には等間隔で斜め方向のナデ凹みがある。SX1<sub>[88]</sub>(17世紀後半)から出土した。

唐津の播鉢は2点(235<sub>[52]</sub>・1079<sub>[174]</sub>)が出土した。いずれも17世紀の製品である。235は胴部片で暗赤褐色の化粧土が掛かる。内胴に7歯摺目が疎らに施される。SD18<sub>[52]</sub>(近世)から出土した。1079は口縁部である。口縁は内折し、口唇はナデにより凹面となり内外に小さく拡張する。内面に褐色の化粧土が掛かる。内胴に5歯摺目が疎らに施される。SK139<sub>[173]</sub>(18世紀)から出土した。

須佐の播鉢は2点(41<sub>[27]</sub>・498<sub>[92]</sub>)が出土した。いずれも17世紀の製品である。41は口縁から胴部の破片である。赤褐色の化粧土が掛かる。二重口縁で外面が匕面となる。外胴下半は回転ケズリが施される。内胴に6歯摺目が施され、斜めの摺目が縦の摺目を切る。SR2<sub>[24]</sub>(15世紀後半)上部近世層から出土した。498は底部片である。赤褐色化粧土が掛かる。碁笥底状である。外胴に回転ケズリが施される。内底の摺目は中心から放射状に施され、斜めの摺目に切られる。SX2<sub>[88]</sub>(17世紀後半)から出土した。

#### ⑭弥生土器

弥生土器は遺跡全体から21点が出土した。器種には甕・高坏があり、弥生時代中期後葉～終末期までのものを含む。出土遺構にはSR2(3点)・SD2(1)・SD13(1)・SE4(1)・SE12(2)・SX5(2)・SK63(1)・SK69(1)・SK192(1)・SK257(1)・G4-P16(1)があり、包含層からも5点が出土した。報告では10点(61<sub>[28]</sub>・111<sub>[35]</sub>・188<sub>[47]</sub>・902<sub>[146]</sub>・1309<sub>[211]</sub>・h1～h5<sub>[18]</sub>)を掲載した。

188・902は弥生時代中期後葉～後期前半の高坏である。口縁が直立する鉢形の坏部をもつ高坏の破片である。口唇は平坦で口縁外面の上端がナデにより凹面となる。h1は円筒状の脚部で外底が小さく凹む。典型的ではないが弥生時代後期の高坏とみられる。188はSD13<sub>[46]</sub>(11～12世紀), 902はSK63<sub>[146]</sub>(中世), h1は包含層から出土した。61・111・1309・h2～h4は弥生終末期の甕形土器でヒビノキⅡ式の範疇に入る。外面に太筋タタキが残る。口縁はナデ仕上げが多い。61はSR2<sub>[24]</sub>(15世紀後半), 111はSD2<sub>[32]</sub>(15世紀前半), 1309はSK257<sub>[210]</sub>(中世), h2～h4は包含層から出土した。

h5 は庄内式土器・甕である。河内産とみられる。全面が水磨により磨滅し細かな調整は確認できない。口縁はくの字に外折し、口唇は小さく摘まみ上げられ尖る。包含層から出土した。

#### ⑮土器碗・坏・坏皿

土器は遺跡全体で18,181点が出土した。時期の指標となる碗・坏・坏皿について記述する。

**11世紀頃の坏・坏皿** 11世紀の坏皿には11点(182・183・199～201<sup>[47]</sup>・927<sup>[150]</sup>・1303～1307<sup>[206]</sup>)他がある。回転篋切(199～201・927)と回転糸切(182・183・1303～1307)の製品がある。回転篋切の坏皿は199・200が器高2.3cm・口径10cm・底径8.3cm程でやや厚手である。201は復元径11.8cmで端反口である。927は器高2.9cm・径10.1cm・底径6.0cmで他より深い。内胴中位と外面裾まわりがナデ調整により凹帯状となる。回転糸切の坏は182・183が器高2cm弱・口径11cm弱・底径7cm強である。内外面が回転ナデ調整される。1303～1307は器高3.1cm・口径11.5cm・5.8cm程で相対的に薄手である。内外面が丁寧にナデ調整され、口縁はわずかに端反口となる。182・183はSD12<sup>[45]</sup>(11～12世紀), 199～201はSD13<sup>[46]</sup>(11～12世紀), 927はSK70<sup>[149]</sup>(古代), 1303～1307はSK240<sup>[206]</sup>(古代)から出土した。

**11～12世紀の碗** 11～12世紀の碗には9点(112<sup>[35]</sup>・177・178・189～193<sup>[47]</sup>・221<sup>[51]</sup>)他多数がある。貼付高台がついた輪高台碗である。口縁は端反口となる。外胴は回転ケズリ後に丁寧なナデ・ミガキが施され、内面は丁寧なナデ・ミガキで仕上げられる。器高6cm弱・口径16cm前後である。灰白色に発色した京都系(177・189・190・192)とこれを模倣した在地産(112・178・191・193・221)がある。

京都系は胎土が精良で器壁が薄くミガキや端部の仕上がりが丁寧である。内外に火襷(177)や筋状の黒斑(189)がみられる。在地産はより厚手で調整や端部の仕上げが粗い。京都系と在地産は混在して出土する。112はSD2<sup>[32]</sup>(15世紀前半), 177・178はSD12<sup>[45]</sup>(11～12世紀), 189～193はSD13<sup>[46]</sup>(11～12世紀)から出土した。

円盤状の底部をもつ平高台の碗に221がある。同様の底部をもつ碗ないし坏が6点(155・156・197・254・255・1408)ある。221は外底が丁寧にナデ調整されるが、類例によれば回転糸切であろう。口縁はわずかに端反口となる。SD17<sup>[50]</sup>(近世)から出土した。

**12世紀後半～13世紀の坏** 12世紀後半～13世紀の坏には5点(62・63<sup>[28]</sup>・215<sup>[49]</sup>・1390・1391<sup>[229]</sup>)他がある。器高4cm前後・口径15cm前後・底径7.0cmほどの低平な器形で、口縁は小さく端反る。胴部はナデ調整で内面はとくに丁寧である。回転糸切である。62は平高台に近い内湾気味の器形である。62・63はSR1・2<sup>[24]</sup>(15世紀後半), 215はSD14<sup>[49]</sup>(近世), 1390・1391はF4-P14<sup>[224]</sup>(13世紀)から出土した。

**14世紀の坏・坏皿** 14世紀の坏・坏皿には3点(263・264<sup>[64]</sup>・393<sup>[85]</sup>)がある。263・264は坏皿で器高3cm・口径12.5cm・底径5cm強, 393は坏で器高4cm・復元径14.6cm・底径7.6cmと前代より小型である。263・264は折縁状で、肥厚気味の口縁は大きく外反する。内外面を静止状態でナデ調整している。回転糸切の外底を丁寧にナデ調整している。393は外反する口縁端部がわずかに端反り、内口唇には沈線がめぐり、外胴には轆轤目が残る。外底には回転糸切痕が残る。263・264は埋葬遺構であるSK234<sup>[63]</sup>(14世紀)の副葬品である。393はSE12<sup>[82]</sup>(14世紀)から出土した。

**15世紀の坏皿** 15世紀の坏皿には11点(66<sup>[28]</sup>・90<sup>[32]</sup>・266～268<sup>[64]</sup>・274～278<sup>[64]</sup>・919<sup>[147]</sup>)他がある。器高3cm弱・口径11cm強・底径5.5cm前後で前代より小型化である。外胴中位にナデによる緩やかな凹帯がめぐり口縁が外湾気味に開く。内底の縁辺はとくに丁寧にナデ調整され環状の凹帯がめぐり、内外面ともナデ調整が丁寧に施される。回転糸切である。267は回転成形後に手持ち調整を行ったもので全面が丁寧にナデ調整される。

66はSR2<sup>[24]</sup>(15世紀後半), 90はSD1<sup>[32]</sup>(近世)から出土した。266~268はSK237<sup>[64]</sup>(15世紀), 274~278はSK282<sup>[67]</sup>(15世紀)から出土した副葬品である。919はSK66<sup>[148]</sup>(中世)から出土した。

**16世紀の坏・坏皿** 16世紀の坏には4点(723~725<sup>[110]</sup>・h18<sup>[18]</sup>)がある。723は器高4.7cm・口径13.6cm・底径6.2cmで前代よりやや大きく, 器形はラッパ状に開く。内外を丁寧なナデ調整で仕上げる。16世紀前半の製品である。724・725は内底に強い轆轤目が残る。h18は底径4.4cmで器形の開きが大きく, 新しい傾向を示す。回転糸切である。723~725はSX4<sup>[108]</sup>(16世紀前半), h18は包含層から出土した。

16世紀とみられる坏皿には5点(260<sup>[61]</sup>・h16・h17・h35・h36<sup>[18]</sup>)がある。260, h16・h17, h35・h36がそれぞれ違った特徴をもつ。埋葬遺構であるSK155<sup>[60]</sup>に副葬された260は色調がにぶい橙色で胎土には微砂粒を含む。器高2.6cm・口径11.7cm・底径7.1cmである。15世紀の坏皿よりも特に底径が大きい。外胴の中位にはナデによる微弱な凹帯ができる。内底は中心付近が凹むが, 周縁のナデは顕著でない。口縁はやや肥厚している。260と共伴した261の小皿は, 胎土が水簸され精良であり, 焼成も良好である。質感が近世の製品に似るが, 内底外縁にナデ調整による環状の凹帯ができる点は15世紀以来の特徴と考えられる。

h16・h17は器高2.4cm・口径11cm・底径5.2cmほどの坏皿である。回転成形・糸切の後に手持ちでナデ調整を行っている。器壁が薄く, 焼成良好である。やや内湾気味に開く器形である。h16・h17は包含層から出土した。

h35・h36は器高2cm弱・口径10.5cm・底径6.6cmほどの坏皿である。ともに回転糸切である。h35はやや内湾気味に開く器形で, 内底の周囲がナデ調整により環状に凹む。h36は外胴の中位にナデによる微弱な凹帯ができ, 内口唇に弱い稜が立つ。内底の周囲がナデにより環状に凹む。焼成良好である。h35・h36は包含層から出土した。

**17世紀の坏皿** 該当資料が多量にある。一括廃棄された近世の土器・坏皿のうち共伴遺物によって17世紀代と分かるのはSK28・SK45・SK175である。SK28・SK175出土品との類似によりSD10・SK11・SK30・SK83・SK102・SK127・SK151から出土した坏皿も17世紀の製品と判断できる。

SK175<sup>[196]</sup>からは同一形態の土器・坏皿が大量に一括廃棄されており報告では37点(1258~1294<sup>[198]</sup>)を掲載した。器高3cm強・口径11cm強・底径6.2cm前後である。色調は橙色で, 胎土はよく水簸されている。器壁は微かに内湾しながら外方に開く。口唇は尖り気味に丸くおさまる。外胴の中位・裾および内底の周縁は丁寧に回転ナデ調整され凹帯状にくぼんでいる。外底には, 回転糸切痕を切る柁目板の痕跡がしばしば残る。

SK28<sup>[129]</sup>ではSK175と同形の資料と共に, より低平な坏皿が出土している(801~803<sup>[130]</sup>)。器高は3cmを下回り, 口径は10.5cm前後・底径5cm前後である。色調はにぶい橙色~灰黄橙色であり, 胎土には微砂粒が混じる。内湾しながら開く器形である。SK175の坏皿に比べて厚手である。

その他, 502・h34のような平高台状の底部をもつ坏皿も17世紀の製品とみられる。器高3cm弱・口径12cm前後である。色調は黄灰色~鈍い橙色で胎土には微砂粒が混じる。502は内底に強い轆轤目が残る。502はSX2<sup>[88]</sup>(17世紀後半)から出土した。

**18世紀以降の坏皿** 18世紀以降は製品自体から年代を把握するのが現状困難である。SE10<sup>[80]</sup>(18世紀)から出土した365は白化粧土の掛かる白塗土器・坏皿である。器高2.9cm, 復元径12.6cmである。内湾しながら立ちあがる器形は17世紀のSK28出土品と似るが, 焼成良好で硬質である。関連する尾戸窯の白色ないし白塗土器・皿は⑱で別途記述する。

18・19世紀の遺構からは土器・坏皿があまり見られないが、径10cmを下回る小皿は一定量が出土している。器高は2cmを下回り、口径は7～9cm程度である。薄手でやや硬質である。内底に轆轤目が残る例が多い。SE4<sub>[73]</sub>(19世紀)・SE5<sub>[75]</sub>(19世紀)・SE7<sub>[77]</sub>(19世紀)・SE10<sub>[80]</sub>(18世紀)・SK139<sub>[173]</sub>(18世紀)に出土例がある。

#### ⑩ 鞆羽口

鞆羽口はスサ入り粘土で筒状に製作された鍛冶道具の1つである。細片が多いが430点が出土した。出土遺構にはSR3土手<sub>[24]</sub>(15世紀後半,1点), SD2<sub>[32]</sub>(15世紀前半,5点), SD18<sub>[52]</sub>(近世,10点), SE7<sub>[77]</sub>(19世紀,13点), SE10<sub>[80]</sub>(18世紀,4点), SK51<sub>[139]</sub>(17世紀,5点), SK108<sub>[160]</sub>(16世紀,12点), SK139<sub>[173]</sub>(18世紀,17点), SK154<sub>[182]</sub>(17世紀,4点)・SK159<sub>[188]</sub>(18世紀,3点), SK285<sub>[217]</sub>(19世紀,3点)がある。15世紀以降に出現したとみられる。また集中的に出土したピットにC4-P2(17点)・C4-P3(10点)・C5-P3(11点)・G7-P10(10点)・H6-P14(49点)・J5-P3(44点)・J5-P8(19点)・K6-P15(14点)がある。C・4～5グリッド, G7・H6グリッド, J5・K6グリッド周辺への集中傾向が窺える。

報告では形態が把握できる2点(351<sub>[79]</sub>・984<sub>[161]</sub>)を掲載した。351は色調が赤褐色で胎土にチャート細粒とスサが混じる。先端には熔着した鉄・炭が付着している。984は色調が橙色で胎土にはスサが塊状に混じる。外面はハケ調整の後、ナデ調整で仕上げられている。先端に熔着した鉄・炭が付着している。351はSE8<sub>[79]</sub>(近世), 984はSK108<sub>[160]</sub>(16世紀)から出土した。

#### ⑪ 銭貨

銭貨は遺跡全体で66点が出土した。報告では57点を掲載した。

南唐銭に、開元通寶(1383<sub>[229]</sub>)がある。北宋銭に、祥符元寶(1384<sub>[229]</sub>)・皇宋通寶(279<sub>[64]</sub>)・至和通寶(82<sub>[28]</sub>)・治平元寶(83<sub>[28]</sub>)・元祐通寶(908<sub>[146]</sub>・1242<sub>[196]</sub>)がある。明銭に、洪武通寶(353<sub>[79]</sub>・1395<sub>[229]</sub>・1401<sub>[229]</sub>・h19<sub>[18]</sub>)・永楽通寶(224<sub>[51]</sub>・1381<sub>[222]</sub>・1402<sub>[229]</sub>・h20<sub>[18]</sub>)がある。模鑄銭に、元祐通寶模鑄銭(h50<sub>[19]</sub>)・祥符通寶模鑄銭(373<sub>[81]</sub>)がある。近世の銭貨に、古寛永通寶(336<sub>[77]</sub>・374<sub>[81]</sub>・1346<sub>[218]</sub>・1404・1405<sub>[229]</sub>・h51～h56<sub>[19]</sub>)・新寛永通寶(292<sub>[72]</sub>・717～719<sub>[107]</sub>・1157<sub>[181]</sub>・1347<sub>[218]</sub>・1382・1403・1406<sub>[229]</sub>・h57～h65<sub>[19]</sub>)・新寛永文銭(h66・h67<sub>[19]</sub>)・寛永通寶鉄四文銭(1105<sub>[175]</sub>)がある。明治時代以降の銭貨に、五銭銅貨(h134<sub>[231]</sub>)・一銭銅貨(h133<sub>[231]</sub>)・□銭銅貨(h136<sub>[231]</sub>)・半銭(h135<sub>[231]</sub>)がある。

#### ⑫ 近世土佐の焼物・土器

近世に尾戸や能茶山で製作された陶磁器・土器について記述する。

能茶山焼 文政3(1820)年に開窯された能茶山窯では染付や陶器が製作された。遺跡からは高台内の銘により能茶山焼と判断できる染付が13点出土した。7点(229<sub>[52]</sub>・580<sub>[99]</sub>・603<sub>[100]</sub>・1247・1248<sub>[196]</sub>・1397<sub>[229]</sub>・h76<sub>[20]</sub>)を掲載した。

229は染付・小坏で外胴に草文が描かれる。「サ□」銘がある。SD18<sub>[52]</sub>(近世)から出土した。580は染付・端反碗である。外胴は窓に松・楼閣山水が描かれる。高台内に「茶」銘がある。603は染付・合子で外胴が梅散し文が描かれる。外底に「能茶山製」銘がある。580・603はSX3<sub>[96]</sub>(19世紀後半)から出土した。1247は染付・筒碗で外面に粗雑な山水文が描かれる。高台内に「茶」銘がある。1248は染付・小碗で見込に草花文が描かれる。1247・1248はSK173<sub>[194]</sub>(19世紀)から出土した。1397は染付・八角鉢で内胴には芭蕉・斜格子・四方襷, 見込には隠れ蓑が描かれる。高台内に「茶山」銘がある。1397はG10-P1<sub>[226]</sub>(19世紀)から出土した。h76は染付・蕎麦猪口で外胴に矢羽根文が描かれる。高台内に「サ」銘がある。包含層から出土した。銘部分の一覧を第170図<sub>[250]</sub>に示した。

その他、能茶山の陶器に342<sup>[79]</sup>・632<sup>[101]</sup>がある。342は陶器・浅碗である。褐釉が掛かる。高台周り露胎で見込は環状に釉を剥いている。外胴に刻線がめぐる。SE7<sup>[77]</sup>(19世紀)から出土した。632は陶器・植木鉢とみられる。白化粧土地に透明釉を掛ける。筒形で口唇は内方に突出する。外胴には呉須で山水文を描く。底部には3箇所焼成前穿孔がある。外底には4字以上の墨書がある。SX3<sup>[96]</sup>(19世紀後半)から出土した。

尾戸焼の白色・白塗土器皿 尾戸窯の製品とみられる土器・皿がある。胎土自体が白色のものを白色土器、白い化粧土をかけたものを白塗土器とした。19世紀を中心に製作されたとみられる。

854・855<sup>[138]</sup>は白色土器・皿である。色調は灰白色～灰黄色で胎土は水簸され精良である。薄手・硬質である。内外面がミガキ調整で仕上げられている。復原径18～21cm、器高は5cm程度とみられる。口唇に煤やタールが付着している。SK50<sup>[138]</sup>(17世紀)から出土した。

SK285<sup>[217]</sup>には同型の白色土器・白塗土器の皿が一括で廃棄されていた。報告では19点(1324～1342<sup>[218]</sup>)を掲載した。同型の製品がSX3<sup>[96]</sup>(660・663<sup>[104]</sup>)・SK139<sup>[173]</sup>(1086・1087<sup>[174]</sup>)・包含層(h111<sup>[21]</sup>)から出土している。尾戸焼の白皿は、器高2cm・口径11cm・底径6.7cm程度で、型作り成形後に外面を回転ケズリで整えている。底部は碁笥底となっている。内面は回転ナデ調整である。内湾しながら短く立ちあがる器形で口唇は丸くおさまる。白色土器・白塗土器は製作技法や形態が共通する。化粧土の掛かっていないものもある(663)。内底には「壽」字(660・1325・1372・h111)、「風」字(663)、鶴・亀(h110)、高砂文様(1086・1087)が陽出されている。

#### ⑨瓦

1,774点が出土した。瓦には古代と近世以降の2種類がある。報告では85点の瓦を掲載した。内訳は9点が古代瓦、76点が近世以降の瓦である。

古代瓦 古代の瓦は遺跡全体で20点が出土した。9点(146・161～163<sup>[43]</sup>・209・210<sup>[47]</sup>・740<sup>[110]</sup>・900<sup>[145]</sup>・985<sup>[161]</sup>)を掲載した。146・162・163・209・210・740は共通した特徴をもつ平瓦である。白色土と鈍橙色土がマーブル状に混ざりあった胎土で色調は浅黄橙～灰白色を帯びる。やや軟質である。凹面には布目、凸面には縄目がつく。厚さは区々であるがおよそ2cm程度である。146はSD8<sup>[38]</sup>(15世紀末)、162・163はSD9<sup>[44]</sup>(16世紀)、209・210はSD13<sup>[46]</sup>(11～12世紀)、740はSX5<sup>[108]</sup>(16世紀)から出土した。

161は凹面に目の細かい布目がつき凸面はケズリにより面取りされている。SD9<sup>[44]</sup>(16世紀)から出土した。985は全面がナデ調整されており凹面には紐圧痕が残る。時期がくだる可能性がある。SK108<sup>[160]</sup>(16世紀)から出土した。

900は軒平瓦とみられる。異色の粘土がマーブル状に混ざった胎土で、色調は鈍い黄橙色を帯びる。軒平文様は陽出された唐草文と珠文であり、文様面はキラ粉を塗したように光る。全面が丁寧ミガキ調整されている。SK59<sup>[144]</sup>(11～12世紀)から出土した。

近世以降の瓦 近世以降の瓦には軒瓦を含む丸瓦・平瓦・鎌瓦・棧瓦があり、他に袖瓦(695<sup>[105]</sup>)・棟瓦(1179<sup>[183]</sup>)・海鼠瓦(519～521<sup>[93]</sup>)も出土している。報告では76点を掲載した。うち30点には製作地を示す刻印がみられる。刻印の一覧をを第170図<sup>[250]</sup>に示した。刻印瓦はいずれも19世紀の製品である。288・289<sup>[72]</sup>はSE3<sup>[72]</sup>(近世)から出土した。335<sup>[77]</sup>はSE5<sup>[75]</sup>(19世紀)から出土した。685・688・693～698・700<sup>[105]</sup>はSX3<sup>[96]</sup>(19世紀後半)から出土した。1345<sup>[218]</sup>はSK285<sup>[217]</sup>(19世紀)から出土した。1357<sup>[220]</sup>はSK287<sup>[219]</sup>(20世紀中頃)から出土した。1393<sup>[229]</sup>はF4-P17<sup>[225]</sup>(近世)から出土した。残りの15点は包含層から出土した。

「□友」(288)は「中友」であれば野市・中山田の製品である。「吸モ」(289・1345・h120～h122)は産地不明である。「□南」(335)は「山南」であれば香我美・山南の製品である。「天□」(685)は産地不明である。「片常」(688・h119)は土佐山田・片地の製品である。「横濱源」(693)は横浜の製品である。「け□上」(694)は産地不明である。「小の□」(695)は産地不明である。「大阪瓦師六□□」(697・h128)は産地不明である。「片勇」(698・1393)は土佐山田・片地の製品である。「手結喜」(699)は香南・夜須手結の製品である。「布直」(700)は布師田の製品である。「久栄」(1357)は産地不明である。「片兼」(h115・h116)は土佐山田・片地の製品である。「木貞安」(h117)は産地不明である。「アキ」(h118・h124)は安芸の製品である。「ヤス」(h123)は香南・夜須の製品である。「クレタ八百」(h125)は南国・久礼田の製品である。「御瓦師」(h126)は安芸の製品である。「あキイ□」(h127)は安芸の製品とみられる。刻印の一覧を第170図<sup>[250]</sup>に示した。

### ②戦争遺物

戦前・戦中の様相を伝える遺物が出土している。統制陶器は1940年から1945年にかけて管理生産された陶磁器である。12点が出土した。報告では6点(1350・1351・1352・1354<sup>[220]</sup>・h137・h138<sup>[231]</sup>)を掲載した。1350は磁器・碗で外胴に楓樹が描かれる。外底に「岐406」銘がある。1351は磁器・輪花鉢で内面に薔薇が描かれる。外底に「岐1038」銘がある。1352は磁器・猪口である。外底に「岐682」銘がある。h137は磁器・杯である。外底に「岐449」がある。h138は磁器・筒形容器である。外底に「8G」銘がある。1354は陶器・煙管で両面に「火の用心」「一億一心」銘と「岐252」銘が陽出されている。型づくりの製品であり同型品が製作・流通していたと考えられる。1350～1352・1354はSK287<sup>[219]</sup>(20世紀中頃)、h137・h138は包含層から出土した。銘部分の一覧を第170図<sup>[250]</sup>に示した。

h140は「昭和二年十二月」「二号/陸軍用地」と刻まれたコンクリート碑である。大正2(1913)年の地図では遺跡地に「聯隊区司令部」があり昭和12(1937)年の地図までは所在が確認できる。

### ①文字資料

文字資料には木札、陶器等への墨書、焼塩壺や陶器への刻印、染付の銘などがある(第170図)。

木札 木札には6例(346<sup>[79]</sup>・702～706<sup>[106]</sup>)がある。346には「山内」墨書がある。SE7<sup>[77]</sup>(19世紀)から出土した。702には板の4面に「禁他用」「明治十五年十月新調」「銅炉□」「(朱印)功能ハ諸巾石簿/□□□□□□/□□□□□□用テヨシ」墨書がある。703には「第□拾カ□番/[神宮教会\*朱]/神風講社」墨書がある。704には「神風講社」墨書がある。705には「金壺圓也沖金」墨書がある。706には「金□□ □□□平」「二千八万□□□□三□」墨書がある。702～706はSX3<sup>[96]</sup>(19世紀後半)から出土した。h132には頂部山形の板に「一□成就/奉□請□社□神社守護/□□遠離」「天保十歳□□□□□□□□□□/長□丹後」墨書がある。h132は包含層から出土した。

陶器・土器への墨書 墨書のある陶器・土器には5例(231<sup>[52]</sup>・632<sup>[101]</sup>・1091<sup>[174]</sup>・h29<sup>[18]</sup>・h105<sup>[21]</sup>)がある。231がSD18<sup>[52]</sup>(近世)、632がSX3<sup>[96]</sup>(19世紀後半)、1091がSK139<sup>[173]</sup>(18世紀)、h29・h105が包含層から出土した。現状で文字は判読できていない。

焼塩壺 510・512<sup>[93]</sup>は17世紀後半の製品で「天下堺ミなど藤左衛門」刻印がある。SX1<sup>[88]</sup>(17世紀後半)から出土した。h39<sup>[18]</sup>は「□焼塩」刻印がある。包含層から出土した。

陶器の高台内刻印 474・475<sup>[91]</sup>は肥前京焼風陶器・碗で「寶」「清水」刻印がある。17世紀後半の製品である。SX1・2<sup>[88]</sup>(17世紀後半)から出土した。h82<sup>[20]</sup>は銅版転写の染付・皿で「大日本都築製」銘がある。19世紀後半～20世紀前半の製品である。包含層から出土した。h97<sup>[21]</sup>は常滑のインキ瓶である。「M」「MARUZENINK」刻印がある。20世紀の製品である。包含層から出土した。



第170図 刻印・銘一覧

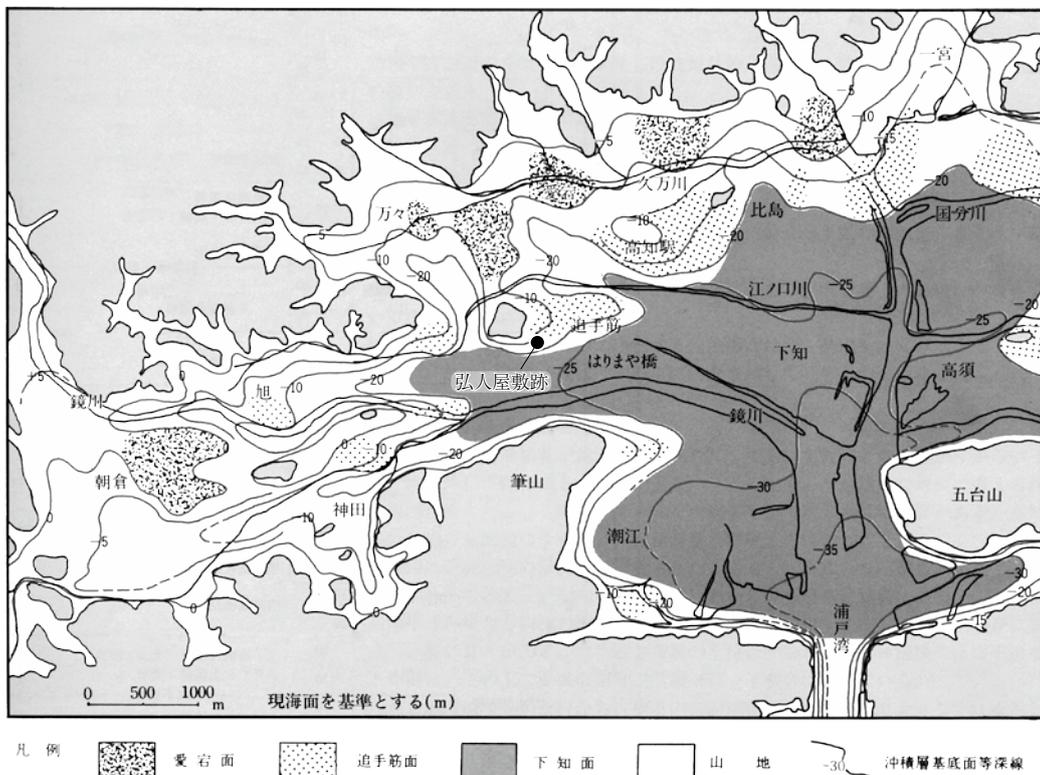
## 第Ⅲ章 弘人屋敷跡の位置づけ

### 第1節 遺構の変遷(第172図<sup>[252]</sup>)

第Ⅱ章で報告した内容を時系列に沿って整理し、弘人屋敷跡の発掘調査によって明らかとなった土地の歴史を再構成する。以下、①陸地の形成、②10～12世紀の遺構、③13～14世紀の遺構、④15～16世紀の遺構、⑤中世の埋葬遺構、⑥近世の遺構、⑦19世紀後半～20世紀の遺構、について述べる。

①陸地の形成 高知平野は東西に長い構造地形が顕著な地溝状盆地であり、また臨海沖積平野でもある。洪積世(氷河期)の頃、弘人屋敷跡が位置する大高坂山(高知城)の東側一帯は鏡川に運ばれた礫層により段丘状の地形が形成されていた。この大高坂山から東にのびる突堤状の段丘面が「追手筋面」(第171図)であり、後の沖積層の基底層となる。弘人屋敷跡はこの突堤状地形の南縁辺に位置しており、遺跡の微地形が南に向かって下がる要因となっている。

遺跡地の堆積は最下層が礫層(Ⅳ層)で、その後、砂礫層(Ⅲe層)から砂質シルト層(Ⅲd層・Ⅲc層)へと移り変わる(第Ⅱ章第1節(1)<sup>[9]</sup>)。この堆積の変化には河川の影響が弱まる過程が表われており、土壌化した遺跡地が次第に人が住める環境に変わっていったことを示す。河川の影響が弱まる過程はSR4<sup>[30]</sup>とSX6<sup>[111]</sup>の関係からも窺える。SR4とSX6は流路であり北側のSR4と南側のSX6の間には13mの距離がある。SR4はⅢe層を開析して流れⅢe層のなかで埋没する。SX6はⅢe層を開析し埋没後はⅢd層に覆われる。すなわちⅢe層からⅢd層にかけての時期に流路は南に位置を変えるのであり、堆積の推移と軌を一にした地理的環境の変化が窺える。

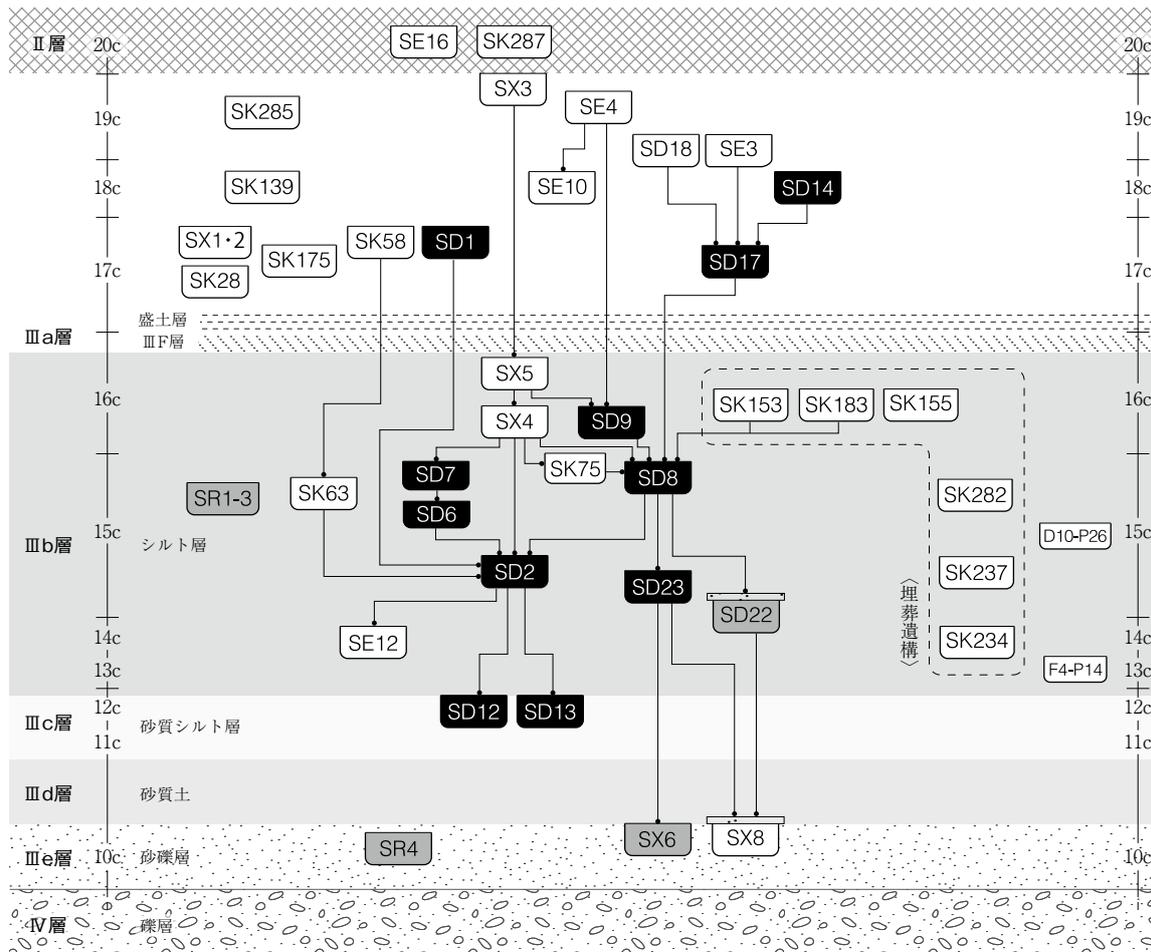


第171図 追手筋面と周辺の地形(高知地盤図編集委員会 1992を改変)

また遺跡の南西区域では自然堤防を乗り越えるような堆積が繰り返されており(Pl.11 ②<sub>[357]</sub>), かつ南西縁には地形(Ⅲa・b層)の高まりがあった。遺跡と鏡川の間には複数の自然堤防が埋没している可能性があり, SR1・2・3の箇所はかつて筋状の窪地(谷地形)であったとも考えられる。流路の時期は10世紀後半～11世紀であり, その後11～12世紀になって安定した土壌であるⅢc層が形成される。

② 10～12世紀の遺構 遺跡で最も古い遺構はSX8<sub>[112]</sub>である。大振りなボウル形の土坑で, 遺跡の北端に位置し流路と同じ時期の10世紀後半～11世紀に構築・廃絶された。Ⅲe層を掘削し, 流水環境で埋没したあと砂礫層に覆われ, その上部にⅢb層が堆積する。堆積の様相はSX6と似ており時期も近い。SX8は, Hライン付近までが河川の影響を受けていた当時, 遺跡の北縁が既に人の活動域に入っていたことを示す。SX8からはウマの臼歯も出土しており暮らしの一端が垣間見える。

その後, 11世紀後半～12世紀には安定した砂質シルト層であるⅢc層が堆積し, SX6より北側の区域が居住適地が変わる。このとき掘削された2条の区画溝(SD12・SD13)を皮切りに遺跡地における本格的な人間活動が始まる。SD12<sub>[45]</sub>・SD13<sub>[46]</sub>はSX6が位置した遺跡東縁のHライン付近から南西方向に真っ直ぐ伸び, 土地を北西側と南東側に区画する。SD12とSD13は間に4mの距離を置いて併走する。2条の溝は断面が隅丸台形, 幅約160cm, 深さ約50cmで規模・形態には顕著な違いがない。



\*線は重複関係を示す。\*\*上がより新しい。\*\*\*白抜き文字遺構は区画溝。\*\*\*\*グレー地遺構は水路・流路。

第172図 遺構変遷模式図

出土遺物にも大きな違いはなく、むしろ同時期と判断される。同時に開放され機能していた可能性が高いといえる。また古代に時期比定したピットは遺跡の北東隅に集中するが、ピットの並ぶ方向はSD12・SD13の方向に対応しており(第166図<sup>[231]</sup>)、区画溝の長軸方向は当時の土地利用の基準線を示すとみられる。その他、同時期の遺構にはSK39<sup>[134]</sup>・SK59<sup>[144]</sup>・SK80<sup>[152]</sup>などがある。また、この時期の特筆すべき遺物に瓦がある。瓦は平瓦が多く凹面に布目痕、凸面に縄目痕が残る。SK59からは軒平瓦とみられる破片(900<sup>[145]</sup>)も出土している。当時、瓦を葺く建物はごく限られた特別なものであり、寺院などの存在が想定される。

③13～14世紀の遺構 13～14世紀は遺構が少ない。わずかにSE12・F4-P14・SK234が該当時期の遺構と判断できる。F4-P14<sup>[224]</sup>は特別な配慮をもって埋められたピットであり、地鎮坑と考えられる。F4-P14は遺跡の北西区域に位置する、径27cm・深さ28cmの円筒形ピットで、底から順に土器坏・石塊・土器坏・石塊・瓦器碗が置かれ埋められた。埋められた土器や瓦器は13世紀の製品である。

SE12<sup>[82]</sup>は14世紀の井戸である。遺跡における位置は、時期は異なるがSD12(11～12世紀)やSD2(15世紀前半)に区画された境界の内側にあたる。区画溝は地形の転換点に該当するのでSE12を居住域の縁辺にあった井戸と考えることもできる。

SK234<sup>[63]</sup>は埋葬遺構である。円形木棺(桶棺)を用いた坐葬であり、副葬品により14世紀の埋葬と分かる。遺跡の北西隅にあり、近接した箇所では15世紀の埋葬(SK237・SK282)が続けて行われた。

④15～16世紀の遺構 15世紀代は遺構が多く、特に人間活動が活発であった。構築と廃絶を繰り返した区画溝からは土地利用の変遷を読み取ることができる。

15世紀以降の区画溝でもっとも古いのは、15世紀前半のSD2・SD23である。SD2<sup>[32]</sup>は遺跡の中央付近を東西一直線に貫いている。東壁の土層断面(第6図③<sup>[10]</sup>・P1.9<sup>[355]</sup>)によれば、SD2は地形が低くなる転換部分に掘削された。追手筋に平行するSD2の軸方向は現代の区画の起源が15世紀に遡る可能性を強く示唆する。SD23<sup>[54]</sup>はその後繰り返し南北溝が設置される箇所でも最初に掘削された区画溝であるが、SD8やSD9と比較すると長軸方向が西に7度振れている。SD23は南端がSX6付近で立ちあがっており、SD2までの間に11m程の空間がある。SD2とSD23はある時点で同時に開放されていたとみられ、両者の間の空間は東西に行き来ができる箇所となろう。

SD2埋没後の15世紀後半にはSD23の西側に幅の狭い南北溝であるSD6<sup>[37]</sup>・SD7<sup>[37]</sup>が順に掘削された。SD23が埋没した位置にはSD8<sup>[38]</sup>が掘削される。SD8は後の<sup>のち</sup>高知城東堀とも合致するような位置・軸方向をもつ区画溝であり、SD2埋没後の中心的な境界施設となる。SD2を引き継ぐ東西溝は掘削されない。該当位置にはSK63<sup>[146]</sup>のような大型の土坑が掘削されるのみである。SD8の段階は東西の区分がより強調された時期といえる。

同じ頃、遺跡の南区域には水路(SR1・2・3)が築かれた。SR1・2・3<sup>[24]</sup>は水路の2箇所には深い部分があり、引いてきた水を滞水させながら流す構造となっている。深まる部分には木の杭を芯材として粘土の土手を構築し護岸としている。水路の構築時期は土手の中に含まれていた青磁や、出土したウマの骨で測定した放射性炭素年代により15世紀後半と判断できる。

15世紀末に埋没したSD8に続く遺構のうちⅢF層や盛土層に覆われるものは16世紀の遺構である。SD8の埋没箇所には新たな区画溝としてSD9が掘削される。SD9<sup>[44]</sup>はGライン付近からSD8の東縁に沿うように南に延び、SD8とSD2が切り合う箇所で東に折れ、SD2の北縁に沿うように東に延びる。SD9はかつて主要な境界施設として機能したSD2・SD8の位置と軸方向を継承する区画溝である。

SD9は北東側区域の南西隅を画する溝であるが、その北側延長ははっきりしない。SD9の北端はFグリッドでSE4に切られて断絶し北側への延長が確認できない。東側へ折れた可能性もあるがSE10により確認できない。いずれにせよSD9の段階になるとGラインより北側の区域は東西に分割されない1つの空間となる。SD8埋没後の、SD9が区画施設として機能していた16世紀代には北側区域に墓域が形成された。

SD8埋没後の南側にはSK75<sup>[151]</sup>の時期を挟んで大型土坑であるSX4<sup>[108]</sup>が掘削される。SX4が埋没すると、さらに同類の大型土坑であるSX5<sup>[108]</sup>が掘削される。SD2が埋没した後の南境界一帯は大型土坑が繰り返し掘削される区域となる。

15世紀以来の区画溝とこれに関連する遺構の最後段階にあたるのは南境界の大型土坑の1つであるSX5である。SX5に先行するSX4は16世紀前半に埋没しており、SX5はこれに続く時期となるが出土遺物が乏しく時期をしばり込むことができない。しかし、これらの区画溝および大型土坑群は遺跡全体にひろがるⅢF層<sup>[9]</sup>に覆われており、ⅢF層の時期はSR1・2・3<sup>[24]</sup>の堆積から知ることができる。ⅢF層はSR1・2・3が15世紀に埋没した後、その上部に堆積する。ⅢF層に含まれる遺物は16世紀代の製品で、さらに時期が限定できるものには16世紀末の天目茶碗(34<sup>[27]</sup>)がある。不明瞭な部分もあるが15世紀以来活発化した活動は16世紀前半で勢いが衰え、16世紀末の洪水をひとつの契機として断絶する。これに続くのが近世の屋敷である。

⑤中世の埋葬遺構 土地区画が目まぐるしく変化するなかで埋葬行為も併行して行われた。6基の埋葬遺構は大きく西側の3基と東側の3基に分かれる。西側では前述のように14世紀のSK234から埋葬が始まっており、SK237・SK282がこれに続いた。これら3基は3m範囲に営まれた14～15世紀の墓葬でありSK234、SK237、SK282の順に埋葬された。SK237<sup>[64]</sup>は15世紀前半の埋葬でおよそSD2の段階にあたる。円形木棺(桶棺)を用いた坐葬である。SK282<sup>[67]</sup>は15世紀後半の埋葬でSR1・2・3やSD8の時期に対応する。横倒しにした円形木棺を用いた屈葬である。壮年から熟年の人物が埋葬されていた。銭貨1枚・土器坏皿5枚・木器が副葬された。

東側の埋葬はSD8が埋没した後の16世紀に行われた。SD9の時期に対応する。SK153とSK183は2mの距離をおいて隣接する2基で、SK155は南に12m離れた同時期の埋葬である。SK153<sup>[56]</sup>は備前大甕を用いた甕棺墓で成人女性が埋葬されていた。SK183<sup>[62]</sup>は横倒しの円形木棺(木桶)を用いた屈葬である。壮年前半とみられる人物が埋葬されていた。やや南に離れたSK155<sup>[60]</sup>は円形木棺(木桶)を用いた坐葬である。壮年の女性とみられる人物が埋葬されていた。棺下に大小の土器皿各1点と木製品が副葬された。

⑥近世の遺構 『描かれた高知市』(高知市史編さん委員会編 2012)によれば、江戸時代の遺跡地には「侍屋敷」(寛永四年)<sup>1627</sup>、「野々村大学」(寛永五年～万治二年)<sup>1628</sup>、「野々長左衛門」(寛文九年)<sup>1659</sup>、「生駒木ユ」(元禄十一年)<sup>1698</sup>、「山内監物」(天明四年)<sup>1784</sup>、「山内下総」(弘化年間)<sup>1844-1848</sup>、「本姓酒井深尾出羽重昌女婿」(幕末)等の名前が記されている。所有者が小刻みに変わっており、屋敷地の構成にも何らかの変化があったと考えられるが、これを示す資料を得られていない。

近世の遺構は盛土<sup>[9]</sup>による整地を施した上に構築された。区画の用をなす溝にはSD1・SD14・SD17がある。SD1<sup>[32]</sup>は屋敷地の西側を区切る溝であるが、直線的でなく境界を区画する意識が乏しい。正確な時期は不明である。SD17<sup>[50]</sup>はSD8の埋没箇所掘削された溝であるが、蛇行しておりやはり区画の意識に欠ける。SD14<sup>[49]</sup>はSD17の埋没後に掘削された屋敷の北境界を画する溝であろう。

SD17に後続するためやや新しいが正確な時期は不明である。SD17の埋没後に構築された遺構には、集水槽(SE3<sup>[72]</sup>)とこれに連結された導水管(SD18<sup>[52]</sup>)もある。SE3はSD18により西側の井戸(SE8)に繋がっている。遺物には混入があり正確な時期は不明であるが18～19世紀の時期幅の中に収まるであろう。

井戸は近接した箇所に繰り返し掘削される例が多くSE6→SE5<sup>[75]</sup>, SE8<sup>[79]</sup>→SE7<sup>[77]</sup>, SE10<sup>[80]</sup>→SE4<sup>[73]</sup>などの重複関係がある。新しい井戸はいずれも19世紀に廃絶されている。先行する井戸で時期が分かるのは18世紀に廃絶されたSE10のみである。井戸には食物残渣の廃棄が多く、食生活や食習慣を考える資料を提供する(付編2<sup>[275]</sup>)。中世と比較したときウマやウシが欠ける点に大きな特徴がある。

その他、近世の遺構のうち特徴的なものには下記がある。

SK28<sup>[129]</sup>は廃棄坑であり、炭化物とともに17世紀前半の製品が一括廃棄されていた。絵唐津をはじめ唐津の陶器、備前の炆器・鉢、土器・坏皿が出土した(第88図<sup>[130]</sup>)。SK175<sup>[196]</sup>は大量の土器・坏皿が一括廃棄された土坑である。青花片を含む17世紀の一括廃棄遺物である。SX1・2はマツなどを用いた粗朶による整地遺構で南区域の低地部に構築された。漆器・木製品を含む17世紀代の製品を大量に含んでいる。17世紀後半の<sup>ひととき</sup>一時に構築された遺構で生活道具の構成をよく示している。SK129<sup>[166]</sup>・SK139<sup>[173]</sup>・SK159<sup>[188]</sup>は廃棄土坑で18世紀の製品を中心とする多量の遺物が出土した。SK285<sup>[217]</sup>も廃棄土坑で19世紀の製品が出土した。大量に一括廃棄された尾戸焼の白色土器・皿はSK175等と比較してみると生活道具の変化がよく現れている。

⑦19世紀後半～20世紀の遺構 『描かれた高知市』(高知市史編さん委員会編 2012)によれば、明治時代以降の遺跡地は「郡役所・大神宮」(明治二十六年),「聯隊区司令部・土佐郡役所・神宮奉齋会」(大正二年),「聯隊区司令部・消防中隊・高知警察署・大神宮・稻荷神社」(昭和十年),「消防本部・高知市警・神宮光彩会」(昭和二十九年),「財務部・高知市警・消防署・神宮光彩会」(昭和三十三年)と変遷する。

出土資料には明治15(1882)年、昭和2(1927)年、1940～45年の年代をもつ資料がある。

SX3<sup>[96]</sup>は池とみられる遺構である。出土遺物には墨書のある木札が複数あり、その中に「明治十五年十月新調」墨書があり1882年の年代が得られる(702<sup>[106]</sup>)。また別の木札には「神宮教会／神風講社」墨書(703・704<sup>[106]</sup>)があるが、これは明治12(1879)年に高知に設けられた神宮教会に関わるものである。神風講社は伊勢講を引き継ぐもので神道の普及活動のため明治6(1873)年に組織された。これらによりSX3が高知大神宮に関わる遺構であると分かる。大正2(1913)年の「高知開市大博覧会紀年全図」によればSX3は大神宮の庭の位置にあたるようである。SX3は19世紀後半のある時点における大神宮と関連した遺構であるといつてよい。また出土遺物には明治5(1872)年から明治20(1887)年のごく短い期間に操業した鹿兒窯(高知市大津)の製品があり時期が整合する。SX3から出土した大量の遺物はそうした脈絡に位置づけられる生活道具類である。

大正2(1913)年以降の地図には聯隊司令部の存在が記されるが、これと関連した資料に「昭和二年十二月／二号 陸軍用地」と刻まれたコンクリート碑(h140<sup>[231]</sup>)がある。

高知市は1945年にたび重なる空襲を受けたが、基本層序Ⅱ層<sup>[9]</sup>の上面には空襲に関連するとみられる焼土層が堆積している。また不要となった生活用品を焼土や瓦礫とともに廃棄した、所謂「戦災処理遺構」も見つかっておりSK287がこれにあたる。SK287<sup>[219]</sup>には1940～45年に生産された統制陶器(1350～1352<sup>[220]</sup>)や「一億一心」銘がある煙管(1354<sup>[220]</sup>)などがあり戦時中の雰囲気をよく伝えてくれる。また練炭オコシ(1355<sup>[220]</sup>)や硝子瓶(1358<sup>[220]</sup>)など戦時中の生活の様子を窺わせる遺物も出土している。

## 第2節 土佐史のなかの弘人屋敷跡

第1節に記した弘人屋敷跡における土地利用の変遷を、周辺遺跡と関連づけながらより大きな脈絡のなかで捉え直してみる。

①陸地の形成 弘人屋敷跡では11世紀頃に河川の影響が弱まり陸地化が進むが、それ以前の弥生時代・古墳時代・古代(律令期)の遺物が礫層(基本層序IV層<sup>[9]</sup>)等から出土している。周辺の弥生遺跡は北部丘陵(かろーと口・北秦泉寺)や鏡川南岸(柳田・鴨田)にあるが弘人屋敷跡の周辺では収拾遺物があるのみで集落は見つかっていない(第3図<sup>[4]</sup>)。古墳時代では3~4世紀の遺構・遺物が北曲輪地区(第4図1-d<sup>[5]</sup>)や伝下屋敷跡(第4図73)で見つかっている。弘人屋敷跡からは弥生時代終末期の土器や搬入品である庄内式土器が出土しており、或いは弥生時代終末期頃から大高坂山の山麓に人が住み始めたのかも知れない。その場合でも継続性はなく、古墳時代後期(6~7世紀初)の古墳群(愛宕山古墳群など)が北部丘陵に築かれているが(第3図)、弘人屋敷跡の周辺では古墳も集落も見つかっていない。

②10~12世紀 10世紀に成立した百科辞書である『和名類聚抄』には土佐郡の五郷に土佐・高坂・鴨部・朝倉・神戸が挙げられている。大高坂山一帯は高坂郷に関わると考えられるが詳細は不明である。大高坂山北麓の北曲輪地区(第4図1-d)では9~10世紀の遺構・遺物が見つかっており、弘人屋敷跡最古の遺構(SX8<sup>[112]</sup>)よりさらに古い。弘人屋敷跡と北曲輪地区の基本層序はよく似ているが、大高坂山の北麓は相対的に河川の影響を受けにくい地勢であり、より古い時期から人の居住が始まっている。

白鳳期の寺院には北部丘陵の秦泉寺廃寺があるが、弘人屋敷跡に平安期の寺院が存在したかを探る手掛かりはない。区画溝が穿たれた11~12世紀には周辺に同時期の遺跡が確認されていない。

③13~14世紀 弘人屋敷跡では遺構が希薄な時期である。南北朝時代を含む時期であるが、南朝方について敗死(1340年)した大高坂松王丸の居城は大高坂山の城である。大高坂山の伝御台所屋敷跡(第4図1-c)では13~14世紀の遺構・遺物が見つかっている。弘人屋敷跡の西隣にある丸ノ内緑地(第4図1-b)では13世紀の東播系須恵器が出土している。大高坂山北麓の北曲輪地区(第4図1-d)には12~13世紀の遺構・遺物があり、西南山麓の西弘小路(第4図76-b)では13~14世紀の遺物を含む流路が見つかっている。弘人屋敷跡にはこの時期の地鎮坑や井戸があり、大高坂氏の勢力と関係した居住地が大高坂山山麓一帯に拡がっていたと考えられる。鏡川を南に越えた神田ムク入道遺跡(第3図28)は12~14世紀の荘園(神田庄)経営に関わる遺跡である(浜田他 2012)。

④15~16世紀 弘人屋敷跡には15世紀から16世紀前半にかけての活発な活動痕跡が残っている。周辺の遺跡からも同時期の遺構が少なからず見つかっている。

西隣の丸ノ内緑地(第4図1-b)からは青磁を始めとする15世紀の遺物が出土した。大高坂山上の伝御台所屋敷跡(第4図1-c)では15~16世紀の遺構・遺物が発見された。三ノ丸石垣(第4図1-e)では15~16世紀の遺物が出土した。北曲輪地区(第4図1-d)では16世紀の溝が検出された。伝下屋敷跡(第4図73)にも中世の溝があり、また西弘小路(第4図76-b)では15世紀の流路(水路)が発見された。北曲輪地区で発見された16世紀の溝は大高坂山北麓の地形を考慮した配置であり、弘人屋敷跡のSD2<sup>[32]</sup>やSD8<sup>[38]</sup>の軸とは合わない。西弘小路(第4図76-b)で発見された流路(SR1)は時期や位置が弘人屋敷跡のSR1・2・3に対応する。丸ノ内緑地では弘人屋敷跡のⅢ層に対応する土層が未調査のまま良好に遺存しておりSR1・2・3の延長部分が残っている可能性は高い。仮に、西弘小路と弘人屋敷跡の水路が繋がるのであれば、少なくとも大高坂山南麓は共通意思を持って開発されていたことになり、中間を埋める遺構の発見が期待される。

長宗我部元親は天正十六年(1588)に岡豊城から大高坂城に居城を移す。これに対応する天正期(1573～1592年)に築造された石垣が三ノ丸石垣(第4図1-e<sub>[5]</sub>)で確認されている。元親はその後、天正十九年(1591)に浦戸城へ移るが、その要因にしばしば治水の不首尾が挙げられる。弘人屋敷跡の広い範囲を覆うⅢF層は洪水層であり、時期は16世紀末と考えられるが、両者が結びつく事象であるかは不明である。『長宗我部地検帳』(天正十六年)との対応関係も十分に調査が出来ていない。

⑤中世の埋葬 弘人屋敷跡では14～16世紀にかけての埋葬遺構があり墓域が形成された。14世紀に円形木棺の坐葬が出現し、15世紀に横置した円形木棺の屈葬が加わり、16世紀にはさらに備前大甕を用いた甕棺墓が加わった。近畿の例(西口2009)によれば座棺土葬の埋葬は14世紀後半に登場するので、SK234<sub>[63]</sub>は坐葬の初現例となろう。横置した円形木棺には愛媛県松山市南江戸桑田遺跡(梅木他2005)の例があるがこれらは近世墓であり、SK282<sub>[67]</sub>・SK183<sub>[62]</sub>の墓制についての相対的な位置づけは不明瞭である。備前の大甕を用いた埋葬は田村遺跡(南国市)に類例がある。田村遺跡Loc.39BのSK18(『田村遺跡群』第9分冊:295頁)であり、備前大甕から人骨片と櫛が出土した。弘人屋敷跡SK153<sub>[66]</sub>の被葬者は成人女性と推定されており、櫛が副葬された田村遺跡Loc.39B・SK18もまた女性の埋葬であろう。田村遺跡の中世墓は火葬墓と土坑墓を中心とする屋敷墓であり、全体としては弘人屋敷跡と葬制が異なる(中世墓資料集成研究会編2004)。仁淀川流域では土佐市光永・岡ノ下遺跡、天神遺跡、野田遺跡などで中世墓が見つかる(中世墓資料集成研究会編2004)。これらは12～14世紀の土坑墓で弘人屋敷跡に先行する時期の埋葬である。

⑥近世 山内一豊は慶長六年(1601)に浦戸城に入城し、大高坂山での築城に着手した。慶長八年(1603)に本丸と二ノ丸石垣が完成し、慶長十六年(1611)には三ノ丸が完成した。元禄十一年(1698)の大火・享保十二年(1727)の大火は大きな被害をもたらし、享保の大火では追手門ほか数棟を除き高知城が焼失した。その他の自然災害に宝永四年(1707)の大地震・安政二年(1855)の大地震がある。弘人屋敷跡には近世の火災跡を示す痕跡は残っておらず、屋敷の構成が変化したかどうか不明確であるが、17世紀・18世紀・19世紀のそれぞれの時期相を示す遺物は確認できる。周辺の西堀地区(第4図1-a)・丸ノ内緑地(第4図1-b)・伝御台所屋敷跡(第4図1-c)・北曲輪地区(第4図1-d)・三ノ丸石垣(第4図1-e)・尾戸窯跡(第4図42)・伝下屋敷跡(第4図73)・西弘小路(第4図76)は近世を中心とする遺跡である。それぞれ文献記録や古地図から遺構との対応関係が検討されている。西弘小路(第4図76-a)は弘人屋敷跡と同様、各時期の遺物相が把握でき相互に良好な比較資料となる。

⑦近現代 明治四年(1871)の廃藩置県により高知城は廃城となり武家地も接収となる。弘人屋敷跡はその後公有地として活用されていく。近代以降の調査はまだ取り組みが十分でないが、弘人屋敷跡からは特に19世紀後半の良好な資料が得られた(SX3)。高知の近代化は今後一層重要性を増す主題であり、その取り組みに発掘調査が果たす役割は大きい。高知の近代化の一例に窯業があるが、高知市大津で1872～87年に操業された鹿兒窯がこれにあたる(高知市教育委員会1981)。弘人屋敷跡ではSX3<sub>[96]</sub>から土瓶蓋が出土し、伝御台所屋敷跡からは色絵皿(伝御台所屋敷跡報告書第24図179)が出土している。今後さらに高知近代窯業の具体的な姿が明らかとなるであろう。

高知市内の遺跡では表土層(現代層)の最下部にしばしば焼土層が発見される。これは戦時中の空襲の痕跡であり、遺跡からは後片付けのための廃棄坑が発見される。いわゆる戦災処理遺構であり、弘人屋敷跡では戦時中に管理生産された統制陶器などの遺物が出土した。近年、掩体壕など戦争遺跡の整備が進められているが、遺跡で確認される戦争の爪痕もまた重要な資料のひとつとなる。

## 参考・引用文献

- 梅木謙一・栗田茂敏・宮内慎一・大西朋子 2005『宮前川流域の遺跡：南江戸桑田・大峰ヶ台6次・8次・北齋院』松山市文化財調査報告書102, 松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 小野正敏 1982「15, 16世紀の染付碗, 皿の分類とその時代」『貿易陶磁研究』第2号, 71～93頁, 日本貿易陶磁研究会
- 甲藤次郎 1969『高知県の地質』, 高知市民図書館
- 甲藤次郎・西和彦・平朝彦・岡村真・中野尊正 1983「高知平野地下の第四系ならびに地質災害について」『高知大学学術研究報告』第32号, 111～155頁, 高知大学
- 北野隆亮 2013「和歌山平野における円錐形鉛インゴットと鉛製鉄砲玉」『紀伊考古学研究』第16号, 83～98頁, 紀伊考古学研究會
- 九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』, 九州近世陶磁学会
- 高知県教育委員会 1986『田村遺跡群第6分冊』, 高知県教育委員会 (Loc.1・6・7)
- 高知県教育委員会 1986『田村遺跡群第7分冊』, 高知県教育委員会 (Loc.14)
- 高知県教育委員会 1986『田村遺跡群第8分冊』, 高知県教育委員会 (Loc.23・31)
- 高知県教育委員会 1986『田村遺跡群第9分冊』, 高知県教育委員会 (Loc.36B・39B)
- 高知県教育委員会 1986『田村遺跡群第10分冊』, 高知県教育委員会 (中～近世小結)
- 高知市教育委員会 1981『鹿兒焼窯跡』高知市文化財調査報告第3集
- 高知市史編さん委員会 絵図地区部会編 2012『描かれた高知市：高知市史 絵図地区編』, 高知市
- 高知地盤図編集委員会 1992『高知地盤図』, 社団法人高知県建築設計監理協会
- 佐伯昌俊 2010「近世須佐焼に関する一考察」『山口考古』第30号, 65～82頁, 山口考古学会
- 佐伯昌俊・西尾克己 2012「須佐焼に見る近世地方窯の一樣相」『山口考古』第32号, 25～40頁, 山口考古学会
- 重根弘和 2003「中世備前焼に関する考察」『山口大学考古学論集：近藤喬一先生退官記念論文集』, 309～320頁, 同論文集記念事業會
- 中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』, 真陽社
- 中世墓資料集成研究会編 2004『中世墓資料集成：四国編』, 中世墓資料集成研究会
- 西口圭介 2009「近畿の中世墓」『日本の中世墓』, 3～22頁, 高志書院
- 浜田恵子・梶原瑞司編 2012『神田ムク入道遺跡』高知市文化財調査報告書第36集
- 廣田佳久・伊藤強・田中涼子 2000『光永・岡ノ下遺跡』高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第55集
- 廣田佳久・伊藤強・田中涼子 2001『天神遺跡Ⅱ』高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第60集
- 廣田佳久・岩本繁樹 2002『野田遺跡Ⅰ』高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第73集
- 森田勉・横田賢次郎 1978「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究成果』4, 1～26頁, 九州歴史資料館
- 海邊博史 2009「四国の中世墓」『日本の中世墓』, 79～98頁, 高志書院

## 付編1 弘人屋敷跡の自然科学分析

田中義文・伊藤良永・高橋敦・辻康男・金井慎司  
(パリノ・サーヴェイ株式会社)

### はじめに

本報告では、平成23年度の弘人屋敷跡発掘調査に伴い採取された堆積物サンプル、木材、動物遺存体に関する、花粉分析、珪藻分析、放射性炭素年代測定(AMS法)、骨同定に関する自然科学分析結果を述べる。

### 1. 試料

分析試料の一覧を表1に示す。年代測定用試料は、SR1出土杭、SX1出土粗朶、SX2出土粗朶、SR1出土獣骨の4点である。いずれもAMS法で実施する。珪藻分析、花粉分析用試料は、SR1の試料番号3, 8, 10, 12, 13の5点と、SR2の試料番号2, 6, 7, 8, 15の5点の計10点である。試料採取地点の位置と断面図を図1に示す。なお、SR1とSR2は、中世の水路となる同一遺構であり、試料採取地点も近接する。樹種同定は、SX1, SX2, SR1の年代測定試料と同一試料から採取した木材である。SX1の木材試料は1~5の5点、SX2の木材試料は1~4の4点がある。SR1の木材は、全て杭材であり、6点ある。したがって、合計点数は15点である。骨同定は、SR1出土獣骨の1点について行う。

### 2. 分析方法

#### (1) 放射性炭素年代測定

試料の前処理については、木炭、炭質物、木材が、試料に土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをメス・ピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理AAA:Acid Alkali Acid)。

なお、AAA処理でのHC1による酸処理では、通常1 mol/l(1M)を用いる。アルカリ処理でのNaOHは、0.001Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表記する。

腐植については、メス・ピンセットを使い石などの混入物を取り除き、残りの全試料をすりつぶす(Bulk)。酸処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。処理には1 mol/l(1M)のHC1を用い、処理として「HC1」と表記する。

骨試料については、コラーゲン抽出を行い、その処理を「CEx」と表記する。試料を超純水の入ったガラスシャーレに入れ、ブラシ等を使い、根・土等の付着物を取り除く。試料をビーカー内で超純水で浸し、超音波洗浄を行う。0.2Mの水酸化ナトリウム水溶液の試料の入ったビーカーに入れ、試料の着色がなくなるまで、1時間ごとに水酸化ナトリウム水溶液を交換する。その後、超純水で溶液を中性に戻す。試料を凍結乾燥させ、凍結粉碎用セルに入れ、粉碎する。リン酸塩除去のため、試料を透析膜に入れて1Mの塩酸で酸処理を行い、超純水で中性にする。透析膜の内容物を遠心分離し、得られた沈殿物に超純水を加え、90℃に加熱した後、濾過する。濾液を凍結乾燥させ、コラーゲンを得る。

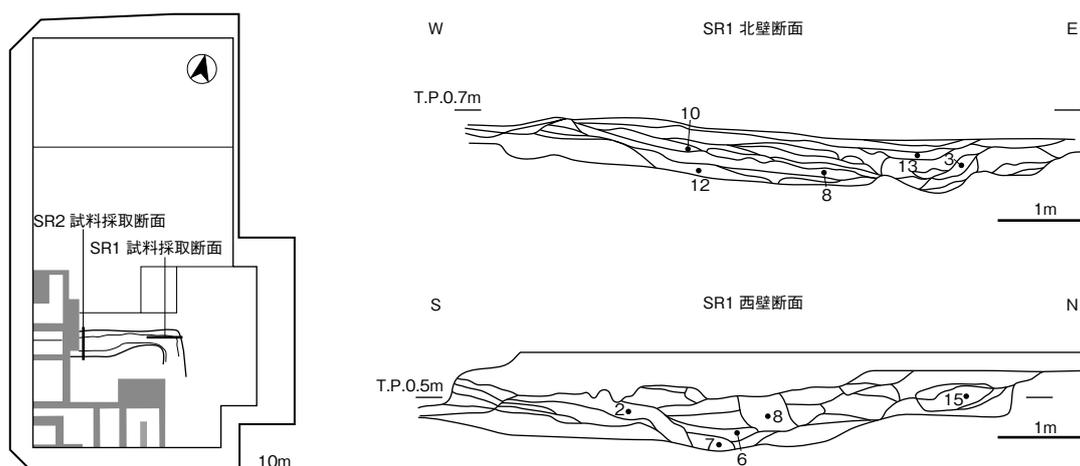


図1 SR1・2の遺構平面図と試料採取位置断面

処理を終えた試料については、試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO<sub>2</sub>を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO<sub>2</sub>と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NECPelletron9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma:68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

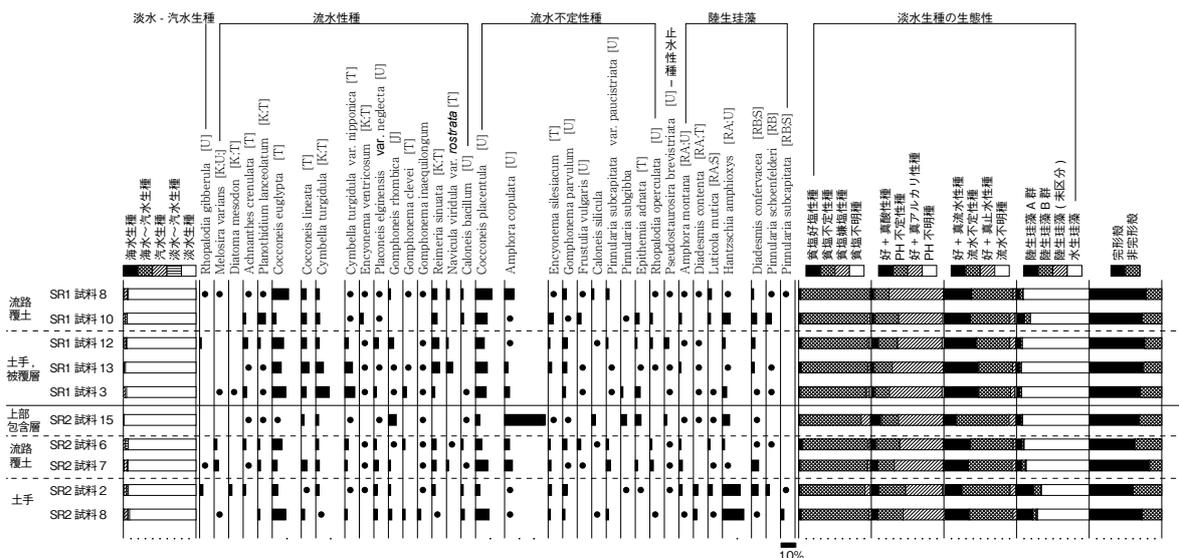
## (2)珪藻分析

試料を湿重で5g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法(4時間放置)の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料はこの限りではないが、全面を走査する)。種の同定は、原口ほか(1998)、Krammer (1992)、Krammer & Lange-Bertalot (1986,1988,1991a,1991b)、渡辺ほか(2005)、小林ほか(2006)などを参照し、分類基準はRound et al. (1990)に、壊れた珪藻殻の計数基準は柳沢(2000)に従う。

同定結果は、中心型珪藻類(Centric diatoms; 広義のコアミケイソウ綱Coscinodiscophyceae)と羽状型珪藻類(Pennate diatoms)に分け、羽状型珪藻類は無縦溝羽状珪藻類(Araphid pennate diatoms; 広義のオビケイソウ綱Fragilariophyceae)と有縦溝羽状珪藻類(Raphid pennate diatoms; 広義のクサリケイソウ綱Bacillariophyceae)

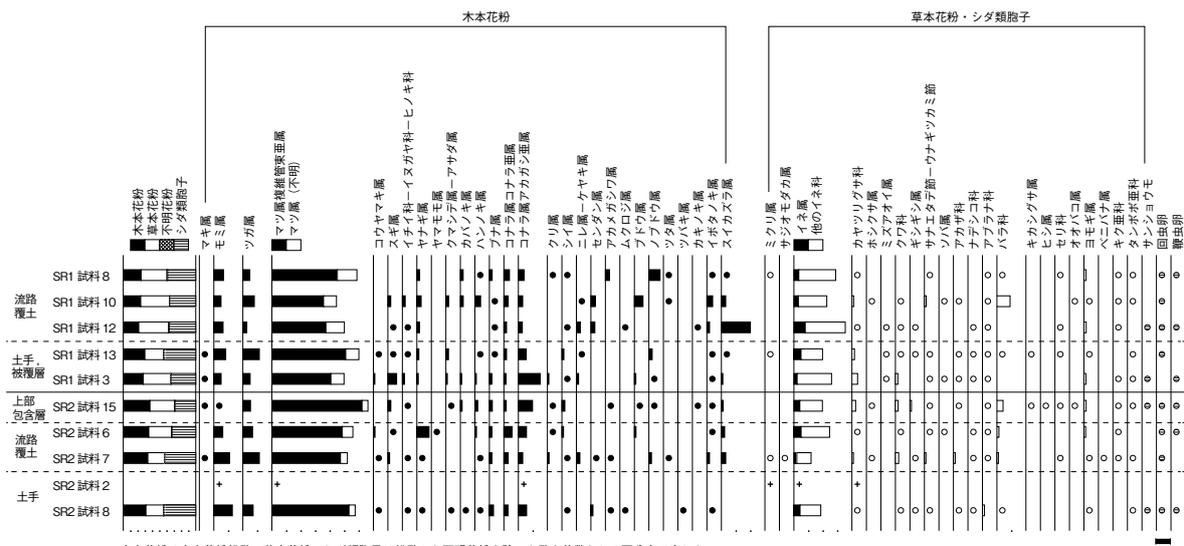
に分ける。また、有縦溝羽状珪藻類は、上・下殻の片方の殻だけに縦溝のある単縦溝類、上・下殻ともに縦溝のある双縦溝類、縦溝が管の上を走る管縦溝類、縦溝が翼管の上を走る翼管縦溝類、殻端部に短い縦溝がある短縦溝類に細分する。

各種類の生態性は、Vos & de Wolf (1993)を参考とするほか、塩分濃度に対する区分はLowe (1974)に従い、真塩性種(海水生種)、中塩性種(汽水生種)、貧塩性種(淡水生種)に類別する。また、貧塩性種にはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能を示す。そして、産出個体数100個体以上の試料は、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成するほか、淡水生種の生態性は100個体以



海水～汽水～淡水生種産出率・各種産出率・完形産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は2%未満の産出を示す。  
環境指標種  
(J:上流性河川指標種群, K:中～下流性河川指標種, S:好汚濁性種, U:広域適応性種, T:好清水性種, RA:陸生珪藻A群, RB:陸生珪藻B群)

図2 主要珪藻化石群集



木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類孢子は総数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で表した。  
○●は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料で検出された種類を示す。

図3 主要花粉化石群集

上の試料について図示する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析にあたり、淡水生種(貧塩性種)は安藤(1990)、陸生珪藻は伊藤・堀内(1991)、汚濁耐性は渡辺ほか(2005)の環境指標種を参考とする。

### (3) 花粉分析

試料約 10g について、フッ化水素酸による泥化、水酸化カリウムによる腐植酸の除去、0.25mm の篩による篩別、重液(臭化亜鉛、比重 2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鋳物質の除去、アセトリシス(無水酢酸 9:濃硫酸 1 の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下で、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本はじめ、Erdman (1952,1957)、Faegri and Iversen (1989) などの花粉形態に関する文献や、島倉(1973)、中村(1980)、藤木・小澤(2007)等の邦産植物の花粉写真集などを参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。また、残渣量や花粉化石の保存状態等の情報についても記録する。図表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

### (4) 樹種同定

剃刀を用いて木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)の 3 断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

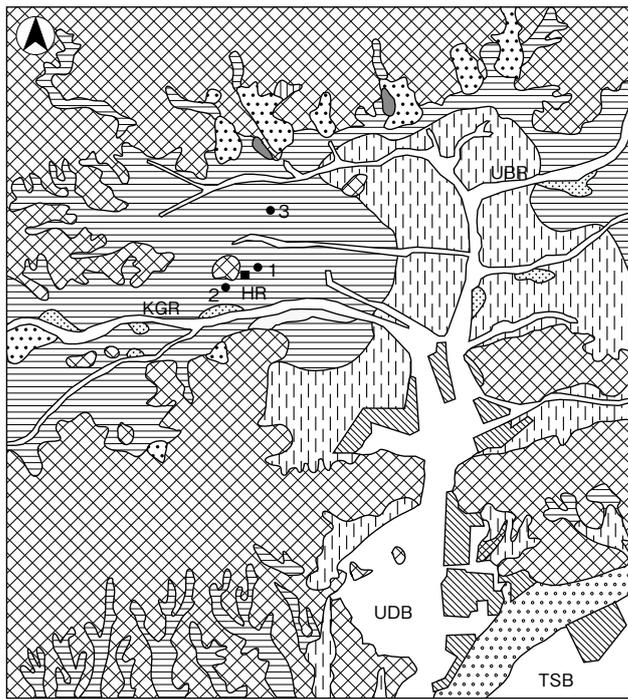
なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler 他(1998)、Richter 他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

### (5) 骨同定

試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。

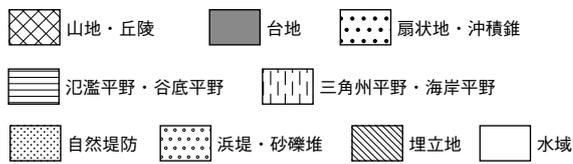
表 1 分析試料一覧

資料の種類	遺構	サンプル番号	層位	グリッド	備考	分析				
						花粉	珪藻	樹種	AMS	骨同定
堆積物	SR1	3	土手c		土手	○	○			
		8	3層		覆土	○	○			
		10	3層		覆土	○	○			
		12	4e層		覆土最下層	○	○			
		13	土手の上(2)		被覆層	○	○			
	SR2	2	土手S-1層		土手	○	○			
		6	5層下		覆土	○	○			
		7	土手(中)		覆土最下層	○	○			
		8	土手N-1		土手	○	○			
		15	灰色粘土層		上部包含層	○	○			
木材	SR1	杭1(b)		11-6KY C区			○	○		
	SX1			12-4KY			○	○		
	SX2			12-5KY			○	○		
動物遺存体	SR1		土手内					○	○	



国土地理院 (2006) の土地条件図を基に一部改変して作成

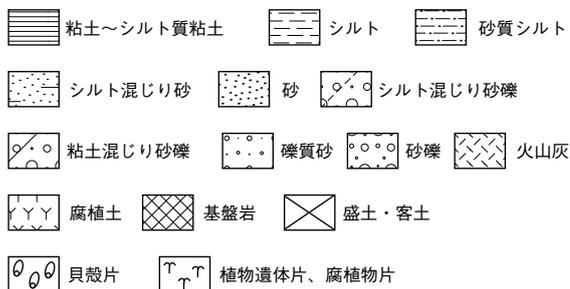
地形分類図凡例



HR: 弘人屋敷跡    ■ 考古遺跡    ● ボーリング地点  
(番号は柱状図の地点)

KGR: 鏡川    UBR: 国分川    UDB: 浦戸湾    TSB: 土佐湾

ボーリング柱状図凡例



註) 柱状図の右端の数値はN値、上端の値は標高値を示す

ボーリングデータは、「高知市地盤災害関連情報(実証実験サイト)」  
のホームページ (<http://www.geonews.jp/kochi/index.html>) のPDF  
のデータを基に作成した。

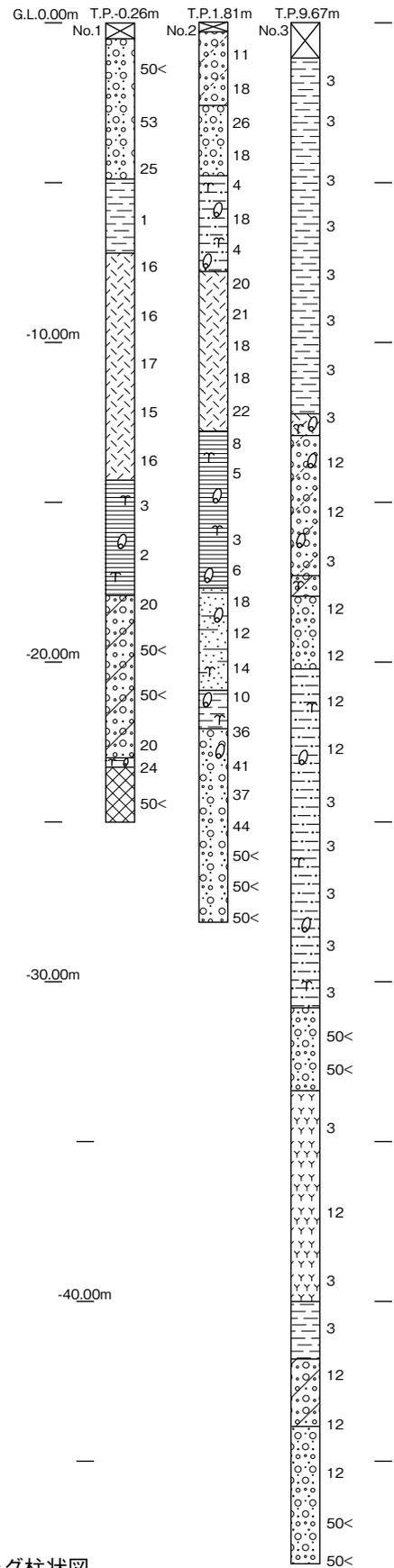


図4 遺跡周辺の地形分類図とボーリング柱状図

### 3. 結果

#### (1) 放射性炭素年代測定

まず始めに年代試料の観察結果について述べる。SR1 出土杭は、芯持丸木であり、測定試料は残存する最も外側の年輪を含む2-3年分を採取した。SX1とSX2の粗朶木は、いずれも小径の枝材である。複数の試料がある中から、樹皮がある芯持丸木を選択し、端部を輪切りに切断して試料とした。同定の結果、骨についてはウマの右中足骨と同定され、その個体を年代試料として処理した。本試料については、骨から部分的に年代試料を採取するため、グラインダーでの切断を行っている最中に、試料が崩れ断片化してしまった。そのため、年代測定は、この断片化したいくつかの個体で行うこととした。

同位体効果による補正を行った測定結果は、SR1 出土杭が  $380 \pm 20$  yrs BP、SX1 出土粗朶が  $210 \pm 20$  yrs BP、SX2 出土粗朶が  $200 \pm 20$  yrs BP、SR1 出土獣骨が  $430 \pm 20$  yrs BP である(表2)。

暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、及び半減期の違い(<sup>14</sup>Cの半減期 $5,730 \pm 40$ 年)を較正することである。今回は、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表す。暦年較正は、測定誤差 $\sigma$ 、 $2\sigma$ 双方の値を計算する。 $\sigma$ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 $2\sigma$ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

$1\sigma$ の確率の高い第1位と第2位に着目すると、今回の測定試料は、SX1 出土粗朶が cal AD 1654-cal AD 1798、SX2 出土粗朶 cal AD 1660-cal AD 1800 の17世紀半ば～18世紀末ないし19世紀初め、SR1 出土杭が cal AD 1451-cal AD 1493、SR1 出土獣骨が cal AD 1438-cal AD 1457 の15世紀代という2つの年代グループに分けられる(表3)。

#### (2) 珪藻分析

結果を表4、図2に示す。珪藻化石の相対的な産出頻度は、普通～多い程度である。完形殻の出現率は、70%以上の試料が多い。産出分類群数は、合計で53属214分類群である。以下に、珪藻化石群集の特徴を述べる。

SR1の5試料は、いずれも群集が近似する。淡水域に生息する水生珪藻(以下水生珪藻と言う)が多産し、これに付随して陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻を伴う組成からなる。淡水生種の生態性(塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応性)の特徴は、貧塩不定性種、好+真アルカリ性種、流水不定性種と好+真流水性種が多産する。群集組成は、流水性で付着性の *Cocconeis euglypta*、*Cocconeis lineata*、*Cymbella turgidula*、*Cymbella turgidula* var. *nipponica*、*Reimeria sinuata*、流水不定性で付着性の *Cocconeis placentula*、*Amphora copulata*、*Gomphonema parvulum*などが産出する。このうち *Cymbella turgidula*、*Reimeria sinuata*は、河川中～下流部に集中

表2 放射性炭素年代測定結果

試料名	性状	前処理	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 BP	測定期間番号
SR1出土杭	木材	AAA	$380 \pm 20$	$-29.83 \pm 0.42$	$460 \pm 20$	IAAA-120460
SX1出土粗朶	木材	AAA	$210 \pm 20$	$-30.90 \pm 0.53$	$310 \pm 20$	IAAA-120461
SX2出土粗朶	木材	AAA	$200 \pm 20$	$-30.95 \pm 0.43$	$300 \pm 20$	IAAA-120462
SR1出土獣骨	獣骨	Cxe	$430 \pm 20$	$-20.38 \pm 0.50$	$350 \pm 20$	IAAA-120757

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

して出現する中～下流性河川指標種である。陸生珪藻は、試料番号10でやや多いものの、他の試料では少ない。その主なものは、陸生珪藻の中でも耐乾性の高い陸生珪藻A群のHantzschia amphioxys、水域にも陸域にも生息できる陸生珪藻B群のDiadesmis confervaceaなどである。後種は、有機汚濁の進んだ強腐水域にまで生育することのできる好汚濁性種でもある。

SR2は、上部にあたる試料番号15と他の4試料で群集に違いが認められる。試料番号15を除く4試料は、貧塩不定性種、好+真アルカリ性種、流水不定性種と好+真流水性種が多産する。群集組成は、流水性で付着性のCocconeis euglypta、Cocconeis lineata、Cymbella turgidula、Placoneis elginensis var. neglecta、Reimeria sinuata、流水不定性で付着性のCocconeis placentula、Amphora copulata、Gomphonema parvulumなどが産出する。陸生珪藻は、試料番号8と試料番号2でやや多く、A群のHantzschia amphioxys、B群のDiadesmis confervaceaがみられる。試料番号15は、流水不定性で付着性のAmphora copulataが約30%検出され、流水性で付着性のGomphoneis rhombica、流水不定性で付着性のCocconeis placentula、Pinnularia subgibba、Epithemia adnataなどを伴う。このうちGomphoneis rhombicaは河川上流部に集中して出現する上流性河川指標種である。

### (3)花粉分析

結果を表5、図3に示す。SR1とSR2の花粉化石の産出傾向は、ほぼ同じである。残渣量は10 $\mu$ l程度で少ない。試料によっては、花粉化石の保存状態が悪く検出数が少ない。微粒炭が全ての試料で検出され、その中には小椋(2007)等の記述にあるイネ科由来の微粒を含む試料もある。微量ではあるが、鞭虫卵、回虫卵といった寄生虫卵が検出される。

花粉化石群集の構成比ではシダ類胞子が多く、草本花粉と木本花粉はシダ類胞子に比べてやや少ない。木本花粉は、木本花粉全体の半数近くをマツ属(特に複雑管束亜属)が占める。その他、モミ属、ツガ属、アカガシ亜属、シイ属、スイカズラ属などが検出される。草本花粉はイネ科が多く、イネ属を含む。イネ科全体に対するイネ属の割合は10～20%程度であるが、イネ属に似るが保存が悪く同定できないものは

表3 暦年較正結果

番号	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)										相対比	Code No.			
		$\sigma$	cal	AD		cal	AD		cal	BP				cal	BP	
SR1出土杭	383 $\pm$ 22	$\sigma$	cal	AD	1451	-	cal	AD	1493	cal	BP	499	-	457	0.805	IAAA-120460
			cal	AD	1602	-	cal	AD	1614	cal	BP	348	-	336	0.195	
		2 $\sigma$	cal	AD	1445	-	cal	AD	1522	cal	BP	505	-	428	0.768	
			cal	AD	1574	-	cal	BC	1584	cal	BP	376	-	3533	0.017	
			cal	AD	1590	-	cal	AD	1624	cal	BP	360	-	326	0.216	
			cal	AD	1654	-	cal	AD	1669	cal	BP	296	-	281	0.336	
SX1出土粗朶	214 $\pm$ 22	$\sigma$	cal	AD	1780	-	cal	AD	1798	cal	BP	170	-	152	0.517	IAAA-120461
			cal	AD	1945	-	cal	AD	1950	cal	BP	5	-	0	0.118	
			cal	AD	1647	-	cal	AD	1681	cal	BP	303	-	269	0.379	
		2 $\sigma$	cal	AD	1739	-	cal	BC	1751	cal	BP	211	-	3700	0.026	
			cal	AD	1762	-	cal	BC	1802	cal	BP	188	-	3751	0.478	
			cal	AD	1937	-	cal	AD	1951	cal	BP	13	-	1	0.118	
SX2出土粗朶	202 $\pm$ 22	$\sigma$	cal	AD	1660	-	cal	AD	1677	cal	BP	290	-	273	0.280	IAAA-120462
			cal	AD	1766	-	cal	AD	1772	cal	BP	184	-	178	0.063	
			cal	AD	1777	-	cal	AD	1800	cal	BP	173	-	150	0.467	
			cal	AD	1940	-	cal	AD	1951	cal	BP	10	-	1	0.190	
		2 $\sigma$	cal	AD	1652	-	cal	AD	1682	cal	BP	298	-	268	0.279	
			cal	AD	1736	-	cal	BC	1804	cal	BP	214	-	3753	0.551	
SR1出土獣骨	430 $\pm$ 21	$\sigma$	cal	AD	1438	-	cal	AD	1457	cal	BP	512	-	493	1.000	IAAA-120755
			cal	AD	1431	-	cal	AD	1479	cal	BP	519	-	471	1.000	
		2 $\sigma$	cal	AD	1438	-	cal	AD	1457	cal	BP	512	-	493	1.000	
			cal	AD	1431	-	cal	AD	1479	cal	BP	519	-	471	1.000	

1) 計算には、RADIO CARBON CALIBRATION PROGRAM REV6.0を使用

2) 統計的に真の値が入る確率は、 $\sigma$ は68%、2 $\sigma$ は95%である

3) 相対比は、 $\sigma$ 、2 $\sigma$ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

他のイネ科に含めているため、実際にはもう少し多いと思われる。栽培種はイネ属のほか、ソバ属を含む。水生植物はミズアオイ属、サンショウモ(シダ植物)などが検出されるが少ない。他は、カヤツリグサ科、バラ科、ヨモギ属などを含む。

#### (4) 樹種同定

樹種同定結果を表6に示す。木材は、針葉樹1分類群(マツ属複維管束亜属)と広葉樹4分類群(クスノキ科・カクレミノ・シャシャンボ・エゴノキ属)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

##### ・マツ属複維管束亜属(Pinus subgen. Diploxylon)マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-10細胞高。

##### ・クスノキ科(Lauraceae)

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2-3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

##### ・カクレミノ(Dendropanax trifidus (Thunb.) Makino)ウコギ科カクレミノ属

環孔材で、孔圏部は接線方向に疎な1列。道管は、孔圏外で急激に径を減じた後、単独または2-5個が放射方向あるいは塊状に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性～同性、1-5細胞幅、1-30細胞高。放射組織には、放射細胞間道が認められる。

##### ・シャシャンボ(Vaccinium bracteatum Thunb.)ツツジ科スノキ属

散孔材で、道管はほぼ単独で年輪界一様に分布し、その分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、単列で8細胞高前後のものとして5-7細胞幅、30-60細胞高のものがある。放射組織には鞘細胞が認められる。

##### ・エゴノキ属(Styrax)エゴノキ科

散孔材で、横断面では楕円形、単独または2-4個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。

#### (5) 骨同定

同定試料は、保存が悪く、ひび割れが生じ、一部ビビアナイトが析出する。本試料は、形態的特徴から、ウマの右中足骨と判断される。試料では遠位端が欠損し、近位端が破損する。現長168.1mm、近位端幅37.8mm前後、骨体中央幅推定値28mm前後、骨体中央矢状径推定値26mm前後を測る。

## 4. 考察

### (1) 珪藻化石からみた堆積環境

SR1、SR2の珪藻化石群集は、層位に関係なく類似しており、基本的に流水指標種を含む好+真流水性種と流水不定性種が多産し、止水環境を指標する種群は少ない。また、極端に優勢な種類がみられないのも特長である。優勢な種類が少ないのは、現地性が低く、再堆積によって集積した珪藻化石を多く含むことを示唆する。このような群集は混合群集とよばれ、河川氾濫堆積物によくみられる傾向である(堀内ほか,1996)。多産した珪藻化石は、止水域にも流水域にも普通に生育する流水不定性種と流水生種であり、

表 4-1 珪藻分析結果(1)

種 類	生態性			環境 指標種	SR1					SR2				
	塩分	pH	流水		8	10	12	3	13	15	6	2	8	7
Bacillariophyta (珪藻植物門)														
Centric Diatoms (中心型珪藻類)														
<i>Aulacoseira ambigua</i> (Grun.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N,U	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Aulacoseira crassipunctata</i> Krammer	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	ind	l-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Actinocyclus octonarius</i> Ehrenberg	Euh				-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Melosira nummuloides</i> (Dillwyn)Agardh	Meh			C2,E2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
<i>Melosira varians</i> Agardh	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U,	2	-	-	1	-	-	4	-	1	6
<i>Orthoseira roseana</i> (Rabh.)O'Meara	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
<i>Cyclotella meneghiniana</i> Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	l-ph	L,S	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Stephanodiscus</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Thalassiosira lacustris</i> (Grun.)Hasle	Meh				2	-	-	-	2	-	1	-	-	-
Araphid Pennate Diatoms(無縱溝羽狀珪藻類)														
Araphidineae(無縱溝類)														
<i>Ctenophora pulchella</i> (Ralfs ex Kuetz.)Williams & Round	Meh				-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
<i>Diatoma mesodon</i> (Ehren.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-
<i>Fragilaria capitellata</i> (Grun.)J.B.Petersen	Ogh-ind	ind	r-bi	U	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
<i>Fragilaria capucina</i> Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	1	-	1	-	-	-	1	-	1
<i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	-	-	1	-	1	-	1	1	1
<i>Hannaea arcus</i> var. <i>hattoriana</i> (F.Meister)Ohtsuka	Ogh-ind	ind	r-bi	T,J	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Meridion constrictum</i> Ralfs	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Pseudostaurosira brevistriata</i> (Grun.)Williams & Round	Ogh-hil	al-il	l-ph	U	2	-	5	2	1	3	1	1	-	1
<i>Staurosira construens</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1
<i>Staurosira construens</i> var. <i>binodis</i> (Ehren.)Hamilton	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Staurosira venter</i> (Ehren.)H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Staurosirella pinnata</i> (Ehr.)Williams & Round	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	1	-	1	1	3	-	-	-	-	-
<i>Ulnaria inaequalis</i> (H.Kobayasi)M.Idei	Ogh-ind	al-il	r-bi	J,K,T	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Ulnaria ulna</i> (Nitzsch)Compere	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	1	-	-	2	1	-	1	-
Raphid Pennate Diatoms(有縱溝羽狀珪藻類)														
Monoraphid Pennate Diatoms(單縱溝羽狀珪藻類)														
<i>Achnanthes crenulata</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	2	2	5	5	2	2	4	2	-	2
<i>Achnanthes inflata</i> (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	T	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
<i>Karayevia clevei</i> (Grun.)Round et Bukhtiyarova	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-
<i>Leimnocola hungarica</i> (Grunow)Round & Basson	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Planothidium delicatulum</i> (Kuetz.)Round et Bukhtiyarova	Meh			D1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Planothidium lanceolatum</i> (Breb. ex Kuetz.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	6	3	2	1	1	3	-	2	4
<i>Planothidium rostratum</i> (Oestrup)Round et Bukhtiyarova	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	3	-	1	-	-	-	1	-	-	-
<i>Achnanthis convergens</i> (H.Kobayasi)H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph	T	-	-	-	-	4	-	1	1	-	-
<i>Achnanthis minutissimum</i> (Kuetz.)Czarn.	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-	2	1	-	-
<i>Achnanthis subhudsonis</i> (Hustedt)H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph	T	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Achnanthis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Cocconeis heteroidea</i> Hantzsch	Euh				1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis pseudomarginata</i> Gregory	Euh				-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Cocconeis scutellum</i> Ehrenberg	Euh-Meh			C1	2	-	1	-	-	-	-	1	-	-
<i>Cocconeis euglypta</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	23	3	13	19	13	1	14	5	12	7
<i>Cocconeis lineata</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	7	4	6	7	11	4	-	1	3	8
<i>Cocconeis placentula</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	23	9	10	15	17	6	9	4	12	17
Biraphid Pennate Diatoms(雙縱溝羽狀珪藻類)														
<i>Amphora strigosa</i> Hustedt	Meh				1	-	-	1	-	-	-	-	1	2
<i>Amphora copulata</i> (Kuetz.)Schoeman et R.E.M.Archibald	Ogh-ind	al-il	ind	U	13	1	1	7	5	56	7	1	1	11
<i>Amphora fontinalis</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora inariensis</i> Krammer	Ogh-ind	al-il	ind	T	2	-	1	1	-	-	-	-	-	2
<i>Amphora montana</i> Krasske	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	2	2	1	-	3	1	3	3	1	5
<i>Amphora ovalis</i> (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora pediculus</i> (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	T	4	-	3	1	-	-	-	1	2	2
<i>Cymbella affinis</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-
<i>Cymbella cistula</i> (Ehr.)Kirchner	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,T	-	1	-	3	-	1	-	-	-	-
<i>Cymbella tumida</i> (Breb.)Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	4	1	-	2	3	3	1	1	1	1
<i>Cymbella turgidula</i> Grunow	Ogh-ind	al-bi	r-ph	K,T	5	3	4	19	11	4	4	3	1	5
<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> Skvortzov	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	2	1	4	14	11	1	5	1	2	3
<i>Cymbella uenoi</i> Skvortzov in Skvortzov et Noda	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	-	-	1	4	-	3	-	-	-
<i>Encyonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
<i>Encyonema lange-bertalotii</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind	T	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Encyonema mesianum</i> (Kholnoky)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1
<i>Encyonema silesiacum</i> (Bleisch)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	1	4	2	-	5	2	3	3	2	4
<i>Encyonema ventricosum</i> (C.Agardh)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	3	1	2	2	-	1	1	-	1
<i>Encyonopsis neoamphioxys</i> Krammer	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Placoneis elginensis</i> (Greg.)E.J.Cox	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	1	-	1	1	-	-	4	2	-	1
<i>Placoneis elginensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krasske)H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	1	5	3	1	2	3	3	3	6
<i>Placoneis gastrum</i> (Ehrenb.)Mereschkowsky	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Gomphonensis heterominita</i> Mayama & Kawashima	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonensis rhombica</i> (Fricke)Merino et al.	Ogh-ind	ind	r-bi	J	3	-	6	2	2	11	1	2	3	3
<i>Gomphonema augur</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	1	3	-	-	1
<i>Gomphonema augur</i> var. <i>turris</i> (Ehr.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke	Ogh-ind	ind	r-ph	T	1	-	-	5	2	-	3	-	2	-
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	-	1	3	-	1	3	-	-	1	-
<i>Gomphonema inaequilongum</i> (H.Kobayasi)H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph		1	-	1	2	2	1	2	1	3	1
<i>Gomphonema lagenula</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	r-ph	S	-	-	2	-	1	2	1	-	-	1
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	5	1	5	4	6	2	6	4	2	1
<i>Gomphonema pseudoaugur</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	S	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Gomphonema pumilum</i> (Grun.)Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema pumilum</i> var. <i>rigidum</i> E.Reichardt et Lange-B.	Ogh-ind	al-il	ind	U	4	-	2	3	3	-	4	-	2	4
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Gomphonema vastum</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	ind		-	-	2	1	1	1	1	1	-	1
<i>Gomphonema</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1	3	-	-	-	-	-

表 4-2 珪藻分析結果(2)

種 類	生態性			環境 指標種	SR1					SR2				
	塩分	pH	流水		8	10	12	3	13	15	6	2	8	7
<i>Reimeria sinuata</i> (W.Greg.)Kociolek et Stoermer	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	7	4	8	4	11	-	6	3	1	6
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i> (C.Agardh)Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	-	1	-	-	2	-	-	-	1	1
<i>Diploneis interrupta</i> (Kuetz.)Cleve	Meh				1	-	-	1	-	-	-	-	1	-
<i>Diploneis pseudovalis</i> Hustedt	Meh				-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	T	3	1	-	-	-	-	3	-	1	2
<i>Diploneis parma</i> Cleve	Ogh-ind	ind	ind		2	-	-	1	1	1	2	-	1	2
<i>Geissleria decussis</i> (Oestrup)Lange-B. et Metzeltin	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	1	-	-	-	2	-	2	-	-	-
<i>Hippodonta capitata</i> (Ehr.)Lange-B.,Metzeltin et Witkowski	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Hippodonta hungarica</i> (Grun.)Lange-B.,Metzeltin et Witkowski	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Hippodonta linearis</i> (Oestrup)Lange-B.,Metzeltin et Witkowski	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
<i>Hippodonta pseudoacceptata</i> (H.Kobayasi)Lange-B.,Metzeltin et Witkowski	Ogh-ind	ind	r-ph	U	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Navicula gregaria</i> Donkin	Ogh-Meh	al-il	ind	U	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Navicula veneta</i> Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind	U	1	-	-	-	1	1	2	-	-	-
<i>Navicula bryophila</i> J.B.Petersen	Ogh-ind	al-il	ind	RI,U	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Navicula capitatoradiata</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	1	1	1	1	3	-	2	-	1	1
<i>Navicula cryptocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
<i>Navicula cryptotenella</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	T	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula kotschy</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	1	-	1	-	-
<i>Navicula medioconvexa</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Navicula menisculus</i> Schumann	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Navicula nipponica</i> (Skv.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1
<i>Navicula placenta</i> fo. <i>obtusa</i> Meister	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula pseudolanceolata</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Navicula radiosa</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	2	1	2	-	-	-	-	-
<i>Navicula rhynchocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula rostellata</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	1	1	3	-	2	-	1	-	2	-
<i>Navicula slesvicensis</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
<i>Navicula ventralis</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Navicula viridula</i> (Kuetz.)Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	1	-	-	1	2	-	-	-	-	-
<i>Navicula viridula</i> var. <i>linearis</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula viridula</i> var. <i>rostrata</i> Skv.	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	4	-	2	-	9	-	2	-	-	3
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Plagiotropis lepidoptera</i> var. <i>proboscidea</i> (Cleve)Reim.	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Gyrosigma procerum</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	1	1	-	2	-	-	-	-	-
<i>Gyrosigma scalproides</i> (Rabh.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	2	1	2	-	1	1	-	1	-
<i>Craticula cuspidata</i> (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	2	-	-	2	-	1	1	1	-	1
<i>Stauroneis anceps</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Stauroneis japonica</i> H.Kobayasi	Ogh-ind	ac-bi	r-ph	T	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
<i>Stauroneis obtusa</i> Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O,U	1	-	-	1	-	3	-	-	-	-
<i>Stauroneis smithii</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thwait)De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	3	-	1	2	-	5	-	-	2
<i>Cosmioneis pusilla</i> (W.Smith)Mann & Stickle	Ogh-Meh	ind	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Diademsis biceps</i> Arnott et Grunow in Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	-	1	-	-	-	1	1	1	2	1
<i>Diademsis confervacea</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RB,S	3	4	4	2	4	2	2	6	1	10
<i>Diademsis contenta</i> (Grun.)Van Heurck)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	1	-	1	2	1	1	-	4	3	-
<i>Diademsis perpusilla</i> (Grun.)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Luticola mutica</i> (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RAS	5	2	-	1	-	1	3	4	1	2
<i>Luticola paramutica</i> (Bock)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Luticola plausibilis</i> (Hustedt ex Simonsen)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind		-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
<i>Luticola ventricosa</i> (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	RI,U	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
<i>Neidium affine</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ind	l-bi		1	-	1	-	1	-	1	-	-	1
<i>Neidium alpinum</i> Hustedt	Ogh-ind	ac-il	ind	RA	-	-	3	-	1	-	2	1	1	3
<i>Neidium ampliatum</i> (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	1	1	1	-	-	2	1	1	-
<i>Neidium dubium</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Neidium hercynicum</i> A.Mayer	Ogh-ind	ac-il	ind	U	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Neidium longiceps</i> (W.Greg.)R.Ross	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Neidium tokyoensis</i> H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
<i>Caloneis rhombica</i> H.Kobayashi	Meh				2	-	2	2	-	-	-	-	2	3
<i>Caloneis aerophila</i> Bock	Ogh-ind	ac-bi	ind	RAS	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	3	2	-	2	-	1	3	2	3	1
<i>Caloneis hyalina</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Caloneis lauta</i> Carter & Bailey-Watts	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
<i>Caloneis leptosoma</i> Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	1	1	-	2	-	-	1	1	-	-
<i>Caloneis minuta</i> (Grunow)Ohtsuka et Fujita	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	1	2	1	-	1	2	-	4
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		3	-	1	-	-	5	1	-	1	-
<i>Caloneis truncatula</i> (Grunow)	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	-	-	-	1	-	1	1	2	-	1
<i>Pinnularia anglica</i> Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind	T	-	1	-	-	-	-	2	2	-	-
<i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Pinnularia brauniana</i> (Grun.)Mills	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	P,U	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-
<i>Pinnularia brebissonii</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia divergens</i> W.Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	-	1	2	-	1	-	1
<i>Pinnularia divergens</i> var. <i>decreescens</i> (Grun.)Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>dissimilis</i> H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
<i>Pinnularia graciloides</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia karelica</i> Cleve	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ac-il	ind	S	-	-	2	-	1	3	1	1	1	-
<i>Pinnularia microstauron</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia nodosa</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2
<i>Pinnularia parvulissima</i> Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	-	-	1	-	3	2	-	-	1
<i>Pinnularia schoenfelderi</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	4	-	1	1	-	1	3	-	-
<i>Pinnularia schroederii</i> (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia silvatica</i> Petersen	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

表 4-3 珪藻分析結果(3)

種 類	生態性			環境 指標種	SR1					SR2				
	塩分	pH	流水		8	10	12	3	13	15	6	2	8	7
<i>Pinnularia stomatophora</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind		-	-	1	1	-	3	1	-	-	-
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RBS	1	-	-	-	-	-	-	1	3	-
<i>Pinnularia subcapitata</i> var. <i>paucistriata</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	U	4	-	2	2	1	-	3	-	2	6
<i>Pinnularia subgibba</i> Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	3	-	8	-	1	-	-
<i>Pinnularia subrupestris</i> Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	-	2	3	-	-	-	-
<i>Pinnularia substomatophora</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	1	-	-	-	-	-	1	1	-
<i>Pinnularia viridiformis</i> Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O,U	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	1	-	1	-	-	-	-
<i>Sellaphora americana</i> (Ehr.)Mann	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
<i>Sellaphora bacillum</i> (Ehr.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	1	1	4	1	-	-	-	1
<i>Sellaphora pseudopupula</i> (Krasske)Lange-B.	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Sellaphora pupula</i> (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S	1	2	1	1	2	1	2	2	1	1
<i>Sellaphora pupula</i> var. <i>subcapitata</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
管絨溝類														
<i>Hantzschia distincte-punctata</i> (Hust.)Hustedt	Ogh-Meh	al-il	l-bi		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	1	6	3	6	2	10	3	16	19	2
<i>Hantzschia amphioxys</i> var. <i>capitata</i> O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind	RA	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-
<i>Hantzschia vivax</i> (W.Smith)M.Pregallo	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia filiformis</i> (W.Smith)Van Heurck	Meh			U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Nitzschia lorenziana</i> Grunow	Meh			E2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia brevissima</i> Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
<i>Nitzschia inconspicua</i> Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.)W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
<i>Nitzschia amphibia</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	1	-	1	-	-	1	1	-	2
<i>Nitzschia fonticola</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia heidenii</i> Meister	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Nitzschia linearis</i> (W.Smith)W.Smith	Ogh-ind	al-bi	r-bi	U	1	-	-	-	2	-	1	-	-	1
<i>Nitzschia nana</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
<i>Nitzschia palustris</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia parvuloidea</i> Cholnoky	Ogh-ind	ind	ind	U	3	-	-	-	-	-	1	2	-	2
<i>Nitzschia perminuta</i> (Grun.)Peragallo	Ogh-ind	al-il	ind	RI,U	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
<i>Nitzschia tubicola</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
<i>Nitzschia umbonata</i> (Ehr.)Lange-B.	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
<i>Tryblionella coarctata</i> (Grunin Cleve & Grun.)D.G.Mann	Euh-Meh				-	-	-	-	1	1	-	-	-	2
<i>Tryblionella calida</i> (Grunow)D.G.Mann	Meh				-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Tryblionella granulata</i> (Grunow)D.G.Mann	Meh			E1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Tryblionella levidensis</i> W.Smith	Meh			S	1	1	2	1	-	-	1	1	-	1
<i>Tryblionella littoralis</i> (Grunow)D.G.Mann	Meh				-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Tryblionella salinarum</i> (Grunow)Pelletan	Meh			U	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
<i>Tryblionella debilis</i> Arnott	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Epithemia adnata</i> (Kuetz.)Brebisson	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	3	2	7	2	8	-	1	-	3
<i>Epithemia sorex</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Epithemia turgida</i> (Ehr.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	1	-	1	1	-	-	-	1	-
<i>Rhopalodia musculus</i> (Kuetz.)O.Muller	Meh				1	1	-	1	1	-	-	2	-	1
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.)O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	1	-	2	-	-	-	-	3	-	1
<i>Rhopalodia gibba</i> (Ehr.)O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	2	-	1	1	-	1
<i>Rhopalodia operculata</i> (Agardh)Hakansson	Ogh-ind	ind	ind	U	2	2	3	-	2	-	3	-	1	5
<i>Rhopalodia quisumbirgiana</i> Skvortzow	Ogh-hil	al-il	r-ph		-	1	-	-	2	-	1	-	-	-
翼管絨溝類														
<i>Surirella apiculata</i> var. <i>constricta</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Surirella angusta</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Surirella minuta</i> Brebisson	Ogh-ind	ind	r-ph	U	-	-	1	1	-	-	1	2	-	-
短絨溝類														
<i>Eunotia arcus</i> var. <i>bidens</i> Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia biserialoides</i> H.Kobayasi,K.Ando & T.Nagumo	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia epithemioides</i> Hustedt	Ogh-hob	al-il	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia incisa</i> W.Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O,U	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2
<i>Eunotia minor</i> (Kuetz.)Grunow	Ogh-hob	ind	ind	O,T	-	-	-	-	1	4	-	1	1	1
<i>Eunotia pectinalis</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O,T	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-
海水生種					1	0	0	0	0	0	0	0	2	0
海水-汽水生種					2	0	1	0	1	1	0	1	0	2
汽水生種					8	3	5	7	3	0	6	5	6	9
淡水-汽水生種					3	3	2	2	2	1	8	3	3	2
淡水生種					190	106	158	195	203	200	191	122	118	191
珪藻化石総数					204	112	166	204	209	202	205	131	129	204

H.R. : 塩分濃度      pH : 水素イオン濃度      C.R. : 流水  
Meh : 汽水生種      al-bi : 真アルカリ性種      l-bi : 真止水性種  
Ogh-Meh : 淡水-汽水生種      al-il : 好アルカリ性種      l-ph : 好止水性種  
Ogh-hil : 貧塩好塩性種      ind : pH不定性種      ind : 流水不定性種  
Ogh-ind : 貧塩不定性種      ac-il : 好酸性種      r-ph : 好流水性種  
Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種      ac-bi : 真酸性種      r-bi : 真流水性種  
Ogh-unk : 貧塩不明種      unk : pH不明種      unk : 流水不明種

環境指標種群  
C1:海水藻場指標種, C2:汽水藻場指標種, E1:海水泥質干潟指標種, E2:汽水泥質干潟指標種 (以上は小杉, 1988)  
J:上流性河川指標種, K:中-下流性河川指標種, L:最下流性河川指標種, N:湖沼沼沢湿地指標種,  
O:沼沢湿地付着生種, P:高層湿原指標種 (以上は安藤, 1990)  
S:好汚濁性種, U:広域適応性種, T:好清水性種 (以上はAsai and Watanabe, 1995)  
R:陸生珪藻 (RA:A群, RB:B群, RI:未区分, 伊藤・堀内, 1991)

表5 花粉分析結果

種類	遺構・試料番号									
	SR1					SR2				
	8	10	12	3	13	15	6	2	8	7
木本花粉										
マキ属	-	-	-	1	2	1	-	-	-	1
モミ属	7	5	7	10	18	2	11	1	18	18
ツガ属	5	8	3	10	25	13	12	-	10	19
マツ属	47	36	41	81	112	153	87	7	75	79
マツ属(不明)	14	9	14	18	20	10	13	-	6	8
コウヤマキ属	-	-	-	2	2	-	2	-	1	1
スギ属	-	2	1	12	1	5	1	-	-	2
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	-	2	1	3	1	1	-	-	1	1
ヤナギ属	2	3	2	2	3	-	15	-	1	1
ヤマモモ属	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
クルミ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
クマシデ属-アサダ属	-	2	-	2	4	2	-	-	1	-
カバノキ属	2	2	-	2	-	3	-	-	1	-
ハンノキ属	1	4	-	2	1	5	2	-	1	1
ブナ属	2	1	1	3	1	5	3	1	4	3
コナラ属	4	3	2	3	4	4	10	-	4	5
コナラ属	4	3	3	30	12	24	10	1	8	5
クリ属	1	-	-	2	-	1	1	-	-	2
シイ属	1	-	1	1	3	5	2	-	1	1
ニレ属-ケヤキ属	-	1	3	3	2	-	-	-	-	4
エノキ属-ムクノキ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
フサザクラ属	-	-	-	3	-	-	1	-	-	-
カラスザンショウ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
センダン属	-	3	3	-	-	-	-	-	2	1
アカメガシワ属	3	-	-	-	-	1	-	-	1	1
ウルシ属	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
ニシキギ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ムクロジ属	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
カエデ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ブドウ属	-	6	-	2	-	1	2	-	-	-
ノブドウ属	8	-	-	1	5	1	-	-	-	3
ツタ属	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1
ツバキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
グミ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ウコギ科	-	1	-	-	-	-	-	-	3	-
ツツジ科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
カキノキ属	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-
ハイノキ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
イボタノキ属	1	4	2	1	1	2	1	-	1	3
イガマズミ属	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
スイカズラ属	1	3	22	2	2	3	4	-	-	5
草本花粉										
ミクリ属	1	-	-	-	6	-	-	1	-	2
サジオモダカ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
イネ属	14	13	40	16	36	27	25	-	19	10
他のイネ科	106	82	141	170	109	103	99	1	64	48
カヤツリグサ科	4	5	4	28	13	17	5	1	3	5
ホシクサ属	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1
ミズアオイ属	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-
クワ科	-	4	3	12	4	12	4	-	1	11
ギシギシ属	-	-	1	-	1	7	-	-	2	2
サナエタデ属-ウナギツカミ節	3	5	-	3	2	3	4	-	1	5
タデ属	-	2	-	3	-	-	-	-	-	3
ソバ属	-	1	-	2	-	-	1	-	-	-
アカザ科	-	4	-	7	3	2	-	-	1	6
ナデシコ科	-	-	3	5	3	-	3	-	1	3
キンボウゲ属	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-
キンボウゲ科	4	2	2	1	-	-	-	-	5	-
タケニグサ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	3	1	2	2	1	3	1	-	6	1
バラ科	3	38	-	-	2	28	7	-	1	5
マメ科	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
フウロソウ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
トウダイグサ科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
キカシグサ属	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
ヒシ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
アカバナ属-ミズユキノシタ属	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
セリ科	2	-	1	-	1	4	-	-	-	1
シソ科	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
ナス科	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
オオバコ属	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
オミナエシ属	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
ヨモギ属	6	2	8	10	3	10	6	-	1	4
オナモミ属	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
ベニバナ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
キク亜科	1	1	3	6	-	1	1	-	-	2
タンポポ亜科	2	4	-	2	2	3	-	-	1	2
不明花粉										
不明花粉	4	-	3	3	2	5	4	-	2	2
シダ類孢子										
ヒカゲノカズラ属	1	-	-	1	1	1	-	-	-	-
ゼンマイ属	1	1	2	2	-	-	1	-	1	1
イノモトソウ属	2	4	3	3	7	-	2	2	3	1
サンショウモ	-	-	4	2	-	1	-	-	2	-
他のシダ類孢子	159	146	179	239	318	189	162	83	193	208
寄生虫卵										
回虫卵	4	1	5	-	2	2	3	-	1	4
鞭虫卵	5	-	5	3	-	3	2	-	2	-
合計										
木本花粉	104	101	110	199	220	246	179	9	141	167
草本花粉	150	167	213	271	189	225	159	3	108	113
不明花粉	4	0	3	3	2	5	4	0	2	2
シダ類孢子	163	151	188	247	326	191	166	85	199	210
合計(不明を除く)	417	419	511	717	735	662	504	97	448	490
残渣量(μl)	20	10	10	10	10	<10	20	<10	20	20
微粒炭	中	中	中	中	中	中	中	多	中	中
イネ科由来?微粒炭		+	++		+	+			++	+

河川中～下流部や河川沿いの河岸段丘，扇状地，自然堤防，後背湿地などに集中して出現する中～下流性河川指標種群を含む。

本遺跡は，鏡川が形成した氾濫平野上に立地する(図4)。この氾濫平野は，狭義の高知平野に相当する(国土地理院,2006)。調査区の東方約300mの位置する高知市立追手前小学校のボーリングデータでは，現地地表面下(以下G.L.と略す)-4.9mまで砂礫が累重する(図4)。調査区付近では，高知県庁前のボーリングデータにおいてもG.L.-4.8mまでシルト混じり砂礫と砂礫が累重する。高知市地盤災害関連情報(実証実験サイト)によってweb上に公開されたボーリングデータによれば，調査区より西側の氾濫原の表層地質は，砂礫を主体しており，場所によって砂質シルトやシルト質砂を挟在する。このような礫質堆積物は，G.L.-3.0m～-5.0m付近にかけて厚く累重することが確認される。これに対し，調査区より東側では，礫質堆積物の累重が，現鏡川沿いを除き，認められなくなる。

このような遺跡周辺の表層地質の特徴から，弘人屋敷跡は，鏡川が発達させた扇状地性の氾濫原上に立地していると解釈される。礫質堆積物の累重時期については，弘人屋敷跡の発掘調査において，砂礫層を覆うシルト質砂の自然堤防堆積物最上部において古代の遺構・遺物が検出されることから，古代以前に累重したことが確認される。なお，本遺跡の北側の氾濫原では，調査区の北側約800mに位置する高知市立江ノ口小学校のボーリングデータによるとG.L.-12.25mまでシルトが連続する(図4)。このような泥質堆積物を主体する累重は，江ノ口小学校周辺のボーリング地点でも広がることを確認される。このことから，遺跡が立地する礫質堆積物からなる氾濫原の周囲には，泥質で低平な氾濫原が広がっていたと推定される。このような遺跡とその周辺の概略的な表層地質の検討から，弘人屋敷跡は，鏡川が形成した微高地をなす扇状地性の氾濫原の下部から末端部に立地することがうかがえる。そして，この氾濫原は古代に既に離水しており，高燥な地表環境が形成されていたと考えられる。

以上の遺跡の立地環境にもとづくと，SR1・2で産出した珪藻化石の多くは，遺構周辺の流路，溝や氾濫原に生育していたものとみなされる。このSR1・2については，発掘調査で検出された出土土器から，15世紀代の水路であることが判明している。水路内では，礫質砂層が多く挟在する泥層～泥質砂層で充填される。分析試料については，比較的泥質な堆積物を選択して採取されている。年代については，杭と土手内から検出されたウマの骨が，ともに暦年代較正值で確率的に15世紀代の可能性が高い放射性炭素年代値を示し，出土遺物の相対年代とも調和的である。

上述の検討結果を総合的にふまえると，SR1・2については，周辺の流路から供給された河川堆積物によって，15世紀代に埋積されたと判断される。分析試料では，止水生種がほとんど含まれず，富栄養な水域を嫌う好清水性種が比較的多く産出する。このことから，遺構内では閉鎖的で滞水したりする湿潤な水文環境が維持されず，さらに水の循環が良好であったと考えられる。また，調査区周辺では，氾濫原においても沼沢地や湿地および放棄流路などの閉鎖的水域が存在していなかったことが想定される。なお，層位による珪藻化石群集の変化がほとんど認められないことから，土手については，水路内やその周辺に供給された河川堆積物を母材としていることが推定される。

このような状況において，SR2の試料番号15は群種組成がやや異なることや，特定の種が多産する傾向から，現地性が高く，当時の流路内の水域環境を反映していると考えられる。多産する Amphora

表6 樹種同定結果

遺構	番号	種類
SX1	①	シャシャンボ
	②	マツ属複維管束亜属
	③	シャシャンボ
	④	マツ属複維管束亜属
	⑤	マツ属複維管束亜属
SX2	①	マツ属複維管束亜属
	②	マツ属複維管束亜属
	③	マツ属複維管束亜属
	④	カクレミノ
SR1	杭①a	エゴノキ属
	杭①b	エゴノキ属
	杭②	クスノキ科
	杭④a	クスノキ科
	杭④b	クスノキ科
	杭④c	クスノキ科

copulataの生態性からは、試料番号15において水深が浅く、流れの少ない環境が推定される。これは、同試料の花粉分析でヒシ属やサンショウモなどの水生植物が特徴的に検出される結果とも調和的である。SR2の試料番号15は、遺構上部の包含層に相当する層準に相当することから、水路の埋積に伴い放棄され凹地状の湿地となった状況を示している可能性がある。

## (2) 古植生

分析試料では、草本花粉が多いのが特長で、特にイネ科が多く検出され、その中には栽培種のイネ属も含まれる。また、イネ科以外の草本類では、カヤツリグサ科、クワ科、バラ科、ヨモギ属など開けた場所に生育する草本類が検出され、ミクリ属、ミズアオイ属、サンショウモ(シダ類)などの水生植物が含まれる。イネ属以外の栽培植物では、ソバ属とベニバナ属が確認される。

上記の花粉組成から、15世紀代に本調査区周辺では、開けた草地在り、水田を含む耕作地も存在していたと考えられる。なお、分析試料からは、寄生虫卵が微量ではあるが検出される。ただし、その検出量はトイレ遺構の約1/100以下である。分析試料が水路埋土であることから、これらの寄生虫卵は、近傍からの再堆積により集積したものとみなされる。寄生虫卵の存在からは、本調査区とその近傍において、人間の生活領域が存在した可能性が示唆される。また、今回の分析残渣の中には微粒炭が多いことにも着目される。この微粒炭では、低率ではあるがイネ科由来と思われるものが検出される。このような微粒炭については、人間による遺跡周辺での何らかの燃焼行為に由来すると推察される。これらのことから、本遺跡とその周辺には、人間が集住する領域が存在したことが想定される。

いっぽう、木本花粉では、マツ属が木本花粉全体の半数近くを占める。マツ属は成長が早く、痩地でも育つことから、植生破壊が起こったあとの二次林として成立することが多い。15世紀代という分析試料の時期をふまえると、遺跡をとりまく山地・丘陵では、人為的な強い植生攪乱によってマツの二次林が成立していたとみなされる。

マツ属以外では、モミ属、ツガ属、コウヤマキ属などの温帯針葉樹、アカガシ亜属、シイノキ属の常緑広葉樹が産出する。これらの種類は、本地域において山地・丘陵を本来構成する主要な要素である。このことから、マツ二次林が展開する山地・丘陵では、上記の温帯針葉樹、常緑広葉樹も生育していたと考えられる。さらに、ヤマモモ属やセンダン属、ムクロジ属、ツバキ属は、常緑広葉樹林中に生育することが多い種類であり、これらの林分やその周辺に生育していたと推定される。

木本花粉の分類群全体をみると、マツ属やシイ・カシ類などを除けば、検出される種類は、ヤナギ属、ハンノキ属、コナラ亜属、クリ属、ニレ属-ケヤキ属、アカメガシワ属、ムクロジ属、イボタノキ属、ブドウ属、ノブドウ属、ツタ属といった林縁や河畔に生育する種類が多い。上記において調査区周辺で草地や耕作地が広がることを指摘したが、花粉分析結果にもとづくと、遺跡が立地する氾濫原の流路沿いや、丘陵と低地の境界付近では、これらの樹木がある程度の林分を形成していたことが推測される。

本遺跡の古植生については、人間活動が活発化する15世紀代以前、城下町が形成されていく中世末～近世についても今後データの蓄積を目指し、より詳細に植生変化について検討していくことが課題である。

## (3) 樹種構成と用材

木材には、合計5種類が認められた。各種類の材質についてみると、針葉樹のマツ属複雑管束亜属は、強度と保存性は比較的高い。広葉樹のシャシャンボとエゴノキ属は、比較的重硬で強度が高い。カクレミノは、軽軟で強度は低い。クスノキ科には多くの種類があり、材質的にもやや重硬な種類から軽軟な種類まで幅がある。

遺構別に見ると、SX1とSX2では、マツ属複維管束亜属が多く、SX1ではシャシャンボ、SX2ではカクレミノが混じる。この結果から、強度・保存性に優れたマツ属複維管束亜属を中心とした木材利用が推定される。いっぽう、SR1の杭材はエゴノキ属とクスノキ科で構成されており、SX1やSX2とは木材利用が異なる。SR1の杭材については、遺跡周辺に生育し、入手が容易な樹木を利用した可能性がある。

#### (4) 出土動物遺存体

同定試料は、西中川ほか(1991)を参考とすると、体高115～120cm程度と推定され、小型馬に属すると考えられる。西中川ほか(1989, 1991)の研究により、全国の古代、中世、近世の遺跡から出土するウマは小型～中型であることがわかっている。また、越智駒や土佐駒などかつて四国に存在した在来馬の1種として野間馬とされており、四国地方では従来小型馬が飼育されている。柳田遺跡において出土した馬骨は、トカラ馬より御崎馬に似ており、四肢骨に比べて頭蓋が大きいなど古代馬の特徴があるとされている(西中川ほか1994)。今回、出土したウマもこれと矛盾しておらず、小型馬に属するとみられる。

#### 引用文献

- 安藤一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.
- Asai, K. & Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophylic and saproxenous taxa. Diatom, 10, 35-47.
- Erdtman G., 1952, Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms (An introduction to palynology. I). Almqvist&Wiksell, 539p.
- Erdtman G., 1957, Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteridophyta, Bryophyta (Illustrations) (An Introduction to Palynology. II), 147p.
- Feagri K. and Iversen Johs., 1989, Textbook of Pollen Analysis. The Blackburn Press, 328p.
- 藤木利之・小澤智生, 2007, 琉球列島産植物花粉図鑑. アクアコーラル企画, 155p.
- 原口和夫・三友清史・小林弘, 1998, 埼玉の藻類珪藻類. 埼玉県植物誌, 埼玉県教育委員会, 527-600.
- 林昭三, 1991, 日本産木材顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 堀内誠示・高橋敦・橋本真紀夫, 1996, 珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について－混合群集の認定と堆積環境の解釈－. 日本文化財科学会第13回大会研究発表要旨集, 62-63.
- 伊藤良永・堀内誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, 23-45.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 小杉正人, 1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.
- 小林弘・出井雅彦・真山茂樹・南雲保・長田啓五, 2006, 小林弘珪藻図鑑. 第1巻, (株)内田老鶴圃, 531p.
- 国土地理院, 2006, 1:25000土地条件図高知.
- Krammer, K., 1992, PINNULARIA. eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J. CRAMER, 353p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1986, Bacillariophyceae. 1. Teil: Naviculaceae. Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/1. Gustav Fischer Verlag, 876p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1988, Bacillariophyceae. 2. Teil: Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/2. Gustav Fischer Verlag, 536p.

- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991a, Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3. Gustav Fischer Verlag, 230p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991b, Bacillariophyceae.4.Teil: Achnantheaceae, Kritische Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/4. Gustav Fischer Verlag, 248p.
- Lowe, R. L., 1974, Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms. Environmental Monitoring Ser. EPA Report 670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinnati. 334p.
- 三宅尚・石川慎吾, 2004, 高知県中村市具同低湿地周辺における完新世の植生変遷. 日本花粉学会誌, 50, 83-94.
- 中村純, 1967, 花粉分析. 古今書院, 232p.
- 中村純, 1980, 日本産花粉の標徴 I II (図版). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第12, 13集, 91p.
- 西中川駿・上村俊雄・松元光春, 1989, 古代遺跡出土骨からみたわが国の牛, 馬の起源, 系統に関する研究—とくに日本在来種との比較—. 昭和63年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書, 197p.
- 西中川駿・本田道輝・松元光春, 1991, 古代遺跡出土骨からみたわが国の牛, 馬の渡来時期とその経路に関する研究. 平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書, 99p.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- Round, F. E., Crawford, R. M. & Mann, D. G., 1990, The diatoms. Biology & morphology of the genera. Cambridge University Press, Cambridge. 747p.
- 島倉巳三郎, 1973, 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.
- 島地謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- 田中正昭, 2002, 日本淡水産動・植物プランクトン図鑑. 584p.
- Vos, P. C. & H. de Wolf, 1993, Diatoms as a tool for reconstructing sedimentary environments in coastal wetlands; methodological aspects. Hydrobiologica, 269/270, 285-296.
- 渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻彰洋・伯耆晶子, 2005, 淡水珪藻生態図鑑. 内田老鶴圃, 666p.
- 柳沢幸夫, 2000, II -1-3-2- (5) 計数・同定. 化石の研究法—採集から最新の解析法まで—, 化石研究会, 共立出版株式会社, 49-50.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- Witkowski, A., Lange-Bertalot, H. & Metzeltin, D., 2000, Diatom flora of Marine coast I. Iconographia Diatomologica 7. A.R.G.Gantner Verlag K.G., 881p.
- Zong, Y. & B.P.Horton, 1998, Diatom zones across intertidal flats and costal saltmarshes in britain. Diatom research, 13, 2, 375-394.

## 付編2 弘人屋敷跡出土動物遺体について

植月 学(山梨県立博物館)

### はじめに

高知市弘人屋敷跡の平成23・24年度調査地点より出土した動物遺体について報告する。遺跡は高知城下に位置し、近世には家老屋敷が存在した区域に相当する。今回の調査では近世を中心に、古代から近代までの動物遺体が検出された。

### I. 資料と方法

資料はいずれも調査時に肉眼観察により回収されたもので水洗選別資料は含まない。

筆者のもとには遺構、遺物番号を付された状態で届いた。同定困難な小破片類は番号を付さずに同封されていたが、これらについても確認し、同定可能な場合には適宜番号を追加した。

**同定** 破片を含め、同定可能なすべての資料を対象とした。同定は原則的に現生標本との比較によったが、貝類の一部については図鑑も参照した。なお、目以下の同定ができない標本については結果を入力していない。

**集計** 貝類は最小個体数(MNI)を求めた。巻貝類は殻軸底部、二枚貝類は殻頂部によりカウントした。二枚貝類は左右のうち数の多い方を用いた。その他破片は表5には示したが、集計からは除外した。脊椎動物遺体は同定できたすべての破片を合計した(同定標本数:NISP)。

**計測** 貝類は殻高を計測した(ハマグリについてのみ殻長も計測した)。脊椎動物遺体はDreisch (1976)の計測方法にしたがい、計測可能なすべての標本を計測した。結果は表5中に示した。

### II. 結果

イシサンゴ目、腹足綱(巻貝類)7、二枚貝綱10、軟骨魚綱1、硬骨魚綱6、爬虫綱1、鳥綱2、哺乳綱7、合計35分類群が同定された(表1)。

#### 1. 種ごとの記載

各種の時期別出土傾向や大きさ、同定の問題などについて述べる。

**イシサンゴ目** 近世のSX12と包含層より出土。現生標本の不備により目以下の同定ができていない。

#### 貝類

**アワビ属** 近世遺構より1点のみ出土。破片のため種の同定をおこなっていない。

**サザエ** 近世と近代で出土。近世は井戸からの出土が多いが、SX12からの出土も目立つ。殻と蓋の数は20点と14点である。殻高の平均は80cmであった。いずれも無棘で、比較的波穏やかな環境に生息していたと推測される。

**イシマキガイ** カワニナを多量に出土した中世溝(SD22)で1点のみ出土。混獲と推測される。

**カワニナ** 中世のみの出土。SD22では200点近くまとまって出土した。殻高は25mm程度である。SR2の1点は殻高39mmと大形(註1)。

**アカニシ、バイ、テングニシ** いずれも1点ずつで近世遺構からの出土。テングニシは殻口部を破損、アカニシは殻体背面に孔があり、食用時の破壊の可能性がある。

**ハイガイ** 近世のみの出土。計測できた6点の殻高の平均は46.3mmであった。

表1 動物遺体種名一覧

花虫綱	ANTHOZOA	軟骨魚綱	CHONDRICHTHYES
イシサンゴ目	Scleractinia	サメ区	Selachii
腹足綱	GASTROPODA	硬骨魚綱	OSTEICHTHYES
アワビ属	<i>Haliotis</i> sp.	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>
サザエ	<i>Turbo (Batillus) cornutus</i>	ハタ科	Serranidae
イシマキガイ	<i>Clithon retropicta</i>	アマダイ属	<i>Branchiostegus</i> sp.
カワニナ	<i>Semisulscopira libertina</i>	シイラ属	<i>Coryphaena</i> sp.
アカニシ	<i>Rapana venosa</i>	ヘダイ	<i>Rhabdosargus sarba</i>
バイ	<i>Balytonia japonica</i>	マダイ	<i>Pagrus major</i>
テングニシ	<i>Hemifusus tuba</i>	爬虫綱	REPTILIA
二枚貝綱	BIVALVIA	ウミガメ科	Cheloniidae
ハイガイ	<i>Tegillarca granosa</i>	鳥綱	AVES
イタヤガイ科	Pectinidae	カモ亜科	Anatinae
ウミギク科	Spondyliae	ハト科	Columbidae
イワガキ	<i>Crassostrea nippona</i>	哺乳綱	MAMMALIA
マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	ヒト	<i>Homo sapiens</i>
ムラサキガイ	<i>Soletellina diphos</i>	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>
ヤマトシジミ	<i>Cobicula japonica</i>	イヌ	<i>Canis familiaris</i>
アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	ウマ	<i>Equus caballus</i>
ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>
オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>
		ウシ	<i>Bos taurus</i>

学名・配列は以下の文献による。

- 貝類：奥谷喬司 編 2000 『日本近海産貝類図鑑』 東海大学出版会（海産）  
 奥谷喬司 編 1986 『決定版 生物大図鑑 貝類』 世界文化社（淡水産）  
 魚類：中坊徹次 編 2013 『日本産魚類検索 全種の同定 第三版』 東海大学出版会  
 鳥類：黒田長久 編 1984 『決定版 生物大図鑑 鳥類』 世界文化社  
 哺乳類：安部 永ほか 1994 『日本の哺乳類』 東海大学出版会

イタヤガイ科 近世の井戸から1点のみ出土。破片のため種の同定をおこなっていない。

ウミギク科 近世の井戸から1点のみ出土。標本の不備により種の同定ができていない。

イワガキ 近世を中心に出土。殻高の平均は129mmであった。特にSX12でまとまって出土した。

マガキ 近代のSX3より左殻が2点のみ出土。

ムラサキガイ 近世土坑(SK139)より4点が出土。殻長は50～70mm程度。

ヤマトシジミ 中世～近代の遺構で出土。殻高は近代が24mm, 26mm, 中世が21mm, 24mmであった。近世土坑(SK139)よりまとまって出土した16点の平均は19mmとやや小形であった。

アサリ 近代遺構と時期不明の2点のみ。

ハマグリ 中世溝(SR2)より殻高約80mmの大形で、合弁と考えられる1個体分の左右殻が出土した。近世もいずれも大形だが、細かく見ると井戸や土坑出土標本では殻高60mm以下(殻長約50～70mm)であるのに対し、不定形の大型土坑(SX12)の2点は70mm以上とより大形で、遺構により差がある。

オキシジミ 近世土坑(SK139)より4点2個体分が出土。

#### 魚類

サメ類 表土より大形(径32mm)の椎体1点出土。

スズキ 近世遺構より主鰓蓋骨1点が出土。全長54cmの現生標本より大きい。

ハタ科 中世井戸(SE12)から出土した擬鎖骨は全長76cmのクエ現生標本よりもかなり大きい。近世の井戸(SE4)からも腹椎が出土しているが、神経棘を破損しておりハタ科とは断定できない。現生ハタ科標本との比較から全長40cm代と推定される。

アマダイ属 近世井戸(SE4)より3点の標本が出土(主上顎骨・尾椎)。いずれも強く被熱し白色を呈する。アカアマダイ現生標本との比較により全長25～42cmの間と推定される。

シイラ属 近世井戸や土坑より3点が出土(腹椎・尾椎)。

ヘダイ 近世井戸(SE4)より尾椎2点が出土。椎体側面が特徴的な多孔質を呈する点で他のタイ科と区別した。

マダイ 近世井戸(SE4)より特徴的な上後頭骨が出土。

タイ科 近世土坑(SK139)や井戸(SE4)より属以下の同定が困難な前鰓蓋骨と椎骨が出土。全長42cmのクロダイ現生標本と比較すると、前鰓蓋骨はやや小さく、椎骨はいずれも小さい。SE4から出土した口蓋骨は参照した中ではタイ科に最も近かったが、キダイ、クロダイ、チダイ、マダイ、ヘダイとは形状が一致しなかった(写真図版2-16)。個体差の可能性もあるが、未参照の同科魚類、もしくは近縁種の可能性もあるため「タイ科?」としておく。

#### 爬虫類

ウミガメ科 近世溝(SD17)より肋骨板破片が1点のみ出土した。

#### 鳥類

カモ亜科 近世井戸(SE7・10)より上腕骨と中手骨が出土。上腕骨はカルガモ現生標本と同程度の大きさ。

ハト科 カモ科と同じ近世井戸(SE7)より橈骨が1点のみ出土。キジバト現生標本よりやや大きい。

#### 哺乳類

タヌキ 近代の大型土坑(SX3)より肩甲骨が1点出土。

イヌ 中世溝(SD22)から成獣の下顎骨が1点出土。近世は井戸を中心に複数個体分が出土。一部の部位のみで上腕骨、橈骨が目立つ。中世、近世共に計測値は柴犬に近い。

ウマ 今回の調査で唯一の古代に属する標本がSX8より出土。下顎M3の歯冠高にもとづき西中川・松元(1991)の推定式により算出された年齢は10.6歳であった。中世は溝を中心に5点の標本が出土した。SD8の下顎P3/4の歯冠高による推定年齢は5～6歳程度であった。脛骨や中足骨の計測値から林田・山内(1957)および西中川・松元(1991)の推定式により算出した体高はそれぞれ約110, 112, 116cmでいずれも小型馬の範疇に属する。高知県内では高知市柳田遺跡の古墳時代前期の出土例がある。西中川ほか(1994)によれば推定体高120cm前後とやはり小型で、愛媛県で飼育されている在来馬である野間馬に近いとされる。高知県域でもかつて土佐駒と呼ばれる小型馬が飼育されていた。

時期不明ながらQ8グリッドから出土した足根骨は第1, 2, 4, 中心足根骨が癒合し、周辺に顕著な骨増殖が認められた(図版3-3)。中世のSR2から出土した完存する中足骨の近位端にもやはり一部骨増殖が認められた(図版3-5。中心足根骨に関節する部位だが上記足根骨標本とは左右が異なる)。第3中足骨と第2中足骨が癒合するが、第2, 第4の接合面には骨増殖は認められず、Bendrey (2007)の基準に照らせば、それぞれ1aと0で病変の度合いは弱い(註2)。

イノシシ 近世～近代遺構で4点の標本が出土した。年代的にブタが混ざる可能性もあるが、現生イノシシ標本との形態差は認められなかった。いずれも成獣である。

ニホンジカ 脊椎動物でもっとも多く、26点が出土した。内訳は中世1, 近世17, 近代6, 不明2である。

土坑や井戸を中心に出土した。近世は後肢(脛骨・中足骨)が目立つのに対し、近代は椎骨や寛骨など近世には見られない部位が目につく。

全般に小形で、脛骨4点の遠位端幅の平均は30.4cmであった。同時期の比較資料にあたっていないが、縄文時代の東北～中部地方の計測値(白木・西本1994)と比較するともっとも小形の愛知県伊川津貝塚例(平均35.4mm)よりもさらに小さい。また、中世末の大友府内町跡とはサイズが比較的近い(4点の平均32.2mm。丸山・松井2013)。今後地域差と年代差の両面から検討していく必要がある。

ウシ 中世遺構(いずれも溝)から3点出土した。

## 2. 組成

### A. 時期別傾向(表2・3, 図1・2)

古代 ウマ臼歯が1点検出されたのみである。

中世 ウマ, ウシ, イヌの家畜を主体とする。貝類は少量だが、小形のカワニナがまとまって出土した溝がある。

近世 貝類, 魚類が主体である。哺乳類はシカが主体となる。家畜のウマ, ウシが見られなくなり、イヌのみとなる。少量の鳥類も出土する。後述する遺構ごとの出土傾向から食料残滓が主体と考えられる。

近代 遺構・出土数共に少ない。魚類は見られないが、貝類主体の不定形土坑(SX3)やシカ主体の土坑(SK287)のあり方は基本的に近世の様相を受け継いでいるようである。ただし、先述のようにシカの部位組成には差異も認められる。

### B. 遺構別傾向

溝(SD・SR) 中世の溝であるSD8・9・23, SR1などではウシ, ウマを主体とする。魚貝類やシカなどの食料残滓を主体とする下記の近世遺構とはまったく傾向が異なり、場の性格に大きな変化があったことが窺える。

井戸(SE) 中世のSE12以外は近世である。SE4では多くの魚類と貝類が検出され、食料残滓を廃棄したと考えられる。SE7やSE10も貝類を主体としながら少量の魚類, 鳥類, シカなどを含む。廃絶後の井戸に食料残滓を投棄することが一般的であったことが窺える。この点から類推すればシカのみ検出されたSE5, イノシシとイヌが検出されたSE8も食料残滓を廃棄した可能性が高い。いずれも解体を示唆する一部部位のみの出土であり、近世城下における獣肉食を示す資料である。

土坑(SK) 近世のSK139では貝類, 魚類, シカが, SK154ではシカがまとまって出土した。近代のSK287でもシカがまとまって出土した。土坑も井戸同様に食料残滓の廃棄に使用されていたと考えられる。SK139はオキシジミ, ムラサキガイ, ハイガイ, ヤマトシジミなど小型の二枚貝類主体で構成される点で特徴的である。

不定形の大型土坑(SX) SX3(近代)やSX12(近世)では貝類が多く出土している。イワガキ, サザエ, ハマグリ(大形)といった大型の貝類が目立つ。SX3は池, SX12は井戸の可能性が指摘されている。大型貝類は本来食料残滓であったとしても、これらの遺構を埋め立てる目的で選択的に投棄された可能性がある。ハマグリが井戸やその他の土坑に比べて大形である点や、ハイガイ, ヤマトシジミなどの小型食用貝類が見られない点もその根拠である。

## 3. 加工痕・被熱痕など

明瞭な加工痕が確認できたのはSK139から出土した鹿角片1点(近世)のみであった。角先端部分の標本で、近位部には鋸状の工具により切断した際の条線をとどめる。先端に近い部分は曲面を平坦にするように両側から研磨している。先端からは鑿状の工具で長軸方向に連続的に打撃が加えられ、階段状の

表2 貝類遺体集計

		近代	近世	中世	合計
サザエ		3	20		23
サザエ	蓋		14		14
イシマキガイ				1	1
カワニナ				196	196
アカニシ			1		1
バイ			1		1
テングニシ			1		1
ハイガイ	右		5		5
ハイガイ	左		4		4
ウミギク科			1		1
イワガキ	右	1	5		6
イワガキ	左		9		9
マガキ	左	2			2
ムラサキガイ	右		3		3
ムラサキガイ	左		1		1
ヤマトシジミ	右	2	17		19
ヤマトシジミ	左	2	9	2	13
ハマグリ	右	1	7		8
ハマグリ	左		7	2	9
オキシジミ	右		2		2
オキシジミ	左		2		2
計		11	109	201	321

表3 脊椎動物遺体集計

	不明	近代	近世	中世	古代	合計
サメ類	1					1
スズキ			1			1
ハタ科				1		1
アマダイ属			3			3
シイラ属			3			3
ヘダイ			2			2
マダイ			1			1
タイ科			5			5
魚類計			15	1		16
ウミガメ科			1			1
カモ亜科			2			2
ハト科			1			1
鳥類計			3			3
シカ	3	6	17			26
イノシシ		1	3			4
タヌキ		1				1
イヌ			7	1		8
ウマ	2	1		4	1	8
ウシ				3		3
ヒト				1		1
計	6	9	64	11	1	91

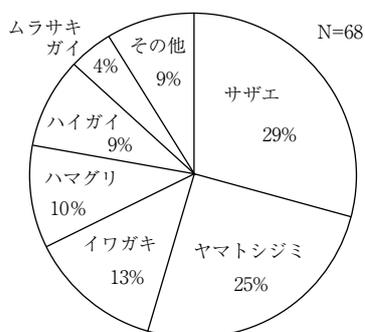


図1 貝類組成 (近世)

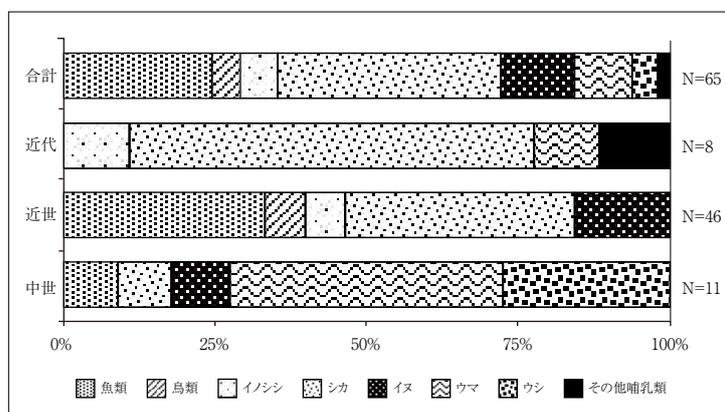


図2 脊椎動物遺体組成の時期的変化

断面を呈する。曲面を平坦加工していることから、小形の板状薄片を連続的に採取することが目的と推測されるが、類例の探索をおこなっていないので不確かである。

被熱痕をとどめる標本は少ないが、比較的小型の魚類に顕著であった。いずれも白色化するほど強く焼けており、明らかに調理に伴うものではない。二次的焼成を受けた後に廃棄されるような状況が想定される。

解体時の切痕は近隣の御台所屋敷跡で多く確認されていることから、注意して確認したが、明確なものは認められなかった。

### Ⅲ. 考察

最後に、動物遺体からみた環境と資源獲得域、および周辺遺跡の成果との比較を通じた高知城下における動物資源利用の特徴について若干の考察を加える。

#### 1. 環境と資源獲得域

まず今回出土した魚貝類の生息域を以下にまとめる。

貝類：淡水(カワニナ), 汽水(ヤマトシジミ), 湾奥の泥底干潟(ハイガイ, オキシジミ), 湾央の砂泥干潟(ハマグリ, アカニシなど), 岩礁域(サザエ, イワガキ)

魚類：内湾(スズキ, ヘダイ), 沿岸砂泥底(アマダイ属), 沿岸岩礁(ヘダイ, マダイ, ハタ科), 沿岸～沖合表層(シイラ属)

淡水のカワニナは中世のみの出土であり、近世以降は主に汽水域から湾奥の干潟を経て、内湾や沿岸が漁場となっていたようである。近世の大坂城下(丸山ほか 2010)で出土しているタラのように明らかに遠隔地から搬入した種は見られない。外洋にまで分布する種はシイラ属のみであり、カツオやマグロ属など外洋への積極的出漁を示す種も出土していない。基本的には土佐湾周辺で漁獲可能な種により構成される。こうした傾向は下記の御台所屋敷跡でも同様である。

鳥獣類ではカモ類も同様に城下周辺から土佐湾にかけての湿地や水域で捕獲可能であっただろう。ハト科, イノシシ, シカは捕獲の場を特定することは難しいが、やはり高知城近郊で捕獲可能であったと推測される。以上は近世高知城下の物流や商圏を考える上で参考になろう。なお、ハト科は大坂城下町で主体的に出土する地点が報告され(丸山ほか 2010), 食用となった可能性と共に、東京都動坂遺跡の成果(金子 1978)をもとに、鷹狩り用のワシ・タカ類の餌であった可能性も指摘されている。

#### 2. 高知城下における動物資源利用の特徴

本遺跡周辺では過去に西弘小路遺跡(高知県文化財団埋蔵文化財センター編 2012)と御台所屋敷跡(高知県教育委員会編 1994)で動物遺体の報告が行われている。前者は出土遺物から中級～上級武家屋敷地とされ、後者は高知城内に位置し、山内家など最上級層に関わる可能性がある。今回の調査地点は家老屋敷地であり、いずれも武家の居住区域だが、階層には差がある。

表4に3遺跡の動物遺体組成を示した。まず、近世で共通性についてみると、貝類ではサザエ, ハイガイが3遺跡から、アワビ属, イワガキ, ヤマトシジミ, ハマグリ, オキシジミが2遺跡から検出され、近世高知城周辺で好んで食されていたと考えられる。また、獣類では3遺跡ともシカの出土数が多く、狩猟獣あるいは食肉として重視されていたことがわかる。イノシシも本遺跡と西弘小路遺跡で検出され、シカに次ぐ位置を想定できる。

一方で、本遺跡で食用に供された可能性を指摘したイヌは、他の2遺跡では出土していない。シカ, イノシシほどの普遍性をもっていなかったのか、地点的な偏りによるのか、今後追究すべき課題である。また、魚類については御台所屋敷跡と本遺跡では比較的多く出土しているのに対し、西弘小路遺跡では1点のみと隔たりがある。3遺跡の出現頻度の差は階層による魚食頻度の差を示している可能性もある(小型魚は調査・回収法の影響を受けるので特に大型魚食)。ただ、西弘小路遺跡は動物遺体の出土量自体が少ないので、遺存度の問題や地点による偏りの可能性もあり、今後さらに検討を要する。

最後に、時期的な変化について検討する。中世の資料が検出されているのは本遺跡のみである。本遺跡では中世にはウシ, ウマの大型家畜が出土するのに対し、近世にはまったく出土しないという明確な変化がみられた。他の2遺跡でも西弘小路遺跡のウマ1点を除いて2種は出土していない。

表4 周辺遺跡との動物遺体組成の比較

		西弘小路	御台所跡	弘人屋敷跡 (近世)	弘人屋敷跡 (中世)
		武家屋敷	大高坂城	家老屋敷	集落址
	サンゴ			2	
貝類	アワビ属		1	1	
	サザエ	2	4	20	
	イシマキガイ				1
	カワニナ				196
	アカニシ			1	
	バイ			1	
	テングニシ			1	
	イシガイ科		1		
	ハイガイ	1	1	9	
	イタヤガイ科			1	
	ウミギク科			1	
	イワガキ	1		14	
	マガキ				
	シオフキ		1		
	ムラサキガイ			4	
	ヤマトシジミ		2	26	2
	タマキガイ		1		
アサリ	1				
ハマグリ		3	14	2	
オキシジミ		1	4		
魚類	サメ類				
	コイ		1		
	ボラ		1		
	スズキ		1	1	
	ハタ科		9		1
	アマダイ科			3	
	シイラ			3	
	ヘダイ		10	2	
	マダイ		1	1	
	タイ科	※	1	5	
ウミガメ科			1		
鳥類	カモ亜科			2	
	ハト科			1	
哺乳類	イノシシ	2		3	
	シカ	12	17	17	
	ネコ	3	1?		
	イヌ			7	1
	ウマ	1			4
	ウシ				3
合計		23	56	145	210

※タイ科? 腎臓棘1点

数値は同定標本数 (NISP)

近世における牛馬遺体の欠落は興味深い問題を提起する。一つは牛馬肉食の問題で、高知城や周辺城下に住まう上層の武家階級では牛馬肉の消費が忌避された可能性が考えられる(註3)。いずれの遺跡でも野生獣であるシカは持ち込まれ、解体、食用、廃棄されたと推定されることから、牛馬のみ他地点で解体されて肉だけを食用に持ち込んだとは考えにくい。

二つめは、斃牛馬処理の問題である。近世の武家にとって特に乗用のための馬の利用が重要であったことを考えれば、何らかの形で遺体を処理する必要性が生じたはずである。遺体がどう処理されたかを解釈する上で、松井章(2004)による畿内での斃牛馬処理の変遷に関する研究が参考になる。松井は中世においては斃牛馬を河川や溝、土坑に投棄していたが、中世後期から近世初頭にかけて、斃牛馬処理権が特定集団に独占されることにより、量がまとまった牛馬骨に商品的価値が生じ、流通システムが確立したことを示した。さらに、その結果として、遺跡から牛馬骨埋納土坑が姿を消したと論じた。

上記の畿内の状況に照らし、本遺跡でも同様に、中世には溝などに牛馬遺体が投棄されていたのに対し、近世には城下の外(少なくとも中上級武家以上の屋敷地の外)で処理がおこなわれるようになったと解釈することもできる。つまり、高知城周辺においても近世以降には斃牛馬処理のシステムが確立していた可能性がある。なお、破片1点のみながら穢れという点では最たるものであると考えられる人間の遺体が中世で検出されている点も、中世と近世における場の性格の変化を考える上で示唆的である。

中世の馬はいずれも小型で、顕著な骨増殖が認められた足根骨標本もあった(註4)。山崎健は藤原宮跡出土の馬の中心足根骨に

認められた同様の骨増殖(ただし、距骨との癒合も見られる)を飛節内腫の症例と判断し、宮造營の資材運搬に伴う過重労働の結果であると論じている(山崎 2011, 2012)。本遺跡例も過重労働の結果とすれば、主に荷駄馬として使われていた馬が廃棄された可能性が考えられ、近世期の場の性格から想定される上級武家の乗用馬とは異なる。この点でも中世から近世への場の性格の変化を窺わせる。なお、推定体高がいずれも 120cm 未満と小型であることも荷駄馬であった可能性を示唆する。ただし、中世の長宗我部の軍馬が小形であったことを物語る記録・伝承もあるので(注5)、小形であることのみをもって乗用・軍用に用いられなかったとは言い切れない。

以上のように、本地点の調査成果は、中世から近世にかけて動物の扱いの変化や場の性格の変化を検討する上で興味深い資料を提供した。しかし、依然として限られた地点、資料数による推測であり、城下の他区域や文献記録の調査と合わせて今後議論を深めていく必要がある。

註1：本稿では種内での大小を指す場合は「形」、種としての大小を指す場合は「型」を用いる。例：ハマグリの中の「大形」・「小形」。「大型」貝類であるサザエと「小型」貝類のヤマトシジミ。

註2：ギュンデム・本郷(2013)は本基準により東日本の古代～中世馬の中手・中足骨に多数の病変を確認している。

註3：16世紀末から17世紀初めにかけて日本に滞在したポルトガル人宣教師のロドリゲスは日本人がすべての家畜の肉を忌み嫌い、「馬も、牛も食わず、猪を除いて豚をごくまれに食べる」こと、それは「彼らが手飼いのものを不浄とし、自分の家で育てた動物を殺すのは残酷だと思うからである」と記しており、特に彼が接する機会が多かった上層身分における牛馬食への意識を窺うことができる(ロドリゲス1967:549頁)。

註4：本標本は時期不明だが、時期の判明するウマ標本はいずれも中世に属するので、本標本も中世である可能性が高い。

註5：野本 亮氏(高知県立歴史民俗資料館)のご教示による。

謝辞：宮里 修氏(高知県立埋蔵文化財センター)には貴重な分析の機会を与えていただき、種々ご教示いただいた。現生標本の利用にあたっては西本豊弘先生(国立歴史民俗博物館)、港区立港郷土資料館、同館・山根洋子氏、奈良文化財研究所環境考古学研究室にお世話になった。樋泉岳二氏(早稲田大学)、丸山真史氏(奈良文化財研究所)には魚類の同定についてご教示いただいた。野本 亮氏(高知県立歴史民俗資料館)、山崎 健氏(奈良文化財研究所)には文献入手に際しお世話になった。末筆ながら記して感謝申し上げる次第である。

## 引用文献

- 金子浩昌 1978 「動坂遺跡出土の動物遺体」『文京区動坂遺跡 動坂貝塚調査会  
ギュンデム, ジャン・ユムニ・本郷一美 2013 「遺跡出土馬骨にみられる病変について」『動物考古学』30 237-248頁  
白木紀子・西本豊弘 1994 「縄文時代のシカ・イノシシの大きさの変異」『動物考古学』2 39-52頁  
高知県教育委員会 編 1994 『史跡 高知城跡－御台所屋敷跡発掘調査報告書－』  
高知県文化財団埋蔵文化財センター 編 2012 『高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第123集 西弘小路遺跡』  
西中川 駿・日高祥信・菊池直樹 1994 「出土馬骨について」『柳田遺跡 高知県文化財団埋蔵文化財センター 231-239頁  
西中川 駿・松元光春 1991 「遺跡出土骨同定のための基礎的研究－とくに在来種および現代種の骨、歯の計測値の比較」『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』科学研究費成果報告書 164 - 188頁  
林田重幸・山内忠平 1957 「馬における骨長より体高の推定法」『鹿児島大学農学部学術報告』6 146-156頁  
松井 章 2004 「近世初頭における斃牛馬処理・流通システムの変容」『文化の多様性と比較考古学』考古学研究

会 407-416頁

- 丸山真史・池田 研・宮本康治 2010 「大坂城下町跡出土の動物遺存体-中央区高麗橋3丁目の調査から-」『大阪歴史博物館 研究紀要』8 35-48頁
- 丸山真史・松井 章 2013「中世大友府内町跡から出土した魚類・両生類・爬虫類・哺乳類について」『豊後府内17 中世大友府内町跡第88・95次調査』第2分冊 大分県教育庁埋蔵文化財センター 398-412頁
- 山崎 健 2011 「藤原宮造営期の馬の骨に認められる骨病変」『奈良文化財研究所紀要2011』 74-75頁
- 山崎 健 2012 「藤原宮造営期における動物利用—使役と食を中心として—」『文化財論叢Ⅳ』 奈良文化財研究所 345-365頁
- ロドリゲス, ジョアン(江馬 務ほか訳) 1967 『日本教会史』上 岩波書店
- Bendrey, R. 2007 Ossification of the interosseous ligaments between the metapodials in horses: a new recording methodology and preliminary study. *International Journal of Osteoarchaeology* 17: 207-213.
- Dreisch, A. von den. 1976 *A guide to the measurement of animal bones from archaeological sites*. Bulletin No.1. Peabody Museum, Harvard University, Massachusetts.

#### 図版1 サンゴ・貝類

イシサンゴ目: 1. (G-1), 2. (SK82-1) アワビ属: 3. (SX12-3) サザエ: 4. (SE10-29), 5. (SE10-25)  
 イシマキガイ: 6. (SD22-3b) カワニナ: 7. (SR2-Sh09) アカニシ: 8. (SK82-2) バイ: 9. (SE4-18)  
 テングニシ: 10. (SE7-2) イタヤガイ科: 11. (SE10) ハイガイ: 12. (SK139-7)  
 ウミギク科: 13. (SE10-19) イワガキ: 14. 左(SE10-9), 15. 右(SX12-37) マガキ 16. (SX3-Sh05)  
 ムラサキガイ: 17. (SK139-19) ヤマトシジミ: 18. (C区基礎内丸太-Sh13a)  
 アサリ: 19. (G-2), 20. (SX3-Sh07b) オキシジミ: 21. (SK139-8) ハマグリ: 22. (SR2-Sh10)

\* ( )内は遺構・遺物番号

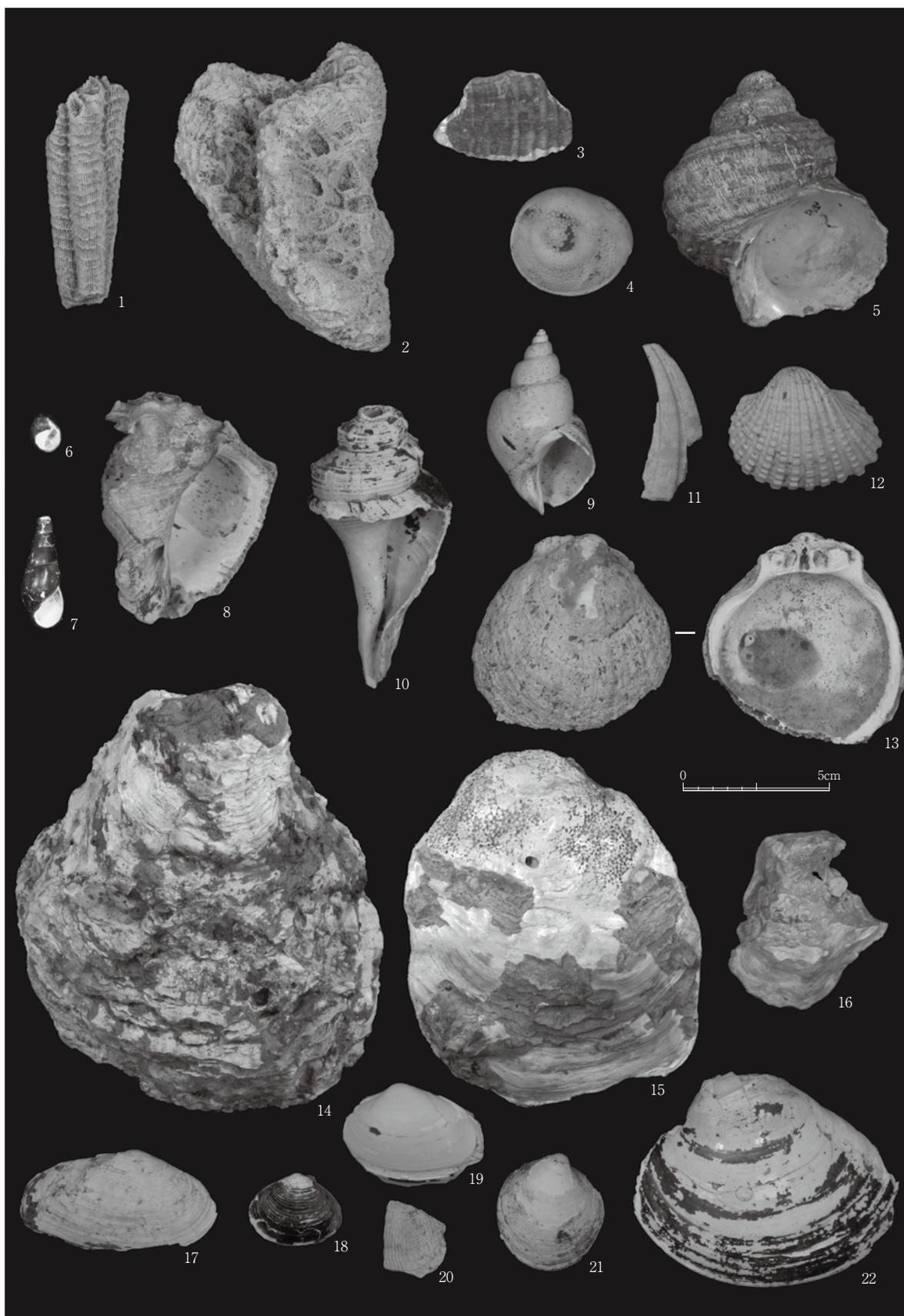
#### 図版2 魚類・爬虫類・中小型哺乳類

サメ類: 1. 椎体(表土-Bo08) スズキ: 2. 主鰓蓋骨L (SX12-12) ハタ科?: 3. 腹椎(SE4-32)  
 ハタ科: 4. 擬鎖骨R (SE12-1) アマダイ科: 5. 主上顎骨R (SE4-27), 6. 尾椎(SE4-25), 7. 主上顎骨L (SE4-32d)  
 シイラ: 8. 腹椎(SX2-Bo07) 9. 尾椎(SE10-7) ヘダイ: 10. 尾椎(SE4-21), 11. 尾椎(SE4-31)  
 マダイ: 12. 上後頭骨(SE4-35) タイ科: 13. 前鰓蓋骨R (SK139-3), 14. 腹椎(SE4-32b), 15. 尾椎(SE4-32c)  
 タイ科?: 16. 口蓋骨R (SE4-30) ウミガメ科: 17. 肋骨板(SD17-1)  
 カモ亜科: 18. 上腕骨R (SE7-4), 19. 中手骨R (SE10-2) ハト科: 20. 橈骨R (SE7-11) ヒト: 21. 肩甲骨L (SX5-1)  
 タヌキ: 22. 肩甲骨L (SX2-Bo01)  
 イヌ: 23. 下顎骨L (SD22-1), 24. 後頭骨(SX12-18), 25. 上腕骨R近(SE8-3), 26. 上腕骨R遠(SE8-2)

\*縮尺 5~7,11,14,15: 2倍 10,16:1.5倍 2,3,8,9,12,13,18~20:等倍 1,4,17,21~26:2/3. \*\* ( )内は遺構・遺物番号

#### 図版3 大型哺乳類

ウマ: 1.P3/4R (SD8-1), 2.M3L (SX8-1), 3. 第1・2・4・中心足根骨(Q8grid-Bo11), 4. 脛骨L (SR1-Bo03), 5. 中足骨L (SR1-Bo04)  
 イノシシ: 6. 橈骨R (SX9-2), 7. 第4中足骨R (SE8-1), 8. 尺骨L (SE10-33~35), 9. 脛骨R (O8-KG7-Bo02)  
 シカ: 10. 環椎(SK287-h), 11. 腰椎(SK287-bcd), 12. 上腕骨L (攪乱-Bo09), 13. 中手骨(SK287-f), 14-1. 角 (SK139-2) 14-2. 加工部分, 15. 大腿骨R (SK139-1), 16. 寛骨L (SK287-a), 17. 踵骨R (SE5-3), 18. 中節骨 (SK139-20), 19. 中足骨L (SE4-5), 20. 脛骨L (SK287-e)  
 ウシ: 21. 上顎M (SR1-To01), 22. 距骨R (SD23-1) \*14-2のみ縮尺任意 \*\* ( )内は遺構・遺物番号



図版1 サンゴ・貝類



図版2 魚類・爬虫類・中小型哺乳類



図版3 大型哺乳類

表5-1 出土動物遺体一覧

遺構	時期	種	左右	数	部位	位置	被熱	写真	備考	計測値(mm)	整理番号		
SR1		ウマ	左	1	脛骨	近位端-遠位端		○	近位端欠け	Bd:57.7, 推定体高 116.2cm	Bo03		
			右	1	脛骨	遠位端				Bd:51.4, 推定体高 109.5cm	Bo12		
			左	1	第2+第3中足骨	完存		○	第3近位に骨増殖。第2が癒合。	GL:223.8,B:43.4,Bd:38.8, 推定体高 111.5cm	Bo04		
SR2	15c 後	ウシ	?	1	上顎後臼歯			○			To01		
			カワニナ		1				○			Sh09	
			ヤマトシジミ	左	2						SH:24, 21	Sh08	
			ハマグリ	左	1				○	左右合弁。 殻頂部被熱による剥落。		Sh10a	
			右	1			○		SH:78 ± SL:94 ±	Sh10b			
			?	1		破片				Sh12			
SD8	15c 末	ウマ	右	1	下顎第3/4前臼歯			○		L:27.6 ± ,B:15.3,HB:53.6	1		
		ウシ	?	1	上顎後臼歯						2		
SD9	16c	ウマ?	?	1	臼歯	破片					1.2		
SD17	近世	ウミガメ科		1	肋骨板			○			1		
SD22	中世	イシマキガイ		1				○				3b	
		カワニナ		1				○				3a	
		ハマグリ	左	1								2	
		イヌ	左	1	下顎骨	[P34M12x]		○		MIL:18.7		1	
SD23	15c 前	ウシ	右	1	距骨	完存		○		GLI:55.8 ±	1		
SE4	19c	サザエ		1								6	
				1								8	
				1									9
				1									13
				1									17
				1									20
				1	蓋								11
				1	蓋								12
				1		破片							34
		サザエ?		1		破片						14	
		バイ		1					○			18	
		ハイガイ	左	1							SH:45	19	
			右	1							SH:53	7	
		イワガキ	左	1		破片						16	
		ハマグリ	左	1								15	
			右	1								10	
		ハマグリ?	左	1		破片						33	
		ハタ科?		1	腹椎				○				32
		アマダイ科	右	1	主上顎骨				○	○			27
			左	1	主上顎骨				○	○	関節部欠け		32d
				1	尾椎				○	○			25
		ヘダイ		1	尾椎				○	○		長:9.7, 径:8.4	21
				1	尾椎				○	○		長:7.6, 径:6.2	31
		マダイ		1	上後頭骨				○				35
タイ科		1	腹椎				○	○			32b		
		1	尾椎				○	○			22		
		1	尾椎				○	○			24		
		1	尾椎				○	○			32c		
タイ科?	右	1	口蓋骨			○	○			30			
シカ	左	1	中足骨	近位端-骨幹			○		Bp:25.6		5		
SE5	19c	シカ	右	1	脛骨	骨幹-遠位端				Bd:31.6		1	
			右	1	踵骨	近位端			○			3	
			右	1	中足骨	骨幹						2	
SE7	19c	サザエ		1	蓋							7	
				1		破片						8	
				1		破片						10	
		テングニシ		1				○				2	

\*哺乳類の計測位置はDreisich (1976)による。貝類はSH:殻高, SL:殻長。

表5-2 出土動物遺体一覧

遺構	時期	種	左右	数	部位	位置	被熱	写真	備考	計測値(mm)	整理番号	
SE7	19c	ハイガイ	左	1							1	
			右	1							9	
		ハマグリ	右	1		破片					12	
		ハマグリ?	?	1		破片					13	
		シイラ		1	腹椎					長:10.0,径:8.2	5	
		カモ科	右	1	上腕骨	近位端		○	カルガモと同大	Bp:20.8	4	
		ハト科	右	1	橈骨	完存		○	キジバトよりやや大	GL:49.3	11	
		イヌ?	左	1	上腕骨	骨幹				6		
SE8	近世	イヌ	右	1	上腕骨	近位端		○	骨端外れ。		3	
			右	1	上腕骨	遠位端		○	SE8-4と同個か	Bd:28.0	2	
			右	1	橈骨	完存			遠位端欠け。SE8-2と同個か。	Bp:15.8	4	
			右	1	第4中足骨	近位端		○			1	
SE10	18c	サザエ		1							13	
				1							18	
				1				○			25	
				1							36	
				1							37	
				1	蓋							11
				1	蓋							16
				1	蓋							17
				1	蓋							28
				1	蓋				○			29
			1			破片					10	
			右	1						SH:38	14	
			?	1		破片			○		-	
			?	1							19	
			左	1					○		9	
			左	1							21	
			右	1							30	
			左	1						SL:56±	12	
			左	1							22	
			左	1						SL:49±	23	
			左	1						SL:55	24	
			左	1						SH:59,SL:72±	27	
			右	1						SH:58±,SL:62±	26	
			?	1		破片					15	
				シイラ		1	尾椎			○	長:21.0	7
				カモ科	右	1	中手骨	骨幹		○		2
				イヌ	右	1	上腕骨	近位部 - 遠位部				32
	左	1	橈骨		近位端 - 遠位部			近位端欠け		3		
		右	1	橈骨	近位端 - 骨幹				Bp:14.5±	5+6		
		イノシシ	左	1	尺骨	近位端		○	BPC:22.3±	33-35		
		シカ	右	1	中手骨	近位端 - 骨幹				Bp:23.7	20	
	右		1	脛骨	骨幹 - 遠位端				[カ2]と接合	Bd:28.3	1	
SE12	14c	ハタ科	右	1	擬鎖骨			○			1	
SX1	17c 後	シカ	右	1	脛骨	近位端					Bo13	
SX2		シイラ		1	腹椎			○	長:17.8,径:14.2		Bo07	
SX3	19c 後	サザエ		1							Sh03	
				1							Sh04	
		イワガキ	右	1								Sh01
				1		破片						Sh02
		マガキ	左	1					○			Sh05
			左	1								Sh06
		アサリ	左	1		破片			○			Sh07b
		ハマグリ	右	1								Sh07a
タヌキ	左	1	肩甲骨				○			Bo01		

\*哺乳類の計測位置はDreisch (1976)による。貝類はSH:殻高, SL:殻長。

表5-3 出土動物遺体一覧

遺構	時期	種	左右	数	部位	位置	被 熱	写 真	備考	計測値(mm)	整理 番号		
SX5	16c	ヒト	左	1	肩甲骨			○	肩峰		1		
SX8	10c 後 ~11c	ウマ	左	1	下顎第3 後臼歯			○		L:31.4,B:12.4,HC:37.6	1		
SX9	18c 前	サザエ		1							3		
		イノシシ	右	1	橈骨	遠位端		○		Bd:25.9	2		
SX12	19c	サンゴ		1							20		
		アワビ属		1		破片		○			3		
		サザエ		1								4	
				1								10	
				1								27	
				1								31	
				7								40	
				1 蓋								9	
				1 蓋								23	
				1 蓋								24	
				1 蓋								25	
				1 蓋								26	
				1 蓋								34	
				1			破片					2	
				1			破片					7	
			1			破片					11		
		ハイガイ	右	1								6	
		イワガキ	左	1								16	
			左	1								28	
			左	1								29	
			左	1								35	
			左	1								36	
			左	1								39	
			左	1								41	
			右	1								14	
			右	1								15	
			右	1								17	
		?	1			破片			○		30		
		ハマグリ	左	1								SH:73,SL:88±	5
			左	1			破片					32	
右	1									SH:83,SL:94+	19		
右	1									22			
右	1								38				
ハマグリ?	?	1		破片					33				
スズキ	左	1		主鰓蓋骨			○			12			
イス		1		後頭骨			○			18			
イノシシ/シカ	右	1		上腕骨	遠位端				骨端欠け	1			
シカ	右	1		脛骨	破片				前面	13			
SK50	17c	サザエ		1							1		
SK82	近世	サンゴ		1				○			1		
		サザエ?		1		破片					3		
		アカニシ		1					○		2		
SK139	18c	ハイガイ	左	1				○		SH:44	7		
			右	1		破片					6		
			右	1							SH:40	11	
		ヤマトシジミ	左	9								22a	
			右	17							SH:19 (平均)	22b	
		ムラサキガイ	左	1								16	
			右	1								17	
			右	1							SH:33,SL:54	18	
右	1						○		SL:68	19			

\*哺乳類の計測位置はDreisch (1976)による。貝類はSH:殻高, SL:殻長。

表5-4 出土動物遺体一覧

遺構	時期	種	左右	数	部位	位置	被熱	写真	備考	計測値(mm)	整理番号			
SK139	18c	ハマグリ	右	1						SH:55±	9			
		ハマグリ?	?	1		破片						5		
			?	1		破片						10		
			?	1		破片						15		
		オキシジミ	左	1									12	
			左	1									13	
			右	1					○				8	
			右	1									14	
		タイ科	右	1		前鰓蓋骨			○				3	
		魚類		1		鱗棘							21	
シカ	?	1		角	先端		○	加工痕あり			2			
	右	1		大腿骨	骨幹		○				1			
	?	1		中節骨	完存		○				20			
SK141	近世	シカ	右	1	上腕骨	遠位端					13			
SK154	17c	イノシシ/シカ	?	1	肋骨	破片					2			
		シカ	左	1	脛骨	骨幹 - 遠位端				Bd:30.4		7		
			左	1	踵骨	近位端						8		
			右	1	中足骨	近位端						1+4		
			右	1	中足骨	近位端						3+5		
?	1	中足骨	破片				前面			6				
SK172	17c	ハイガイ	左	1							1			
SK228	—	ウマ	?	1	下顎臼歯	破片					1			
SK287	20c 中	シカ		1	環椎	完存		○		GL:52.3,GB:61.0		h		
				1	腰椎			○	骨端外れ			b,c,d		
			左	1	中手骨	近位端 - 遠位部		○		Bp:27.7		f		
			左	1	寛骨	完存		○		GL:184.8,LA:31.9		a		
			右	1	寛骨	腸骨、坐骨				LA:35.3		g		
左	1	脛骨	完存		○	近位癒合線明瞭		GL:280.6,Bd:31.3		e				
F4-P17	近世	サザエ		1							abcd			
F5-P8	近世	サザエ		1							a			
F9-P1	—	ハイガイ	左	1								b		
			右	1						SH:58		a		
			?	1		破片						c		
H6-P14	—	イノシシ/シカ	左	1	上腕骨	破片		遠位部			a			
I9-P1	—	シカ	左	1	脛骨	遠位部					a			
包含層	—	サング		1				○	G			1		
		サザエ		1					C区近代下層			Sh11		
		ヤマトシジミ	左	2					○	C区基礎内丸太	SH:26, 24		Sh13a	
			右	2						C区基礎内丸太			Sh13b	
		アサリ	?	1		破片			○	G			2	
		サメ類		1		椎体			○	表土	長:19.4, 径:32.4		Bo08	
		ウマ	左	1		脛骨	骨幹			○	カ	SD:30.1		1
			右	1		第1、2、4、中心足根骨	完存		○	骨増殖, Q8grid				Bo11
		イノシシ	右	1		脛骨	近位部 - 遠位端		○	O8-KG7	Bd:32.9		Bo02	
		シカ	左	1		上腕骨	近位部 - 遠位端		○	攪乱		Bd:34.1,BT:31.0		Bo09
左	1			上腕骨	骨幹 - 遠位部			○	攪乱			Bo10		

\*哺乳類の計測位置はDreisch (1976)による。貝類はSH:殻高, SL:殻長。

### 付編3 弘人屋敷跡出土人骨について

清家 章(高知大学)

弘人屋敷遺跡からは6基の埋葬施設が検出され、そのいずれからでも人骨が検出されている。ただ、遺存はあまりよくはなく、検討に耐える遺存人骨は5体であった。以下、その検討結果を示す。

#### [SK153] 甕棺墓(16世紀)

部位が判明した骨は頭骨片・下顎骨片・骨盤片・右上腕骨片・左大腿骨片と遊離歯である。遺存した歯は右上I1・I2・C・P1・M2, 左上I2・C・M1・M2, 右下C・P2・M1・M2・M3, 左下P1・P2・M1・M2・M3である。全体的に保存には恵まれていない。そのため性別や年齢を判定する箇所が少ないが、外後頭隆起はおそらく発達していないと思われ、上腕骨・大腿骨も華奢な感じがするので女性の可能性がある。第3大臼歯が萌出し、関節部分は癒合しているので成人と考えられる。歯冠の摩耗は一部の歯冠で象牙質が点状に露出するMartinの2度に相当し、壮年と考えて良いと思われる。

#### [SK155] 円形木棺墓(16世紀)

部位が判明した骨は、左上腕骨片・右上腕骨片・右尺骨片・右寛骨片・右大腿骨片と遊離歯(右上I2, 右下P1・P2)である。この個体も遺存は悪いが、右寛骨は大座骨切痕の観察ができ、その角度はきわめて大きいので女性の可能性が高い。歯冠は3点しかないが、エナメル質の摩耗にとどまる。ただ右恥骨結合面を観察すると、平行隆線は消失し、腹側縁は明瞭化しているので壮年には到達していよう。

#### [SK183] 横置円形木棺墓(16世紀)

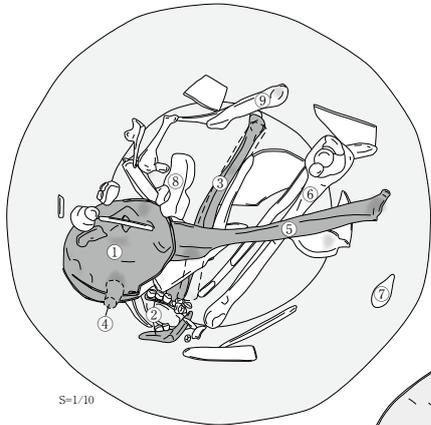
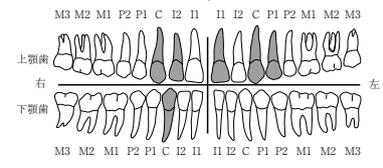
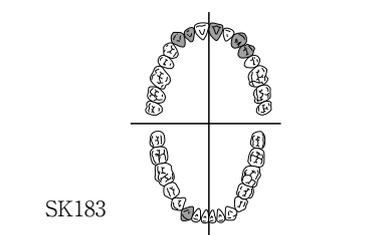
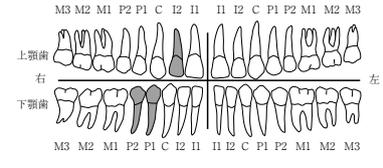
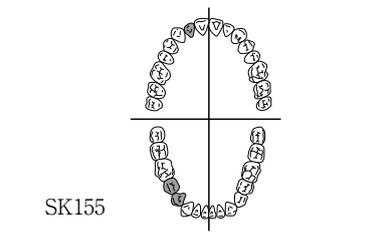
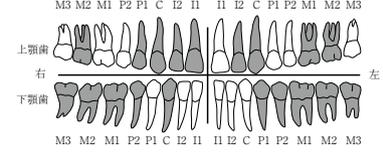
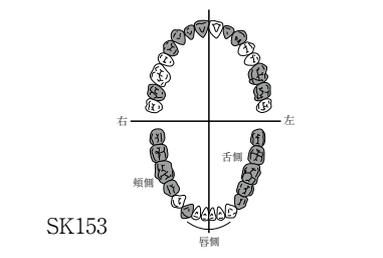
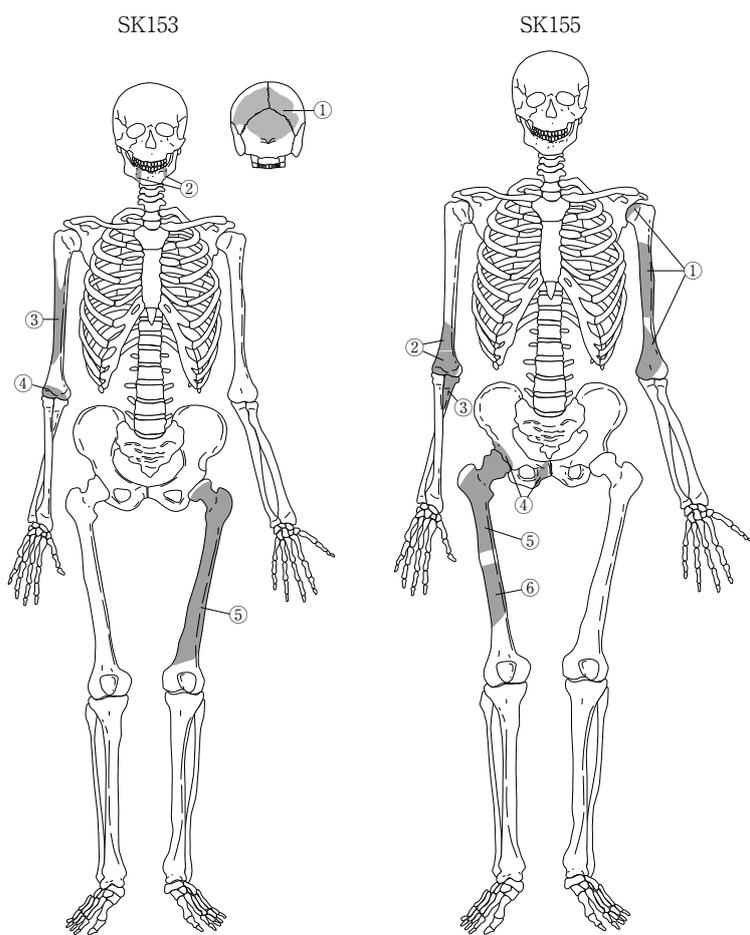
部位が判明した骨は、上腕骨片(左右不明)・左大腿骨片と遊離歯(右上I2・C, 左上I1・C・P1, 右下C)である。上腕骨と大腿骨は華奢な感じがするが、残りが悪いのでこれ以上の情報を得ることはできない。歯冠はすべてエナメル質だけの摩耗であり、歯冠の数は少ないがMartinの1度に相当しよう。壮年前半に比定できようか。

#### [SK237] 円形木棺墓(15世紀)

橈骨・左大腿骨片・左脛骨片とおぼしきパーツがあるのみである。

#### [SK282] 横置円形木棺墓(15世紀)

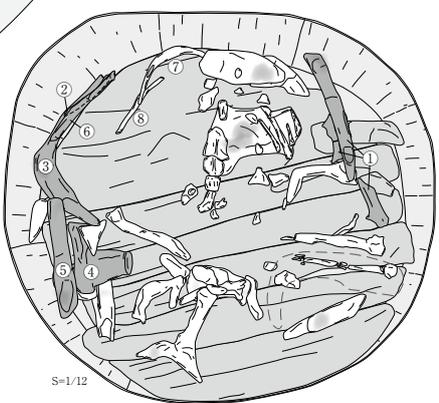
部位が判明したパーツは頭骨・右尺骨片・左大腿骨・脛骨片と歯冠(右上I1・C・P1・M1・M2, 左上I2・C・M1, 右下I2・P2, 左下I1と左右・順位不明の下顎大臼歯2個)である。頭骨は薄い膜状になっての遺存であり、情報をとることは難しい。大腿骨片は大ぶりが感じがするものの、遺存は悪いので性別等を判断するのは困難である。歯冠の咬耗は進んでおり、象牙質が線・面状に露出している。Martinの2度から3度であり、壮年から熟年と言えよう。



S=1/10

- SK153
- ① 頭蓋骨
  - ② 下顎骨·齒牙
  - ③④ 右上腕骨
  - ⑤ 左大腿骨
  - ⑧⑨ 骨盤

- SK155
- ① 左上腕骨
  - ② 右上腕骨
  - ③ 右尺骨
  - ④ 右寬骨
  - ⑤⑥ 右大腿骨



S=1/12

图1 人骨出土部位

## 付編4 弘人屋敷跡出土骨の自然科学分析

金井慎司(パリノ・サーヴェイ株式会社)

### はじめに

弘人屋敷跡(高知県高知市帯屋町に所在)は、追手門に近い区域にあり、これまでの発掘調査により平安時代後期、中世、江戸時代などの遺構・遺物が確認されている。今回、遺跡内から出土した人骨について、食性に関する情報を得るために炭素・窒素同位体分析を実施する。

### 1. 試料

対照となる人骨は、SK153, SK155, SK183, SK234, SK237, SK282から出土したとされる。人骨は、部位ごとに取り上げられており、通し番号が付されている。今回、炭素・窒素安定同位体比を測定する試料は、この内の一部で、部位等を明らかにできない破片資料である。なお、試料を事前に観察した時点でコラーゲンの回収量が少ないと判断されたため、複数の試料を混合した場合もある。また、試料とされた人骨は、保存状態が極めて悪く、容易に崩壊するほど脆弱である。中には、バインダーが塗布された試料もある。試料の詳細を表1に示す。

### 2. 分析方法

各試料より骨片を採取し、土壌等の目的物と異なる付着物を除去する。また、バインダーの塗布が確認された骨片については、除去のためにアセトンによる洗浄を行う。次に、希塩酸による脱灰処理と水酸化ナトリウム溶液による不純物除去などを行い、コラーゲンを抽出する。

抽出したコラーゲンについてスズコンテナに封入し、超高純度酸素と共に燃焼炉に落とし、すずの酸化熱を利用して高温で試料を燃焼・ガス化させ、酸化触媒で完全酸化させる。なお、このときの炉および分離カラムの温度は、燃焼炉温度1,000℃、還元炉温度680℃、分離カラム温度45℃である。

次に還元カラムで窒素酸化物を還元し、水を過塩素酸マグネシウムでトラップ後、分離カラムでCO<sub>2</sub>とN<sub>2</sub>を分離する。分離したCO<sub>2</sub>及びN<sub>2</sub>はそのままHeキャリアガスと共にインターフェースを通して質量分析計に導入し、安定同位体比を測定する。これらの工程に順じて測定を行い、炭素安定同位体自然存在比( $\delta^{13}\text{C}$ )、窒素安定同位体自然存在比( $\delta^{15}\text{N}$ )を求める。

なお、仕様装置は、ガス化前処理装置(EA)が、Thermo Fisher Scientific 社製 Flash EA1112、安定同位体比質量分析計が、Thermo Fisher Scientific 社製 DELTA V である。装置校正に使用した国際スタンダードは、 $\delta^{13}\text{C}$ がIAEA Sucrose ANU、 $\delta^{15}\text{N}$ がIAEA N1 である。

表1 分析試料の一覧

遺構	番号等	部位等	備考	同位体分析試料
SK153	①			○
	①周囲		補強なし	
	⑥	脛骨		○
	⑦		補強あり	
SK155	-		補強なし	
	①	四肢骨	補強なし	
	⑦⑧	四肢骨	補強あり	
SK183	⑧			○
	①	顎・歯牙	補強なし	
	①	顎・歯牙		○
SK234	②	四肢骨	補強あり	
	①		補強あり	
	①			○
SK237	②	骨片	補強なし	
	①		補強あり	
SK282	①			○
	①	歯牙	補強なし	
	②	四肢骨	補強あり	○
	②	四肢骨		○

表2 分析試料および炭素・窒素安定同位体比

遺構	コラーゲン抽出に用いた試料重量 (mg)	コラーゲン重量 (mg)	回収率 (%)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$\delta^{15}\text{N}$ (‰)	備考
SK153	23250.2	2.9	0.01	-26.1	5.21	窒素量が少なく、通常より誤差範囲が大きい可能性有
SK155	7058.7	5.1	0.07	-24.3	9.72	
SK183	6399.9	10.9	0.17	-24.3	8.71	
SK234	19040.1	6.2	0.03	-25.0	5.69	窒素量が少なく、通常より誤差範囲が大きい可能性有
SK237	9713.2	2.8	0.03	-24.7	3.58	窒素量が少なく、通常より誤差範囲が大きい可能性有
SK282	19900.1	4.8	0.02	-24.4	9.26	
平均	-	-	-	-24.8	7.03	

表3 比較対象の炭素・窒素安定同位体比

遺跡または集団名	地域		時期	安定同位体比 (‰)		備考	文献
				$\delta^{13}\text{C}$ PDB	$\delta^{15}\text{N}$ AIR		
北黄金貝塚	北海道沿岸	北海道	縄文早～前期	-14.2	18.2	平均 ,n:9,10	南川 2001
白尻 B			縄文中期	-14.3	16.8	平均 ,n:2	南川 2001
高砂貝塚			縄文晩期中葉	-14.2	17.1	平均 ,n:22,21	南川 2001
中沢浜貝塚	東北沿岸	岩手県	縄文後期	-16.5	10.3	平均 ,n:7	南川 2001
大洞貝塚		宮城県	縄文後期	-16.4	12.6	平均 ,n:5	南川 2001
三貫地貝塚		福島県	縄文後期	-18.3	8.6	平均 ,n:18,17	南川 2001
古作貝塚	関東沿岸	千葉県	縄文後期	-17.7	10.5	平均 ,n:20	南川 2001
加曾利南貝塚			縄文後期	-18.7	8.7	平均 ,n:7	南川 2001
加曾利北貝塚			縄文後期	-18.9	8.8	平均 ,n:3,5	南川 2001
冬木	関東内陸	茨城県	縄文後期	-20.1	7.3	平均 ,n:7	南川 2001
栃原岩陰	中部内陸	長野県	縄文早期	-19.9	7.1	平均 ,n:6	Yoneda et al.2002
北村			縄文後期	-20.6	6.2	平均 ,n:5	南川 2001
羽沢		岐阜県	縄文後期	-18.5	10.5	平均 ,n:10	南川 2000
佃	近畿沿岸	兵庫県	縄文後期	-19.3	10.1	平均 ,n:1	南川 2000
津雲貝塚	中国沿岸	岡山県	縄文後期	-15.9	12.7	平均 ,n:8	南川 2001
寄倉岩陰	中国内陸	広島県	縄文後期	-19.3	8.7	平均 ,n:11,10	南川 2001
轟	九州沿岸	熊本県	縄文前期	-16.3	13.1	平均 ,n:15,16	南川 2001
有珠	北海道	北海道	続縄文	-13.3	18.1	平均 ,n:8,9	南川 2001
末広			擦文中期	-13.9	16.7	n:1	南川 2001
土井ヶ浜	中国沿岸	山口県	弥生前・中期	-18.5	10.5	平均 ,n:5,4	南川 2001
松山東山	四国	愛媛県	古墳時代	-20.1	11.6	平均 ,n:4	南川 2001
西多賀		徳島県	古墳時代	-18.3	10.7	n:1	南川 2001
北部九州甕棺	九州	福岡県	弥生	-19.6	12.6	平均 ,n:5,4	南川 2001
都立上野高等学校	関東沿岸	東京都	江戸	-20.2	12.3	平均 ,N:19	小池ほか 1990
上居沢尾根・程久保	中部内陸	長野県	江戸	-19.7	12.1	平均 ,N:27	米田ほか 1996
安楽寺東		山梨県	近世～近代	-14.1	3.6	平均 ,N:9	米田 2000
伏見城跡	近畿内陸部	京都府	江戸	-17.7	12.1	平均 ,n:5	日下ほか 2011

### 3. 結果

結果を表2に示す。炭素と窒素の安定同位体比( $\delta^{13}\text{C}$ ,  $\delta^{15}\text{N}$ )は、標準試料からの偏差として示され、単位は千分率(‰)である。測定の結果、 $\delta^{13}\text{C}$ は-24.3～-26.1‰、 $\delta^{15}\text{N}$ は3.58～9.72‰の測定値が得られる。全体的に回収率が、0.01～0.17%と低い。また、SK153, SK234, SK237の3試料は、窒素量が少なく、通常より誤差範囲が大きい可能性がある。

### 4. 考察

弘人屋敷跡から出土した人骨では、コラーゲンの回収率が低かった。これは、骨の遺存状態に由来するとみられる。また、炭素と窒素の安定同位体比は、 $\delta^{13}\text{C}$ が-24.3～-26.1‰、 $\delta^{15}\text{N}$ が9.28～15.1‰を示す。全体的に $\delta^{13}\text{C}$ が約-25‰程度と低いことが特徴である。また、6試料の中でSK153, SK234, SK237は $\delta^{15}\text{N}$ が低い、これも窒素量が少ないことに由来する可能性がある。これらの点を考慮し、今回の測定値では誤差範囲が大きい可能性がある試料も含まれることを考慮して以下に検討を行う。

今回の測定値について、小池ほか(1990)、日下ほか(2011)、南川(2000,2001)、米田(2000)、米田ほか(1996)、Yonedaほか(2002)によって得られた人骨の安定同位体比のデータ、縄文時代が北海道沿岸・東北地方沿岸・関東地方沿岸・関東地方内陸・中部地方内陸・近畿地方沿岸・中国地方沿岸・中国地方内陸・九州地方沿岸の9地域17遺跡、弥生・続縄文・古墳・擦文が北海道・中国地方・四国地方・九州地方の4地域6遺跡、江戸時代・近世～近代が3地域5遺跡と比較する。なお、これらの資料において1遺跡で複数人骨の安定同位体比が得られている場合、それらの平均値で示している(表3)。このデータと今回分析を行った弘人屋敷跡試料の安定同位体比を図1に示す。

本遺跡から出土した人骨の測定値は、これら他地域・他時代と比較すると、どちらかと言えば縄文時代の関東地方内陸部や中部地域内陸部に近い値であるが、 $\delta^{13}\text{C}$ の値が約5‰低く、大きく離れる。一方、人骨コラーゲンと利用食物との間で同位体分別が起きるとされ、米田らの論文(Yoneda et al. 2002)に示された値では $\delta^{13}\text{C}$ で4.5‰、 $\delta^{15}\text{N}$ で3.5‰、人骨コラーゲンが利用食物と比べ高い値を示すとされる。これを踏まえて、図2に人骨の安定同位体比を利用食物の安定同位体比に補正した結果を示す。図中の円で示された利用食物の安定同位体比分布範囲は、米田らの論文(Yoneda et al. 2002; 米田, 2004)に拠る。これに基づくと、本遺跡出土人骨の測定値は、C3植物など陸産物の領域内あるいは領域付近に分布する。本遺跡は、比較的沿岸部に近く、時代的なところも考慮すると魚介類を全く利用していないとは考えにくい。しかし、今回の結果を見る限り、本遺跡の出土人骨は、C3植物等の陸産物、例えばコメ・ムギ・イモなどの植物質食糧を中心としていた可能性がある。今回、出土骨の保存状態が悪く、コラーゲンの回収率が極端に低かったこともあり、今後はさらにデータを蓄積して地域的・時代的な検討を行ってきたい。

### 引用文献

- 小池裕子・佐古直美・佐藤里恵,1990,都立上野高等学校遺跡出土人骨の $\delta^{13}\text{C}$ ・ $\delta^{15}\text{N}$ による食性分析.東叡山寛永寺護国院Ⅰ,都立上野高等学校内埋蔵文化財発掘調査報告書,都立学校遺跡調査会編,369-374.
- 日下宗一郎・五十嵐健行・兵藤不二夫・藤澤珠織・片山一道,2011,伏見城跡遺跡から出土した江戸時代人骨の安定同位体による食性分析.日本人類学会誌,119(1),9-17.
- 南川雅男,1993,アイソトープ食性解析法.第四紀試料分析法,東京大学出版会,404-414.

南川雅男,2000,先史人は何を食べていたか.考古学と化学をむすぶ,東京大学出版会,195-221.

南川雅男,2001,炭素・窒素同位体分析により復元した先史日本人の食生態.国立歴史民俗博物館研究報告,86,333-357.

南川雅男,2003,炭素・窒素同位体による食性分析.環境考古学マニュアル,同成社,283-292.

米田穰,2000,出土人骨の同位体比による食性分析.山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第179集安楽寺東遺跡,山梨県埋蔵文化財センター編,山梨県教育委員会・日本道路公団東京建設局,28-30.

米田穰,2004,炭素・窒素同位体による古食性復元.環境考古学ハンドブック,朝倉書店,411-418.

Yoneda, M., M. Hirota, M. Uchida, A. Tanaka, Y. Shibata, M. Morita, and T. Akazawa, 2002, Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan. Radiocarbon 44 (2), 549-557.

米田穰・吉田邦夫・吉永淳・森田昌俊・赤沢威,1996,長野県出土人骨試料における炭素・窒素安定同位体比および微量元素量に基づく古食性の復元.第四紀研究,35,293-303.

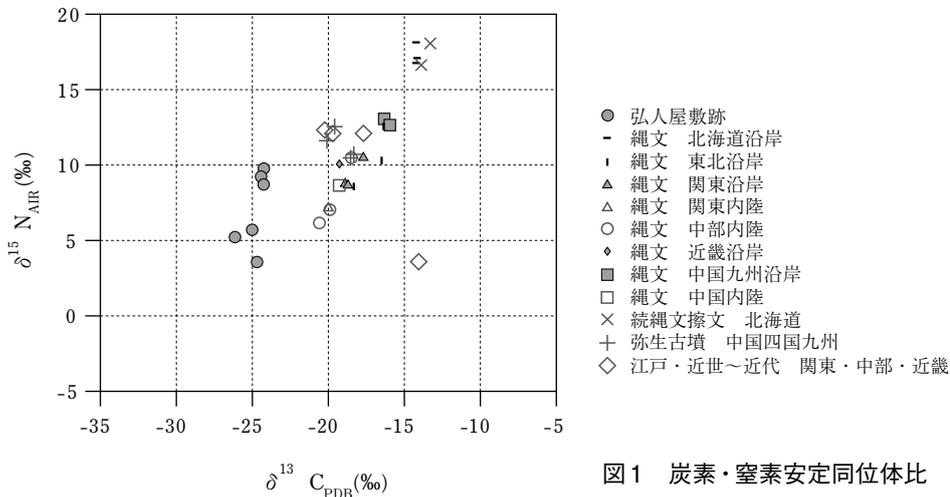


図1 炭素・窒素安定同位体比

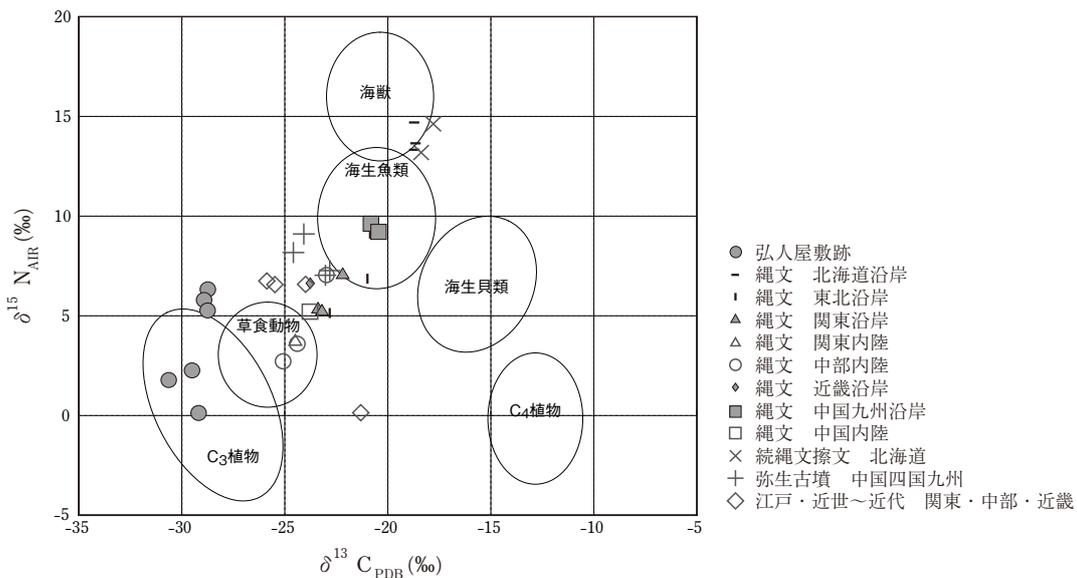


図2 食物利用推定に補正した炭素・窒素安定同位体比

# 遺物観察表

## 遺物観察表 凡例

1. 〈No.〉は、遺物の通し番号である。番号左上の[ ]は実測図の掲載頁を示す。
2. 〈出土位置〉の上段には遺構名, 下段には層位等を記した。下段のptは出土位置を記録したものを示す。
3. 〈器高〉〈最大径〉〈底径〉の( )は残存値, ▼は復原値, 一は欠失等により測定箇所がないことを示す。
4. 〈最大径〉は器形中のもっとも幅広い箇所を測定した(凡例図参照)。
5. 〈①色調〉には外面の色調や釉薬の発色を記した。施釉の部位も記した。
6. 〈②素材〉には土器の夾雑物や石材を記した。土器夾雑物の角岩はチャート, 岩滓はスコリアを示す。
7. 〈③装飾〉には文様や装飾的造形, 装飾を意図した焼成効果などを記した。
8. 〈④造形〉には形態上の特徴, 成形・調整技法などを記した。
9. 〈⑤使用痕〉には製品に残る使用の痕跡(磨滅や炭化物の付着)を記した。
10. 〈⑥その他〉にはその他の事項(他の測定値や接合関係など)を記した。
11. 〈産地/時期〉の上段には製作地, 下段には製作時期を記した。

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[27] 1	SR1 覆土	青磁 碗:口縁	(3.5)	14.6▼	—	①碧緑釉.③外口縁に略雷文帯.	龍泉窯. 15~16c.
2	SR2 ⅢF層	青磁 碗:口縁	(3.2)	13.0▼	—	①明緑灰釉.③外口縁に略雷文帯.	龍泉窯. 15c後~16c前.
3	SR1 A層	青磁 碗:口縁	(1.6)	—	—	①碧緑釉.③外口縁に篋彫り略雷文帯.	龍泉窯. 14c後.
4	SR1 底	青磁 碗:口縁	(2.3)	—	—	①碧緑釉.③外胴に丸彫り蓮弁文.④口縁稍肥厚.	龍泉窯. 14c.
5	SR2 底	青磁 碗:口縁	(3.4)	10.8▼	—	①碧緑釉.③外胴に丸彫り蓮弁文.	龍泉窯. 15c.
6	SR1 ⅢF層	青磁 碗:口縁	(1.7)	—	—	①灰オリーブ釉.③外胴に先端の揃う細蓮弁文.	龍泉窯. 15~16c.
7	SR3 底	青磁 碗:口縁	(2.5)	13.2▼	—	①碧緑釉.③外口縁に一圏線.④口唇に波状部分あり.	龍泉窯. 中世.
8	SR1 ⅢF層	青磁 碗:胴	(3.4)	—	—	①オリーブ灰釉.③外胴に鎬蓮弁.	龍泉窯. 13c後.
9	SR1 底	青磁 碗:胴	(2.8)	—	—	①灰オリーブ釉.③内胴に篋彫り草花文.	龍泉窯. 12c.
10	SR1 A層	青磁 碗:胴	(1.7)	—	—	①碧緑釉.	龍泉窯. 15c前.
11	SR1 A層	青磁 碗:底	(1.7)	—	6.0▼	①オリーブ灰釉.高台無釉.一部高台内に釉垂れ.③見込に篋彫り文.④削出高台.	龍泉窯. 13c後.
12	SR3 底	青磁 碗:底	(2.5)	—	5.0	①碧緑釉.高台内輪弁.	龍泉窯. 14~15c.
13	SR1 土手層	青磁 碗:底	(2.3)	—	4.6	①明緑灰釉.内底無釉.④削出高台.	龍泉窯. 15c.
14	SR2 ⅢF層	青磁 皿:胴	(2.6)	—	—	①明オリーブ灰.③内外面に櫛描文.	同安窯. 13~14c.
15	SR1 ⅢF層	青磁 皿:底	(1.1)	—	7.0▼	①オリーブ釉.高台内中央釉剥.	龍泉窯. 15c前.
16	SR1 覆土	白磁 皿:口~底	2.1	8.4▼	4.2▼	①淡黄釉.全釉.④高台に弧状切込み.見込に目跡.	中国. 15c.
17	SR2 覆土	白磁 皿:口縁	(2.2)	9.8▼	—	①貫入目立つ.②粗質.④端反口.	中国. 16c.
18	SR1 Ⅲ層	白磁 端反皿:口縁	(2.2)	14.6▼	—	④端反口.	中国. 16c.
19	SR1 礫層	白磁 皿:口縁	(1.1)	12.6▼	—	④端反口.	景德鎮. 16c.
20	SR2 ⅢF層	白磁 皿:口縁	(1.5)	—	—	④折縁.	中国. 16c.
21	SR2 礫層	白磁 皿:底	(2.0)	—	7.0▼	①畳付釉剥.④貼付高台.高台に目砂付着.	中国. 16c.
22	SR2 礫層	白磁 八角坏:口~底	3.1	7.4▼	3.0	①高台周り露胎.部分釉垂れ.④稜花.胴は面取り.削出高台.	中国. 15c.
23	SR2 ⅢF層	白磁 小坏:口縁	(1.6)	9.4▼	—	④端反口.	中国. 16c.
24	SR1 ⅢF層	青花 皿:口縁	(1.2)	—	—	③外面に一圏線.内面は縁界線に草文カ.④口縁は内に肥厚.	景德鎮. 15c後~16c前.
25	SR2 覆土	青花 皿:底	(1.6)	—	5.2▼	①底無釉.③見込に圏線.文様.④碁笥底.	景德鎮. 15c後~16c前.
26	SR2 ⅢF層	青花 皿:口縁	(3.0)	—	—	③外口縁に一圏線.外胴に牡丹唐草.内口縁と見込端に圏線.	景德鎮. 16c.
27	SR2 ⅢF層	青花 皿:口縁	(1.7)	10.2▼	—	③外口縁は二圏線間に列点.内口縁に一圏線.	漳州窯.
28	SR1 ⅢF層	青花 皿:胴	(2.1)	—	—	③外に一圏線.内に文様.	漳州窯. 16c後.
29	SR2 ⅢF層	青花 盤:底	(3.0)	—	12.5▼	①畳付釉剥.高台内は部分釉切れ.具須淡い.③見込は帯圏線に唐花唐草文.高台脇に帯圏線.④畳付に鈍褐色目砂付着.⑤破面に漆接.	漳州窯. 16c末.
30	SR2 底	青花 小坏:口~胴	(2.9)	5.8▼	—	③外口縁に圏線.外胴に草花文.	景德鎮.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[27]	31	SR1 Ⅲ F層 青花 小坏:口縁	(2.1)	14.0▼	—	③内外口縁に一圏線.外胴に文様.	景德鎮. 16~17c.
	32	SR2 Ⅲ F層 青花 坏:口縁	(2.7)	—	—	③外面は上二界線に区画文と主文.内口縁に二圏線.④器体は弱く角張る.弱い稜花.	景德鎮. 16c.
	33	SR2 Ⅲ F層 磁器 碗:底	(2.1)	—	4.4▼	①畳付・高台内無釉.③見込に上絵付.草花文カ.④貼付高台.	肥前. 17c.
	34	SR2 Ⅲ F層 陶器 天目茶碗:略完形	6.1	11.4	4.2	①赤褐釉.高台周りに露胎.②鈍黄橙土.ざっくり感.④高台内縮れ.	瀬戸. 16c末.
	35	SR2 覆土 陶器 天目茶碗:口~胴	(5.6)	11.4▼	—	①暗褐釉.外胴下露胎.②淡黄土.角岩.石英.黒粒混.	唐津. 17c.
	36	SR2 Ⅲ F層 陶器 天目茶碗:底	(1.1)	—	4.0	①褐釉.高台無釉.②ざっくり感.④高台削出.兜巾状.	瀬戸. 16c.
	37	SR2 覆土 陶器 小碗:口~底	4.1	7.9▼	3.4	①灰オリーブ釉.外下半無釉.②長石.微砂粒.④回転糸切.	唐津. 17c.
	38	SR1 Ⅲ F層 陶器 小壺:胴	(2.8)	—	—	①暗赤褐釉.内無釉.②赤色土.水籤.③鉄絵文様.	唐津 17c.
	39	SR1 Ⅲ F層 炆器 播鉢:口縁	(6.3)	26.7▼	—	①鈍褐.②長石.石英.細砂粒.④内胴に4歯摺目疎ら.内外回転ナデ.	備前. 14c中.
	40	SR1 Ⅲ F層 炆器 播鉢:口縁	(5.6)	25.6▼	—	①暗赤褐化粧土.②長石.石英.細砂粒.鈍黄橙粘土.④内胴に8歯摺目疎ら.内外回転ナデ.	備前. 14c後~15c前.
	41	SR2 覆土 炆器 播鉢:口~胴	(9.0)	28.0▼	—	①赤褐化粧土.外胴に釉垂.②鈍黄橙土.細砂.角岩粒.④二重口縁の外面は凹面.外胴は下部が回転ケズリ.内胴に6歯摺目.斜が縦を切る.	須佐. 17c.
	42	SR1 A層 炆器 播鉢:胴~底	(7.3)	—	13.0▼	①明赤褐.②角岩.石英.細砂粒.鈍黄橙粘土.④内胴に10歯摺目疎ら.見込端から.⑤内面磨減.	備前. 15c後.
	43	SR1 Ⅲ F層 炆器 播鉢:胴~底	(7.8)	—	11.0▼	①暗赤褐化粧土.内に灰釉.②角岩.長石.石英.細砂粒.鈍黄橙粘土.④内胴に13歯摺目疎ら見込端から.見込外縁に凹溝.⑤摺目は上位ほど磨減.	備前. 16c前.
	44	SR1 A層 炆器 甕:底	(7.9)	—	24.2▼	①黒褐釉.浅黄粒.外無釉.砂目を境に下は黒褐.上は鈍赤褐.②黒粒.④外下部はケズリ.上は回転ナデ.内は轆轤目.	備前. 中世.
	45	SR2 Ⅲ F層 炆器 水指:底	(3.5)	12.3▼	9.8▼	①暗赤褐化粧土.外底に釉垂れ.②浅黄橙土.長石.石英.微砂粒.④轆轤整形.外胴下端横ケズリ.外底は縦横ケズリ.	備前. 近世.
	46	SR2 覆土 炆器 大甕:口縁	(10.3)	—	—	①褐灰.自然釉.②角岩粗粒.石英.長石.④内は回転ナデ.	常滑. 14c.
[28]	47	SR1 底 須恵器 蓋坏身:口~胴	(2.7)	13.1▼	—	①灰色.②角岩粗粒.細砂粒.④胴部回転ヘラ削り.	在地. 6c末~7c初.
	48	SR1 碟層 須恵器 高坏:脚部	(2.5)	—	13.0▼	①灰色.②断面灰赤.長石細粒.③透孔下端残.④轆轤成形.	在地. 6c.
	49	SR2 底 須恵器 蓋	1.6	—	13.8▼	①灰.②角岩.長石細粒.④内外回転ナデ.	古代.
	50	SR2 底 須恵器 皿:口~底	(2.6)	15.3▼	12.2▼	①灰白.②水籤.微砂粒.③内口縁に沈線.④内外ナデ.	古代.
	51	SR2 覆土 須恵器 長頸壺:頸~胴	(7.2)	—	—	①灰.一部自然釉.②微砂粒.	古代.
	52	SR2 碟層 須恵器 壺:底	(2.1)	—	10.6▼	①灰白.内定に自然釉.②微砂粒.④貼付高台.外底ナデ.	古代.
	53	SR2 Ⅲ F層 須恵器 壺カ:底	(1.6)	—	5.6▼	①灰.②角岩.黒粒.④回転糸切.	在地. 古代.
	54	SR2 碟層 須恵器 甕:胴	(6.3)	—	—	①灰.断面灰赤.②長石.角岩.鈍黄橙粘土.④外胴に格子目タタキ.内胴に青海波.⑤表面摩耗.	在地. 古代.
	55	SR2 碟層 須恵器 甕:胴	(4.9)	—	—	①灰.断面灰赤.②角岩.鈍黄橙粘土.④外胴に格子目タタキ.内胴に青海波.⑤表面磨減.	在地. 古代.
	56	SR1 碟層 瓦器 碗:底	(1.1)	—	5.1▼	①灰白~灰.②微砂粒.③見込に斜格子暗文.④貼付高台.内外ナデ.	和泉型. 12c後.
	57	SR1 覆土 瓦器 三足鍋:口~胴	(7.8)	21.6▼	—	①灰白.②角岩.細砂粒.③胴上位に歪な三角突帯.口唇に沈線.④内外口縁は回転ナデ.外胴はナデツケ・オサエ.内胴は横板ナデ.⑤外面は煤ける.	13c後.
	58	SR1 覆土 瓦器 三足鍋:口~胴	(5.5)	24.9▼	—	①灰.②角岩.長石.砂粒.③胴上位に鑿状突帯.口唇に1条沈線.④内外口縁は回転ナデ.外胴は横ナデ.内胴は繊維ナデにオサエ.	13c後.
	59	SR3 覆土 瓦器 三足鍋:口~胴	(6.5)	—	—	①灰.②長石.角岩細粒.④口唇ナデ面取で沈線状凹み.外口縁や下に略台形突帯.脚は剥離.内は横ナデ.⑤外面に煤.	13~14c.
	60	SR2 底 瓦器 角鉢カ:口縁	(5.3)	—	—	①黒.②長石微粒.④口唇ナデ面取.外面ミガキ.内面ナデ.	中世.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[28] 61	SR2 磔層	弥生土器 甕:口縁	(4.5)	—	—	①橙.②角岩粒.④外口縁は横ナデ.頸部縦ハケ.内口縁は縦ナデ.⑤水磨で磨滅.	在地. 弥生末~古墳初.
62	SR1 Ⅲ層	土器 坏:口~底	3.8	11.4▼	6.2	①鈍黄橙.②泥質.黒白微砂粒.岩滓.④轆轤成形.底は円盤状で回転糸切.外胴には回転ナデによる凹帯.内胴は回転ナデ.内底はナデミガキ.	在地. 13c.
63	SR2 覆土	土器 坏:口~底	3.5	14.2▼	8.2▼	①灰黄.②微砂粒.④轆轤成形.外面は轆轤目残る.内面はナデ消し.端反口.内口縁には回転ナデによる凹帯.回転糸切後に擦痕.	在地. 12c後~13c前.
64	SR1 A層	土器 埴:口縁	(3.4)	13.6▼	—	①鈍橙.内口唇~外口縁は赤褐.②長石.雲母.微砂粒.④端反口.外胴は轆轤横文に回転ナデ.内胴はナデ.	在地. 12c後.
65	SR1 Ⅲ層	土器 坏:底	(1.8)	—	8.0▼	①橙.②水籤土.微砂粒.④外底は回転糸切後にナデ.	在地. 中世.
66	SR2 ⅢF層	土器 坏皿:略完形	2.7	11.4	5.6	①橙.②岩滓.微砂粒.④轆轤成形後ナデ.見込外縁と外胴中位にナデ凹帯.内口縁に回転精ナデ.回転糸切.	在地. 15c.
67	SR2 ⅢF層	土器 坏皿:底	(0.8)	—	4.9	①橙.②角岩細粒.微砂粒.④回転糸切後に板目カ.内底ナデ.	在地. 中世.
68	SR2 底	土器 羽釜:口~胴	(4.1)	18.4▼	—	①鈍黄橙.②長石.角岩.角閃石カ.砂粒.④断面三角鑿めぐる.外胴に平行タタキ.内外ナデ.	播磨型. 15c前.
69	SR1 覆土	土器 羽釜:口縁	(3.0)	20.0▼	—	①橙.②長石.角岩.砂粒.④外は回転ナデ.内口縁は回転ナデ.内胴はナデ.	播磨型. 15c.
70	SR1 上部層	土器 鍋:口縁	(4.1)	—	—	①鈍黄橙.②長石.石英.角岩粒.④口唇丸く尖る.口縁肥厚.口縁端に斜めの凹帯.凹帯下端に鑿状の微段.外胴にオサエ.内胴はナデ.⑤外胴に煤.	在地. 16c.
71	SR1 覆土	土器 羽釜:鑿	(3.3)	—	—	①鈍黄橙.②長石.角岩粒.岩滓.	河内型. 15c.
72	SR1 底	土器 茶釜:口~胴	(7.8)	22.0▼	—	①浅黄橙.②角岩.細砂粒.④厚手.縦環状耳一对.内外ナデ.	16c.
73	SR2 上部層	土器 焙烙:胴	(1.8)	—	—	①黒.②長石.微砂粒.④内外細ハケ.⑤外胴に煤.炭化物付着.	御厩系. 19c.
74	SR1 底	土製品 土錘	長さ (5.4)	幅 1.1	重さ 3.1 <sup>g</sup>	①鈍橙.②水籤土.④筒形.外面はミガキ.	
75	SR1 底	瓦 平瓦	長さ (7.3)	幅 (5.7)	厚さ 1.5	①灰.②角岩微粒.軟質.④一面に縄目.他面に縄帯.	中世.
76	SR3 覆土	石製品 砥石	長さ (12.2)	幅 (6.9)	厚さ (4.6)	①灰.②火成岩.④弧面をなす.⑥重さ523 <sup>g</sup> .	
77	SR1 A層	石製品 砥石	長さ (4.3)	幅 4.2	厚さ 1.3	①灰黄.②砂岩.④長方形板状.表裏両側面砥面.⑥重さ36.0 <sup>g</sup> .	
78	SR2 磔層	石製品	長さ 3.0	幅 1.8	厚さ 0.9	①灰白.②チャート.④横断面鈎形.一面に擦溝2条.⑥7.0g.	
79	SR1 A層	木製品 農具カ	長さ 20.1	幅 13.2	厚さ 4.1	②柁目材.④平面隅丸台形.穿孔3.偏った位置に隆起部.	
80	SR3 磔層	木製品 円盤	長さ 11.7	幅 5.8	厚さ 1.3	②柁目材.④半円形.元は組合せて円形.円状態の中央と四等分位置に穿孔.小口に穿孔2.	
81	SR1 A層	木製品 柄カ	長さ (14.7)	幅 1.7	厚さ 1.0	④端部近くに穿孔.断面楕円形.	
82	SR1 ⅢF層	銅銭 至和通寶	—	厚さ 1.2 <sup>mm</sup>	重さ (0.8) <sup>g</sup>	③「至□□□」.	北宋. 1054年~.
83	SR1 ⅢF層	銅銭 治平元寶	径24.0 <sup>mm</sup>	厚さ 1.1 <sup>mm</sup>	重さ 2.9 <sup>g</sup>	③「治平元寶」.④孔6.5 <sup>mm</sup> .	北宋. 1064年~.
[42] 84	SR4 覆土	土器 坏:底	(2.0)	—	8.6▼	①橙.②微砂粒.マール状.④内底ナデ.外底は回転糸切後に貼付輪高台.	在地. 9~10c.
85	SR4 覆土	土器 坏:底	(2.1)	—	6.8▼	①鈍橙.②岩滓.微砂粒.④内底は轆轤目ナデ.平高台.回転糸切後にナデ.	在地カ. 10c後~11c前.
[32] 86	SD1 Kgird	青磁 碗:底	(2.6)	—	6.4▼	①碧緑釉.高台内輪髹.④削出高台.外高台は縦ケズリ.	龍泉窯. 15c.
87	SD1 Jgird	青磁 碗:底	(2.3)	—	4.4▼	①碧緑釉.高台内~内高台中まで無釉.③見込みに白象嵌で擲文帯内に文字意匠.	龍泉窯. 14c後~15c前.
88	SD1 Kgird	青磁 碗:胴	(3.6)	—	—	①明オリープ灰釉.③鎚蓮弁文.	龍泉窯. 14c.
89	SD1 Mgrid	白磁 碗:口縁	(2.9)	—	—	①浅黄釉.④端反口.口唇ナデ面取.	中国. 16c.
90	SD1 覆土	土器 坏皿:口~底	(3.1)	9.9▼	4.6▼	①鈍橙.②角岩微粒.④外胴.裾ナデ凹帯.内胴横ナデ.内底轆轤目ナデ消し.回転糸切.	在地. 15c.

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[32] 91	SD1 Lgrid	土器 羽釜:口縁	(2.6)	—	—	①鈍橙.②角岩細粒.④口唇ナデ凹面で外に小拡張.外面横ナデ.内面横ナデ後に部分オサエ.⑤外口唇・鏝下面に煤.	播磨型. 15c後.
[35] 92	SD2 6grid上層	炆器 鉢:底	(3.3)	—	—	①暗赤褐.②鈍黄橙粘土.角岩細粒.雲母.④外胴は縦ハケ.裾は横ハケ.内胴ハケ.内底ナデ.外底ハケ.	備前. 中世.
93	SD2 6grid上層	須恵器 坏:底	(1.5)	—	7.4▼	①灰.②角岩細粒.④貼付高台.内底ナデ.外底粗ナデ.	在地. 古代.
94	SD2 底	須恵器 高坏:脚	(8.1)	—	10.5	①灰.②微砂粒.③外面の中位に沈線.④内面に絞り痕.⑤全面摩耗.	7c.
95	SD2 上層	須恵器 細頸壺:口縁	(2.2)	—	—	①灰白.②微砂粒.④口唇ナデ凹面.上に拡張.内外回転ナデ.	古代.
96	SD2 5grid	須恵器 鉢:口縁	(2.9)	—	—	①灰.②微砂粒.③内口唇に沈線.④口唇ハケ面取で上に小拡張.外は上が横ハケ.下がナデオサエ.内は板ナデ.	中世.
97	SD2 7grid	須恵器 甕:胴	(6.9)	—	—	①灰.②角岩細粒.④外胴はタタキをハケ消し.内胴は青海波.	在地. 古代.
98	SD2 8grid	須恵器 甕:胴	(14.2)	—	—	①灰.②角岩細粒.④外胴は平行タタキ.内胴は青海波.	在地. 古代.
99	SD2 4grid	瓦器 壺:口縁	(2.6)	15.8▼	—	①黒灰.②微砂粒.③内面にミガキ暗文.④外は回転ナデ.下はナデオサエ.内は擦りナデ.	楠葉型. 13c.
100	SD2 8grid	瓦器 壺:口縁	(3.3)	10.8▼	—	①黒灰.②微砂粒.③内面にジグザグ暗文.④内面擦りナデ.外口縁回転擦りナデ.外胴ナデオサエ.	楠葉型. 13c.
101	SD2 8grid	瓦器 壺:胴	(1.7)	—	—	①黒.②微砂粒.③弧線暗文.④外オサエ.内ミガキ.	
102	SD2 4grid	瓦器 壺:胴	(2.4)	—	—	①黒.③集線暗文.④外ナデオサエ.内ミガキ.	
103	SD2 4grid	瓦器 壺:底	(1.6)	—	—	①灰.③内に暗文.④外ナデオサエ.内ミガキ.貼付高台.	13c.
104	SD2 8grid上層	瓦器 鉢:口~胴	(10.1)	15.6▼	—	①灰.②微砂粒.③外口縁に弱沈線.④外口縁板ナデ.外胴ナデオサエ.内面板ナデ後ナデ.	
105	SD2 4grid	瓦器 三足鍋:口~胴	(9.8)	30.9▼	—	①灰.②角岩細粒.④退化突帯.外口縁横ナデ.外胴ナデオサエ.内面板ナデ.部分ナデ.	在地. 13c.
106	SD2 8grid	瓦器 三足鍋:口~胴	(5.3)	—	—	①灰.②角岩細粒.③外胴に退化突帯.④口唇ナデ面に沈線.突帯上下工具でナデつけ.外口縁横ナデ.外胴ナデオサエ.内面ナデ.	在地. 13~14c.
107	SD2 7grid	瓦器 三足鍋:脚	(12.5)	幅 3.3	—	①鈍黄橙.②角岩粒.④全面ナデ面取.⑤根元に煤.	在地. 13c.
108	SD2 6grid下層	瓦器 三足鍋:脚	(6.2)	幅 2.0	—	①鈍黄橙.②角岩微粒.④外面ナデ.	在地. 14c.
109	SD2 7grid	瓦器 鍋:口~胴	(5.9)	24.0▼	—	①灰.②角岩細粒.④口唇ハケ面取.外口縁板ナデ.外胴ナデオサエ.内面板ナデ.⑤外胴に煤.	土佐型. 14~15c.
110	SD2 6grid上層	瓦器 鍋:口~胴	(6.6)	19.2▼	—	①灰.②微砂粒.④口唇ナデ面取.外口縁ナデ.外胴ナデオサエ.内面ナデ.⑤外胴に煤.	土佐型. 14~15c.
111	SD2 5grid	弥生土器 甕:口~胴	(4.6)	18.4▼	—	①橙.②角岩細粒.④口唇丸み.外面太筋タタキ.内口縁横ナデ.内胴縦ナデ.	ひびのきⅡ式. 2~3c.
112	SD2 7grid	土器 壺:略完形	5.9	15.8	7.0	①灰白.②微砂粒.④端反口.外胴は回転ケズリ後回転ナデ.内は精ナデ.回転篋切後にナデ.貼付輪高台.	在地. 11~12c.
113	SD2 7grid	土器 壺:底	(2.6)	—	6.6▼	①灰白.②角岩微粒.④外胴回転ミガキ.内胴ミガキ.内底ナデ.回転篋切後にナデ.貼付輪高台.畳付に段.内に微拡張.	京都系. 11~12c.
114	SD2 7grid	土器 皿:口~底	(2.4)	13.6▼	7.8▼	①鈍黄橙.②微砂粒.④端反口.外胴上下ナデ凹帯.内外精ナデ.回転篋切後に精ナデ.	在地. 古代.
115	SD2 7grid	土器 皿:口~胴	(3.7)	14.8▼	—	①橙.②微砂粒.雲母.④内外回転ナデ.	在地.
116	SD2 7grid	土器 皿:底	(1.7)	—	9.0▼	①鈍橙.②角岩微粒.④内外ナデ.回転篋切後に板目カ.	古代.
117	SD2 6grid下層	土器 甕:口縁	(2.3)	—	—	①灰褐.②赤角岩.石英粒.④口唇ナデ凹面.上に拡張.外口縁横ナデ.外胴縦ハケ.内口縁横ハケ.	9~10c.
118	SD2 6grid最下層	土器 羽釜:口~胴	(3.7)	21.8▼	—	①灰黄.②赤角岩細粒.④口唇ナデ凹面.鏝端ナデ凹面.外胴ナデ.内面ナデ部分ハケ.	摂津C類. 10~11c.
119	SD2 7grid	石 板状	長さ (20.4)	幅 (6.7)	厚さ 1.5	①灰.②結晶片岩 or 白雲母片岩カ.④板状.⑥重さ286g?	
[36] 120	SD3 ピット	土器 皿:口~底	(1.7)	11.6▼	8.4▼	①橙.②角岩細粒.④内外ナデ.外底ナデ.	在地. 古代.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[36] 121	SD3 覆土	石製品 砥石	長さ 16.6	幅 8.5	高さ 5.3	①浅黄.②砂岩.④一面のみ弧状の砥面,他は自然面.⑥重さ834g <sup>7)</sup> .	
[42] 122	SD7 Ggrid	土器 碗:底	(1.6)	—	5.8▼	①灰白.②角岩微粒.④内外ミガキ.外底ナデ.貼付高台,畳付に段.	京都系. 11~12c.
123	SD7 覆土	土器 皿:底	(1.6)	—	8.8▼	①橙.②角岩細粒.③内外ナデ.回転糸切.外底に敷物痕カ.	在地. 中世.
[43] 124	SD8 Ggrid	青磁 碗:胴	(2.7)	—	—	①深碧緑釉.③外に細蓮弁.見込みに一圏線.	龍泉窯. 16c.
125	SD8 Jgrid	白磁 口禿皿:口~底	2.8	11.7▼	7.2▼	①口唇釉剥ぎ.③外胴中位に極細二重線.④外口縁に微段.内底縁に凹溝.外底やや上げ底,中心丸凸.	中国. 14c.
126	SD8 覆土	炆器 大鉢:胴~底	(9.3)	—	41.6▼	①暗赤褐.②角岩細粒.④外胴上は縦ナデ,下は横ナデ,裾にオサエ.内胴は横ハケ・横ナデ.外底は擦りナデ.⑤内底は磨減.	備前. 中世.
127	SD8 Jgrid下層	炆器 播鉢:口縁	(4.9)	—	—	①暗赤灰.②角岩,石英細粒.④口唇は上に拡張し尖る,下に微拡張.外面横ナデ.内面横擦りナデ.	備前. 14c後~15c前.
128	SD8 Hgrid	炆器 播鉢:口~胴	(5.9)	—	—	①赤褐化粧土.②細砂粒.④片口.縁帯.内外轆轤目.縁帯に自然釉.	備前. 15c後.
129	SD8 Igrid下層	炆器 播鉢:口~胴	(7.9)	31.2▼	—	①暗赤化粧土.②角岩粗粒,石英,橙土粒.④口唇ナデ面取.縁帯.内外ナデ.	備前. 15c末.
130	SD8 Hgrid	炆器 播鉢:胴	(4.8)	—	14.2▼	①暗赤化粧土.②橙土粒,細砂粒.④外胴粗ナデ.内胴に11歯摺目.⑤内面磨減.	備前. 15~16c.
131	SD8 Cgrid	須恵器 坏蓋	(1.4)	14.6▼	—	①灰.②角岩粒.④轆轤成形.	在地. 古代.
132	SD8 Egrid	須恵器 坏:底	(2.6)	—	8.7▼	①灰.②角岩微粒.④外胴精ナデ.内面ナデ.貼付高台,畳付に段.	在地. 古代.
133	SD8 Igrid上層	須恵器 鉢:口縁	(2.7)	23.2▼	—	①灰白.内外口縁黒化.②微砂粒.④口唇ナデ面取.外はナデオサエ.内は横ナデ.	東播系. 12c.
134	SD8 Ggrid	須恵器 捏鉢:口縁	(3.8)	—	—	①灰.②角岩細粒.④口唇ナデ面取で上に拡張.外胴横ナデ.内面ハケ.横ナデ.	東播系. 中世.
135	SD8 Hgrid	須恵器 壺:胴~底	(3.9)	—	8.6▼	①灰.②微砂粒.④外ナデ.内粗ナデ.底周囲オサエ.貼付高台.回転篋切後にナデ.	在地. 古代.
136	SD8 覆土	瓦器 碗:口縁	(2.8)	—	—	①灰~灰白.②角岩微粒.④口唇丸い.外口縁ナデ凹帯.外胴ナデオサエ.内面精ナデ.	和泉型. 13c.
137	SD8 覆土	瓦器 鉢:口縁	(2.1)	—	—	①黒~灰白.②角岩細粒.④口唇は窄まりナデ面取され外に微拡張.外面は横ナデ.内面はナデ.	中世.
138	SD8 CDgrid	瓦器 鍋:口~胴	(5.2)	26.0▼	—	①灰.②角岩細粒.④口唇ナデ凹線.外口縁横ナデ.外胴ナデオサエ.内面横ナデ.内口縁は部分銀化.	土佐型. 14~15c.
139	SD8 Ggrid	瓦器 茶釜:胴				①灰~灰白.②角岩微粒.ざらつく.③頸・鐔根元に二圏線.外胴に双弧線.内外ナデ.	15c.
140	SD8 Cgrid	土器 鉢:胴	(2.7)	—	—	①橙.②角岩粒.④外胴平行タタキ.内胴ナデ.部分ミガキ.	在地. 古墳前期.
141	SD8 Igrid	土器 甕:口縁	(3.2)	—	—	①鈍黄橙.②角岩粒.④口唇ナデ面取で上に小拡張.外口縁はナデ.外胴は縦ハケ.内は横ナデ.⑤内面煤ける.	9~10c.
142	SD8 Igrid上層	土器 羽釜:口~胴	(6.0)	—	—	①灰黄褐.②角岩細粒.④口唇面取で上に拡張.外口縁横ナデ.外胴平行タタキ.内面ナデ.⑤外に煤.	播磨型. 15c前.
143	SD8 Igrid上層	土器 羽釜カ:口縁	(1.9)	14.8▼	—	①鈍橙.②細砂粒.④口唇は上に拡張.外面ナデ.部分ミガキ.内面ナデ.	搬入. 中世.
144	SD8 CDgrid	土器 鍋カ:胴	(2.2)	—	—	①灰白.②角岩微粒.④痕跡化した鐔カ.鐔下に隆起部分.	16cカ.
145	SD8 Igrid上層	土製品 土錘	長さ 3.5	幅 1.4	高さ 5.9g <sup>7)</sup>	①鈍黄橙.②微砂粒.④外面ナデ.	
146	SD8 Igrid上層	瓦 平瓦	長さ (6.3)	幅 (7.2)	高さ 1.8	①浅黄橙.②水鏡土.マーブル状.④側面取で角は斜面取.凸面に縄目痕.凹面に布目痕.	在地. 古代.
147	SD8 Kgird	瓦 平瓦	長さ (3.9)	幅 (7.4)	高さ 2.0	①灰.②角岩細粒.④凹面に細布目痕.⑤凹面はやや磨減.	在地.
148	SD8 Igrid上層	瓦 平瓦	長さ (3.7)	幅 (5.2)	高さ 1.9	①橙.②微砂粒.マーブル状.④側面取で角は斜面取.凹面に細布目痕.	在地.
149	SD8 Ggrid	瓦 平瓦	長さ (7.2)	幅 (7.2)	高さ 2.2	①灰黄褐.②微砂粒.④一面はナデ後にハケ.一面はミガキ.側面はミガキ斜面取.	在地.
150	SD8 CDgird	銅銭 方孔円銭	径 23.5 <sup>8)</sup>	幅 1.0 <sup>8)</sup>	高さ 2.5g <sup>7)</sup>	③「□□通寶」.④磨減で不鮮明.孔7.0 <sup>8)</sup> .	

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[43] 151	SD8 Hgrid	銅製品 金具	長さ 4.6	幅 1.3	厚さ 0.2	④細板状,裏梳き,小口寄りに穿孔径2 <sup>3</sup> / <sub>9</sub> ,穿孔部分は一方が張り出す.	
152	SD9 Ggrid	陶器 鉢:胴	(1.0)	—	—	①灰釉,鏝部上面無釉,④鏝部分は上に摘み上げ拡張.	瀬戸, 中世.
153	SD9 Igrid	須恵器 鉢:口縁	(2.6)	—	—	①灰,②黒粒,④口唇ナデ斜面取で上に拡張,内外面回転ナデ.	東播系, 12c末~13c初, 在地.
154	SD9 JFgrid	瓦器 鉢:口~胴	(6.0)	25.4▼	—	①鈍黄橙,②角岩細粒,④口唇ナデ面取で内外に小拡張,外面轆轤目,ナデ,内面ナデ.	在地.
155	SD9 Ggrid	土器 坏:底	(2.7)	—	6.3▼	①灰白,②微砂粒,砂質,④内底は精ナデで中心丸凸,火襷あり,平高台,回転糸切.	在地, 11~12c.
156	SD9 Ggrid下層	土器 坏:底	(2.3)	—	7.1▼	①灰白,②微砂粒,④外胴は回転ナデ,内面ナデ,平高台,回転糸切.	在地, 11~12c.
157	SD9 覆土	土器 坏皿:胴~底	(1.7)	—	7.8▼	①鈍黄橙,②微砂粒,④外胴横ナデ,内胴精ナデ,内底は轆轤目をナデ消し,回転篋切後にナデ.	在地, 11c.
158	SD9 覆土	土器 坏皿:底	(1.3)	—	5.9▼	①鈍黄橙,②微砂粒,④内外面精ナデ,回転篋切後に精ナデ.	在地, 11c.
159	SD9 Igrid	土器 羽釜:口縁	(2.5)	—	—	①鈍橙,②赤角岩粒,④口唇ナデ面取,鏝端ナデ面取で上に小拡張,内口縁横ナデ,内胴縦ナデ.	摂津C類, 10~11c.
160	SD9 Igrid	土器 羽釜:口縁	(1.3)	—	—	①橙,②赤角岩粒,④口唇丸い,鏝薄い,端部ナデ面取.	摂津C類, 10~11c.
161	SD9 Igrid	瓦 丸瓦	長さ (4.0)	幅 (5.2)	厚さ 1.7	①灰~鈍黄橙,②角岩微粒,④凹面に細布目痕,凸面はケズリ面取.	在地, 11~12c.
162	SD9 Igrid	瓦 平瓦	長さ (9.1)	幅 (9.0)	厚さ 2.7	①浅黄橙,②水箴土,マープル状,④凹面に布目痕,凸面に縄目痕,⑤摩耗.	在地, 11~12c.
163	SD9 Jgrid下層	瓦 平瓦	長さ (7.1)	幅 (6.6)	厚さ 1.6	①浅黄橙,②角岩微粒,④凹面に布目痕,凸面に縄目痕,⑤摩耗.	在地, 11~12c.
164	SD9 Jgrid上層	石製品 楔石	長さ 8.7	幅 5.4	厚さ 3.6	①褐灰,②凝灰岩,④一面のみ横研磨,他は打割整形.	
[45] 165	SD10 覆土	陶器 天目茶碗:口~底	6.2	9.4▼	3.4▼	①暗赤褐色粧土,褐釉が無秩序に,高台周り露胎,④弱S字口縁,削出高台,兜巾状.	唐津, 17c前.
166	SD10 覆土	土器 坏皿:口~底	3.4	11.3▼	4.8▼	①鈍黄橙,②微砂粒,④内外回転ナデ,外胴中位・裾にナデ凹帯,回転糸切,⑤口唇に煤.	在地, 近世.
167	SD10 上層	土器 坏皿:口~底	3.0	10.8▼	5.6▼	①橙,②水箴土,④内外回転ナデ,回転糸切.	在地, 近世.
168	SD10 覆土	土器 皿:口~底	2.6	14.2▼	7.8▼	①橙,②水箴土,④内外回転ナデ,外胴中位ナデ凹帯,回転糸切痕に板目,ナデ仕上げ.	在地, 近世.
169	SD10 覆土	土製品 人形:下半	(1.9)	幅 2.2	厚さ 1.2	①鈍黄橙,②微砂粒,③鎧装人物,④左足下から穿孔,1.8cm深.	在地カ, 近世.
[47] 170	SD12 上層	須恵器 碗:底	(2.9)	—	7.5▼	①灰,②微砂粒,③外胴に火襷状筋,④外胴回転ナデ,内面ナデ,中心環状ナデ凹み,外底ナデ,貼付輪高台.	在地カ, 古代.
171	SD12 上層	須恵器 坏:底	(2.2)	—	9.8▼	①灰,②微砂粒,④外胴回転ナデ,内面ナデミガキ,回転篋切後にナデ,貼付輪高台.	在地カ, 古代.
172	SD12 Igrid	須恵器 壺:口縁	(5.1)	—	—	①灰褐,②角岩細粒,④口唇ナデ凹面,上に拡張,内外回転ナデ,外頸に折曲げ痕,内頸にユビオサエ.	在地カ, 古代.
173	SD12 測点	須恵器 甕:胴	(9.9)	—	—	①橙,酸化,②角岩細粒,④外胴に平行タタキ,部分交差,内胴ナデ.	在地カ, 古代.
174	SD12 覆土	瓦器 碗:口縁	(2.7)	—	—	①黒,②雲母,③内口縁に沈線,④微S字口縁,内外横ミガキ.	楠葉型, 12c.
175	SD12 覆土	瓦器 碗:胴	(2.3)	—	—	①黒,②雲母,④内外ミガキ.	楠葉型, 12c.
176	SD12 上層	瓦器 碗:口縁	(2.3)	13.2▼	—	①灰,②微砂粒,④口唇外に微拡張,内外回転ナデ.	在地, 12~13c.
177	SD12 上層	土器 碗:口~底	4.7	15.5▼	6.8▼	①鈍黄橙,②微砂粒,硬質,③内外に火襷状筋,④弱端反口,外胴回転ケズリ,外胴上~内面横ミガキ,内面放射状擦りナデ,暗文風ミガキ,貼付輪高台,量付ナデ凹面.	京都系, 11~12c.
178	SD12 覆土	土器 碗:口~底	(5.9)	14.8▼	6.6▼	①鈍黄橙,②細砂粒,④弱端反口,外胴回転ケズリ後に横ミガキ,内面ミガキ,外底ナデ,貼付輪高台,量付ナデ凹面.	在地, 11~12c.
179	SD12 上層	土器 碗:底	(2.0)	—	6.3▼	①灰黄褐~鈍黄橙,②微砂粒,④外胴回転ケズリ後にナデ,内底ナデミガキ,外底ナデ,貼付輪高台,量付ナデ凹面.	在地, 11~12c.
180	SD12 覆土	土器 坏:底	(2.3)	—	4.4▼	①鈍橙,②角岩微粒,④柱状高台,内外ナデ.	在地, 古代.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[47] 181	SD12 上層	土器 坏:底	(3.2)	—	4.6	①橙.②水鏡土.④柱状高台.内外ナデ.外底は板目後にナデ.	在地. 古代.
182	SD12 覆土	土器 皿:完形	(1.8)	10.7	7.6	①灰白.②角岩微粒.④口唇水平面取.外胴ケズリ後ナデ.内面ナデ.内底縁にナデ凹帯.回転糸切.	在地. 古代.
183	SD12 覆土	土器 皿:口~底	1.8	10.5	6.9	①白.②細砂粒.④内外回転ナデ.外胴中位ナデ凹帯.回転糸切.	在地. 11~12c.
184	SD12 覆土	土器 皿:底	(2.0)	—	7.0▼	①橙.②角岩微粒.④外胴は轆轤目後にナデ.内底ナデ.回転糸切.	在地. 11c.
185	SD12 上層	土器 甕:口縁	(3.7)	—	—	①暗褐.②黒靨.④口唇ナデ凹面而上に拡張.内外口縁横ナデ.内外胴縦ナデ.	10~11c.
186	SD13 SK60覆土	須恵器 甕:胴	(6.3)	—	—	①灰.②長石細粒.③外胴に市松文様の格子目叩き.④内胴ナデ.当具痕カ.	古代.
187	SD13 SK71覆土	瓦器 碗:口~胴	(4.4)	—	—	①灰.②雲母.③内口縁に微弱な沈線.④口縁は微S字形.内外ヘラミガキ.	楠葉型. 12c.
188	SD13 SK71覆土	弥生土器 高坏:口縁	(2.1)	—	—	①灰褐.②角岩細粒.④口唇面取後沈線1条.口唇外は狭い二重.内外ナデ調整.	在地. 弥生中~後期.
189	SD13 SK60覆土	土器 碗:完形	5.7	15.8	6.8	①灰白.②角岩微粒.③筋状の黒斑.④轆轤成形.口縁稍肥厚.小さく端反る.外胴は下位が回転ケズリ後にナデ.上位は回転ナデ.内胴はナデミガキ.内底は丁寧なナデミガキ.外底は回転糸切後ナデ.貼付の輪高台.	京都系. 11~12c.
190	SD13 SK60覆土	土器 碗:口~底	5.8	16.2▼	7.0	①灰黄白.②角岩微粒.④轆轤成形.微端反口.外胴は回転ケズリ後にミガキ.内面は回転ナデ後にミガキ.外底は回転ナデ.貼付の輪高台.高台は内に稍拡張.畳付に工具押当て刻み3箇所.	京都系. 11~12c.
191	SD13 SK71下層	土器 碗:口~胴	(4.2)	16.6▼	—	①灰白.②微砂粒.④口唇丸い.外にやや肥厚.内外回転ケズリ後にミガキ.	在地. 11~12c.
192	SD13 SK60覆土	土器 碗:口~底	(5.2)	14.0▼	—	①灰白.②角岩微粒.④轆轤成形.小端反口.外胴は回転ケズリ後に横ミガキ.内面は回転ナデ後ミガキ.外底は回転ナデ.貼付の輪高台.⑥SK66と接合.	京都系. 11~12c.
193	SD13 SK71下層	土器 碗:胴~底	(4.1)	—	6.6	①鈍橙.②マーブル状.角岩細粒.④貼付輪高台.内に拡張.全面ナデ.⑤全体磨減.	在地. 11~12c.
194	SD13 SK60覆土	土器 碗:底	(1.6)	—	9.0▼	①灰白.②角岩細粒.④貼付輪高台.回転糸切.内面精ナデ.外胴横ナデ.	京都系. 11~12c.
195	SD13 SK71覆土	土器 碗:底	(2.1)	—	6.8	①灰黄白.②角岩微粒.④内外回転ケズリ後に丁寧なミガキ.貼付の輪高台.畳付に段.高台内は回転ナデ.⑤虎溪山.	京都系. 11c.
196	SD13 SK60覆土	土器 碗:底	(2.5)	—	5.3	①鈍黄橙.②角岩細粒.④円盤高台.高台付根は2条沈線間が微隆帯状となる.外底に細い筋.	在地. 11~12c.
197	SD13 SK60覆土	土器 坏:底	(1.5)	—	7.6▼	①鈍橙.②角岩微粒.④平高台.回転糸切.内底縁にナデ凹帯.	在地. 11~12c.
198	SD13 SK71覆土	土器 坏カ:底	(1.2)	—	7.2	①灰白.②微砂粒.④平高台.回転糸切.内底は強い轆轤目にナデ.	在地. 11c.
199	SD13 SK71下層	土器 坏皿:略完	2.1	9.9	8.2	①灰褐.②微砂粒.雲母.④内外ナデ.外胴中位ナデ凹帯.内底縁にナデ凹帯.内底ナデ.回転糸切.	在地. 11c.
200	SD13 SK71上層	土器 坏皿:略完	2.4	9.8	8.4	①灰黄褐.②微砂粒.雲母.④内外ナデ.外胴中位ナデ凹帯.内底ナデ.回転糸切.有機質焼け落ち窪み.やや厚手.	在地. 11c.
201	SD13 SK60覆土	土器 坏皿:口~底	2.2	11.8▼	6.6▼	①橙.②角岩微粒.④端反口.回転糸切後ナデ.外胴ナデ.内面精ナデ.	11~12c.
202	SD13 SK60覆土	土器 坏皿:口縁	(2.3)	—	—	①灰白.②角岩微粒.④微かに受口状.内口縁に沈線.	在地. 古代.
203	SD13 SK71覆土	土器 小皿:略完形	1.8	9.3	6.1	①鈍橙.②赤角岩細粒.④小端反口.全面ナデ.外胴中位ナデ凹帯.内胴下半~内底縁ナデ凹帯.回転糸切後ナデ.	在地. 11c.
204	SD13 SK60覆土	土器 甕:口縁	(7.4)	24.0▼	—	①灰黄褐.②角岩粒.④口唇ナデ面取で上に小拡張.くの字口縁.内外ヨコナデ.外胴はハケ後部分ナデ.内胴は横ナデ.⑥SK66上層と接合.	10c.
205	SD13 SK60覆土	土器 甕:口縁	(6.1)	—	—	①鈍橙.②赤角岩細粒.④口唇ハケ面取で上に小拡張.外口縁ナデ.外胴は上縁横ハケ.下位は縦ハケ.口縁は内湾気味.内口縁は横ハケ.⑤内胴に煤.	在地. 11c.
206	SD13 SK60覆土	土器 甕:口縁	(4.5)	—	—	①灰黄褐.②赤角岩粒.④口唇ナデ凹面而上に摘み拡張.外は横ナデ.内は横ハケ.	9~10c.
207	SD13 SK71下層	土器 羽釜:口~胴	(5.2)	—	—	①灰褐.②赤角岩粒.④口唇ナデ凹面.内に微拡張.鋤端ナデ凹面.上下に小拡張.内外ナデ.	摂津C. 11c.
208	SD13 SK71上層	土器 羽釜:口~鋤	(2.4)	—	—	①橙.②角岩.細砂粒.④口唇弱面取.鋤端丸い.内面ナデ.	摂津C. 11c.
209	SD13 SK122	瓦 平瓦	長さ (7.4)	幅 (8.1)	厚さ 1.7	①浅黄橙.マーブル状.②角岩細粒.④凸面に縄目痕.凹面に布目痕.	古代.
210	SD13 SK60覆土	瓦 平瓦	長さ (6.8)	幅 (7.5)	厚さ 2.1	①鈍橙.②マーブル状.角岩微粒.④上面に布目痕.下面に縄目痕.側縁ナデ.	11~12c.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[47] 211	SD13 SK71 覆土	瓦 平瓦:片	長さ (6.7)	幅 (6.9)	高さ 2.0cm	①灰.②角岩細粒.④凸面ケズリ.凹面に布目痕.	
[49] 212	SD14 5grid	青花 鉢:口縁	(2.4)	—	—	③外口縁に渦文.外胴は縦線区画に蔓文.内口縁に子持ち帯線.④輪花縁.	景徳鎮.
213	SD14 6grid	緑釉陶器 坏:底	(1.3)	—	6.8▼	①灰.自然釉.②須恵質.角岩微粒.④内底ミガキ.平高台.回転篋切後に精ナデ.⑤摩耗.	京都系. 10c.
214	SD14 6grid	須恵器 壺:胴	(2.5)	—	—	①灰.自然釉.②角岩微粒.③肩部にM字突帯.	在地. 古代.
215	SD14 8grid 下層	土器 坏:口~底	4.1	15.1▼	7.7▼	①鈍橙.②角岩微粒.③部分火襷.④微端反口.外胴轆轤目.ナデ.内面ナデ.回転糸切後にナデ.⑤被熱.摩耗.	在地. 12c後~13c前.
216	SD14 5grid	土製品 土錘	長さ 5.1	幅 2.0	重さ 15.0g <sup>9</sup>	①橙.②角岩微粒.④外面ナデ.	在地.
[51] 217	SD17 Egrid	陶器 天目茶碗:口~底	5.7	11.6▼	4.2▼	①褐釉.気泡.火彫れ.高台周り露胎.④口縁やや外反.削出高台.	唐津. 17c.
218	SD17 Egrid	陶器 天目茶碗:口~胴	(5.0)	10.8▼	—	①緑褐釉.高台周り無釉.④S字口縁.	唐津. 17c.
219	SD17 Egrid	須恵器 不明:脚部	(2.6)	—	—	①灰.②微砂粒.④内面精ナデ.内裾に段.	在地. 古代.
220	SD17 Egrid 下層	瓦器 鍋:口~胴	(6.4)	16.0▼	—	①灰.②角岩微粒.④口唇ナデ面取.外口縁ナデ.外胴ナデオサエ.内面横ナデ.	土佐型. 14~15c.
221	SD17 測点	土器 坏:口~底	6.0	15.0▼	6.8▼	①灰白.②微砂粒.④微端反口.内外ナデ.平高台.外底ナデ.	在地. 11c.
222	SD17 Fgrid 上層	土器 坏皿:胴~底	(1.7)	—	5.8▼	①鈍橙.②微砂粒.④内底轆轤目にナデ.回転糸切.	在地. 近世.
223	SD17 Fgrid 中層	瓦 軒丸瓦	長さ (10.8)	幅 (12.4)	高さ 2.5	①黒.②角岩細粒.③珠文残る.④外ミガキ.内に鉄線痕.	近世.
224	SD17 下層	銅銭 永楽通寶	径 25.0 <sup>5</sup> mm	厚さ 1.3 <sup>5</sup> mm	重さ 2.7 <sup>5</sup> g	③「永楽通寶」.④孔5.5 <sup>5</sup> mm.	明. 1408年~.
[52] 225	SD18 8grid 上層	青磁 皿:口縁	(2.3)	—	—	①碧緑釉.③内口縁に篋彫で花文.④稜花縁.外反口縁.	肥前.
226	SD18 東側	白磁 小坏:口~底	2.4	6.5▼	2.8▼	①畳付釉剥.	肥前.
227	SD18 7grid	白磁 小坏:口~底	3.0	6.4▼	2.9▼	①全釉.③上絵付.樹木文.④端反口.	肥前. 19c.
228	SD18 5grid	染付 碗:口縁	(4.2)	11.8▼	—	③外は竹垣に草文カ.内口縁に子持ち帯線.④微玉縁口縁.	肥前. 18~19c.
229	SD18 東側	染付 小坏:底	(1.6)	—	4.2▼	①畳付釉剥.③外胴は下界線に草文.外高台に二圏線.高台内に「サ□」銘.	能茶山. 19c.
230	SD18 6grid	染付 小坏:口~底	3.7	6.4▼	2.3▼	①高台周り無釉.③外胴に文字意匠4.間に鑄.④端反口.削出高台.兜巾状.	肥前. 17c.
231	SD18 Egrid	陶器 蓋	(1.4)	8.8▼	7.0▼	①淡黄釉.下面無釉.⑥内面に「寿カ」墨書.	瀬戸カ. 近世.
232	SD18 東側	陶器 碗:胴~底	(5.3)	—	4.2▼	①緑釉.高台周り露胎.④削出高台.巴に似る.	唐津. 17~18c.
233	SD18 6grid	陶器 徳利:口頸	(2.5)	4.8	—	①灰釉.④断面三角口縁.	瀬戸. 近世.
234	SD18 東側	炆器 播鉢:口~胴	(4.7)	29.6▼	—	①赤.②角岩細粒.④縁帯に鋭い沈線2条.内口縁に切込み段.外胴に浅い沈線.篋ナデ.内胴に摺目密.上端は工具で切り揃え.	明石. 19c.
235	SD18 東側	炆器 播鉢:胴	(8.5)	—	—	①暗赤褐化粧土カ.鈍黄褐.②微砂粒.④内胴に7齒摺目.疎ら.	唐津. 17c.
236	SD18 覆土	瓦器 鉢:口縁	(5.6)	—	—	①灰.②角岩細粒.④内口縁肥厚.口唇丸い.	在地. 近世.
237	SD18 7grid	瓦 丸瓦	長さ (15.1)	幅 (12.2)	高さ 2.1	①黒.②砂礫.④外面ミガキ.玉縁外面ナデ.内面玉縁部分縄目.他鉄線痕.	
238	SD18 6grid	瓦 軒平瓦	長さ (6.4)	幅 (8.4)	高さ 1.6	①黒.②細砂粒.③唐草文.④内外ミガキ.	
239	SD18 6grid	石製品 台石カ	長さ (8.2)	幅 (8.6)	高さ 5.2	①褐灰.②花崗岩.④面取.⑤被熱し煤ける.⑥612 <sup>9</sup> .	
240	SD18 覆土	石造物 五輪塔:水輪	高さ (15.9)	幅 (21.1)	高さ (16.0)	①灰黄.②花崗岩.	中世.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[52] 241	SD18 6grid	銅製品 釘	長さ 7.1	幅 0.6	厚さ 0.3	④頭巻釘カ.断面方形.	近世.
[54] 242	SD22 Ggrid	瓦器 播鉢:口~胴	(7.0)	—	—	①灰.②角岩細粒.④口唇ナデ凹面.外胴横粗ナデ.内胴精ナデ.8歯+摺目疎ら.	在地. 13~14c.
243	SD22 覆土	土器 羽釜:口縁	(2.8)	17.2▼	—	①鈍橙.②角岩微粒.④口唇ナデ凹面.内外に微拡張.内外横ナデ.⑤鐔以下に煤.	播磨型. 15c.
244	SD22 覆土	土器 鍋:口縁	(3.2)	19.1▼	—	①鈍黄橙.②角岩粒.④内湾口縁.口唇直下に退化鐔.外胴ナデオサエ.内面横ナデ.⑤外胴に煤.	在地カ. 16c.
245	SD23 測点	陶器 仏花瓶:胴	(2.8)	4.6	—	①灰釉.内無釉.②ざっくり感.④脚付.内底際に櫛目カ.	瀬戸. 13c.
246	SD23 Ggrid	炆器 播鉢:口~胴	(7.0)	—	—	①暗赤灰.②角岩細粒.④口唇上に拡張.断面三角.内胴に9歯摺目疎ら.	備前. 14後~15c前.
247	SD23 Ggrid	炆器 大甕:口縁	(4.5)	—	—	①赤灰~灰赤.自然釉.②角岩.石英細粒.④玉縁.	備前. 15c前.
248	SD23 Hgrid	須恵器 壺:底	(2.7)	—	9.8▼	①暗赤灰.②角岩細粒.④内面ナデ.上げ底.	在地. 古代.
249	SD23 Dgrid上層	土器 坏皿:底	(1.0)	—	4.4▼	①橙.②微砂粒.④内底ナデ.内底縁にナデ凹帯.回転糸切.	在地. 15c.
250	SD23 覆土	木製品 加工木材	長さ 7.9	幅 6.2	厚さ 1.1	②板目材.④方形板.一小口を丸く加工.短辺に方形の抉り.	
251	SD25 覆土	白磁 皿:口縁	(2.3)	13.3▼	—	④端反口.	中国. 16c.
[50] 252	SK153 棺	炆器 大甕:完形	70.6	58.6	33.7	①暗赤褐.肩周りに黄みがかった自然釉.②長石粗粒.橙土粒.④玉縁口縁.横ナデ.外胴は上半が螺旋ナデ.下半が縦ナデ.裾が横ナデ.内頸付け根はオサエ.内胴は横ナデ.下地に工具小口痕残る.内外底はナデ.⑤胴片側は割れた継ぎ目の内外に幅2~3cmの布帯を漆で固定して補修.	備前. 15c後.
253	SK153 覆土	須恵器 鉢:口~底	(4.5)	15.4▼	—	①灰.②角岩.長石微粒.③内外に筋状黒斑.④外口縁やや肥厚.内口縁に弱凹線.外胴回転ナデ.内胴精ナデ.	東播系. 中世.
254	SK153 裏込上層	土器 坏:底	(1.8)	—	6.8▼	①浅黄橙.②水箴土.マーブル状.④外胴ナデミガキ.内面精ナデ.平高台.回転篋切後にナデ.	在地. 11~12c.
255	SK153 棺内2層	土器 坏:底	(1.9)	—	6.6▼	①鈍橙.②微砂粒.④内外ナデ.平高台.外底ナデ.	在地. 11~12c.
256	SK153 裏込下層	土器 小皿:口~底	1.9	6.8▼	3.4▼	①鈍黄橙.②水箴土.④口縁は口唇側やや肥厚.内口唇ナデ斜面取.内外精ナデ.回転糸切後にナデ消し.⑤口唇に煤.	在地. 15c.
257	SK153 裏込上層	土器 小皿:口~底	1.6	6.9	3.9	①鈍黄橙.②水箴土.④口唇弱面取.内外精ナデ.外胴中位に弱ナデ凹帯.内底中心に凹み.回転糸切後にナデ.	在地. 15c.
258	SK153 覆土	土器 甕:口縁	(2.6)	—	—	①鈍黄橙.②細砂粒.④口唇ナデ凹面.上に拡張.外面ナデ.内面横ハケ.	10c.
259	SK153 覆土	石製品 未製砥石	長さ (6.1)	幅 (7.3)	厚さ 1.6	①灰オリーブ.②粘板岩.④側面は研磨.平面は粗研ぎ.	
[61] 260	SK155 棺下	土器 坏皿:略完形	2.6	11.7	7.1	①鈍橙.②微砂粒.④口縁やや肥厚.内外精ナデ.外胴中位に弱ナデ凹帯.内底中央一帯凹み.回転糸切.	在地. 16c.
261	SK155 棺下	土器 小皿:完形	1.5	8.3	4.8	①橙.②角岩.岩滓.微砂粒.④口唇は部分ナデ面取.外胴は部分腰折れ.内外回転ナデ.回転糸切.	在地. 16c.
262	SK155 棺下	木製品 細板	長さ 28.2	幅 4.8	厚さ 1.0	②追柁目材.④平面細長方形.中央に1.2cm大の穿孔.	
[64] 263	SK234 pt	土器 坏皿:完形	3.1	12.4	5.1	①浅黄.②微砂粒.雲母微量.④ゆるい折縁.内外静止ナデ.回転糸切後にナデ消し.	在地. 14c.
264	SK234 pt	土器 坏皿:口~底	3.0	12.7	5.3	①浅黄.②微砂粒.④ゆるい折縁.内外静止ナデ.回転糸切後にナデ消し.	在地. 14c.
265	SK237 覆土	青磁 皿:口縁	(1.9)	11.6▼	—	①淡緑釉.④端反口.	龍泉窯. 15c.
266	SK237 pt	土器 坏皿:口~底	2.8	13.4▼	5.8▼	①灰黄白.②微砂粒.④端反口.外胴は回転ナデ.内は精ナデ.回転糸切後にナデ.	在地. 15c.
267	SK237 pt	土器 坏皿:口~底	2.8	11.8▼	6.6	①鈍黄橙.②黒粒.④回転成形後に手持ち調整.口唇丸い.内外精ナデ.部分オサエ.外底強いナデ.	在地. 15c.
268	SK237 pt	土器 坏皿:口~胴	(2.5)	13.8▼	—	①鈍黄橙.②水箴土.④端反口.内外精ナデ.	在地. 15c.
269	SK237 pt	土器 坏皿:底	(1.2)	—	4.2	①鈍黄橙.②微砂粒.④外胴ナデ.内底轆轤目ナデ消し.外底は板目ナデ消し.	在地. 15c.
270	SK282 上層	炆器 建水:口~底	8.3	—	15.6▼	①外胴裾に黒褐色粘土.暗赤褐.②角岩.石英微粒.④巾着形.口唇ナデ面取.口縁やや肥厚.頸に三角突帯.外胴は上回転ナデ.下ナデ.外底削り.	備前. 近世.

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[64] 271	SK282 上層	炆器 播鉢:口縁	(3.7)	27.8▼	—	①赤褐.②黒粒,角岩,長石微粒.④口唇丸い.縁帯に凹線2.内口縁に三角隆帯.内外回転ナデ.	備前. 17c後.
272	SK282 上層	土器 焼塩壺蓋	1.6	6.6	—	①橙.②角岩細粒.④内外天井ナデオサエ.内外口縁横ナデ.	近世.
273	SK282 上層	土器 焼塩壺:完形	7.8	5.9	3.4	①橙.②微粒多.④板作り.内外口縁横ナデ.外胴ナデ面.外胴裾横ナデ.内胴に内型痕.	17c. 近世.
274	SK282 pt	土器 坏皿:完形	3.1	11.0	5.1	①橙.②水籤土.微粒.④口唇丸み.口縁やや肥厚,緩く外反.外胴下位に弱ナデ凹帯.内外精ナデ.内胴下端にナデ凹帯.回転糸切後にナデ消し.	在地. 15c.
275	SK282 pt	土器 坏皿:略完形	2.4	10.0	4.8	①浅黄橙.②精良.④内外精ナデ.回転糸切後にナデ消し,縮れ.	在地. 15c.
276	SK282 pt	土器 坏皿:完形	2.8	11.2	5.6	①橙.②水籤土.岩滓,微粒.④口唇丸い.口縁やや肥厚,緩く外反.外胴精ナデ.外裾にナデ凹帯.内面回転ナデ.内胴下端にナデ凹帯.回転糸切後にナデ.	在地. 15c.
277	SK282 pt	土器 坏皿:略完形	2.6	11.3	5.2	①鈍橙.②水籤土.岩滓.④口唇丸い.口縁やや肥厚,緩く外反.内外精ナデ.内胴下端にナデ凹帯.回転糸切後にナデ消し.	在地. 15c.
278	SK282 pt	土器 坏皿:完形	2.3	11.1	6.0	①浅黄橙.②水籤土.④口唇丸い.口縁やや肥厚,緩く外反.内外精ナデ.内胴下端ナデ凹帯.回転糸切後にナデ消し.	在地. 15c.
279	SK282 棺床	銅銭 皇宋通寶	径 22.0 <sup>s</sup> ゝ	厚さ 1.0 <sup>s</sup> ゝ	重さ 1.6 <sup>g</sup> ?	③「□宋通寶」.④孔7.0 <sup>s</sup> ゝ.	北宋. 1038年~.
[70] 280	SE1 覆土	土製品 土錘	長さ 5.4	幅 2.0	重さ 20.4 <sup>g</sup> ?	①鈍黄褐.②微粒.④円筒状.端部面取.外面匏ナデ面取.	
[71] 281	SE2 覆土	須恵器 把手	長さ (4.5)	幅 (4.8)	—	①灰.②角岩細粒.④環状把手,先端がやや上反り.上面,環内は刀子で加工.部分刃痕.下面ナデ.	在地. 古代.
282	SE2 覆土	黒色土器 坏:口縁	(2.5)	—	—	①内面・外口縁黒色.鈍黄褐.②長石微粒,雲母.④内外ミガキ.	搬入. 9c後~10c初.
283	SE2 覆土	土製品 土錘	長さ 4.4	幅 2.1	重さ 17.6 <sup>g</sup> ?	①鈍橙.②角岩微粒砂.マーブル状.④胴張り.外面ナデ.	
[72] 284	SE3 覆土	炆器 播鉢:口~胴	(6.3)	—	—	①暗赤褐化粧土.②長石,石英微粒.④縁帯,外に刻線2条.口唇は内下りナデ凹面.口唇と縁帯下に重焼痕.内胴に10歯摺目	備前. 17c後.
285	SE3 覆土	瓦器 火鉢:口~底	8.0	15.6▼	14.6▼	①灰黄褐.②角岩細粒.③外胴は上に櫛描文,下に櫛描波状文.④口唇ナデ面取.内口縁は丸く肥厚,ナデ.内胴は回転ナデ.外底に貼付凸脚.	在地. 近世.
286	SE3 覆土	土器 皿:口~底	1.6	17.2▼	14.0▼	①橙.②水籤土.④内外胴回転ナデ.内外底は回転ミガキ.外底は一段凹む.	近世.
287	SE3 覆土	瓦 軒平瓦	長さ (11.0)	幅 (15.6)	厚さ 1.7	①黒,キラ粉.②微粒.③中心飾り三つ巴.脇に唐草文.④内外ナデミガキ.	在地. 近世.
288	SE3 覆土	瓦 平瓦	長さ (5.8)	幅 (10.4)	厚さ 1.7	①黒,キラ粉.②微粒.③「□友」刻印.④内外ナデミガキ.	在地. 近世.
289	SE3 覆土	瓦 棧瓦	長さ (19.6)	幅 (21.8)	厚さ 1.6	①黒,キラ粉.②微粒.③「吸モ」刻印.頭切込に「△に」.刻印.④内外ナデミガキ.	在地. 近世.
290	SE3 覆土	石製品 薄板状	長さ (3.8)	幅 (3.4)	厚さ 0.3	①黒.②粘板岩.④側面丁寧面取.⑥重さ7.1 <sup>g</sup> ?	
291	SE3 覆土	骨角器 歯ブラシ	長さ (6.7)	幅 1.4	厚さ 0.8	①鈍黄橙.④ブラシ孔3残.全面研磨.	近世.
292	SE3 覆土	銅銭 寛永通寶カ	径 23.0 <sup>s</sup> ゝ	厚さ 1.2 <sup>s</sup> ゝ	重さ 2.9 <sup>g</sup> ?	新寛永カ.③「寛永通寶」.④孔6.0 <sup>s</sup> ゝ.	1668~1862年.
[74] 293	SE4 覆土	白磁 皿:口~底	2.1	11.8▼	6.4▼	①高台内無釉.④端反口.	中国. 16c.
294	SE4 覆土	青花 皿:底	(1.2)	—	—	①畳付釉剥.③外胴に唐草文,下圏線.見込に羯磨文.④畳付に目砂.	景德鎮.
295	SE4 覆土	青花 皿:底	(1.2)	—	—	①畳付釉剥.③見込,外高台に文様.	景德鎮.
296	SE4 覆土	青花 皿:胴	(0.5)	—	—	③内面に唐草文カ.外面に線文.	景德鎮. 16cカ.
297	SE4 覆土	青花 瓶:胴	(3.5)	—	—	③外胴は界線上に蓮弁,下にラム式蓮弁.	漳州窯.
298	SE4 井筒	染付 皿:口~底	3.6	13.4	8.0	①畳付無釉.③外胴は下界線に四方宝文.外高台に二圏線.内胴は上下界線に矢羽根文.見込は一圏線に老松文.	肥前. 19c.
299	SE4 覆土	染付 小碗:口~底	5.0	7.3▼	4.0▼	①畳付釉剥.③外は上二界線・下界線に山水樓閣文.外高台に二界線.高台内に一圏線.④端反口.	肥前. 近世.
300	SE4 井筒	染付 小坏:口~底	2.4	4.9	2.2	①畳付釉剥.③外は上二界線,下半濃みに果実散シカ.外高台に二圏線.高台内に「宣徳年製」銘.	肥前. 近世.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[74] 301	SE4 覆土	磁器 鉢:口縁	(2.1)	15.8▼	—	③鈔緑かつ稜花縁.⑥SE10裏込と接合.	肥前. 近世.
302	SE4 井筒	陶器 碗:口~底	6.3	12.5▼	4.7	①明黄褐.外胴下半,見込周囲に白化粧土.高台無釉.③白化粧土掻取り波状文,外1条,内2条.④削高台.	肥前. 近世.
303	SE4 覆土	陶器 皿:口~底	3.4	14.6▼	5.0	①灰釉.口縁.高台周り無釉.③内胴に「花」銘.④削高台,縮緬,兜巾状.見込に砂目.	唐津. 17c前.
304	SE4 覆土	陶器 皿:口~底	3.4	10.6▼	4.4▼	①灰褐釉.高台周り無釉.④削出高台,縮緬,兜巾状.	唐津. 17c前.
305	SE4 覆土	陶器 皿:底	(1.7)	—	5.0	①灰釉.高台周り無釉.部分釉切れ.④見込に砂目4.削り片薄高台,縮緬,兜巾状.	唐津. 17c前.
306	SE4 覆土	陶器 甕:胴~底	(6.2)	—	15.4▼	①黒褐釉.②黒粒,長石微粒.④外胴裾回転ケズリ,回転ナデ.内胴に格子目当具痕.外底にオサエ.	肥前. 近世.
307	SE4 覆土	炆器 播鉢:口~胴	(7.8)	37.4▼	—	①暗赤褐.②長石,石英微粒.④縁帯は口唇,下端丸い,刻線2条.外胴は横ナデ.内胴に11歯摺目.⑥SE10裏込と接合.	備前. 近世.
308	SE4 覆土	炆器 灯明皿:口~底	2.4	11.5	4.0	①暗赤褐化粧土.②長石,石英微粒.④口唇に舌状突起1.外面は回転ケズリ.内面は回転ナデ.⑤内外口縁にタール付着.⑥SE10裏込と接合.	備前. 近世.
309	SE4 覆土	炆器 甕:口縁	(3.2)	—	—	①暗褐釉.②長石,石英粒.④縁帯,下端は大きく張出す,凹線2条.口縁ナデ凹面.	丹波. 17c.
310	SE4 覆土	瓦器 播鉢:口縁	(5.4)	—	—	①灰.②微砂粒.④口唇ナデ凹面.外面に段差,ナデオサエ.内面に7+歯摺目疎ら.	在地. 中世.
311	SE4 覆土	瓦器 火鉢:口~底	14.0	32.2▼	22.0▼	①灰黄橙.②長石,石英微粒.④口唇ナデ面取で内に突出.外面精ナデ.内面横ハケ後に上部はナデ消し.切株状三足.⑤内口縁は部分欠ける.	近世.
312	SE4 井筒	土器 坏:底	(2.5)	—	5.0	①鈍黄橙.②長石,角岩細粒,雲母.④剥離した柱状高台.側面に外から穿孔.外面は回転ナデ.内面ナデ.	搬入. 古代.
313	SE4 覆土	土器 小皿:口~底	2.0	10.0▼	4.0▼	①橙.②水籤土.④外胴中位にナデ微凹帯.内面回転精ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
314	SE4 井筒	土器 小皿:口~底	1.5	8.6▼	4.4	①橙.②角岩細粒.④外胴中位にナデ凹帯.内面精ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
315	SE4 覆土	土器 小皿:胴~底	(1.7)	—	3.4	①橙.②角岩微粒.④外胴回転ナデ.内面轆轤目ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
316	SE4 覆土	土器 焙烙:口~底	4.3	25.8▼	23.6▼	①鈍黄橙.②角岩,長石細粒,雲母.④口唇ナデ面取で内に肥厚.内外胴,内底回転ナデ.外底粗ナデ.	関西系. 近世.
317	SE4 覆土	土器 焼塩壺:口~胴	(5.2)	6.6▼	—	①灰褐.②角岩細粒.④板作り.内外口縁ユビオサエ.外胴ナデ面取.内胴に布目痕.	在地カ. 17c.
318	SE4 覆土	土製品 土錘	長さ 5.4	幅 2.0	高さ 19.8 <sup>?</sup>	①鈍黄橙.②角岩細粒.④外面ナデ.	
319	SE4 井筒	石製品 砥石	長さ 13.6	幅 3.8	高さ 2.1	①淡黄.②粘板岩.④全面研磨.表裏と一側面は弧面.⑥重さ161.0 <sup>g</sup> .	
320	SE4 裏込上層	石製品 砥石	長さ (10.6)	幅 (7.8)	高さ 2.1	①灰.②砂岩.④全面研磨.部分自然面.⑥重さ275 <sup>g</sup> .	
[77] 321	SE5 覆土	染付 端反碗:口~底	5.8	10.8▼	4.4	①畳付釉剥.③外胴は上下界線に土坡に蔓草文.外高台,内口縁に二圏線.見込は一圈線に線描文様.④見込に重焼痕.	肥前. 19c.
322	SE5 上層	磁器 人形	長さ (4.7)	幅 (6.1)	高さ (0.6)	③色絵付.赤・褐・緑で彩色.獅子形.④型作り.	肥前. 近世.
323	SE5 覆土	陶器 天目茶碗:胴~底	(5.4)	9.2	4.1	①褐釉.高台周り無釉.④削出高台,兜巾状,縮緬.	唐津. 17c.
324	SE5 覆土	陶器 鉢:胴	(3.5)	—	—	①暗赤灰.③外面に横細隆線,蓮弁文帯.④内面回転ナデカ.	肥前. 近世.
325	SE5 覆土	陶器 灯明皿:口~底	2.3	11.6▼	4.8▼	①灰釉.外口縁以下無釉.④外胴下半~外底は回転ケズリ.⑤内口唇,外胴に煤付着.	瀬戸. 近世.
326	SE5 覆土	陶器 灯明受皿:口~底	1.8	10.6	4.9	①灰釉.外面無釉.④返りに切込1.胴下半以下回転ケズリ.	瀬戸. 近世.
327	SE5 覆土	炆器 鉢:胴	(4.7)	—	—	①黄褐.②長石微粒.③外面に型押で菊花・柏葉文.	肥前. 近世.
328	SE5 覆土	炆器 播鉢:口~胴	(6.8)	29.0▼	—	①極暗赤褐化粧土.②角岩,長石細粒.④縁帯,外に双刻線.口唇はナデで内下り傾斜.内口縁に隆帯.縁帯下接合部は回転掻き取り.内胴に11歯摺目.上端はナデ消し.	堺. 19c.
329	SE5 覆土	炆器 瓶:胴~底	(19.3)	13.4▼	11.0	①暗赤褐化粧土.②黒粒,長石微粒.③外底に○刻印.④外胴は回転ナデ.裾は斜面取り.内面は轆轤目.外底は回転ケズリ.	備前. 近世.
330	SE5 覆土	土器 坏皿:口~胴	(3.0)	—	—	①明黄褐.②水籤土.④口唇弱尖.胴部中位で外折.内外回転ナデ.	在地. 近世.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[77]	331	SE5 上層 土器 小皿:口~底	1.6	7.6▼	4.4▼	①浅黄.②水箠土.微量雲母.④内外ナデ.回転糸切後にナデ.	近世.
	332	SE5 覆土 土器 胴カ	(2.3)	幅 (2.4)	厚さ 0.9	①鈍橙.②水箠土.③型作りで桃・葉文.	近世.
	333	SE5 覆土 白塗土器 鉢:口縁	(1.8)	18.9▼	—	①鈍黄褐土に白化粧土.②水箠土.③外面は化粧土で帯線.④鏝縁.口唇は ユビオサエで波状.	近世.
	334	SE5 覆土 土製品 人形型	長さ 3.9	幅 3.4	厚さ 1.3	①橙.②水箠土.③提灯形.④全面精ナデ.	近世.
	335	SE5 覆土 瓦 丸瓦	長さ (7.7)	幅 (10.2)	厚さ 1.8	①灰.キラ粉.②長石微粒.③外面に「□南カ」刻印.④外面ミガキ.内面鉄線 後に部分ナデ.	在地. 近世.
	336	SE5 上層 銅銭 寛永通寶	径 24.5 <sup>s</sup> リ	厚さ 1.2 <sup>s</sup> リ	重さ 2.1 <sup>g</sup> リ	古寛永.③「寛永通寶」.④孔5.0 <sup>s</sup> リ.	1636~59年.
[79]	337	SE7 覆土 染付 蓋物蓋	(2.4)	9.9▼	—	①接地面釉剥.③外面は上限四界線に竹垣・草文.	肥前. 19c.
	338	SE7 上層 染付 皿:口~胴	(3.5)	—	—	③内胴は上下界線に文様.見込は鋸歯状文.	初期伊万里. 17c前.
	339	SE7 覆土 染付 酒杯:口~底	3.4	7.0▼	2.9	①壘付釉剥.③内口縁は上下二界線間に交差連弧文.見込に水辺・草花文.④ 端反口.	肥前. 19c.
	340	SE7 中層 染付 仏飯器	(4.4)	—	4.2	①脚台裾無釉.③杯部外胴に圏線.脚部中位に線文.	肥前. 近世.
	341	SE7 中層 陶器 天目茶碗:口~底	7.7	8.8	4.2	①褐釉.高台周りに無釉.④微S字口縁.削出高台で兜巾状.縮緬.	唐津. 17c後半.
	342	SE7 覆土 陶器 浅碗:口~底	5.0	12.4	4.4	①褐釉.高台周りに無釉.見込輪禿.④内外口縁に微ナデ凹帯.外胴に刻線1 条.輪禿部に目跡.胴下半~高台はケズリ.外高台は縦ナデ波板状.	能茶山. 1820年代~.
	343	SE7 覆土 陶器 碗:口~胴	(3.7)	—	—	ピラ掛け.①灰釉.褐釉.④端反口.	萩. 19c.
	344	SE7 下層 土器 小皿:略完形	2.2	9.0	4.5	①鈍黄橙.②微砂粒.④外面回転ナデ.内面轆轤目.精ナデ.回転糸切.⑤内 胴に煤・タール付着.	在地. 近世.
	345	SE7 中層 土器 小皿:口~底	1.9	9.0	4.8	①鈍黄橙.②微砂粒.④外胴回転ナデ.内面轆轤目.精ナデ.回転糸切後にナ デ消し.⑤口唇に煤付着.⑥上層と接合.	在地. 近世.
	346	SE7 覆土 木製品 木札	長さ (5.8)	幅 (3.6)	厚さ 0.4	②柁目材.③墨書「山内」.他面にも墨書カ.④細板状.	
	347	SE7 覆土 繊維製品 棕櫚ホウキ	長さ (33.3)	幅 15.5▼	厚さ 4.2	②棕櫚.麻縄.④複数本の棕櫚束を麻紐で束ね根元を棒状に縛り上げる.	
	348	SE7 覆土 鉄器 刃物	長さ (5.1)	幅 1.1	厚さ 0.3	④片刃カ.	
	349	SE7 覆土 鉄器 頭巻釘	長さ (4.4)	幅 1.5	厚さ 0.4	④断面方形.	近世.
	350	SE8 覆土 瓦器 壺:胴	(2.8)	—	—	①黒.②長石微粒.③外胴の二凹帯間に型押で武田菱.内面回転ハケ.	近世.
	351	SE8 覆土 土製品 羽口:先端	長さ (4.3)	—	厚さ 2.3	①赤褐.②角岩細粒.スサ.⑤先端に鉄が熔着.	
	352	SE8 覆土 木製品 下駄	長さ 19.1	幅 8.1	高さ 3.4	②柁目材.④平面長方形.連歯.孔3.	
	353	SE8 覆土 銅銭 洪武通寶	径 22.0 <sup>s</sup> リ	厚さ 1.3 <sup>s</sup> リ	重さ (1.3)リ <sup>g</sup>	③「洪□□寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> リ.	明. 1368年~.
[81]	354	SE10 裏込 青磁 碗:底	(2.5)	—	5.3▼	①内高台~高台内無釉.④削出高台.兜巾状.	龍泉窯. 14c後~15c前.
	355	SE10 裏込 染付 丸碗:口~底	6.6	11.4▼	4.6▼	①壘付釉剥.③外胴は下界線に岩・樹木.外高台に二圏線.高台内に「宣明」銘.	肥前. 17c末~18c前.
	356	SE10 井側 染付 小碗:口~底	5.4	8.0	3.6	①高台内無釉.③外胴は上界線に草花.外高台に一圏線.④削出高台.兜巾状.	肥前. 17c中.
	357	SE10 裏込 陶器 丸碗:口~底	9.0	12.2▼	5.4	①浅黄釉.壘付釉剥.③外胴に緑釉掛流し.	肥前内野山. 1610~50年代.
	358	SE10 裏込 陶器 丸碗:口~底	8.0	12.5▼	5.0	①浅黄釉.壘付釉剥.④高台内兜巾状.	肥前. 17c.
	359	SE10 裏込 陶器 丸碗:口~底	7.9	12.2▼	5.0	①浅黄釉.壘付釉剥.④外口縁にナデ微凹帯.高台内微兜巾状.	肥前. 17c.
	360	SE10 裏込 陶器 碗:胴~底	(5.7)	—	5.2▼	①銘赤褐釉.壘付釉剥.③内底に篋彫り弧線カ.	肥前. 近世.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[81] 361	SE10 裏込	陶器 大皿:口縁	(3.3)	42.0▼	—	①オリーブ黒釉.④鈔緑気味.口唇ナデ凹面で上下に拡張.外口縁直下に刻線.胴中位で外折.	近世.
362	SE10 裏込	陶器 溝縁皿:口~底	3.4	14.2▼	4.4▼	①灰褐釉.外胴中位以下無釉.④内底に目跡.削出高台.	唐津. 17c前.
363	SE10 裏込	炆器 播鉢:口~胴	(3.7)	—	—	①オリーブ褐.②砂粒.長石微粒.④縁帯.外に粗凹線2条.口唇丸い.内胴に8歯摺目.	丹波. 17c.
364	SE10 井側	炆器 播鉢:底	(3.5)	—	—	①赤褐化粧土.②長石細粒.黒粒.銘黄橙土混.③外底に△刻印.部分火摺.④内面に12歯摺目.高台.内湾気味.	備前. 18c前.
365	SE10 裏込	白塗土器 坏皿:口~底	2.9	12.6▼	5.8	①白化粧土.鈍黄橙.②微砂粒.④内外胴は回転ナデ.内底は轆轤目ナデ.回転糸切後にナデ消し.	在地. 近世.
366	SE10 井側	土器 小皿:略完形	2.1	8.6	5.2	①浅黄橙.②角岩微粒.④内外胴精ナデ.内底轆轤目ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
367	SE10 裏込	土器 焼塩壺蓋	1.7	6.8▼	—	①鈍黄橙.②長石.角岩粒.④内面に布目.外縁横ナデ.天井ナデ.	近世.
368	SE10 裏込	土器 焼塩壺	(7.5)	6.2	5.7	①鈍黄橙.②角岩粒.④板作り.外面は面取で横ナデ.内面に布目.	17c.
369	SE10 上層	瓦 軒丸瓦	長さ (12.1)	幅 (11.4)	厚さ 3.5	①黒.②角岩粒.③三ツ柏文.	在地. 近世.
370	SE10 裏込	石製品 石臼	長さ (26.0)	幅 (13.3)	厚さ 4.9	①オリーブ灰.②凝灰岩.⑥重さ2.4kg.	
371	SE10 井側	木製品 櫛	長さ (5.3)	幅 (4.8)	厚さ 1.0	④横櫛.	
372	SE10 井側	木製品 下駄	長さ 20.1	幅 9.1	高さ (4.5)	②柁目材.④平面長方形.差歯.下面は船底形.孔3.	
373	SE10 上層	銅銭 祥符通寶	径 23.0 <sup>s</sup> ₃	厚さ 1.0 <sup>s</sup> ₃	重さ 1.9 <sup>g</sup> ₃	模鑄銭.③「祥符通寶」.④孔7.0 <sup>s</sup> ₃.	中世末~近世初.
374	SE10 裏込	銅銭 寛永通寶	径 24.5 <sup>s</sup> ₃	厚さ 1.3 <sup>s</sup> ₃	重さ 3.8 <sup>g</sup> ₃	古寛永.③「寛永通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> ₃.	1636~59年.
375	SE10 井側	銅製品 蓋	(1.0)	10.3	厚さ 0.2	②銅.④平面円形.すり鉢状の反り.中央に穿孔.凸側中央に五弁花飾り.凹側中央にピン状の突起.摘み付の蓋カ.	
376	SE10 井側	真鍮製品 煙管:吸口	長さ 6.2	幅 0.9	重さ 3.7 <sup>g</sup> ₃	②真鍮.④羅字側は断面七角形の筒形.端側は断面円形.連結部に刻線2.銅板巻.	近世.
377	SE10 井側	銅製品 金具	長さ 1.3	幅 3.2	重さ 8.9 <sup>g</sup> ₃	②真鍮.④銅円盤に銅板巻筒を接着.円盤は中央に大孔1.脇に小孔2.	
378	SE10 井側	鉄・銅製品 銅柄鉄刀子	長さ (13.2)	幅 1.5	厚さ 0.6	②刀子は鉄.柄は真鍮.③柄に金銅飾2.菱形に魚々子地・十字丁字文.木瓜形に鳥.刀子には「□□」刻印.④刀子は片刃.柄は銅板巻.⑥重さ41.5 <sup>g</sup> ₃.	近世.
379	SE10 井側	鉄器 頭巻釘	長さ 8.0	幅 1.6	厚さ 0.5	④断面方形.	近世.
380	SE10 井側	鉄器 頭巻釘	長さ (7.8)	幅 1.1	厚さ 0.7	④折れ曲がる.断面方形.	近世.
381	SE10 井側	鉄器 頭巻釘	長さ 5.7	幅 1.0	厚さ 0.4	④先端曲がる.断面方形.	近世.
382	SE10 裏込	鉄器 頭巻釘	長さ (4.2)	幅 0.8	厚さ 0.5	④断面方形.	近世.
[85] 383	SE12 下層	青磁 碗:口縁	(3.5)	—	—	①翡翠色.③鎚蓮弁.④微端反口.	龍泉窯. 14c.
384	SE12 下層	陶器 天目茶碗:口~底	3.4	9.1▼	3.4▼	①黒~暗褐釉.高台周り露胎.④削出高台.	古瀬戸. 14c中.
385	SE12 下層	陶器 鉢:胴	(6.3)	—	11.6▼	①灰釉.高台周り露胎.	瀬戸カ. 中世カ.
386	SE12 上層	炆器 播鉢:口縁	(5.5)	25.0▼	—	①灰褐.②角岩.長石.石英微粒.鈍黄橙粘土.④口唇ナデ面取で上に拡張.内胴に5歯摺目.内外横ナデ.	備前. 14c後~15c前.
387	SE12 上層	炆器 播鉢:口縁	(2.5)	—	—	①鈍赤褐化粧土.②角岩.長石.石英微粒.④二重口縁.上下に拡張.内面に4歯摺目.	不明. 中世カ.
388	SE12 中層	炆器 大甕:口縁	(6.8)	—	—	①鈍赤褐釉.②角岩.石英細粒.④N字形口縁.内外横ナデ.	常滑. 14c.
389	SE12 覆土	須恵器 坏カ:底	(2.2)	—	8.0▼	①灰.②角岩微粒.④轆轤成形.	
390	SE12 上層	瓦器 播鉢:口縁	(5.6)	26.2▼	—	①灰.②角岩微粒.④口唇ナデ面取で内外に拡張.外胴はナデ・オサエ.内胴は5歯摺目.横ナデ.	在地. 14c.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[85] 391	SE12 覆土	瓦器 播鉢:口縁	(5.1)	24.6▼	—	①灰.②微砂粒.④口唇面取で沈線状調整,内外に稍拡張.外胴は横ナデ後, ナデ・オサエ,内胴は4歯+摺目,横ナデ.	在地. 14c.
392	SE12 中層	瓦器 鍋:口縁	(3.4)	—	—	①灰.②角岩微粒.④口唇ハケ面取で外に拡張.内外口縁横ナデ.内外胴ナデ.	土佐型. 14~15c.
393	SE12 裏込	土器 坏:口~底	4.2	14.6▼	7.6▼	①鈍黄橙.②微砂粒.④微端反口.外胴は轆轤目.内面は精ナデ.内口縁に沈 線.回転糸切.	在地. 14c.
394	SE12 裏込	土製品 土鍾	長さ 6.5	幅 2.2	重さ 28.0g	①鈍褐~黒褐.②雲母極微粒.④胴張り形.外面は部分面形成,ナデ.両端は 面取りミガキ.	
395	SE12 上層	土製品 土鍾	長さ 6.1	幅 2.4	重さ 27.8g <sup>?</sup>	①橙.半面黒斑.②泥質.④胴張り形.外面ナデ.端部面取ナデ.	
396	SE12 上層	土製品 土鍾	長さ 5.6	幅 2.1	重さ 23.3g <sup>?</sup>	①黒褐.④やや胴張り.外面ナデ.両端面取ナデ.	
397	SE12 上層	土製品 土鍾	長さ 5.3	幅 2.6	重さ 28.7g <sup>?</sup>	①灰黄褐.半面黒斑.②泥質.④紡錘形.端面取ミガキ.	
398	SE12 裏込	土製品 土鍾	長さ 5.2	幅 2.5	重さ 27.2g <sup>?</sup>	①明褐.②泥質.④胴張り形.外面は部分面形成,ナデ.両端は面取.	
399	SE12 上層	土製品 土鍾	長さ 5.0	幅 1.3	重さ 7.5g <sup>?</sup>	①橙.縦棒状黒斑.②水簸土.④細胴張り形.両端粗ナデ.	
400	SE13 下層	炆器 播鉢:胴~底	(4.7)	—	15.0▼	①褐.②角岩.長石,石英粒.④10歯摺目見込際から.外胴は横ナデ.外底は ナデ.⑤摺目・内底は磨滅.	備前. 15~16c.
401	SE13 上層	瓦器 鍋:口縁	(3.6)	18.0▼	—	①鈍橙.②微砂粒.④口唇ナデ丸.外口縁横ナデ.外胴ナデつけ.内面横ナデ.	土佐型. 14~15c.
402	SE13 覆土	瓦器 鍋:口縁	(3.7)	—	—	①灰.②水簸土.④口唇ナデ面取.外口縁は横ナデ.外胴はナデ・オサエ.内 面は横ナデ.	土佐型. 14~15c.
403	SE13 覆土	瓦器 鍋:口縁	(3.0)	—	—	①灰.②角岩微粒.④口唇ハケ面取.外口縁は横ナデ.外胴はナデ・オサエ.内 面は横ナデ.	土佐型. 14~15c.
404	SE13 覆土	土器 鉢:口縁	(2.3)	18.6▼	—	①淡橙.②水簸土.雲母.③外面に飛鉋.	
405	SE13 覆土	土器 鉢:胴	(4.5)	—	—	①淡橙.②水簸土.雲母.③外面に飛鉋.④内面轆轤目ナデ消し.	
406	SE13 上層	土製品 土鍾	長さ 5.3	幅 1.9	重さ 14.9g <sup>?</sup>	①鈍黄橙.②微砂粒.④扁平で面形成.端面取.	
407	SE13 覆土	土製品 土鍾	長さ (3.9)	幅 2.4	重さ 18.5g <sup>?</sup>	①明赤褐.②砂質.角岩微粒.④胴張り形.外面ナデ.端面取.	
408	SE13 覆土	瓦 丸瓦	長さ (4.8)	幅 (6.7)	厚さ 1.7	①灰.②角岩細粒.④内面に布紋り目.	
[76] 409	SE14 覆土	真鍮製品 煙管:吸口	長さ 4.1	幅 1.1	重さ 5.6g <sup>?</sup>	②真鍮.④銅板巻.	近世.
[87] 410	SE15 覆土	陶器 餌猪口:完形	3.6	4.8	4.5	①灰釉.全釉.④片側に橋状把手.	近世.
411	SE16 覆土	染付 皿:口~底	2.7	18.6▼	11.4▼	①畳付釉剥.③内面に草.	瀬戸. 20c.
412	SE16 覆土	磁器 蓋:縁~返り	(2.0)	8.8▼	—	①畳付~受部下面釉剥.③上面は押圧による亀甲繋ぎ,呉須が淡く掛る.	現代.
413	SE16 覆土	石製品 石臼	長さ 22.6	幅 24.6	厚さ 10.1	①褐灰.②砂岩.④中心に軸受け.偏して筒状穿孔.片面に放射状摺目.側面 に方形抉り.⑥重さ3.7kg.	
414	SE16 覆土	石製品 石臼	長さ 19.6	幅 14.2	厚さ 5.5	①灰.②砂岩.④両面に摺目.一面と側面が研磨される.⑤砥石に転用カ.⑥ 重さ2.1kg.	
415	SE16 覆土	石製品 石鍾	長さ 9.1	幅 9.9	厚さ 4.8	①暗オリーブ灰.②砂岩.④自然石の一端を斜めに面取,穿孔.⑥重さ430g <sup>?</sup> .	
416	SE16 覆土	漆器 箸	長さ 20.8	幅 0.9	—	①黒漆.④断面方形.先端側の断面円形.	近代.
417	SE16 覆土	漆器 箸	長さ 21.4	幅 0.7	—	①赤漆.端面は黒漆.④断面円形.	近代.
418	SE16 覆土	漆器 箸	長さ 21.2	幅 0.7	—	①赤漆.端面は黒漆.④断面円形.	近代.
419	SE16 覆土	漆器 箸	長さ 15.1	幅 0.6	—	①緑塗料.④断面方形.⑥子供用.	近代.
420	SE16 覆土	漆器 箸	長さ 15.2	幅 0.6	—	①緑塗料.④断面方形.⑥子供用.	近代.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[87] 421	SE16 覆土	漆器 箸	長さ 14.2	幅 0.6	—	①橙塗料.④断面方形.先端側の断面円形.⑥子供用.	近代.
422	SE16 覆土	木製品 箸	長さ (14.3)	幅 0.7	—	①ピンク塗料.③端部は削出しで球体.楕円体繋ぎ.④断面隅丸方形.	20c.
423	SE16 覆土	真鍮 鉢:柄	長さ (8.2)	幅 5.9	—	①灰黄褐.②刃部は鉄.③端に刻線2条.④鋳造後折曲げ成形.全面研磨.根元側は表裏に平坦面.端側は断面不正円形.⑤指の掛る部分磨滅.	20c.
424	SE16 覆土	プラスチック スプーン	長さ 12.3	幅 2.8	厚さ 0.3	①赤.③柄端背面は珠文による楕円形枠内に点描地で鳥文.④型押し.	20c.
[90] 425	SX1 木層	青磁 輪花皿:口縁	(2.6)	11.4▼	—	①翡翠釉.③内面は篋削で花卉文・樹木文.	肥前.
426	SX2 下層	青磁 皿:口~底	3.7	13.7▼	4.9	①明緑灰釉.斑.見込輪禿.高台周り露胎.部分垂れ.露胎部は橙.④削片薄高台.	肥前. 17c後.
427	SX2 上層	青磁 皿:口~胴	(3.1)	14.2▼	—	①明緑灰釉.斑.外下半露胎.見込輪禿.④端反口.	肥前. 17c後.
428	SX2 上層	青磁 皿:口縁	(2.0)	13.4▼	—	①明緑灰釉.斑.外下半露胎.④微端反口.	肥前. 近世.
429	SX1 木層	青磁 鉢:底	(3.4)	—	10.1▼	①碧緑釉.高台内輪禿.②褐灰.③見込に篋削で雷文.④やや腰張.	肥前. 近世.
430	SX2 木層	青磁 火入れ:底	(2.8)	—	4.8▼	①白緑灰釉.畳付・内面無釉.④削出の幅広高台.	肥前. 近世.
431	SX2 木層	白磁 碗:口~胴	(3.7)	12.2▼	—	③上絵付.外胴に宝文.	肥前. 近世.
432	SX2 木層	白磁 碗:胴	(5.3)	—	13.9▼	③文様は線彫.外面は蔓文.下に芭蕉文.二圏線.	肥前. 1650~70年代.
433	SX2 覆土	白磁 皿:口縁	(1.5)	18.0▼	—	④折縁.口唇上方に微突.	肥前.
434	SX1 中層	白磁 皿:底	(1.4)	—	6.5▼	①灰白釉.畳付釉剥.②灰白.④貼付高台.	肥前カ.
435	SX2 木層	白磁 皿:底	(1.5)	—	5.9	①灰白釉.全釉.高台内発色不良.④貼付高台.畳付に黒色粒付着.	
436	SX2 上層	白磁 小坏:口~底	4.6	7.3▼	3.5▼	①灰白釉.マット感.畳付釉剥.④端反口.口縁に微段.	肥前.
437	SX2 上層	白磁 小坏:口~底	4.3	6.7	3.0	①灰白釉.稍黄味.畳付釉剥.②灰白土.③外胴は鉄絵鳥文カ.④端反口.高台際は縦連続篋ケズリ後に篋丸彫圏線.	肥前. 近世.
438	SX2 木層	白磁 小坏:口~底	3.9	6.4▼	2.6	①畳付高台内無釉.高台脇釉切.④端反口.口縁に微段.高台脇に縦篋削.削出高台.	肥前. 近世.
439	SX1 覆土	白磁 小坏:口縁	(2.7)	7.4▼	—	①釉に灰味.③無文.④端反口.	肥前. 近世.
440	SX2 上層	青花 鏝皿:口縁	(1.7)	16.2▼	—	③外口縁に一圏線.花文カ.内面は鏝に四方襷・文様.⑥口に虫食い.	景德鎮. 17c.
441	SX2 上層	青花 皿:口縁	(3.2)	12.5▼	—	③内面に花卉.果実.④端反口.⑤漆接ぎ.	景德鎮.
442	SX2 覆土	青花 皿:口縁	(1.7)	19.1▼	—	①釉は稍赤み.貫入.②浅黄橙土.③外口縁に圏線.内口縁に圏線・花唐草文.	景德鎮.
443	SX1 覆土	染付 大碗:口~胴	(6.7)	14.3▼	—	①釉は青味.③外口縁に二圏線.外胴に文様.④破面に釉.	肥前. 近世.
444	SX1 覆土	染付 碗:口縁	(4.2)	10.4▼	—	①釉は青味.③外口縁に圏線.一重編目.	肥前. 17c後.
445	SX1 覆土	染付 碗:底	(3.9)	—	6.0▼	①畳付釉剥.③外面に草花文.外高台に二圏線.櫛歯文.	肥前. 近世.
446	SX2 木層	染付 端反碗:口縁	(4.5)	11.6▼	—	①釉は青み.③外口縁に二圏線.草花.④端反口.	肥前.
447	SX1 覆土	染付 皿:口~底	3.9	14.0▼	7.6▼	①釉は灰み.爛れ.畳付釉剥.③内口縁に圏線.見込は二圏線に草花文.	肥前. 近世.
448	SX2 木層	染付 皿:口~底	2.7	13.0▼	5.5	①明オリープ灰釉.畳付釉剥.③見込は唐草文.④葎筒底状.高台に砂目.⑥SK13と接合.	初期伊万里. 17c前.
449	SX1 上層	染付 皿:口縁	(3.6)	16.8▼	—	①釉は灰味.③外面に二圏線.内面に圏線.花卉文カ.	肥前.山辺田. 17c後.
450	SX1 覆土	染付 中皿:底部	(3.3)	—	11.0▼	①畳付釉剥.③内面に菖蒲.外面に葉文・圏線.外高台に三圏線.高台内は二圏線.④貼付高台.⑥良品.	肥前. 17c後.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[90] 451	SX1 覆土	染付 皿カ:底部	(4.4)	—	7.7▼	①畳付釉剥.③内面に梅.見込に梅・二圏線.④削高台.砂目.	初期伊万里. 17c前.
452	SX1 木層	染付 小坏:口~底	3.4	5.3▼	2.0▼	①畳付釉剥.③外胴に山水,下界線.外高台に二圏線.高台内に文様.	肥前. 近世.
453	SX2 木層	染付 小坏:口~底	4.5	7.2▼	2.8	①畳付釉剥.③高台際に一圏線.内口縁に帯線.④端反口.高台に砂目.	肥前. 近世.
454	SX2 上層	染付 小坏:口~胴	(3.2)	6.2▼	—	①釉に明灰.釉切.高台周り露胎.明赤褐.②明灰土.③外胴に草文.④高台脇に稜.	肥前. 近世.
455	SX2 木層	染付 鉢:胴	(4.9)	—	—	①内施釉.③外面は建物・幔幕.④胴面取.	肥前. 近世.
456	SX1 覆土	染付 鉢カ:胴	(3.3)	—	—	①内施釉.③外胴に菊陽刻はんぐろ花文カ.④轆轤成形.	肥前. 近世.
457	SX2 木層	染付 瓶:胴	(10.8)	19.5▼	—	①内無釉.部分垂れ.③外面に宝・蝶文.⑥良品.	肥前. 近世.
458	SX1 木層	染付 瓶:下半部	(6.1)	9.2▼	5.6▼	①内無釉.畳付釉剥.貫入.③外胴に圏線.④目砂付着.	初期伊万里. 17c前.
459	SX1 木層	染付 仏花器:底	(2.4)	6.3▼	4.2▼	①釉に青味.貫入.畳付・内無釉.③外面に菖蒲カ.④碁笥底状.目砂付着.	初期伊万里. 17c前.
460	SX1 覆土	染付 ミニチュア	2.2	2.9	1.6	③外面は上下圏線に菖蒲文.見込に点文.	肥前. 近世.
461	SX2 中層	磁器 小坏:口~底	3.3	5.4▼	2.1	①釉に灰味.高台周り露胎.鈍橙.②明灰土.④高台削出.端反口.	肥前. 近世.
462	SX2 中層	磁器 小坏:胴~底	(2.9)	—	2.2▼	①釉に灰味.高台露胎.部分垂れ.露胎部分は鈍橙.②明灰土.④外胴は一部削.高台脇に稜.高台外面縦削.高台不整円.削出.	肥前. 近世.
463	SX2 上層	磁器 水滴:胴	(4.5)	—	—	鳥形.①内無釉.③上色絵付.赤・黒で羽毛を表現.④穿孔.	肥前. 近世.
464	SX1 木層	磁器 人形カ水滴:胴	(4.8)	—	—	鳥形.①内無釉.③上色絵付.外面に桐文.④頸上部に穿孔.	肥前. 近世.
[91] 465	SX1 覆土	陶器 天目茶碗:胴~底	(4.4)	—	4.6	①褐釉.外は焼成不良で灰白.高台周り露胎.②暗褐.④外胴下半回転削.削片薄高台.縮緬.	唐津. 1630年代まで.
466	SX1 覆土	陶器 丸碗:口~底	7.7	10.9	5.1	卵手系.①浅黄釉.畳付釉剥.高台内焼成不良.②灰白土.③口唇~高台内に緑釉掛流し.④高台内は兜巾状.	肥前内野山. 1610~50年代.
467	SX1 木層	陶器 丸碗:口~底	7.9	11.6▼	5.0	①浅黄釉.畳付釉剥.高台周り発色不良.貫入.②灰白土.③外面は銅緑釉掛流し.	肥前内野山. 1610~50年代.
468	SX2 上層	陶器 丸碗:底	(4.7)	—	5.5	①青緑釉.発色不良.畳付釉剥.明赤褐.②鈍橙土.砂質.③胴と高台の染みは自然釉カ.④高台に砂目.高台内は微兜巾状.	唐津カ. 近世.
469	SX1 木層	陶器 薄茶碗:口~底	4.4	12.5▼	4.2▼	京焼風.①オリーブ黄釉.畳付釉剥.②灰白.③外面に白化粧.内面に鉄絵山水文.④砂目.	肥前京焼風. 17c後.
470	SX1 覆土	陶器 碗:口~胴	(6.2)	13.1▼	—	①褐灰釉.②鈍黄橙.③無文.④口縁に微ナテ凹帯.	
471	SX1 木層	陶器 碗:口~胴	(6.4)	11.0▼	—	京焼風.①鈍黄釉.②灰黄.③外胴に鉄絵山水文.④胴に凹み.	肥前. 17c後.
472	SX1 覆土	陶器 碗:胴~底	(3.9)	—	5.7	呉器手様.①オリーブ黄釉.畳付釉剥.貫入顕著.②灰白.④高台内は兜巾状.砂目痕.	肥前系. 近世.
473	SX1 覆土	陶器 丸碗:胴~底	(3.4)	—	5.0	①灰白釉.全施釉.②灰白.④高台内は兜巾状.稍深い.高台に砂目.	近世.
474	SX1 覆土	陶器 碗:胴~底	(4.6)	—	5.5▼	京焼風.①灰白釉.発色不良.高台周り露胎.②鈍黄橙土.緻密.③高台内丸囲み「寶」刻印.④高台内に環状の段.⑤畳付にタール.	肥前京焼風. 17c後.
475	SX2 木層	陶器 碗:胴~底	(6.5)	—	5.0	京焼風.①鈍黄.高台周り露胎.②淡黄土.緻密.③高台内「清水」刻印.④高台内に環状の段.	肥前京焼風. 17c後.
476	SX1 覆土	陶器 碗:底	(2.4)	—	5.4	①灰黄白釉.畳付釉剥.②灰白.③外面に連続縦刻線.④見込と高台内に螺旋ナデ目.高台に砂目.	肥前カ.
477	SX2 木層	陶器 刷毛目皿:口縁	(3.2)	36.0▼	—	①暗灰黄釉.②鈍橙土.細砂.③内面は刷毛目・白化粧.④折縁.	唐津. 17c末~18c前.
478	SX1 木層	陶器 皿:底	(1.5)	—	4.3	①灰白釉.全釉.②灰色.④見込・高台に砂目各3.	唐津.
479	SX1 木層	陶器 皿:底	(2.3)	—	4.3	①灰釉.高台周り露胎.見込釉剥.②灰黄褐.③見込に鉄絵圏線.④碁笥底状.内はナテ.見込に砂目環状.	平戸三川内. 1650~90年代.
480	SX2 木層	陶器 皿:底	(1.7)	—	4.2	①灰オリーブ釉.高台周り露胎.②黄灰土.④見込に胎土目3ヶ.環状に釉剥離.削片薄高台.胎土目3.高台内は縮緬.	唐津.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[91] 481	SX2 木層	陶器 皿:底	(1.3)	—	4.4	①灰黄釉,稍不良.高台周りに露胎.②浅黄土.④見込は胎土目.高台削出,兜巾状.	唐津. 17c初.
482	SX1 木層	陶器 向付:胴	(1.3)	—	—	織部.①灰黄釉.②灰白.③内外に鉄絵,交差線文.④型打.内屈曲部に布目痕.	瀬戸美濃. 17c前.
483	SX2 上層	陶器 鉢:口~胴	(3.3)	15.6▼	—	①灰白釉.口縁のみ施釉,部分釉垂れ.②赤褐土.角岩細粒.④口縁は玉縁状.⑤口唇部剥離2ヶ.敲打カ.	唐津. 17c.
484	SX1 覆土	陶器 鉢:口縁	(3.9)	15.8▼	—	①オリーブ黄釉.②灰黄.③内面に褐釉文様.④二重口縁凹面.	瀬戸美濃. 19c.
485	SX1 覆土	陶器 捏鉢:口~胴	(6.2)	20.3▼	—	①暗灰黄釉.②灰白土.砂質.④玉縁口縁.⑤口唇は摩耗で釉剥離カ.	在地.
486	SX1 覆土	陶器 捏鉢:口縁	(5.1)	27.2▼	—	①黒褐釉.胴外無釉.②鈍橙土.砂質.④玉縁口縁.⑤口唇は摩耗で釉剥離カ.	在地.
487	SX2 中層	陶器 茶入:底	(4.1)	5.2▼	3.0▼	①黒褐釉.底周囲露胎,内無釉.②鈍黄土.細砂.④回転糸切.	
488	SX2 木層	陶器 瓶:胴	(6.4)	—	—	①暗赤褐釉.肩に自然釉.②黒粒,角岩,長石,石英微粒.	17cカ.
489	SX2 上層	陶器 灰落し:口~底	10.0	12.6▼	9.4▼	①浅黄釉.底周囲,内面無釉.②灰黄土.③口唇の脚対応位置に円浮文.外胴に凹線帯.④口唇は内傾で内外に拡張.短脚1.⑤口唇に敲打痕.内に煤付着.	瀬戸.
490	SX2 上層	陶器 足付鉢:胴~底	(5.3)	—	10.0▼	①乳白色釉.全釉,貫入.②灰白土.角岩.③外面に円浮文3ヶ.内面は鉄絵で区画文・円文.見込に樹木文カ.④橋状脚2ヶ.	志野. 17c前.
[92] 491	SX1 下層	炆器 浅丸鉢:口縁	(3.5)	—	—	①暗褐.②暗赤褐土.水箴泥質.④口縁内湾.口唇面取で上方に微拡張.口縁内に微段.⑤口唇に付着物.	備前. 17c.
492	SX1 木層	炆器 鉢:胴	(4.7)	—	—	二彩手.①暗赤褐化粧土.②橙土.砂質.③内面は2cm幅で化粧土を掻取り.4歯櫛描波状文.文様に釉垂れ.	備前. 17~18c.
493	SX1 覆土	炆器 大鉢:口~胴	(11.1)	23.0▼	—	①自然釉.②灰褐土.泥質.③外面に凹線帯.④口唇面取で内外に小拡張.	備前. 近世.
494	SX2 木層	炆器 搦鉢:口~底	12.8	30.6▼	13.4▼	①暗赤褐化粧土.広く剥離.口に自然釉.②橙土.泥質,長石粒.④口唇丸.緑帯二凹線,断面三角.8歯摺目密,底はクロスカ.	備前. 17c中.
495	SX2 木層	炆器 搦鉢:口~胴	(9.2)	43.2▼	—	①暗赤褐.②鈍赤褐土.細砂,長石粒.④口唇に段.緑帯二凹線.14歯摺目密に.	備前. 17c後.
496	SX1 木層	炆器 搦鉢:底	(5.2)	—	14.8▼	①暗赤褐.②暗赤褐土.細砂礫.④8歯摺目密.平底.	備前. 17c後.
497	SX1 覆土	炆器 搦鉢:胴	(6.5)	—	13.0▼	①明褐.②黄褐土.長石,角岩,石英粒.④8歯細摺目密に.外面は等間隔で斜めのナデ凹み.	丹波. 17c前.
498	SX2 木層	炆器 搦鉢:底	(4.4)	—	11.4▼	①赤褐化粧土.②橙土.細砂,角岩,岩滓.④碁笥底状.外胴は回転削.摺目は中心から放射状,斜が切る.	須佐. 17c.
499	SX2 木層	炆器 大甕:口縁	(6.8)	27.1▼	—	①暗赤灰.口唇内側釉剥.②赤褐土.泥質,長石粒.③砂粒多の化粧土.④鋤先口縁.	唐津. 17c.
500	SX1 下層	須恵器 坏蓋:縁	(2.3)	13.8▼	—	①灰色.②灰色.長石粒.④轆轤成形.外面は回転ケズリ.内面ナデ.	在地. 古代.
[93] 501	SX2 木層	土器 碗:口縁	(2.4)	—	—	①白.②角岩細粒.④玉縁.⑤水磨で磨滅.	12c頃.
502	SX2 上層	土器 坏皿:口~底	2.8	12.4▼	6.8	①灰黄.②灰黄土.砂,岩滓微量.④轆轤成形.回転糸切.内面に轆轤目強く残る.	在地. 近世.
503	SX1 木層	土器 小皿:口~底	1.6	8.6▼	5.0▼	①鈍橙.②岩滓,微砂粒.④回転糸切.見込に強い轆轤目.口唇は精ナデ.内胴ナデ.⑤内口唇に煤痕2.	在地. 近世.
504	SX1 覆土	土器 小皿:完形	1.6	8.4	5.0	①鈍黄橙.②鈍黄橙.水箴土.④轆轤成形.平高台気味.回転糸切.外面は粗ナデつけ.内面は回転ナデ明瞭.	在地. 近世.
505	SX2 上層	土器 小皿:口~底	1.8	8.4	5.3	①橙.②橙土.砂,岩滓微量.④轆轤成形.回転糸切.稍傾ぐ.内面に轆轤目残る.	在地. 近世.
506	SX1 木層	土器 小皿:口~底	1.7	8.1▼	4.4▼	①鈍橙.④回転糸切.口唇ナデ丁寧.見込端はナデ凹み.⑤口唇内外にタール・煤痕.底部焼成後穿孔.	在地. 近世.
507	SX2 木層	土器 小皿:口~底	1.8	8.0	3.7	①鈍橙.②鈍橙土.砂,岩滓微量.④轆轤成形.回転糸切.稍上底.内面は中心稍凸.⑤口唇に煤2ヶ.	在地. 近世.
508	SX1 覆土	土器 小皿:口~底	1.8	7.7▼	4.4▼	①鈍黄橙.②鈍黄橙.水箴土,岩滓微量.④轆轤成形.回転糸切.底に粘度滓付着.	在地. 近世.
509	SX2 木層	土器 焼塩壺:完形	9.3	6.6	5.7	①鈍橙.②砂,長石,角岩.④輪積み.外胴は叩き面,横ナデミガキ.内面は口縁横ナデ,胴布目.	17c後.
510	SX1 覆土	土器 焼塩壺:口~底	10.3.	9.2▼	5.2▼	①明褐.②鈍橙.細砂,長石,岩滓.③「天下堺ミなど藤左衛門」銘.④輪積み.外面は頸ナデ凹,胴横斜ナデミガキ.内面は口縁ナデ.内胴に布目・絞目痕.	17c後.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[90] 511	SX1 覆土	土器 焼塩壺:口縁	(6.6)	6.6▼	—	①橙.②橙.砂礫.長石.岩滓.④輪積み.外面は頸横ナデ.胴面取ミガキ.内面は口縁横ナデ.胴上布目.下布紋目.	17c後.
512	SX1 覆土	土器 焼塩壺:胴	(7.7)	6.7▼	—	①鈍黄橙.②鈍橙.花崗岩粒.角岩.③「天下堺ミなど藤左衛門」銘.④輪積み.外面は頸ナデ凹.胴横ナデミガキ.内面は布目痕.ナデ.	17c後.
513	SX1 木層	土器 焼塩壺:胴~底	(4.9)	6.9▼	4.8▼	①鈍橙.②鈍褐土.細砂.長石.④輪積み.外胴はナデ面取.内胴は布紋目痕.	17c後.
514	SX2 上層	土器 焼塩壺:胴~底	(7.9)	6.4▼	5.2▼	①淡赤橙.②鈍橙土.砂.長石.角岩.④輪積み.外面は板叩き.横ナデミガキ.内面に布目痕.	17c後.
515	SX1 覆土	瓦 軒丸瓦	(7.0)	幅 (9.6)	厚さ 2.4	①灰白.②角岩細粒.③三つ巴に珠文.④縁辺はナデ.	17cカ.
516	SX1 木層	瓦 軒丸瓦	長さ (8.0)	—	—	①暗灰.②灰色.長石粒.③珠文.④外面は縦ナデ.	
517	SX2 上層	瓦 丸瓦	長さ (9.6)	幅 (12.2)	厚さ (2.1)	①明褐灰.②角岩.岩滓微粒.④外面に薄い直交線刻.内面に布紋目.	17cカ.
518	SX1 木層	瓦 平瓦:破片	長さ (5.5)	幅 (5.9)	厚さ 1.8	①灰黄.②黄灰.長石粒微量.④側面ナデミガキ.一辺は板ナデ面取.表裏面ナデ.一面に3.5cm間隔で沈線2条.	
519	SX1 木層	瓦 海鼠瓦:破片	長さ 23.8	幅 (12.2)	厚さ 2.0	①暗灰.②灰色.長石粒少量.④方形穿孔2ヶ.表はナデミガキ.裏は粗ナデ.⑤孔周囲変色.裏の6cm幅燻なし.	
520	SX2 上層	瓦 海鼠瓦	(10.6)	幅 (11.5)	厚さ 1.8	①灰.②角岩.長石微粒.④円形有段の穿孔.裏面に鉄線切り痕.⑤裏面に煤附着.	17cカ.
521	SX1 覆土	瓦 海鼠瓦	(10.1)	幅 (7.9)	厚さ 1.6	①鈍黄橙.②角岩細粒.④方形穿孔.片側から.側縁ナデ.	17cカ.
522	SX1 木層	石製品 砥石	長さ (6.1)	幅1.6	厚さ 1.3	①黒色.②粘板岩.④方柱形.全面研磨.小口を鋸歯状に切込む.⑥重さ25g?.	
[94] 523	SX2 木層	漆器 椀:完形	5.9	7.1~ 13.8	6.0	①内外赤漆.③外胴は黒漆で丸に文様4.④器形歪む.	近世.
524	SX1 木層	漆器 椀:胴	(3.8)	—	—	①外は黒漆.内は赤漆.③外に赤漆で十字架.縦短線文.	
525	SX1 上層	漆器 椀:胴	(4.5)	—	—	①外は黒漆.内は赤漆.③外に赤漆で丸に六葉捻文.	
526	SX1 覆土	漆器 椀:胴	(1.9)	—	—	①外は黒漆.内は赤漆.③外に赤漆で丸に太田桔梗文.	
527	SX2 木層	漆器 椀:胴~底	(8.0)	—	—	①外は黒漆.内は赤漆.③外胴に赤漆で草.片喰3カ.④ハの字高台.器形歪む.	近世.
528	SX1 覆土	漆器 椀:胴~底	(7.2)	—	6.0	①内外黒漆.	近世.
529	SX1 覆土	漆器 椀:胴~底	(7.0)	—	6.3	①内外黒漆.	近世.
530	SX2 上層	漆器 杯:口~底	3.0	11.8▼	4.8	①内外黒漆.③外腰に灰色で市松文帯.内口縁に樹木花文.高台内に方格文.	
531	SX2 木層	漆器 杯:口~底	2.9	9.3	4.7	①外に黒漆.内に赤漆.③外胴に灰色で丸に笹文.	
532	SX1 木層	木製品 柄杓	長さ 42.9	幅 14.5	厚さ 6.4	④桶部分は薄板2枚の曲げ物.極細銅板で綴じ合せ.把手は断面方形.先端側細まり尖る.柄は桶の穿孔部分に挿入.	近世.
533	SX2 木層	木製品 切匙	長さ 22.3	幅 2.7	厚さ 0.4	②柁目材.④一端が刃物型.先端に段.他端は山形に加工.	
534	SX2 木層	木製品 切匙	長さ (22.3)	幅 3.9	厚さ 0.5	②柁目材.④一端が刃物形.他端はV字切込み.元は孔カ.	
535	SX2 木層	木製品 切匙	長さ (15.3)	幅 3.7	厚さ 0.5	④一端が刃物形.	
536	SX2 木層	木製品 柄	長さ (11.9)	幅 4.8	厚さ 3.7	④柄元側が太い.断面隅丸方形.柄元は段状に加工され断面方形.	
537	SX1 木層	木製品 箸	長さ 29.9	幅 0.8	—	④やや胴張り.全体削り面取.断面多角形.	
538	SX1 覆土	木製品 箸	長さ 28.6	幅 0.6	—	④全体削り面取.断面多角形.	
539	SX2 上層	木製品 箸	長さ 26.3	幅 0.6	—	④全体削り面取.断面多角形.	
540	SX1 覆土	木製品 箸	長さ 25.4	幅 0.8	—	④やや胴張り.全体削り面取.断面多角形.	

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[94] 541	SX2 上層	木製品 箸	長さ 25.3	幅 0.6	—	④全体削り面取.断面多角形.	
542	SX1 覆土	木製品 円盤	径 9.7	厚さ 1.0	—	②板目材.④全面削り.	
543	SX2 木層	木製品 円盤	径 8.8	厚さ 0.5	—	②柁目材.	
544	SX2 木層	木製品 円盤	径 10.0	厚さ 0.9	—	②柁目材.④やや偏位置に樹皮帯を通す.	
545	SX2 木層	木製品 蓋	長さ 10.2	幅 6.1	高さ 1.3	①黒色.④小判形板材側面に薄板帯を巻付け.	
[95] 546	SX1 木層	木製品 下駄	長さ 22.6	幅 8.9	高さ 5.0	②柁目材.④平面長方形.連歯.歯は両端に偏る.前歯はU字形.片側斜面取り.⑤側面に釘痕4.	近世.
547	SX1 木層	木製品 下駄	長さ 22.3	幅 9.3	高さ 3.3	②柁目材.④平面長方形.連歯.⑤歯は摩耗.	近世.
548	SX1 木層	木製品 下駄	長さ 21.9	幅 9.3	高さ 3.5	②柁目材.④平面長方形.連歯.前歯に削込み.	
549	SX2 木層	木製品 下駄	長さ 26.5	幅 9.3	高さ 4.6	②柁目材.④平面長方形.連歯.前歯に台形削込み.	
550	SX2 木層	木製品 下駄	長さ 25.2	幅 10.5	高さ 8.7	②柁目材.④平面小判形.かかと側細まる.差歯.歯は裾開き.	
551	SX2 木層	木製品 加工板	長さ 19.6	幅 18.1	厚さ 0.7	②柁目材.④平面ほぼ正方形.穿孔2箇所.対角隅.一方は2孔.⑤非貫通の釘孔数箇所.側面にも2箇所.	
552	SX2 木層	木製品 加工板	長さ 25.9	幅 7.1	厚さ 0.5	④平面細長方形.薄板.	
553	SX2 木層	木製品 加工板	長さ 26.6	幅 7.3	厚さ 2.3	②柁目材.④長方形で一端を丸く加工.⑤丸先端寄りに1孔.中位に2孔の非貫通釘孔.	
554	SX1 上層	木製品 加工木材	長さ 7.1	幅 2.5	厚さ 1.4	④両端よりに穿孔2.一は二穿孔連結の楕円形孔.一は片側穿孔の小孔.	
555	SX1 木層	木製品 板	長さ 17.6	幅 (4.2)	厚さ 0.6	②柁目材.③朱文字カ.	
[99] 556	SX3 覆土	青磁 碗:底	(2.8)	—	5.2	①碧緑釉.高台内釉剥.②灰細砂粒.	龍泉窯 14~15c.
557	SX3 覆土	青磁 猪口	2.7	4.1	2.1	①全釉.翡翠色.一部釉切れ.③外胴に鎬.	近世.
558	SX3 覆土	青磁染付 小皿:口~底	1.9	9.8▼	5.2▼	①外面は青磁.畳付釉剥.③見込に篆書印文.④端反口.	肥前カ. 19c.
559	SX3 覆土	クロム青磁 碗:口~底	(4.3)	9.9▼	—	①外は翡翠釉.内白釉.③外面は緑.褐釉で稻穂.⑥SX1と接合.	肥前カ 19c末~.
560	SX3 覆土	白磁 端反碗:口~底	4.9	9.4▼	4.0▼	①畳付釉剥.③上絵付.赤.灰.口唇赤口紅.外面に文字.落款.萩.下二圏線.山.円文.高台際に一圏線.	瀬戸.
561	SX3 木層	白磁 大皿:口~底	6.5	34.6▼	17.8▼	①畳付釉剥.部分釉切.②灰白土.泥質.③上絵付.内は木瓜.円窓に山水.見込は山水カ.⑤破面に漆接痕.	19c.
562	SX3 覆土	白磁 皿:口~底	2.3	11.4▼	7.2▼	型押壽文皿.①畳付釉剥.③見込は一圏線に陰刻「壽」文.④端反口.腰折.	瀬戸美濃. 19c後.
563	SX3 覆土	白磁 菊皿:口~底	2.2	9.6	4.8	①畳付釉剥.③陽刻文.内胴に松.竹.梅.鳥.魚.見込に菊.高台内は丸に十字.④型打.	肥前. 19c.
564	SX3 覆土	白磁 菊皿:口~底	3.5	12.7	6.4	①蛇ノ目凹型高台.④型打.	肥前. 19c.
565	SX3 覆土	白磁 菊皿:口~底	3.4	12.9▼	7.3	①蛇ノ目凹型高台.④型打.高台凹内縮れ.	肥前. 19c.
566	SX3 覆土	白磁 菊皿:胴~底	(3.3)	12.8▼	7.8	①蛇ノ目凹型高台.凹内無釉.④型打.見込に三足ハマ痕.凹内縮れ.	肥前. 19c.
567	SX3 C区木層	白磁 小碗:完形	2.9	6.4	2.7	①釉は稍緑味.畳付釉剥.④高台目砂付着.	19c.
568	SX3 覆土	白磁 小碗:口~底	3.5	6.8	2.9	①高台釉切.畳付無釉.④底内外に微凸.高台に目砂.	肥前.
569	SX3 覆土	白磁 盃:口~底	2.9	6.0▼	2.6	記念盃.①畳付釉剥.③上絵付.内面に黒文字で「祈園」.黒で山・木・建物文.金で鳥居文.	19c.
570	SX3 覆土	白磁 紅皿:完形	1.9	4.5	1.3	①外無釉.③貝殻様.④型打.	肥前.

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[99] 571	SX3 覆土	白磁 紅皿:完形	1.2	4.3	1.4	①底周りに無釉.③貝殻様.④型打.	肥前.
572	SX3 覆土	染付 小壺:口~胴	(7.6)	10.9▼	—	①口唇釉剥.橙.内面無釉.③陽刻型打文様.濃み.上に環珞文.人物2.梅カ.	肥前. 19c.
573	SX3 C区	染付 碗蓋:完形	2.7	9.3	4.1	①畳付釉剥.③外面は五弁内に宝珠.唐人笠.地に松意匠.内面は帯線内に木目文.見込は一圏線に巻物文.④ハ字高台.	肥前. 19c.
574	SX3 覆土	染付 碗蓋:完形	2.7	11.8	4.0	①畳付釉剥.③外高台に二圏線.高台内は一圏線に銘.外面に山水・楼閣・波濤文.内面に帯線.墨弾き雲文.見込は一圏線に帆船文.	肥前. 19c.
575	SX3 覆土	染付 碗蓋:完形	2.8	9.5	4.1	①畳付釉剥.③内外縁に斜格子帯線.外面に「福寿」輻射四分割.四辺半花.花唐草2種2対.見込に唐草.	肥前. 19c.
576	SX3 覆土	染付 碗蓋:頂部~裾	2.9	9.5	3.8	①コバルト.全釉.③外胴は濃み地に龍・雲気・芭蕉・楼閣に四足獣.内胴縁は子持帯線内に白抜芭蕉文.見込に捻牡丹.⑥接合No.86.	肥前. 19c.
577	SX3 覆土	染付 碗蓋:鈕~裾	3.0	9.6	4.1	①畳付釉剥.③高台に櫛齒.高台内に「禄」銘.外面は赤.上絵付痕.上下二圏線.梅散し地.丸窓に竹.雲窓に松・梅文.内面に雷文.見込は雷文に竹文.	肥前. 19c.
578	SX3 C区木層	染付 端反碗蓋:略完形	3.4	9.2	3.9	①全釉.③見込に一圏線.丸に略牡丹唐草.内面に雷文.高台内に一圏線.変形「瑞」銘.外面に牡丹唐草・唐子2.⑥A区近代層と接合.	肥前 19c.
579	SX3 上層	染付 端反碗:口~底	5.4	10.9▼	3.5	①畳付釉剥.③外胴は上下界線.縦双線で三分割.野菜カ.外高台に二圏線.内口縁は上下界線.簾状文.見込は一圏線に舟.波.④高台内削込み.高台に目砂.	瀬戸. 19c.
580	SX3 覆土	染付 端反碗:口~底	5.9	10.4	4.3	①呉須鈍い.③外胴は上下一圏線.丸窓に松.隅入方窓に楼閣山水を交互.高台際に三圏線.内口縁に雷文.見込は一圏線内に山・波.高台内に「茶」銘.	能茶山 19c.
581	SX3 覆土	染付 端反碗:口~底	5.2	9.2▼	3.8▼	①畳付釉剥.部分袖切.気泡多.③外胴は氷裂地.梅散.外高台に帯線.高台内に銘.内口縁は子持帯線に墨弾棚引雲文.見込に二圏線.太湖石カ.⑤焼継痕.	肥前カ. 19c.
582	SX3 覆土	染付 端反碗:口~底	5.7	10.6▼	4.2▼	①コバルト.畳付釉剥.③外胴は上下界線に桃果.草を三単位.内口は上下界線に松葉繫文.見込は一圏線に文様.	肥前カ. 19c.
583	SX3 木層	染付 端反碗:口~底	6.1	10.4	3.9	①コバルト.畳付釉剥.③外胴は上下界線に桃果・草を三単位.高台際に二圏線.内口縁は上下界線に松葉繫文.見込は一圏線に壽字意匠.⑥P7-KG1と接合.	肥前カ. 19c.
584	SX3 覆土	染付 朝顔形碗:口~底	6.2	6.8▼	4.2	①釉は灰味.高台袖切.畳付釉剥.②灰白土.気泡.黒粒.③外胴は草花文3.腰に一圏線.高台に二圏線.④厚手.	19c.
585	SX3 C区木層	染付 平碗:口~底	4.1	9.9	3.3	①畳付釉剥.③内外口縁に帯線.外面は上下裾呉須縞文.中位に梅散し.高台二圏線.高台内は変形「禄」銘.	20c前.
[100] 586	SX3 C区木層	染付 蓋物蓋:完形	2.9	9.5	8.4	①全釉.粘土塗布.③鈕二圏線.花卉.土坡.蝶.裾一圏線.④橋状鈕.容器接地面に粘土塗布.	19c後.
587	SX3 覆土	染付 蓋物蓋:頂部~裾	1.9	8.0	7.0	①畳付~受部釉剥.③外面に宝・七宝文.④返りがつく.	19c.
588	SX3 C区木層	染付 蓋物蓋:鈕~返り	(3.3)	10.0	—	①呉須薄い.返り無釉.③外面は二圏線2重.帯線.虫意匠3.④橋状鈕.返りがつく.	19c.
589	SX3 木層	染付 蓋物:口~底	4.7	9.2▼	4.6▼	①口唇~内縁及畳付釉剥.③外面は上下界線に蝶散し.高台際に二圏線.	肥前. 19c.
590	SX3 C区木層	染付 蓋物:口~底	6.3	11.0▼	5.8	①口唇~内口縁.畳付釉剥.③外胴は上下界線.太曲線で三分割.区画内濃み.三珠文散し.隠れ蕨一對環状区画.内は白抜き.高台際に二圏線.外高台に四割菱.雲気交互.④高台ハの字.高い.	肥前. 19c.
591	SX3 覆土	染付 小広東碗:口~底	5.5	10.8▼	3.8▼	①畳付釉剥.③外胴は上下界線に百合唐草・長持.外高台に縦格子帯.内口縁に雷文帯.見込は豆繫文帯を挟む三圏線に環状松竹梅文.	肥前. 19c.
592	SX3 C区木層	染付 蕎麦猪口:略完形	4.7	7.5	5.2	①全釉.③外面は流水に草花文.下に三圏線.④高台全周に目砂.	能茶山. 19cカ.
593	SX3 覆土	染付 湯呑碗:口~底	6.0	6.6▼	3.7	型紙摺絵.①畳付釉剥.③型紙摺絵.外胴は青海波地で窓に若松・竹文.外高台に一圏線.内口縁に一圏線.	肥前. 19c.
594	SX3 覆土	染付 湯呑碗:口~底	5.9	6.0	3.9	型紙摺絵.①畳付釉剥.③型紙摺絵.外胴は青海波地で窓に若松・竹文.外高台に一圏線.内口縁に二圏線.	肥前. 19c.
595	SX3 C区木層	染付 小皿:略完形	2.1	10.0	5.2	①コバルトカ.畳付釉剥.③口唇は呉須口紅.内外胴は捻に靈芝.見込は捻牡丹に靈芝文.	19c.
596	SX3 覆土	染付 小皿:口~底	2.0	9.8▼	6.1	①畳付釉剥.③口唇は呉須口紅.内外面に捻割・靈芝.見込に捻花・靈芝文.高台内は一圏線に「禄」銘.④刳高台.	19c.
597	SX3 覆土	染付 小皿:完形	1.7	10.3	6.8	①灰白黄釉.蛇ノ目凹型高台.③見込に十弁花.中央に印判五弁花文.	19c.
598	SX3 覆土	染付 小皿:口~底	2.0	9.8▼	5.7	①畳付釉剥.橙.③内縁に帯線菱繫文.見込に鳥・牡丹文.	19c.
599	SX3 覆土	染付 菊皿:略完形	2.3	9.4	4.7	①酸化コバルト.畳付釉剥.③見込は陽刻に濃み.松・竹・梅・珠文.④型打.見込に四足ハマ痕.⑥A区近代層と接合.	19c後.
600	SX3 木層	染付 小坏:口~底	3.9	8.3▼	2.7▼	①畳付釉剥.③褐釉口鏽.外胴に象形文字文.④端反口.	19c.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[100] 601	SX3 木層	染付 小坏:口~底	3.2	7.6	2.4	①釉くすむ. 畳付釉剥. ③褐釉口錆. 内外口縁に一圏線. 見込に一圏線. 高台際に二圏線. ④端反口.	19c.
602	SX3 覆土	染付 小坏:口~底	4.0	7.8▼	3.5	①畳付. 高台内無釉. ③外胴は上二界線. 下赤帯界線間に桐, 雲気. 下半は型押で縮れ風. 見込は二圏線に人物, 土坡, 花卉. 高台内に巴形削り. ④型押成形.	瀬戸.
603	SX3 C区木層	染付 合子身:略完形	1.8	5.9	6.9	①口唇~受部. 畳付釉剥. ③外面は3ヶ所に梅散し. 高台内に「能茶山製」銘.	能茶山. 19c.
604	SX3 覆土	染付 猪口:口~底	2.7	5.4▼	4.2▼	①呉須鈍い. 畳付内側釉剥. ③外面は上下界線に蜻唐草. ④腰輪高台.	肥前カ. 19c.
605	SX3 覆土	染付 花生け:口~底	11.8	5.2▼	5.3	①畳付釉剥. ③七宝透彫. 外胴上は濃み地に花散し. 下は氷裂地に花散し. ④腰輪高台. ⑥P7-KG1と接合.	瀬戸. 19c.
606	SX3 覆土	磁器 小坏:略完形	4.2	6.4	3.0	①透明釉. 外面と高台内面部分に緑釉. 畳付釉剥. ④端反口. ⑥N10-KG2と接合.	19c.
607	SX3 覆土	陶胎染付 小皿:略完形	3.0	10.7	7.6	①全釉. 鈍赤口紅. ②灰黄白土. ざっくり感. ③紫. 銅版転写. 西洋風. 内面に人・犬・風景. 高台内に人. 「COTTAGE/□AWSON」銘. 樹木文.	19c.
608	SX3 覆土	陶胎染付 土瓶蓋:頂~返り	3.4	11.1	9.6	①コバルト. 下面無釉. ②浅黄土. 軟質. 細砂. 黒粒. ③上外縁に波濤. 鈕の両側に斜格子. ④鈕は撚紐状. 返り付. ⑤受部~返り外に煤. 上面に四足ハマ痕.	鹿児島. 19c後.
609	SX3 覆土	陶器 碗:口~底	6.7	10.0▼	4.4	御室様. ①灰白黄釉. 口縁釉垂. 高台周り露胎. ②灰白土. ④見込に三足ハマ痕. 畳付内外斜面取. 高台内削込.	19c.
610	SX3 覆土	陶器 煎じ碗カ:口~底	4.8	12.8▼	4.6▼	①灰釉. 見込輪禿. 高台無釉. ②鈍黄橙土. 微砂粒. ③外胴に胴緑釉の文様. 細隆起線. ④外胴に回転面取の稜線. 輪禿に白泥塗布. 刳高台.	19c.
611	SX3 上層	陶器 青土瓶蓋:完形	3.3	9.0	5.8	青土瓶. ①青緑釉. 下. 内面無釉. 赤褐. ④擬宝珠形摘み. 返り外面に単沈線.	能茶山カ. 19c中.
612	SX3 木層	陶器 鍋蓋	3.7	15.1	—	①暗褐釉. 外面~鋸無釉. ②鈍橙土. 水鏡. ③上面は放射ハケにイッチン掛け. ④摘み. 内に三足ハマ痕.	19c.
613	SX3 覆土	陶器 急須蓋	2.4	9.3	3.8	①黒褐釉. 内無釉. ②鈍黄橙土. 微砂粒. ④摘んで歪めた鈕.	19c.
614	SX3 上層	陶器 摘みカ	(2.3)	—	—	①鈍赤褐. ②黒白細粒. ③本体は南瓜. 摘みは蔓カ.	19c.
615	SX3 覆土	陶器 土瓶:口~胴	(9.6)	20.3▼	—	①暗赤褐釉. 底周り露胎. ②黒白微砂粒.	19c.
616	SX3 覆土	陶器 土瓶:口~胴	(10.8)	15.1▼	—	①外面は淡黄. 白化粧土地に透明釉. 内面は暗褐. 銅緑釉垂れ. 外胴下半. 内胴上位無釉. ②灰白土. 黒白微細粒. ④把手.	19c.
617	SX3 覆土	陶器 土瓶:底	(5.4)	—	7.8	①灰釉. 内面. 胴下無釉. ②淡黄土. 微岩滓. ④外胴は回転ケズリ. 内は回転ナデ.	19c.
618	SX3 覆土	陶器 青土瓶:口~胴	(6.4)	15.0▼	—	①青緑釉. 内面無釉. 胴下半露胎.	19c.
[101] 619	SX3 覆土	陶器 行平鍋:口~底	8.8	15.7▼	8.0▼	①外に暗褐~褐化粧土. 内に灰釉. 胴下半露胎. ②鈍黄橙土. 雲母. 細砂粒. ③外胴に飛鉋. ④外胴は下半回転ケズリ.	19c.
620	SX3 覆土	陶器 行平鍋:口~胴	(4.3)	19.2▼	—	①暗赤褐化粧土. 口縁無釉. ②橙土. 黒粒. ③外胴は飛鉋. ④注口付. 口縁は受口.	19c.
621	SX3 覆土	陶器 行平鍋:口~胴	(7.3)	15.6▼	—	①暗褐釉. 口縁内・胴下無釉. ②赤橙土. 白黒細砂粒. ③外口縁下段・外胴上に飛鉋. 内胴に刷毛目. ⑤外胴下に煤.	19c.
622	SX3 木層	陶器 爛徳利:頸~胴	(17.5)	9.2▼	—	①オリーブ黄釉. 内頸部以下無釉. ②灰白土. ③暗オリーブ釉掛流し.	19c.
623	SX3 C区木層	陶器 瓶:胴~底	(8.7)	17.7	7.2	①暗褐釉・栗色. 胴下半露胎. ②鈍橙土. 細砂微. ④碁笥底. ⑤内面に炭化物不規則.	19c.
624	SX3 C区木層	陶器 灯明皿:口~底	1.9	9.3	3.1	①灰オリーブ釉. 外面は口唇以下露胎. ②灰黄白土. 粗質. ④下半回転ケズリ. 碁笥底状. 見込はハマ痕2ヶ. ⑤口唇内外にタール.	19c.
625	SX3 C区木層	陶器 灯明受皿:略完形	2.1	10.2	4.2	①浅黄釉. 外面は口唇以下露胎. ②灰白土. 緻密. ④受部にV字削込. 稍上底.	19c.
626	SX3 C区木層	陶器 台付灯明受皿	4.6	6.1	3.9	①暗褐釉. 底周り露胎. ②鈍橙土. 緻密. 砂質. ④見込にピン跡. 回転糸切.	19c.
627	SX3 覆土	陶器 甕:口~胴	(17.7)	19.9▼	—	①外はオリーブ褐釉に黒褐掛流し. 内は暗赤褐. ②鈍黄釉土. 細砂. 長石. 岩滓粒. ④口唇面取で内に拡張.	肥前カ. 19c.
628	SX3 覆土	陶器 甕:胴~底	(24.5)	24.0▼	13.4▼	①外は鈍赤褐釉. 釉垂れ. 内は暗赤褐. 底部周り無釉. ②褐灰土. 水鏡土. 雲母粉. ④火脹れ. 碁笥底.	19c.
629	SX3 覆土	陶器 植木鉢:口~胴	(10.4)	16.8▼	—	①暗褐化粧土. 内胴無釉. ②橙土. 白黒細砂粒. ③外胴は刷毛目後に飛鉋. 内胴は化粧土帯状. ④鋸縁. 轆轤成形.	19cカ.
630	SX3 覆土	陶器 植木鉢:口~胴	(6.7)	14.3▼	—	①暗褐釉. 内胴下無釉. ②ざっくり感. ③鋸縁上に褐釉鋸歯文. 外胴に吹墨墨弾きで菊花. 梅花文.	19c.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[101] 631	SX3 覆土	陶器 植木鉢:底	(3.4)	—	6.2▼	①極暗褐釉.内無釉,高台周りに露胎.②細砂粒.③外胴に飛鉋.④底に焼成前穿孔.削出の三切り高台.⑥近現代層と接合.	19c.
632	SX3 C区木層	陶器 植木鉢:口~底	15.1	16.0	14.3	①白化粧に透明釉.口縁下胴と底部無釉.②鈍赤褐土.細砂微.③外胴は呉須で山水文.外底に墨書四字以上.④底焼前外向穿孔3ヶ.幅広凹型高台.	能茶山. 19c.
633	SX3 覆土	陶器 花生カ:胴	(8.7)	6.1▼	5.7▼	①暗赤褐釉.外無釉.②鈍橙土.細砂粒.③外胴に梅樹.枝は鉄絵.花は白く量感.④外胴は回転削.	
634	SX3 覆土	陶製品 トチン	6.0	6.7	7.2	①鈍黄橙.②緻密.水鏡土.④上下の円盤を筒でつなく.底は回転糸切.筒は中空.底は焼前穿孔.⑤表面に炭付着.	19c.
635	SX3 覆土	陶製品 三足ハマ	1.3	5.3	—	①灰黄白.②細砂粒.④上下面に回転糸切痕.	19c.
636	SX3 上層	陶製品 三足ハマ	1.8	7.8▼	—	①本体は暗灰黄.足は明灰黄.④上面は回転糸切.中央に焼成前穿孔.⑤足先端剥離.	19c後.
637	SX3 上層	陶製品 三足ハマ	1.1	6.7▼	—	①本体は鈍赤褐.足は黄灰.④上下面とも回転糸切.中央に焼成前穿孔.	19c後.
[102] 638	SX3 覆土	炆器 鉢:口~底	(11.9)	37.8▼	—	①暗赤褐釉.②赤褐土.細砂.長石粗粒.④口縁は二重で凹面.裾開き.④全面回転ナデ.⑤内面に煤・タール付着.	備前. 19c.
639	SX3 覆土	炆器 鉢:口~胴	(9.6)	25.1▼	—	①外面は褐.内面は黄褐.②灰色土.細砂.長石.石英粗粒.⑥播鉢に同じ胎土.	19c.
640	SX3 覆土	炆器 鉢:口縁	(4.8)	27.6▼	—	①暗赤褐.②灰赤土.長石.石英粒.③鏝に外面凹線.下端押目突帯.外胴に縦三角突帯波板状.④鏝緑.	19c.
641	SX3 覆土	炆器 土瓶蓋:完形	3.6	10.6	7.4	①暗赤灰釉.裾端以下無釉.②暗赤褐土.砂質緻密.④球摘み.返り付.	19c.
642	SX3 木層	炆器 灯明受皿	1.6	10.4▼	4.8▼	①暗赤化粧土.全釉.②黒粒.④返りに刃込2ヶ.	備前.
643	SX3 木層	炆器 播鉢:口~底	12.1	29.0▼	12.8▼	①暗赤化粧土.露胎は暗赤灰.②砂粒.長石粗粒.④口縁断面隅角三角.外に凹線2.内に沈線.外面ケズリ.裾横ナデ.摺目10歯見込端から密に.上端凹線で揃.見込は放射摺目.外縁に環状トチン痕.外底はケズリ.外縁に目砂.	堺. 19c.
644	SX3 覆土	炆器 播鉢:口~底	6.1	17.8▼	10.6▼	①暗赤褐化粧土.②細砂.長石粗粒.④縁帯に二凹線.内口縁は凹線小段.外胴は前後ナデ.外底は荒.目砂付着.内胴に摺目10歯密.見込端から.上ナデ消.	堺. 19c.
645	SX3 覆土	炆器 播鉢:底	(2.5)	—	9.0	①暗赤褐化粧土.外面は赤褐.②細砂粒.長石.黒粒.④内胴は摺目8歯.見込端から.見込に摺目クロス.	堺. 19c.
646	SX3 覆土	炆器 播鉢:口~底	7.5	20.2▼	10.2▼	①暗赤褐釉.②長石粗粒.黒粒.④縁帯に二凹線.小片口.口唇は丸.内口縁は微凹微隆起.外胴は削.見込端から摺目10歯密.上ナデ消.見込に摺目三角.	明石. 19c.
647	SX3 覆土	炆器 播鉢:口~底	6.1	17.2▼	8.1▼	①灰黄褐化粧土.②長石.石英.黒粒.④縁帯に二沈線.口唇は面取.内口縁に段.外胴は前後ナデ.外底は荒.鬱胴は摺目9歯密.見込端から.上ナデ消.	明石. 19c.
648	SX3 覆土	炆器 播鉢:口~底	7.3	21.0▼	11.4▼	①暗赤褐化粧土.②長石粗粒.④外口縁は二重.二凹線.内口縁に三角突帯.外胴はケズリ.下は後ナデ.外底はケズリ.見込から摺目疎8歯密.上ナデ消.	明石. 19c.
649	SX3 覆土	炆器 播鉢:口~底	11.9	30.4▼	13.6▼	①無釉.明赤褐.②細砂.長石粗粒.稍軟質.④縁帯に微凹線.内口縁に凹段.外胴ケズリ.裾ナデ.見込端から摺目疎8歯.上ナデ消.見込に摺目三角.⑤内底は磨減.	19c.
650	SX3 覆土	炆器 植木鉢:胴~底	(7.0)	—	16.6▼	①赤.内底は銀化.②細砂.長石粗粒.③外下端に縁取凹線.④上底高台を切残し弧状三脚.底中央焼後内から穿孔.⑤外底は剥離.	19c.
[103] 651	SX3 木層	瓦器 七輪	19.1	22.2	16.5	①黒.②浅黄橙土.黒白細砂粒.④二重体式.四足.外面はミガキ.内面はハケ.	19c.
652	SX3 覆土	瓦器 焜炉:口~胴	(7.6)	16.3▼	—	①灰黒.キラ粉.②灰白土.細砂粒.長石.石英粒.雲母.③外口縁に3圈線.外胴に印文で波カ.④二重体.	19c.
653	SX3 覆土	瓦器 焜炉:脚	(7.7)	—	20.2	①黒.②長石.細砂粒.④轆轤成形.外面ミガキ.	19c.
654	SX3 木層	瓦器 二口竈	(30.0)	—	—	①黒.②橙土.細砂粒.岩滓.④外面はミガキ.内面の側面はハケ.上はナデ.⑤内面に煤厚く付着.	19c.
655	SX3 覆土	瓦器 火鉢:口縁	(3.8)	20.6▼	—	①黒.②長石細砂粒.	19c.
656	SX3 覆土	瓦器 火鉢:胴	(9.3)	—	19.6▼	①黒.②灰色土.長石.細砂粒.雲母.③外胴に印文で山水楼閣.④脚剥離.	19c.
657	SX3 覆土	瓦器 火鉢:胴~底	(9.5)	—	19.0▼	①灰黒.②角岩粗粒.細砂粒.雲母.③一圏線.スタンプ文.上に花文.下に珠文散し.	19c.
658	SX3 上層	瓦器 短頸壺:口縁	(3.2)	10.0▼	—	①黒.銀化.②細砂粒.角岩粒.黒曜石.③外胴に一圏線.	19c.
[104] 659	SX3 C区木層	施釉土器カ ミニチャ碗:完形	1.9	3.2	1.6	①透明釉.橙.全釉.②灰白土.細砂.岩滓微.③飛鉋地.赤.緑色絵珠文.④手捏ね.	
660	SX3 覆土	白色土器 皿:口~底	1.9	11.4▼	6.4	①灰白.②水鏡土.③内底に「壽」陽刻.④外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[104] 661	SX3 木層	白色土器 涼炉:口~底	15.2	15.2▼	14.1▼	①明灰白.②白土.細砂.④筒形.二重胴.上底に切込.内口唇に方突起3.円窓.上下外端斜面取.口唇.外はミガキ.内は回転ナデ.削出高台.⑤口唇~突起に煤.	京都系カ. 19c.
662	SX3 木層	白色土器 焜炉:口~胴	(7.5)	18.8▼	—	①灰白.②角岩微粒.③外胴に酢漿草印文.④胴に外から穿孔.口縁から窓.	
663	SX3 覆土	土器 皿:口~底	1.6	10.8	7.0	①化粧土なし.浅黄橙.②水鏡土.③見込に「□風」陽刻.④型打後轆轤調整.内は回転ナデ.外胴は回転ヘラナデ.外底は回転ケズリ.	19c後半.
664	SX3 覆土	土器 坏:口~底	2.8	10.3▼	5.8▼	①橙.②水鏡土.④轆轤成形.回転糸切.⑤口内外にタール付着.	在地. 近世.
665	SX3 覆土	土器 小型羽釜:口~胴	(4.3)	12.3▼	—	①淡黄.②微砂粒.④内胴は鑿位置に凹線.	19c.
666	SX3 C区木層	土器 焙烙鍋:口縁	(3.6)	26.4▼	—	①鈍黄橙.②黄灰土.長石粒.岩滓.④口唇面取.口縁下端に稜.底部ナデ.⑤外口縁に煤付着.	関西系.
667	SX3 覆土	土器 焜炉:口~胴	(8.0)	口径 16.2▼	—	①鈍黄橙.②岩滓.長石粒.④外面はナデミガキ.焼前穿孔.口縁は上.内面に面取ミガキ.内面に円錐突起.粗ナデ.⑤口上~内突起下まで煤付着.	19c.
668	SX3 覆土	土器 焜炉:口縁	(5.2)	23.4▼	—	①鈍橙.②砂.岩滓.長石粒.④口縁は内湾.切込み.内に貼付円錐突起.	19c.
669	SX3 木層	土器 焜炉:口~胴	(16.4)	18.6	10.7	①鈍黄橙.②細砂.岩滓.黒粒.④喇叭形.口唇斜面取.胴下端方形窓.切っ放し.口唇に嘴突起3.胴に穿孔3.外面精ナデ下粗ナデ.内胴は横ナデ.部分櫛掻き.オサエ.中位にサナ受貼付突帯.⑤口唇~突起.下段内外に煤付着.	19c.
670	SX3 上層	土器 焜炉:口縁	(5.5)	16.0▼	—	①浅黄橙.②白黒細砂粒.④口唇に内突の突起.口縁肥厚.胴上に焼成前穿孔複数.内外面回転ナデ.⑤外面被熱し鈍橙.突起内側に煤.	19cカ.
671	SX3 覆土	土器 焜炉:胴~脚	(7.1)	—	14.5	①浅黄橙.②砂.岩滓.長石粒.④脚貼付.ナデ仕上.	19c.
672	SX3 C区木層	土器 焜炉:胴~底	(14.4)	26.4▼	21.0▼	①鈍黄橙.②細砂.長石粒.雲母微粒.④脚貼付.裾肥厚.弧状抉り.内外回転ナデ.外胴は縦ミガキ.穿孔2ヶ外から.内胴は回転粗ナデ.	19c.
673	SX3 木層	土器 サナ	1.2	11.7	—	①鈍黄橙.②細砂.灰角岩.岩滓.④上から穿孔7ヶ.本来は8ヶ.側縁ナデ.上下面に刷毛.	19c.
674	SX3 上層	土器 サナ:破片	1.0	(6.1)	—	①鈍黄橙.②細砂.長石粒.黒角岩粗粒.④管と指で両側穿孔.バリ残.全面ナデ.	19c.
675	SX3 覆土	土器 サナ:破片	0.9	(5.0)	—	①鈍黄橙.②雲母.黒粒.④管と指で両側穿孔.バリ残.食み出し粘土ナデ付け.上面ナデ.下面は刷毛明瞭.側縁は切り取未調整.	19c.
676	SX3 覆土	土器 火消し壺:胴~底	(16.1)	30.8▼	28.6▼	①鈍黄橙.②砂.長石.岩滓粒.④外反筒形.外底は斜面取.外面は回転ナデ.内胴はナデ凹帯.外底に編目カ.部分つよいナデ.	19c.
677	SX3 C区木層	土器 火打箱カ:片	5.9	—	—	①鈍橙.②鈍橙土.細砂.岩滓微.③上下沈線区画.石垣様線刻.④器体稍外反り.内面糸挽痕カ.厚5.5 <sup>ス</sup> .同厚粘土板2枚を上下で挟む上底の箱形カ.	
678	SX3 覆土	土器 十能:把手	長さ (5.0)	幅 (10.3)	—	①橙.②細砂微.③型押文様.把手上面に「火口」銘.下面に双隆起線連弁文.	19c.
679	SX3 覆土	土器 十能:把手	長さ (8.0)	幅 (8.8)	—	①鈍黄橙.②砂.長石.岩滓.黒粒.④把手は別作り.下面に隆起線3.	19c.
680	SX3 覆土	土器 無頸壺:口縁	(4.1)	口径 11.2▼	—	①鈍黄橙.②砂.岩滓.角岩粒.④玉縁口縁.内に粘土添付.ナデ仕上げ.内胴は擦ナデ.	19c.
681	SX3 木層	土製品 戸車カ	—	5.1	厚さ 0.8	①鈍黄橙.②緻密.雲母粉.③一方の外縁に段.輻射凸文.④焼前両側穿孔.全面ナデ仕上げ.⑤摩耗毀損なし.	19c.
682	SX3 木層	土製品 泥面子	径 1.3	厚さ 0.8	重さ 4.0	①鈍橙.②微砂粒.③引き面に3珠文.④型作り.	近世.
683	SX3 C区木層	土製品 泥面子	径 2.4	厚さ 0.8	重さ 4.4 <sup>ツ</sup>	①鈍黄橙.②微砂粒.③型押しで「前原」銘.	19c.
[105] 684	SX3 覆土	瓦 軒丸瓦	(12.7)	長さ 14.5	厚さ 2.2	①黒.キラ粉.②角岩細粒.③一つ巴文.④巴文に指紋.	19c後.
685	SX3 覆土	瓦 軒丸瓦	長さ (2.8)	径 14.0	—	①黒.キラ粉.②長石.細砂粒.③三つ巴に珠文12.「天口」刻印.	19c.
686	SX3 覆土	瓦 軒丸瓦	長さ (7.8)	幅 (14.2)	高さ (13.6)	①黒.キラ粉.②微砂粒.③三つ巴.珠文.	在地. 19c.
687	SX3 C区木層	瓦 軒丸瓦	長さ (10.4)	幅 14.8	高さ 15.1	①灰.②角岩微粒.③三つ巴.12珠文.	在地. 19c.
688	SX3 木層	瓦 軒平瓦	長さ (7.7)	幅 (12.5)	厚さ 1.7	①黒.キラ粉.②黒細砂粒.③中心飾りは丁字文.唐草文.「行常」刻印.	19c.
689	SX3 覆土	瓦 軒平瓦	長さ (8.5)	幅 (23.6)	高さ (5.9)	①黒.キラ粉若干.②黒白砂粒.③中心飾りは三つ巴.唐草文.子葉.	19c.
690	SX3 覆土	瓦 軒平瓦	長さ (3.4)	幅 (15.3)	高さ (5.8)	①黒.キラ粉.②黒白砂粒.③中心飾りは三つ巴.唐草文.子葉.	19c.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[105] 691	SX3 覆土	瓦 軒棧瓦	長さ (5.2)	幅 (10.5)	高さ (7.3)	①黒,キラ粉若干.②黒粒.③瓦当は剣カタバミ文.	19c.
692	SX3 覆土	瓦 軒棧瓦	長さ (4.8)	幅 (24.5)	高さ (8.3)	①黒,キラ粉.②細砂粒.③文様は肉彫り,中心飾りは三丁字文.唐草文1,子葉.	19c.
693	SX3 木層	瓦 鎌軒瓦	長さ (12.3)	幅 (24.6)	高さ (7.9)	①黒,キラ粉.②白砂粒.③中心飾りは三丁字文.唐草文,子葉.「横濱源」刻印.	19c.
694	SX3 C区木層	瓦 鎌軒瓦:片	長さ (10.3)	幅 (13.9)	高さ 1.8	①暗灰,キラ粉.②灰白土,長石粒,黒粒微.③「け口上」銘.唐草文.④切込部 屈折.	19c.
695	SX3 覆土	瓦 隅瓦	長さ (11.8)	幅 (7.4)	高さ 1.8	①黒,キラ粉若干.②細砂粒.③子葉部巻き形.「小の□」刻印.	19c.
696	SX3 覆土	瓦 丸瓦	長さ (6.2)	幅 (6.8)	高さ 1.5	①灰.②黒白砂粒.③外面に「◇」刻印.④内に布目痕.	19c.
697	SX3 覆土	瓦 丸瓦	長さ (7.6)	幅 (10.7)	高さ 2.1	①黒.②長石,細砂粒.③「大坂...」刻印.	19c.
698	SX3 覆土	瓦 棧瓦	長さ (15.6)	幅 (16.7)	高さ 1.5	①黒,キラ粉.②細砂粒.③小口に「片勇」刻印.	在地. 19c.
699	SX3 覆土	瓦 棧瓦	長さ (11.8)	幅 (16.2)	高さ 1.8	①黒,キラ粉.②長石,砂粒.③小口に「手結喜」.	在地. 19c.
700	SX3 覆土	瓦 不明	長さ (4.5)	幅 5.9	高さ 5.7	①黒,キラ粉若干.②白細砂粒.③「布直」刻印.	在地. 19c.
[106] 701	SX3 C区木層	漆器 椀蓋	(3.3)	10.5	—	①外は黒漆.内は赤漆.③外面に鈍金色で丸にカタバミ文3.④肩張り.中位 に細隆線.	近世.
702	SX3 C区木層	木製品 木札	長さ 12.1	幅 6.3	高さ 4.5	②芯材.③墨書.「禁他用」明治十五年十月新調「銅炉□」(朱印)機能ハ 諸中石簿/□□□□□□/□□□□□用テヨシ.④四周削り.⑤上部に穿孔.裏 面中央に釘打込み痕跡.	1882年.
703	SX3 覆土	木製品 木札	長さ 23.2	幅 7.4	高さ 0.7	②柁目材.③墨書.「第□拾□番」[神宮教会*朱]/神風講社.④四周削り.	1879年以降.
704	SX3 木層	木製品 木札	長さ 23.2	幅 7.0	高さ 0.5	②柁目材.③墨書.地に*状墨書「神風講社」.④四周削り.	1879年以降.
705	SX3 C区木層	木製品 木札	長さ 33.9	幅 8.1	高さ 0.6	②追柁目材.③墨書.「金老圃也沖金」.④四周削り.	19c.
706	SX3 木層	木製品 木札	長さ 57.1	幅 5.9	高さ 0.7	②板目材.③墨書.「金□□ □□□平」二千八万□□□□□□□□□□.④四周 削り.	19c.
707	SX3 木層	木製品 円盤	径 5.0	厚さ 0.8	—	④平面円形.切込み部分あり.	
708	SX3 木層	木製品 円盤	径 5.0	厚さ 0.7	—	④平面円形.	
709	SX3 覆土	木製品 柄	長さ 36.3	幅 3.1	高さ 1.9	②板目材.④断面長小判形.一端に平たい空隙.⑥鋸柄カ.	
710	SX3 C区木層	木製品 千両下駄	長さ 15.3	幅 7.4	高さ 4.0	②柁目材.④平面小判形.連歯,前歯にのめり.鼻緒残る.	
711	SX3 C区木層	木製品 千両下駄	長さ 15.4	幅 7.6	高さ 4.0	②柁目材.④平面小判形.連歯,前歯にのめり.鼻緒残る.	
[107] 712	SX3 C区木層	木製品 加工木材	長さ 22.3	幅 5.5	高さ 0.7	②柁目材.④板状.一辺が大きく弧状に挟れる.	
713	SX3 木層	木製品 建築部材	長さ 19.9	幅 9.7	高さ 14.0	②芯材.④V字に切れ込む方形部に長方形が付く.長方形には方形穿孔.	
714	SX3 木層	木製品 建築部材カ	長さ 18.3	幅 18.0	高さ 5.9	④L字形.一側面は凹面.一方は平面三角形.	
715	SX3 覆土	木製品 建築部材カ	長さ 12.1	幅 5.9	高さ 4.4	④一隅弧状に挟り.一側面に凹凸.	
716	SX3 木層	木製品 建築部材カ	長さ 10.8	幅 5.2	高さ 3.9	④斜面取2.段部あり.	
717	SX3 C区木層	銅銭 寛永通寶	径 22.0 <sup>s,y</sup>	厚さ 0.9 <sup>s,y</sup>	重さ 2.0 <sup>g</sup>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔6.5 <sup>s,y</sup> .	1668~1862年.
718	SX3 C区木層	銅銭 寛永通寶	径 24.0 <sup>s,y</sup>	厚さ 1.6 <sup>s,y</sup>	重さ 3.5 <sup>g</sup>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔6.0 <sup>s,y</sup> .	1668~1862年.
719	SX3 C区木層	銅銭 寛永通寶	径 22.5 <sup>s,y</sup>	厚さ 0.8 <sup>s,y</sup>	重さ 1.5 <sup>g</sup>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔6.5 <sup>s,y</sup> .	1668~1862年.
[110] 720	SX4 下層	青磁 折縁皿:口縁	(3.0)	—	—	①灰オリーブ釉.③内口縁に櫛描文.④輪花縁.折縁.	龍泉窯. 中世.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[110]	721	SX4 上層 須恵器 皿:胴~底	(0.9)	—	8.4▼	①灰.②角岩微砂粒.④内外ナデ.静止糸切カ.	在地. 古代.
	722	SX4 pt 瓦器 鍋:底	(4.7)	—	—	①灰.②角岩細粒.④外面ケズリ後にナデ.内面ナデ後に細ハケ.⑤外底煤 附着.	土佐型. 14~15c.
	723	SX4 pt 土器 坏:略完形	4.7	13.6	6.2	①鈍黄橙.②角岩微粒.④内外精ナデ.回転糸切後にナデ.	在地. 16c.
	724	SX4 上層 土器 坏:胴~底	(2.1)	—	6.0▼	①鈍橙.②微砂粒.④外胴精ナデ.内胴精ナデ.内底強い轆轤目.回転糸切.	在地. 16c.
	725	SX4 pt 土器 坏:胴~底	(2.7)	—	6.5	①橙.②角岩細粒.④外胴は部分強いナデ.面取.内胴精ナデ.内底轆轤目ナ デ消し.回転糸切後にナデ消し.⑤内外胴に煤.	在地. 16c.
	726	SX4 pt 土器 羽釜:口~胴	(6.9)	20.0▼	—	①鈍橙.②長石.角岩細粒.角閃石.④口唇ナデ面取で上に拡張.鋸断面三角 形.上反り.外胴は平行タタキ.内口縁横ナデ.内胴回転ハケ.⑤外胴に煤.	播磨型. 15c前.
	727	SX4 覆土 石製品 砥石	長さ (7.6)	幅 (7.0)	厚さ (6.4)	①灰白.②砂岩.④断面六角形カ.⑤縦方向に研磨.⑥重さ419g?	
	728	SX4 下層 石製品 筋砥石	長さ (11.3)	幅 5.4	厚さ 4.8	①灰白.②火成岩.④三面が平滑.一小口は整形.他は毀損.⑤一面に筋状研 磨.端に筋の足掛り2ヶ.⑥重さ461g?	
	729	SX5 覆土 青磁 輪花皿:口縁	(1.4)	—	—	①暗碧緑釉.③内口縁に線文.④輪花縁.	龍泉窯. 中世.
	730	SX5 覆土 青磁 皿:胴	(1.9)	—	—	①灰オリーブ釉.③内胴に篋切文様.	龍泉窯. 13c.
731	SX5 下層 青磁 皿:胴~底	(1.4)	—	3.6▼	①翡翠釉.外底釉剥.③見込に櫛描Z文.④腰折れ.削出基筋底.	同安窯. 12c.	
732	SX5 下層 陶器 鉢:口~胴	(4.4)	17.2▼	—	①灰オリーブ釉.④微玉縁で端反.外胴に轆轤目.	朝鮮カ. 中世.	
733	SX5 覆土 炆器 播鉢:口縁	(5.2)	—	—	①外口縁は暗赤褐色粘土.外胴は暗赤.内は灰.②長石.角岩粗粒.④口唇は 上に尖り下に拡張.内外面ナデ.部分オサエ.内胴に摺目.	備前. 15c後.	
734	SX5 下層 瓦器 鉢:口縁	(3.7)	—	—	①灰.②微砂粒.④口唇ナデ凹面.内外に小拡張.外口縁横ナデ.外胴ナデ.内 胴横ナデ.	在地. 中世.	
735	SX5 覆土 瓦器 播鉢:胴	(5.4)	—	—	①外は灰.内は灰白.②微砂粒.④外は強いナデオサエ.内はナデ.内胴に7 齒摺目疎ら.	在地. 中世.	
736	SX5 下層 瓦器 鍋:口縁	(4.2)	—	—	①灰白.②微砂粒.④口唇ナデ面取.外口縁は部分斜面取り.外面ナデオサ エ.内面横ナデ.	土佐型. 14~15c.	
737	SX5 覆土 土器 坏皿:胴~底	(1.2)	—	6.0	①灰白.②微砂粒.④外面回転ナデ.内面精ナデ.内底一段凹む.外底精ナデ.	在地. 古代.	
738	SX5 覆土 土器 茶釜:口~胴	(6.5)	13.2▼	—	①浅黄橙.②角岩微粒.④口唇丸い.外面.内口縁は回転ナデ.内胴はナデ.	中世.	
739	SX5 覆土 土製品 円盤	長さ 2.6	幅 2.5	厚さ 0.7	土器片再加工.①浅黄橙.②微砂粒.④外面擦痕.内面ナデ.		
740	SX5 覆土 瓦 平瓦	長さ (5.0)	幅 (4.5)	厚さ 1.2	①灰白.②角岩微粒.マール状.④凹面に布目痕.凸面に縄目痕.	在地. 古代.	
[112]	741	SX6 覆土 須恵器 壺:底	(2.6)	—	13.6▼	①灰.②角岩微砂粒.④内外回転ナデ.貼付輪高台.	在地. 古代.
	742	SX6 覆土 瓦器 鍋:口縁	(3.6)	19.2▼	—	①灰.②角岩微粒.④口唇ハケ面取で外に微拡張.内口唇ハケ.外口縁は肥厚. 稜線.接合痕.内面横ナデ.⑤外口縁に煤.	在地. 中世.
	743	SX8 覆土 須恵器 蓋坏	(2.7)	—	—	①灰.②微砂粒.④天井部回転ヘラケズリ.内外回転ナデ.⑤磨減.	在地. 6c後.
	744	SX8 下層 土器 坏:胴~底	(3.3)	—	7.2	①灰白.②微砂粒.④外胴轆轤目ナデ.内胴精ナデ.内底回転工具痕.平高台. 回転糸切.	在地. 10c後~11c.
	745	SX8 上層 土器 坏皿:底	(0.7)	—	—	①灰黄褐.②微砂粒.④内底轆轤目ナデ消し.外底篋起し後にナデ.	在地. 10~11c.
746	SX8 覆土 土器 皿:口~底	1.6	13.1▼	9.8▼	①浅黄橙.②角岩微粒.④端反口.内口縁にナデ微凹帯.	在地. 9~10c.	
[114]	747	SX9 下層 青磁 碗:口~底	6.5	11.7▼	5.0▼	①畳付釉剥.④内底浅く凹む.見込に重焼痕.高台歪む.	肥前. 近世.
	748	SX9 下層 染付 碗:口~胴	(6.4)	9.9▼	—	①外胴は部分釉切れ.③上下界線内縦線区画.壽字文.	肥前. 17c中.
	749	SX9 覆土 染付 皿:口~底	2.5	14.0▼	6.0	①畳付釉剥.③内口縁に渦巻紋帯.見込に三圏線で外縁に略蓮弁.雲に兎.	肥前. 17c前.
	750	SX9 上層 染付 皿:口~底	2.0	9.6▼	5.8▼	①畳付釉剥.③外胴に唐草.高台脇に一圏線.外高台に二圏線.内胴に墨弾 き捻子文.下端に四圏線.高台内に一圏線.	肥前. 17c後~18c初.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[114] 751	SX9 覆土	磁器 皿:口~胴	(1.7)	19.9▼	—	④弱髹縁.	肥前. 近世.
752	SX9 覆土	磁器 小坏:口~底	3.6	5.9▼	2.4▼	①高台内無釉.③外胴に髹.④端反口.	肥前. 17c前.
753	SX9 上層	陶器 丸碗:胴~底	(5.3)	—	4.8▼	呉器手様.①鈍黄釉.畳付釉剥.④削高台.	肥前. 18c前.
754	SX9 覆土	陶器 皿:口~底	3.5	14.4▼	4.8	①褐釉.見込輪髹.高台周り無釉.④緩い折縁.見込.畳付に目跡.	肥前. 17c後~18c前.
755	SX9 覆土	陶器 鉢:口~胴	(6.3)	9.7▼	—	①鈍褐釉.③絵唐津.外口縁に斜格子文.④口縁受口状.部分なぶり口.腰折れ.	肥前. 16c末~17c初.
756	SX9 中層	炆器 播鉢:口~胴	(6.5)	25.9▼	—	①明赤褐.②角岩細粒.④縁帯.口唇丸い.外に沈線3条.内に沈線1条.内外 胴横ナデ.内胴に9歯摺目縦.斜.	備前. 16c末~17c初.
757	SX9 覆土	土器 埴:底	(1.7)	—	6.0	①灰黄白.②微砂粒.④内底精ナデ.回転糸切後にナデ.貼付輪高台.畳付 ナデ凹面.	11c.
758	SX9 覆土	真鍮製品 煙管:雁首	長さ 7.5	幅 1.4	高さ 8.3 <sup>7/8</sup> ▼	②真鍮.④火皿接合に首巻.合せ目は側面.	18c前.
759	SX9 覆土	銅製品 飾金具	長さ (5.1)	幅 (5.1)	厚さ 0.5	④銅板打ち抜き.稜花形の環状.彫金装飾.打出し小珠文で縁取り.四等分 位置に珠文.内縁に毛彫り蓮弁文.	
760	SX9 覆土	鉄器 頭巻釘	長さ (6.0)	幅 1.2	厚さ 0.6	④断面方形.	
761	SX12 覆土	土器 坏皿:口~底	3.2	11.0▼	5.8▼	①橙.②水籤土.④外胴中位.裾は弱ナデ凹帯.内外胴回転ナデ.内底ナデ.回 転糸切.	在地. 近世.
[125] 762	SK1 覆土	青磁 皿:底	(3.0)	—	4.1	①高台無釉.④見込輪髹に砂目.畳付に砂目.高台に釉垂れ.	肥前. 17c後~
763	SK1 覆土	陶器 壺:口縁	(3.4)	—	—	①暗褐釉.鈍赤褐化粧土.②鈍橙土.白微粒.④T字口縁.	肥前.
764	SK1 覆土	土器 皿:口~底	1.2	8.0▼	6.0▼	①橙.②砂質.白角岩細粒.	古代カ
765	SK4 覆土	染付 小坏:胴~底	(1.3)	—	2.0▼	①畳付釉剥.③外胴に文様.	肥前. 近世.
766	SK5 覆土	染付 広東碗蓋:縁	(2.1)	—	10.5▼	①全釉.③内外口縁に雪輪文帯.外に樹木.	瀬戸. 19c.
767	SK5 覆土	染付 碗:胴~底	(3.5)	—	3.2▼	①全釉.③外胴に蔓草散し.外高台に二圏線.	19c.
768	SK5 覆土	陶器 丸碗:底	(2.8)	—	4.4▼	①浅黄釉.高台周り無釉.②灰黄白土.稍ざっくり感.④見込にハマ痕.高台 内削込み.	肥前. 近世.
769	SK6 覆土	染付 厚手碗:底	(2.3)	—	3.5	①畳付釉剥.③外胴に葉文.高台際に一圏線.	波佐見. 18c.
770	SK6 覆土	染付 餌猪口:胴~底	(2.0)	4.0▼	4.0▼	①底無釉.③外胴に菊.④把手を欠損.	肥前カ. 近世.
771	SK7 周囲	青磁 碗:口縁	(3.5)	15.2▼	—	①灰オリーブ釉.②微砂粒.③内口縁に4圏線.内胴に匏彫草花文.	龍泉窯. 11~12c.
772	SK7 覆土	青磁 皿:底	(1.8)	—	4.8▼	①見込輪髹.高台無釉.④高台内縮緬.兜巾状.高台に目砂.	肥前. 17c後~.
773	SK7 周囲	染付 厚手碗カ:口縁	(2.6)	9.2▼	—	③外胴に一重網目.	波佐見. 18c.
774	SK7 周囲	陶器 天目茶碗:口~底	7.5	10.0▼	5.0▼	①暗オリーブ釉.高台周り露胎.黒褐.②赤褐土.長石粒.④削出の兜巾高台.	肥前. 17c後.
775	SK7 周囲	炆器 播鉢:口縁	(5.2)	—	—	①灰黄褐~鈍黄橙.②長石.石英.角岩.細砂粒.やや軟質.④内に摺目5歯.	備前. 15c後.
776	SK7 周囲	土器 坏:底	(1.1)	—	4.4▼	①鈍橙.②黑白微砂粒.④轆轤整形.外底ナデ.	在地.
[126] 777	SK11 集中部	土器 坏皿:口~底	3.1	11.2▼	5.4	①鈍橙.②砂質.角岩.微砂粒.④外胴はヘラナデ.内底に轆轤目.内胴はナ デ.回転糸切.	在地. 近世.
778	SK11 集中部	土器 坏皿:口~底	2.8	11.0▼	5.2▼	①灰黄白.②角岩.微砂粒.④外胴はナデ.内底に轆轤目.内胴はナデ.回 転糸切後ナデ.	在地. 近世.
779	SK11 集中部	土器 坏皿:口~底	(2.8)	10.5▼	5.4	①鈍橙.②微砂粒.岩滓.④外胴ナデ.見込轆轤目.内胴ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
780	SK11 集中部	土器 坏皿:胴~底	(2.6)	—	5.6	①鈍橙.②岩滓.④外胴ナデ.見込は轆轤後強いナデ凹み.回転糸切後に板目. ナデ消し.	在地. 近世.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[126] 781	SK11 集中部	土器 坏皿:胴~底	(1.6)	—	5.0	①灰黄.②微砂粒.④外胴ナデ.見込轆轤目.内胴ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
782	SK11 集中部	土器 坏皿:胴~底	(1.5)	—	5.0	①灰黄.②微砂粒.④外胴ナデ.見込は轆轤後ナデ消し.回転糸切.	在地. 近世.
783	SK21 覆土	青磁 小碗:口~胴	(2.9)	6.5▼	—	①オリーブ灰釉.	肥前. 近世.
784	SK21 覆土	白磁 紅皿:口~胴	(1.0)	2.0▼	—	③外胴に鎊.	肥前. 近世.
785	SK21 覆土	染付 蕎麦猪口:口~底	5.7	7.7▼	5.4	①畳付釉剥.③外胴に柳.下端に二圏線.	肥前. 近世.
786	SK21 覆土	炆器 播鉢:口~底	11.0	29.2▼	15.0▼	①暗赤灰化粧土.②長石粒.④片口.内胴に8歯摺目を見込端から.⑤摺目は磨減.⑥D区Ⅲb層と接合.	備前 14c後~15c前.
787	SK21 覆土	土器 小皿:口~底	1.4	6.8▼	4.2▼	①赤.②角岩粒.④外胴はナデ.内胴は回転ナデ.外底中央に小凹み.	在地. 近世.
788	SK21 覆土	土器 小皿:底	(0.5)	—	3.8	①鈍橙.②砂質.岩滓.④内底は環凹み.回転糸切後にナデカ.	在地. 近世.
789	SK23 覆土	瓦 丸瓦	長さ 25.0	幅 13.2	厚さ 1.4	①灰.②角岩細粒.④外面縦ナデ.内面に鉄線引痕.玉縁付近は布痕.	在地. 近世.
790	SK23 覆土	瓦 丸瓦	長さ (19.0)	幅 13.2	厚さ 2.0	①灰.②微砂粒多.④外面ナデミガキ.内面鉄線痕.	在地. 近世.
791	SK23 覆土	瓦 平瓦	長さ (21.1)	幅 (21.9)	厚さ 1.9	①灰.④全面ナデ.	
792	SK25 覆土	土器 鉢:口~底	3.7	12.9▼	6.4▼	①鈍黄橙.②角岩微粒.④内湾口縁.内外胴に轆轤目.内底はナデ.回転糸切後ナデ.	在地. 中世.
[130] 793	SK28 覆土	白磁 小坏:口縁	(1.7)	8.8▼	—	④端反口.	肥前. 17c.
794	SK28 下層	陶器 碗:口~胴	(5.1)	10.6▼	—	①淡黄釉.②灰白土.ざっくり感.④稍腰折気味.	唐津カ.
795	SK28 下層	陶器 溝縁皿:口縁	(3.8)	28.0▼	—	①灰黄釉.②鈍黄橙土.ざっくり感.角岩微粒.	唐津. 17c前.
796	SK28 覆土	陶器 皿:口~底	(4.3)	13.3▼	6.0	①明褐灰釉.高台周り露胎.②橙土.白微粒.③内面に鉄絵.④削出高台.見込に砂目3.⑤被熱による歪み.	唐津. 17c前.
797	SK28 下層	陶器 皿:口縁	(3.2)	—	—	①灰釉.高台周り露胎.③内胴に鉄絵.	唐津. 17c前.
798	SK28 下層	陶器 向付:口~底	3.2	—	—	①銅緑釉.②浅黄橙~灰白土.ざっくり感.④内面に布目.	織部. 17c.
799	SK28 覆土	陶器 水指蓋	2.2	10.8	—	①黒褐釉.下面無釉.②赤褐土.③鉄絵葉文.④棒状摘み.回転糸切.	唐津. 17c初.
800	SK28 下層	炆器 大鉢:口~胴	(12.3)	32.2▼	—	①暗赤褐釉.器面に黒粒.黄ゴマ.②黒粒.角岩.長石微粒.④内湾口縁.口唇は外に拡張.外胴は回転ナデ.下半静止板ナデ.中位に重ね焼き痕.	備前. 近世.
801	SK28 覆土	土器 坏皿:完形	2.2	10.1	4.9	①鈍橙.②角岩粒.岩滓.④轆轤.回転糸切.外胴ナデ.見込に轆轤目.内胴はナデ.⑤口唇にタール・煤多量に付着.	在地. 17c.
802	SK28 下層	土器 坏皿:完形	2.1	8.7	5.1	①鈍橙.②角岩粒.岩滓.④内外轆轤目ナデ消し.回転糸切.⑤口唇にタール・煤多量に付着.	在地. 17c.
803	SK28 覆土	土器 坏皿:口~底	2.2	10.0▼	5.0▼	①灰黄橙.②角岩.雲母微粒.岩滓.④外胴は轆轤後ナデ.見込は轆轤目.内胴は轆轤目ナデ消し.回転糸切.	在地. 17c.
804	SK28 覆土	土器 坏皿:口~底	2.9	10.1▼	5.6	①鈍黄橙.②角岩微粒.④厚手.轆轤.外胴中位にナデ凹溝.内面と外底は邸内なナデ.	在地. 17c.
805	SK28 覆土	土器 坏皿:口~底	2.7	10.0	5.6	①橙.②岩滓.④外胴中位にナデ凹溝.見込に轆轤目.内胴ナデ.回転糸切後ナデ.⑤口唇に煤.	在地. 17c.
806	SK28 覆土	土器 坏皿:口~底	3.3	10.8▼	5.8▼	①橙.②水鏡土.硬質.④轆轤.内外回転ナデ.回転糸切.	在地. 17c.
807	SK28 下層	土器 小皿:完形	2.0	8.1	3.6	①浅黄橙.②角岩粒.岩滓.④轆轤.歪み.胴に火脹れ.見込に轆轤目.内胴ナデ.外胴ナデ.	在地. 17c.
808	SK28 覆土	土器 小皿:口~底	2.1	8.3	4.0	①鈍黄橙.②角岩粗粒.岩滓.④轆轤.外胴ナデ.見込轆轤目.内胴ナデ.回転糸切.	在地. 17c.
809	SK28 下層	土器 小皿:口~底	2.2	7.7▼	3.8▼	①灰白.②角岩微粒.④外胴~口唇まで精ナデ.見込に轆轤目.内胴は轆轤目ナデ消し.回転糸切.	在地. 17c.
[131] 810	SK30 覆土	青花 輪花皿:口縁	(1.3)	—	—	③内に花文カ.外に線文.④輪花縁.	景德鎮. 16~17c.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[131] 811	SK30 覆土	白磁 皿:口縁	(1.5)	11.0▼	—	④端反口.	中国. 16c.
812	SK30 覆土	土器 坏皿:口~底	2.8	11.2▼	6.2▼	①鈍橙.②水簸土.④外胴ナデ.内面精ナデ.回転糸切.	在地. 17c.
813	SK30 覆土	土器 坏皿:口~胴	(2.5)	11.0▼	—	①橙.②水簸土.④内外精ナデ.外胴中位ナデ凹帯.⑤口唇タール・煤付着.	在地. 17c.
814	SK30 覆土	土器 坏皿:胴~底	(2.1)	—	6.1	①橙.②微砂粒.④内外精ナデ.回転糸切後ナデ.	在地. 17c.
815	SK30 覆土	瓦 丸瓦	長さ (9.3)	幅 (5.6)	厚さ 2.1	①黒褐.②角岩微粒.微砂粒.④凸面ミガキ面取.凹面ナデ・縄圧痕.	
816	SK31 覆土	瓦器 硯カ	長さ (6.3)	幅 (5.3)	厚さ (1.0)	①灰.②角岩微粒.④一平面ミガキ.一側面平滑.	
817	SK32 周辺	白磁 皿:口~底	2.0	9.4▼	5.0▼	①灰白釉.全釉.④切り高台.見込に目痕.	中国. 15c前.
[133] 818	SK34 覆土	石製品 石臼	長さ (13.4)	幅 (20.4)	厚さ 7.3	転用礎石.①灰白.②砂岩.④両面に摺目.	
[134] 819	SK37 覆土	陶器 天目茶碗:口~胴	(5.3)	11.0▼	—	①暗褐釉.二度塗り.高台周り露胎.②黒微粒多量.③内外口縁は帯状に黒い.	建窯. 15c.
820	SK37 覆土	瓦器 鍋:口縁	(5.2)	29.4▼	—	①灰白.②角岩微粒.④口唇ハケ面取.外胴ナデ後オサエ.部分板ナデ.内胴は回転ナデ.	土佐型. 14~15c.
821	SK37 最下層	瓦器 三足鍋:脚	(8.1)	—	—	①橙.②雲母.角岩微粒.④外面にナデ・オサエ.⑤外面に煤付着.	搬入. 13~14c.
822	SK37 覆土	土器 小皿:口~底	1.2	8.6▼	5.0▼	手捏ね.①灰黄白.②角岩微粒.④手捏ね成形.外口縁.内面はナデ.	在地. 15c.
[133] 823	SK39 覆土	土器 甕:口縁	(5.8)	19.1▼	—	①灰褐.②角岩粒.雲母.④口唇ナデ面取で上に拡張.外口縁は横.斜ハケ.外胴は縦ハケ.内面はナデ.	搬入. 9~10c.
[135] 824	SK44 下層	土器 埴:底	(2.4)	—	8.0▼	①浅黄橙.②角岩細粒.④平高台.外底ナデ.外胴はナデ.内面は精ナデ.	11c頃.
[136] 825	SK45 覆土	青花 皿:底	(1.8)	—	5.9	①高台内無釉.③見込は一圏線に蔓草.外胴は文様に下界線.④削出高台.畳付に目砂.	漳州窯. 17c.
826	SK45 覆土	陶器 皿:底	(2.3)	—	5.0	①灰白釉.高台周り露胎.②長石細粒.ざっくり感.③鉄絵.見込に縞.唐草文カ.削出高台.兜巾状.⑤露胎部分磨減.	織部. 17c.
827	SK45 覆土	陶器 向付:口縁	(3.2)	—	—	①淡黄釉.②ざっくり感.③鉄絵.口鏽.内外に線文.④内に布圧痕.	織部. 17c.
828	SK45 覆土	土器 坏:底	(2.3)	—	6.1▼	①橙.②微砂粒.④内外回転ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
829	SK45 覆土	土器 坏皿:口~底	(3.1)	12.2▼	6.4▼	①橙.②水簸土.④内外精ナデ.外胴中位.裾にナデ凹帯.⑥SD1と接合.	在地. 近世.
830	SK45 覆土	土器 坏皿:口~底	2.9	10.6▼	5.8	①橙.②微砂粒.④外胴はナデ.内底はナデ.縁辺に轆轤目残る.内胴はナデ.回転糸切後に板目.⑤口唇にタール付着.	在地. 17c.
831	SK45 覆土	土器 坏皿:口~底	2.8	10.2▼	6.0	①鈍橙.②岩滓.角岩微粒.④外胴はナデ.内底は轆轤目.内胴は回転ナデ.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
832	SK45 覆土	土器 坏皿:底	(1.9)	—	8.6▼	①橙.②角岩微粒.④内底ナデ.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
833	SK45 覆土	土器 坏皿:底	(2.3)	—	5.3	①橙.②微砂粒.④外胴はナデ.内底に強い轆轤目.回転糸切後にナデカ.	在地. 17c.
834	SK45 覆土	土器 小皿:口~底	1.9	5.0▼	4.6▼	①鈍橙.②長石.角岩.細砂粒.④内外回転ナデ.外底はナデ.	在地. 近世.
835	SK45 覆土	土器 皿:底	(1.4)	—	10.4▼	①鈍橙.②赤角岩細粒.岩滓.④内底ナデ.外底ハケ.	在地. 近世.
836	SK45 覆土	土器 皿:底	(2.0)	—	8.0▼	①鈍橙.②角岩細粒.④外胴は回転ナデ.内底はナデ.内胴は回転ナデ.回転糸切後に部分ナデ.	在地. 近世.
837	SK45 覆土	土製品 円盤	—	2.3	厚さ 0.5	再加工品.①鈍黄橙.④土器片再加工.⑤側縁摩耗.	
[137] 838	SK48 覆土	土器 羽釜:口縁	(3.4)	—	—	①明赤褐.②角岩細粒.④口唇ナデ面取で外に小拡張.内外横ナデ.	播磨型. 15c前.
[138] 839	SK49 上層	染付 碗:底	(2.4)	—	4.3▼	①畳付釉剥.③外高台に二圏線.④厚手.貼付高台.畳付に目砂.	肥前.
840	SK49 最上層	陶器 腰折碗:胴~底	(4.4)	—	4.2▼	①外は灰白釉.内は明オリーブ灰釉.高台周り露胎.②黒微粒.④外胴中位に微段.削出高台.	唐津カ. 17c.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[138] 841	SK49 下層	陶器 小碗:胴~底	(3.1)	—	3.0▼	①灰釉.高台周りに露胎.④削出高台.	唐津. 16c末~17c前.
842	SK49 最上層	土器 坏皿:底	(0.9)	—	6.8▼	①橙.②水簸土.硬質.④内底ナデ.回転糸切後にハケ.	在地.
843	SK50 覆土	青磁 碗:底	(2.0)	—	6.6▼	①碧緑釉.高台内輪剥ぎ.③見込に線彫で草花文.	肥前. 近世.
844	SK50 覆土	白磁 小坏:胴~底	(3.4)	—	2.5	①全釉.部分釉切れ.④畳付に目砂.	肥前. 17c前.
845	SK50 覆土	白磁 筒形	(3.1)	9.0▼	8.6▼	①底・外胴方形部分無釉.④筒形.裾は内に丸く突出.部分抉れる.	肥前カ. 近代カ.
846	SK50 上層	染付 腰折碗:胴~底	(2.4)	—	3.8▼	①外胴褐釉.畳付釉剥.③見込に花文カ.	肥前. 17c前.
847	SK50 覆土	染付 中皿:口~底	2.9	22.6▼	14.8▼	①畳付釉剥.③内面は雲割に牡丹.外胴は花唐草に下界線.高台際に二圏線.高台内に一圏線.④貼付高台.高台内に針支え痕.	肥前. 17c後.
848	SK50 覆土	染付 中皿:口~胴	(4.0)	21.8▼	—	③内面は上界線に山水文カ.④受口.	肥前.
849	SK50 覆土	陶器 丸碗:口~底	7.7	11.3	4.8	呉器手様.①淡黄釉.畳付釉剥.④外口縁と外胴中位に弱い凹帯.畳付に目砂.	肥前. 17c後~18c前.
850	SK50 覆土	陶器 碗:胴~底	(3.7)	—	4.6	①明緑灰釉.畳付.高台内無釉.②黒微粒.④貼付高台.畳付に目砂.	肥前. 17c中.
851	SK50 下層	陶器 向付:口~胴	(4.9)	9.0▼	—	①長石釉.②浅黄橙土.ざっくり感.④胴に凹帯複数めぐる.	志野焼. 16c末~17c初.
852	SK50 覆土	陶器 香炉:底	(2.9)	—	5.4	①外胴は青磁釉.裾~外底は褐釉.内無釉.④筒形.裾に環珞状の造形3.外底に焼成時のひび割れ.	肥前. 17cカ.
853	SK50 覆土	炆器 鉢:口縁	(5.1)	30.6▼	—	①暗赤灰.②角岩細粒.④二重口縁.ナデ凹帯2条.口唇摘み上げ.	中国. 16c後.
854	SK50 覆土	白色土器 皿:口縁	(2.8)	21.0▼	—	①灰黄白.②水簸土.④内外精ナデミガキ.⑤口唇にタール・煤付着.	尾戸窯. 17c.
855	SK50 上層	白色土器 皿:口~胴	(4.4)	18.0▼	—	①灰白.②水簸土.④内外面ミガキ.⑤被熱し硬化.口縁以外煤ける.	尾戸窯. 17c.
856	SK50 覆土	土器 小皿:完形	1.5	7.5	4.2	①鈍黄橙.②泥質.岩滓.④回転糸切.外胴に糸切り時の粘土付着.内面は回転ナデ仕上げ.	在地.
857	SK50 覆土	土器 小皿:口~底	1.4	8.7▼	5.0▼	①鈍黄橙.②微砂粒.④弱玉縁.内底強い轆轤目.内面回転ナデ.回転糸切.	在地.
858	SK50 覆土	土器 小皿:口~底	1.9	8.7▼	4.6	①鈍黄橙.②岩滓.微砂粒.④回転糸切.外胴中位ナデ凹.内面は精ナデ仕上げ.	在地.
859	SK50 覆土	土器 小皿:口~底	1.9	8.6▼	5.0▼	①浅黄.②水簸土.④内底強い轆轤目.内胴回転ナデ.回転糸切.	在地.
860	SK50 覆土	土器 小皿:口~底	1.5	8.5▼	5.0▼	①橙.②微砂粒.④内外弱ナデ.回転糸切後ナデ.	在地.
861	SK50 覆土	土器 小皿:口~底	1.8	8.4▼	4.3	①鈍黄橙.②微砂粒.④回転糸切後ナデ.内底轆轤目.内胴ナデ仕上げ.	在地. 17c.
862	SK50 覆土	土器 小皿:口~底	1.9	8.1	5.0	①鈍黄橙.②岩滓.微砂粒.④回転糸切.外底に作業時の粘土付着.内胴回転ナデ.内底轆轤目ナデ.	在地. 18~19c.
863	SK50 覆土	土器 小皿:口~底	1.5	8.0	4.1	①灰黄.②岩滓.微砂粒.④回転糸切後にナデ.内外面精ナデ仕上げ.	在地. 18~19c.
864	SK50 上層	土器 小皿:口~底	1.6	7.8	4.5	①鈍黄橙.②岩滓.微砂粒.④回転糸切.内外精ナデ仕上げ.内底轆轤目ナデ.	在地. 18~19c.
865	SK50 覆土	土器 小皿:口~底	1.7	7.4▼	3.2	①鈍黄橙.②微砂粒.④回転糸切後ナデ.内面ナデ仕上げ.	在地. 17c.
866	SK50 下層	土器 鉢:底	(2.8)	—	9.3▼	①鈍黄橙.②岩滓.角岩細粒.④外胴横ナデ.外底タタキ後にナデ.内面横ナデミガキ.	
867	SK50 覆土	土器 焼塩壺	8.5	5.6	4.2	①鈍黄橙.②角岩微粒.④板づくり.外胴に面形成.	17c.
868	SK50 上層	瓦 丸瓦	長さ (12.3)	幅 (9.2)	厚さ 3.0	①灰.キラ粉.②細砂粒.④外面ミガキ面取.内面鉄線痕.	
869	SK50 覆土	石製品 砥石	長さ (8.0)	幅 (5.2)	厚さ 4.0	①褐灰.②砂岩.④3砥面.1面は凹面.	
[139] 870	SK51 下層	白磁 皿:口縁	(1.7)	11.6▼	—	④端反口.	中国. 16c.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[139] 871	SK51 下層	白磁 小坏:口~胴	(2.3)	8.6▼	—	④微端反口.外口縁に微段.	肥前. 17c.
872	SK51 下層	土製品 土錘	長さ (5.4)	幅 2.4	高さ 24.6 <sup>2)</sup>	①橙.②角岩微粒,雲母.④外面ナデ部分面形成.⑤全体摩耗.	
[140] 873	SK54 覆土	土器 坏皿:底	(1.0)	—	7.7▼	①浅黄橙.②角岩微粒.④外胴ナデ.内底粗ナデ.回転糸切後に板目.	在地.
[144] 874	SK58 覆土	青磁 大皿:底	(5.7)	—	17.9▼	①明緑灰釉.高台内露胎,赤褐.③上絵付.見込に文字意匠カ.④外胴に弱い凹帯.畳付に目砂.	肥前. 17c.
875	SK58 上層	青花 小坏:口縁	(3.2)	10.2▼	—	③内外口縁に一圏線.外胴に鳥文.④端反口.虫食い.	景德鎮. 17c前.
876	SK58 上層	青花 小坏:口縁	(1.9)	10.2▼	—	③内外口縁に一圏線.外胴に文様.④端反口.内外虫食い.	景德鎮. 17c前.
877	SK58 上層	青花 小坏:口縁	(2.2)	—	—	③内外口縁に一圏線.外胴に草文カ.④端反口.	景德鎮. 17c前.
878	SK58 上層	染付 碗:口~胴	(5.2)	11.0▼	—	色絵付.③外口縁に二圏線.内口縁に一圏線.外胴に色絵丸文散し,紗綾,有翼獸文.	肥前. 17c後.
879	SK58 上層	磁器 水滴:片	(2.4)	—	—	①内無釉.③動物を象るカ.陽刻.陰文.	肥前.
880	SK58 覆土	陶器 天目茶碗:口縁	(4.4)	11.0▼	—	①暗褐釉.②浅黄土.	瀬戸. 17c.
881	SK58 覆土	陶器 碗:底	(2.4)	—	5.0▼	①外は褐釉.内は白濁釉.高台無釉.③見込に呉須で菊花文.④削出高台.	肥前.
882	SK58 上層	陶器 中皿:口~胴	(4.5)	27.2▼	—	①外はオリーブ灰釉.③刷毛目二彩手.褐釉地に白刷毛目.褐釉で文様.④折縁.口唇は上に小さく拡張.	肥前. 17c末~18c前.
883	SK58 覆土	陶器 皿:口縁	(1.7)	13.4▼	—	①鈍黄釉.③内胴に鉄絵,木葉文カ.④微端反.	唐津. 17c.
884	SK58 覆土	陶器 皿:口縁	(1.7)	12.3▼	—	①灰釉.④溝縁.	唐津. 17c前.
885	SK58 覆土	陶器 皿:口縁	(2.0)	11.2▼	—	①灰釉.外胴下半無釉.③外口縁に沈線1条.④なぶり口1.折縁.	唐津. 16c末~17c前.
886	SK58 覆土	陶器 皿:口~胴	(1.8)	13.0▼	—	①鈍黄橙釉.④鏝縁.口唇は上に小拡張.⑥上層と覆土の接合.	瀬戸. 近世.
887	SK58 上層	陶器 捏鉢:口~底	10.4	20.8▼	8.4	①明オリーブ灰釉.部分釉垂れ.口唇,高台周り露胎,暗赤褐.④二重口縁.削出高台.高台内縮緬.	唐津.
888	SK58 上層	陶器 茶壺:胴~底	(4.9)	5.9▼	4.3▼	①灰釉発色不良.裾~外底,内無釉.④平底.	唐津. 17c.
889	SK58 覆土	炆器 搦鉢:口~底	(11.4)	34.8▼	15.2▼	①赤橙化粧土.②黒粒,角岩,石英細粒.③縁帯に2刻線.④内口唇に明確な段.外胴は細い轆轤目.11歯摺目を見込内から密に.見込摺目はクロスカ.	備前. 17c後.
890	SK58 下層	瓦器 鍋:口~胴	(5.2)	—	—	①灰黄褐.②水簸土.④口唇ナデ面取.口縁,内面横ナデ.外胴ナデ.オサエ.	土佐型. 14~15c.
891	SK58 上層	土器 小皿:口~底	2.5	8.8▼	4.6▼	①鈍橙.②水簸土.④回転糸切.外胴ナデ.内底轆轤目.内面ナデ仕上げ.⑤被熱により硬化カ.	在地.
892	SK58 上層	土器 小皿:口~底	1.6	6.8▼	4.0▼	①橙.②角岩細粒.④内外口縁回転ナデ.内外底ナデ.	在地.
893	SK58 上層	土器 小皿:底	(1.3)	—	4.4▼	①橙.②岩滓,微砂粒.④全面ナデ仕上げ.底部に焼成前穿孔.	在地.
894	SK58 覆土	土器 焼塩壺:口縁	(5.5)	5.6▼	—	①鈍黄橙.②角岩,長石細粒.④板作り.口唇は内に傾斜.口縁,外胴はナデ.胴に面形成.内胴に布紋目.	17c.
895	SK58 覆土	土器 壺:口~肩	(4.4)	12.6▼	—	①橙.②角岩細粒,雲母.④全面回転ナデ.	
896	SK58 覆土	石製品 不明	長さ 12.0	幅 5.8	厚さ 2.2	①黒緑褐.②千枚岩.④三角形.側面平滑に研磨.⑥213 <sup>2)</sup> .	
[145] 897	SK59 覆土	土器 碗:口縁	(3.0)	—	—	①灰白.②微砂粒.④微端反口.内外ナデミガキ.	在地. 11~12c.
898	SK59 覆土	土器 坏皿カ:口縁	(1.5)	—	—	①鈍黄橙.②微砂粒.④口唇内外に微拡張.	在地. 古代カ.
899	SK59 覆土	土器 壺:底	(6.8)	—	—	①鈍橙.②角岩細粒.マーブル状.④外面ミガキ.内面横ナデ.	在地. 古代.
900	SK59 覆土	瓦 軒平瓦:片	(2.5)	幅 (3.9)	厚さ (2.2)	①鈍黄橙.文様面にキラ粉.②マーブル状.③陽刻で唐草,珠文.④丁寧なミガキ.	在地. 11cカ.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[146] 901	SK63 上層	瓦器 播鉢:胴	(3.9)	—	—	①灰.②微砂粒.④外胴ナデオサエ.内胴に4歯以上摺目.	在地. 13~14c.
902	SK63 覆土	弥生土器 高坏:口縁	(3.0)	—	—	①灰白.②角岩細粒.③外口縁端に篋凹線.④口唇ナデ面取.	在地. 弥生中~後期.
903	SK63 覆土	土器 坏皿:底	(1.3)	—	8.6▼	①橙.②岩滓.微砂粒.③内底に沈線同心円.外胴ナデ.回転糸切後に部分ナデ.	在地. 古代.
904	SK63 下層	土器 小皿:口~底	1.0	7.4▼	5.6▼	①橙.②岩滓.④微端反口.上底.回転糸切.	古代.
905	SK63 覆土	土器 羽釜:口縁	(4.4)	—	—	①灰褐.②赤角岩粒.④鋳端ナデ面取.内外面ナデ.⑤内面に煤.	摂津. 10~11c.
906	SK63 覆土	土製品 転用砥石	5.4	4.4	2.6	①橙.②角岩細粒.⑤角に丸み.部分砥面形成.	
907	SK63 上層	石製品 砥石	長さ (2.9)	幅 3.2	厚さ 0.5	①明黄褐.②粘板岩.④全面研磨.	
908	SK63 上層	銅銭 元祐通寶	径 24.0 <sup>3</sup> mm	厚さ 1.3 <sup>3</sup> mm	重さ 3.17 <sup>2</sup> g	③「元祐通寶」.④孔6.5 <sup>3</sup> mm.	北宋. 1086年~.
[147] 909	SK64 覆土	青磁 鉢:口縁	(2.0)	—	—	①翡翠色.④口唇に方突起.部分なぶり口.内口縁肥厚.	肥前.
910	SK64 上層	染付 小坏:口~胴	(2.6)	5.2▼	—	③外口縁に一圏線.外胴に草花文.	肥前.
911	SK64 上層	陶器 丸碗:口縁	(3.8)	10.4▼	—	①灰黄白.④外口縁は微S字形.	肥前. 17c.
912	SK64 上層	陶器 丸碗:胴~底	(3.2)	—	4.6▼	①灰釉.外面濃.畳付~高台内無釉.④貼付高台.	肥前. 17c.
913	SK65 覆土	青磁 碗:口縁	(2.9)	—	—	①明オリープ灰釉.③外胴に蓮弁文.	龍泉窯. 14c後~15c前.
914	SK65 覆土	青磁 碗:胴	(2.5)	—	—	①碧緑.③鎬蓮弁文.	龍泉窯. 13~14c.
915	SK65 覆土	須恵器 捏鉢:口~胴	(9.1)	28.0▼	—	①灰.外口縁は暗い.②角岩粒.④二重口縁.口唇丸い.外胴は粗い轆轤目.内面はナデ.	東播系. 12c.
916	SK65 覆土	土器 小皿:口~底	(1.3)	6.6▼	4.4▼	①橙.②角岩細粒.③内外ナデ.回転糸切.	在地.
917	SK66 上層	須恵器 壺:口縁	(4.5)	19.6▼	—	①黒褐.外面に自然釉.②角岩細粒.④口唇ナデ面取.内外回転ナデ.	在地. 古代.
918	SK66 覆土	土器 坏:口縁	(3.4)	18.0▼	—	①灰白.②水籤土.③内口縁に沈線1条.④微端反口.外口縁にナデ凹帯.ハケ後ナデミガキ.外胴.内面はナデミガキ.	在地.
919	SK66 下層	土器 坏皿:口~底	2.7	11.4▼	6.6▼	①鈍黄橙.②角岩微粒.④微端反口.外口縁にナデ凹帯2条.凹帯部分ミガキ.下半ナデ.内面は上半ナデ.下半ミガキ.内外面に擦り痕.	在地. 15c.
920	SK66 覆土	土器 小皿:口~底	2.2	9.2▼	6.6▼	①橙.②水籤土.稍マーブル状.岩滓.④外湾口縁.内外横ナデ.回転糸切後ナデ.	中世.
921	SK66 覆土	土器 皿:口~底	1.5	14.0▼	10.4▼	①橙.②岩滓.④小端反口.内外精ナデ.	在地. 9~10c.
922	SK66 覆土	土器 羽釜:口~胴	(8.9)	22.2▼	—	①灰黄褐.②赤角岩粒.④口唇ナデ面取.鋳は端部面取で上に小拡張.外面ナデ.内面板ナデ.⑤外は鋳以下.内は口縁以外に煤.炭化物.	摂津. 10~11c.
923	SK66 覆土	土器 羽釜:胴	(4.1)	—	—	①鈍橙.②角岩粗粒.④断面三角突帯.外胴タタキ.部分ハケ.内面横ナデ.	播磨型. 15c.
924	SK69 上層	須恵器 蓋坏:胴	(2.6)	13.9	—	①赤灰.②角岩微粒.⑤全体摩耗.	6c.
925	SK69 最上層	瓦器 鍋カ:把手	(5.5)	—	—	①灰.②黒粒.角岩粒.④茸状把手.内胴はハケ後把手位置にナデ.円頭状押圧.	中世.
926	SK69 覆土	土器 坏皿:胴~底	(2.0)	—	6.8▼	①橙.②水籤土.④内外轆轤目をナデ消し.回転糸切後部分ナデ.	在地. 中世.
[150] 927	SK70 覆土	土器 坏皿:口~底	2.9	10.1	6.0	①橙.②水籤土.④全面精ナデ.外胴下端にナデ凹帯.内胴下半にナデ凹帯.やや厚手.回転糸切後にナデ.	在地. 11c.
[151] 928	SK75 覆土	瓦器 三足鍋:脚	(5.4)	2.1	—	①灰.②角岩微粒.微砂粒.④全面ナデ.	14c.
929	SK75 上層	瓦器 三足鍋:口縁	(4.0)	26.6▼	—	①灰.②細砂粒.④口唇工具ナデ凹面.外口縁に三角突帯.内外面横ナデ.	13~14c.
[152] 930	SK78 覆土	土器 坏皿:底	(1.7)	—	6.2▼	①鈍橙.②角岩微粒.④内底は中心凸.轆轤目強い.内胴ナデ.外胴ナデ.回転糸切.	在地. 中世.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[152] 931	SK78 覆土	土器 羽釜:口~胴	(5.6)	—	—	①鈍橙.②角岩細粒,雲母.④口唇弱ナデ面取.内口縁やや肥厚.方形鏝,端部ナデ.外胴平行タタキ.内胴板ナデ.⑤外胴に煤.	播磨型. 13c後.
[153] 932	SK79 覆土	土器 小皿:口~底	1.7	8.0▼	5.8▼	①橙.②角岩細粒.④外胴,内面回転ナデ.外底ナデ.	在地.
933	SK81 覆土	瓦器 鍋:口~胴	(4.7)	17.9▼	—	①灰.②角岩細粒.③外口唇に沈線.④口唇ナデ面取.外口縁ナデオサエ.外胴ナデつけ.内口縁板ナデ.内胴ナデ.	土佐型. 14~15c.
934	SK81 覆土	土器 碗:底	(2.1)	—	8.7▼	①灰白.②角岩微粒.④貼付輪高台.内外ナデ.	在地. 11~12c.
[154] 935	SK82 覆土	陶器 鍋:口~胴	(5.6)	28.4▼	—	①褐釉.内胴無釉.②角岩微粒.③頸部に白刷毛目,白化粧土掻取り上に施釉.④鏝縁.内胴カキメ.	肥前カ. 近世.
936	SK82 覆土	土器 坏皿:口~底	2.8	9.8▼	3.4▼	①橙.②微砂粒.④内面~外口縁精ナデ.外胴ナデ.	在地. 近世.
937	SK82 覆土	土器 坏皿:口~胴	(2.7)	11.4▼	—	①橙.②水籤土.④内外ナデ.⑤口唇にタール・煤.	在地. 近世.
[155] 938	SK83 覆土	土器 坏皿:完形	2.9	13.9	6.3	①浅黄橙.②水籤土.④外口縁ナデ凹帯.外胴中位横ナデ凹み.内底轆轤目ナデ消し.内胴精ナデ.回転糸切.⑤口唇,内胴にタール・煤.	在地. 近世.
939	SK83 覆土	土器 坏皿:略完	2.9	10.5	6.2	①鈍橙.②岩滓.④内外胴部分縮れ.外胴は回転横ナデ.内胴は横ナデ.内底は轆轤目ナデ消し.回転糸切.⑤口唇,外胴にタール・煤附着.	在地. 近世.
940	SK83 覆土	土器 坏皿:口~底	2.8	10.8▼	4.8▼	①鈍黄橙.②岩滓,微砂粒.④内面精ナデ.外胴ナデ.回転糸切後にナデ.	在地. 近世.
941	SK83 覆土	土器 坏皿:底	(1.5)	—	4.3	①鈍黄橙.②微砂粒.④外胴横ナデ.内底ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
942	SK83 覆土	土器 皿:口~底	3.6	15.2▼	9.4▼	①橙.②水籤土.④内外面ナデ.外底ナデ.	在地. 近世.
943	SK83 覆土	土器 小皿:口~底	1.6	5.1▼	2.8▼	①橙.②水籤土.④内外ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
944	SK88 覆土	瓦器 鉢:口縁	(5.2)	19.6▼	—	①灰~灰黄白.②細砂粒.④口唇ナデ面取.外口縁ナデ凹帯.外胴はナデオサエ.内胴は横ナデでやや凹む.	中世.
945	SK88 覆土	土器 羽釜:口~胴	(9.7)	—	—	①灰褐.②角岩粒,砂粒.④口唇丸い.口縁やや下に鏝,鏝端丸い.外胴ナデオサエ.内面横ナデ.	摂津C類. 10~11c.
[134] 946	SK94 覆土	須恵器 坏:底	(1.2)	—	7.0▼	①灰.②角岩微粒.④回転糸切.貼付高台.内底ナデ.	古代.
[157] 947	SK98 覆土	石製品 不明	長さ (10.3)	幅 (8.3)	厚さ (2.7)	①明青緑灰.②砂岩.④剥片を研磨加工.端部に打撃痕.逆はナイフ形状,研磨による刃部カ.側面は研磨で平滑.⑥重さ300g?.	
948	SK100 SK72覆土	陶器 天目茶碗:口~胴	(5.7)	11.8▼	—	①褐,黒褐釉.黒褐釉縦線状.高台周り露胎.②ざっくり感.	瀬戸. 16c.
949	SK100 覆土	須恵器 甕:口縁	(2.7)	20.8▼	—	①黄灰.②角岩粒.④口唇ナデ面取で上下に微拡張.	在地. 古代.
950	SK100 覆土	黒色土器 碗:底	(1.3)	—	5.8▼	①黒.②雲母.③内底にジグザグ暗文.④貼付高台.	楠葉型カ. 11c末~12c初.
951	SK100 覆土	白色土器 碗:口~胴	(3.0)	16.4▼	—	①灰白.②微砂粒.④端反口.内外ナデミガキ.	京都系. 11~12c.
952	SK100 覆土	白色土器 碗:口~胴	(3.6)	13.0▼	—	①灰白.②角岩細粒.④口縁弱反.外胴弱ナデ凹帯.内外回転ナデ.	京都系. 11~12c.
953	SK100 覆土	土器 碗:底	(2.8)	—	7.5▼	①鈍黄橙.②細砂粒.④貼付輪高台.内外面艶ミガキ.	在地. 11~12c.
954	SK100 覆土	土器 碗:底	(1.6)	—	5.5▼	①浅黄橙.稍マーブル状.②角岩粒.④貼付輪高台,畳付に細凹線.内外ナデ.	在地. 11~12c.
955	SK100 覆土	土器 ての字皿:口縁	(1.7)	13.2▼	—	①浅黄橙.②水籤土.④ての字口縁.内外ミガキ.	京都系. 10~11c.
956	SK100 覆土	土器 羽釜:口縁~鏝	(3.4)	20.9▼	—	①鈍橙.②角岩粒.④鏝端ナデ凹面.内外ナデ.	摂津C類. 10~11c.
[153] 957	SK101 覆土	白磁 皿:底	(1.5)	—	—	①高台周り露胎.④切り高台.	中国. 15c.
[159] 958	SK102 覆土	染付 小坏:胴	(3.0)	—	—	③外胴は下界線に「後,様」銘.腰折下に拡張,褐釉.高台脇に流水紋.外高台に縦格子紋帯.④腰折.	肥前.
959	SK102 覆土	染付 小坏:底	(1.9)	—	2.4	記念盃カ.①畳付釉剥.③見込に金文字.外高台に縦格子紋帯.高台内に珠文.④畳付に段.	瀬戸. 19c.
960	SK102 覆土	陶器 皿:胴~底	(2.3)	—	5.2▼	①灰褐釉.高台周り露胎.④削出高台,兜巾状.	唐津. 17c.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[159] 961	SK102 覆土	陶器 鉢:口~胴	(2.6)	15.0▼	—	①褐釉.内胴無釉.④口唇ナデ面取で内に小拡張.	唐津. 近世.
962	SK102 覆土	土器 坏皿:口~胴	(2.9)	11.2▼	—	①橙.②水鏡土.④内外ナデ.	在地. 近世.
963	SK102 覆土	土器 坏皿:口~底	2.6	11.0▼	5.5	①橙.②微砂粒.④外胴回転ナデ.内底精ナデ.回転糸切.⑤口唇にタール・煤.	在地. 近世.
964	SK102 覆土	土器 坏皿:口~底	(2.0)	9.4▼	3.8▼	①鈍橙.②微砂粒.④内外精ナデ.回転糸切後に精ナデ.	在地. 近世.
965	SK102 覆土	石製品 砥石	長さ 13.8	幅 3.3	厚さ 0.9	①灰オリーブ.②粘板岩.④短冊形.⑥重さ80.8g?	
[160] 966	SK105 覆土	染付 碗:口~胴	(4.2)	12.4▼	—	③外胴は上に二圏線.花唐草文.内口縁に二圏線.	初期伊万里. 17c前.
967	SK105 覆土	染付 小坏:胴	(2.7)	—	—	③外胴に牡丹.⑤破断面に漆接ぎ痕.	肥前. 17c.カ.
968	SK105 覆土	陶器 皿:口~底	(5.0)	16.2▼	4.2▼	①灰釉.全釉.④端反口.内底.畳付に砂目.	唐津. 17c.
969	SK105 覆土	陶器 皿:底	(2.0)	—	4.2▼	①灰釉.高台周りに露胎.④削出高台.見込に砂目.	唐津. 17c.
970	SK105 覆土	陶器 茶入れ:口縁	(3.3)	7.2▼	—	①オリーブ灰釉.③外胴に褐釉紋様.④口縁弱S字形.	唐津. 17c.
971	SK105 覆土	白塗土器 小皿:口~底	1.9	6.6▼	3.6▼	①灰白化粧土.②橙土.微砂粒.④内面精ナデ.外ナデ.回転糸切.	尾戸窯.
972	SK106 覆土	青磁 碗:口縁	(2.8)	—	—	①碧緑釉.③外口縁に篋彫り雷文.④口唇外稍肥厚.	龍泉窯. 15c後~16c前.
973	SK106 覆土	白磁 皿:口~底	1.9	11.4▼	7.0▼	①全釉.④貼付高台.	肥前.
974	SK106 覆土	土器 坏皿:口~底	4.0	9.4▼	4.9▼	①橙.②岩滓.④内外轆轤目を回転ナデ消し.回転糸切.	在地. 近世.
[161] 975	SK108 覆土	白磁 皿:口縁	(1.7)	11.2▼	—	④端反口.	中国. 16c.
976	SK108 上層	青花 碗:胴	(1.5)	—	—	①青み.③外に蓮弁文.見込みは一圏線に紋様.	景德鎮. 16c.
977	SK108 覆土	青花 皿:口縁	(2.2)	11.8▼	—	①浅黄釉.③外は上界線に葉紋.内は上に一圏線.	漳州窯.
978	SK108 上層	青花 皿:口縁	(2.8)	—	—	③外は上界線に草紋他.内口縁に一圏線.見込みに二圏線.	景德鎮. 15~16c.
979	SK108 上層	瓦器 焜炉:口~胴	(7.2)	29.0▼	—	①灰.②長石微粒.④口唇ミガキ面取.内外面ミガキ.⑤口唇~内口縁に煤.	
980	SK108 下層	黒色土器 坏:口縁	(2.7)	—	—	①内外黒.②角岩細粒.③内口唇に沈線.外胴に細沈線.④内外篋ミガキ.	楠葉型. 11c.
981	SK108 中層	土器 碗:底	(1.9)	—	6.6▼	①灰白.②角岩微粒.④外胴回転ミガキ.内底ミガキ.クロス火襷.外底回転ナデ.火襷.貼付高台.内に拡張.	在地. 11~12c.
982	SK108 上層	土器 坏:底	(1.8)	—	6.6▼	①浅黄橙.②微砂粒.④外胴轆轤目.裾~底ナデミガキ.内底縁ナデ凹み.内胴篋ミガキ.	在地. 10c.
983	SK108 上層	土器 茶釜:胴	(5.8)	25.3▼	—	①鈍黄橙.②細砂粒.④外胴は上がナデ.下が板ナデ.内面は横ナデ.⑤鏝より下煤ける.	16c.
984	SK108 上層	土製品 羽口:片	長さ (8.6)	幅 (4.8)	厚さ (4.6)	①橙.②筋.塊状.④外面ハケ後にナデ.⑤先端に溶融鉄付着.	
985	SK108 中層	瓦 平瓦	長さ (9.0)	幅 (8.7)	厚さ 1.7	①鈍橙.②角岩細粒.④全面ナデ.凹面に紐圧痕.	在地. 古代.
[162] 986	SK114 覆土	須恵器 碗:底	(3.1)	—	6.8▼	①灰.②微砂粒.④外胴回転ナデ.部分指紋.内面精ナデ.平高台.板目摩耗.	在地. 古代.
[163] 987	SK116 トレンチ	陶器 皿:口縁	(1.6)	13.0▼	—	①灰釉.高台周りに露胎.④溝縁.	唐津. 17c.
988	SK116 覆土	須恵器 坏:底	(2.4)	—	6.6	①灰.②微砂粒.④外底回転糸切後ナデ.貼付輪高台.畳付外端斜篋切り.内底ナデ.	在地カ. 古代.
989	SK116 SK126G	須恵器 甕:胴	(6.4)	—	—	①褐灰.②角岩.石英微粒.④外胴に平行タタキ.内面ナデ.	在地カ. 古代.
990	SK116 上層	瓦器 碗:口~底	3.7	15.8▼	5.5▼	①灰.②長石.角岩細粒.③内面にミガキ暗文.ジグザグ弧線.④外口縁横ナデ.外胴ナデオサエ.内面ナデミガキ.貼付高台.	楠葉型. 13c.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[163] 991	SK116 中層	瓦器 銅:底	(2.4)	—	—	①灰.②微砂粒.④内面板ナデ.	土佐型. 14~15c.
992	SK116 覆土	土器 埴:底	(1.4)	—	7.4▼	①鈍橙.②微砂粒.④貼付け輪高台.壘付内に拡張.	在地. 11~12c.
993	SK116 覆土	土器 埴:底	(2.6)	—	7.2▼	①浅黄橙.②微砂粒.④回転糸切後ナデ.貼付輪高台.内外ナデミガキ.	在地. 11~12c.
994	SK116 覆土	土器 羽釜:口縁	(3.0)	—	—	①黒褐.②長石.角岩細粒.④口唇ナデ面取で外に拡張.	播磨型. 15c.
995	SK116 覆土	土器 壺カ:底	(1.3)	—	4.5	①鈍橙.②微砂粒.④内底強い轆轤目.回転糸切.	在地.
996	SK116 覆土	土製品 土錘	長さ (3.5)	幅 1.3	高さ 5.1 <sup>1/2</sup>	①鈍橙.②微砂粒.④ナデ.部分に面形成.	
997	SK116 覆土	石製品 砥石	長さ (6.0)	幅 (5.2)	高さ 2.3	①灰.②砂岩.④側面研磨丁寧平滑.	
[164] 998	SK120 覆土	須恵器 捏鉢:口~底	10.0	27.6▼	10.2▼	①灰.口唇黒.②長石.角岩細粒.④口唇上下拡張.断面三角.内口縁にナデ凹帯.外胴轆轤目ナデ.内胴ナデ.回転糸切後に格子沈線.⑤内胴下半~内底剥離.	東播系. 12末~13初.
[165] 999	SK127 覆土	陶器 碗:口~胴	(4.1)	13.0▼	—	①外は灰褐釉.内は黄灰釉.③鉄絵.外胴に草.④外胴上位にナデ凹帯.	唐津. 17c前.
1000	SK127 覆土	陶器 碗:口~底	6.8	11.0▼	4.4	①灰釉.高台周り露胎.④外胴上位にナデ凹帯.削出高台.兜巾状.	唐津. 17c.
1001	SK127 覆土	陶器 中皿:口~胴	(4.1)	22.2▼	—	①灰釉.④弱S字口縁.	唐津. 17c.
1002	SK127 覆土	陶器 皿:口~胴	(2.9)	14.4▼	—	①灰釉.高台周り無釉.④溝縁.外胴に微段.	唐津. 17c.
1003	SK127 pt	陶器 皿:口~底	3.4	12.4	4.8	①灰釉.高台周り露胎.④略溝縁.削出高台.縮緬.兜巾状.	唐津. 17c前.
1004	SK127 覆土	陶器 皿:口縁	(2.3)	—	—	①外胴無釉.③内面に3歯櫛描文.	唐津. 近世.
1005	SK127 覆土	陶器 皿:口縁	(1.9)	—	—	①緑釉.④熔着した2つの口縁片.	唐津. 17c.
1006	SK127 pt	陶器 向付:底	(0.8)	—	—	①灰白釉.②ざっくり感.③見込みに褐釉.緑釉紋様.	織部. 17c.
1007	SK127 pt	土器 坏皿:口~底	2.7	11.4▼	7.2▼	①鈍黄褐.②微砂粒.④外胴ナデ.内胴精ナデ.内底轆轤目.ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
1008	SK127 覆土	土器 坏皿:口~底	3.1	11.0▼	6.0▼	①橙.②水簸土.④内外回転ナデ.回転糸切後に板目.	在地. 近世.
1009	SK127 pt	土器 坏皿:口~底	3.0	10.9▼	6.2	①橙.②岩滓.微砂粒.④厚手.外胴回転ナデ.内胴横ナデ.内底ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
1010	SK127 覆土	土器 坏皿:口~底	2.6	10.4▼	4.8	①鈍黄橙.②微砂粒.③内面に不規則沈線文カ.④厚手.内外精ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
1011	SK127 覆土	土器 坏皿:口~底	3.4	10.7▼	6.7	①橙.②水簸土.④外胴精ナデ.内胴精ナデ.内底ナデ.回転糸切後にナデ.⑤口唇に煤.	在地. 近世.
1012	SK127 pt	瓦 丸瓦	長さ (13.9)	幅 (13.7)	高さ 2.5	①黒.キラ粉.②角岩微粒.④外玉縁ナデ.外面ミガキ.内に布目.	
1013	SK127 pt	瓦 鬼瓦	長さ (14.8)	幅 (10.8)	高さ 5.8	①黒.②角岩細粒.④表面ミガキ.裏面粗ナデ.裏縁刃抉れ.	在地. 近世.
[166] 1014	SK128 覆土	陶器 鉢:口縁	(2.8)	—	—	①暗灰黄釉.口唇に黒褐釉.④玉縁.S字口縁.	唐津. 近世.
1015	SK128 覆土	土器 坏皿:口~底	2.7	10.0▼	5.9▼	①鈍黄橙.②岩滓.微砂粒.④内外精ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
1016	SK128 覆土	瓦 丸瓦	長さ (7.3)	幅 (9.4)	高さ 2.2	①黒.②細砂粒.④内外ミガキ.⑤外面.破断面に煤.炭.	
[169] 1017	SK129 覆土	白磁 皿:口~底	(2.8)	11.6▼	4.2▼	①高台周り無釉.見込み輪剥.④削竹節高台.高台内縮緬.	肥前. 18c.
1018	SK129 覆土	染付 蓋物:口~胴	(6.3)	—	—	①口唇~内口縁釉剥.③外面は上二界線にこんやく印判で桐散し文.	肥前. 18c.
1019	SK129 覆土	染付 湯呑碗:胴~底	(3.9)	—	4.2▼	①壘付釉剥.③外胴に水草花.下界線.外高台に二圏線.高台内に動物意匠カ.	肥前. 近世.
1020	SK129 覆土	染付 皿:口~底	3.8	12.8▼	7.4	①壘付釉剥.③外胴は唐草に鳥.高台脇に一圏線.外高台に二圏線.内胴に花唐草.見込みは一圏線に五弁花.高台内は一圏線に銘カ.	肥前. 18c.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[169] 1021	SK129 覆土	染付 小皿:口~底	2.4	10.5▼	6.0▼	①畳付無釉.③外胴は唐草,下界線.外高台に一圏線.内胴は半菊,露草.見込みは二圏線に五弁花.高台内は一圏線に紋様.	波佐見. 18c.
1022	SK129 覆土	染付 小碗:胴~底	(3.2)	—	3.1	①畳付釉剥.③高台脇に子持ち帯線.外高台に帯線.④削出高台.擬巴高台.内高台に目砂付着.	肥前. 18c.
1023	SK129 覆土	染付 小坏:口~底	(2.1)	6.1▼	2.9▼	①畳付釉剥.③外胴に柳文.	肥前. 近世.
1024	SK129 覆土	陶胎染付 碗:口縁	(4.5)	—	—	③外面は上二界線に山水楼閣文.	肥前. 近世.
1025	SK129 覆土	陶胎染付 香炉:口~底	7.4	10.8▼	5.8▼	①高台,内胴以下無釉.③外は上二界線に山文.腰に一圏線.見込みに帯圏線カ.④丸口唇で内に拡張.幅広高台.	肥前. 近世.
1026	SK129 覆土	陶器 煎じ碗:口~底	4.4	9.4▼	3.6▼	①浅黄釉.畳付~高台内無釉.④内胴腰部分に沈線.剝高台.外高台は部分目跡.	京焼カ. 18c.
1027	SK129 覆土	陶器 碗:口~底	7.7	9.7▼	4.4	①灰褐.高台周り無釉.④削出高台.	京焼. 18c.
1028	SK129 覆土	陶器 香炉:口~胴	(5.1)	—	—	①掛け分け.灰釉地,胴に褐釉.内無釉.③外胴の集線,凹線文を等間隔の篋彫りで分断.口唇ナデ.内外に拡張.	瀬戸. 近世.
1029	SK129 覆土	陶器 壺:胴~底	(6.9)	11.8▼	7.8▼	①浅黄釉.底周り,内無釉.④阿古陀瓜形.	唐津. 近世.
1030	SK129 覆土	土器 坏皿:口~胴	(1.9)	—	—	①浅黄橙.②微砂粒.④口縁は内湾気味.内外回転ナデ.	在地. 近世.
1031	SK129 覆土	土器 焙烙鍋:口~胴	(5.6)	31.4▼	—	①灰褐.②角岩細砂粒.④丸口唇.口縁に10cm長肥厚部分,口唇に上から穿孔.外口縁横ナデ.外底縮れカ.内面回転ナデ.⑤外口縁,内底に煤.	関西系. 18c.
1032	SK129 覆土	土器 角火鉢:口~底	11.5	幅 (13.5)	厚さ 2.3	①橙.②角岩,長石,雲母細粒.④側面上広台形.内外ナデ.	近世.
1033	SK129 覆土	土製品 人形	(6.5)	幅 2.8	厚さ 2.7	①鈍黄橙.②角岩,雲母微粒.④虚無僧.下から穿孔.	搬入カ. 近世.
1034	SK129 覆土	石製品 未製硯カ	長さ (6.5)	幅 (4.0)	厚さ 1.3	①浅黄橙.②粘板岩.④全面に擦痕.部分切り込み.側面角斜面取り.⑥重さ49g.	近世.
[71] 1035	SK131 覆土	土器 皿:口縁	(1.4)	—	—	①灰褐.②微砂粒.④端反口,肥厚気味.内外精ナデ.	在地. 古代.
[170] 1036	SK133 最下層	土製品 土錘	長さ 5.0	幅 1.3	重さ 8.4g	①鈍黄橙.縦半面黒斑.②微砂粒.④端部面取.全面ナデ.	在地.
1037	SK133 最下層	石製品 不明	長さ (9.4)	幅 5.8	厚さ 2.1	①褐灰.②砂岩.④棒状,断面蒲鋒形.打割整形.	
[171] 1038	SK135 上層	陶器 皿:底	(1.8)	—	5.2▼	①緑釉.高台周り露胎.④削片薄高台,兜巾状.	唐津. 17c.
1039	SK135 上層	炆器 播鉢:口~胴	(6.7)	27.2▼	—	①鈍赤.②角岩粒.④緑帯,3凹線.内口唇ゆるい段.外胴に3凹線.内胴に8齒摺目疎ら,轆轤目.	備前. 近世.
1040	SK135 中層	炆器 壺:胴	(4.1)	—	—	①極暗赤褐.自然釉.②角岩,石英粒.④外胴上位に舌状浮文.内胴横ナデ.オサエ.	備前. 近世.
1041	SK135 覆土	土器 坏皿:口~胴	(3.3)	13.6▼	—	①橙.②微砂粒.④外口縁やや肥厚.内口唇に微段.外胴裾ナデ凹帯.内外回転ナデ.内底ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
1042	SK135 上層	土器 坏皿:口~底	3.3	11.4▼	6.2▼	①橙.②水籤土.④内外回転ナデ.外胴中位,裾ナデ凹帯.回転糸切.	在地. 近世.
1043	SK136 下層	白磁 皿:口~胴	(2.1)	11.4▼	—	①外面釉は斑.	中国. 15c.
1044	SK136 上層	土器 坏皿:口~胴	(2.6)	10.4▼	—	①橙.②水籤土.④内外回転ナデ.	在地. 近世.
1045	SK136 上層	石製品 不明	長さ 12.9	幅 4.4	厚さ 3.2	①灰.②砂岩.④棒状,断面三角形.⑥重さ248g.	
1046	SK137 上層	白磁 皿:底	(1.8)	—	3.8▼	①高台周り無釉.④切高台,削片薄.畳付に重焼釉痕.見込みに重焼痕.	中国. 15c.
1047	SK137 下層	炆器 壺:胴	(4.1)	—	—	①極暗赤褐.自然釉.②角岩,石英微粒.④外胴に舌状浮文.内面回転ナデ.	備前. 近世.
1048	SK138 覆土	陶器 皿:口~胴	(3.1)	10.8▼	—	①灰褐釉.高台周り露胎.	唐津. 17c.
1049	SK138 最下層	炆器 大甕:頸	(8.6)	—	—	①鈍褐.②細砂粒.④外頸は縦ハケ.外胴は横ナデ.内面ナデ.	常滑. 14c.
1050	SK138 覆土	土器 皿:底	(1.8)	—	7.2▼	①鈍橙.②水籤土.④内底轆轤目ナデ.回転糸切.	在地. 近世.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[174] 1051	SK139 上層	青磁 猪口:口~底	6.3	—	4.4▼	①明緑灰釉.全釉.④上げ底.	肥前. 近世.
1052	SK139 上層	白磁 蓋	(4.1)	14.0▼	11.1▼	①鏝端~内返り釉剥.④返り貼付.	肥前. 近世.
1053	SK139 上層	白磁 蕎麦猪口:口~底	6.0	6.6▼	5.4	①全釉.④腰輪高台.	肥前. 近世.
1054	SK139 上層	白磁 小碗:口~底	3.1	5.3▼	1.9▼	①全釉.	肥前. 近世.
1055	SK139 上層	白磁 猪口:口~底	3.5	5.6▼	3.2▼	①全釉.④腰輪高台.	肥前. 近世.
1056	SK139 上層	染付 碗蓋:胴	(2.2)	—	—	①畳付釉剥.③上面に若松・草文.	肥前. 近世.
1057	SK139 上層	染付 蕎麦猪口:口~底	5.9	8.7▼	5.5▼	①畳付釉剥.③外胴にホオズキ文.裾に二圏線.④腰輪高台.	肥前. 18~19c.
1058	SK139 上層	染付 皿:底	(2.6)	—	8.2	①畳付釉剥.③外胴は下界線に唐草文.外高台に二圏線.見込み一圏線.内面は下界線に七宝・柴東・梅樹散し.高台内に文字意匠.	肥前. 18c.
1059	SK139 上層	染付 猪口:口~底	3.4	4.5▼	3.4	①畳付釉剥.③淡呉須の口鏝.④上げ底.	肥前. 近世.
1060	SK139 上層	染付 小坏:口~底	(2.2)	6.6▼	3.0▼	①畳付釉剥.③外口縁に波文カ.	肥前. 近世.
1061	SK139 上層	染付 飯事道具:碗	2.2	3.7▼	1.5	①畳付釉剥.③外胴に唐草文.	肥前. 近世.
1062	SK139 上層	陶器 半球碗:口~底	5.3	8.8▼	3.4	①灰釉.高台周りに無釉.④削出高台.	京焼. 18c.
1063	SK139 上層	陶器 碗:口縁	(4.6)	8.1▼	—	①灰釉.③上絵付.外に樹木文.	肥前. 近世.
1064	SK139 上層	陶器 碗:口縁	(1.8)	—	—	①灰釉.③上絵付.外に花卉文.	肥前. 近世.
1065	SK139 上層	陶器 小碗:口~底	3.1	5.1▼	1.8	①淡黄釉.高台周りに露胎.③外口縁に褐釉で山文カ.④削出高台.	京焼. 18cカ.
1066	SK139 上層	陶器 小碗:口~胴	(2.9)	5.5▼	—	①灰釉.③外面に上絵で桜文.色絵で草文カ.④内湾気味.	京焼カ. 18cカ.
1067	SK139 上層	陶器 鉢:略完形	7.7	11.8	4.4	①浅黄釉.高台周りに無釉.③外口縁に注連縄文.④S字口縁.削高台.畳付に目跡.	京焼カ. 近世.
1068	SK139 上層	陶器 徳利:口縁	(3.1)	—	—	①灰釉.内胴無釉.④折返し二重口縁.	近世.
1069	SK139 上層	陶器 水差し:口~底	9.7	7.5	6.1	①褐釉.高台周りに露胎.④受口.注口・把手付.削撥高台.	瀬戸. 近世.
1070	SK139 上層	陶器 急須:口縁	(4.2)	—	—	①赤.内胴に灰赤釉.④肩部に沈線帯.如意頭形把手.	近世.
1071	SK139 上層	陶器 土瓶蓋	(2.0)	—	9.0▼	①淡灰黄釉.鏝下~内返り無釉.③上面に白.褐.呉須で草花.蔓草.	瀬戸. 近世.
1072	SK139 上層	陶器 土鍋カ:胴~底	(7.1)	—	9.2▼	①褐釉.底周りに露胎.④外胴.底回転ケズリ.塊足付き.	近世.
1073	SK139 上層	陶器 合子	1.7	—	5.4▼	①灰釉.裾端~内裾釉剥.③外面に上絵付で梅樹文.	肥前カ. 近世.
1074	SK139 上層	陶器 四耳壺:胴~底	(13.9)	13.5▼	8.6	①透明釉地に褐釉.内無釉.④肩部に橋状把手.微段.回転糸切.やや上げ底.	瀬戸. 近世.
1075	SK139 上層	陶器 壺:胴~底	(7.6)	11.1▼	6.6▼	①暗赤褐釉.内無釉.④腰折れ.外胴上半回転ナデ凹凸.内底轆轤目強い.碁笥底.	
1076	SK139 上層	炆器 播鉢:口~胴	(7.0)	—	—	①暗赤褐.②角岩.長石.石英粒.④内口縁回転ナデ.内胴に3歯以上摺目.⑤内面ひどく磨減.	備前. 14後~15c前.
1077	SK139 上層	炆器 播鉢:口縁	(4.4)	30.6▼	—	①黒褐色化粧土.外胴露胎.②角岩細粒.④縁帯に凹線2.内に凹面微段.	備前. 17c後.
1078	SK139 上層	炆器 播鉢:口縁	(4.0)	28.6▼	—	①縁帯に極暗赤褐色化粧土.②細砂粒.④縁帯に凹線2.内に段なし.⑤口唇に敲打痕.	備前. 17c末~18c前.
1079	SK139 上層	炆器 播鉢:口縁	(5.3)	23.8▼	—	①内面に褐色化粧土.②角岩.石英細粒.④口唇ナデ面取で内に拡張.外ナデ.内胴に5歯摺目疎ら.	唐津. 17c.
1080	SK139 上層	炆器 甕:口縁	(4.8)	—	—	①暗褐色化粧土.②角岩.長石粒.雲母.④大甕カ.縁帯に退化3凹線.	丹波. 17c.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[174] 1081	SK139 上層	炆器 灯明皿:口~底	1.7	10.2▼	—	①黒褐色化粧土,刷毛塗り,外胴底露胎.④外口縁ナデ,外胴底回転ケズリ,内 は回転ナデ.⑤内外に灯芯痕,口唇にタール.	備前. 近世.
1082	SK139 上層	炆器 灯明皿:口~底	1.7	10.0▼	—	①暗褐色化粧土,外胴底露胎.④外口縁ナデ,外胴底回転ケズリ,内胴回転ナ デ,内底ナデ.⑤口唇にタール.	備前. 近世.
1083	SK139 上層	炆器 灯明受皿:口~底	1.5	9.8▼	—	①暗褐色化粧土,全面刷毛塗り.④返りに切込み2,外胴回転ナデ,外底回転ケ ズリ.⑤口唇にタール.	備前. 近世.
1084	SK139 上層	瓦器 焜炉:胴~底	(16.0)	28.8	18.6	①黒.②角岩,微砂粒多.③外胴上半は上下界線に入れ子菱文散し,下半は 刺突充填文.④内胴回転ナデ,部分オサエ,撥高台,回転ナデ,内外底に穿孔3.	在地. 近世.
1085	SK139 上層	瓦器 火鉢カ	(9.0)	—	—	①黒褐.②角岩細粒,雲母.③外胴に花菱印文,沈線区画,点文,外面ナデ,内 面縦ナデ,下部は横ナデ凹み.	近世.
1086	SK139 上層	白色土器 皿:口~底	(1.5)	11.5▼	8.2▼	①白.②水籤土.③型押で高砂文.④内外胴ナデミガキ,外底回転削ケズリ.	尾戸窯. 19cカ.
1087	SK139 上層	白色土器 皿:口~底	(1.5)	11.5▼	8.2▼	①白.②水籤土.③型押で高砂文.④内外胴ナデミガキ,外底回転削ケズリ.	尾戸窯. 19cカ.
1088	SK139 上層	土器 坏皿:口~胴	(3.5)	10.8▼	—	①鈍黄橙.②角岩細粒.④内外回転ナデ.⑤外胴に煤.	在地. 近世.
1089	SK139 上層	土器 小皿:口~底	1.2	7.2▼	4.4▼	①鈍橙.②微砂粒.④外胴中位に沈線,内外胴回転ナデ,内底ナデ,縁ナデ凹 帯,回転糸切.	在地. 18~19c.
1090	SK139 上層	土器 小皿:口~底	1.6	7.0▼	3.6▼	①鈍橙.②微砂粒.④全面ナデ.	在地. 18~19c.
1091	SK139 上層	土器 小皿:底	(0.7)	—	—	①浅黄橙.②微砂粒.④回転糸切.⑥内外底に墨書.	在地. 18~19c.
1092	SK139 上層	土器 不明	(2.0)	幅 (4.1)	厚さ 0.6	①鈍赤褐.②微砂粒,雲母.③穿孔周りに環状隆起,外面に線刻平行弧線,区 画沈線.④型作りカ,内面ナデ.	
1093	SK139 上層	土製品 人形	(6.4)	幅 (3.9)	厚さ (2.6)	①鈍黄橙.②微砂粒,雲母.	近世.
1094	SK139 上層	土製品 人形	(6.0)	幅 (2.2)	厚さ (2.5)	①浅黄橙.②微砂粒.③着物力士.	近世.
1095	SK139 上層	土製品 人形	(3.8)	幅 4.4	厚さ 3.2	①鈍黄橙.②雲母.③鎧武者.	近世.
1096	SK139 上層	土製品 人形	3.5	幅 2.4	厚さ 2.5	①浅黄橙.②雲母.③鶏.	近世.
[175] 1097	SK139 上層	瓦 鬼瓦	(20.7)	幅 (11.0)	厚さ 6.4	①鈍黄橙.②微砂粒.④前側面ナデミガキ,裏面粗ナデ.	在地. 近世.
1098	SK139 上層	瓦	長さ (9.2)	幅 (6.7)	厚さ 2.4	①灰白.②微砂粒.④一面に刻線,表面ナデミガキ.	
1099	SK139 上層	瓦	長さ (7.4)	幅 (3.1)	厚さ 2.0	①黒.②細砂粒.④全面ミガキ,凹線横断.	
1100	SK139 上層	石製品 円盤形	長さ (16.3)	幅 (3.3)	厚さ 3.1	①灰白.②花崗岩.④打割整形.	
1101	SK139 上層	石製品カ	長さ 5.3	幅 5.5	厚さ 1.6	①浅黄.②火成岩.④円餅状.⑤中心に敲打痕カ,被熱カ.	
1102	SK139 上層	石製品カ	長さ 4.9	幅 3.5	厚さ 1.8	①灰.②軽石.④部分面取.⑥重さ5.3g?	
1103	SK139 上層	骨角器 不明	長さ (4.3)	幅 3.3	厚さ 0.4	①鈍黄橙.④骨を薄板状に加工.	
1104	SK139 上層	銅製品 筭	長さ 9.9	幅 (0.5)	厚さ 0.2	④二又.	近世.
1105	SK139 覆土	鉄銭 寛永通寶カ	径 24.0 <sup>3)</sup>	厚さ 1.4 <sup>2)</sup>	重さ 2.1g <sup>2)</sup>	寛永通寶鉄四文銭カ.③波紋.④腐食で不鮮明.	1860年~.
1106	SK139 上層	鉄器 釘	(6.8)	幅 0.6	厚さ 0.3	④断面細長方形.	近世.
1107	SK139 上層	鉄器 釘	(5.8)	幅 0.6	厚さ 0.4	④頭卷釘,断面細長方形.	近世.
1108	SK139 上層	鉄器 釘	(3.5)	幅 0.4	厚さ 0.3	④頭卷釘,断面細長方形.	近世.
1109	SK139 上層	鉄器 釘	(2.3)	幅 0.4	厚さ 0.3	④頭卷釘,断面方形.	近世.
[176] 1110	SK140 覆土	染付 小坏:口~底	2.9	5.8▼	2.8▼	①畳付釉剥.③外胴に雨,高台脇に双帯線.④畳付に目跡.	肥前. 近世.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[178]	SK141 pt	陶器 皿:口~底	3.1	11.6▼	4.8	①灰釉.高台周り露胎.④微端反口.見込みに砂目.削出高台.兜巾状.縮緬.	唐津. 17c前.
	SK141 覆土	土器 坏皿:口~底	3.0	10.7	5.6	①鈍黄橙.②微砂粒.④内湾口縁.内外回転ナデ.外裾強ナデ.内底轆轤目ナ デ消し.回転糸切.	在地. 近世.
	SK141 覆土	土器 皿:口~胴	(2.6)	15.3▼	—	①鈍黄橙.②微砂粒.④内外回転ナデ.内口縁に稜.	在地. 近世.
	SK141 覆土	土器 小皿:口~底	1.1	7.3▼	5.6▼	①橙.②水箴土.④内外精ナデ.内底縁環状隆起.回転糸切.⑤口唇に煤.	在地. 近世.
	SK141 pt	瓦 軒丸瓦	(12.3)	幅 15.5	厚さ 2.4	①灰.②微砂粒.③三つ巴.珠文.④凹面ナデ.	在地. 近世.
	SK141 覆土	瓦 鬼瓦	(12.2)	幅 (14.0)	厚さ 4.0	①黒灰.②微砂粒.③櫛歯刺突文放射状.④全面ナデ.背面から穿孔.背面上 端挟り.	在地. 近世.
	SK142 覆土	染付 皿:底	(1.7)	—	7.2▼	①墨付釉剥.③外胴は下界線に文様.外高台に一圏線.内胴は下界線に墨弾 き波濤文.見込みは帯圏線にこんやく印判五弁花.高台内は帯一圏線.	肥前. 18c.
	SK143 覆土	陶器 丸碗:口~底	8.1	11.8▼	4.9	呉器手様.①鈍黄釉.墨付釉剥.④墨付に目跡.⑥SK140上層と接合.	唐津. 17cカ.
	SK143 中層	陶器 丸碗:口~底	8.4	11.6▼	5.0▼	①鈍黄釉.墨付釉剥.④貼付高台カ.	唐津. 17cカ.
	SK143 最上層	陶器 角鉢:口縁	(3.1)	—	—	①暗赤褐釉.口唇.内胴一部無釉.②長石細粒.③陰刻文.外口縁に雷文.外 胴に七宝散し文.	
	SK143 覆土	炆器 鉢:口縁	(3.9)	—	—	①暗赤褐.②微砂粒.④複合口縁.口唇ナデ凹面.内外回転ナデ.	備前.
	SK148 覆土	陶器 皿:口~底	3.5	10.6	4.0	①灰褐釉.高台周り露胎.④削出高台.兜巾.縮緬.見込に砂目3.	唐津. 17c前.
	SK148 覆土	炆器 播鉢:口~底	11.3	30.1▼	12.5▼	①暗赤化粧土.②黒粒.角岩.鈍黄橙土粒.④縁帯に2凹線.口唇丸い.内口 縁に段.内外轆轤目強い.内胴に11歯摺目.斜めが縦を切る.見込の摺目は 方形配置.外底粗ナデ.縁帯上下に重焼痕.⑤内面磨滅.	備前. 16c末~17c初.
	SK148 覆土	鉄器 棒	長さ (11.7)	幅 1.1▼	厚さ 0.5▼	④断面長方形カ.	
[181]	SK149 下層	青磁 皿:口~底	3.4	13.6▼	4.3	①翡翠釉.見込輪禿.高台周り露胎.④削出高台.墨付に目砂付着.	肥前. 17c前.
	SK149 上層	染付 小坏:口~底	3.7	5.3▼	2.6	①墨付~高台内無釉.③外胴に水草文.④微端反口.削出高台.	肥前. 近世.
	SK149 覆土	染付 猪口:口~胴	(4.0)	7.6▼	—	③外胴に水草文.	肥前. 近世.
	SK149 覆土	染付 稜花鉢:口縁	(3.8)	15.5▼	—	③外胴は縦双線.紋様.内口縁は子持帯線地に宝.笹.	肥前. 近世.
	SK149 pt	染付 仏飯器:略完形	4.8	7.1	3.5	①底周り露胎.③外胴に雨.腰に一圏線.外脚に双帯線.	肥前. 近世.
	SK149 pt	陶器 丸碗:口~底	8.3	12.0	4.4	①オリーブ灰釉.墨付釉剥.④刻高台.	唐津. 17c.
	SK149 pt	陶器 半球碗:完形	5.7	9.2	3.2	①明オリーブ灰釉.高台周り露胎.③外胴に鉄釉で樹木カ.④削出高台.兜 巾状.	京焼. 18c.
	SK149 覆土	陶器 小皿:完形	1.4	6.5	3.4	①浅黄釉.底周りに無釉.④なぶり口2箇所.外底ミガキ.	唐津.
	SK149 上層	陶器 鉢:口縁	(4.3)	22.2▼	—	①局暗赤褐釉.口唇無釉.④二重口縁.口唇ナデ面取.	唐津.
	SK149 上層	陶器 壺:胴~底	(5.9)	11.8▼	9.0▼	①極暗赤褐釉.内無釉.②黒粒.長石微粒.④平底.	丹波. 19c.
	SK149 上層	炆器 窯道具:胴~底	(5.0)	—	16.8▼	①鈍黄褐釉.内無釉.②角岩.長石微粒.④裾に焼成前穿孔.内外轆轤目.上 面に焼痕.	不明.
	SK149 上層	炆器 灯明受皿:片	1.4	10.5▼	4.1▼	①暗赤化粧土.下面露胎.②角岩.長石微粒.④返りに切込み.上面回転ナ デ.下面回転ケズリ.	備前. 近世.
	SK149 覆土	瓦器 甕:口縁	(7.0)	30.0▼	—	①黒.②黒粒.長石.石英微粒.雲母.③外胴にレリーフカ.④口唇ミガキ面 取で外に拡張.外口縁に凹線.内外横ナデ.	近世.
	SK149 覆土	土器 坏皿:口~底	1.9	11.3▼	5.6▼	①鈍黄橙.②微砂粒.④外胴回転ナデ.内胴上位ナデ凹帯.内底縁ナデ凹帯.内 底は平坦.回転糸切.⑤内底に煤.	在地. 近世.
	SK149 上層	土器 小皿:口~底	1.4	8.3▼	4.0	①鈍黄橙.②微砂粒.④内外ナデ.内底縁ナデ凹帯.中心凹み.回転糸切後に ナデ消し.	在地. 近世.
	SK149 上層	土器 小皿:口~底	1.4	7.7	4.8	①橙.②微砂粒.岩滓.④内外回転精ナデ.内底縁ナデ凹帯.中心やや凹む.回 転糸切.⑤口唇に煤・タール.	在地. 近世.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[181] 1141	SK149 覆土	土器 小皿:口~底	1.5	7.7▼	4.0▼	①鈍橙.②微砂粒.④外胴回転ナデ.内面ナデ.内口縁にナデ凹帯.回転糸切後にナデ消し.⑤口唇に煤.	在地. 近世.
1142	SK149 上層	土器 小皿:口~底	1.1	6.8▼	4.3▼	①鈍黄橙.②微砂粒.④外ナデ.内面精ナデ.回転糸切後にナデ消し.⑤口唇に煤.	在地. 近世.
1143	SK149 上層	土器 小皿:底	(1.1)	—	3.2	①鈍橙.②微砂粒.岩滓.④内外ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
1144	SK149 覆土	瓦 丸瓦	長さ (12.6)	幅 11.8	厚さ 1.7	①黒.②微砂粒.④外面ミガキ.内面に縄目痕.	在地. 近世.
1145	SK149 覆土	石製品 未製硯	長さ (7.5)	幅 5.5	厚さ 0.8	①鈍黄橙.②粘板岩.④一平面に隆起.硯転用カ.	
1146	SK150 覆土	青花 折縁皿:口縁	(2.2)	18.4▼	—	③内口縁に紋様.外口縁の上下に一圏線.④折縁.	景德鎮. 16~17c.
1147	SK150 覆土	陶器 中皿:底	(3.3)	—	7.0	二彩手.①オリープ褐釉に灰釉.畳付無釉.③見込は刷毛目地に鉄釉.緑釉で樹木.④片薄高台.見込.畳付に目土痕.	肥前.
1148	SK150 覆土	土器 坏皿:口~底	2.4	9.6▼	4.2	①橙.②水籤土.④外胴ナデミガキ.内胴回転ナデ.内底轆轤目.回転ナデ.回転糸切後にミガキ.	在地. 近世.
1149	SK150 覆土	土器 坏皿:口~胴	(2.4)	9.0▼	—	①鈍黄橙.②微砂粒.④内外回転ナデ.内底強い轆轤目.⑤内外面多量のタール・煤.	在地. 近世.
1150	SK150 覆土	漆器 薄板状	長さ (20.2)	幅 (7.5)	厚さ 0.7	①脊側栗色漆.他面赤漆.④木胎.平面細長方形カ.栗色漆側の中央に幅3 <sup>5</sup> / <sub>8</sub> .高3 <sup>3</sup> / <sub>8</sub> の脊延びる.径4 <sup>3</sup> / <sub>8</sub> の木鋌が脊に2列.翼部分に2列並ぶ.翼厚は2.5 <sup>3</sup> / <sub>8</sub> .	
1151	SK151 下層	土器 坏皿:口~底	3.4	13.8▼	8.2▼	①鈍黄橙.②微砂粒.④外胴回転ナデ.中位ナデ凹帯.内面精ナデ.回転糸切後にナデ.	在地. 近世.
1152	SK151 上層	土器 坏皿:口~底	2.8	11.7▼	6.6▼	①鈍黄橙.②微砂粒.④口唇ナデ面取.外胴回転ナデ.下部オサエ.内面ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
1153	SK151 覆土	土器 坏皿:口~底	2.6	10.7▼	5.5▼	①橙.②微砂粒.④外胴回転ナデ.内面ナデ.回転糸切後にナデ.⑥SK150と接合.	在地. 近世.
1154	SK151 覆土	土器 坏皿:口~底	2.5	10.6▼	5.2▼	①橙.②角岩微粒.④口唇内に肥厚.外胴回転ナデ.裾部分オサエ.内胴回転ナデ.内底轆轤目.ナデ.回転糸切.⑥上下層接合.	在地. 近世.
1155	SK151 上層	土器 坏皿:口~底	2.5	10.1▼	5.3▼	①鈍橙.②微砂粒.④外胴回転ナデ.内面回転精ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
1156	SK151 上層	土器 坏皿:口~底	(2.2)	—	5.8	①鈍橙.②角岩細粒.岩滓.④厚手.外胴ナデ.内面轆轤目.ナデ.回転糸切後に板目.	在地. 近世.
1157	SK151 覆土	銅銭 寛永通寶	径 25.0 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	厚さ 1.3 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	重さ (2.1)g	新寛永.③「寛」通寶.④孔6.0 <sup>3</sup> / <sub>8</sub> .	1668~1862年.
[183] 1158	SK154 覆土	青磁 碗:底	(4.1)	—	5.0	①青磁.褐釉掛け分け.畳付釉剥.④削出高台.兜巾状.	肥前. 近世.
1159	SK154 覆土	青磁 中皿:底	(4.0)	—	13.0▼	①碧緑釉.高台内褐釉.③篋彫り陰刻.見込に一圏線.草文.	肥前. 近世.
1160	SK154 覆土	青磁 皿:口縁	(2.7)	12.3▼	—	①翡翠釉.④折縁.虫食多数.	肥前. 近世.
1161	SK154 覆土	青磁 筒形鉢:口~胴	(6.4)	11.4▼	—	①翡翠釉.③外胴中位の篋彫り紋様を上下凹線帯が挟む.④内凸のL字口縁.	肥前. 近世.
1162	SK154 下層	白磁 小坏:口~胴	(4.2)	8.4▼	—	③端反口.	肥前. 17cカ.
1163	SK154 覆土	青花 皿:底	(1.4)	—	3.2▼	①底周り露胎.③下二界線に蓮弁文.見込は二圏線に花卉文.	景德鎮. 15~16c.
1164	SK154 下層	染付 丸碗:口縁	(4.1)	12.2▼	—	③外は上二界線に一重編目文.	肥前. 近世.
1165	SK154 下層	染付 丸碗:口縁	(3.1)	—	—	③外は上二界線に水草カ.内口縁に一圏線.	肥前. 近世.
1166	SK154 下層	磁器 水滴	(5.7)	幅 5.1	厚さ 2.0	③色絵.黒.赤.緑.④型作り.女性人形.	肥前. 近世.
1167	SK154 覆土	陶器 鉢:底	(5.0)	—	9.0▼	①明黄褐釉.畳付釉剥.④割高台.	肥前カ. 近世.
1168	SK154 上層	陶器 向付:口~底	(3.8)	—	—	織部.①淡黄釉と緑釉の掛け分け.②ざっくり感.③褐釉で外胴に縦帯線.内底に六角形入れ子.内に三珠文.④縁辺に内挟れの器形.	瀬戸. 17c.
1169	SK154 覆土	陶器 向付	(1.0)	—	—	①淡黄釉.③褐釉で線文.④内に布目痕.	織部. 17c.
1170	SK154 下層	陶器 壺:口~胴	(3.3)	—	—	①褐釉.④肩に稜線.	瀬戸. 近世.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[183] 1171	SK154 覆土	陶器 壺:胴~底	(4.4)	—	5.8	①天目釉,底周り,内底無釉.④外裾回転ケズリ,外底ナデ,内底轆轤目.	唐津. 近世.
1172	SK154 覆土	陶器 大甕:胴	(6.4)	—	—	①赤黒釉.③外胴に刻目突帯.	唐津. 17c.
1173	SK154 覆土	炆器 播鉢:口~胴	(4.6)	27.6▼	—	①暗赤褐色粧土.②黒粒,角岩,長石微粒.④緑帯,内に微段,外に刻線2.口唇と緑帯下に重焼痕,内胴に13歯摺目密に.	備前. 17~18c.
1174	SK154 覆土	炆器 壺:胴	(4.6)	—	—	①極暗赤褐色粧土,内露胎.②黒粒,角岩微粒.③外胴に楕円に「一」刻印.④内外轆轤目.	備前. 近世.
1175	SK154 覆土	須恵器 坏蓋	(2.0)	13.6▼	—	①灰,自然釉.②微砂粒.④環状摘み,内外ナデ.	在地. 古代.
1176	SK154 上層	土器 小皿:口~胴	(2.3)	6.2▼	—	①橙.②角岩粗粒.④内湾口縁,内外ナデ.	在地. 近世.
1177	SK154 上層	土器 焼塩壺:胴~底	(3.5)	—	5.0	①明赤褐.②角岩,砂粒.④板づくり,外胴ナデ面取,内面布目痕,外底ナデ.	近世.
1178	SK154 覆土	瓦 軒丸瓦	長さ (20.2)	幅 10.0	厚さ 2.0	①黒.②細砂粒.④外面ミガキ,内面鉄線痕.	在地. 近世.
1179	SK154 覆土	瓦 棟瓦カ	長さ (13.0)	幅 16.4	厚さ 2.1	①黒.②角岩,細砂粒.④外面ミガキ,指紋あり,内面ナデ,側面对応位置に各一孔,穿孔を充填した箇所あり.	在地. 近世.
1180	SK154 上層	瓦再加工品 円盤	長さ 4.3	幅 4.1	厚さ 2.2	①灰.②微砂粒.④円盤状に打ち欠き.	
1181	SK154 覆土	石製品 砥石	長さ 14.9	幅 8.7	厚さ 3.6	①灰.②砂岩.④一平面研ぎ凹み.⑥重さ865g?	
1182	SK154 下層	石製品 砥石	長さ 6.7	幅 3.2	厚さ 1.1	①灰.②粘板岩.④薄板状,全面研磨.⑥重さ40g?	
1183	SK154 下層	石製品 未製砥石カ	長さ (7.1)	幅 (7.3)	厚さ 2.3	①灰.②砂岩.④全面粗研ぎ.⑥重さ175g?	
1184	SK154 上層	鉛製品 円盤	長さ 5.4	幅 5.3	厚さ 0.5	①黒.②鉛.④表裏対応位置に凹み2.⑥重さ89.0g?,インゴットカ.	
1185	SK154 下層	鉛製品 玉	径 1.5	—	重さ 17.0g?	①灰.②鉛.④合範鑄造品,湯口引け部分抉れ.⑥鉄砲玉.	
1186	SK154 覆土	鉄器 楔カ	長さ 1.1	幅 1.0	厚さ 0.3	④縦断面長三角形,先端側研磨.⑥重さ5.9g?	
1187	SK154 覆土	鉄器 和釘	長さ (6.2)	幅 0.5	重さ 2.0g?	④断面方形.	近世.
1188	SK154 覆土	鉄器 頭巻釘	長さ (2.9)	幅 0.5	重さ 1.8g?	④断面方形.	近世.
1189	SK154 覆土	鉄器 頭巻釘	長さ (1.9)	幅 0.3	重さ 0.4g?	④断面方形.	近世.
[184] 1190	SK157 覆土	染付 碗:口~胴	(5.1)	8.9▼	—	③口唇に褐色素地で口鏝,外面は上界線に山水カ.	初期伊万里. 17c前.
1191	SK157 覆土	陶器 中皿:底	(2.9)	—	6.6▼	①外面はオリーブ褐釉,畳付釉剥.③二彩手,内面は刷毛目地に褐,緑,青釉で松.④見込に目跡.	肥前. 近世.
1192	SK157 下層	陶器 皿:口~底	3.5	10.6	4.7	①白濁釉,外胴以下露胎.④見込に胎土目4,削出高台,兜巾,縮緬.⑤被熱.	唐津. 16c末~17c初.
1193	SK157 覆土	陶器 皿:口縁	(3.0)	—	—	①外面はオリーブ褐釉.③二彩手,内面は刷毛目地に櫛描波状文,鉄釉文様.④口縁内折れ.	肥前. 近世.
1194	SK157 覆土	瓦器 碗:口縁	(1.9)	14.9▼	—	①灰.②黒粒.④外口縁ナデ凹帯,外胴ナデオサエ,内面ナデミガキ.	和泉型. 13c.
1195	SK157 下層	土器 坏皿:口~底	2.2	10.6▼	5.4▼	①浅黄橙.②角岩,岩滓.④内外胴ナデ,内底轆轤目,ナデ,回転糸切.	在地. 近世.
1196	SK157 覆土	土器 坏皿:底	(1.7)	—	7.4	①鈍橙.②水鏡土.④内外ナデ,内底轆轤目ナデ消し,回転糸切後にナデ消し.	在地. 近世.
1197	SK157 覆土	土器 坏皿:底	(0.7)	—	5.9	①鈍橙.②微砂粒.④内底精ナデ,中心凹む,回転糸切後にナデ.	在地. 近世.
1198	SK157 覆土	鉄器 頭巻釘	長さ (5.7)	幅 0.7	重さ 7.2g?	④断面方形.	近世.
1199	SK158 覆土	青磁 皿:口~底	1.5	7.4▼	3.8▼	①浅黄釉,全釉.③外胴に沈線.④端反口,腰折れ,碁笥底,畳付に目跡.	同安窯. 13~14c.
1200	SK158 覆土	色絵磁器 皿:口~底	4.6	22.8▼	9.0▼	③色絵と上絵付,内口縁は一重網目文に上絵窓,見込は三圈線に上絵花文カ.④畳付に目跡.	初期伊万里. 17c前.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[188] 1201	SK159 覆土	青磁 壺:胴~底	(3.5)	10.1▼	7.4▼	①畳付釉剥.内面無釉.③胴外に縦隆帯.④腰折れ.	肥前. 近世.
1202	SK159 覆土	染付 蕎麦猪口:口~底	5.4	7.6	4.8	①畳付釉剥.③外面は岩,梅樹,下二界線.高台内は一圏線に「□□年製」銘.④腰輪高台.⑥覆土と上層の接合.	肥前. 近世.
1203	SK159 覆土	染付 輪花鉢:口~底	4.3	16.0▼	9.6	①畳付釉剥.③外胴は唐草文に下界線.外高台に二圏線.内胴は上界線に松・楼閣文,下二界線.高台内に一圏線.④輪花縁.	肥前. 近世.
1204	SK159 上層	染付 小碗:口~胴	(3.9)	8.5▼	—	③外胴に水草文.	肥前. 近世.
1205	SK159 覆土	染付 小碗:口~底	3.0	6.8▼	2.8	①畳付釉剥.③外胴に水草文.	肥前. 近世.
1206	SK159 上層	染付 小坏:胴~底	(3.2)	—	2.3▼	①全釉.③外胴は下界線に水草文.外高台に二圏線.	肥前. 近世.
1207	SK159 上層	染付 猪口:口~底	5.4	6.7▼	3.6▼	①畳付釉剥.③外口縁に雨文.外胴裾に三圏線.④底径小.腰輪高台.畳付に目砂.	肥前. 近世.
1208	SK159 上層	陶器 天目茶碗:口~底	5.3	7.7▼	3.3▼	①褐釉.高台周り露胎.④削出高台,縮緬.	唐津. 18c.
1209	SK159 上層	陶器 天目茶碗:口~胴	(4.5)	—	—	①褐釉.④口縁屈折内傾.	瀬戸. 近世.
1210	SK159 覆土	陶器 御室碗:口~胴	(5.3)	9.6▼	—	①淡黄釉.高台周り無釉.③外胴に鉄絵で山水文カ.④腰張り.	肥前. 17c後~18c前.
1211	SK159 上層	陶器 半球碗:胴~底	(3.6)	—	4.2▼	①灰黄釉.高台周り無釉.③外胴に鉄絵で笹文,呉須で水流.④削出高台.	肥前京焼風カ. 18c.
1212	SK159 覆土	陶器 碗:口~胴	(4.0)	10.6▼	—	①オリープ黒釉.③内外に打ち刷毛目.	現川. 18c前.
1213	SK159 覆土	陶器 皿:口~底	3.2	11.6▼	4.2▼	①暗オリープ釉.高台周り露胎.④見込輪弁.削出高台,竹節状.	唐津. 17c.
1214	SK159 覆土	陶器 稜花鉢:口~底	4.8	15.1▼	5.7	①灰白釉.畳付釉剥.④稜花,端反口.見込一段下がる.見込に目跡.畳付に目跡.	肥前. 近世.
1215	SK159 覆土	炆器 灯明皿:口~底	1.9	11.6▼	—	①暗赤化粧土.外胴以下露胎.②微砂粒.④口唇弱ナデ面取.外面回転ケズリ.⑤口唇に煤.	備前. 近世.
1216	SK159 上層	炆器 灯明皿:口~底	1.8	11.2	—	①暗赤化粧土.外胴以下露胎.②微砂粒.④外反口縁.外面ケズリ.内底浅く凹む.回転糸切.	備前. 近世.
1217	SK159 覆土	炆器 播鉢:口縁	(4.0)	—	—	①暗赤褐化粧土.外胴露胎.②黒粒,角岩,石英細粒.④縁帯.口唇ナデ凹面 で内傾斜し痕跡化した段.外口縁に退化二凹線.口唇と縁帯下に重焼痕.	備前. 18c.
1218	SK159 上層	土器 小皿:口~底	1.1	8.6▼	5.4	①鈍黄橙.②微砂粒.④口縁部分歪み.内外ナデ.⑤内底剥離.	在地. 18cカ.
1219	SK159 覆土	土器 火鉢:口縁	(3.9)	—	—	①暗赤褐.②角岩粗粒.④口唇ナデ面取.外口縁に弱凹線.外胴は縮緬.	在地. 近世.
[190] 1220	SK162 覆土	陶器 皿:口~底	2.2	11.2▼	5.9▼	①灰釉.内底無釉.③内胴に縦ナデで菊花.④溝縁.内底縁に溝.高台脇に稜削出高台.	唐津カ.
1221	SK162 覆土	陶器 皿:底	(1.1)	—	5.0▼	①淡黄釉.全釉.③見込に鉄絵で草花.④削出高台.	肥前. 近世.
1222	SK162 上層	炆器 播鉢:口~胴	(6.9)	31.6▼	—	①外口縁に黒褐化粧土.明赤褐.②角岩,石英細粒.④縁帯.内口縁に微段.外口縁に二刻線.口唇・縁帯下に重焼痕.内外横ナデ.内胴に13齒摺目.	備前. 18c.
1223	SK162 上層	炆器 播鉢:口~胴	(8.0)	29.4▼	—	①暗赤褐化粧土.②角岩,鈍橙,灰色土粒.④縁帯に退化二凹線.内口縁に微段.縁帯上下に重焼痕.内外輻輪目ナデ.9齒摺目.⑤内胴磨減.縁帯化粧土剥離.	備前. 17c後.
1224	SK162 下層	土器 坏:口~胴	(3.5)	7.8▼	—	①橙.②微砂粒.④内湾口縁.内外回転ナデ.	在地. 近世.
1225	SK162 下層	土器 坏皿:口~底	2.9	10.7	5.4	①鈍黄褐.②微砂粒.④外胴ナデ,中位・裾ナデに凹帯.内胴精ナデ.内底輻輪目,ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
1226	SK162 上層	土器 坏皿:口~底	2.7	8.9▼	5.0▼	①鈍黄褐.②水箴土.④内外胴回転ナデ.外胴中位弱ナデ凹帯.内底輻輪目,ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
1227	SK162 覆土	土器 羽釜:口~胴	(6.7)	20.8▼	—	①鈍褐.②長石,角岩粒.④口唇ナデ面取.鑄端面取.外口縁横ナデ.外胴縦ハケ.内面横ナデ.⑤内面煤ける.	摂津C類. 10~11c.
1228	SK162 覆土	土器 焼塩壺:口~胴	(6.9)	5.4▼	—	①橙.②赤角岩粒多.④口唇内斜面取.外口縁ナデ凹帯.外胴ナデ面取.内胴は布目.	17c.
[185] 1229	SK165 覆土	土器 皿:口~底	2.3	12.9▼	8.0▼	①橙.②微砂粒.④内外ナデ.外胴中位ナデ凹帯.回転篋切後にナデ.	在地. 古代.
1230	SK165 中層	土製品 土錘	長さ 3.8	幅 1.2	重さ 48.7g	①灰白.②微砂粒.④管状.外面ナデ.	

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[185] 1231	SK165 上層	石製品 砥石	長さ (5.9)	幅 3.0	厚さ 0.6	①黒.②片岩.雲母.④薄板状.両平面弧面.⑥重さ22.0g?	
1232	SK167 覆土	染付 碗:胴~底	(4.8)	—	4.8▼	①畳付釉剥.③外胴に蔓.④腰張り.	初期伊万里. 17c前.
1233	SK167 中層	土器 坏皿:口~底	2.5	10.9▼	7.0▼	①橙.②水簸土.④内外胴回転ナデ.外口縁微段.外胴中位ナデ凹帯.内胴下半ナデ凹帯.内底ナデ.回転糸切.	在地. 近世.
1234	SK167 覆土	土器 小皿:口~底	2.1	9.8▼	5.0▼	①橙.②水簸土.④弱端反口.内外回転ケズリ.回転糸切.⑤口唇にタール・煤.	在地. 近世.
1235	SK167 下層	土器 小皿:口~底	2.1	8.1▼	4.2	①鈍黄褐.②角岩細粒.④内外ナデ.内底強い轆轤目.回転糸切.	在地. 近世.
[193] 1236	SK168 覆土	土器 鉢:胴~底	(2.6)	—	9.4▼	①橙.②微砂粒.雲母.④回転糸切.⑤内外底部以外に煤.	
1237	SK168 覆土	土器 鍋:口縁	(1.9)	—	—	①鈍赤褐.②長石.角岩微粒.雲母.④口唇丸く内に微拡張.外面ナデ.内面横ハケ.	
[196] 1238	SK171 覆土	陶器 折縁皿:口~底	3.5	11.7▼	4.0▼	①灰釉.高台周り無釉.④折縁.口唇は上に微拡張.削出高台.兜巾状.見込.畳付に砂目各3.	唐津. 17c前.
1239	SK171 覆土	陶器 皿:口~底	3.6	12.9▼	4.2	①内面青緑釉.外面透明釉.高台周り無釉.④見込輪弁.削出高台.兜巾状.縮緬.	肥前. 17c後.
1240	SK171 覆土	土器 皿:口~底	2.8	11.0▼	6.6▼	①鈍橙.②水簸土.④厚手.内外ナデ.外胴中位ナデ凹帯.内底轆轤目ナデ消し.回転糸切後にナデ消し.	在地. 近世.
1241	SK171 覆土	土器 小皿:口~底	2.3	9.6▼	4.4▼	①橙.②水簸土.④外胴ナデミガキ.内胴ナデ.内底轆轤目.回転糸切後にナデ.⑤口唇にタール・煤付着.	在地. 近世.
1242	SK171 覆土	銅銭 元祐通寶	径 23.5 <sup>s</sup>	厚さ 1.3 <sup>s</sup>	重さ 3.1 <sup>g</sup>	③「元祐通寶」.④孔6.5 <sup>s</sup> .	北宋. 1086年~.
1243	SK172 中層	陶器 天目茶碗:略完形	6.1	11.4	4.2	①褐釉.高台周り無釉.④S字口縁.削片薄高台.兜巾.縮緬.	唐津. 17c前.
1244	SK172 上層	陶器 小碗:略完形	3.5	5.9	3.2	①浅黄釉.高台周り無釉.④口唇は内に微肥厚.削出高台.	唐津. 17c.
1245	SK172 覆土	土器 坏皿:口~底	3.6	10.6▼	5.6▼	①鈍橙.②微砂粒.④内外精ナデ.外底ナデ.⑤口唇.内底にタール・煤.	在地. 近世.
1246	SK172 上層	土器 小皿:口~底	2.8	8.3▼	4.7▼	①鈍黄橙.②赤角岩細粒.④内外ナデ.外胴中位ナデ凹帯.回転糸切後にナデ.	在地. 近世.
1247	SK173 覆土	染付 筒碗:完形	6.2	6.7	4.4	①畳付釉剥.③外面に山水.下二界線.高台内に「茶」銘.	能茶山. 19c後.
1248	SK173 覆土	染付 小碗:口~底	3.9	7.7▼	3.6▼	①畳付釉剥.③内口縁に帯線.見込に草花.④端反口.腰張り.	能茶山. 19c後.
1249	SK173 覆土	陶器 行平鍋:口~胴	(6.0)	13.4▼	—	①極暗褐色土.内口縁.外胴下露胎.②水簸土.③外胴に飛鉋.④受口.外胴下半回転ケズリ.内面回転ナデ.	能茶山カ. 近世.
1250	SK173 覆土	施釉土器 焜炉:口~胴	(4.5)	—	—	①明褐釉.②角岩細粒.④口唇に微段.内に小拡張.外口縁にナデ段.	在地. 近世.
1251	SK173 覆土	土器 小皿:口~底	1.3	7.7	5.4	①鈍橙.②微砂粒.④内外胴回転ナデ.内底ナデ.回転糸切.	在地. 18c~.
1252	SK173 覆土	土製品 おはじき	径 1.9	厚さ 0.5	重さ 1.9 <sup>g</sup>	①橙.②雲母.④断面凸レンズ形.	近世.
1253	SK173 覆土	瓦 軒平瓦	長さ (6.5)	幅 (8.7)	厚さ 2.0	①黒.②微砂粒.③唐草文.④内外ナデ.	在地. 近世.
1254	SK173 覆土	瓦 丸瓦	長さ 22.9	幅 (9.7)	厚さ 1.5	①黒.②角岩微粒.④外面ナデ.内面鉄線痕.半分ナデ消し.	在地. 近世.
1255	SK173 覆土	鉄器 刃物柄	長さ (5.7)	幅 1.9	厚さ 0.8	④柄断面は長方形.	
[198] 1256	SK175 覆土	青花 鏝皿:口縁	(2.4)	—	—	③鈍橙素地土で口鏤.外口縁に二圏線.内口縁は上界線に唐草文.下二界線.内胴に文様.④折縁.	景德鎮. 16~17c.
1257	SK175 覆土	青花 鏝皿:胴	(2.3)	—	—	③外胴に線文.内胴に芙蓉手.④折縁.	景德鎮. 16~17c.
1258	SK175 no.3	土器 坏皿:口~底	3.5	11.6	6.4	①橙.②水簸土.④やや歪み.内外回転ナデ.外胴中位弱ナデ凹帯.内底縁ナデ凹帯.内底ナデ.回転糸切後にナデ.	在地. 17c.
1259	SK175 no.12	土器 坏皿:略完形	3.4	11.4	6.6	①橙.②水簸土.④歪み.全面精ナデ.外胴中位に弱い稜.回転糸切.	在地. 17c.
1260	SK175 no.17・26・30	土器 坏皿:略完形	3.2	11.4	6.6	①鈍橙.②水簸土.④口唇水平弱ナデ面取.全面精ナデ.内底縁にナデ凹帯.回転糸切後にナデ.	在地. 17c.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[198] 1261	SK175 no.15	土器 坏皿:略完形	3.3	11.4	6.4	①橙.②水籤土.④内外回転ナデ.外胴中位.裾ナデ凹帯.内底縁ナデ凹帯.内底ナデ.回転糸切後にナデ消し.	在地. 17c.
1262	SK175 覆土	土器 坏皿:口~底	3.2	11.4▼	6.3	①鈍橙.②水籤土.④外胴回転ナデ.中位弱ナデ凹帯.内面精ナデ.回転糸切.	在地. 17c.
1263	SK175 no.23	土器 坏皿:口~底	3.1	11.4▼	6.0	①橙.②水籤土.④内外胴精ナデ.外胴中位ナデ凹帯.内底ナデ.内底縁ナデ凹帯.回転糸切.	在地. 17c.
1264	SK175 no.7	土器 坏皿:完形	3.5	11.3	6.4	①橙.②水籤土.④歪み.内外回転精ナデ.外胴中位.裾弱ナデ凹帯.内底縁ナデ凹帯.内底ナデ.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1265	SK175 no.10・18・30・38	土器 坏皿:口~底	3.4	11.3	6.3	①鈍橙.②水籤土.④全面精ナデ.外胴中位弱ナデ凹帯.内底縁弱ナデ凹帯.回転糸切後にナデ.	在地. 17c.
1266	SK175 no.21a・21b・30	土器 坏皿:略完形	3.4	11.3	6.3	①鈍橙.②水籤土.④全面精ナデ.内底縁ナデ凹帯.回転糸切後にナデ.	在地. 17c.
1267	SK175 no.22	土器 坏皿:完形	3.4	11.3	6.2	①橙.②水籤土.④内外胴精ナデ.内底ナデ.内底縁ナデ凹帯.回転糸切後にナデ.	在地. 17c.
1268	SK175 no.25	土器 坏皿:略完形	3.3	11.3	6.2	①橙.②水籤土.④内外回転ナデ.外胴中位.裾ナデ凹帯.内底縁ナデ凹帯.内底ナデ.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1269	SK175 no.9	土器 坏皿:完形	3.3	11.2	6.5	①橙.②水籤土.④内外回転ナデ.外胴中位.裾ナデ凹帯.内底縁ナデ凹帯.内底ナデ.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1270	SK175 no.40	土器 坏皿:口~底	3.3	11.2	6.4	①橙.②水籤土.④全面精ナデ.回転糸切後にナデ.部分厚い.	在地. 17c.
1271	SK175 no.30・覆土	土器 坏皿:略完形	3.4	11.2	6.3	①鈍橙.②水籤土.④全面精ナデ.内底縁ナデ凹帯.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1272	SK175 no.32・34	土器 坏皿:完形	3.3	11.2	6.2	①橙.②水籤土.④外胴回転ナデ.中位弱ナデ凹帯.内面精ナデ.内底縁ナデ凹帯.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1273	SK175 no.35	土器 坏皿:完形	3.3	11.2	6.2	①橙.②水籤土.④外胴回転ナデ.中位弱ナデ凹帯.内面精ナデ.内底縁弱ナデ凹帯.回転糸切後にナデ.	在地. 17c.
1274	SK175 no.39・40・覆土	土器 坏皿:口~底	3.2	11.2	6.2	①橙.②水籤土.④内外胴回転ナデ.内底ナデ.回転糸切.	在地. 17c.
1275	SK175 no.5	土器 坏皿:完形	3.5	11.2	6.1	①鈍橙.②水籤土.④内外回転精ナデ.外胴中位.裾弱ナデ凹帯.内底縁弱ナデ凹帯.内底精ナデ.回転糸切後に板目後にナデ.	在地. 17c.
1276	SK175 no.20	土器 坏皿:完形	3.4	11.1	6.0	①橙.②水籤土.④外胴回転ナデ.内面精ナデ.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1277	SK175 no.33	土器 坏皿:略完形	3.3	11.1	6.0	①橙.②水籤土.④全面精ナデ.外胴中位ナデ凹帯.内底縁弱ナデ凹帯.回転糸切.	在地. 17c.
1278	SK175 no.36	土器 坏皿:完形	3.4	11.0	6.4	①橙.②水籤土.④全面精ナデ.外胴中位弱ナデ凹帯.内底縁ナデ凹帯.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1279	SK175 no.24・覆土	土器 坏皿:略完形	3.3	11.0	6.3	①橙.②水籤土.④内外胴精ナデ.外胴中位弱ナデ凹帯.内底ナデ.回転糸切後にナデ.	在地. 17c.
1280	SK175 no.6	土器 坏皿:完形	3.5	11.0	6.0	①橙.②微砂粒.④内外回転ナデ.外胴中位.裾ナデ凹帯.内底縁ナデ凹帯.内底ナデ.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1281	SK175 no.21b	土器 坏皿:略完形	3.5	10.9	6.1	①鈍橙.②水籤土.④全面精ナデ.外胴中位弱ナデ凹帯.内底縁ナデ凹帯.回転糸切後にナデ.	在地. 17c.
1282	SK175 no.13	土器 坏皿:口~底	3.5	10.8	6.0	①橙.②水籤土.④やや歪み.全面精ナデ.外胴中位弱ナデ凹帯.内底縁ナデ凹帯.回転糸切後にナデ.	在地. 17c.
1283	SK175 no.34	土器 坏皿:完形	3.4	10.8	6.0	①橙.②水籤土.④内外胴回転ナデ.内底ナデ.内底縁弱ナデ凹帯.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1284	SK175 no.37	土器 坏皿:完形	3.4	10.8	6.0	①橙.②水籤土.④全面精ナデ.外胴中位弱ナデ凹帯.内底縁弱ナデ凹帯.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1285	SK175 no.14	土器 坏皿:口~底	3.4	10.8	6.0	①橙.②水籤土.④全面精ナデ.外胴中位弱ナデ凹帯.内底縁弱ナデ凹帯.回転糸切後に部分ナデ.	在地. 17c.
1286	SK175 no.31	土器 坏皿:完形	3.4	10.7	6.0	①橙.②水籤土.④全面精ナデ.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1287	SK175 no.19	土器 坏皿:略完形	3.4	10.7	6.0	①橙.②水籤土.④外胴精ナデ.内胴回転ナデ.内底ナデ.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1288	SK175 no.28・30	土器 坏皿:口~底	3.2	11.4▼	6.4▼	①橙.②水籤土.④内外回転ナデ.外胴上位.裾ナデ凹帯.回転糸切.	在地. 17c.
1289	SK175 no.29	土器 坏皿:口~底	3.4	11.4▼	6.4	①鈍橙.②水籤土.④全面精ナデ.内底縁ナデ凹帯.回転糸切後にナデ.	在地. 17c.
1290	SK175 覆土	土器 坏皿:口~底	3.1	11.4▼	6.4	①橙.②水籤土.④内外回転ナデ.外胴中位.裾ナデ凹帯.内底縁ナデ凹帯.内底ナデ.回転糸切.	在地. 17c.

No.	出土位置	素材区分 器種:部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[198] 1291	SK175 no.8	土器 坏皿:口~底	3.2	11.3▼	6.4	①橙.②水簸土.④内外回転ナデ.外胴中位.裾ナデ凹帯.内底縁ナデ凹帯.内底ナデ.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1292	SK175 no.1	土器 坏皿:口~底	3.0	10.8▼	6.3▼	①橙.②水簸土.④内外面精ナデ.回転糸切後にナデ消し.	在地. 17c.
1293	SK175 no.11・31	土器 坏皿:口~底	3.2	10.7▼	6.2	①橙.②水簸土.④内外回転ナデ.内底縁ナデ凹帯.回転糸切後に板目.	在地. 17c.
1294	SK175 no.27	土器 坏皿:口~胴	(2.8)	10.5▼	—	①橙.②水簸土.④内外回転ナデ.外中位ナデ凹帯.	在地. 17c.
[170] 1295	SK182 覆土	土器 坏:底	(3.1)	—	5.8▼	①橙.②角岩細粒.④外面ナデ.篋ナデ.内面ナデ.内底凹む.平高台.外底篋ナデ.	在地. 古代.
[167] 1296	SK187 下層	土器 皿:口~底	1.8	12.9▼	9.5▼	①橙.②岩滓.マーブル状.④端反口.内外胴回転ナデ.内底轆轤目ナデ消し.回転篋切後にナデ.	在地. 8~9c.
[176] 1297	SK191 覆土	土製品 土錘	長さ 3.2	幅 1.1	重さ 3.4g	①灰白.②微砂粒.④一方が細まる.外面ナデ.	
1298	SK192 覆土	緑釉陶器 碗:胴	(2.2)	—	—	①淡緑釉.②微砂粒.④内外ミガキ.	京都系. 9c.
1299	SK192 覆土	須恵器 壺:口縁	(2.7)	18.6▼	—	①灰.②角岩粒.④口唇ナデ凹面.上に小拡張.内外回転ナデ.	在地. 古代.
[187] 1300	SK202 覆土	土器 坏:口~底	(3.1)	12.5▼	8.0	①橙.②角岩細粒.④微端反口.内外面精ナデ.回転篋切後に精ナデ.	在地. 10c.
[203] 1301	SK217 覆土	緑釉陶器 碗:口縁	(2.4)	—	—	①淡緑釉.④内外ミガキ.	京都系. 9c.
1302	SK235 覆土	土器 甕:胴	(4.7)	—	—	①鈍赤褐.②長石.細砂粒.④外は縦ハケ.内はタタキカ.	搬入カ. 古代カ.
[206] 1303	SK240 pt	土器 坏皿:略完形	3.1	11.5	6.4	①鈍橙.②岩滓.④微端反.内外精ナデ.回転糸切後に板目カ後にナデ.	在地. 11c頃.
1304	SK240 pt	土器 坏皿:口~底	3.2	11.5	5.5	①鈍黄橙.②微砂粒.④微端反.内外精ナデ.回転糸切ナデ消し.	在地. 11c頃.
1305	SK240 pt	土器 坏皿:口~胴	2.9	12.3▼	6.0▼	①鈍黄橙.②水簸土.④微端反.内外精ナデ.	在地. 11c頃.
1306	SK240 pt	土器 坏皿:口~底	2.8	11.6▼	5.8	①鈍黄橙.②水簸土.④微端反.内外ナデ.回転糸切後にナデ.	在地. 11c頃.
1307	SK240 pt	土器 坏皿:口~底	3.0	11.4▼	5.0▼	①鈍黄橙.②水簸土.④内外精ナデ.回転糸切後にナデ.	在地. 11c頃.
[113] 1308	SK243 覆土	土器 羽釜:口縁	(2.8)	—	—	①鈍黄橙.②角岩.長石細粒.④口唇ナデ凹面.上に小拡張.鑿断面方形.内外口縁ナデ.外胴タタキ.⑤外胴に煤.	播磨型. 14c後.
[211] 1309	SK257 覆土	弥生土器 甕:口縁	(2.7)	14.4▼	—	①明赤褐.②角岩粗粒.④く字口縁.口唇粗ナデ面取.外面タタキ後折り曲げナデ.内面ナデ.	在地. 弥生終末.
[177] 1310	SK258 覆土	土器 羽釜:口縁	(4.3)	—	—	①橙.②角岩.長石細粒.④口唇ナデ面取.内外口縁横ナデ.外胴タタキカ.	播磨型. 15c.
[214] 1311	SK268 覆土	白磁 皿:口縁	(2.0)	9.6▼	—	④口唇は外に尖拡張.	
1312	SK268 覆土	土器 坏:胴~底	(3.1)	—	6.4▼	①橙.②角岩粒.④外胴轆轤目.内胴ナデ.内底轆轤目ナデ消し.平高台.回転糸切後にナデ消し.	在地. 古代.
1313	SK268 覆土	土器 坏皿:口~胴	(4.2)	10.9▼	—	①鈍黄橙.②角岩.長石粒.④外胴轆轤目ナデ.内口唇精ナデ.内胴ナデ.	在地カ. 中世.
[218] 1314	SK285 覆土	染付 端反碗:完形	5.9	10.8	4.2	①畳付釉剥.③外胴は上下界線.上下茂みで三分割.間に水辺に果実.草カ.高台際に二圏線.内口縁は上限界線に交差連弧文.見込は一圈線に壽字意匠.	瀬戸. 19c.
1315	SK285 覆土	染付 端反碗:略完形	5.8	10.5	3.8	①畳付釉剥.③外は上下界線に草を4単位.間に果実.樹枝を4単位.高台際に二圏線.内口縁は退化雷文.見込は一圈線に壽字意匠.	瀬戸. 19c.
1316	SK285 覆土	染付 端反碗:略完形	5.7	10.4	4.0	①畳付釉剥.③外はよろけ縦線で三分割に扇.笹.草.高台脇に斜格子.外高台に二圏線.内口縁に略化四方櫛.見込は一圈線に壽字意匠.	瀬戸. 19c.
1317	SK285 覆土	染付 ティーポット蓋	2.8	6.2	—	①裾端釉剥.③外縁に渦巻文帯.菊.葉.摘み下端に二圏線.④摘み上部は六弁花陽刻.穿孔1.	瀬戸. 19c.
1318	SK285 覆土	染付 ティーポット	6.5	8.0	4.2	①底部周囲.内口縁.受け釉剥.③外口縁は渦巻文.外胴に椿・樹木・笹・文字「造□無」.④内口縁に蓋受け.碁笥底.	瀬戸. 19c.
1319	SK285 覆土	陶器 蓋:略完形	2.5	9.7	—	①灰釉.畳付釉剥.④内天井は環状に粘土塗布.	19c.
1320	SK285 覆土	陶器 蓋:完形	1.0	4.8	—	①灰釉.下面無釉.④天井浅く凹む.返りは貼付.	19c.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[218] 1321	SK285 覆土	陶器 瓶:頸~底	(11.2)	—	7.8	①褐釉.底部無釉.④浅い碁笥底.回転ケズリ.	19c.
1322	SK285 覆土	陶器 灯明受皿:略完形	2.1	10.3	3.6	①灰釉.外面無釉.④外面ケズリ.碁笥底.返りに挟り1箇所.	瀬戸. 19c.
1323	SK285 覆土	炆器 播鉢:胴~底	(4.9)	—	10.8▼	①明赤褐.②微砂粒.④内胴に6歯摺目疎ら.回転糸切.⑤やや磨減.	19cカ.
1324	SK285 覆土	白色土器 皿:略完形	1.5	10.2	6.5	①灰白.②水籤土.④外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1325	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	2.2	11.9	7.1	①浅黄橙化粧土.②鈍橙.水籤土.③見込に「壽」陽出.④外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1326	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	2.6	11.4	7.2	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④外口縁回転ナデ.外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯 近世.
1327	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	2.4	11.3	6.1	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④内口唇微突.外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1328	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	2.2	11.2	7.0	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1329	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	2.2	11.2	6.4	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④外口縁回転ナデ.外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1330	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	2.2	11.0	6.4	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④外胴回転ケズリ.口唇.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1331	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	2.1	11.0	6.4	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1332	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	1.9	10.9	7.2	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1333	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	1.9	10.9	7.2	①灰白化粧土.②鈍橙.水籤土.③外口縁に沈線.④外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1334	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	2.2	10.9	6.4	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1335	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	2.2	10.9	6.1	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1336	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	2.6	10.8	8.0	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④外面回転ケズリ.内面回転ナデ.底は外膨らみ.回転ケズリ.外胴.外底にカキ目.	尾戸窯. 19c.
1337	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	2.1	10.8	6.2	①白化粧土.②橙.水籤土.④外胴回転ケズリ.口唇.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1338	SK285 覆土	白塗土器 皿:口~底	1.9	10.8	6.2	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1339	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	2.2	10.7	6.7	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④外口縁回転ナデ.外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1340	SK285 覆土	白塗土器 皿:略完形	2.2	10.6	6.6	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④外口縁回転ナデ.外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1341	SK285 覆土	白塗土器 皿:口~底	2.2	11.1▼	7.0	①浅黄橙化粧土.②橙.水籤土.④外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1342	SK285 覆土	白塗土器 焜炉:口縁	(4.1)	—	—	①灰白化粧土.②橙.水籤土.④波状鏝縁.内口唇に貼付突起.内外回転ナデ.⑤突起に煤附着.	在地. 19c.
1343	SK285 覆土	土器 皿:略完形	1.7	10.0	6.4	①浅黄橙.②水籤土.④外胴回転ケズリ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1344	SK285 覆土	土器 皿:口~底	1.4	10.3	6.9	①浅黄橙.②水籤土.④外胴回転ケズリ後回転粗ミガキ.内面回転ナデ.碁笥底.回転ケズリ.	尾戸窯. 19c.
1345	SK285 覆土	瓦 平瓦	長さ (9.8)	幅 (12.9)	厚さ 1.7	①灰.キラ粉.④「吸毛」刻印.	在地. 19c.
1346	SK285 覆土	銅銭 寛永通寶	径 24.0 <sup>s</sup> <sub>9</sub>	厚さ 1.3 <sup>s</sup> <sub>9</sub>	重さ (3.2) <sup>g</sup> <sub>9</sub>	古寛永.③「寛永通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> <sub>9</sub> .	1636~59年.
1347	SK285 覆土	銅銭 寛永通寶	径 24.5 <sup>s</sup> <sub>9</sub>	厚さ 1.2 <sup>s</sup> <sub>9</sub>	重さ 2.8 <sup>g</sup> <sub>9</sub>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> <sub>9</sub> .	1668~1862年.
[219] 1348	SK286 覆土	炆器 播鉢:口~底	8.6	35.4▼	16.0▼	①暗赤化粧土.②長石細粒.黒粒.④縁帯に凹線2.口唇丸い.縁帯上下に重焼痕.内口縁に隆帯.内底縁から8歯摺目.内底摺目は直弧.貼付高台.外底精ナデ.⑤内胴下半磨減.	備前. 17c末~18c.
[220] 1349	SK287 覆土	白磁 小坏:口~底	3.0	5.6	2.1	①畳付釉剥.③見込に緑釉吹墨.墨弾きで桜花.④端反口.	20c前.
1350	SK287 覆土	統制陶器 碗:口~底	5.0	9.3	3.1	①畳付釉剥.③外胴に楓樹.濃淡2種.外底に「岐406」銘.	岐. 1940~45年.

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[220] 1351	SK287 覆土	統制陶器 輪花鉢:口~底	5.9	19.1	9.0	①畳付釉剥.③内は陽刻捺割に色絵の薔薇.外底に「岐1038」銘.④輪花縁.⑤外胴に焼継痕カ.	岐. 1940~45年.
1352	SK287 覆土	統制陶器 猪口	3.6	4.0	3.4	①外無釉.③外底に「岐682」.④型轆轤.	岐. 1940~45年.
1353	SK287 覆土	陶器 猪口:略完形	3.7	6.3	4.1	①暗褐釉にオリープ灰釉掛流し.底周り無釉.④回転糸切.	20c前.
1354	SK287 覆土	陶器 煙管	長さ (12.4)	幅 1.7	厚さ 1.0	①黒褐釉.羅宇無釉.②灰白土.③羅宇右面は縮緬地に炎.「火の用心/岐252カ」銘.左面は縮緬地に桜花弁.「一億一心」銘.④合せ型.	20c前.
1355	SK287 覆土	土器 練炭オコシ	4.3	12.0	11.5	①橙.②角岩,雲母,長石粒痕.③外底に「八チ」.④上部で他部品と連結.側面に煙突状.⑤被熱.口唇と外口縁に目土カ.	20c前.
1356	SK287 覆土	土製品 土錘	長さ 5.8	幅 1.3	重さ 7.0g <sup>7)</sup>	①淡橙.②微砂粒痕.④細い紡錘形.	
1357	SK287 覆土	瓦 軒平瓦	長さ (11.8)	幅 (11.4)	厚さ 1.8	①黒.②長石,微砂粒.③中心に三つ巴.脇に唐草.「久栄」銘.	在地. 19c.
1358	SK287 覆土	ガラス製品 瓶	(14.5)	7.6	—	①透明.④丸底.	20c前.
[221] 1359	SK288 覆土	染付 皿:口~底	2.2	12.6 <sup>▼</sup>	7.2	①畳付釉剥.③外胴は下界線に文様.高台際に一圏線.高台内に一圏線.内胴は上下界線に墨弾で振花文.見込は一圏線にこんやく印判で五弁花.	肥前波佐見. 18c.
1360	SK288 覆土	染付 稜花鉢:略完形	7.2	15.2	6.6	①畳付釉剥.③外胴は略化した水辺.草.内面は竹林に虎.④稜花縁.外反.幅広高台.	肥前. 19c.
1361	SK288 覆土	染付 八角鉢:略完形	8.1	16.0	8.3	①畳付釉剥.③外胴は上下雲気間に樹葉.草原に鷲.内口縁は雲気.樹葉に飛翔する鷲文.見込は波濤文.④口縁外反.高台尖る.	肥前. 19c.
1362	SK288 覆土	染付 八角鉢:略完形	8.4	15.4	8.5	①畳付釉剥.③外胴は山水楼閣と曆手文で左右を縁取った紗綾形文を交互.内口縁は上界線に菊花連弁.唐草廻る.見込は壺に菊.高台内に文字意匠.	肥前. 19c.
1363	SK288 覆土	染付 瓶:口~胴	(25.2)	16.6	—	①内胴無釉.③頸根は上二界線.下界線の間に山文.外胴に竹文.⑤破面に漆接ぎ痕.	肥前. 近世.
1364	SK288 覆土	陶器 丸碗:略完形	8.6	11.8	4.9	①淡黄釉.高台周り無釉.③外口縁に黒で注連縄文.④やや下膨れ.内底に三足ハマ痕.削出高台.⑤高台に煤付着.	肥前. 近世.
1365	SK288 覆土	陶器 丸碗:口~底	9.0	11.3	5.0	①淡黄釉.高台周り無釉.③外口縁に褐釉で注連縄文.④やや下膨れ.内底に三足ハマ痕.削出高台.	肥前. 近世.
1366	SK288 覆土	陶器 碗:口~底	7.5	10.5 <sup>▼</sup>	4.7	①灰釉.高台周り露胎.④御室碗様.口縁微肥厚.内底に三足ハマ痕.削出高台.中央を丸く抉る.	尾戸窯. 近世.
1367	SK288 覆土	陶器 浅碗:口~底	4.4	12.2	4.8	①鈍黄褐釉.輪禿.高台周り無釉.②長石微粒.④見込輪禿後に白化粧土塗布.外胴に沈線1条.削出高台.畳付に重焼痕.	肥前カ. 近世.
1368	SK288 覆土	陶器 急須:口~胴	(7.2)	11.4	—	①オリープ黄釉.内底褐釉.内胴上半無釉.③外胴に白泥で珠文.蔓文.④頸筒状に長い.注口.把手は直角位置.	肥前カ. 近世.
1369	SK288 覆土	陶器 徳利:胴~底	(11.4)	—	7.5	①灰釉.内面.底周り無釉.②ざっくり感.④外胴.外底回転ケズリ.ケズリによる弱腰輪高台.	瀬戸. 近世.
1370	SK288 覆土	炆器 鉢:口~胴	(12.5)	—	—	①暗赤褐化粧土.②角岩,長石細粒.鈍黄橙土粒.④口唇ナデ面取で内外に拡張.内外胴回転ナデ.	備前. 近世.
1371	SK288 覆土	瓦器 火鉢:口~胴	(10.9)	27.0 <sup>▼</sup>	—	①黒.②角岩,長石微粒.③外胴は隆線間に型押文様.上段は松葉意匠散し.下段は珠文地に松文.④弱い鑄縁.口縁上~外胴ミガキ.内面回転ナデ.⑤内胴下半に縦擦痕.	近世.
1372	SK288 覆土	白色土器 皿:口~底	1.8	11.3	8.3	①白.②微砂粒.③内底に型押「壽」字.④厚手.内面回転精ナデ.外胴回転精ナデ.外底回転ケズリ後に精ナデ.	尾戸窯. 近世.
1373	SK288 覆土	土器 小皿:略完形	1.1	6.1	4.4	①橙.②微砂粒.④内外回転ナデ.回転糸切.⑤口唇に煤・タール付着.	在地. 近世.
1374	SK288 覆土	銅銭 寛永通寶	径 24.0 <sup>3)</sup>	厚さ 1.1 <sup>5)</sup>	重さ 2.5 <sup>7)</sup>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔6.0 <sup>3)</sup> .	1668~1862年.
[222] 1375	SK289 覆土	白磁 小坏:口~底	4.5	6.4	2.9	①畳付釉剥.④端反口.外口縁微隆起線2.高台際弱ケズリ.削出高台.縮緬.	肥前. 近世.
1376	SK289 覆土	染付 碗:略完形	5.9	12.0	4.8	①畳付釉剥.③外胴に団扇散し.高台内に「宣明年製」銘.④やや歪む.	肥前. 近世.
1377	SK289 覆土	染付 碗:口~底	7.2	13.2 <sup>▼</sup>	5.4	①畳付釉剥.③外胴は上子持界線に荒磯文.外高台に子持圏線.内口縁に帯線.見込は二圏線に荒磯文.	肥前. 17c中.
1378	SK289 覆土	陶器 碗:口~胴	(7.5)	11.8 <sup>▼</sup>	—	①淡黄釉.高台周り露胎.③外胴は上下界線に二重丸文.④高台周り回転ケズリ.	肥前. 近世.
1379	SK289 覆土	陶器 皿:底	(2.1)	—	3.8	①見込輪禿.高台周り無釉.④見込に重焼痕.削出高台.兜巾状.	肥前. 17c後~18c.
1380	SK289 覆土	土器 坏皿:口~底	2.5	10.6 <sup>▼</sup>	5.3	①浅黄橙.②角岩微粒.④口唇丸.内外胴は回転ナデ.内底は轆轤目ナデ.回転糸切.⑤口唇全周に煤・タール付着.	在地. 近世.

遺物観察表

No.	出土位置	素材区分 器種・部位等	器高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	①色調・釉薬 ②素材 ③装飾 ④造形 ⑤使用痕 ⑥その他	産地 時期
[222] 1381	SK289 覆土	銅銭 永楽通寶	径 24.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.3 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 3.5 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	③「永楽通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	明. 1408年~.
[229] 1382	D10-P1 覆土	銅銭 寛永通寶	径 24.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 3.4 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔4.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~1862年.
1383	D10-P26 容器底	銅銭 開元通寶	径 24.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.2 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 2.6 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	③「開元通寶」.④孔6.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	南唐. 960年~.
1384	D10-P26 容器底	銅銭 祥符元寶	径 22.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.3 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 1.9 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	③「祥符元寶」.④孔6.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	北宋. 1009年~.
1385	D10-P26 容器底	銅銭 方孔円銭	径 24.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.1 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 2.4 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	④腐食で不鮮明.孔6.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	
1386	F3-P1 覆土	土器 小皿:口~底	1.6	8.3	4.0	①橙.②微砂粒.④内外精ナデ.平高台.回転糸切後にナデ.口唇に煤.	在地. 近世.
1387	F3-P3 覆土	土製品 土錘	長さ 5.8	幅 3.0	重さ 43.0 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	①淡黄.②角岩微粒.④端部面取.外面ナデ.	
1388	F3-P3 覆土	土製品 土錘	長さ 5.3	幅 3.0	重さ 38.1 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	①浅黄橙.②角岩微砂粒.④端部面取.外面ナデ.	
1389	F4-P14 覆土	瓦器 塀:口~底	4.0	15.4	6.0	①灰.②微砂粒.④口唇丸い.外口縁やや下隆起帯.外胴上ナデ.下ナデオサエ.退化した輪高台.	和泉型. 13c.
1390	F4-P14 覆土	土器 坏:口~底	4.4	13.5	6.6	①鈍黄橙.②微砂粒.④口唇丸い.口縁外反.外胴轆轤目ナデ消し.内面精ナデ.回転糸切.	在地. 13c.
1391	F4-P14 最下層	土器 坏:口~底	3.9	15.4	8.6	①鈍黄橙.②角岩細粒.④口唇丸い.口縁外反.外胴上にナデ凹帯.内外精ナデ.回転糸切後にナデ消し.	在地. 13c.
1392	F4-P14 覆土	土器 坏:胴~底	(2.5)	—	6.6	①鈍橙.②微砂粒.④外胴ナデ.内面精ナデ.内底部分カキ目.回転糸切後にナデ消し.	在地. 13c.
1393	F4-P17 覆土	瓦 棧瓦	長さ (7.3)	幅 (10.4)	厚さ 1.6	①黒.キラ粉.②細砂粒.③側面に「片勇」刻印.半分消える.	在地. 19c.
1394	F5-P23 覆土	瓦 鬼瓦	(12.9)	幅 (13.8)	厚さ 7.6	①灰.②角岩細粒.④正面.上面.側面精ナデ.背面粗ナデ.背面縁は斜面取り.	在地. 近世.
1395	G5-P1 最下層	銅銭 洪武通寶	径 22.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 2.5 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	③「洪武通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	明. 1368年~.
1396	G6-P3 覆土	土器 小皿:口~底	2.3	9.0	5.4	①鈍橙.②水籤土.④内外精ナデ.回転糸切後に板目.⑤内外にひろく煤・タール.	在地. 近世.
1397	G10-P1 覆土	染付 八角鉢:胴~底	(4.0)	—	4.6▼	①豊付釉剥.③外胴に縦線.内胴は八分割に芭蕉.斜格子.四方襷.見込に隠れ蓑.高台内に「茶山」銘.	能茶山. 19c.
1398	H8-P10 覆土	炆器 水指:口~胴	(5.0)	—	—	①暗赤褐化粧土.②鈍黄橙土粒.微砂粒.④折縁.内屈折部粗い.口唇は上に小拡張.内外ナデ.	備前. 近世.
1399	H8-P16 覆土	土製品 土錘	長さ 4.4	幅 1.6	重さ 10.5 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	①鈍黄橙.②微砂粒.④外面ナデ.	
1400	I6-P9 覆土	土器 塀:口~底	4.9	13.2▼	6.8▼	①橙.②微砂粒.④口唇尖る.外胴上下にナデ凹帯.内面精ナデ.回転糸切後に深い板目.	在地. 近世カ.
1401	I9-P4 覆土	銅銭 洪武通寶	径 23.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.2 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 3.2 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	③「洪武通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	明. 1368年~.
1402	I9-P4 覆土	銅銭 永楽通寶	径 25.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 4.1 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	③「永楽通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	明. 1408年~.
1403	I9-P4 覆土	銅銭 寛永通寶	径 24.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.2 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 2.9 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔6.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~1862年.
1404	I10-P7 最下層	銅銭 寛永通寶	径 24.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.4 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 3.1 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	古寛永.③「寛永通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1636~59年.
1405	I10-P7 上面	銅銭 寛永通寶	径 24.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.3 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 3.4 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	古寛永.③「寛永通寶」.④孔5.5 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1636~59年.
1406	I10-P7 上面	銅銭 寛永通寶	径 24.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	厚さ 1.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub>	重さ 2.2 <sup>g</sup> <sub>g</sub>	新寛永.③「寛永通寶」.④孔6.0 <sup>s</sup> <sub>y</sub> .	1668~1862年.
1407	K9-P1 覆土	青磁 皿:胴	(1.5)	—	—	①オリーブ黄釉.③内面に櫛描文.	同安窯. 11c.
1408	K9-P1 覆土	土器 坏:底	(1.3)	—	6.0▼	①内面黒色.外灰還元調.②微砂粒.④内底にカキ目.外底は回転糸切後にナデカ.	在地. 11c.
1409	K9-P1 覆土	土器 羽釜:口縁	(4.9)	21.6▼	—	①鈍橙.②角岩粗粒.④口唇弱面取.鋸端丸く処理.外胴ハケ.内胴ナデ.	摂津. 11c.
1410	L10-P1 1層	土器 坏皿:口~底	2.3	9.4▼	5.4▼	①橙.②微砂粒.④外胴は緩く外折.ナデ.内胴ナデ.内底強い轆轤目ナデ.	在地. 中世.

# 写真図版





① 高知城天守閣から弘人屋敷跡を望む



② 弘人屋敷跡から高知城追手門・天守閣を望む



① 遺構検出作業



② 調査区壁面清掃



③ 遺構の調査(SX1)



④ 遺構の調査(SK153)



⑤ 写真清掃



⑥ 出土状況の記録(SK155)



⑦ 記者発表



⑧ 現地説明会



① A区全景(西から)



② B区東側全景(北から)



③ B区西側全景(北から)



④ C区西側基礎北全景(南から)



⑤ C区西側基礎南全景(南から)



⑥ C区全景(南から)



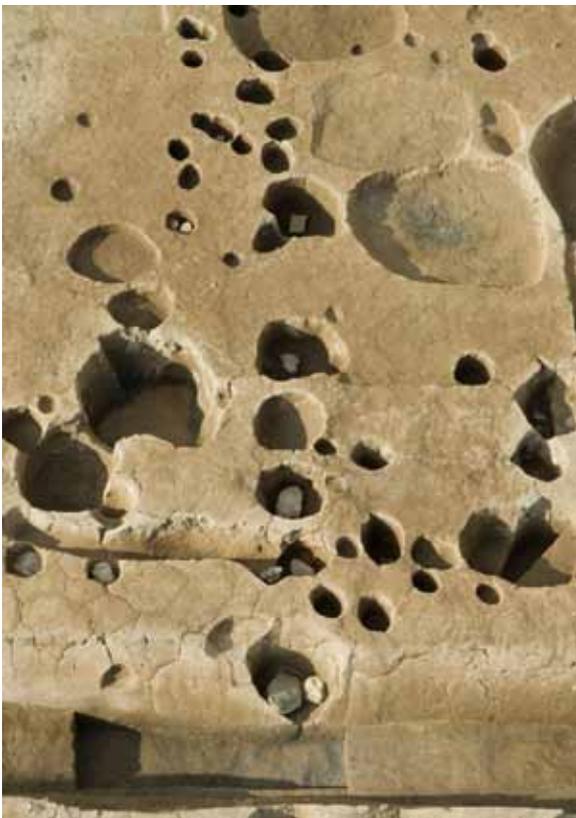
① C区全景(東から)



② D区全景(南から)



① E区全景(南から)



② E区中央付近(南から)



③ E区東側(南から)



① F区上層全景(南から)



② F区下層全景(南から)



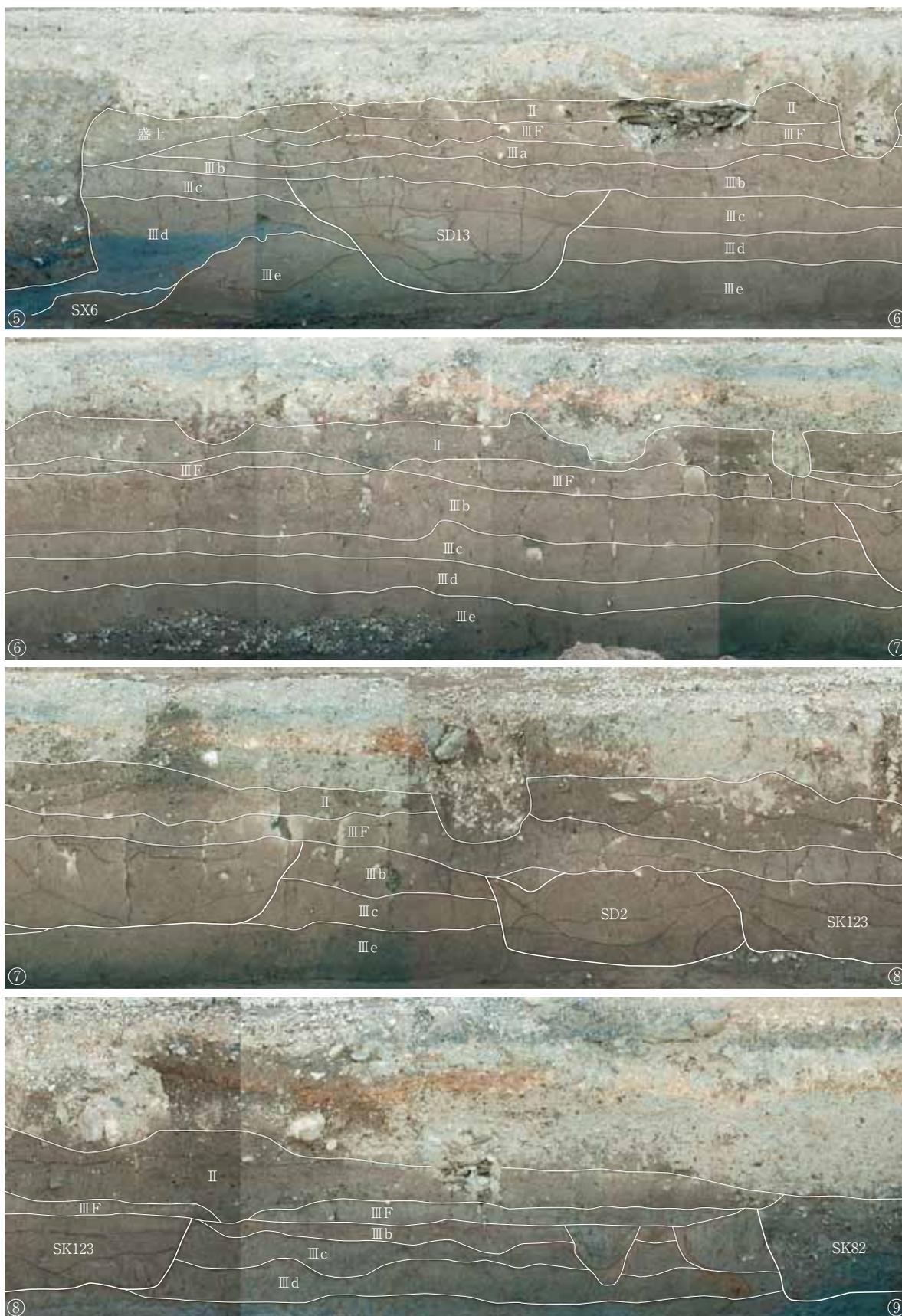
① F区北東部上層の遺構(南から)



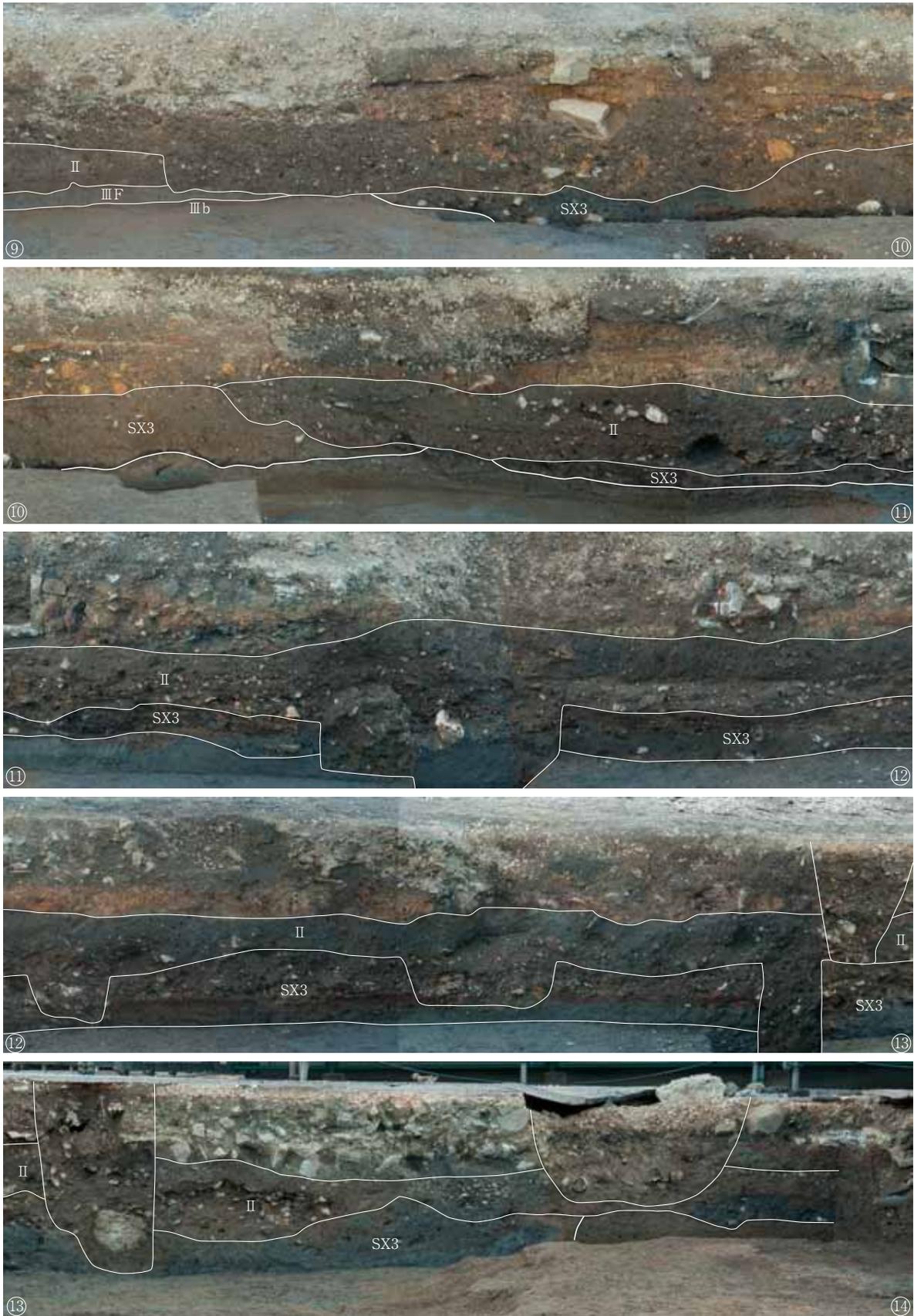
② F区北東部下層の遺構(南から)



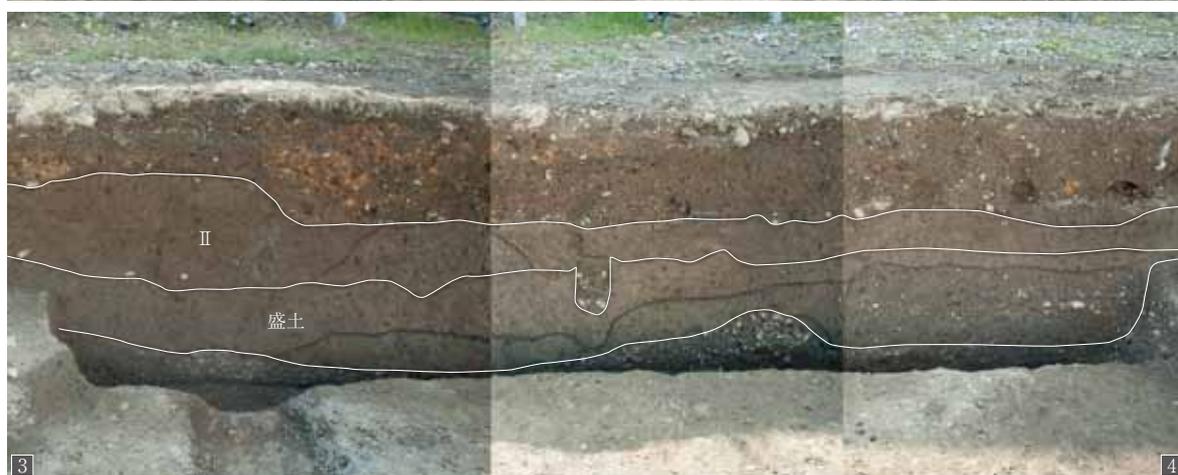
① 基本層序 調査区東壁1(上が調査区北端,順に南へ)



① 基本層序 調査区東壁2 (上が調査区北側, 順に南へ)



① 基本層序 調査区東壁3(上が調査区北側,下が南端)



① 基本層序 調査区西壁(上が調査区南側,下が北側)



② 基本層序 NO・3グリッド(東から)



① SR1・2全景(東から)



② SR1・2全景(西から)



① SR3全景(東から)



② SR1全景(南から)



① SR1 覆土断面 (F-F', 南から)



② SR1 覆土断面 (E-E', 西から)



③ SR2 覆土断面 (B-B', 東から)



④ SR3 覆土断面 (A-A', 東から)



① SR1 (北西から)



② SR2 (東から)



③ SR2 (南から)



④ SR3 覆土断面(西から)



⑤ SR1 土手断面(南から)



⑥ SR1 土手構造(東から)



⑦ SR2 上面遺物出土状況(東から)



⑧ SR2 ハマグリ出土状況(東から)



① SR4 全景(西から)



② SR4 覆土断面(SD25北壁,南から)



③ SR4 覆土断面(R4a-R4a',東から)



④ SD1 全景(南から)



⑤ SD1 覆土断面(Jグリッド,南から)



⑥ SD1 覆土断面(Kライン,南から)



⑦ SD1 覆土断面(Lライン,南から)



⑧ SD1 覆土断面(1-1',南から)



① SD2 全景(南から)



② SD2 全景(東から)



③ SD2 覆土断面(2a-2a', 西から)



④ SD2 覆土断面(2c-2c', 西から)



⑤ SD2 覆土断面(2d-2d', 西から)



⑥ SD2 覆土断面(2e-2e', 西から)



① SD3 全景(東から)



② SD3 覆土断面(3-3',左が上部・右が下部,東から)



③ SD5 全景(東から)



④ SD5 覆土断面(南から)



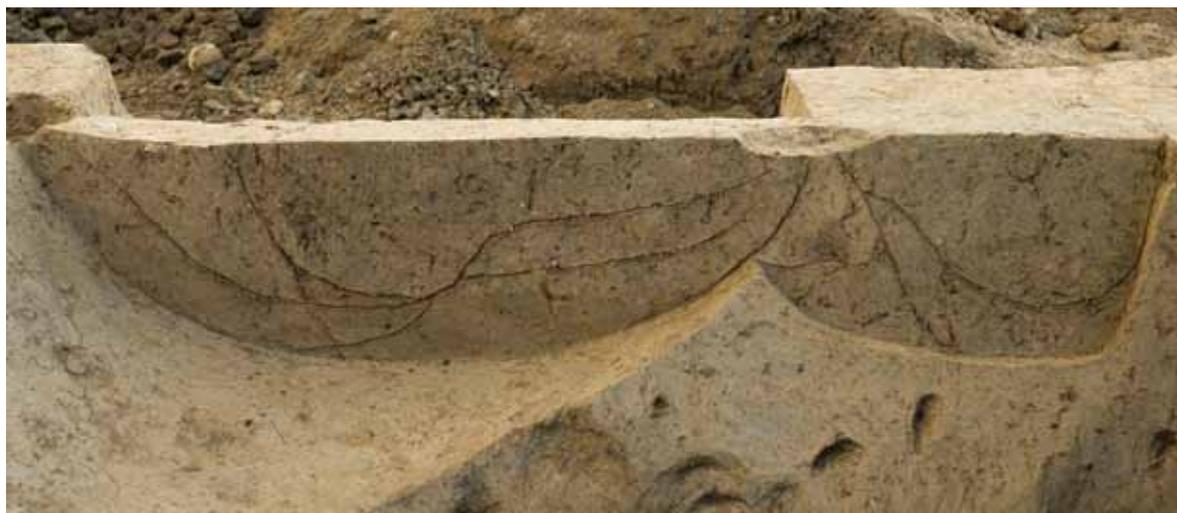
⑤ SD6・7 全景(J・Kグリッド,南から)



⑥ SD6 全景(Gグリッド,北から)



⑦ SD7 全景(Gグリッド,南から)



① SD6 (右)・7 (左) 覆土断面(6a-6a',北から)



② SD6 覆土断面(左は6b-6b'・南から,右は北から)

③ SD7 覆土断面(左は6b-6b'・南から,右は北から)



④ SD6・7・8・9 全景(南から)



① SD8・9 全景 (H~Kグリッド, 南から)



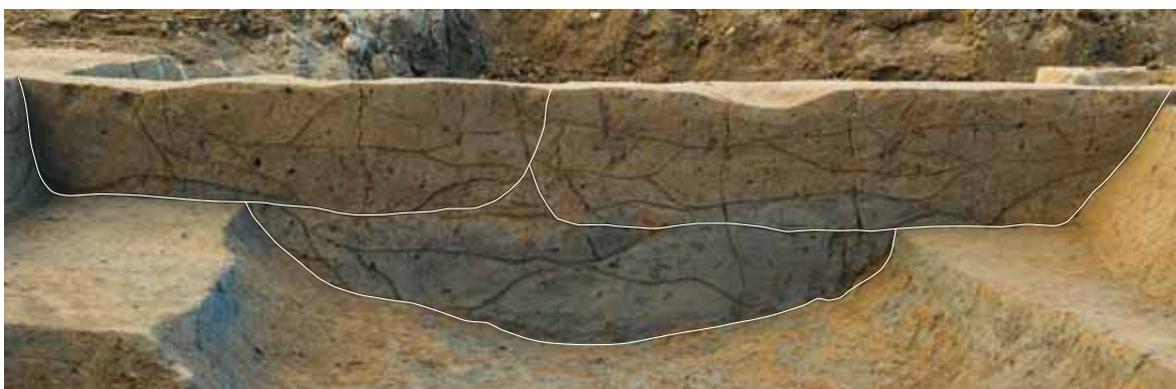
② SD8 全景 (C~Gグリッド, 南から)



③ SD9 (Gグリッド, 南から)



④ SD9 (Gグリッド, 北から)



⑤ SD8 (上右)・9 (上左)・23 (下) 覆土断面 (8b-8b', 北から)



⑥ SD8 (左)・9 (右) 覆土断面 (8c-8c', 南から)



① SD8 覆土断面(23a-23a',南から)



② SD8 覆土断面(8a-8a',北から)



③ SD8 覆土断面(8d-8d',南から)



④ SD9 覆土断面(9a-9a',南から)



⑤ SD9 覆土断面(9b-9b',北から)



⑥ SD9 覆土断面(Kグリッド,西から)



⑦ SD8 遺物出土状況(Hグリッド,南から)



⑧ SD9 遺物出土状況(Hグリッド,南から)



① SD10 全景(南から)



② SD10,SK83 覆土断面(南から)



③ SD10 上面遺物出土状況(南から)



④ SD11 全景(西から)



⑤ SD11 覆土断面(南から)



⑥ SD12 北東側全景(南西から)



⑦ SD12 南西側全景(北東から)



① SD12 覆土断面 (12a-12a'グリッド, 南西から)



② SD12 覆土断面 (12b-12b', 北東から)



③ SD12 遺物出土状況 (J6グリッド, 北東から)



⑤ SD13 南西部分 (J8グリッド, 南西から)



④ SD13 北東部分 (I10グリッド, 北東から)



⑥ SD13 遺物出土状況 (J8グリッド, 南西から)



① SD13 覆土断面 (13c-13c', 西から)



② SD13 覆土断面・遺物出土状況 (13a-13a', 南西から)



③ SD13 覆土断面 (B-B', 上は南から, 下は北から)



④ SD14 全景 (東から)



⑤ SD14 覆土断面 (4グリッド, 東から)



⑥ SD14 覆土断面 (5グリッド, 東から)



⑦ SD14 覆土断面 (14-14', 東から)



① SD15 全景(東から)



② SD15 覆土断面(西から)



③ SD16 全景(西から)



④ SD16 覆土断面(西から)



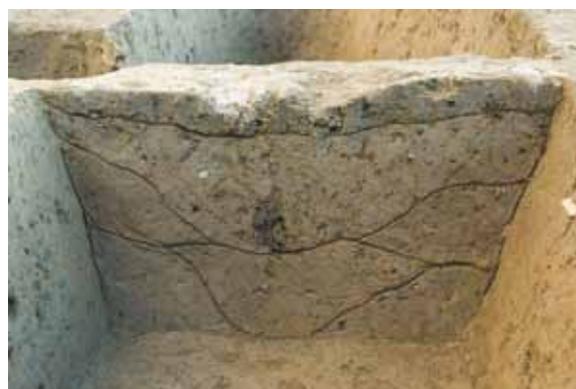
⑤ SD14(奥)・16(中央から北東)・17(中央)・18(中央)遠景(南から)



① SD17 全景(北から)



② SD17 覆土断面(17a-17a',北から)



③ SD17 覆土断面(17c-17c',北から)



④ SD17 遺物出土状況(Dグリッド,北から)



⑤ SD17 遺物出土状況(Eグリッド,南から)



① SD18 全景(南西から)



② SD18とSE3の連結部分(東から)



③ SD18 覆土断面(7グリッド, 西から)



④ SD18 覆土断面(18-18', 東から)



⑤ SD19 全景・覆土断面(西から)



⑥ SD22 貝類集中部断片



⑦ SD22 全景(西から)



⑧ SD22 覆土断面(22a-22a', 東から)



① SD23 全景(南西から)



② SD23 全景(北から)



③ SD23 覆土断面(23b-23b', 南から)



④ SD23 覆土断面(Eグリッド, 北から)



① SD8(上)・SD23(左下)・SX8(右下) 覆土断面(23a-23a',南から)



② SD23 南端立ち上がり(Hグリッド,東から)



③ SD23 遺物出土状況(Cグリッド,南東から)



④ SD24 全景(南から)



⑤ SD24 覆土断面(北から)



⑥ SD25 全景(西から)



⑦ SD25 覆土断面(西から)



① SK153 全景(西から)



② SK153 全景(西から)



① SK153 確認状況



② SK153 遺物出土状況(西南から)



③ SK153 遺物出土状況(西南から)



④ SK153 遺物出土状況(南から)



⑤ SK153 覆土断面(A-A', 東南から)



⑥ SK153 覆土断面(B-B', 西から)



⑦ SK153 甕内覆土断面(B-B', 西南から)



⑧ SK153 人骨確認状況(東から)



① SK153 人骨検出状況(西から)



② SK153 人骨検出状況(西南から)



③ SK153 人骨検出状況(南から)



④ SK153 人骨検出状況(西から)



⑤ SK153 人骨検出状況(西から)



① SK153 大甕内面(西から)



② SK153 大甕内面の補修痕(北西から)



③ SK153 大甕傍らの小孔(西から)



④ SK153 大甕傍らの小孔(西から)



⑤ SK153 大甕埋置痕(西から)



⑥ SK153 大甕埋置痕(西から)



⑦ SK153 大甕埋置底(西から)



⑧ SK153 掘方(西から)



① SK155 人骨検出状況(北から)



② SK155 覆土断面(北から)



③ SK155 人骨検出状況(北から)



④ SK155 人骨検出状況(東から)



⑤ SK155 底板検出状況(北から)



① SK155 断面(北から)



② SK155 副葬品検出状況(北から)



③ SK155 副葬品検出状況(北から)



④ SK155 掘方(北から)



⑤ SK155 掘方断面(北から)



① SK183 人骨検出状況(東から)



② SK183 側板確認状況(北から)



③ SK183 底板検出状況(東から)



④ SK183 裏込土断面(南から)



⑤ SK183 掘方(東から)



① SK234 人骨検出状況(西から)



② SK234 覆土断面(西から)



③ SK234 人骨検出状況(西から)



④ SK234 副葬品出土状況(北西から)



⑤ SK234 掘方(西から)



① SK237 人骨・副葬品検出状況(東から)



② SK237 覆土断面(西から)



③ SK237 円形木棺墓床検出状況(東から)



④ SK237 棺外副葬品検出状況(東から)



⑤ SK237 底板と掘方(東から)



① SK282 人骨検出状況(東から)



② SK282 覆土上層断面(B-B',南から)



③ SK282 側板確認状況(北から)



④ SK282 底板と銭貨(東から)



⑤ SK282 裏込土断面(北から)



① SK282 副葬品検出状況(北西から)



② SK282 棺外覆土断面(C-C', 西から)



③ SK282 掘方と副葬品(西から)



④ SK282 副葬木板(北から)



⑤ SK282 副葬土器(北から)



① SE1 全景(北から)



② SE1 覆土断面(北から)



③ SE1 井側確認状況(北から)



④ SE1 井側検出状況(北から)



⑤ SE2 全景(西から)



⑥ SE2 覆土断面(南西から)



⑦ SE3 裏込土断面(南西から)



⑧ SE3 覆土断面(南西から)



① SE4 (手前)・SE10 (壁際)・SE15 (奥)・SX9 (右手前) 全景 (南西から)



② SE4 全景 (北から)



③ SE4 覆土断面 (南から)



④ SE4 井筒覆土断面 (北から)



⑤ SE4 井筒内状況 (北から)



① SE5・6 全景(西から)



② SE5 覆土断面(西から)



③ SE7 全景(東から)



④ SE7・8 全景(南から)



⑤ SE7 確認状況(東から)



⑥ SE7 上部覆土断面(東から)



⑦ SE7 井筒覆土断面(西から)



⑧ SE8 覆土断面(南東から)



① SE10 覆土断面(西から)



② SE10 裏込土断面(西から)



③ SE10 井側確認状況(北から)



④ SE10 木製品(椀)出土状況(西から)



⑤ SE10 木製品(下駄)出土状況(北西から)



① SE12 全景(北から)



② SE12 覆土断面(西から)



③ SE13 全景(北から)



④ SE13 覆土断面(西から)



⑤ SE14 全景(南から)



⑥ SE15 全景(南から)



⑦ SE16 底部状況(東から)



⑧ SE16 全景(東から)



① SX1・2 粗朶検出状況(東から)



② SX1 粗朶検出状況(南から)



③ SX1・2 粗朶検出状況(東から)



④ SX2 粗朶検出状況(南から)



⑤ SX2 粗朶検出状況(西から)



① SX1・2 覆土断面(D-D',北から)



② SX1 覆土断面(D-D',北から)



③ SX2 覆土断面(E-E',東から)



④ SX1 覆土断面(東から)



⑤ SX2 覆土断面(北から)



⑥ SX1 木製品(柄杓)出土状況(北から)



⑦ SX2 漆器(椀)・木製品(下駄)出土状況(北から)



① SX3 全景(東南から)



② SX3 土手・木質・杭列(北西から)



③ SX3 C区木層状態(西から)



④ SX3 覆土断面(A-A',南から)



① SX4(左)・SX5(右) 全景(南から)



② SX4 覆土断面(B-B', 東から)



③ SX4 覆土断面(A-A', 南から)



④ SX5 覆土断面(C-C', 東から)



① SX4 遺物出土状況(北東から)



② SX5 遺物出土状況(西から)



③ SX6 全景(西から)



④ SX6 覆土断面(西から)



⑤ SX8 全景(南から)



⑥ SX8 覆土断面(B-B',西から)



⑦ SX9 全景(北から)



⑧ SX9 覆土断面(北から)



① SX10 全景(北東から)



② SX10 覆土断面(C-C',北から)



③ SX10 覆土断面(B-B',西から)



④ SX11 南側覆土断面(東から)



⑤ SX11 北側覆土断面(東から)



⑥ SX12 全景(北から)



⑦ SX12 覆土断面(北から)



① SK1 全景(南東から)



② SK1 覆土断面(東南から)



③ SK4(左)・5(中)・6(右) 全景(南から)



④ SK4(左)・5(中)・6(右) 覆土断面(南から)



⑤ SK7 全景(南東から)



⑥ SK7 覆土断面(南東から)



⑦ SK11 全景(南から)



⑧ SK11 覆土断面(南から)



① SK11 遺物出土状況(南から)



② SK11 遺物出土状況(東南から)



③ SK21 全景(北から)



④ SK21 覆土断面(上は上層,下は下層,南から)



⑤ SK23 全景(北から)



⑥ SK23 覆土断面(北から)



⑦ SK25 覆土断面(南から)



⑧ SK25 全景, SK27 覆土断面(西から)



① SK28 全景及び遺物出土状況(西から)



② SK28 遺物出土状況(東側,南から)



③ SK28 西側覆土断面(南から)



④ SK28 東側覆土断面(南から)



⑤ SK30 全景(南から)



⑥ SK30 覆土断面(上は南から,下は東から)



⑦ SK31 全景(東から)



⑧ SK31 覆土断面(東南から)



① SK32 全景(南西から)



② SK32 覆土断面(南西から)



③ SK34 全景(東から)



④ SK34 覆土断面(東から)



⑤ SK37 全景(北西から)



⑥ SK37 覆土断面(南東から)



⑦ SK39 全景(西から)



⑧ SK39 覆土断面(南から)



① SK44 全景(東から)



② SK44 覆土断面(南西から)



③ SK45 全景および遺物出土状況(南から)



④ SK45 覆土断面(南西から)



⑤ SK48 全景(東から)



⑥ SK48 覆土断面(東から)



⑦ SK49 全景(南東から)



⑧ SK49 覆土断面(西から)



① SK50 全景(北から)



② SK50 覆土断面(西から)



③ SK51 全景(南から)



④ SK51 覆土断面(南から)



⑤ SK54 全景(南西から)



⑥ SK54 覆土断面(上は南東から, 下は南西から)



⑦ SK55 全景(南東から)



⑧ SK55 覆土断面(上は東から, 下は南から)



① SK56 全景 (西から)



② SK56 覆土断面 (東から)



③ SK58 全景 (北から)



④ SK58 遺物出土状況 (北西から)



⑤ SK58 覆土断面 (西から)



⑥ SK59 全景 (西から)



⑦ SK59 覆土断面 (西から)



① SK63 全景(東から)



② SK63 覆土断面(B-B', 東から)



③ SK63 覆土断面(C-C', 南から)



④ SK64 全景(南東から)



⑤ SK64 覆土断面(南東から)



⑥ SK65 全景(南西から)



⑦ SK65 覆土断面(南西から)



① SK66 覆土断面(東から)



② SK66 全景(東から)



③ SK69 全景(東から)



④ SK69 覆土断面(南から)



⑤ SK70 全景(南から)



⑥ SK70 (東から)



① SK75 全景(南西から)



② SK75 覆土断面(北西から)



③ SK78 全景(東から)



④ SK78 覆土断面(西から)



⑤ SK79 全景(南から)



⑥ SK79 覆土断面(南から)



⑦ SK80 全景(東から)



⑧ SK80 (東から)



① SK81 全景(北から)



② SK81 覆土断面(南から)



③ SK82 全景(南から)



④ SK82 覆土断面(西から)



⑤ SK88 全景(南から)



⑥ SK88 覆土断面(西から)



⑦ SK94 全景(南東から)



⑧ SK94 覆土断面(上は東から,下は西から)



① SK95 全景 (東から)



② SK95 覆土断面 (北から)



③ SK96 全景 (南から)



④ SK96 覆土断面 (南から)



⑤ SK98 全景 (西から)



⑥ SK98 覆土断面 (東から)



⑦ SK100 全景 (東から)



⑧ SK100 覆土断面 (北から)



① SK101 全景(南西から)



② SK101 覆土断面(南西から)



③ SK102 全景(南から)



④ SK102 覆土断面(南から)



⑤ SK105 全景(南から)



⑥ SK105 覆土断面(南から)



⑦ SK106 全景(北から)



⑧ SK106 覆土断面(西から)



① SK108 全景(北西から)



② SK108 覆土断面(A-A',南東から)



③ SK108 覆土断面(B-B',北東から)



④ SK114 全景(東から)



⑤ SK114 覆土断面(上は北半,下は南半,西から)



① SK116 全景(Gグリッド,北から)



② SK116 全景(Hグリッド,北から)



③ SK116 覆土断面(北から)



④ SK120 全景(南東から)



⑤ SK120 覆土断面(南から)



⑥ SK127 全景(北東から)



⑦ SK128 全景(南から)



① SK129 全景(東から)



② SK129 遺物出土状況(北東から)



③ SK131 全景(南から)



④ SK131 覆土断面(南から)



⑤ SK133 全景(北から)



⑥ SK133 覆土断面(北から)



① SK135 全景(西から)



② SK135 覆土断面(西から)



③ SK136 全景(南から)



④ SK136 覆土断面(南から)



⑤ SK137 全景(南から)



⑥ SK137 覆土断面(西から)



⑦ SK138 全景(北から)



⑧ SK138 覆土断面(北から)



① SK139 全景(西から)



② SK139 覆土断面(北から)



③ SK140 全景(北から)



④ SK140 覆土断面(南から)



⑤ SK141 全景(東から)



⑥ SK141 覆土断面(東から)



⑦ SK142 全景(北から)



⑧ SK142 覆土断面(西から)



① SK143 全景(東から)



② SK143 覆土断面(西から)



③ SK148 全景(南から)



④ SK148 覆土断面(西から)



⑤ SK149・SK160 全景(奥がSK149,南から)



⑥ SK149・SK160 覆土断面(右側がSK149,東から)



⑦ SK150 全景(東から)



⑧ SK150 覆土断面・遺物出土状況(東から)



① SK151 全景(北西から)



② SK151 覆土断面(東から)



③ SK154 全景(北から)



④ SK154 覆土断面(上は北半を東から,下は北から)



⑤ SK157 全景(西から)



⑥ SK157 覆土断面(西から)



⑦ SK158 全景(北西から)



⑧ SK158 覆土断面(北西から)



① SK159 全景(北西から)



② SK159 覆土断面(西から)



③ SK161 全景(南から)



④ SK161 覆土断面(北から)



⑤ SK162 全景(南から)



⑥ SK162 覆土断面(上が北東から,下が南東から)



⑦ SK165 全景(南から)



⑧ SK165 覆土断面(西から)



① SK166 全景(北から)



② SK166 掘方(北から)



③ SK166 覆土断面(東から)



④ SK167 全景(東から)



⑤ SK167 覆土断面(西から)



① SK168 全景(北西から)



② SK168 覆土断面(右下は北端,北から)



③ SK169 全景(南から)



④ SK169 覆土断面(南から)



⑤ SK171 覆土断面(西から)



⑥ SK172 覆土断面(東から)



⑦ SK173 全景(東南から)



⑧ SK173 覆土断面(南西から)



① SK175 遺物出土状況(北から)



② SK175 掘方(北西から)



③ SK175 覆土断面(上が西から,下が南から)



④ SK178 全景(西から)



⑤ SK178 覆土断面(北から)



① SK182 全景(南から)



② SK182 覆土断面(南から)



③ SK184 全景(北から)



④ SK184 覆土断面(西から)



⑤ SK185 全景(東から)



⑥ SK185 覆土断面(北から)



⑦ SK187 全景(西から)



⑧ SK187 覆土断面(西から)



① SK188 全景(北から)



② SK188 覆土断面(南から)



③ SK191 全景(西から)



④ SK191 覆土断面(西から)



⑤ SK192 全景(北から)



⑥ SK192 覆土断面(東から)



⑦ SK192 覆土断面(南から)



⑧ SK202 覆土断面(南西から)



① SK206 全景(南から)



② SK206 覆土断面(南から)



③ SK210 全景(西から)



④ SK210 覆土断面(西から)



⑤ SK212 全景(北から)



⑥ SK212 覆土断面(北から)



⑦ SK217 全景(南から)



⑧ SK217 覆土断面(西から)



① SK221 全景(北から)



② SK221 覆土断面(東から)



③ SK232 全景(北から)



④ SK232 覆土断面(北東から)



⑤ SK235 全景(南西から)



⑥ SK235 覆土断面(東から)



⑦ SK240 全景(北から)



⑧ SK240 覆土断面(西から)



① SK241 全景(南から)



② SK241 覆土断面(西から)



③ SK243 全景(南から)



④ SK243 覆土断面(南から)



⑤ SK244 全景(南から)



⑥ SK244 覆土断面(南から)



⑦ SK245 一帯(南から)



⑧ SK245 覆土断面(南から)



① SK246 全景(北西から)



② SK246 覆土断面(北西から)



③ SK247 全景(西から)



④ SK247 覆土断面(南西から)



⑤ SK251 全景(西から)



⑥ SK251 覆土断面(東から)



⑦ SK253 全景(東から)



⑧ SK253 覆土断面(北東から)



① SK255 全景(南から)



② SK255 覆土断面(南から)



③ SK256 全景(北から)



④ SK256 覆土断面(東から)



⑤ SK257 全景(北から)



⑥ SK257・D4-P8 覆土断面(東から)



⑦ SK258 全景(西から)



⑧ SK258 覆土断面(南から)



① SK259 全景(北から)



② SK259 覆土断面(北から)



③ SK260 全景(東から)



④ SK260 覆土断面(東から)



⑤ SK262 全景(東から)



⑥ SK262 覆土断面(西から)



⑦ SK263 全景(南東から)



⑧ SK263 覆土断面(上は北東から,下は南西から)



① SK264 全景(南東から)



② SK264 覆土断面(東から)



③ SK265 全景(東から)



④ SK265 覆土断面(東から)



⑤ SK266 全景(西から)



⑥ SK266 覆土断面(西から)



⑦ SK268 全景(南東から)



⑧ SK268 覆土断面(上は南・下左は西・下右は東から)



① SK269 全景(南西から)



② SK269 覆土断面(上は北東から, 下は東から)



③ SK270 全景(南西から)



④ SK270 覆土断面(南西から)



⑤ SK273 全景(南東から)



⑥ SK273 覆土断面(東から)



⑦ SK275 全景(南から)



⑧ SK275 覆土断面(南から)



① SK276 全景(西から)



② SK276 覆土断面(西から)



③ SK277 全景(北から)



④ SK277 覆土断面(北から)



⑤ SK278 全景(南から)



⑥ SK278 覆土断面(南から)



⑦ SK280 全景(南西から)



⑧ SK280 覆土断面(南西から)



① SK281 全景(北から)



② SK281 覆土断面(西から)



③ SK283 全景(南から)



④ SK283 覆土断面(南から)



⑤ SK285 全景(南から)



⑥ SK285 遺物出土状況(北から)



⑦ SK286 全景(南西から)



⑧ SK286 覆土断面(南西から)



① SK287 一帯(南西から)



② SK287 確認状況(南から)



③ SK288 全景(北から)



④ SK289 全景(南から)



⑤ D10-P26 全景(西から)



⑥ D10-P26 全景(西から)



⑦ D10-P26 覆土断面(西から)



⑧ D10-P26 銅銭出土状況(西から)



① F4-P14 全景(北から)



② F4-P14 覆土断面(北から)



③ F4-P14 遺物出土状況(北から)



④ F4-P14 遺物出土状況(北から)



⑤ F4-P14 遺物出土状況(北から)



⑥ F4-P14 遺物出土状況(北から)



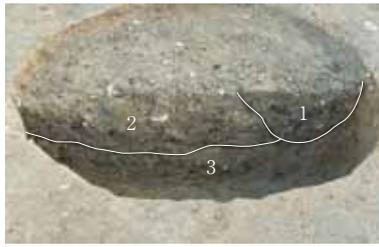
⑦ F4-P14 遺物出土状況(北から)



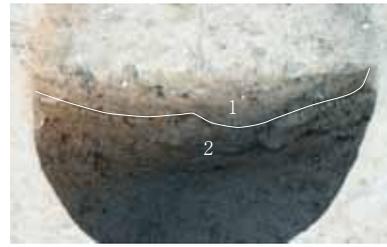
⑧ F4-P14 遺物出土状況(北から)



① D10-P1 全景(南から)



② F3-P1 覆土断面(南から)



③ F3-P3 覆土断面(南から)



④ F4-P17 全景(南から)



⑤ F5-P23 全景(南から)



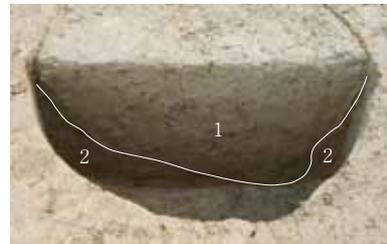
⑥ G5-P1 全景(西から)



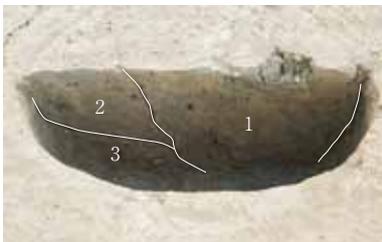
⑦ G6-P3 全景(西から)



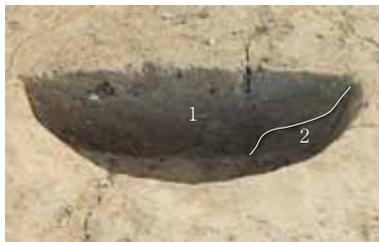
⑧ G10-P1 全景(西から)



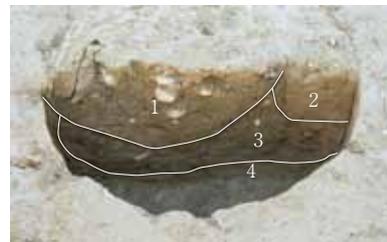
⑨ H8-P10 覆土断面(南から)



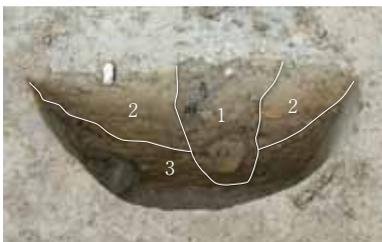
⑩ H8-P16 覆土断面(西から)



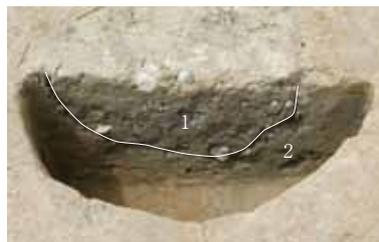
⑪ I6-P9 覆土断面(南から)



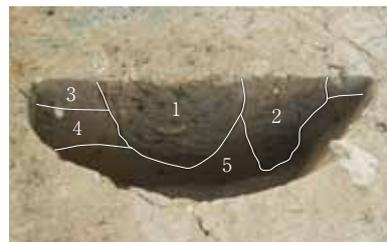
⑫ I9-P4 覆土断面(東から)



⑬ I10-P7 覆土断面(南から)



⑭ K9-P1 覆土断面(東から)



⑮ L10-P1 覆土断面(東から)



⑯ D10-P38 覆土断面(南から)



⑰ D10-P40 覆土断面(北から)



⑱ C10-P7 全景(北から)



SR1・2・3(1~33)出土遺物



SR1・2・3 (34~53) 出土遺物



SR1・2・3 (54～78) 出土遺物



SR1・2・3 (79~83), SR4 (84・85)・SD1 (86~91)・SD2 (92~103) 出土遺物



SD2 (104~119)・SD3 (120・121)・SD7 (122・123)・SD8 (124・125) 出土遺物



SD8 (126 ~ 149) 出土遺物



SD8 (150・151), SD9 (152～164), SD10 (165～169), SD12 (170～173)出土遺物



SD12 (174~185), SD13 (186~191)出土遺物



SD13 (192~210)出土遺物



SD13 (211), SD14 (212~216), SD17 (217~224), SD18 (225~234) 出土遺物



SD18 (235～241), SD22 (242～244), SD23 (245～248)出土遺物



SD23 (249・250), SD25 (251), SK153 (252～259), SK155 (260・261) 出土遺物



SK155 (262), SK234 (263・264), SK237 (265～269), SK282 (270～279)出土遺物



SE1 (280), SE2 (281~283), SE3 (284~292), SE4 (293~300)出土遺物



SE4 (301 ~ 315) 出土遺物



SE4 (316~320), SE5 (321~336), SE7 (337~341)出土遺物



SE7 (342～349), SE8 (350～353), SE10 (354～366) 出土遺物 \*347は写真なし



SE10 (367~382), SE12 (383~387)出土遺物



SE12 (388~399), SE13 (400~408), SE14 (409), SE15 (410), SE16 (411~413)出土遺物



SE16 (414~424), SX1・2 (425~441) 出土遺物



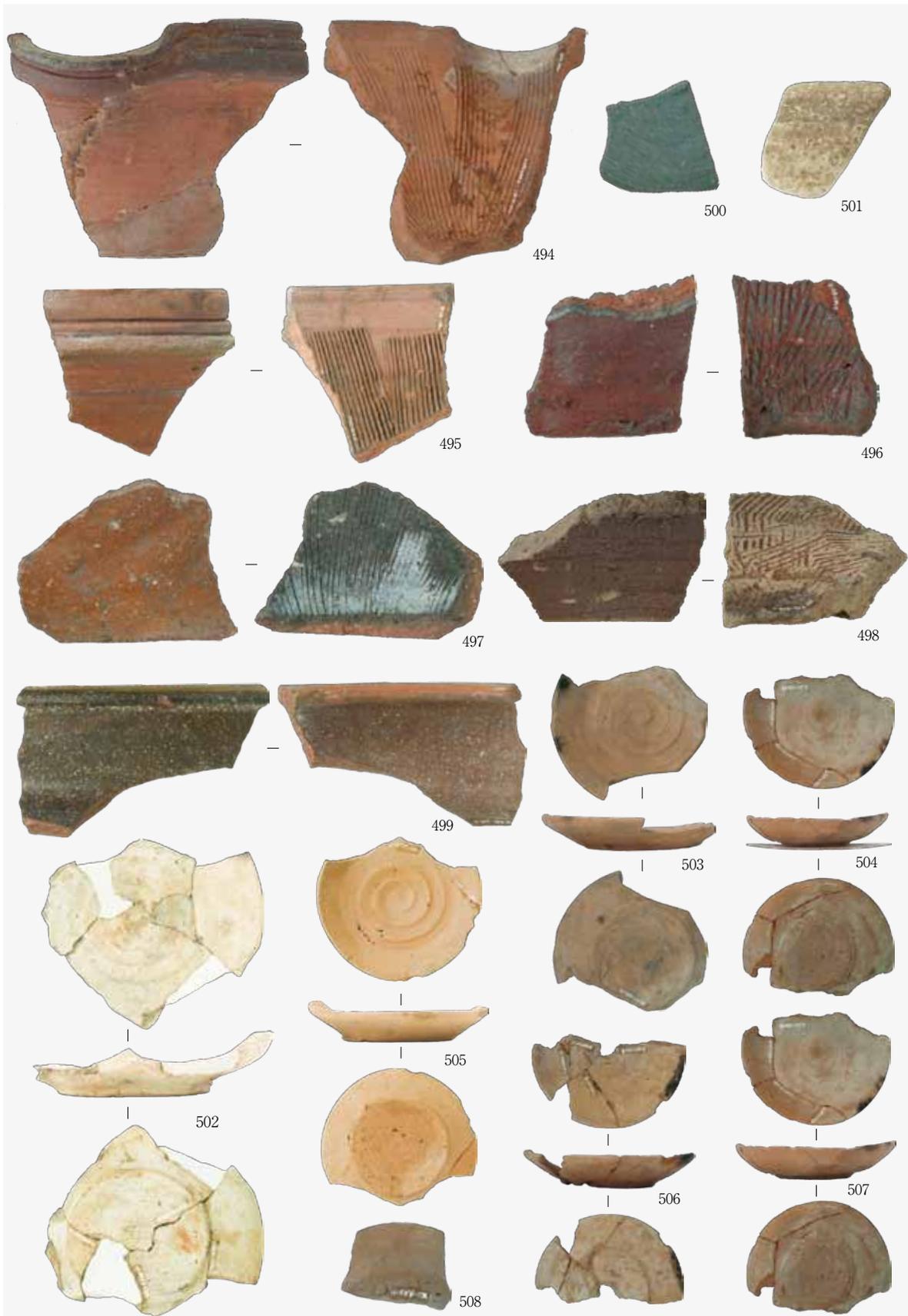
SX1・2 (442~462) 出土遺物



SX1・2 (463~479) 出土遺物



SX1・2 (480～493) 出土遺物



SX1・2 (494~508) 出土遺物



SX1・2 (509~522) 出土遺物





SX1・2 (542～550) 出土遺物



SX1・2 (551～555), SX3 (556～563) 出土遺物



SX3 (564~578) 出土遺物



SX3 (579~596) 出土遺物



SX3 (597~616) 出土遺物



SX3 (617~629) 出土遺物



SX3 (630~643) 出土遺物



SX3 (644 ~ 651) 出土遺物



SX3 (652~663) 出土遺物



SX3 (664 ~ 672) 出土遺物



SX3 (673~690) 出土遺物



SX3 (691 ~ 705) 出土遺物



SX3 (706~712) 出土遺物



SX3 (713~719), SX4 (720~728) 出土遺物



SX5 (729~740), SX6 (741·742), SX8 (743~746), SX9 (747~757) 出土遺物



SX9 (758~760), SX12 (761), SK1 (762~764), SK4 (765), SK5 (766~768), SK6 (769~770)  
SK7 (771~776), SK11 (777~782), SK21 (783~788) 出土遺物



SK23 (789~791), SK25 (792), SK28 (793~809) 出土遺物



SK30 (810~815), SK31 (816), SK32 (817), SK34 (818), SK37 (819~822)  
SK39 (823), SK44 (824), SK45 (825~829)出土遺物



SK45 (830~837), SK48 (838), SK49 (839~842), SK50 (843~861)出土遺物



SK50 (862~869), SK51 (870~872), SK54 (873), SK58 (874~887) 出土遺物



SK58 (888~896), SK59 (897~900), SK63 (901~908), SK64 (909~912)  
SK65 (913~916), SK66 (917~919) 出土遺物



SK66 (920~923), SK69 (924~926), SK70 (927), SK75 (928·929), SK78 (930·931)  
SK79 (932), SK81 (933·934), SK82 (935~937), SK83 (938~943) 出土遺物



SK88 (944・945), SK94 (946), SK98 (947), SK100 (948～956)  
SK101 (957), SK102 (958～965), SK105 (966～971) 出土遺物



SK106 (972~974), SK108 (975~985), SK114 (986), SK116 (987~997)  
SK120 (998), SK127 (999)出土遺物



SK127 (1000~1013), SK128 (1014~1016), SK129 (1017~1030) 出土遺物



SK129 (1031~1034), SK131 (1035), SK133 (1036·1037), SK135 (1038~1042), SK136 (1043~1045)  
SK137 (1046·1047), SK138 (1048~1050), SK139 (1051~1060) 出土遺物



SK139 (1061 ~ 1083) 出土遺物



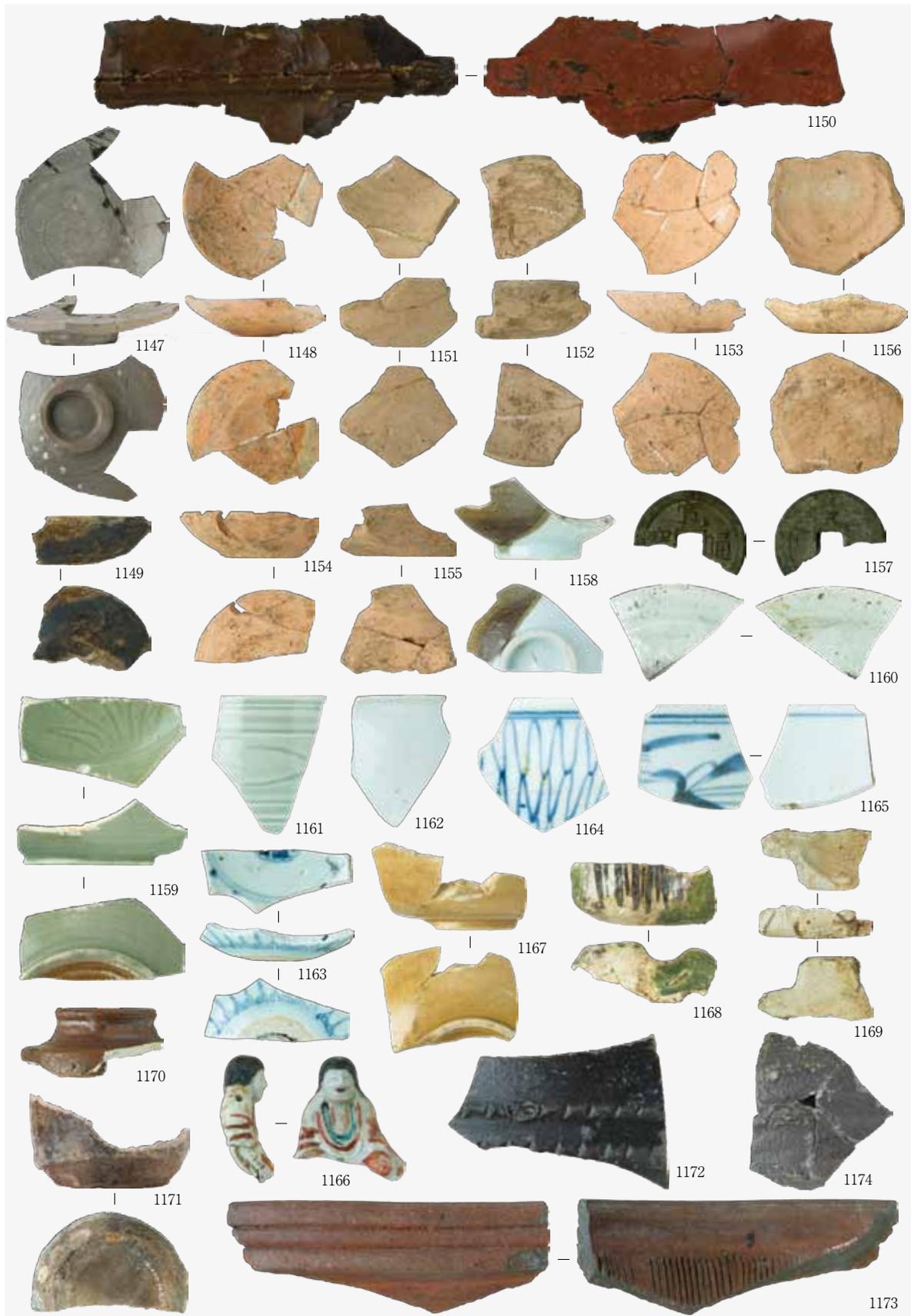
SK139 (1084~1102) 出土遺物



SK139 (1103~1109), SK140 (1110), SK141 (1111~1116), SK142 (1117)  
SK143 (1118~1121), SK148 (1122~1124)出土遺物



SK149 (1125~1145), SK150 (1146) 出土遺物



SK150 (1147 ~ 1150), SK151 (1151 ~ 1157), SK154 (1158 ~ 1174) 出土遺物



SK154 (1175~1189), SK157 (1190~1198) 出土遺物



SK158 (1199・1200), SK159 (1201～1219), SK162 (1220～1223) 出土遺物



SK162 (1224 ~ 1228), SK165 (1229 ~ 1231), SK167 (1232 ~ 1235), SK168 (1236 · 1237)  
SK171 (1238 ~ 1242), SK172 (1243 ~ 1246), SK173 (1247 · 1248) 出土遺物



SK173 (1249~1255), SK175 (1256~1270) 出土遺物



SK175 (1271~1293)出土遺物



SK175 (1294), SK182 (1295), SK187 (1296), SK191 (1297), SK192 (1298-1299), SK202 (1300), SK217 (1301), SK235 (1302)  
SK240 (1303~1307), SK243 (1308), SK257 (1309), SK258 (1310), SK268 (1311~1313), SK285 (1314~1323) 出土遺物



SK285 (1324~1341) 出土遺物



SK285 (1342~1347), SK286 (1348), SK287 (1349~1358), SK288 (1359)出土遺物



SK288 (1360~1369) 出土遺物



SK288 (1370~1374), SK289 (1375~1381), D10-P1 (1382), D10-P26 (1383~1385)  
F3-P1 (1386), F3-P3 (1387·1388) 出土遺物



F4-P14 (1389~1392), F4-P17 (1393), F5-P23 (1394), G5-P1 (1395), G6-P3 (1396), G10-P1 (1397), H8-P10 (1398), H8-P16 (1399), I6-P9 (1400), I9-P4 (1401~1403), I10-P7 (1404~1406), K9-P1 (1407~1409), L10-P1 (1410) 出土遺物



包含層(h1~h25)出土遺物



包含層(h26~h49)出土遺物



包含層(h50~h75)出土遺物



包含層(h76～h89)出土遺物



包含層(h90~h103)出土遺物



包含層(h104~h124)出土遺物





## 報告書抄録

ふりがな		ひろめやしきあと						
書名		弘人屋敷跡						
副書名		新資料館整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名		高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書						
シリーズ番号		第140集						
編著者名		宮里 修						
編集機関		(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター						
所在地		高知県南国市篠原南泉1437-1						
発行年月日		2014年3月28日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひろめやしきあと 弘人屋敷跡	〒781-0841・42 高知県 高知市 追手筋2丁目 24番地 帯屋町2丁目 124・126番地	39201	010154	33° 33' 36"	133° 32' 3"	2011. 11. 24 ～ 2012. 3. 9  2012. 5. 21 ～ 2013. 1. 31	2,910㎡	記録保存 調査
所収遺跡	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
弘人屋敷跡	集落跡 屋敷跡	古代 中世 近世	水路・流路 溝 埋葬遺構 井戸 不詳(大型)土坑 土坑 ピット その他土坑	2条 22条 6基 14基 11基 244基 909基 134基	陶 磁 器 須 恵 器 炆 器 瓦 器 土 器 土 製 品 瓦 石 製 品 漆 製 品 木 製 品 銭 製 品 銅 製 品 鉄 器	15～16世紀の区画溝は現在の街区に沿う。  埋葬遺構は墓域を形成する。14～16世紀にかけて営まれた。		
要 約	11世紀頃、河川の影響が弱まり居住適地となった。11～12世紀には北東-南西方向に区画溝が設置された。13～14世紀には地鎮坑や井戸、墓などが営まれた。15～16世紀には現在の街区に沿う区画溝が設置された。14～16世紀には埋葬が行われ墓地が形成された。16世紀末には洪水の被害を受けた。17～19世紀の屋敷地に関連する遺構を発見した。19世紀後半の遺構は高知大神宮と関係がある。20世紀中頃の戦災処理遺構を調査した。							



高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第140集

## 弘人屋敷跡

新資料館整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014年3月28日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原南泉1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 株式会社 飛鳥

# 弘人屋敷跡 付図

弘人屋敷跡 遺構配置図



付図 弘人屋敷跡遺構配置図

\*グレーは溝と水路・流路